

**ヤマハ L3 スイッチ**  
スタンダード L3 SWX3200 シリーズ  
コマンドリファレンス  
**Rev.4.00.30**

# 目次

序文：はじめに.....	17
<b>第1章：コマンドリファレンスの見方.....</b>	<b>18</b>
1.1 対応するプログラムのリビジョン.....	18
1.2 コマンドリファレンスの見方.....	18
1.3 インターフェース名について.....	18
1.4 no で始まるコマンドの入力形式について.....	19
<b>第2章：コマンドの使い方.....</b>	<b>20</b>
2.1 コンソールによる操作.....	20
2.1.1 コンソールターミナルからのアクセス.....	20
2.1.2 TELNET クライアントからのアクセス.....	20
2.1.3 SSH クライアントからのアクセス.....	21
2.1.4 コンソールターミナル/VTY の設定.....	21
2.2 設定(Config)ファイルによる操作.....	22
2.2.1 TFTP クライアントからのアクセス.....	22
2.2.2 設定ファイルの読み出し/書き込み.....	22
2.3 ログイン.....	24
2.4 コマンド入力モードについて.....	24
2.4.1 コマンド入力モードの基本.....	24
2.4.2 個別コンフィグレーションモード.....	25
2.4.3 コマンドプロンプトのプレフィックス.....	26
2.4.4 異なる入力モードのコマンド実行.....	26
2.5 コンソール使用時のキーボード操作.....	26
2.5.1 コンソール入力の基本操作.....	26
2.5.2 コマンドヘルプ.....	27
2.5.3 入力コマンドの補完、キーワード候補一覧の表示.....	27
2.5.4 コマンドの省略入力.....	28
2.5.5 コマンドヒストリー.....	28
2.6 「show」で始まるコマンド.....	28
2.6.1 モディファイア.....	28
<b>第3章：コンフィグレーション.....</b>	<b>30</b>
3.1 設定値の管理.....	30
3.2 デフォルト設定値.....	30
<b>第4章：保守・運用機能.....</b>	<b>33</b>
4.1 パスワード.....	33
4.1.1 管理パスワードの設定.....	33
4.1.2 パスワードの暗号化.....	33
4.2 ユーザーアカウント管理.....	34
4.2.1 ユーザーの設定.....	34
4.2.2 ユーザー権限の変更.....	35
4.2.3 ログインユーザー情報の表示.....	36
4.2.4 バナーの設定.....	37
4.3 コンフィグの管理.....	37
4.3.1 ランニングコンフィグの保存.....	38
4.3.2 ランニングコンフィグの保存.....	38
4.3.3 ランニングコンフィグの表示.....	39
4.3.4 スタートアップコンフィグの表示.....	40
4.3.5 スタートアップコンフィグの消去.....	41

4.3.6	スタートアップコンフィグのコピー	41
4.3.7	スタートアップコンフィグの選択	42
4.3.8	スタートアップコンフィグの説明文の設定	42
4.4	起動情報の管理	43
4.4.1	起動情報の表示	43
4.4.2	起動情報のクリア	43
4.4.3	SD カードブートの設定	44
4.4.4	SD カードブート自動適用機能の設定	44
4.4.5	SD カードブート設定情報の表示	45
4.5	筐体情報表示	45
4.5.1	製品情報の表示	45
4.5.2	稼動情報の表示	45
4.5.3	ディスク使用状況	46
4.5.4	実行中のプロセスの表示	47
4.5.5	メモリ使用状況の表示	47
4.5.6	技術サポート情報の表示	47
4.5.7	技術サポート情報の保存	50
4.6	システム自己診断	51
4.6.1	システム自己診断結果の表示	51
4.6.2	オンデマンド診断の実行	52
4.6.3	オンデマンド診断結果の削除	52
4.7	ケーブル診断	52
4.7.1	ケーブル診断の実行	52
4.7.2	ケーブル診断結果のクリア	53
4.7.3	ケーブル診断結果の表示	53
4.8	時刻管理	53
4.8.1	時刻の手動設定	53
4.8.2	タイムゾーンの設定	54
4.8.3	サマータイムの設定(繰り返し)	54
4.8.4	サマータイムの設定(日付指定)	55
4.8.5	現在時刻の表示	56
4.8.6	NTP サーバーの設定	56
4.8.7	NTP サーバーによる時刻同期(1 ショット更新)	57
4.8.8	NTP サーバーによる時刻同期(周期更新設定)	57
4.8.9	NTP サーバーによる時刻同期設定情報の表示	58
4.9	端末設定	58
4.9.1	ラインモード(コンソールターミナル)への移行	58
4.9.2	VTY ポートの設定およびラインモード(VTY ポート)への移行	59
4.9.3	端末ログインタイムアウト時間の設定	59
4.9.4	使用している端末 1 ページあたりの表示行数の変更	60
4.9.5	端末 1 ページあたりの表示行数の設定	61
4.10	保守	61
4.10.1	保守 VLAN の設定	61
4.11	SYSLOG	62
4.11.1	ログの通知先(SYSLOG サーバー)の設定	62
4.11.2	ログの通知フォーマットの設定	62
4.11.3	ログのファシリティ値の設定	63
4.11.4	ログの出力レベル(debug)の設定	63
4.11.5	ログの出力レベル(informational)の設定	64
4.11.6	ログの出力レベル(error)の設定	64
4.11.7	ログのコンソール出力設定	64
4.11.8	イベント単位のログ出力の設定	65
4.11.9	ログのバックアップ	65
4.11.10	ログの SD カードバックアップの設定	65
4.11.11	ログの削除	66
4.11.12	ログの参照	66
4.12	SNMP	67
4.12.1	SNMP 通知メッセージの送信先ホストの設定	67
4.12.2	システム起動時に通知メッセージを送信するまでの待機時間の設定	68
4.12.3	送信する通知メッセージタイプの設定	69
4.12.4	システムコンタクトの設定	70

4.12.5 システムロケーションの設定.....	70
4.12.6 SNMP コミュニティの設定.....	70
4.12.7 SNMP ビューの設定.....	71
4.12.8 SNMP グループの設定.....	72
4.12.9 SNMP ユーザーの設定.....	73
4.12.10 SNMP サーバーへアクセスできるクライアントの IP アドレス制限.....	74
4.12.11 SNMP コミュニティの情報の表示.....	75
4.12.12 SNMP ビューの設定内容の表示.....	75
4.12.13 SNMP グループの設定内容の表示.....	76
4.12.14 SNMP ユーザーの設定内容の表示.....	76
4.13 RMON.....	76
4.13.1 RMON 機能の設定.....	76
4.13.2 RMON イーサネット統計情報グループの設定.....	77
4.13.3 RMON 履歴グループの設定.....	78
4.13.4 RMON イベントグループの設定.....	79
4.13.5 RMON アラームグループの設定.....	79
4.13.6 RMON 機能の状態表示.....	81
4.13.7 RMON イーサネット統計情報グループの状態表示.....	82
4.13.8 RMON 履歴グループの状態表示.....	83
4.13.9 RMON イベントグループの状態表示.....	83
4.13.10 RMON アラームグループの状態表示.....	84
4.13.11 RMON イーサネット統計情報グループのカウンターのクリア.....	84
4.14 TELNET サーバー.....	84
4.14.1 TELNET サーバーの起動および受付ポート番号の変更.....	84
4.14.2 TELNET サーバーの設定状態の表示.....	85
4.14.3 TELNET サーバーへアクセスできるホストの設定.....	85
4.14.4 TELNET サーバーへアクセスできるクライアントの IP アドレス制限.....	86
4.15 TELNET クライアント.....	87
4.15.1 TELNET クライアントの起動.....	87
4.15.2 TELNET クライアントの有効化.....	87
4.16 TFTP サーバー.....	88
4.16.1 TFTP サーバーの起動および受付ポート番号の変更.....	88
4.16.2 TFTP サーバーの設定状態の表示.....	88
4.16.3 TFTP サーバーへアクセスできるホストの設定.....	89
4.17 HTTP サーバー.....	89
4.17.1 HTTP サーバーの起動および受付ポート番号の変更.....	89
4.17.2 セキュア HTTP サーバーの起動および受付ポート番号の変更.....	90
4.17.3 HTTP サーバーの設定状態の表示.....	90
4.17.4 HTTP サーバーへアクセスできるホストの設定.....	91
4.17.5 HTTP サーバーへアクセスできるクライアントの IP アドレス制限.....	91
4.17.6 HTTP サーバーのログインタイムアウト時間の設定.....	92
4.18 HTTP Proxy.....	93
4.18.1 HTTP Proxy 機能の有効化.....	93
4.18.2 HTTP Proxy 機能のタイムアウト時間の設定.....	93
4.18.3 HTTP Proxy 機能 設定状態の表示.....	94
4.19 SSH サーバー.....	94
4.19.1 SSH サーバーの起動および受付ポート番号の変更.....	94
4.19.2 SSH サーバーの設定状態の表示.....	95
4.19.3 SSH サーバーへアクセスできるホストの設定.....	95
4.19.4 SSH サーバーへアクセスできるクライアントの設定.....	95
4.19.5 SSH サーバーホスト鍵の作成.....	96
4.19.6 SSH サーバーホスト鍵のクリア.....	97
4.19.7 SSH サーバー公開鍵の表示.....	97
4.19.8 SSH クライアントの生存確認の設定.....	99
4.20 SSH クライアント.....	99
4.20.1 SSH クライアントの起動.....	99
4.20.2 SSH クライアントの有効化.....	100
4.20.3 SSH ホスト情報のクリア.....	100
4.21 メール通知.....	101
4.21.1 SMTP メールサーバーの設定.....	101
4.21.2 SMTP メールサーバー名の設定.....	102

4.21.3	メール通知のトリガー設定	102
4.21.4	メール送信のテンプレート設定モード	103
4.21.5	メール送信のサーバー ID の設定	103
4.21.6	メール送信の送信元メールアドレスの設定	104
4.21.7	メール送信の宛先メールアドレスの設定	104
4.21.8	メール送信の件名の設定	105
4.21.9	メール送信待ち時間の設定	105
4.21.10	証明書送付時のメール設定	106
4.21.11	証明書通知時のメール設定	106
4.21.12	証明書の有効期限切れ通知タイミングの設定	107
4.21.13	メール送信情報の表示	107
4.22	Yamaha Unified Network Operation Service (Y-UNOS)	108
4.22.1	Y-UNOS 機能の設定	108
4.22.2	Y-UNOS 情報の表示	108
4.23	LLDP	109
4.23.1	LLDP 機能の有効化	109
4.23.2	システムの説明文の設定	110
4.23.3	システムの名称の設定	110
4.23.4	LLDP エージェントの作成	111
4.23.5	LLDP による自動設定機能の設定	111
4.23.6	LLDP 送受信モードの設定	112
4.23.7	管理アドレスの種類の設定	112
4.23.8	基本管理 TLV の設定	113
4.23.9	IEEE-802.1 TLV の設定	113
4.23.10	IEEE-802.3 TLV の設定	114
4.23.11	LLDP-MED TLV の設定	114
4.23.12	LLDP フレームの送信間隔の設定	115
4.23.13	高速送信期間の LLDP フレーム送信間隔の設定	115
4.23.14	LLDP フレーム送信停止から再初期化までの時間の設定	116
4.23.15	機器情報の保持時間(TTL)を算出するための乗数の設定	116
4.23.16	高速送信期間の LLDP フレーム送信個数の設定	117
4.23.17	ポート単位で管理できる機器の最大接続台数の設定	117
4.23.18	LLDP 機能のインターフェース一括設定	118
4.23.19	インターフェースの状態表示	118
4.23.20	全てのインターフェースにおける接続機器の情報表示	121
4.23.21	LLDP フレームカウンターのクリア	122
4.24	L2MS (Layer 2 management service)の設定	123
4.24.1	L2MS モードへの移行	123
4.24.2	L2MS 機能の設定	123
4.24.3	L2MS 機能の役割の設定	123
4.24.4	L2MS エージェントの監視時間間隔の設定	124
4.24.5	L2MS エージェントのダウン検出を判断する回数の設定	125
4.24.6	端末の管理機能の設定	125
4.24.7	端末情報の取得時間間隔の設定	126
4.24.8	L2MS 制御フレームの送受信設定	126
4.24.9	L2MS エージェントの管理のリセット	127
4.24.10	L2MS の情報の表示	127
4.24.11	L2MS のエージェントコンフィグ情報の表示	129
4.24.12	無線 AP 配下の端末情報の取得間隔の設定	131
4.24.13	イベント監視機能の設定	131
4.24.14	イベント情報の取得時間間隔の設定	132
4.24.15	L2MS エージェントのゼロコンフィグ機能を使用するか否かの設定	132
4.25	スナップショット	133
4.25.1	スナップショット機能の設定	133
4.25.2	スナップショットの比較対象に端末を含めるか否かの設定	133
4.25.3	スナップショットの作成	134
4.25.4	スナップショットの削除	134
4.26	ファームウェア更新	135
4.26.1	ファームウェア更新サイトの設定	135
4.26.2	ファームウェア更新で使用する HTTP プロキシサーバーの設定	135
4.26.3	ファームウェア更新の実行	136

4.26.4	ファームウェアダウンロードタイムアウト時間の設定	137
4.26.5	リビジョンダウンの許可	137
4.26.6	ファームウェア更新機能設定の表示	137
4.26.7	SD カードからのファームウェア更新の実行	138
4.26.8	ファームウェア更新の再起動時刻の設定	139
4.26.9	スタック構成時のファームウェア更新による再起動方法の設定	139
4.27	スタック	140
4.27.1	スタック機能の設定	140
4.27.2	スタック ID の変更	140
4.27.3	スタック情報の表示	141
4.27.4	スタックポートで使う IP アドレスの範囲設定	142
4.27.5	メンバースイッチへのリモートログイン	142
4.28	スケジュール	143
4.28.1	スケジュールの設定	143
4.28.2	スケジュールテンプレートの説明文の設定	145
4.28.3	スケジュールテンプレートの有効/無効の設定	145
4.28.4	スケジュールテンプレートの設定	146
4.28.5	スケジュールテンプレートのコマンド実行の設定	146
4.28.6	スケジュールテンプレートのスクリプト実行の設定	147
4.29	保守運用一般	148
4.29.1	ホスト名の設定	148
4.29.2	システムの再起動	148
4.29.3	設定の初期化	149
4.29.4	SD カードのマウント	149
4.29.5	SD カードのアンマウント	150
4.29.6	初期 LED モードの設定	150
4.29.7	LED モードの表示	150
4.29.8	ポートエラー LED 状態の表示	151
4.29.9	システム情報のバックアップ	151
4.29.10	システム情報のリストア	152

## 第 5 章: インターフェース制御.....153

5.1	インターフェース基本設定	153
5.1.1	説明文の設定	153
5.1.2	シャットダウン	153
5.1.3	通信速度・通信モードの設定	153
5.1.4	MRU 設定	154
5.1.5	クロス/ストレート自動判別設定	155
5.1.6	EEE 設定	155
5.1.7	EEE 対応可否を表示する	156
5.1.8	EEE ステータス情報を表示する	156
5.1.9	ポートミラーリングの設定	157
5.1.10	ポートミラーリングの状態表示	158
5.1.11	インターフェースの状態表示	159
5.1.12	インターフェースの状態の簡易表示	161
5.1.13	インターフェースのリセット	162
5.1.14	フレームカウンター表示	163
5.1.15	フレームカウンターのクリア	164
5.1.16	SFP モジュールの状態表示	165
5.1.17	SFP モジュールの受光レベル監視の設定	166
5.1.18	送信キューの使用率監視の設定(システム)	166
5.1.19	送信キューの使用率監視の設定(インターフェース)	167
5.1.20	送信キューの使用率監視の設定表示	167
5.2	リンクアグリゲーション	168
5.2.1	スタティック論理インターフェースの設定	168
5.2.2	スタティック論理インターフェースの状態表示	168
5.2.3	LACP 論理インターフェースの設定	169
5.2.4	LACP 論理インターフェースの状態表示	170
5.2.5	LACP システム優先度の設定	172
5.2.6	LACP システム優先度の表示	172

5.2.7 LACP 異速度リンクアグリゲーションの設定.....	173
5.2.8 LACP タイムアウトの設定.....	173
5.2.9 LACP フレームカウンターのクリア.....	174
5.2.10 LACP フレームカウンターの表示.....	174
5.2.11 ロードバランス機能のルールの設定.....	175
5.2.12 LACP 論理インターフェースのプロトコル状態表示.....	176
5.2.13 LACP ポート優先度の設定.....	178
5.3 ポート認証.....	178
5.3.1 システム全体での IEEE 802.1X 認証機能の設定.....	178
5.3.2 システム全体での MAC 認証機能の設定.....	179
5.3.3 システム全体での Web 認証機能の設定.....	179
5.3.4 IEEE 802.1X 認証機能の動作モード設定.....	180
5.3.5 IEEE 802.1X 認証の未認証ポートでの転送制御の設定.....	180
5.3.6 EAPOL パケットの送信回数設定.....	181
5.3.7 MAC 認証機能の設定.....	181
5.3.8 MAC 認証時の MAC アドレス形式の設定.....	182
5.3.9 MAC 認証のスタティック登録の設定.....	183
5.3.10 Web 認証機能の設定.....	183
5.3.11 ホストモードの設定.....	184
5.3.12 認証順序の設定.....	185
5.3.13 再認証の設定.....	185
5.3.14 ダイナミック VLAN の設定.....	186
5.3.15 ゲスト VLAN の設定.....	186
5.3.16 認証失敗後の抑止期間の設定.....	187
5.3.17 再認証間隔の設定.....	187
5.3.18 RADIUS サーバー全体の応答待ち時間の設定.....	188
5.3.19 サプリカント応答待ち時間の設定.....	188
5.3.20 RADIUS サーバーホストの設定.....	189
5.3.21 RADIUS サーバー 1 台あたりの応答待ち時間の設定.....	190
5.3.22 RADIUS サーバーへの要求再送回数の設定.....	190
5.3.23 RADIUS サーバー共有パスワードの設定.....	191
5.3.24 RADIUS サーバー使用抑制時間の設定.....	191
5.3.25 RADIUS サーバーに通知する NAS-Identifier 属性の設定.....	192
5.3.26 ポート認証情報の表示.....	192
5.3.27 サプリカント情報の表示.....	193
5.3.28 統計情報の表示.....	194
5.3.29 統計情報のクリア.....	194
5.3.30 RADIUS サーバー設定情報の表示.....	195
5.3.31 Web 認証成功後のリダイレクト先 URL の設定.....	195
5.3.32 認証状態のクリア.....	196
5.3.33 認証状態のクリアする時刻の設定(システム).....	196
5.3.34 認証状態のクリアする時刻の設定(インターフェース).....	196
5.3.35 Web 認証画面カスタマイズ用ファイルの配置.....	197
5.3.36 Web 認証画面カスタマイズ用ファイルの削除.....	198
5.3.37 EAP パススルーの設定.....	198
5.4 ポートセキュリティー.....	199
5.4.1 ポートセキュリティー機能の設定.....	199
5.4.2 許可 MAC アドレス登録.....	199
5.4.3 セキュリティー違反時の動作の設定.....	200
5.4.4 ポートセキュリティー情報の表示.....	201
5.5 エラー検出機能.....	201
5.5.1 errdisable 状態からの自動復旧機能の設定.....	201
5.5.2 エラー検出機能の情報表示.....	202

## 第 6 章 : Layer 2 機能.....203

6.1 FDB(フォワーディングデータベース).....	203
6.1.1 MAC アドレス学習機能の設定.....	203
6.1.2 ダイナミックエントリーのエイジングタイム設定.....	203
6.1.3 ダイナミックエントリーの削除.....	204
6.1.4 スタティックエントリーの設定.....	204

6.1.5 MAC アドレステーブルの表示.....	205
6.1.6 MAC アドレス数の表示.....	206
6.2 VLAN.....	206
6.2.1 VLAN モードへの移行.....	206
6.2.2 VLAN インターフェースの設定.....	207
6.2.3 プライベート VLAN の設定.....	207
6.2.4 プライマリー VLAN に対するセカンダリー VLAN の設定.....	208
6.2.5 アクセスポート(タグなしポート)の設定.....	209
6.2.6 アクセスポート(タグなしポート)の所属 VLAN の設定.....	210
6.2.7 トランクポート(タグ付きポート)の設定.....	210
6.2.8 トランクポート(タグ付きポート)の所属 VLAN の設定.....	211
6.2.9 トランクポート(タグ付きポート)のネイティブ VLAN の設定.....	212
6.2.10 プライベート VLAN のポート種別の設定.....	213
6.2.11 プライベート VLAN のホストポートの設定.....	213
6.2.12 プライベート VLAN のプロミスカスポートの設定.....	214
6.2.13 ボイス VLAN の設定.....	215
6.2.14 ボイス VLAN の CoS 値の設定.....	216
6.2.15 ボイス VLAN の DSCP 値の設定.....	216
6.2.16 マルチプル VLAN グループの設定.....	217
6.2.17 マルチプル VLAN グループの名前の設定.....	218
6.2.18 マルチプル VLAN 設定時の YMPI フレーム透過機能の設定.....	218
6.2.19 VLAN 情報の表示.....	218
6.2.20 プライベート VLAN 情報の表示.....	219
6.2.21 マルチプル VLAN グループ設定情報の表示.....	220
6.3 STP(スパニングツリープロトコル).....	220
6.3.1 システムのスパニングツリーの設定.....	220
6.3.2 転送遅延時間の設定.....	221
6.3.3 最大エージング時間の設定.....	221
6.3.4 ブリッジプライオリティの設定.....	222
6.3.5 インターフェースのスパニングツリーの設定.....	222
6.3.6 インターフェースのリンクタイプの設定.....	223
6.3.7 インターフェースの BPDU フィルタリングの設定.....	223
6.3.8 インターフェースの BPDU ガードの設定.....	224
6.3.9 インターフェースのパスコストの設定.....	225
6.3.10 インターフェースのプライオリティの設定.....	225
6.3.11 インターフェースのエッジポートの設定.....	226
6.3.12 スパニングツリーの状態表示.....	226
6.3.13 スパニングツリーの BPDU の統計情報の表示.....	228
6.3.14 プロトコル互換モードのクリア.....	230
6.3.15 MST モードへの移行.....	230
6.3.16 MST インスタンスの生成.....	230
6.3.17 MST インスタンスに対する VLAN の設定.....	231
6.3.18 MST インスタンスのプライオリティの設定.....	231
6.3.19 MST リージョン名の設定.....	232
6.3.20 MST リージョンのリビジョン番号の設定.....	232
6.3.21 インターフェースに対する MST インスタンスの設定.....	233
6.3.22 MST インスタンスにおけるインターフェースのプライオリティの設定.....	233
6.3.23 MST インスタンスにおけるインターフェースのパスコストの設定.....	234
6.3.24 MST リージョン情報の表示.....	235
6.3.25 MSTP 情報の表示.....	235
6.3.26 MST インスタンス情報の表示.....	236
6.4 ループ検出.....	237
6.4.1 ループ検出機能の設定(システム).....	237
6.4.2 ループ検出機能の設定(インターフェース).....	238
6.4.3 ループ検出時の Port Blocking の設定.....	239
6.4.4 Port Blocking のループ解消を一定間隔で確認する.....	239
6.4.5 ループ検出状態のリセット.....	240
6.4.6 ループ検出機能の状態表示.....	240
6.5 DHCP スヌーピング.....	241
6.5.1 DHCP スヌーピングの有効/無効設定(システム).....	241
6.5.2 DHCP スヌーピングの有効/無効設定(VLAN).....	241



6.5.3 DHCP スヌーピングのポート種別設定.....	242
6.5.4 MAC アドレス検証の有効/無効設定.....	243
6.5.5 Option 82 の有効/無効設定.....	243
6.5.6 Option 82 付きパケットの Untrusted ポート受信許可設定.....	244
6.5.7 Option 82 の Remote-ID の設定.....	244
6.5.8 Option 82 の Circuit-ID の設定.....	245
6.5.9 Option 82 の Subscriber-ID の設定.....	246
6.5.10 DHCP パケット受信レート制限の設定.....	246
6.5.11 DHCP パケット破棄時 SYSLOG 出力の有効/無効設定.....	247
6.5.12 DHCP スヌーピングのシステム設定情報の表示.....	247
6.5.13 DHCP スヌーピングのインターフェース設定情報の表示.....	247
6.5.14 バインディングデータベースの表示.....	248
6.5.15 DHCP スヌーピングの統計情報表示.....	249
6.5.16 バインディングデータベースのクリア.....	249
6.5.17 DHCP スヌーピングの統計情報のクリア.....	249
<b>第 7 章 : Layer 3 機能.....</b>	<b>250</b>
7.1 IPv4 アドレス管理.....	250
7.1.1 IPv4 アドレスの設定.....	250
7.1.2 IPv4 アドレスの表示.....	250
7.1.3 DHCP クライアントによる動的 IPv4 アドレスの設定.....	251
7.1.4 DHCP クライアントの状態の表示.....	252
7.1.5 Auto IP 機能の設定.....	253
7.2 IPv4 経路制御.....	253
7.2.1 IPv4 静的経路設定.....	253
7.2.2 等コストマルチパスの登録可能数設定.....	254
7.2.3 IPv4 転送表の表示.....	255
7.2.4 IPv4 経路表の表示.....	255
7.2.5 IPv4 経路表に登録されている経路エントリーのサマリーの表示.....	256
7.2.6 IPv4 経路のクリア.....	256
7.3 ARP.....	256
7.3.1 ARP テーブルの表示.....	256
7.3.2 ARP テーブルの消去.....	257
7.3.3 静的 ARP エントリーの設定.....	257
7.3.4 ARP タイムアウトの設定.....	257
7.3.5 ARP タイムアウト時の ARP リクエスト送信方式の設定.....	258
7.4 IPv4 転送制御.....	258
7.4.1 IPv4 転送設定.....	258
7.4.2 IPv4 転送設定の表示.....	259
7.4.3 IPv4 ディレクティッドブロードキャストの転送設定.....	259
7.4.4 MTU の設定.....	260
7.5 IPv4 疎通確認.....	260
7.5.1 IPv4 疎通確認.....	260
7.5.2 IPv4 経路確認.....	261
7.6 IPv6 アドレス管理.....	262
7.6.1 IPv6 の設定.....	262
7.6.2 IPv6 アドレスの設定.....	262
7.6.3 IPv6 アドレスの RA 設定.....	263
7.6.4 IPv6 アドレスの表示.....	263
7.7 IPv6 経路制御.....	264
7.7.1 IPv6 静的経路設定.....	264
7.7.2 IPv6 転送表の表示.....	265
7.7.3 IPv6 経路表の表示.....	265
7.7.4 IPv6 経路表に登録されている経路エントリーのサマリーの表示.....	266
7.7.5 IPv6 経路のクリア.....	266
7.8 Neighbor キャッシュ.....	267
7.8.1 静的 Neighbor キャッシュエントリーの設定.....	267
7.8.2 Neighbor キャッシュテーブルの表示.....	267
7.8.3 Neighbor キャッシュテーブルの消去.....	268
7.9 IPv6 転送制御.....	268

7.9.1 IPv6 転送設定.....	268
7.9.2 IPv6 転送設定の表示.....	268
7.10 IPv6 疎通確認.....	269
7.10.1 IPv6 疎通確認.....	269
7.10.2 IPv6 経路確認.....	270
7.11 DNS クライアント.....	270
7.11.1 DNS への問い合わせ機能の設定.....	270
7.11.2 DNS サーバーリストの設定.....	271
7.11.3 デフォルトドメイン名の設定.....	271
7.11.4 検索ドメインリストの設定.....	272
7.11.5 DNS クライアント情報の表示.....	272
7.12 OSPF.....	273
7.12.1 OSPFv2 モードへの移行.....	273
7.12.2 OSPFv3 モードへの移行.....	273
7.12.3 OSPF エリア内での認証の設定.....	274
7.12.4 デフォルト経路のメトリック値の設定(OSPFv2).....	275
7.12.5 エリア間で広告する経路情報のフィルタリングの設定.....	275
7.12.6 エリアを NSSA として設定(OSPFv2).....	276
7.12.7 指定したネットワークアドレスの範囲にある経路情報を集約して他のエリアに通知 (OSPFv2).....	277
7.12.8 エリアをスタブエリアとして設定(OSPFv2).....	278
7.12.9 エリア上で仮想リンクを設定(OSPFv2).....	279
7.12.10 インターフェースの帯域幅の設定(OSPFv2).....	280
7.12.11 Opaque-LSA の設定.....	281
7.12.12 集約した経路のメトリック算出方法の設定.....	281
7.12.13 LSDB 要約リストの最適化の設定(OSPFv2).....	281
7.12.14 デフォルト外部経路の設定(OSPFv2).....	282
7.12.15 OSPF ルーティングドメインに通知するときのメトリック値の設定(OSPFv2).....	282
7.12.16 OSPF から FIB に取り込まれる経路の優先度の設定(OSPFv2).....	283
7.12.17 RIB と OSPF ルーティングテーブル間の経路情報のフィルタリングの設定(OSPFv2).....	283
7.12.18 スタブホスト経路の設定.....	284
7.12.19 同時に処理可能な DD 交換処理数を設定(OSPFv2).....	285
7.12.20 OSPF を動作させるインターフェースとエリアを紐付け.....	285
7.12.21 OSPF ルーター ID の設定.....	286
7.12.22 OSPF プロセスで扱うリンクステート広告数の上限の設定.....	286
7.12.23 受信可能な AS external LSA の上限の設定.....	287
7.12.24 OSPF パッシブインターフェースの設定(OSPFv2).....	287
7.12.25 指定した外部経路情報を OSPF エリアに AS external LSA として広告(OSPFv2).....	288
7.12.26 OSPF エリアに広告するときの集約先ネットワークアドレスの設定(OSPFv2).....	288
7.12.27 LSA を受信するまでの最小待ち時間の設定.....	289
7.12.28 最短経路計算に関わる変更時の遅延時間の設定.....	290
7.12.29 リンクステート広告の送信待ち時間の設定.....	290
7.12.30 デフォルト経路のメトリック値の設定(OSPFv3).....	290
7.12.31 エリアを NSSA として設定(OSPFv3).....	291
7.12.32 指定したネットワークアドレスの範囲にある経路情報を集約して他のエリアに通知 (OSPFv3).....	292
7.12.33 エリアをスタブエリアとして設定(OSPFv3).....	293
7.12.34 エリア上で仮想リンクを設定(OSPFv3).....	294
7.12.35 インターフェースの帯域幅の設定(OSPFv3).....	294
7.12.36 LSDB 要約リストの最適化の設定(OSPFv3).....	295
7.12.37 デフォルト外部経路の設定(OSPFv3).....	295
7.12.38 OSPF ルーティングドメインに通知するときのメトリック値の設定(OSPFv3).....	296
7.12.39 OSPF から FIB に取り込まれる経路の優先度の設定(OSPFv3).....	296
7.12.40 RIB と OSPF ルーティングテーブル間の経路情報のフィルタリングの設定(OSPFv3).....	297
7.12.41 スタブホスト経路の設定.....	297
7.12.42 同時に処理可能な DD 交換処理数を設定(OSPFv3).....	298
7.12.43 OSPF パッシブインターフェースの設定(OSPFv3).....	298
7.12.44 指定した外部経路情報を OSPF エリアに AS external LSA として広告(OSPFv3).....	298
7.12.45 OSPF ルーター ID の設定(OSPFv3).....	299
7.12.46 OSPF エリアに広告するときの集約先ネットワークアドレスの設定(OSPFv3).....	300
7.12.47 エリア内での認証をインターフェース毎に設定.....	300

7.12.48 エリアの認証で使われる認証鍵の設定.....	301
7.12.49 インターフェースでのコストを固定に設定.....	301
7.12.50 インターフェースでの LSA フラッディングを抑制.....	301
7.12.51 隣接ルーターがダウンしたと判断するまでの時間の設定.....	302
7.12.52 OSPF を停止.....	302
7.12.53 Hello パケットの送信間隔の設定.....	302
7.12.54 OSPF 認証で使用する MD5 ダイジェスト認証用鍵の設定.....	303
7.12.55 指名ルーター(DR)を選出するための優先度の設定.....	303
7.12.56 パケットの再送間隔時間の設定.....	304
7.12.57 Link State Update パケットの age フィールドの送信時に増加させる値の設定.....	304
7.12.58 インターフェースでのコストを固定に設定(IPv6).....	304
7.12.59 隣接ルーターがダウンしたと判断するまでの時間の設定(IPv6).....	305
7.12.60 Hello パケットの送信間隔の設定(IPv6).....	305
7.12.61 指名ルーター(DR)を選出するための優先度の設定(IPv6).....	305
7.12.62 パケットの再送間隔時間の設定(IPv6).....	306
7.12.63 インターフェースでのエリア指定(IPv6).....	306
7.12.64 Link State Update パケットの age フィールドの送信時に増加させる値の設定(IPv6).....	307
7.12.65 OSPF プロセスの再起動(IPv4).....	307
7.12.66 OSPF プロセスの情報の表示(IPv4).....	308
7.12.67 ABR および ASBR の経路情報の表示(IPv4).....	308
7.12.68 リンクステートデータベースの中で指定した条件に合致する LSA の情報の表示(IPv4).....	308
7.12.69 リンクステートデータベースの ASBR サマリー LSA の情報の表示.....	309
7.12.70 リンクステートデータベースの AS external LSA の情報の表示(IPv4).....	309
7.12.71 リンクステートデータベースのネットワーク LSA の情報の表示(IPv4).....	309
7.12.72 リンクステートデータベースの NSSA AS external LSA の情報の表示.....	310
7.12.73 リンクステートデータベースのルーター LSA の情報の表示(IPv4).....	310
7.12.74 リンクステートデータベースのネットワークサマリー LSA の情報の表示.....	311
7.12.75 OSPF インターフェースの情報の表示(IPv4).....	311
7.12.76 OSPF ネイバーの情報の表示(IPv4).....	311
7.12.77 OSPF 経路表の表示(IPv4).....	312
7.12.78 OSPF の仮想リンクの情報の表示(IPv4).....	312
7.12.79 OSPF の設定・状態の表示(IPv4).....	313
7.12.80 OSPF プロセスの再起動(IPv6).....	313
7.12.81 OSPF プロセスの情報の表示(IPv6).....	313
7.12.82 ABR および ASBR の経路情報の表示(IPv6).....	313
7.12.83 リンクステートデータベースの中で指定した条件に合致する LSA の情報の表示(IPv6).....	314
7.12.84 リンクステートデータベースの AS external LSA の情報の表示(IPv6).....	314
7.12.85 リンクステートデータベースの Inter-Area-Prefix LSA の情報の表示(IPv6).....	315
7.12.86 リンクステートデータベースの Inter-Area-Router LSA の情報の表示(IPv6).....	315
7.12.87 リンクステートデータベースの Intra-Area-Prefix LSA の情報の表示(IPv6).....	316
7.12.88 リンクステートデータベースの Link LSA の情報の表示(IPv6).....	316
7.12.89 リンクステートデータベースのネットワーク LSA の情報の表示(IPv6).....	317
7.12.90 リンクステートデータベースのルーター LSA の情報の表示(IPv6).....	317
7.12.91 OSPF インターフェースの情報の表示(IPv6).....	318
7.12.92 OSPF ネイバーの情報の表示(IPv6).....	318
7.12.93 OSPF 経路表の表示(IPv6).....	319
7.12.94 OSPF の仮想リンクの情報の表示(IPv6).....	319
7.12.95 OSPF の設定・状態の表示(IPv6).....	319
7.13 RIP.....	319
7.13.1 RIP モードへの遷移.....	319
7.13.2 RIPng モードへの遷移.....	320
7.13.3 デフォルト外部経路の設定.....	320
7.13.4 外部経路を RIP で再広告するときのデフォルトメトリック値の設定.....	320
7.13.5 RIP から RIB に取り込まれる経路の優先度を設定.....	321
7.13.6 RIB と RIP 経路表のフィルタリングの設定.....	321
7.13.7 近隣の RIP ルーターの設定.....	321
7.13.8 RIP で通知するネットワークの設定.....	322
7.13.9 アクセスリストに合致する経路情報についてメトリック値を加算.....	322
7.13.10 RIP パケットの受信のみ VLAN インターフェースの設定.....	323
7.13.11 外部経路情報を RIP ネットワークへ再広告.....	323
7.13.12 RIP に関連するタイマーの設定.....	324

7.13.13 RIP のバージョンの設定.....	324
7.13.14 RIPv2 の認証で使うキーチェーンの設定.....	324
7.13.15 RIPv2 で使用する認証の方式の設定.....	325
7.13.16 RIPv2 の認証で使用するパスワードの設定.....	325
7.13.17 メトリックが 0 の経路を受信したときの動作の設定.....	325
7.13.18 RIP パケットの受信を行うか否かの設定.....	326
7.13.19 受信可能とする RIP のバージョンを設定.....	326
7.13.20 RIP パケットの送信の設定.....	327
7.13.21 送信可能とする RIP のバージョンの設定.....	327
7.13.22 スプリットホライズンの設定(IPv4).....	327
7.13.23 ポイズンリバースの設定(IPv4).....	328
7.13.24 送受信する RIPng パケットの経路情報の加算するメトリック値の設定.....	328
7.13.25 スプリットホライズンの設定(IPv6).....	329
7.13.26 ポイズンリバースの設定(IPv6).....	329
7.13.27 RIPng の設定.....	329
7.13.28 RIPv2 の認証で使用するキーチェーンの生成.....	330
7.13.29 キーチェーンに登録する鍵の生成.....	330
7.13.30 RIPv2 の認証で使用するパスワードの設定.....	330
7.13.31 RIPv2 の認証で使用する鍵の受信有効期限の設定.....	331
7.13.32 RIPv2 の認証で使用する鍵の送信有効期限の設定.....	332
7.13.33 RIP 経路表から経路情報を削除(IPv4).....	332
7.13.34 RIP の統計情報のクリア.....	333
7.13.35 RIPng 経路表から経路情報を削除(IPv6).....	333
7.13.36 RIP の設定・状態の表示(IPv4).....	334
7.13.37 RIPng の設定・状態の表示(IPv6).....	334
7.13.38 RIP 経路表の表示(IPv4).....	334
7.13.39 RIPng 経路表の表示(IPv6).....	334
7.13.40 インターフェース毎の RIP の状態の表示(IPv4).....	334
7.13.41 インターフェース毎の RIPng の状態の表示(IPv6).....	335
7.13.42 RIP の統計情報の表示.....	335
7.14 VRRP.....	335
7.14.1 VRRP モードへの移行.....	335
7.14.2 VRRP モードへの移行(IPv6).....	336
7.14.3 advertisement パケットの送信間隔設定.....	336
7.14.4 サーキットフェイルオーバー設定.....	337
7.14.5 バーチャルルーターの有効/無効設定.....	337
7.14.6 プリエンプトモード設定.....	338
7.14.7 バーチャルルーターの優先度設定.....	339
7.14.8 バーチャル IP アドレス設定.....	339
7.14.9 バーチャル IP アドレス設定(IPv6).....	340
7.14.10 VRRP 情報を表示.....	340
7.14.11 VRRP 情報を表示(IPv6).....	341
7.14.12 VRRP の統計情報を表示.....	342
7.14.13 VRRP の統計情報を表示(IPv6).....	342
7.15 PBR.....	343
7.15.1 ルートマップの生成.....	343
7.15.2 ルートマップの説明文追加.....	344
7.15.3 ルートマップエントリへの適用条件設定.....	344
7.15.4 ルートマップエントリへの処理内容 (IPv4 転送先) 設定.....	345
7.15.5 ルートマップエントリへの処理内容 (IPv6 転送先) 設定.....	346
7.15.6 ルートマップエントリへの処理内容 (パケット破棄) 設定.....	346
7.15.7 インターフェースへのルートマップの適用 (IPv4 用).....	347
7.15.8 インターフェースへのルートマップの適用 (IPv6 用).....	348
7.15.9 PBR 機能の有効化/無効化.....	348
7.15.10 ルートマップ情報の表示.....	349
7.15.11 IPv4 PBR 情報の表示.....	350
7.15.12 IPv6 PBR 情報の表示.....	350

## 第 8 章 : IP マルチキャスト制御.....352

8.1 IP マルチキャスト基本設定.....	352
-------------------------	-----

8.1.1 IP マルチキャストルーティングの設定.....	352
8.1.2 IP マルチキャストルーティングの設定 (物理ポート).....	352
8.1.3 RPF チェック用ユニキャスト経路情報の設定.....	352
8.1.4 IP マルチキャスト経路の最大エントリー数の設定.....	353
8.1.5 IP マルチキャスト経路表の表示.....	354
8.1.6 IP マルチキャスト用仮想インターフェース情報の表示.....	355
8.1.7 RPF 情報の表示.....	356
8.1.8 IP マルチキャスト経路表のエントリーの削除.....	356
8.1.9 未知のマルチキャストフレームの処理方法の設定.....	357
8.1.10 未知のマルチキャストフレームの処理方法の設定(インターフェース).....	357
8.1.11 リンクローカルマルチキャストフレームの転送設定.....	358
8.1.12 マルチキャストフレームの転送設定.....	358
8.1.13 トポロジー変更時の IGMP/MLD クエリー送信機能の有効/無効設定.....	359
8.2 IGMP スヌーピング.....	359
8.2.1 IGMP スヌーピングの有効/無効設定.....	359
8.2.2 IGMP スヌーピング高速脱退の設定.....	360
8.2.3 マルチキャストルーターの接続先の設定.....	360
8.2.4 クエリー送信機能の設定.....	361
8.2.5 IGMP クエリー送信間隔の設定.....	361
8.2.6 IGMP パケットの TTL 値検証機能の設定.....	362
8.2.7 IGMP バージョンの設定.....	363
8.2.8 IGMP レポート抑制機能の設定.....	363
8.2.9 マルチキャストルーターポートへのデータ転送抑制機能の設定.....	364
8.2.10 マルチキャストルーター接続ポート情報の表示.....	365
8.2.11 IGMP グループメンバーシップ情報の表示.....	365
8.2.12 インターフェースの IGMP 関連情報を表示.....	366
8.2.13 IGMP グループメンバーシップのエントリー削除.....	366
8.3 MLD スヌーピング.....	367
8.3.1 MLD スヌーピングの有効/無効設定.....	367
8.3.2 MLD スヌーピング高速脱退の設定.....	367
8.3.3 マルチキャストルーターの接続先の設定.....	368
8.3.4 クエリー送信機能の設定.....	369
8.3.5 MLD クエリー送信間隔の設定.....	369
8.3.6 MLD バージョンの設定.....	370
8.3.7 マルチキャストルーター接続ポート情報の表示.....	370
8.3.8 MLD グループメンバーシップ情報の表示.....	371
8.3.9 インターフェースの MLD 関連情報を表示.....	371
8.3.10 MLD グループメンバーシップのエントリー削除.....	372
8.4 PIM.....	372
8.4.1 PIM 動作モードの設定.....	372
8.4.2 Hello メッセージの送信間隔の設定.....	373
8.4.3 Hello メッセージの保持時間の設定.....	374
8.4.4 PIM ネイバーフィルターの設定.....	374
8.4.5 Generation ID の設定.....	375
8.4.6 DR 優先度の設定.....	375
8.4.7 静的 RP の設定.....	376
8.4.8 RP 候補の設定.....	376
8.4.9 Candidate-RP-Advertisement メッセージの設定.....	377
8.4.10 BSR 候補の設定.....	378
8.4.11 BSR メッセージの送受信設定.....	378
8.4.12 RP 優先度の使用設定.....	378
8.4.13 Register メッセージの送信元 IP アドレスの設定.....	379
8.4.14 Register メッセージのフィルタリング設定.....	379
8.4.15 Register メッセージの送信レート上限値の設定.....	380
8.4.16 Register メッセージのチェックサム計算方法の設定.....	380
8.4.17 Register メッセージの送信待機時間の設定.....	381
8.4.18 Join/Prune メッセージの送信間隔の設定.....	381
8.4.19 RP の Keepalive Timer の設定.....	382
8.4.20 SPT 移行動作の設定.....	382
8.4.21 PIM-SSM の設定.....	383
8.4.22 State Refresh メッセージの送信間隔の設定.....	383

8.4.23 Graft メッセージの最大再送回数の設定	384
8.4.24 PIM メッセージの転送遅延時間の設定	384
8.4.25 ユニキャスト BSM の送受信設定	385
8.4.26 RP-reachability メッセージの確認設定	385
8.4.27 PIM インターフェース情報の表示	385
8.4.28 IP マルチキャスト経路表の表示	387
8.4.29 PIM ネイバー情報の表示	389
8.4.30 ネクストホップ情報の表示	390
8.4.31 RP 情報の表示	390
8.4.32 RP 選出候補の表示	391
8.4.33 BSR 情報の表示	391
8.4.34 RP 情報のクリア	392
8.5 IGMP	392
8.5.1 IGMP の設定	392
8.5.2 IGMP バージョンの設定	393
8.5.3 Query Interval の設定	393
8.5.4 General Membership Query の最大応答時間の設定	394
8.5.5 Last Member Query Interval の設定	394
8.5.6 Last Member Query Count の設定	394
8.5.7 Other Querier Present Interval の設定	395
8.5.8 Robustness Variable の設定	395
8.5.9 IGMP の即時脱退設定	396
8.5.10 IGMP パケットの送信元アドレスチェックの設定	396
8.5.11 マルチキャストグループの参加制限設定	397
8.5.12 IGMP グループメンバーシップの最大登録数の設定	397
8.5.13 IGMP グループメンバーシップの静的エントリーの設定	398
8.5.14 SSM マッピング機能の設定	399
8.5.15 SSM マッピングの静的エントリーの設定	399
8.5.16 IGMP プロキシの下流インターフェースの設定	400
8.5.17 IGMP プロキシの上流インターフェースの設定	401
8.5.18 マルチキャストグループ情報の表示	401
8.5.19 IGMP インターフェース情報の表示	402
8.5.20 IGMP SSM マップ情報の表示	402
8.5.21 IGMP プロキシインターフェース情報の表示	403
8.5.22 IGMP グループメンバーシップの削除	403

## 第9章: トラフィック制御.....405

9.1 ACL	405
9.1.1 IPv4 アクセスリストの生成	405
9.1.2 IPv4 アクセスリストの説明文追加	407
9.1.3 IPv4 アクセスリストの適用	407
9.1.4 IPv6 アクセスリストの生成	408
9.1.5 IPv6 アクセスリストの説明文追加	409
9.1.6 IPv6 アクセスリストの適用	409
9.1.7 MAC アクセスリストの生成	410
9.1.8 MAC アクセスリストの説明文追加	411
9.1.9 MAC アクセスリストの適用	412
9.1.10 生成したアクセスリストの表示	413
9.1.11 統計数のクリア	413
9.1.12 インターフェースに適用したアクセスリストの表示	413
9.1.13 VLAN アクセスマップの設定および VLAN アクセスマップモードへの移行	414
9.1.14 VLAN アクセスマップに対するアクセスリストの設定	414
9.1.15 VLAN アクセスマップフィルターの設定	415
9.1.16 VLAN アクセスマップの表示	416
9.1.17 VLAN アクセスマップフィルターの表示	416
9.2 QoS (Quality of Service)	416
9.2.1 QoS の有効・無効制御	416
9.2.2 デフォルト CoS の設定	417
9.2.3 トラストモードの設定	418
9.2.4 QoS 機能の設定状態の表示	419

9.2.5 インターフェースの QoS 情報の表示.....	419
9.2.6 送信キュー使用率の表示.....	420
9.2.7 CoS-送信キュー ID 変換テーブルの設定.....	421
9.2.8 DSCP-送信キュー ID 変換テーブルの設定.....	422
9.2.9 ポート優先度の設定.....	422
9.2.10 スイッチ本体から送信されるフレームの送信キュー指定.....	423
9.2.11 クラスマップ(トラフィックの分類条件)の生成.....	423
9.2.12 クラスマップの関連付け.....	424
9.2.13 トラフィック分類条件の設定(access-list).....	425
9.2.14 トラフィック分類条件の設定(CoS).....	426
9.2.15 トラフィック分類条件の設定(TOS 優先度).....	426
9.2.16 トラフィック分類条件の設定(DSCP).....	426
9.2.17 トラフィック分類条件の設定(Ethernet Type).....	427
9.2.18 トラフィック分類条件の設定(VLAN ID).....	427
9.2.19 トラフィック分類条件の設定(VLAN ID レンジ指定).....	428
9.2.20 クラスマップ情報の表示.....	428
9.2.21 受信フレームに対するポリシーマップの生成.....	429
9.2.22 受信フレームに対するポリシーマップの適用.....	430
9.2.23 プレマーキングの設定(CoS).....	431
9.2.24 プレマーキングの設定(TOS 優先度).....	432
9.2.25 プレマーキングの設定(DSCP).....	432
9.2.26 個別ポリサーの設定(シングルレート).....	433
9.2.27 個別ポリサーの設定(ツインレート).....	434
9.2.28 個別ポリサーのリマーキングの設定.....	436
9.2.29 集約ポリサーの生成.....	437
9.2.30 集約ポリサーの設定(シングルレート).....	438
9.2.31 集約ポリサーの設定(ツインレート).....	439
9.2.32 集約ポリサーのリマーキングの設定.....	440
9.2.33 集約ポリサーの表示.....	441
9.2.34 集約ポリサーの適用.....	441
9.2.35 メータリングカウンターの表示.....	442
9.2.36 メータリングカウンターのクリア.....	443
9.2.37 送信キューの指定(CoS-Queue).....	443
9.2.38 送信キューの指定(DSCP-Queue).....	444
9.2.39 ポリシーマップ情報の表示.....	444
9.2.40 マップステータスの表示.....	446
9.2.41 送信キューのスケジューリング設定.....	447
9.2.42 トラフィックシェーピング(ポート単位)の設定.....	448
9.2.43 トラフィックシェーピング(キュー単位)の設定.....	448
9.3 フロー制御.....	449
9.3.1 フロー制御(IEEE 802.3x PAUSE の送受信)の設定(システム).....	449
9.3.2 フロー制御(IEEE 802.3x PAUSE の送受信)の設定(インターフェース).....	450
9.3.3 フロー制御の動作状態の表示.....	451
9.4 ストーム制御.....	451
9.4.1 ストーム制御の設定.....	451
9.4.2 ストーム制御 受信上限値の表示.....	452

## 第 10 章 : アプリケーション.....454

10.1 DHCP Server.....	454
10.1.1 DHCP サーバー機能の設定(システム).....	454
10.1.2 DHCP サーバー機能の設定(インターフェース).....	454
10.1.3 DHCP サーバーの動作タイプの設定.....	455
10.1.4 DHCP プールの設定.....	455
10.1.5 ネットワーク部の設定.....	456
10.1.6 割り当てる IP アドレスの範囲の設定(DHCP).....	457
10.1.7 特定のクライアントに割り当てる IP アドレスの設定.....	457
10.1.8 リース時間の設定(DHCP).....	458
10.1.9 リースする IP アドレスの重複チェックの設定.....	459
10.1.10 リースする IP アドレスの重複チェックのタイムアウト時間設定.....	459
10.1.11 通知するデフォルトゲートウェイアドレスの設定(DHCP).....	460

10.1.12	通知する DNS サーバーの設定(DHCP).....	460
10.1.13	通知するドメイン名の設定(DHCP).....	461
10.1.14	ブートファイル名の設定.....	461
10.1.15	ブートファイルが置かれているサーバーの設定.....	462
10.1.16	ユーザー定義の DHCP オプションの設定.....	462
10.1.17	DHCP クラスの設定.....	465
10.1.18	remote-id の設定.....	465
10.1.19	circuit-id の設定.....	466
10.1.20	subscriber-id の設定.....	466
10.1.21	DHCP プールクラスの設定.....	467
10.1.22	割り当てる IP アドレスの範囲の設定(DHCP プールクラス).....	467
10.1.23	リース時間の設定(DHCP プールクラス).....	468
10.1.24	通知するデフォルトゲートウェイアドレスの設定(DHCP プールクラス).....	469
10.1.25	通知する DNS サーバーの設定(DHCP プールクラス).....	469
10.1.26	通知するドメイン名の設定(DHCP プールクラス).....	470
10.1.27	DHCP プールの情報の表示.....	471
10.1.28	DHCP クライアントへの IP アドレス割り当て情報の表示.....	472
10.1.29	DHCP サーバーの状態の表示.....	472
10.1.30	DHCP サーバーのリース情報の削除.....	473
10.2	DHCP Relay.....	473
10.2.1	DHCP リレーエージェント機能の設定.....	473
10.2.2	DHCP リレーエージェント機能の転送先アドレスの設定.....	474
10.2.3	DHCP リレーエージェント機能のブロードキャスト転送の設定.....	474
10.2.4	DHCP リレーエージェントの状態の表示.....	475
10.3	DNS Relay.....	475
10.3.1	DNS リレー機能の設定(システム).....	475
10.3.2	DNS リレー機能の設定(インターフェース).....	476
10.3.3	DNS リレー機能の転送先アドレスの設定.....	477
10.3.4	DNS リレー機能のキャッシュエントリの最大 TTL 設定.....	477
10.3.5	DNS リレー機能のキャッシュエントリの削除.....	478
10.3.6	DNS リレー機能の静的レコードの設定.....	478
10.3.7	DNS リレーの状態の表示.....	479
10.3.8	DNS リレーのキャッシュの表示.....	479
10.4	ローカル RADIUS サーバー.....	480
10.4.1	ローカル RADIUS サーバー機能の設定.....	480
10.4.2	アクセスインターフェースの設定.....	480
10.4.3	ルート認証局を生成.....	481
10.4.4	RADIUS コンフィグレーションモード.....	481
10.4.5	認証方式の設定.....	482
10.4.6	RADIUS クライアント(NAS)の設定.....	482
10.4.7	認証ユーザーの設定.....	483
10.4.8	再認証間隔の設定.....	485
10.4.9	ローカル RADIUS サーバーへの設定データ反映.....	485
10.4.10	クライアント証明書の発行.....	486
10.4.11	クライアント証明書の発行中断.....	486
10.4.12	クライアント証明書の失効.....	487
10.4.13	クライアント証明書のエクスポート(SD コピー).....	487
10.4.14	クライアント証明書のエクスポート(メール送信).....	488
10.4.15	RADIUS データのコピー.....	489
10.4.16	RADIUS クライアント(NAS)の表示.....	489
10.4.17	認証ユーザー情報の表示.....	490
10.4.18	クライアント証明書の発行状態表示.....	491
10.4.19	クライアント証明書のリスト表示.....	491
10.4.20	クライアント証明書の失効リスト表示.....	492



---

# 序文

---

## はじめに

---

- 本書の記載内容の一部または全部を無断で転載することを禁じます。
- 本書の記載内容は将来予告なく変更されることがあります。
- 本製品を使用した結果発生した情報の消失等の損失については、当社では責任を負いかねます。保証は本製品物損の範囲に限ります。予めご了承ください。
- 本書の内容については万全を期して作成致しておりますが、記載漏れやご不審な点がございましたらご一報くださいようお願い致します。
- 本書に記載されている会社名、製品名は各社の登録商標あるいは商標です。

# 第 1 章

## コマンドリファレンスの見方

### 1.1 対応するプログラムのリビジョン

このコマンドリファレンスは、ヤマハスタンダード L3 スイッチ SWX3200 のファームウェア、Rev.4.00.30 に対応しています。

このコマンドリファレンスの作成時より後にリリースされた最新のファームウェアや、マニュアル類および差分については以下に示す URL の WWW サーバーにある情報を参照してください。

<http://www.rtpro.yamaha.co.jp>

### 1.2 コマンドリファレンスの見方

このコマンドリファレンスは、ヤマハスタンダード L3 スイッチ SWX3200 のコンソールから入力するコマンドを説明しています。

1 つ 1 つのコマンドは次の項目の組合せで説明します。

[書式]	コマンドの入力形式を説明します。キー入力時には大文字と小文字のどちらを使用しても構いません。
	コマンドの名称部分は太字 ( <b>Bold face</b> ) で示します。
	パラメーター部分は斜体 ( <i>Italic face</i> ) で示します。
	キーワードは標準文字で示します。
	括弧 ([ ]) で囲まれたパラメーターは省略可能であることを示します。
[キーワード]	コマンドに設定可能なキーワードの種類と意味を説明します。
[パラメーター]	コマンドに設定可能なパラメーターの種類とその意味を説明します。
[初期設定]	コマンドの初期設定値を示します。
[入力モード]	コマンド実行可能なモードを示します。
[説明]	コマンドの解説部分です。
[ノート]	コマンドを使用する場合に特に注意すべき事柄を示します。
[設定例]	コマンドの具体例を示します。

### 1.3 インターフェース名について

コマンドの入力形式において、スイッチの各インターフェースを指定するためにインターフェース名を利用します。SWX3200 で扱うインターフェース名には、以下があります。

インターフェース種別	プレフィックス	説明	指定例
LAN/SFP ポート	port	物理ポートの指定に使用します。指定する際は、port に続けて "スタック ID" + "." + "ポート番号" を指定します。	LAN ポート スタック #1 の LAN ポート #1 を指定する場合 : port1.1
VLAN インターフェース	vlan	VLAN の指定に使用します。指定する際は、vlan に続けて "VLAN ID" を指定します。	VLAN #1 を指定する場合 : vlan1

インターフェース種別	プレフィックス	説明	指定例
スタティック論理インターフェース	sa	複数の LAN/SFP ポートを束ねたリンクアグリゲーションの指定に使用します。指定する際は、sa または po に続けて "論理インターフェース ID" を指定します	スタティック論理インターフェース #1 を指定する場合 : sa1
LACP 論理インターフェース	po		LACP 論理インターフェース #2 を指定する場合 : po2

## 1.4 no で始まるコマンドの入力形式について

コマンドの入力形式に **no** で始まる形のものが並記されているコマンドが多数あります。**no** で始まる形式を使うと、特別な記述がない限り、そのコマンドの設定を削除し、初期値に戻します。

## 第2章

### コマンドの使い方

SWX3200 のコマンド操作は、次の2種類の方法で行うことができます。

操作の種類	操作の方法	説明
コンソールによる操作	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンソールターミナルからのアクセス</li> <li>TELNET クライアントからのアクセス</li> <li>SSH クライアントからのアクセス</li> </ul>	コマンドを1つ1つ実行して対話的に設定や操作を行います。
Config ファイルによる操作	<ul style="list-style-type: none"> <li>TFTP によるファイル転送</li> <li>GUI 操作によるファイル転送</li> <li>SD カードによるファイルコピー</li> </ul>	必要なコマンド一식을記述したファイル(これを Config ファイルと呼ぶ)により一括設定したり、SWX3200 の設定を一括で取得します。

本章では、各操作方法について説明します。

## 2.1 コンソールによる操作

### 2.1.1 コンソールターミナルからのアクセス

SWX3200 の CONSOLE ポートに接続した端末から設定を行う場合、USB ケーブルまたは RJ-45/DB-9 コンソールケーブル(YRC-RJ45)を使用してください。

mini-USB CONSOLE ポートに接続する USB ケーブルは、USB Type A コネクタと mini-USB Type B (5 ピン) コネクタのデータ通信対応の USB ケーブルをご使用ください。充電専用ケーブルはご使用できません。

パソコンをコンソールターミナル(シリアル端末)として使用する場合、パソコンのシリアル(COM)ポートを制御するターミナルソフトウェアが必要です。コンソールターミナルの通信設定は、次のとおりです。

設定項目	設定値
ボーレート	9600bps
データ	8bit
パリティ	なし
ストップビット	1bit
フロー制御	Xon/Xoff

なお、コンソールターミナルに関する設定は、**line con** コマンドでラインモードに移行して行います。

### 2.1.2 TELNET クライアントからのアクセス

パソコンなどの TELNET クライアントを使用して、SWX3200 の TELNET サーバーに接続し、操作を行います。TELNET を使用した設定を行うためには、まず、接続環境(IP ネットワーク)の構築を行い、次に、TELNET サーバーの設定を行います。

SWX3200 の IP アドレスの設定については、以下のとおりです。

- IPv4 アドレスの初期設定は、VLAN #1 に対して、192.168.100.240/24 を設定しています。
- IPv4 アドレスの変更は、**ip address** コマンドで行います。

SWX3200 の TELNET サーバー機能については、以下のとおりです。

- TELNET サーバー機能の初期設定は、デフォルトポート(TCP ポート 23 番)で起動していて、VLAN #1 からのアクセスのみ許可しています。
- 受信ポート番号の変更は、**telnet-server** コマンドで行います。
- TELNET サーバーへのアクセスは、VLAN 単位で制御でき、**telnet-server interface** コマンドで設定できます。

また、TELNET クライアントが接続する仮想的な通信ポートのことを"仮想端末(VTY: Virtual TYpewriter)ポート"といいます。TELNET クライアントの最大同時接続数は、SWX3200 の VTY ポート数に依存します。SWX3200 の VTY ポートについては、以下のとおりです。

- VTY ポートの初期設定は、8 個の VTY ポート(ID:0~7)が使用可能となっています。
- VTY ポート数の確認は、**show running-config | include line vty** コマンドで行います。
- VTY ポート数の変更は、**line vty** コマンドで行います。(最大 8 個(ID:0~7))

なお、VTY ポートの設定は、**line vty** コマンドで対象 VTY ポートを指定した後、ラインモードに移行して行います。仮想端末ポートは SWX3200 内部で ID 管理しますが、ログインセッションと ID の割り当ては接続タイミングに依存するため、通常はすべての VTY ポートに対して同じ設定を行ってください。

### 2.1.3 SSH クライアントからのアクセス

パソコンなどの SSH クライアントを使用して、SWX3200 の SSH サーバーに接続し、操作を行います。SSH を使用した設定を行うためには、まず、接続環境(IP ネットワーク)の構築を行い、次に、SSH サーバーの設定を行います。SWX3200 の IP アドレスの設定については、以下のとおりです。

- IPv4 アドレスの初期設定は、VLAN #1 に対して、192.168.100.240/24 を設定しています。
- IPv4 アドレスの変更は、**ip address** コマンドで行います。

SSH クライアントからアクセスする場合、事前に SWX3200 の以下の設定が必要です。

- **ssh-server host key generate** コマンドで SSH サーバーのホスト鍵の生成をします。
- **ssh-server** コマンドで SSH サーバー機能を有効にします。
- **username** コマンドでユーザー名とパスワードの登録をします。

SWX3200 の SSH サーバー機能については、以下のとおりです。

- SSH サーバーへのアクセスは、VLAN 単位で制御でき、**ssh-server interface** コマンドで設定できます。
- 以下の機能をサポートしていないのでご注意ください
- SSH プロトコルバージョン 1
- パスワード認証以外のユーザー認証 (ホストベース認証、公開鍵認証、チャレンジ・レスポンス認証、GSSAPI 認証)
- ポートフォワーディング (X11/TCP 転送)
- Gateway Ports (ポート中継)
- 空パスワードの許可

また、SSH クライアントが接続する仮想的な通信ポートのことを"仮想端末(VTY: Virtual TYPewriter)ポート"といいます。SSH クライアントの最大同時接続数は、SWX3200 の VTY ポート数に依存します。SWX3200 の VTY ポートについては、以下のとおりです。

- VTY ポートの初期設定は、8 個の VTY ポート(ID:0~7)が使用可能となっています。
- VTY ポート数の確認は、**show running-config | include line vty** コマンドで行います。
- VTY ポート数の変更は、**line vty** コマンドで行います。(最大 8 個(ID:0~7))

なお、VTY ポートの設定は、**line vty** コマンドで対象 VTY ポートを指定した後、ラインモードに移行して行います。仮想端末ポートは SWX3200 内部で ID 管理しますが、ログインセッションと ID の割り当ては接続タイミングに依存するため、通常はすべての VTY ポートに対して同じ設定を行ってください。

### 2.1.4 コンソールターミナル/VTY の設定

SWX3200 は、コンソールターミナルおよび VTY に対して、以下を設定できます。

1. 無操作と判定するタイムアウト時間
2. 端末画面の 1 ページの表示行数

設定項目	設定内容
無操作と判定するタイムアウト時間	端末でキー入力がない場合にログインセッションを強制的に切断するまでの時間を設定します。初期設定では、10 分で強制切断されます。本設定は、ラインモードの <b>exec-timeout</b> コマンドで設定し、次のセッションから有効になります。

設定項目	設定内容
端末画面の 1 ページの表示行数	<p>端末画面の 1 ページ当たりの行数を指定します。 0~512 行/1 ページ指定可能で、初期設定では、24 行/ページとなっています。 本状態で表示を行うと、23 行表示後、"--- More---" と表示され、キー入力待ちとなります。 本設定は、以下の 2 種類があり、上から順番にシステムに適用されます。</p> <p>1) 非特権 EXEC モードの <b>terminal length</b> コマンド 2) グローバルコンフィグレーションモードの <b>service terminal-length</b> コマンド</p> <p>1)の設定は端末を使用しているユーザーに一時的に有効にさせる機能で、コマンド実行後、即座に反映されます。 2)の設定は次のセッションから有効となります。</p>

## 2.2 設定(Config)ファイルによる操作

必要なコマンド一식을記述したファイルを設定(Config)ファイルと呼びます。

SWX3200 に設定した項目は、TFTP により LAN 上のホストから Config ファイルとして読み出すことができます。またホスト上の Config ファイルを SWX3200 に読み込ませて設定を行うこともできます。

Config ファイルは全体の設定を記述したものであり、特定部分の設定だけを読み出したり差分点だけを書き込んだりすることはできません。Config ファイルは ASCII + 改行コード(CRLF または LF)で構成するテキストファイルとします。

なお、Config ファイルの内容は、コマンドの書式やパラメーターの指定などの内容が正しく記述されている必要があります。間違った書式や内容があった場合には、その内容は動作に反映されず無視されます。

### 2.2.1 TFTP クライアントからのアクセス

TFTP により Config ファイルをやりとりするためには、まず、接続環境(IP ネットワーク)の構築を行い、次に、TFTP サーバーの設定を行います。

SWX3200 の IP アドレスの設定については、以下のとおりです。

- IPv4 アドレスの初期設定は、VLAN #1 に対して、192.168.100.240/24 を設定しています。
- IPv4 アドレスの変更は、**ip address** コマンドで行います。

SWX3200 の TFTP サーバー機能については、以下のとおりです。

- TFTP サーバー機能の初期設定は、デフォルトポート(UDP ポート 69 番)で起動していて、どこからのアクセスも許可されていません。
- 受信ポート番号の変更は、**tftp-server** コマンドで行います。
- TFTP サーバーへのアクセスは、VLAN 単位で制御でき、**tftp-server interface** コマンドで設定できます。アクセスを許可する VLAN ID を設定してください。

### 2.2.2 設定ファイルの読み出し/書き込み

設定ファイルの読み出し/書き込みは、LAN 上のホストから TFTP コマンドを実行します。

読み出し/書き込みを行う設定ファイルは以下の通りです。

- 設定ファイル

対象 CONFIG	対象ファイル	説明
running-config	CONFIG ファイル (.txt)	現在運用中の設定値 (基本設定)
startup-config #0~#4, #SD	CONFIG ファイル (.txt)	保存されている設定値 (基本設定)
	すべての設定 (.zip)	保存されている設定値 (すべての設定)

設定ファイルの読み出し(GET)/書き込み(PUT)先のリモートパスとして、以下を指定します。

- 対象ファイルのリモートパス(自動再起動なし)

対象 CONFIG	対象ファイル	リモートパス	読み出し(GET)	書き込み(PUT)	自動再起動
running-config	CONFIG ファイル (.txt)	config	○	○	-
startup-config #0	CONFIG ファイル (.txt)	config0	○	○	-
	すべての設定 (.zip)	config0-all	○	○	-
startup-config #1	CONFIG ファイル (.txt)	config1	○	○	-
	すべての設定 (.zip)	config1-all	○	○	-
startup-config #2	CONFIG ファイル (.txt)	config2	○	○	-
	すべての設定 (.zip)	config2-all	○	○	-
startup-config #3	CONFIG ファイル (.txt)	config3	○	○	-
	すべての設定 (.zip)	config3-all	○	○	-
startup-config #4	CONFIG ファイル (.txt)	config4	○	○	-
	すべての設定 (.zip)	config4-all	○	○	-
startup-config #SD	CONFIG ファイル (.txt)	configsd	○	○	-
	すべての設定 (.zip)	configsd-all	○	○	-

また、設定ファイルを適用後、自動的にシステムを再起動させたい場合は、以下のリモートパスを指定します。現在稼働しているコンフィグが適用対象となります。

- 対象ファイルのリモートパス(自動再起動あり)

対象 CONFIG	対象ファイル	リモートパス	読み出し(GET)	書き込み(PUT)	自動再起動
現在稼働している startup-config	CONFIG ファイル (.txt)	reconfig	-	○	○
	すべての設定 (.zip)	reconfig-all	-	○	○

設定ファイルを書き込み(PUT)するとき、対象 CONFIG、および、対象ファイルの種別が正しいことを確認してください。

誤ったファイルを指定すると正しく反映できません。

使用するコマンドの形式は、そのホストの OS(TFTP クライアント)に依存します。次の点に注意して実行してください。

- SWX3200 の IP アドレス
- 転送モードは"バイナリモード"で行います。
- リモートパスの後ろに"/PASSWORD"という形式で管理パスワードを指定する必要があります。管理パスワードが初期設定の状態では、設定ファイルの読み出し/書き込みをすることはできません。前もって管理パスワードを変更する必要があります。
- リモートパスに"config"を指定して PUT(書き込み)する場合、現在運用中の設定に対して、追加または上書きをします。

設定を追加または変更しないものについては、現在運用している設定のままとなります。

また、設定値は保存されないため、保存したい場合は **write** コマンド等で保存してください。

- 暗号化されたパスワード(**password 8** や **enable password 8** のコマンド形式)は、TFTP で **running-config** に PUT しても設定に反映されません。  
また、暗号化されたパスワードを含むユーザーの設定(**username** コマンド)は、ユーザーの登録自体が行われません。

## 2.3 ログイン

SWX3200 の起動が完了すると、ログイン画面を表示します。

設定したユーザー名とパスワードを入力することでログインすることができます。

初期設定では、初期管理ユーザーが設定されており、ユーザー名:**admin**、パスワード:**admin** でログインすることができます。

- ログイン画面

```
Username:admin
Password:
```

- ログイン後のコンソール画面

```
SWX3200 Rev.4.00.05 (Fri Mar 9 09:34:05 2018)
Copyright (c) 2018 Yamaha Corporation. All Rights Reserved.

SWX3200>
```

初期管理ユーザーでログインした場合、初回のみパスワード変更画面が表示されますので、パスワードを変更してください。

- パスワード変更画面

```
Username:admin
Password:

SWX3200 Rev.4.00.05 (Fri Mar 9 09:34:05 2018)
Copyright (c) 2018 Yamaha Corporation. All Rights Reserved.

Please change the default password for admin.
New Password:
New Password(Confirm):
Saving ...
Succeeded to write configuration
```

なお、パスワードを3回連続で間違えた場合、1分間ログインが制限されます。1分経過後、正しいパスワードを入力してください。

- ログイン制限画面

```
Username: user
Password:
% Incorrect username or password, or login as user is restricted.
Password:
% Incorrect username or password, or login as user is restricted.
Password:
% Incorrect username or password, or blocked upon 3 failed login attempts for user.
% Please try again later.
```

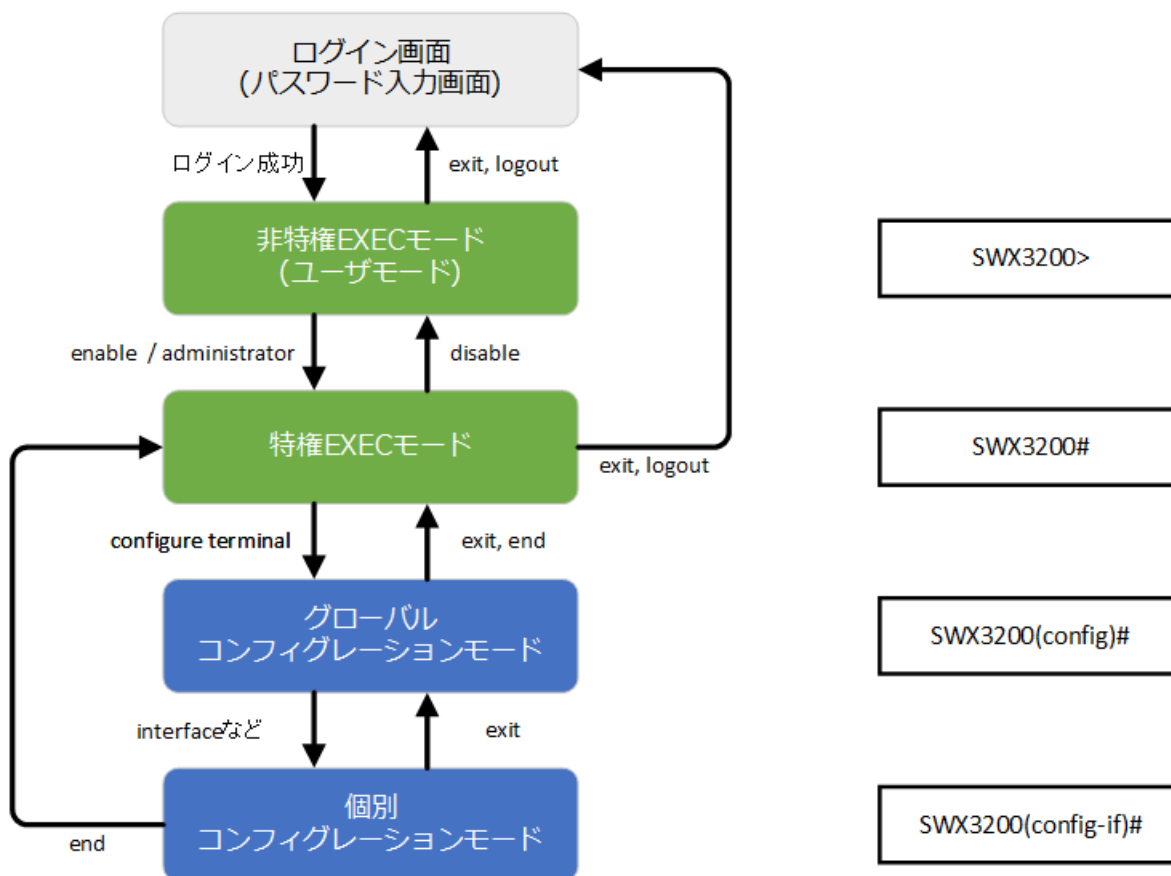
- ログイン制限されたユーザーが、再びパスワードを間違えると制限時間が更新されます。
- 制限時間経過後に正しいパスワードを入力することでログインできるようになります。

## 2.4 コマンド入力モードについて

### 2.4.1 コマンド入力モードの基本

SWX3200 の設定変更や状態参照をする場合、適切なコマンド入力モードに遷移してから、コマンドを実行する必要があります。コマンドの入力モードは以下のような階層に分かれており、各々のモードで入力できるコマンドが異なります。ユーザーは、プロンプトを確認することで、現在、どのモードにいるのか確認することができます。





コマンド入力モードの遷移に関連する基本的なコマンドは、以下となります。グローバルコンフィグレーションモードから個別コンフィグレーションモードへの遷移コマンドについては、「個別コンフィグレーションモード」を参照してください。

- **exit** コマンド
- **logout** コマンド
- **enable** コマンド / **administrator** コマンド
- **disable** コマンド
- **configure terminal** コマンド
- **end** コマンド

### 2.4.2 個別コンフィグレーションモード

個別コンフィグレーションモードとは、LAN/SFP ポートや VLAN インターフェース、QoS など、特定の項目に対する詳細な設定を行うためのモードの総称です。個別コンフィグレーションモードに入るには、グローバルコンフィグレーションモードで各モードに移動するためのコマンドを実行します。

SWX3200 の個別コンフィグレーションモードには次のものがあります。個別コンフィグレーションモードの中には階層化されているものもあります。例えば、ポリシーマップモード → ポリシーマップ・クラスモードです。

個別コンフィグレーションモード	遷移コマンド	プロンプト
インターフェースモード	<b>interface</b> コマンド	SWX3200(config-if)#
ラインモード	<b>line con</b> コマンド <b>line vty</b> コマンド	SWX3200(config-line)#
VLAN モード	<b>vlan database</b> コマンド	SWX3200(config-vlan)#
VLAN アクセスマップモード	<b>vlan access-map</b> コマンド	SWX3200(config-vlan-access-map)#
MST モード	<b>spanning-tree mst configuration</b> コマンド	SWX3200(config-mst)#
クラスマップモード	<b>class-map</b> コマンド	SWX3200(config-cmap)#
ポリシーマップモード	<b>policy-map</b> コマンド	SWX3200(config-pmap)#
ポリシーマップ・クラスモード	<b>class</b> コマンド	SWX3200(config-pmap-c)#

個別コンフィグレーションモード	遷移コマンド	プロンプト
集約ポリサーモード	<b>aggregate-police</b> コマンド	SWX3200(config-agg-policer)#
L2MS モード	<b>l2ms configuration</b> コマンド	SWX3200(config-l2ms)#
LLDP エージェントモード	<b>lldp-agent</b> コマンド	SWX3200(lldp-agent)#
OSPFv2 モード	<b>router ospf</b> コマンド	SWX3200(config-router)#
OSPFv3 モード	<b>router ipv6 ospf</b> コマンド	SWX3200(config-router)#
RIP モード	<b>router rip</b> コマンド	SWX3200(config-router)#
RIPng モード	<b>router ipv6 rip</b> コマンド	SWX3200(config-router)#
キーチェーンモード	<b>key chain</b> コマンド	SWX3200(config-keychain)#
キーチェーンキーモード	<b>key</b> コマンド	SWX3200(config-keychain-key)#
VRRP モード	<b>router vrrp</b> コマンド	SWX3200(config-router)#
VRRP モード(IPv6)	<b>router ipv6 vrrp</b> コマンド	SWX3200(config-router)#
ルートマップモード	<b>route-map</b> コマンド	SWX3200(config-route-map)#
DHCP モード	<b>dhcp pool</b> コマンド	SWX3200(config-dhcp)#
DHCP クラスモード	<b>dhcp class</b> コマンド	SWX3200(config-dhcp-class)#
DHCP プールクラスモード	<b>dhcp pool class</b> コマンド	SWX3200(config-dhcp-pool-class)#
メールテンプレートモード	<b>mail template</b> コマンド	SWX3200(config-mail)#
スケジュールテンプレートモード	<b>schedule template</b> コマンド	SWX3200(config-schedule)#
RADIUS コンフィグレーションモード	<b>radius-server local-profile</b> コマンド	SWX3200(config-radius)#

### 2.4.3 コマンドプロンプトのプレフィックス

コマンドプロンプトのプレフィックスは、ホスト名を表示しています。初期状態ではホスト名として、モデル名である「SWX3200」を表示しています。本表示は、**hostname** コマンドでホスト名を設定することで変更できます。SWX3200 を複数使用している場合など、各スイッチに別々の名前を設定しておくことで、管理がしやすくなります。

ホスト名の変更

```
SWX3200(config)# hostname Switch-012
Switch-012(config)#
```

### 2.4.4 異なる入力モードのコマンド実行

SWX3200 では、モードごとに利用可能なコマンドが異なるため、実行可能なモードまで遷移してコマンドを実行しなければなりません。それを解消するコマンドとして、**do** コマンドを提供します。

**do** コマンドを使用すると、すべてのコンフィグレーションモードから特権 EXEC モードのコマンドを実行することができます。これにより、すべてのコンフィグレーションモードから特権 EXEC モードに移動することなく、設定中のコンフィグレーションを参照をしたり、設定の保存が可能となります。

ただし、**do** では補完機能は利用できないため、その後続くコマンドをフルスペルまたは省略系で入力する必要があります。

- フルスペルで入力する場合

```
SWX3200(config)#do show running-config
```

- 省略形で入力する場合

```
SWX3200(config)#do sh ru
```

## 2.5 コンソール使用時のキーボード操作

### 2.5.1 コンソール入力の基本操作

SWX3200 では、コマンドライン上で、以下の操作が可能です。

• カーソルの移動

キーボード操作	説明・備考
→	1文字右に移動します
←	1文字左に移動します
Esc 押下後に F	1単語右に移動します(カーソル位置にある単語の最後の文字の次に移動します)
Esc 押下後に B	1単語左に移動します(カーソル位置にある単語の先頭文字に移動します)
Ctrl + A	行の先頭に移動します
Ctrl + E	行の末尾に移動します

• 入力文字の削除

キーボード操作	説明・備考
Backspace	カーソルの左にある文字を削除します
Ctrl + H	
Ctrl + D	カーソル位置の文字を削除します。 コマンド行が空の状態で行った場合は、 <b>exit</b> コマンドと同じ動作となります。
Esc 押下後に D	カーソル位置以降、最初の空白の直前までを削除します
Ctrl + K	カーソル位置から行の末尾までを削除します
Ctrl + U	入力中の文字を全て削除します

• その他

キーボード操作	説明・備考
Ctrl + T	カーソル位置の文字とその直前の文字を入れ換えます。 カーソルが行の末尾にあるとき、直前の文字とその前の文字を入れ換えます。
Ctrl + C	非特権 EXEC モードと特権 EXEC モードでは、入力中のコマンドを破棄して次の行に移ります。 個別コンフィグレーションモードでは、入力中のコマンド行を破棄して特権 EXEC モードに遷移します。 現在実行中のコマンド処理を中断します。(ex: <b>ping</b> コマンド)
Ctrl + Z	個別コンフィグレーションモードから特権 EXEC モードに遷移します。 <b>end</b> コマンドと同じ動作となります。

## 2.5.2 コマンドヘルプ

コマンドライン上で '?' を入力することで、指定できるコマンドまたはパラメーターを検索できます。

```
SWX3200#show vlan ?
<1-4094>      VLAN id
access-map   Show VLAN Access Map
brief        VLAN information for all bridges (static and dynamic)
filter       Show VLAN Access Map Filter
private-vlan private-vlan information
```

```
SWX3200#show vlan
```

### 2.5.3 入力コマンドの補完、キーワード候補一覧の表示

コンソール上でコマンド入力途中に、"Tab"キーを押すと、コマンド名が補完されます。また、キーワード入力後に"Tab"キーを押すと、次に入力可能なキーワードの候補一覧を表示します。本操作は、"Ctrl + I"キーを押しても同様な動作となります。

- コマンド名の補完

```
SWX3200#con"<Tab>キーを押す"
↓
SWX3200#configure
```

- キーワード候補一覧の表示

```
SWX3200 (config) #vlan "<Tab>キーを押す"
access-map database filter
SWX3200 (config) #vlan
```

### 2.5.4 コマンドの省略入力

コマンドまたはパラメーターを省略して入力した時、入力された文字が一意のコマンドまたはパラメーターとして認識できる場合は、そのコマンドが実行されます。

コマンドの省略入力例(show running-config)

```
SWX3200# sh run
```

### 2.5.5 コマンドヒストリー

コマンドヒストリー機能を使用すると、過去に入力したコマンドを簡単な操作で再実行したり、過去に入力したコマンドの一部を変更して再実行することができます。コマンドヒストリーは、各モード共通の履歴として表示されます。

操作方法について、以下に示します。

キーボード操作	説明・備考
↑	コマンド履歴をさかのぼる
Ctrl + P	
↓	コマンド履歴を進める
Ctrl + N	

## 2.6 「show」で始まるコマンド

### 2.6.1 モディファイア

モディファイアは、**show** コマンドが出力する情報をフィルターに通し、必要な情報に内容を絞ることで端末画面に見やすく表示します。

SWX3200 では、**show** コマンドのモディファイアとして、次の3種類を提供します。

モディファイア	説明
include	指定した文字列を含む行だけを出力する
grep	
exclude	指定した文字列を含まない行を出力する

なお、モディファイアは単一でのみ使用可能です。複数指定することはできません。

- (例) **show running-config** で VLAN #1 を含む情報を表示する。

```
SWX3200#show running-config | grep vlan1
interface vlan1
http-server interface vlan1
telnet-server interface vlan1
```

- (例) **show spanning-tree** で Role を含む情報を表示する。

```
SWX3200# show spanning-tree | include Role
% po1: Port Number 505 - Ifindex 4601 - Port Id 0x81f9 - Role Disabled - State Discarding
% port1.1: Port Number 905 - Ifindex 5001 - Port Id 0x8389 - Role Disabled - State Forwarding
```

```
% port1.2: Port Number 906 - Ifindex 5002 - Port Id 0x838a - Role Disabled -  
State Forwarding  
% port1.3: Port Number 907 - Ifindex 5003 - Port Id 0x838b - Role Disabled -  
State Forwarding  
% port1.4: Port Number 908 - Ifindex 5004 - Port Id 0x838c - Role Disabled -  
State Forwarding  
% port1.6: Port Number 910 - Ifindex 5006 - Port Id 0x838e - Role Disabled -  
State Forwarding  
% port1.7: Port Number 911 - Ifindex 5007 - Port Id 0x838f - Role Disabled -  
State Forwarding  
% port1.8: Port Number 912 - Ifindex 5008 - Port Id 0x8390 - Role Disabled -  
State Forwarding  
% port1.9: Port Number 913 - Ifindex 5009 - Port Id 0x8391 - Role Disabled -  
State Forwarding  
% port1.10: Port Number 914 - Ifindex 5010 - Port Id 0x8392 - Role Disabled -  
State Forwarding
```

## 第3章

### コンフィグレーション

#### 3.1 設定値の管理

SWX3200 は、以下のコンフィグを使用して設定値を管理します。

コンフィグの種類	説明	可能なユーザー操作
ランニングコンフィグ (running-config)	現在動作中の設定値。RAM 上で管理する。	参照 / スタートアップコンフィグへの保存
スタートアップコンフィグ (startup-config)	保存した設定値。Flash ROM 上の 5 つのコンフィグと SD カード上の 1 つのコンフィグを管理する。Flash ROM 上の使用するデータは <b>startup-config select</b> コマンドで決定する。SD カード上の 1 つのコンフィグは"/swx3200/startup-config"フォルダで管理する。	参照 / 消去 / コピー
デフォルトコンフィグ (default-config)	デフォルトの設定値。Flash ROM 上で管理する。	操作不可

SWX3200 のシステム起動時、以下の流れとなります。

1. **startup-config select** コマンド設定値を参照し、使用するスタートアップコンフィグを決定する。  
**startup-config select** コマンドで **sd** が設定されていて、スタートアップコンフィグが保存されている SD カードが挿入されていない場合、スタートアップコンフィグ #0 が選択される。
2. 決定したスタートアップコンフィグが存在する場合、該当データを RAM 上にランニングコンフィグとして展開する。  
**startup-config select** コマンド設定値にしたがって決定したスタートアップコンフィグが Flash ROM 上に存在しない場合、デフォルトコンフィグを RAM 上に展開する。

SWX3200 運用中にコマンドなどで設定を変更すると、変更した内容はすぐにランニングコンフィグに反映されます。ランニングコンフィグを変更した後、**write** または **copy** コマンドを実行することで、スタートアップコンフィグが更新されます。設定・変更した内容を保存しないで再起動すると、設定・変更内容が失われます。ご注意ください。

#### 3.2 デフォルト設定値

SWX3200 のデフォルト設定値について、以下の表に示します。

工場出荷状態の設定は、本書に記載された各コマンドの初期値が適用されるわけではなく、以下のデフォルト設定値になっています。

- システム全体のデフォルト設定

設定分類	設定項目	デフォルト設定値
CONFIG	起動時に使用する CONFIG	SD カード内のスタートアップコンフィグ
端末設定	コンソールタイムアウト	600 sec
	VTY 数	8
	表示行数	24
ユーザーアカウント	初期管理ユーザー	ユーザー名:admin、パスワード:admin
	管理パスワード	admin
	パスワードの暗号化	暗号化しない

設定分類	設定項目	デフォルト設定値
時刻管理	タイムゾーン	JST (UTC + 9.0H)
	NTP サーバー	なし
	NTP 更新周期	1 時間に 1 回
RMON	動作	有効
ファームウェア更新	ダウンロード URL	firmware-update url http:// www.rtpro.yamaha.co.jp/firmware/ revision-up/swx3200.bin
	リビジョンダウンの許可	許可しない
	タイムアウト	300 sec
LLDP	動作	有効
	自動設定	有効
L2MS	動作	有効
	役割	エージェント
SYSLOG	debug レベルログ出力	OFF
	information レベルログ出力	ON
	error レベルログ出力	ON
	SYSLOG サーバー	なし
アクセス制御	TELNET サーバー状態	起動する
	TELNET サーバーアクセス	VLAN #1 のみ許可
	SSH サーバー状態	起動しない
	TFTP サーバー状態	起動しない
	HTTP サーバー状態	起動する
	HTTP サーバーアクセス	VLAN #1 のみ許可
	セキュア HTTP サーバー状態	起動しない
保守 VLAN	VLAN インターフェース	VLAN #1
L2 スイッチング	MAC アドレス自動学習	有効
	MAC アドレス自動学習 エージング 時間	300 sec
	スパニングツリー	有効
	独自ループ検出	無効
DNS クライアント	動作	有効
トラフィック制御	QoS	無効
	フロー制御 (IEEE 802.3x)	無効
スタック	動作	無効
	スタック ID	1
	スタックポートで使う IP アドレス 範囲	Auto IP

- LAN/SFP ポート単位のデフォルト設定

設定分類	設定項目	デフォルト設定値
基本設定	速度/通信モード設定	auto
	クロス/ストレート自動判別	有効
	MRU	1,522 Byte
	ポートの説明	なし
	EEE	無効
	Port Mode	Access
	所属 VLAN ID	1 (default VLAN)
L2MS	L2MS フィルター	無効
L2 スイッチング	スパニングツリー	有効
	独自ループ検出	有効
トラフィック制御	QoS トラストモード	CoS
	フロー制御 (IEEE 802.3x)	無効
	ストーム制御	無効
LLDP エージェント	送受信モード	送信および受信

- デフォルト VLAN (VLAN #1) に対する設定

- IPv4 Address : 192.168.100.240/24
- IGMP Snooping: Enable
  - Querier : Disable
  - Fast-Leave : Disable
  - Check TTL : Enable



## 第 4 章

### 保守・運用機能

#### 4.1 パスワード

##### 4.1.1 管理パスワードの設定

###### [書式]

**enable password** *password*

###### [パラメーター]

*password* : 管理パスワード  
半角英数字および"と'と|と>と?と空白文字を除く半角記号(32 文字以内)  
最初の文字は半角英数字でなければいけない

###### [初期設定]

enable password admin

###### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

###### [説明]

特権 EXEC モードへ移行するための管理パスワードを設定する。  
デフォルトパスワードである admin に変更することはできない。

###### [ノート]

**password-encryption** コマンドにしたがって暗号化されたパスワードの場合、コンフィグ上では"**enable password 8 password**"の形式で表示される。

ユーザーはコマンドラインからコンフィグ設定するとき、この形式で入力することはできない。  
起動時に、管理パスワードが設定されていない場合は、初期管理パスワード(admin)を自動的に設定する。

###### [設定例]

管理パスワードとして admin1234 を設定する。

```
SWX3200(config)#enable password admin1234
```

##### 4.1.2 パスワードの暗号化

###### [書式]

**password-encryption** *switch*

**no password-encryption**

###### [パラメーター]

*switch* : パスワードを暗号化するか否か

設定値	説明
enable	暗号化する
disable	暗号化しない

###### [初期設定]

password-encryption disable

###### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

パスワードの暗号化を有効にする。

有効にすると、**password** コマンド、**enable password** コマンド、**username** コマンドで入力したパスワードを、コンフィグ中では暗号化された形式で保存する。

no 形式で実行した場合は、パスワードの暗号化を無効化し、**password** コマンド、**enable password** コマンド、**username** で入力したパスワードを、コンフィグ中では平文のまま保存する。

**[ノート]**

パスワードの暗号化を無効から有効に変更した場合は、既に設定済みのパスワードは平文から暗号化された形式に変更されるが、有効から無効に変更した場合は、既に暗号化されているコンフィグ中のパスワードは平文には戻らない。

**[設定例]**

パスワードの暗号化を有効にする。

```
SWX3200(config)#password-encryption enable
```

パスワードの暗号化を無効にする。

```
SWX3200(config)#no password-encryption
```

## 4.2 ユーザーアカウント管理

---

### 4.2.1 ユーザーの設定

---

**[書式]**

**username** *username* [*privilege privilege*] **password** *password*

**no username** *username*

**[キーワード]**

**privilege** : ユーザーの権限を指定する

**password** : ユーザーのパスワードを指定する

**[パラメーター]**

**username** : ユーザー名  
半角英数字(32 文字以内)

**privilege** : 特権を付与するか否か

設定値	説明
on	特権 EXEC モード移行時にパスワードの入力が求められない Administrator 権限で Web GUI にアクセスできる
off	特権 EXEC モード移行時にパスワードの入力が求められる Guest 権限で Web GUI にアクセスできる

**password** : ユーザーのログインパスワード  
半角英数字および"と'と|と>と?と空白文字を除く半角記号(32 文字以内)  
最初の文字は半角英数字でなければいけない

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

ユーザー情報を設定する。

ユーザー情報は最大で 33 件まで登録できる。ただし、`privilege off` のユーザーは最大 32 件まで、`privilege on` のユーザーは必ず 1 件必要となる。

以下の単語はユーザー名として登録できない。

lp, adm, bin, ftp, gdm, man, rpc, sys, xfs, halt, mail, news, nscd, sync, uucp, root, sshd, games, daemon, gopher, nobody, ftpuser, mtsuser, rpcuser, mailnull, operator, shutdown

デフォルトパスワードである `admin` はパスワードとして使用できない。

**[ノート]**

**password-encryption** コマンドが設定されていた場合、パスワードは暗号化されコンフィグ上では"`username username 8 password password`"の形式で表示される。

ユーザーはコマンドラインからコンフィグ設定するとき、この形式で入力することはできない。

起動時に、`privilege on` のユーザーが 1 つも設定されていない場合は、初期管理ユーザー(admin/admin)を追加する。

起動時に、パスワードが設定されていないユーザーは、ユーザー名と同じ文字列をパスワードに自動設定する。

**[設定例]**

ユーザー **user1234** を設定する。

```
SWX3200(config)#username user1234 password user_pass
```

特権を付与したユーザー **user1234** を設定する。

```
SWX3200(config)#username user1234 privilege on password user_pass
```

## 4.2.2 ユーザー権限の変更

**[書式]**

`username username privilege privilege`

**[キーワード]**

`privilege` : ユーザーの権限を指定する

**[パラメーター]**

`username` : ユーザー名  
半角英数字(32 文字以内)

`privilege` : 特権を付与するか否か

設定値	説明
on	特権 EXEC モード移行時にパスワードの入力が求められない Administrator 権限で Web GUI にアクセスできる
off	特権 EXEC モード移行時にパスワードの入力が求められる Guest 権限で Web GUI にアクセスできる

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

登録済みのユーザーの権限を変更する。

**[ノート]**

未登録のユーザーには設定できない。

**[設定例]**

登録済みのユーザー **user1234** に特権を付与する。

```
SWX3200(config)#username user1234 privilege on
```

**4.2.3 ログインユーザー情報の表示****[入力モード]**

非特権 EXEC モード, 特権 EXEC モード, グローバルコンフィギュレーションモード

**[説明]**

ログイン中のユーザー情報を表示する。

以下の項目が表示される。

項目	説明
Line	ログイン手段を表示する。 <b>con 0</b> はシリアルコンソールポート <b>vty N</b> は VTY ポート <b>stk N</b> はリモートログインポート <b>http N</b> は Web GUI
Own	自身の接続ポートの行に * を表示する。
User	ログイン中のユーザー名を表示する。
Status	ログイン状態を表示する。ユーザーが使用中の場合、 <b>Login</b> を表示する。
Login time	ログイン時間を表示する。
IP address	接続ユーザーの IP アドレスを表示する。

**[設定例]**

スタック機能が無効な状態でユーザーのログイン情報を表示する。

```
SWX3200>show users
```

Line	Own	User	Status	Login time	IP address
con 0		user1234	Login	02:15:23	
vty 0	*	operators1	Login	00:12:59	192.168.100.1
vty 1		abcdefghijklmnopqrstu	Login	00:00:50	192.168.100.24
vty 2		-	Login	00:00:21	192.168.100.10
vty 3		-	-	-	
vty 4		-	-	-	
vty 5		-	-	-	
vty 6		-	-	-	
vty 7		-	-	-	
http 0		user1234	Login	01:12:25	192.168.100.4
http 1		(noname)	Login	00:18:04	192.168.100.102
http 2		-	-	-	
http 3		-	-	-	

スタック機能が有効な状態でユーザーのログイン情報を表示する。

```
SWX3200>show users
```

Line	Own	User	Status	Login time	IP address
con 0		user1234	Login	02:15:23	
vty 0	*	operators1	Login	00:12:59	192.168.100.1
vty 1		abcdefghijklmnopqrstu	Login	00:00:50	192.168.100.24
vty 2		-	Login	00:00:21	192.168.100.10
vty 3		-	-	-	
vty 4		-	-	-	

```

vtty 5      -      -      -
vtty 6      -      -      -
vtty 7      -      -      -
stk 0       -      Login  00:33:11
stk 1       -      -      -
stk 2       -      -      -
stk 3       -      -      -
http 0      user1234  Login  01:12:25   192.168.100.4
http 1      (noname) Login  00:18:04   192.168.100.102
http 2      -      -      -
http 3      -      -      -

```

## 4.2.4 バナーの設定

### [書式]

**banner motd** *word*

**no banner motd**

### [パラメーター]

*word* : 半角英数字および半角記号(256 文字以内)

### [初期設定]

no banner motd

### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

### [説明]

コンソールログイン時に表示されるバナーを設定する。

### [設定例]

バナー表示を「Hello World!」に設定する。

```

Username:
Password:

SWX3200 Rev.4.00.05 (Fri Mar  9 09:34:05 2018)
  Copyright (c) 2018 Yamaha Corporation. All Rights Reserved.

SWX3200>enable
SWX3200#configure terminal
Enter configuration commands, one per line.  End with CNTL/Z.
SWX3200(config)#banner motd Hello World!
SWX3200(config)#exit
SWX3200#exit

Username:
Password:

Hello World!

SWX3200>enable
SWX3200#configure terminal
Enter configuration commands, one per line.  End with CNTL/Z.
SWX3200(config)#no banner motd
SWX3200(config)#exit
SWX3200#exit

Username:
Password:

SWX3200 Rev.4.00.05 (Fri Mar  9 09:34:05 2018)
  Copyright (c) 2018 Yamaha Corporation. All Rights Reserved.

SWX3200>

```

## 4.3 コンフィグの管理

### 4.3.1 ランニングコンフィグの保存

#### [書式]

```
copy running-config startup-config [config_num]
```

#### [パラメーター]

*config\_num* : コンフィグ番号

設定値	説明
<0-4>	スタートアップコンフィグ #0-#4
sd	SD カード内スタートアップコンフィグ

#### [入力モード]

特権 EXEC モード

#### [説明]

現在運用中の設定(ランニングコンフィグ)を起動時の設定(スタートアップコンフィグ)として保存する。

*config\_num* を省略した場合は、現在の起動時に使用したスタートアップコンフィグに保存する。

#### [ノート]

ランニングコンフィグの保存は **write** コマンドや **save** コマンドでも行うことができる。

SD カードがマウントされていない状態では、SD カード内の Config を対象にして本コマンドを実行するとエラーとなる。

スタック有効時は、メインスイッチ側(Active 状態)のみ実行可能。

#### [設定例]

ランニングコンフィグを保存する。

```
SWX3200#copy running-config startup-config
Succeeded to write configuration
SWX3200#
```

### 4.3.2 ランニングコンフィグの保存

#### [書式]

```
write [config_num]
```

```
save [config_num]
```

#### [パラメーター]

*config\_num* : コンフィグ番号

設定値	説明
<0-4>	スタートアップコンフィグ #0-#4
sd	SD カード内スタートアップコンフィグ

#### [入力モード]

特権 EXEC モード、個別コンフィグレーションモード

#### [説明]

現在運用中の設定(ランニングコンフィグ)を起動時の設定(スタートアップコンフィグ)として保存する。

*config\_num* を省略した場合は、現在の起動時に使用したスタートアップコンフィグに保存する。

#### [ノート]

ランニングコンフィグの保存は **copy running-config startup-config** コマンドでも行うことができる。

SD カードがマウントされていない状態では、SD カード内の Config を対象にして本コマンドを実行するとエラーとなる。

スタック有効時は、メインスイッチ側(Active 状態)のみ実行可能。

#### [設定例]

ランニングコンフィグを保存する。

```
SWX3200#write
Succeeded to write configuration.
SWX3200#
```

### 4.3.3 ランニングコンフィグの表示

#### [書式]

**show running-config** [*section*]

**show config**

#### [パラメーター]

*section* : 表示するセクション

設定値	説明
access-list	アクセスリスト関連
dhcp	DHCP サーバー関連
dhcp-relay	DHCP リレー関連
http-server	HTTP サーバー関連
interface	インターフェース関連
ip	IP 関連
ipv6	IPv6 関連
key	認証キー関連
l2ms	L2MS 関連
lldp	LLDP 関連
mail	メール通知関連
multicast	マルチキャスト関連
pim	PIM 関連
radius-server	RADIUS サーバー関連
router	ルーター設定関連
router-id	ルーター ID 関連
schedule	スケジュール関連
snmp	SNMP 関連
spanning-tree	STP 関連
ssh-server	SSH サーバー関連
telnet-sever	TELNET サーバー関連

#### [入力モード]

特権 EXEC モード、個別コンフィグレーションモード

#### [説明]

現在運用中の設定(ランニングコンフィグ)を表示する。

*section* 指定省略時はすべての設定を表示する。

#### [設定例]

ランニングコンフィグを表示する。

```

SWX3200#show running-config
!
interface port1.1
  switchport
...
!
line con 0
line vty 0 7
!
end
SWX3200#

```

#### 4.3.4 スタートアップコンフィグの表示

##### [書式]

**show startup-config** [*config\_num*]

**show config** [*config\_num*]

##### [パラメーター]

*config\_num* : コンフィグ番号

設定値	説明
<0-4>	スタートアップコンフィグ #0-#4
sd	SD カード内スタートアップコンフィグ

##### [入力モード]

特権 EXEC モード

##### [説明]

起動時に使用する設定(スタートアップコンフィグ)を表示する。

*config\_num* を省略した場合は、以下を表示する。

- ・ **show startup-config** : 現在運用しているコンフィグ番号のスタートアップコンフィグを表示する
- ・ **show config** : 現在運用中のランニングコンフィグを表示する

##### [ノート]

SD カードがマウントされていない状態では、SD カード内の Config を対象にして本コマンドを実行するとエラーとなる。

##### [設定例]

次回起動時のスタートアップコンフィグを表示する。

```

SWX3200#show startup-config
!
!   Last Modified: 00:00:00 JST Mon Jan 01 2018
!
interface port1.1
  switchport
  switchport mode access
  no shutdown
!
...
!
interface vlan1
  no switchport
  ip address 192.168.100.240/24
  no shutdown
!
clock timezone JST
!
http-server enable
http-proxy enable
!

```



```
telnet-server enable
!
line con 0
line vty 0 7
!
end

SWX3200#
```

### 4.3.5 スタートアップコンフィグの消去

#### [書式]

**erase startup-config** [*config\_num*]

#### [パラメーター]

*config\_num* : コンフィグ番号

設定値	説明
<0-4>	スタートアップコンフィグ #0-#4
sd	SD カード内スタートアップコンフィグ

#### [入力モード]

特権 EXEC モード

#### [説明]

起動時に使用する設定(スタートアップコンフィグ)とそれに付随する情報を消去する。

*config\_num* を省略した場合は、現在の起動時に使用したスタートアップコンフィグを消去する。

#### [ノート]

SD カードがマウントされていない状態では、SD カード内の Config を対象にして本コマンドを実行するとエラーとなる。

#### [設定例]

スタートアップコンフィグを消去する。

```
SWX3200#erase startup-config
Succeeded to erase configuration.
SWX3200#
```

### 4.3.6 スタートアップコンフィグのコピー

#### [書式]

**copy startup-config** *src\_config\_num* *dst\_config\_num*

#### [パラメーター]

*src\_config\_num* : コピー元のコンフィグ番号

設定値	説明
<0-4>	スタートアップコンフィグ #0-#4
sd	SD カード内スタートアップコンフィグ

*dst\_config\_num* : コピー先のコンフィグ番号

設定値	説明
<0-4>	スタートアップコンフィグ #0-#4
sd	SD カード内スタートアップコンフィグ

#### [入力モード]

特権 EXEC モード

**[説明]**

起動時の設定(スタートアップコンフィグ)とそれに付随する情報をコピーする。

**[ノート]**

SD カードがマウントされていない状態では、SD カード内の Config を対象にして本コマンドを実行するとエラーとなる。

**[設定例]**

スタートアップコンフィグ #0 をスタートアップコンフィグ #1 へコピーする。

```
SWX3200#copy startup-config 0 1
Succeeded to copy configuration
SWX3200#
```

### 4.3.7 スタートアップコンフィグの選択

---

**[書式]**

**startup-config select *config\_num***

**no startup-config select**

**[パラメーター]**

*config\_num* : コンフィグ番号

設定値	説明
<0-4>	スタートアップコンフィグ #0-#4
sd	SD カード内スタートアップコンフィグ

**[初期設定]**

startup-config select sd

**[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

起動時に使用する設定(スタートアップコンフィグ)を選択して再起動する。

no 形式で実行した場合は、初期設定に戻る。

**[ノート]**

起動時、*config\_num* として sd が設定されていて、スタートアップコンフィグが保存されている SD カードが挿入されていなかった場合、スタートアップコンフィグ #0 が選択される。

スタック機能が有効時に config 切り替えをした場合は、スタックが正しく構成できなくなるため十分な配慮をして実施する必要がある。

**[設定例]**

スタートアップコンフィグ #1 を選択して再起動する。

```
SWX3200#startup-config select 1
reboot system? (y/n): y
```

### 4.3.8 スタートアップコンフィグの説明文の設定

---

**[書式]**

**startup-config description *config\_num* *line***

**no startup-config description *config\_num***

**[パラメーター]**

*config\_num* : <0-4>

コンフィグ番号

*line* : 半角英数字および半角記号(63 文字以内)

## 対象スタートアップコンフィグに対する説明文

## [入力モード]

特権 EXEC モード

## [説明]

対象スタートアップコンフィグに対して説明文を設定する。

no 形式で実行した場合は、説明文を削除する。

説明文は **show startup-config** コマンドの実行結果の先頭に表示される。

## [設定例]

スタートアップコンフィグ #1 に説明文を設定する。

```
SWX3200#startup-config description 1 TEST_CONFIG_1
```

## 4.4 起動情報の管理

---

### 4.4.1 起動情報の表示

---

## [書式]

**show boot num****show boot all****show boot list**

## [キーワード]

all : 起動情報の履歴を最大で 5 件まで表示する

list : 起動情報の履歴を最大で 5 件まで簡易表示する

## [パラメーター]

num : &lt;0-4&gt;

指定した番号の履歴を表示する

## [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

## [説明]

起動情報を表示する。

## [ノート]

**cold start** コマンド、**clear boot list** コマンドを実行すると、この履歴はクリアされる。

## [設定例]

現在の起動情報を表示する。

```
SWX3200>show boot 0
Running EXEC: SWX3200 Rev.4.00.05 (Fri Mar 9 09:34:05 2018)
Previous EXEC: SWX3200 Rev.4.00.05 (Fri Mar 9 09:34:05 2018)
Restart by reload command
```

起動履歴の一覧を表示する。

```
SWX3200>show boot list
No.  Date      Time      Info
-----
0   2018/03/15  09:50:29  Restart by reload command
1   2018/03/14  20:24:40  Power-on boot
-----
```

### 4.4.2 起動情報のクリア

---

## [書式]

**clear boot list**

## [入力モード]

特権 EXEC モード

**[説明]**

起動情報の履歴を削除する。

**[設定例]**

起動情報をクリアする。

```
SWX3200#clear boot list
```

#### 4.4.3 SD カードブートの設定

---

**[書式]**

```
boot prioritize sd switch
```

```
no boot prioritize sd
```

**[パラメーター]**

*switch* : SD カードブートを有効にするか否か

設定値	説明
enable	SD カードブートを有効にする
disable	SD カードブートを無効にする

**[初期設定]**

```
boot prioritize sd enable
```

**[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

ファームウェアの SD カードブート機能の有効・無効を切り替える。

コマンド実行後、システムの再起動が行われる。

システムで共通の設定であるため、起動面(startup-config #0 ~ strtup-config #4)毎に設定はできない。

初期設定は SD カードブートが有効である。

no コマンド実行時は初期設定に戻る。

**[ノート]**

SD カードブート機能の有効・無効は、**show boot prioritize sd** コマンドで確認可能。

**[設定例]**

ファームウェアの SD カードブート機能を有効にする。

```
SWX3200#boot prioritize sd enable
reboot system? (y/n): y
```

#### 4.4.4 SD カードブート自動適用機能の設定

---

**[書式]**

```
boot auto-apply switch
```

**[パラメーター]**

*switch* : SD カードブート自動適用機能を有効にするか否か

設定値	説明
enable	SD カードブート自動適用機能を有効にする
disable	SD カードブート自動適用機能を無効にする

**[初期設定]**

```
boot auto-apply enable
```

**[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

SD カードブート自動適用機能を有効または無効にする。  
本機能の状態は、**show environment** コマンドで確認できる。

**[設定例]**

SD カードブート自動適用機能を無効にする。  
SWX3200#boot auto-apply disable

#### 4.4.5 SD カードブート設定情報の表示

**[書式]**

**show boot prioritize sd**

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

SD カードブート機能設定情報を表示する。

**[設定例]**

SD カードブート機能設定情報を表示する。  
SWX3200#show boot prioritize sd  
SD boot configuration:  
firmware : enable

### 4.5 筐体情報表示

#### 4.5.1 製品情報の表示

**[書式]**

**show inventory**

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

本体および SFP モジュールの製品情報を表示する。  
以下の項目が表示される。

項目	説明
NAME	名称
DESCR	概要
Vendor	ベンダー名
PID	プロダクト ID
VID	バージョン ID、無効の場合は 0
SN	シリアル番号

**[設定例]**

製品情報を表示する。

```
SWX3200>show inventory
NAME: L3 switch
DESCR: SWX3200-28GT
Vendor: Yamaha
PID: SWX3200-28GT
VID: 0000
SN: S00000000
SWX3200>
```

## 4.5.2 稼動情報の表示

---

### [書式]

**show environment**

### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

### [説明]

システムの稼動情報を表示する。

以下の項目が表示される。

- ブートバージョン
- ファームウェアリビジョン
- シリアル番号
- MAC アドレス
- CPU 使用率
- メモリ使用率
- ファンの稼動状態
- ファンの回転数
- ファームウェアファイル
- スタートアップコンフィグファイル
- SD カードブート自動適用機能の設定
- シリアルボーレート
- CPLD バージョン
- 起動時刻
- 現在時刻
- 起動からの経過時間
- 本体温度の状態
- 本体温度
- 電圧値
- 電流値

### [設定例]

稼動情報を表示する。

```
SWX3200>show environment
SWX3200-28GT BootROM Ver.1.00
SWX3200 Rev.4.00.05 (Fri Mar  9 09:34:05 2018)
main=SWX3200-28GT ver=00 serial=S00000000 MAC-Address=00a0.de00.0000
CPU:   2%(5sec)   2%(1min)   1%(5min)   Memory:  10% used
Fan status: Normal
Fan speed: FAN1=4000RPM FAN2=3870RPM
Startup firmware: exec0
Startup Configuration file: config0
                selected file: config0
Boot auto-apply: Enable
Serial Baudrate: 9600
CPLD version: 01
Boot time: 2018/01/01 11:06:36 +09:00
Current time: 2018/01/02 16:12:23 +09:00
Elapsed time from boot: 1days 05:05:49
Temperature status: Normal
Temperature: 37 degree C
Voltage: 11.99V   Current: 0.741A

SWX3200>
```

## 4.5.3 ディスク使用状況

---

### [書式]

**show disk-usage**

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

システムで使用しているディスクの使用状況を表示する。

- System : システム使用エリア(設定情報含む)
- Temporary : 一時エリア

**[設定例]**

ディスクの使用状況を表示する。

```
SWX3200#show disk-usage
  Category      Total      Used      Free      Used (%)
  -----
  System         160.6M    1.1M    154.8M     1%
  Temporary       80.0M    2.4M    77.6M     3%
```

## 4.5.4 実行中のプロセスの表示

**[書式]**

**show process**

**[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

実行中のプロセスを一括表示する。

**[設定例]**

実行中のプロセスを表示する。

```
SWX3200#show process
```

## 4.5.5 メモリ使用状況の表示

**[書式]**

**show memory**

**[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

プロセス毎のメモリ使用量を表示する。

以下の項目を表示する。

項目	説明
PID	プロセス ID
NAME	プロセス名
%MEM	物理メモリの占有率
SIZE	物理メモリの使用量(現在値)
PEAK	物理メモリの使用量(これまでの最大値)
DATA	動的仮想メモリー領域サイズ
STK	スタックサイズ

**[設定例]**

プロセス毎のメモリ使用量を表示する。

```
SWX3200#show memory
```

## 4.5.6 技術サポート情報の表示

## [書式]

**show tech-support**

## [入力モード]

特権 EXEC モード

## [説明]

技術サポート情報を表示する。技術サポート情報には、以下のコマンドの実行結果が含まれる。

スタック機能が有効な場合、スタックを構成しているすべての機器の技術サポート情報を表示する。

ただし、メインスイッチとメンバースイッチで実行されるコマンドは異なる。詳細は以下のコマンド一覧を参照すること。

コマンド	スタック無効	スタック有効	
		メインスイッチ	メンバースイッチ
show running-config	○	○	○
show startup-config	○	○	○
show stack	○	○	○
show environment	○	○	○
show system-diagnostics	○	○	○
show clock detail	○	○	-
show disk-usage	○	○	○
show inventory	○	○	○
show boot all	○	○	○
show boot prioritize sd	○	○	○
show logging	○	○	○
show process	○	○	○
show users	○	○	○
show interface	○	○	-
show frame-counter	○	○	-
show vlan brief	○	○	-
show spanning-tree mst detail	○	○	-
show etherchannel status detail	○	○	-
show loop-detect	○	○	-
show mac-address-table	○	○	-
show l2ms detail	○	○	-
show qos queue-counters	○	○	-
show ddm status	○	○	○
show errdisable	○	○	-
show auth status	○	○	-
show auth supplicant	○	○	-
show error port-led	○	○	-
show ip interface brief	○	○	-
show ip forwarding	○	○	-
show ipv6 interface brief	○	○	-



コマンド	スタック無効	スタック有効	
		メインスイッチ	メンバースイッチ
show ipv6 forwarding	○	○	-
show ip route	○	○	-
show ip route database	○	○	-
show ip route pbr	○	○	-
show ipv6 route	○	○	-
show ipv6 route database	○	○	-
show ipv6 route pbr	○	○	-
show arp	○	○	-
show ipv6 neighbors	○	○	-
show ip rip	○	○	-
show ip rip interface	○	○	-
show ipv6 rip	○	○	-
show ipv6 rip interface	○	○	-
show ip ospf	○	○	-
show ip ospf database	○	○	-
show ip ospf interface	○	○	-
show ip ospf neighbor	○	○	-
show ip ospf route	○	○	-
show ipv6 ospf	○	○	-
show ipv6 ospf database	○	○	-
show ipv6 ospf interface	○	○	-
show ipv6 ospf neighbor	○	○	-
show ipv6 ospf route	○	○	-
show ip mroute	○	○	-
show ip mroute summary	○	○	-
show ip mroute count	○	○	-
show ip igmp groups	○	○	-
show ip igmp interface	○	○	-
show ip igmp ssm-map	○	○	-
show ip pim bsr-router	○	○	-
show ip pim interface detail	○	○	-
show ip pim mroute detail	○	○	-
show ip pim neighbor detail	○	○	-
show ip pim nexthop	○	○	-
show ip pim rp mapping	○	○	-
show ip igmp snooping groups	○	○	-
show ip igmp snooping interface	○	○	-
show ipv6 mld snooping groups	○	○	-
show ipv6 mld snooping interface	○	○	-

コマンド	スタック無効	スタック有効	
		メインスイッチ	メンバースイッチ
show vrrp	○	○	-
show dhcp server	○	○	-
show dhcp binding	○	○	-
show dhcp relay	○	○	-
show dns-forwarding	○	○	-
show dns-forwarding cache	○	○	-
show radius-server local certificate status	○	○	-
show radius-server local nas	○	○	-
show radius-server local user	○	○	-
show radius-server local certificate list	○	○	-
show radius-server local certificate revoke	○	○	-

**[設定例]**

技術サポート情報を表示する。

```

SWX3200#show tech-support
#
# Information for Yamaha Technical Support
#
*** show running-config ***
!
! - Running Configuration -
! Current Time:  Fri Jan 1 00:00:00 JST 2021
!
dns-client enable
!
vlan database
  vlan 2 name VLAN0002
  vlan 3 name VLAN0003
!
interface port1.1
  switchport
  switchport mode access
...
*** show startup-config ***
...
*** show stack ***
...
*** show environment ***
...
*** show disk-usage ***
...
...
#
# End of Information for Yamaha Technical Support
#
SWX3200#

```

**4.5.7 技術サポート情報の保存****[書式]**

**copy tech-support sd**

**[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

技術サポート情報を SD カードに保存する。

SD カード内には以下のファイル名で保存される。

```
/swx3200/tech-support/YYYYMMDDHHMMSS_techsupport.txt
YYYYMMDDHHMMSS ... コマンド実行時の年月日時分秒
```

**[ノート]**

事前に SD カードを挿入しておく必要がある。

**[設定例]**

技術サポート情報を SD カードに保存する。

```
SWX3200#copy tech-support sd
SWX3200#
```

## 4.6 システム自己診断

---

### 4.6.1 システム自己診断結果の表示

---

**[書式]**

**show system-diagnostics**

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

すべてのシステム自己診断結果（ブートアップ診断結果、オンデマンド診断結果、ヘルスマモニタリング診断結果）を表示する。

**[設定例]**

システム自己診断結果を表示する。

```
SWX3200#show system-diagnostics
Test results: (P = Pass, F = Fail, U = Untested, N = Normal, W = Warning)

- Bootup
  Loading Test: Pass

  RTC Test: Pass

  . . .

- On-demand
Last on-demand diagnostics information:
Date       : 2021/07/07 09:00:00 +09:00
BootROM    : Ver.1.00
Firmware   : Rev.2.06.07
. . .

PHY Test:
  Port     1   2   3   4   5   6   7   8   9  10  11  12
  -----
           P   P   P   P   P   P   P   P   P   P   P   P

  . . .

- Health monitoring
  . . .

SFP Test:
  Port    13  14  15  16
```

```
-----
N   N   N   N
```

## 4.6.2 オンデマンド診断の実行

### [書式]

```
system-diagnostics on-demand execute [no-confirm]
```

### [キーワード]

no-confirm : オンデマンド診断の実行確認 (y or n) を行わず即時実行する

### [入力モード]

特権 EXEC モード

### [説明]

オンデマンド診断を実行する。

診断中はすべての LAN/SFP ポートをシャットダウンする。診断終了時には簡易診断結果を表示し、自動的にシステムを再起動する。

パラメーターを指定しない場合は、オンデマンド診断を実行するかどうかの確認を求められる。

診断を実行する場合は "y" を、実行しない場合は "n" を入力する必要がある。

### [ノート]

オンデマンド診断結果の詳細は再起動後に **show system-diagnostics** コマンドで確認できる。

### [設定例]

オンデマンド診断を実行する。

```
SWX3200#system-diagnostics on-demand execute
The system will be rebooted after diagnostics. Continue ? (y/n) y
on-demand diagnostics completed (pass). reboot immediately...
```

## 4.6.3 オンデマンド診断結果の削除

### [書式]

```
clear system-diagnostics on-demand
```

### [入力モード]

特権 EXEC モード

### [説明]

オンデマンド診断結果を削除する。

### [設定例]

オンデマンド診断結果を削除する。

```
SWX3200#clear system-diagnostics on-demand
```

## 4.7 ケーブル診断

### 4.7.1 ケーブル診断の実行

#### [書式]

```
cable-diagnostics tdr execute interface ifname
test cable-diagnostics tdr interface ifname
```

#### [パラメーター]

*ifname* : LAN ポートのインターフェース名  
対象のインターフェース

#### [入力モード]

特権 EXEC モード

**[説明]**

ケーブル診断を実行する。前回の診断結果は `show cable-diagnostics tdr` コマンドで確認できる。

**[ノート]**

診断結果は直前の結果のみ保持され、再度ケーブル診断を実行した場合は結果が上書きされる。

**[設定例]**

port1.1 に接続されている LAN ケーブルの診断を実行する。

```
SWX3200#cable-diagnostics tdr execute interface port1.1
The port will be temporarily down during test. Continue? (y/n): y
% To check result, enter "show cable-diagnostics tdr"
```

## 4.7.2 ケーブル診断結果のクリア

---

**[書式]**

```
clear cable-diagnostics tdr
clear test cable-diagnostics tdr
```

**[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

前回の `cable-diagnostics tdr execute interface` コマンドの実行結果をクリアする。

**[設定例]**

前回のケーブル診断の実行結果をクリアする。

```
SWX3200#clear cable-diagnostics tdr
SWX3200#
```

## 4.7.3 ケーブル診断結果の表示

---

**[書式]**

```
show cable-diagnostics tdr
show test cable-diagnostics tdr
```

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

前回の `cable-diagnostics tdr execute interface` コマンドの実行結果を表示する。

**[設定例]**

前回のケーブル診断の実行結果を表示する。

```
SWX3200#show cable-diagnostics tdr
Last run on Tue May 31 14:29:35 2022
Port      Pair  Status  Fault distance
-----
port1.8   1     OK      -
           2     OK      -
           3     Open   15      m
           4     Open   15      m
```

## 4.8 時刻管理

---

### 4.8.1 時刻の手動設定

---

**[書式]**

```
clock set time month day year
```

**[パラメーター]**

*time* : hh:mm:ss  
時刻

*month* : <1-12> または Jan, Feb, Mar, ... , Dec  
月 または 月名

*day* : <1-31>  
日

*year* : 年(西暦 4 桁)

**[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

システム時計を設定する。

**[設定例]**

時刻を 2015 年 1 月 1 日 0 時 0 分 0 秒に設定する。

```
SWX3200#clock set 00:00:00 Jan 1 2015
```

**4.8.2 タイムゾーンの設定**

---

**[書式]**

**clock timezone zone**  
**clock timezone offset**  
**no clock timezone**

**[パラメーター]**

*zone* : UTC, JST  
標準時間が施行されているときに表示されるタイムゾーンの名前

*offset* : -12:00, -11:00, ... , -1:00, +1:00, ... , +13:00  
UTC からの時差を入力

**[初期設定]**

clock timezone UTC

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

タイムゾーンを設定する。

no 形式で実行すると、UTC になる。

**[設定例]**

タイムゾーンを JST に設定する。

```
SWX3200(config)#clock timezone JST
```

タイムゾーンを UTC+9 時間に設定する。

```
SWX3200(config)#clock timezone +9:00
```

**4.8.3 サマータイムの設定(繰り返し)**

---

**[書式]**

**clock summer-time name recurring week wday month time week wday month time [offset]**  
**no clock summer-time**

**[パラメーター]**

*name* : サマータイムが施行されているときに表示するタイムゾーンの名前  
半角英数字(7 文字以内)

*week* : <1-4> または first, last

		月の何週目かを指定する
<i>wday</i>	:	Sun, Mon, Tue, ... , Sat 曜日
<i>month</i>	:	<1-12> または Jan, Feb, Mar, ... , Dec 月 または 月名
<i>time</i>	:	hh:mm 時刻
<i>offset</i>	:	<1-1440> サマータイムの間に追加する時間。分で指定する。デフォルト値は 60。

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

サマータイムを設定する。

毎年指定した週と曜日で開始および終了するようにサマータイムを設定する。

最初の部分でサマータイムの開始時期を、2 番目の部分で終了時期を指定する。

no 形式で実行すると、設定が削除される。

**[ノート]**

サマータイムは重複設定できない。

**[設定例]**

サマータイムが毎年 3 月の第二日曜の 2 時に始まり、11 月の第一日曜の 2 時に終わるように設定する。

```
SWX3200(config)#clock summer-time JDT recurring 2 Sun Mar 2:00 1 Sun Nov 2:00
```

**4.8.4 サマータイムの設定(日付指定)****[書式]****clock summer-time name date month day year time month day year time [offset]****no clock summer-time****[パラメーター]**

<i>name</i>	:	サマータイムが施行されているときに表示するタイムゾーンの名前 半角英数字(7 文字以内)
<i>month</i>	:	<1-12> または Jan, Feb, Mar, ... , Dec 月 または 月名
<i>day</i>	:	<1-31> 日
<i>year</i>	:	年(西暦 4 桁)
<i>time</i>	:	hh:mm 時刻
<i>offset</i>	:	<1-1440> サマータイムの間に追加する時間。分で指定する。デフォルト値は 60。

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

サマータイムを設定する。

指定した日付で開始および終了するようにサマータイムを設定する。

最初の部分でサマータイムの開始日付を、2 番目の部分で終了日付を指定する。

no 形式で実行すると、設定が削除される。

**[ノート]**

サマータイムは重複設定できない。

**[設定例]**

サマータイムが 2021 年 3 月 14 日の 2 時に始まり、2021 年 11 月 7 日の 2 時に終わるように設定する。

```
SWX3200(config)#clock summer-time JDT date Mar 14 2021 2:00 Nov 7 2021 2:00
```

## 4.8.5 現在時刻の表示

**[書式]**

**show clock [detail]**

**[キーワード]**

detail : 詳細情報も表示する

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

現在の時刻、年月日を表示する。

detail を指定した場合は、詳細情報(現在の時刻とサマータイム)を表示する。

サマータイムは繰り返し(recurring)の場合、次(または現在施行中)のサマータイム期間の実際の日付を表示する。

**[設定例]**

現在の時刻を表示する。

```
SWX3200>show clock
Thu Jan 1 00:00:00 JST 2015
```

現在の時刻の詳細情報を表示する。(サマータイムの設定がある場合)

```
SWX3200>show clock detail
Thu Jan 1 00:00:00 JST 2021

Summer Time
Type      : Recurring
Offset   : 60 (min)
From     : Sun Mar 14 02:00:00 JST 2021
To       : Sun Nov 7 02:00:00 JDT 2021
```

現在の時刻の詳細情報を表示する。(サマータイムの設定がない場合)

```
SWX3200>show clock detail
SWX3220>show clock detail
Thu Jan 1 00:00:00 JST 2021

Summer Time Disabled
```

## 4.8.6 NTP サーバーの設定

**[書式]**

**ntpdate server ipv4 ipv4\_addr**

**ntpdate server ipv6 ipv6\_addr**

**ntpdate server name fqdn**

**no ntpdate server**



**[キーワード]**

<code>ipv4</code>	: NTP サーバーを IPv4 アドレスで指定する
<code>ipv6</code>	: NTP サーバーを IPv6 アドレスで指定する
<code>name</code>	: NTP サーバーをホスト名で指定する

**[パラメーター]**

<code>ipv4_addr</code>	: NTP サーバーの IPv4 アドレス
<code>ipv6_addr</code>	: NTP サーバーの IPv6 アドレス IPv6 リンクローカルアドレスを指定する場合は、送出インターフェースも指定する必要がある( <code>fe80::X%vlanN</code> の形式)
<code>fqdn</code>	: NTP サーバーのホスト名 文字種として英字(大文字/小文字)、数字、.(ピリオド)、-(ハイフン)が使用可能

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

NTP サーバーのアドレスまたはホスト名を登録する。

本コマンドは最大で2つまで設定できる。

no 形式で実行すると、設定が削除される。

NTP サーバーを2つ設定した状態で時刻同期を行った場合、`show ntpdate` コマンドで表示される NTP server 1, NTP server 2 の順番で問い合わせを行う。

NTP server 2 への問い合わせは、NTP server 1 との同期に失敗した場合のみ行われる。

**[設定例]**

NTP サーバーに 192.168.1.1 を設定する。

```
SWX3200(config)#ntpdate server ipv4 192.168.1.1
```

NTP サーバーに `fe80::2a0:deff:fe11:2233%vlan1` を設定する。

```
SWX3200(config)#ntpdate server ipv6 fe80::2a0:deff:fe11:2233%vlan1
```

NTP サーバーに `ntp.example.com` を設定する。

```
SWX3200(config)#ntpdate server name ntp.example.com
```

**4.8.7 NTP サーバーによる時刻同期(1 ショット更新)****[書式]****`ntpdate oneshot`****[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

登録されている NTP サーバーから時刻情報の取得を試みる。

本コマンド実行時に1度だけ行う。

**[設定例]**

NTP サーバーから時刻情報を取得する。

```
SWX3200#ntpdate oneshot
```

### 4.8.8 NTP サーバーによる時刻同期(周期更新設定)

---

#### [書式]

**ntpdate interval interval-time**

**no ntpdate interval**

#### [パラメーター]

*interval-time* : <0-24>

時刻合わせの周期(時間)。0 時間を指定した場合は、周期更新を行わない

#### [初期設定]

ntpdate interval 1

#### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

#### [説明]

登録されている NTP サーバーから周期的に時刻情報を取得する間隔を 1 時間単位で設定する。

no 形式で実行すると、初期設定に戻る。

本コマンド実行時、即座に時刻の更新を行い、以降、設定した周期で更新を行う。

#### [設定例]

時刻の問い合わせを 2 時間おきに行う。

```
SWX3200(config)#ntpdate interval 2
```

時刻の周期更新を行わないようにする。

```
SWX3200(config)#ntpdate interval 0
```

### 4.8.9 NTP サーバーによる時刻同期設定情報の表示

---

#### [書式]

**show ntpdate**

#### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

#### [説明]

NTP サーバーによる時刻同期に関する設定情報を表示する。

#### [設定例]

時刻同期設定情報を表示する。※更新周期 1 時間の場合

```
SWX3200#show ntpdate
NTP Server 1 : ntp.nict.jp
NTP Server 2 : none
adjust time : Thu Jan 1 09:00:00 2015 + interval 1 hour
sync server : ntp.nict.jp
```

時刻同期設定情報を表示する。※周期更新なしの場合

```
SWX3200#show ntpdate
NTP Server 1 : ntp.nict.jp
NTP Server 2 : none
adjust time : Thu Jan 1 09:00:00 2015
sync server : ntp.nict.jp
```

## 4.9 端末設定

---

### 4.9.1 ラインモード(コンソールターミナル)への移行

---

#### [書式]

**line con port**

**[パラメーター]**

*port* : 0  
シリアルコンソールポート番号

**[初期設定]**

line con 0

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

コンソールターミナルの設定を行うためのラインモードに移行する。

**[ノート]**

ラインモードからグローバルコンフィグレーションモードに戻るには **exit** コマンドを使用し、特権 EXEC モードに戻るには **end** コマンドを使用する。

**[設定例]**

コンソールターミナルを設定するためのラインモードに移行する。

```
SWX3200(config)#line con 0
SWX3200(config-line)#
```

## 4.9.2 VTY ポートの設定およびラインモード(VTY ポート)への移行

**[書式]**

```
line vty port1 [port2]
no line vty port1 [port2]
```

**[パラメーター]**

*port1* : <0-7>  
VTY ポート番号

*port2* : <0-7>  
範囲指定時の最終 VTY ポート番号

**[初期設定]**

no line vty 0 7

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

指定した VTY ポートを有効にしたのち、VTY ポートの設定を行うためのラインモードに移行する。

no 形式で実行した場合は、指定した VTY ポートを無効にする。

*port2* を指定した場合は、範囲指定となり、*port1* から *port2* までのすべての VTY ポートを指定したことになる。*port2* は *port1* 以上の番号にしなければならない。

**[ノート]**

TELNET クライアントの最大同時接続数は、有効な VTY ポートの数に依存する。

ラインモードからグローバルコンフィグレーションモードに戻るには **exit** コマンドを使用し、特権 EXEC モードに戻るには **end** コマンドを使用する。

**[設定例]**

VTY ポート #0 を有効にしたのち、ラインモードに移行する。

```
SWX3200(config)#line vty 0
SWX3200(config-line)#
```

### 4.9.3 端末ログインタイムアウト時間の設定

---

#### [書式]

**exec-timeout** *min* [*sec*]

**no exec-timeout**

#### [パラメーター]

*min* : <0-35791>  
タイムアウト時間(分)

*sec* : <0-2147483>  
タイムアウト時間(秒)

#### [初期設定]

exec-timeout 10

#### [入力モード]

ラインモード

#### [説明]

コンソールターミナルおよび VTY で、キー入力がない場合に自動的にログアウトするまでの時間を設定する。*sec* を省略した場合は、0 が設定される。*min*、*sec* ともに 0 に設定した場合は、自動的にログアウトしない。**no** 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

#### [ノート]

本コマンド設定後、次のログイン時から設定が適用される。

#### [設定例]

コンソールのタイムアウト時間を 5 分に設定する。

```
SWX3200(config)#line con 0
SWX3200(config-line)#exec-timeout 5 0
SWX3200(config-line)#
```

### 4.9.4 使用している端末 1 ページあたりの表示行数の変更

---

#### [書式]

**terminal length** *line*

**terminal no length**

#### [パラメーター]

*line* : <0-512>  
端末 1 ページあたりの表示行数

#### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

#### [説明]

使用している端末 1 ページあたりの表示行数を変更する。

*line* に 0 を指定した場合、ページ単位で表示を一時停止しない。

**terminal no length** コマンドを実行した場合は、表示行数がシリアルコンソールの場合は 24、VTY の場合は接続時のウィンドウサイズとなる。

#### [ノート]

本コマンドは、実行後、即座に変更が反映される。

**service terminal-length** コマンドの設定より、本コマンドの実行結果の方が優先して適用される。

#### [設定例]

使用している端末 1 ページあたりの表示行数を 100 行に変更する。

```
SWX3200>terminal length 100
SWX3200>
```

## 4.9.5 端末 1 ページあたりの表示行数の設定

### [書式]

**service terminal-length** *line*

**no service terminal-length**

### [パラメーター]

*line* : <0-512>

端末 1 ページあたりの表示行数

### [初期設定]

no service terminal-length

### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

### [説明]

端末 1 ページあたりの表示行数を設定する。

*line* を 0 に設定した場合、ページ単位で表示を一時停止しない。

no 形式で実行した場合は、表示行数がシリアルコンソールの場合は 24、VTY の場合は接続時のウィンドウサイズとなる。

### [ノート]

本コマンド設定後、次のログイン時から設定が適用される。

**terminal length** コマンドが実行された場合、**terminal length** コマンドの実行結果の方が優先して適用される。

### [設定例]

端末 1 ページあたりの表示行数を 100 行に設定する。

```
SWX3200 (config) #service terminal-length 100
SWX3200 (config) #
```

## 4.10 保守

### 4.10.1 保守 VLAN の設定

#### [書式]

**management interface** *interface*

**no management interface**

#### [パラメーター]

*interface* : VLAN インターフェース名

#### [初期設定]

management interface vlan1

#### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

#### [説明]

保守で利用する VLAN を設定する。

本コマンドを設定することで、L2MS エージェントで動作するとき、L2MS マネージャーから該当 VLAN に割り当てられた IP アドレスを設定・取得できる。

no 形式で実行した場合、もしくは VLAN を削除した場合、本コマンドも初期設定に戻る。

**[設定例]**

保守 VLAN を VLAN #2 に設定する。

```
SWX3200(config)#management interface vlan2
```

## 4.11 SYSLOG

---

### 4.11.1 ログの通知先(SYSLOG サーバー)の設定

---

**[書式]**

```
logging host host
no logging host host
```

**[パラメーター]**

*host* : A.B.C.D  
SYSLOG サーバーの IPv4 アドレス

: X:X::X:X  
SYSLOG サーバーの IPv6 アドレス

IPv6 リンクローカルアドレスを指定する場合は、送出インターフェースも指定する必要がある(fe80::X%vlanN の形式)

**[初期設定]**

```
no logging host
```

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

ログの通知先である SYSLOG サーバーの IP アドレスを設定する。

最大エンタリー数は 2 である。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻り、通知は行わない。

**[設定例]**

SYSLOG サーバーの IPv4 アドレスを、192.168.100.1 に設定する。

```
SWX3200(config)#logging host 192.168.100.1
```

SYSLOG サーバーの IPv6 アドレスを、fe80::2a0:deff:fe11:2233 に設定する。

```
SWX3200(config)#logging host fe80::2a0:deff:fe11:2233%vlan1
```

### 4.11.2 ログの通知フォーマットの設定

---

**[書式]**

```
logging format type
no logging format
```

**[パラメーター]**

*type* : ログのフォーマット種別

設定値	説明
legacy	ヘッダー部 (タイムスタンプ、ホスト名) を含めない独自フォーマット

**[初期設定]**

```
no logging format
```

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

SYSLOG サーバーへ通知するメッセージのフォーマットを変更する。

no 形式で実行した場合は SYSLOG メッセージにヘッダー部（タイムスタンプ、ホスト名）を含める。

**[設定例]**

SYSLOG メッセージのフォーマットをヘッダーなしに設定する。

```
SWX3200(config)#logging format legacy
```

**4.11.3 ログのファシリティ値の設定****[書式]**

**logging facility** *facility*

**no logging facility**

**[パラメーター]**

*facility* : ログのファシリティ値

設定値	説明
0..23	facility 値
user	1
local0..local7	16..23

**[初期設定]**

logging facility local0

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

SYSLOG サーバーへ通知するメッセージのファシリティ値を変更する。

**[ノート]**

ファシリティ値の意味づけは、各 SYSLOG サーバーで独自に行う。

**[設定例]**

SYSLOG メッセージのファシリティ値を 10 に設定する。

```
SWX3200(config)#logging facility 10
```

**4.11.4 ログの出力レベル(debug)の設定****[書式]**

**logging trap debug**

**no logging trap debug**

**[初期設定]**

no logging trap debug

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

debug レベルのログを SYSLOG に出力する。no 形式で実行した場合は出力しない。

debug レベルを有効にすると大量のログが出力されるため、必要な場合のみ有効にする。

**logging host** コマンドで SYSLOG サーバーに通知する場合、ホスト側には十分なディスク領域を確保しておくことが望ましい。デフォルト設定は出力しない。

**[設定例]**

debug レベルのログを SYSLOG に出力する。

```
SWX3200(config)#logging trap debug
```

#### 4.11.5 ログの出力レベル(informational)の設定

---

##### [書式]

**logging trap informational**  
**no logging trap informational**

##### [初期設定]

logging trap informational

##### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

##### [説明]

informational レベルのログを SYSLOG に出力する。  
no 形式で実行した場合は出力しない。

##### [ノート]

**logging stdout info** コマンドでコンソールに出力させることが可能である。

##### [設定例]

informational レベルのログを SYSLOG に出力する。

```
SWX3200(config)#logging trap informational
```

#### 4.11.6 ログの出力レベル(error)の設定

---

##### [書式]

**logging trap error**  
**no logging trap error**

##### [初期設定]

logging trap error

##### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

##### [説明]

error レベルのログを SYSLOG に出力する。  
no 形式で実行した場合は出力しない。

##### [設定例]

error レベルのログを SYSLOG に出力する。

```
SWX3200(config)#logging trap error
```

#### 4.11.7 ログのコンソール出力設定

---

##### [書式]

**logging stdout info**  
**no logging stdout info**

##### [初期設定]

no logging stdout info

##### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

##### [説明]

informational レベルの SYSLOG をコンソールに出力する。  
no 形式で実行した場合は出力しない。



**[設定例]**

informational レベルの SYSLOG をコンソールに出力する。

```
SWX3200(config)#logging stdout info
```

**4.11.8 イベント単位のログ出力の設定****[書式]**

**logging event** *type*

**no logging** *type*

**[パラメーター]**

*type* : ログ出力を設定するイベント種別

設定値	説明
lan-map	LAN マップ

**[初期設定]**

no logging event lan-map

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

指定したイベント種別のログ出力を有効にする。  
no 形式で実行した場合はログ出力を行なわない。

**[設定例]**

LAN マップのログ出力を有効にする。

```
SWX3200(config)#logging event lan-map
```

**4.11.9 ログのバックアップ****[書式]**

**save logging**

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード, 特権 EXEC モード

**[説明]**

RAM 上に蓄積されたログを全て Flash ROM に保存する。

ログの蓄積は RAM 上で行われ、定期的に自動で Flash ROM にバックアップしているが、本コマンドにより、手動でバックアップすることができる。

**logging backup sd enable** コマンドが設定されており、かつ SD カードが挿入されている場合、Flash ROM に保存すると同時に、SD カード内にも以下のファイル名で保存される。

```
/swx3200/log\YYYYMMDD_syslog.txt
```

YYYYMMDD ... **save logging** コマンド実行時の年月日

**[設定例]**

ログのバックアップを行う。

```
SWX3200#save logging
```

**4.11.10 ログの SD カードバックアップの設定****[書式]**

**logging backup sd enable**

**logging backup sd disable**

**no logging backup sd**

## [キーワード]

enable : ログの SD カードバックアップを有効にする  
 disable : ログの SD カードバックアップを無効にする

## [初期設定]

logging backup sd disable

## [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

## [説明]

ログの SD カードバックアップの有効化・無効化を設定する。

有効化した場合、**save logging** コマンドを実行したときに SD カードにログを保存する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

SD カード内には以下のファイル名で保存される。

```
/swx3200/log/YYYYMMDD_syslog.txt
YYYYMMDD ... save logging コマンド実行時の年月日
```

## [設定例]

ログの SD カードバックアップを有効にする。

```
SWX3200(config)#logging backup sd enable
```

#### 4.11.11 ログの削除

---

## [書式]

**clear logging**

## [入力モード]

特権 EXEC モード

## [説明]

ログを削除する。

## [設定例]

ログを削除する。

```
SWX3200#clear logging
```

#### 4.11.12 ログの参照

---

## [書式]

**show logging [reverse]**

## [キーワード]

reverse : ログを逆順に表示する

## [入力モード]

非特権 EXEC モード, 特権 EXEC モード

## [説明]

本機器の動作状況を記録したログを表示する。通常は発生時刻の古いものからログを順に表示するが、**reverse** が指定された場合は逆順に表示する。

ログの最大保持件数は 10,000 件である。最大数を越えた場合には、発生時刻の古いものから消去されていく。最大数以上のログを保存する場合には、**logging host** コマンドでログを SYSLOG サーバーに転送して、ホスト側で保存する必要がある。

出力するログのレベルは **logging trap** コマンドで設定可能である。

[ノート]

ログの蓄積はRAM上で行われ、定期的に自動でFlash ROMにバックアップしている。電源を切るとバックアップされていないログは保存されないため、ログを保存したい場合は手動でバックアップする必要がある。

**reload** コマンドやファームウェアのバージョンアップなどによる再起動を行った場合は、ログを保持している。

[設定例]

ログを表示する。

```
SWX3200#show logging
```

## 4.12 SNMP

### 4.12.1 SNMP 通知メッセージの送信先ホストの設定

[書式]

```
snmp-server host host_address type version version community
snmp-server host host_address type version version seclevel user
no snmp-server host host_address
no snmp-server host host_address type version version community
no snmp-server host host_address type version version seclevel user
```

[パラメーター]

**host\_address** : 通知メッセージの送信先 IPv4 または IPv6 アドレス  
IPv6 リンクローカルアドレスを指定する場合は、送出インターフェースも指定する必要がある(fe80::X%vlanN の形式)

**type** : 通知メッセージ

設定値	説明
traps	通知メッセージをトラップ形式(応答確認なし)で送信する
informs	通知メッセージを inform リクエスト形式(応答確認あり)で送信する。version が'2c'または'3'のとき指定できる

**version** : SNMP バージョン

設定値	説明
1	SNMPv1 を使用
2c	SNMPv2c を使用
3	SNMPv3 を使用

**community** : コミュニティ名(32 文字以内)  
version が'1'または'2c'のとき指定できる  
両端が、" " または " " で囲まれていたとき、両端の " "、" " は文字数に含まれない

**seclevel** : 通知メッセージの認証において求められるセキュリティーレベル  
version が'3'のときのみ指定できる

設定値	説明
noauth	認証なし・暗号化なし(noAuthNoPriv)
auth	認証あり・暗号化なし(authNoPriv)
priv	認証あり・暗号化あり(authPriv)

**user** : ユーザー名(32 文字以内)

`version` が '3' のときのみ指定できる

両端が、`"` または `"` で囲まれていたとき、両端の `"`、`"` は文字数に含まれない

#### [初期設定]

なし

#### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

#### [説明]

SNMP 通知メッセージの送信先を設定する。

最大エントリー数は 8 である。

`no` 形式で実行した場合は、指定送信先ホストの設定を削除する。

#### [ノート]

IPv6 リンクローカルアドレスで設定している場合、同一アドレスに対し異なる送出インターフェースを指定した設定を追加すると、アドレスと送出インターフェースの組み合わせが変更されたとみなし、古い組み合わせの設定がすべて削除されるので注意すること。例えば、`"fe80::10%vlan1"` を指定した設定が複数ある場合に、新たに `"fe80::10%vlan2"` の設定を追加すると、`"fe80::10%vlan1"` の設定はすべて削除され、追加した `"fe80::10%vlan2"` の設定のみが残ることになる。

#### [設定例]

SNMPv1 を使用し、トラップの送信先を 192.168.100.11 に設定する。トラップのコミュニティ名を `snmptrapname` に指定する。

```
SWX3200(config)#snmp-server host 192.168.100.11 traps version 1 snmptrapname
```

SNMPv2c を使用し、通知メッセージの送信先を 192.168.100.12 に設定する。通知タイプを `informs`、通知先のコミュニティ名を `snmpinformsname` に指定する。

```
SWX3200(config)#snmp-server host 192.168.100.12 informs version 2c snmpinformsname
```

SNMPv3 を使用し、通知メッセージの送信先を 192.168.10.13 に設定する。通知タイプを `traps`、送信する時のセキュリティレベルを `priv` に、ユーザー名を `admin1` に指定する。

```
SWX3200(config)#snmp-server host 192.168.10.13 traps version 3 priv admin1
```

### 4.12.2 システム起動時に通知メッセージを送信するまでの待機時間の設定

#### [書式]

```
snmp-server startup-trap-delay sec
```

```
no snmp-server startup-trap-delay
```

#### [パラメーター]

*sec* : <10-600>

待機時間(秒)

#### [初期設定]

```
snmp-server startup-trap-delay 10
```

#### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

#### [説明]

システム起動時に、SNMP 通知メッセージ（トラップ）を送信するまでの待機時間を設定する。

システム起動後、待機時間が経過するまでに生成された SNMP 通知メッセージは、待機時間経過後に送信される。

`no` 形式で実行した場合は、設定を削除する。

#### [ノート]

待機時間の計測開始、終了は、以下のログが出力されたタイミング。

```
[ SNMP]:dbg: SNMP startup trap delay timer start (delay_sec : XX)
[ SNMP]:dbg: SNMP startup trap delay timer end (delay_sec : XX)
```

**[設定例]**

システム起動時に、SNMP 通知メッセージを送信するまでの待機時間を 30 秒に設定する。

```
SWX3200(config)#snmp-server startup-trap-delay 30
```

### 4.12.3 送信する通知メッセージタイプの設定

**[書式]**

```
snmp-server enable trap trap_type [trap_type]
no snmp-server enable trap
```

**[パラメーター]**

trap\_type : トラップの種類

設定値	説明
coldstart	電源 OFF/ON、ファームウェア更新時
warmstart	reload コマンド実行時
linkdown	リンクダウン時
linkup	リンクアップ時
authentication	認証失敗時
temperature	温度異常検出／解除時
fan	FAN 回転数変化／FAN 停止時
vi	電圧、電流異常時
l2ms	L2MS のエージェント検出／喪失時
errdisable	ErrorDisable 検出／解除時
rmon	RMON イベント実行時
termmonitor	端末監視検知時
bridge	スパニングツリー ルート検出／トポロジー変更時
loopdetect	ループ検出/解消時
vrrp	VRRP イベント実行時
all	すべてのトラップ種類。コンフィグ上では、上記すべてのトラップ種類が設定される。

**[初期設定]**

```
no snmp-server enable trap
```

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

送信するトラップの通知タイプを指定する。  
no 形式で実行した場合は、トラップを無効にする。

**[設定例]**

coldstart トラップを有効にする。

```
SWX3200(config)#snmp-server enable trap coldstart
```

トラップを無効にする。

```
SWX3200(config)#no snmp-server enable trap
```

#### 4.12.4 システムコンタクトの設定

---

##### [書式]

```
snmp-server contact contact
no snmp-server contact
```

##### [パラメーター]

*contact* : システムコンタクトとして登録する名称(255 文字以内)

##### [初期設定]

```
no snmp-server contact
```

##### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

##### [説明]

MIB 変数 `sysContact` を設定する。

`sysContact` は一般的に、管理者の名前や連絡先を記入しておく変数である。

`no` 形式で実行した場合は、設定を削除する。

##### [設定例]

システムコンタクトを `swx_admin@sample.com` に設定する。

```
SWX3200(config)#snmp-server contact swx_admin@sample.com
```

#### 4.12.5 システムロケーションの設定

---

##### [書式]

```
snmp-server location location
no snmp-server location
```

##### [パラメーター]

*location* : システムロケーションとして登録する名称(255 文字以内)

##### [初期設定]

```
no snmp-server location
```

##### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

##### [説明]

MIB 変数 `sysLocation` を設定する。

`sysLocation` は一般的に、機器の設置場所を記入しておく変数である。

`no` 形式で実行した場合は、設定を削除する。

##### [設定例]

システムロケーションを `MainOffice-1F` に設定する。

```
SWX3200(config)#snmp-server location MainOffice-1F
```

#### 4.12.6 SNMP コミュニティーの設定

---

##### [書式]

```
snmp-server community community ro_rw
no snmp-server community community
```

## [パラメーター]

- community* : コミュニティー名(32 文字以内)  
両端が、" または " で囲まれているとき、両端の "、" は文字数に含まれない
- ro\_rw* : アクセス制限

設定値	説明
ro	読み出し専用
rw	書き込み可能

## [初期設定]

なし

## [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

## [説明]

SNMP コミュニティーを設定する。

登録できるコミュニティの最大数は 16 である。

no 形式で実行した場合、指定コミュニティを削除する。

## [設定例]

読み出し専用のコミュニティ名 `public` を設定する。

```
SWX3200(config)#snmp-server community public ro
```

public コミュニティーを削除する。

```
SWX3200(config)#no snmp-server community public
```

## 4.12.7 SNMP ビューの設定

## [書式]

```
snmp-server view view oid type
```

```
no snmp-server view view
```

## [パラメーター]

- view* : ビュー名(32 文字以内)
- oid* : MIB オブジェクト ID
- type* : タイプ

設定値	説明
include	指定したオブジェクト ID を管理対象にする
exclude	指定したオブジェクト ID を管理対象から除外する

## [初期設定]

なし

## [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

## [説明]

SNMP MIB ビューを設定する。

MIB ビューとは、アクセス権を許可する際に指定する MIB オブジェクトの集合である。

登録できる MIB ビューの最大数は 16 である。

*oid* パラメーターと *type* パラメーターの組は、指定のオブジェクト ID 以降の MIB サブツリーを管理対象とする／しないことを意味する。*oid* パラメーターと *type* パラメーターの組を 1 つのエントリーとして、各々の MIB ビューに対して複数のエントリーを指定することができ、その最大数は 8 である。

複数のエントリーを指定した際に、それぞれ指定したオブジェクト ID の中で包含関係にあるものは、より下位の階層まで指定したオブジェクト ID に対応する *type* パラメーターが優先される。

no 形式でコマンドを実行した場合は、MIB ビューを削除する。エントリー単位の削除はできない。

#### [設定例]

internet ノード(1.3.6.1)以下を表す most ビューを設定する。

```
SWX3200(config)#snmp-server view most 1.3.6.1 include
```

mib-2 ノード(1.3.6.1.2.1)以下を表す standard ビューを設定する。

```
SWX3200(config)#snmp-server view standard 1.3.6.1.2.1 include
```

## 4.12.8 SNMP グループの設定

#### [書式]

```
snmp-server group group seclevel read read_view [write write_view]
```

```
snmp-server group group seclevel write write_view [read read_view]
```

```
no snmp-server group group
```

#### [キーワード]

read : 本グループに所属するユーザーが読み出し可能な MIB ビューを指定する

write : 本グループに所属するユーザーが書き込み可能な MIB ビューを指定する

#### [パラメーター]

group : グループ名(32 文字以内)

seclevel : 本グループに所属するユーザーに求められるセキュリティーレベル

設定値	説明
noauth	認証なし・暗号化なし(noAuthNoPriv)
auth	認証あり・暗号化なし(authNoPriv)
priv	認証あり・暗号化あり(authPriv)

read\_view : 本グループに所属するユーザーが読み出し可能な MIB ビューの名前(32 文字以内)

write\_view : 本グループに所属するユーザーが書き込み可能な MIB ビューの名前(32 文字以内)

#### [初期設定]

なし

#### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

#### [説明]

ユーザーグループを設定する。

このコマンドで設定される MIB ビューに含まれない MIB オブジェクトへのアクセスは禁止される。

MIB ビューは **snmp-server view** コマンドによって定義される。

最大エントリー数は 16 である。

no 形式でコマンドを実行した場合は、指定グループの設定を削除する。

#### [設定例]

ユーザーグループ **admins** を作成し、**admins** グループに所属するユーザーは **most** ビューへのフルアクセス権を与える。



```
SWX3200(config)#snmp-server group admins priv read most write most
```

ユーザーグループ `users` を作成し、`users` グループの所属するユーザーは `standard` ビューへの読み出しアクセス権を与える。

```
SWX3200(config)#snmp-server group users auth read standard
```

#### 4.12.9 SNMP ユーザーの設定

##### [書式]

```
snmp-server user user group [auth auth_auth_pass [priv priv_priv_pass]]
no snmp-server user user
```

##### [キーワード]

`auth` : 認証アルゴリズムを設定する  
`priv` : 暗号化アルゴリズムを設定する

##### [パラメーター]

`user` : ユーザー名(32文字以内)  
 両端が、`"` または `"` で囲まれていたとき、両端の `"`、`"` は文字数に含まれない

`group` : グループ名(32文字以内)  
 両端が、`"` または `"` で囲まれていたとき、両端の `"`、`"` は文字数に含まれない

`auth` : 認証アルゴリズム

設定値	説明
md5	HMAC-MD5-96
sha	HMAC-SHA-96

`auth_pass` : 認証パスワード(8文字以上、32文字以内)  
 両端が、`"` または `"` で囲まれていたとき、両端の `"`、`"` は文字数に含まれない

`priv` : 暗号化アルゴリズム

設定値	説明
des	DES-CBC
aes	AES128-CFB

`priv_pass` : 暗号パスワード(8文字以上、32文字以内)  
 両端が、`"` または `"` で囲まれていたとき、両端の `"`、`"` は文字数に含まれない

##### [初期設定]

なし

##### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

##### [説明]

ユーザーを設定する。

本コマンドのグループ名は `snmp-server group` コマンドで定義した名前を指定し、グループ設定で指定したセキュリティレベルに応じて、通信内容の認証と暗号化で使用するアルゴリズムとパスワードを設定する。

なお、認証を行わず暗号化のみを行うことはできない。

最大エントリー数は 16 である。

認証や暗号化の有無、アルゴリズムおよびパスワードは、対向となる SNMP マネージャー側のユーザー設定と一致させておく必要がある。

`no` 形式でコマンドを実行した場合は、指定ユーザーの設定を削除する。

**[設定例]**

ユーザーとして `admin1` を作成する。所属グループの指定と所属グループで定められたセキュリティーレベルに合わせて、認証・暗号化で使用するプロトコル(SHA, AES)とパスワード(`passwd1234`)を指定する。

```
SWX3200(config)#snmp-server user admin1 admins auth sha passwd1234 priv aes
passwd1234
```

ユーザーとして `user1` を作成する。所属グループの指定と所属グループで定められたセキュリティーレベルに合わせて、認証・暗号化で使用するプロトコル(SHA)とパスワード(`passwd5678`)を指定する。

```
SWX3200(config)#snmp-server user user1 users auth sha passwd5678
```

**4.12.10 SNMP サーバーへアクセスできるクライアントの IP アドレス制限****[書式]**

```
snmp-server access action info [community community]
no snmp-server access [action info [community community]]
```

**[キーワード]**

`community` : コミュニティーを指定する

**[パラメーター]**

`action` : アクセス条件に対する動作を指定する

設定値	説明
permit	条件を"許可"する

`info` : 条件とする送信元 IPv4/IPv6 アドレス情報を設定する

設定値	説明
A.B.C.D	IPv4 アドレス(A.B.C.D)を指定する
A.B.C.D/M	サブネットマスク長(Mbit)付きの IPv4 アドレス(A.B.C.D)を指定する
X:X::X:X	IPv6 アドレス(X:X::X:X)を指定する
X:X::X:X/M	サブネットマスク長(Mbit)付きの IPv6 アドレス(X:X::X:X)を指定する
any	すべての IPv4/IPv6 アドレスを指定する

`community` : コミュニティー名(32 文字以内)  
 アクセス条件を適用するコミュニティー  
 コミュニティーの指定を省略した場合、アクセス条件はすべてのコミュニティーに対して適用される  
 両端が、""または"で囲まれていたとき、両端の""、"は文字数に含まれない。

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

SNMP サーバーへのアクセスを許可するクライアント端末を IPv4/IPv6 アドレスで制限する。

本コマンドは最大 32 件まで設定が可能であり、先に設定されたものが優先して適用される。

本コマンドを設定した場合、登録した条件を満たさないアクセスはすべて拒否する。

ただし、本コマンドを設定していない場合は、すべてのアクセスを許可する。

`no` 形式で実行した場合は、指定した設定を削除する。

no 形式で **community** を省略した場合、指定した **info** のすべての設定を削除する。

no 形式ですべてのパラメーターを省略した場合、すべての設定を削除する。

#### [ノート]

本コマンドでのアクセスの制限は、SNMPv1, SNMPv2c のアクセスのみ適用される。

SNMPv3 のアクセスには適用されない。

#### [設定例]

SNMP サーバーへのアクセスを 192.168.100.0/24 のセグメントからのみ許可する。

```
SWX3200(config)#snmp-server access permit 192.168.100.0/24
```

コミュニティ名'**public**'でアクセス可能なホストを 192.168.100.0/24 のみに、コミュニティ名'**private**'でアクセス可能なホストを 192.168.100.12 のみに制限する。

```
SWX3200(config)#snmp-server access permit 192.168.100.0/24 community public
SWX3200(config)#snmp-server access permit 192.168.100.12 community private
```

### 4.12.11 SNMP コミュニティの情報の表示

#### [書式]

**show snmp community**

#### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

#### [説明]

SNMP コミュニティの情報を表示する。

コミュニティ名、アクセスモードを表示する。

#### [設定例]

SNMP コミュニティの情報を表示する。

```
SWX3200#show snmp community
SNMP Community information
  Community Name: public
  Access: Read-Only

  Community Name: private
  Access: Read-Write
```

### 4.12.12 SNMP ビューの設定内容の表示

#### [書式]

**show snmp view**

#### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

#### [説明]

SNMP ビューの設定内容を表示する。

ビュー名、オブジェクト ID、タイプを表示する。

#### [設定例]

SNMP ビューの設定内容を表示する。

```
SWX3200#show snmp view
SNMP View information
  View Name: most
  OID: 1.6.1
  Type: include

  View Name: standard
  OID: 1.3.6.1.2.1
  Type: include
```

### 4.12.13 SNMP グループの設定内容の表示

---

**[書式]**

**show snmp group**

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

SNMP グループの設定内容を表示する。

グループ名、セキュリティーレベル、読み込み用ビュー、書き込み用ビューを表示する。

**[設定例]**

SNMP グループの設定内容を表示する。

```
SWX3200#show snmp group
SNMP Group information
  Group Name: admins
  Security Level: priv
  Read View: most
  Write View: most

  Group Name: users
  Security Level: auth
  Read View: standard
  Write View: standard
```

### 4.12.14 SNMP ユーザーの設定内容の表示

---

**[書式]**

**show snmp user**

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

SNMP ユーザーの設定内容を表示する。

エンジン ID、ユーザー名、所属するグループ名、認証方式、暗号化方式を表示する。

**[設定例]**

SNMP ユーザーの設定内容を表示する。

```
SWX3200#show snmp user
SNMP User information
  EngineID: 0x8000049e0300a0deaeb90e

  User Name: admin1
  Group Name: admins
  Auth: sha
  Priv: aes

  User Name: user1
  Group Name: users
  Auth: sha
  Priv: none
```

## 4.13 RMON

---

### 4.13.1 RMON 機能の設定

---

**[書式]**

**rmon switch**

**no rmon**

**[パラメーター]**

*switch* : RMON 機能の動作

設定値	説明
enable	RMON 機能を有効にする
disable	RMON 機能を無効にする

**[初期設定]**

rmon enable

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

システム全体の RMON 機能の動作を設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

**[ノート]**

本コマンドでシステム全体の RMON 機能が無効とした場合、以下の RMON グループの動作が無効となる。

- イーサネット統計情報グループ
- 履歴グループ
- アラームグループ
- イベントグループ

本コマンドは、プライベート MIB `ysrmonSetting(1.3.6.1.4.1.1182.3.7.1)`を用いて設定することが可能。

**[設定例]**

RMON 機能を有効にする。

```
SWX3200 (config)#rmon enable
```

RMON 機能を無効にする。

```
SWX3200 (config)#rmon disable
```

### 4.13.2 RMON イーサネット統計情報グループの設定

**[書式]**

**rmon statistics index** [owner owner]

**no rmon statistics index**

**[パラメーター]**

- index* : <1 - 65535>  
イーサネット統計情報グループのインデックス(etherStatsIndex)
- owner* : イーサネット統計情報グループのオーナー名(etherStatsOwner)  
127 文字以内  
(省略した場合 : RMON\_SNMP)

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

インターフェイスモード

**[説明]**

対象インターフェイスで、RMON のイーサネット統計情報グループの設定を有効にする。

本コマンドを設定した場合、統計情報の収集が行われ、RMON MIB の `etherStatsTable` が取得できるようになる。

同一インターフェイスに対する、本コマンドの設定数の上限は 8 である。

no 形式で実行した場合は、設定と収集した統計情報を削除する。

**[ノート]**

RMON 機能でイーサネット統計情報グループの設定を有効にするためには、本コマンドに加えて、システム全体でも RMON 機能を有効にする必要がある。

本コマンドを上書きした場合、これまで収集した統計情報を削除したうえで、再度収集を開始する。

システム全体の RMON 機能を無効にした場合、統計情報の収集が中断される。その後、システム全体の RMON 機能を有効にした場合、これまで収集した統計情報を削除したうえで、再度収集を開始する。

**[設定例]**

port1.1 で RMON のイーサネット統計情報グループの設定を有効にする。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#rmon statistics 1
```

**4.13.3 RMON 履歴グループの設定****[書式]**

**rmon history index** [*buckets buckets*] [*interval interval*] [*owner owner*]

**no rmon history index**

**[パラメーター]**

*index* : <1 - 65535>  
履歴グループのインデックス(historyControlIndex)

*buckets* : <1 - 65535>  
履歴グループの履歴保持数(historyControlBucketsRequested)  
(省略した場合 : 50)

*interval* : <1 - 3600>  
履歴グループの履歴保存間隔(秒)(historyControlInterval)  
(省略した場合 : 1800)

*owner* : 履歴グループのオーナー名(historyControlOwner)  
127 文字以内  
(省略した場合 : RMON\_SNMP)

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

対象インターフェースで、RMON の履歴グループの設定を有効にする。

本コマンドを設定した場合、RMON MIB の historyControlTable が取得できるようになる。本コマンド設定後、設定した間隔で、履歴情報の収集が行われ、RMON MIB の etherHistoryTable が取得できるようになる。

同一インターフェースに対する、本コマンドの設定数の上限は 8 である。

no 形式で実行した場合は、設定と収集した履歴情報を削除する。

**[ノート]**

RMON 機能で履歴グループの設定を有効にするためには、本コマンドに加えて、システム全体でも RMON 機能を有効にする必要がある。

本コマンドを上書きした場合、これまで収集した履歴情報を削除したうえで、再度収集を開始する。

システム全体の RMON 機能を無効にした場合、履歴情報の収集が中断される。その後、システム全体の RMON 機能を有効にした場合、これまで収集した履歴情報を削除したうえで、再度収集を開始する。

**[設定例]**

port1.1 で RMON の履歴グループの設定を有効にする。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#rmon history 1
```

#### 4.13.4 RMON イベントグループの設定

##### [書式]

**rmon event index type community** [description *description*] [owner *owner*]

**no rmon event index**

##### [パラメーター]

*index* : <1 - 65535>  
イベントグループのインデックス(eventIndex)

*type* : イベント種別(eventType)

設定値	説明
log	ログに記録する
trap	SNMP トラップを送信
log-trap	ログに記録し、SNMP トラップを送信

*community* : コミュニティ名(eventCommunity)  
127 文字以内  
*type* が"trap"または"log-trap"のとき指定できる

*description* : イベントの説明(eventDescription)  
127 文字以内  
(省略した場合 : RMON\_SNMP)

*owner* : イベントグループのオーナー名(eventOwner)  
127 文字以内  
(省略した場合 : RMON\_SNMP)

##### [初期設定]

なし

##### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

##### [説明]

RMON のイベントグループの設定を有効にする。

本コマンドを設定した場合、RMON MIB の eventTable が取得できるようになる。本コマンドのイベントグループの設定は、**rmon alarm** コマンドで使用する。

no 形式で実行した場合は、設定値を削除する。

##### [ノート]

RMON 機能でイベントグループの設定を有効にするためには、本コマンドに加えて、システム全体でも RMON 機能を有効にする必要がある。

RMON の SNMP トラップを送信する場合、SNMP のトラップ送信の設定が行われている必要がある。

##### [設定例]

SNMP トラップの設定を行ってから、RMON のイベントグループの設定を有効にする。イベント種別は"log-trap"、トラップのコミュニティ名は「public」とする。

```
SWX3200(config)#snmp-server host 192.168.100.3 traps version 2c public
SWX3200(config)#snmp-server enable trap rmon
SWX3200(config)#rmon event 1 log-trap public
```

## 4.13.5 RMON アラームグループの設定

## [書式]

**rmon alarm** *index variable interval interval [type] rising-threshold rising\_threshold event rising\_event-index falling-threshold falling\_threshold event falling\_event\_index [alarmstartup startup] [owner owner]*

**rmon alarm** *index variable interval interval [type] rising-threshold rising\_threshold event rising\_event-index [owner owner]*

**rmon alarm** *index variable interval interval [type] falling-threshold falling\_threshold event falling\_event\_index [owner owner]*

**no rmon alarm** *index*

## [パラメーター]

*index* : <1-65535>  
アラームグループのインデックス(alarmIndex)

*variable* : 監視対象 MIB オブジェクト(alarmVariable)

*interval* : <1-2147483647>  
サンプリング間隔(秒)(alarmInterval)

*type* : サンプリング種別(alarmSampleType)

設定値	説明
absolute	絶対値による比較。サンプル値としきい値を直接比較する
delta	相対値による比較。最新サンプル値と前回サンプル値の差をしきい値と比較する

(省略した場合 : absolute)

*rising\_threshold* : <1-2147483647>  
上限しきい値(alarmRisingThreshold)

*rising\_event\_index* : <1-65535>  
イベントインデックス(alarmRisingEventIndex)

*falling\_threshold* : <1-2147483647>  
下限しきい値(alarmFallingThreshold)

*falling\_event\_index* : <1-65535>  
イベントインデックス(alarmFallingEventIndex)

*startup* : <1-3>  
アラームの最初の判定で使用するしきい値(alarmStartupAlarm)

設定値	説明
1	上限しきい値のみ使用する(risingAlarm)
2	下限しきい値のみ使用する(fallingAlarm)
3	上限しきい値、下限しきい値の両方を使用する(risingOrFallingAlarm)

(省略した場合 : 3)

*owner* : アラームグループのオーナー名(alarmOwner)  
127 文字以内  
(省略した場合 : RMON\_SNMP)

## [初期設定]

なし



## [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

## [説明]

RMON のアラームグループの設定を有効にする。

*variable* には、RMON のアラームグループの監視対象 MIB オブジェクトを設定する。*variable* は、`etherStatsEntry(.1.3.6.1.2.1.16.1.1.1)` の MIB オブジェクトのうち、カウンタ型を持つ MIB オブジェクトのみ指定可能。以下の 3 つの形式で指定が可能。

- `etherStatsEntry.X.Y`
- `(etherStatsEntry 下の OID 名).Y`
- `.1.3.6.1.2.1.16.1.1.1.X.Y`

例えば、`etherStatsPkts.1(.1.3.6.1.2.1.16.1.1.1.5.1)` を設定する場合、以下のいずれの形式でも設定可能。

形式	説明
<code>etherStatsEntry.X.Y</code>	<code>etherStatsEntry.5.1</code>
<code>(etherStatsEntry 下の OID 名).Y</code>	<code>etherStatsPkts.1</code>
<code>.1.3.6.1.2.1.16.1.1.1.X.Y</code>	<code>.1.3.6.1.2.1.16.1.1.1.5.1</code>

*rising\_threshold* または、*falling\_threshold* のどちらかのみを設定する形式を使用可能。この場合、設定が省略されているパラメータには、以下の値が設定される。

- *rising\_threshold* のみ使用
  - *falling\_threshold* : *rising\_threshold* と同じ値
  - *falling\_event\_index* : *rising\_event\_index* と同じ値
  - *startup* : 1(上限しきい値のみ使用する)
- *falling\_threshold* のみ使用
  - *rising\_threshold* : *falling\_threshold* と同じ値
  - *rising\_event\_index* : *falling\_event\_index* と同じ値
  - *startup* : 2(下限しきい値のみ使用する)

本コマンドを設定した場合、RMON MIB の `alarmTable` が取得できるようになる。

`no` 形式で実行した場合は、設定値を削除する。

## [ノート]

RMON 機能でアラームグループの設定を有効にするためには、本コマンドに加えて、システム全体でも RMON 機能を有効にする必要がある。

*variable* に指定する MIB オブジェクトは、イーサネット統計情報グループの MIB オブジェクトである。対象のインデックスを持つイーサネット統計情報グループが作成されていない場合、本コマンドはエラーとなる。

イーサネット統計情報グループは、`rmon statistics` コマンドにて作成可能。本コマンドで使用しているイーサネット統計情報グループが削除された場合、本コマンドも削除される。

イベントのインデックスは、`rmon event` コマンドで設定したインデックスを指定する。本コマンドで使用しているイベントグループが削除された場合、本コマンドも削除される。

*rising\_threshold* のしきい値は、*falling\_threshold* のしきい値以上の値でなければならない。

本コマンドを上書きした場合、これまでのサンプリングデータを削除したうえで、再度サンプリングを開始する。

システム全体の RMON 機能を無効にした場合、サンプリングが中断される。その後、システム全体の RMON 機能を有効にした場合、これまでのサンプリングデータを削除したうえで、再度サンプリングを開始する。

## [設定例]

以下の条件で、RMON のアラームグループの設定を有効にする。

- 監視対象 MIB オブジェクトは、`etherStatsPkts.1`。
- サンプリング間隔は、180 秒。
- サンプリング種別は、`delta`。
- 上限しきい値は 3000、上限しきい値を上回ったときのイベントは 1。
- 下限しきい値は 2000、下限しきい値を下回ったときのイベントは 1。

```
SWX3200(config)#rmon alarm 1 etherStatsPkts.1 interval 180 delta rising-threshold
3000 event 1 falling-threshold 2000 event 1
```

### 4.13.6 RMON 機能の状態表示

---

**[書式]****show rmon****[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

RMON 機能の設定や状態を表示する。

以下の項目が表示される。

- システム全体の RMON 機能の設定
- RMON 機能のグループごとの設定
  - イーサネット統計情報グループ
  - 履歴グループ
  - アラームグループ
  - イベントグループ

**[設定例]**

```
SWX3200>show rmon
rmon: Enable

statistics:
  rmon collection index 1
  stats->ifindex = 5001
  input packets 7, bytes 600, drop events 0, multicast packets 4
  output packets 17, bytes 2091, multicast packets 17 broadcast packets 0

history:
  history index = 1
  data source ifindex = 5001
  buckets requested = 50
  buckets granted = 50
  Interval = 1800
  Owner RMON_SNMP

event:
  event Index = 1
  Description RMON_SNMP
  Event type Log
  Event community name RMON_SNMP
  Last Time Sent = 00:00:58
  Owner RMON_SNMP

alarm:
  alarm Index = 1
  alarm status = VALID
  alarm Interval = 15
  alarm Type is Absolute
  alarm Value = 0
  alarm Rising Threshold = 10
  alarm Rising Event = 1
  alarm Falling Threshold = 7
  alarm Falling Event = 1
  alarm Startup Alarm = 3
  alarm Owner is RMON_SNMP
```

### 4.13.7 RMON イーサネット統計情報グループの状態表示

---

**[書式]****show rmon statistics****[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

RMON イーサネット統計情報グループの設定や状態を表示する。

以下の項目が表示される。

- インデックス
- 対象インターフェース
- input パケット
- output パケット

#### [設定例]

```
SWX3200>show rmon statistics
rmon collection index 1
stats->ifindex = 5001
input packets 7, bytes 600, drop events 0, multicast packets 4
output packets 17, bytes 2091, multicast packets 17 broadcast packets 0
```

### 4.13.8 RMON 履歴グループの状態表示

---

#### [書式]

**show rmon history**

#### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

#### [説明]

RMON 履歴グループの設定や状態を表示する。

以下の項目が表示される。

- インデックス
- 対象インターフェース
- 履歴情報の保持数
- 履歴保存間隔
- オーナー名

#### [設定例]

```
SWX3200>show rmon history
history index = 1
data source ifindex = 5001
buckets requested = 50
buckets granted = 50
Interval = 1800
Owner RMON_SNMP
```

### 4.13.9 RMON イベントグループの状態表示

---

#### [書式]

**show rmon event**

#### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

#### [説明]

RMON イベントグループの設定や状態を表示する。

以下の項目が表示される。

- インデックス
- イベントの説明
- イベント種別
- トラップ送信時のコミュニティ名
- イベント実行時
- オーナー名

#### [設定例]

```
SWX3200>show rmon event
event Index = 1
Description RMON_SNMP
```

```
Event type Log
Event community name RMON_SNMP
Last Time Sent = 00:00:58
Owner RMON_SNMP
```

#### 4.13.10 RMON アラームグループの状態表示

##### [書式]

**show rmon alarm**

##### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

##### [説明]

RMON アラームグループの設定や状態を表示する。

以下の項目が表示される。

- インデックス
- アラームの状態
- 監視対象 MIB オブジェクト
- サンプリング間隔
- サンプリング種別
- 測定値
- 上限しきい値
- 上限しきい値のイベント
- 下限しきい値
- 下限しきい値のイベント
- 開始アラーム
- オーナー名

##### [設定例]

```
SWX3200>show rmon alarm
alarm Index = 1
alarm status = VALID
alarm Interval = 15
alarm Type is Absolute
alarm Value = 0
alarm Rising Threshold = 10
alarm Rising Event = 1
alarm Falling Threshold = 7
alarm Falling Event = 1
alarm Startup Alarm = 3
alarm Owner is RMON_SNMP
```

#### 4.13.11 RMON イーサネット統計情報グループのカウンターのクリア

##### [書式]

**rmon clear counters**

##### [入力モード]

インターフェイスモード

##### [説明]

対象インターフェイスの、RMON イーサネット統計情報グループのカウンターをクリアする。

##### [設定例]

port1.1 の RMON のイーサネット統計情報グループのカウンターをクリアする。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#rmon clear counters
```

#### 4.14 TELNET サーバー

#### 4.14.1 TELNET サーバーの起動および受付ポート番号の変更

##### [書式]

```
telnet-server enable [port]
telnet-server disable
no telnet-server
```

##### [キーワード]

```
enable      : TELNET サーバーを有効にする
disable     : TELNET サーバーを無効にする
```

##### [パラメーター]

```
port      : <1-65535>
           TELNET サーバーのリスニングポート番号 (省略した場合 : 23)
```

##### [初期設定]

```
telnet-server disable
```

##### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

##### [説明]

TELNET サーバーを有効にする。また、リスニング TCP ポート番号を指定することができる。  
no 形式で実行した場合は無効にする。

##### [設定例]

リスニングポート番号を 12345 にして TELNET サーバーを起動する。

```
SWX3200(config)#telnet-server enable 12345
```

#### 4.14.2 TELNET サーバーの設定状態の表示

##### [書式]

```
show telnet-server
```

##### [入力モード]

特権 EXEC モード

##### [説明]

TELNET サーバーの設定状況を表示する。以下の項目が表示される。

- TELNET サーバー機能の有効/無効
- リスニングポートの番号
- TELNET サーバーへのアクセスを許可する VLAN インターフェース
- TELNET サーバーへのアクセスを制限するフィルター

##### [設定例]

TELNET サーバーの設定状況を表示する。

```
SWX3200#show telnet-server
Service:Enable
Port:23
Management interface(vlan): 1
Interface(vlan):1, 2, 3
Access:
  deny 192.168.100.5
  permit 192.168.100.0/24
```

#### 4.14.3 TELNET サーバーへアクセスできるホストの設定

##### [書式]

```
telnet-server interface interface
no telnet-server interface interface
```

## [パラメーター]

*interface* : VLAN インターフェース名

## [初期設定]

なし

## [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

## [説明]

TELNET サーバーへのアクセスを許可する VLAN インターフェースを設定する。

no 形式で実行した場合は、指定したインターフェースを削除する。

本コマンドは最大 8 件まで設定でき、設定した順に適用する。

本コマンドを設定していない場合は、保守 VLAN のみアクセスできる。

## [ノート]

**telnet-server enable** が設定されていない場合、本コマンドは機能しない。

## [設定例]

VLAN #1、VLAN #2 に接続しているホストからの TELNET サーバーへのアクセスを許可する。

```
SWX3200(config)#telnet-server interface vlan1
SWX3200(config)#telnet-server interface vlan2
```

#### 4.14.4 TELNET サーバーへアクセスできるクライアントの IP アドレス制限

## [書式]

**telnet-server access** *action info*

**no telnet-server access** [*action info*]

## [パラメーター]

*action* : アクセス条件に対する動作を指定する

設定値	説明
deny	条件を"拒否"する
permit	条件を"許可"する

*info* : 条件とする送信元 IPv4/IPv6 アドレス情報を設定する。

設定値	説明
A.B.C.D	IPv4 アドレス(A.B.C.D)を指定する
A.B.C.D/M	サブネットマスク長(Mbit)付きの IPv4 アドレス(A.B.C.D)を指定する
X:X::X:X	IPv6 アドレス(X:X::X:X)を指定する
X:X::X:X/M	サブネットマスク長(Mbit)付きの IPv6 アドレス(X:X::X:X)を指定する
any	すべての IPv4/IPv6 アドレスを指定する

## [初期設定]

なし

## [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

## [説明]

TELNET サーバーへのアクセスを許可するクライアント端末を IPv4/IPv6 アドレスで制限する。

本コマンドは最大 8 件まで設定が可能であり、先に設定されたものが優先して適用される。

本コマンドを設定した場合、登録した条件を満たさないアクセスはすべて拒否する。

ただし、本コマンドを設定していない場合は、すべてのアクセスを許可する。

no 形式で実行した場合は、指定した設定を削除する。

no 形式でパラメーターを省略した場合、すべての設定を削除する。

#### [ノート]

**telnet-server enable** が設定されていない場合、本コマンドは機能しない。

#### [設定例]

192.168.1.1 と 192.168.10.0/24 のセグメントからの TELNET サーバーへのアクセスのみを許可する。

```
SWX3200(config)#telnet-server access permit 192.168.1.1
SWX3200(config)#telnet-server access permit 192.168.10.0/24
```

192.168.10.0/24 のセグメントからの TELNET サーバーへのアクセスのみを拒否する。

```
SWX3200(config)#telnet-server access deny 192.168.10.0/24
SWX3200(config)#telnet-server access permit any
```

## 4.15 TELNET クライアント

---

### 4.15.1 TELNET クライアントの起動

---

#### [書式]

**telnet** *host* [*port*]

#### [パラメーター]

- host* : リモートホスト名、または、IPv4 アドレス(A.B.C.D)、または、IPv6 アドレス(X:X::X:X)  
IPv6 リンクローカルアドレスを指定する場合は、送出インターフェースも指定する必要がある(fe80::X%vlanN の形式)
- port* : <1-65535>  
使用するポート番号 (省略した場合 : 23)

#### [初期設定]

なし

#### [入力モード]

特権 EXEC モード

#### [説明]

指定したホストへ TELNET で接続する。

#### [設定例]

IPv4 アドレス 192.168.100.1 のホストに、ポート番号 12345 で TELNET 接続する。

```
SWX3200#telnet 192.168.100.1 12345
```

IPv6 アドレス fe80::2a0:deff:fe11:2233 のホストに、ポート番号 12345 で TELNET 接続する。

```
SWX3200#telnet fe80::2a0:deff:fe11:2233%vlan1 12345
```

### 4.15.2 TELNET クライアントの有効化

---

#### [書式]

**telnet-client** *switch*

**no telnet-client**

#### [パラメーター]

- switch* : TELNET クライアントを有効にするか否か

設定値	説明
enable	有効にする
disable	無効にする

**[初期設定]**

```
telnet-client disable
```

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

TELNET クライアントとして `telnet` コマンドを使用できるようにする。

`no` 形式で実行した場合は TELNET クライアントを無効にする。

**[設定例]**

TELNET クライアントを有効にする。

```
SWX3200(config)#telnet-client enable
```

## 4.16 TFTP サーバー

---

### 4.16.1 TFTP サーバーの起動および受付ポート番号の変更

---

**[書式]**

```
tftp-server enable [port]
```

```
tftp-server disable
```

```
no tftp-server
```

**[キーワード]**

`enable` : TFTP サーバーを有効にする

`disable` : TFTP サーバーを無効にする

**[パラメーター]**

*port* : <1-65535>

TFTP サーバーのリスニングポート番号（省略した場合：69）

**[初期設定]**

```
tftp-server disable
```

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

TFTP サーバーを有効にする。また、リスニングポート番号を指定することができる。

`no` 形式で実行した場合は TFTP サーバーを無効にする。

**[設定例]**

リスニングポート番号を 12345 にして TFTP サーバーを起動する。

```
SWX3200(config)#tftp-server enable 12345
```

### 4.16.2 TFTP サーバーの設定状態の表示

---

**[書式]**

```
show tftp-server
```

**[入力モード]**

特権 EXEC モード



**[説明]**

TFTP サーバーの設定状況を表示する。以下の項目が表示される。

- TFTP サーバー機能の有効/無効
- リスニングポートの番号
- TFTP サーバーへのアクセスを許可する VLAN インターフェース

**[設定例]**

TFTP サーバーの設定状況を表示する。

```
SWX3200#show tftp-server
Service:Enable
Port:69
Management interface(vlan): 1
Interface(vlan):1, 2, 3
```

### 4.16.3 TFTP サーバーへアクセスできるホストの設定

---

**[書式]**

```
tftp-server interface interface
no tftp-server interface interface
```

**[パラメーター]**

*interface* : VLAN インターフェース名

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

TFTP サーバーへのアクセスを許可する VLAN インターフェースを設定する。

no 形式で実行した場合は、指定したインターフェースを削除する。

本コマンドは最大 8 件まで設定でき、設定した順に適用する。

本コマンドを設定していない場合は、保守 VLAN のみアクセスできる。

**[設定例]**

VLAN #1、VLAN #2 に接続しているホストからの TFTP サーバーへのアクセスを許可する。

```
SWX3200(config)#tftp-server interface vlan1
SWX3200(config)#tftp-server interface vlan2
```

## 4.17 HTTP サーバー

---

### 4.17.1 HTTP サーバーの起動および受付ポート番号の変更

---

**[書式]**

```
http-server enable [port]
http-server disable
no http-server
```

**[キーワード]**

enable : HTTP サーバーを有効にする  
 disable : HTTP サーバーを無効にする

**[パラメーター]**

*port* : <1-65535>  
 HTTP サーバーのリスニングポート番号（省略した場合：80）

**[初期設定]**

```
http-server disable
```

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

HTTP サーバーを有効にする。また、リスニング TCP ポート番号を指定することができる。  
no 形式で実行した場合は無効にする。

**[設定例]**

リスニングポート番号を 8080 にして HTTP サーバーを起動する。

```
SWX3200(config)#http-server enable 8080
```

## 4.17.2 セキュア HTTP サーバーの起動および受付ポート番号の変更

---

**[書式]**

```
http-server secure enable [port]
```

```
http-server secure disable
```

```
no http-server secure
```

**[キーワード]**

enable : セキュア HTTP サーバーを有効にする

disable : セキュア HTTP サーバーを無効にする

**[パラメーター]**

*port* : <1-65535>

セキュア HTTP サーバーのリスニングポート番号 (省略した場合 : 443)

**[初期設定]**

```
http-server secure disable
```

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

セキュア HTTP サーバーを有効にする。また、リスニング TCP ポート番号を指定することができる。  
no 形式で実行した場合は無効にする。

セキュア HTTP サーバを有効にした場合、暗号化はソフトウェアによって行われるため、トラフィック量に応じて CPU 使用率が高くなる。

高使用率を避けるために、ダッシュボードや LAN マップなど自動で更新される Web ページを複数ユーザーでアクセスする事は避けるのが好ましい。

**[設定例]**

リスニングポート番号を 8080 にしてセキュア HTTP サーバーを起動する。

```
SWX3200(config)#http-server secure enable 8080
```

## 4.17.3 HTTP サーバーの設定状態の表示

---

**[書式]**

```
show http-server
```

**[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

HTTP サーバーの設定状況を表示する。以下の項目が表示される。

- HTTP サーバー機能の有効/無効
- HTTP サーバーのリスニングポートの番号

- HTTP サーバーへのアクセスを許可する VLAN インターフェース
- HTTP サーバーへのアクセスを制限するフィルター
- セキュア HTTP サーバー機能の有効/無効
- ログインタイムアウト時間

#### [設定例]

HTTP サーバーの設定状況を表示する。

```
SWX3200#show http-server
HTTP :Enable(80)
HTTPS:Disable
Management interface(vlan): 1
Interface(vlan):1
Access:None
Login timeout:30 min 51 sec
```

### 4.17.4 HTTP サーバーへアクセスできるホストの設定

#### [書式]

```
http-server interface interface
no http-server interface interface
```

#### [パラメーター]

*interface* : VLAN インターフェース名

#### [初期設定]

なし

#### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

#### [説明]

HTTP サーバーへのアクセスを許可する VLAN インターフェースを設定する。

no 形式で実行した場合は、指定したインターフェースを削除する。

本コマンドは最大 8 件まで設定でき、設定した順に適用する。

本コマンドを設定していない場合は、保守 VLAN のみアクセスできる。

#### [設定例]

VLAN #1、VLAN #2 に接続しているホストからの HTTP サーバーへのアクセスを許可する。

```
SWX3200(config)#http-server interface vlan1
SWX3200(config)#http-server interface vlan2
```

### 4.17.5 HTTP サーバーへアクセスできるクライアントの IP アドレス制限

#### [書式]

```
http-server access action info
no http-server access [action info]
```

#### [パラメーター]

*action* : アクセス条件に対する動作を指定する

設定値	説明
deny	条件を"拒否"する
permit	条件を"許可"する

*info* : 条件とする送信元 IPv4/IPv6 アドレス情報を設定する。

設定値	説明
A.B.C.D	IPv4 アドレス(A.B.C.D)を指定する
A.B.C.D/M	サブネットマスク長(Mbit)付きの IPv4 アドレス(A.B.C.D)を指定する
X:X::X:X	IPv6 アドレス(X:X::X:X)を指定する
X:X::X:X/M	サブネットマスク長(Mbit)付きの IPv6 アドレス(X:X::X:X)を指定する
any	すべての IPv4/IPv6 アドレスを指定する

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

HTTP サーバーへのアクセスを許可するクライアント端末を IPv4/IPv6 アドレスで制限する。

本コマンドは最大 8 件まで設定が可能であり、先に設定されたものが優先して適用される。

本コマンドを設定した場合、登録した条件を満たさないアクセスはすべて拒否する。

ただし、本コマンドを設定していない場合は、すべてのアクセスを許可する。

no 形式で実行した場合は、指定した設定を削除する。

no 形式でパラメーターを省略した場合は、すべての設定を削除する。

**[ノート]**

**http-server enable** もしくは **http-server secure enable** が設定されていない場合、本コマンドは機能しない。

**[設定例]**

192.168.1.1 と 192.168.10.0/24 のセグメントからの HTTP サーバーへのアクセスのみを許可する。

```
SWX3200(config)#http-server access permit 192.168.1.1
SWX3200(config)#http-server access permit 192.168.10.0/24
```

192.168.10.0/24 のセグメントからの HTTP サーバーへのアクセスのみを拒否する。

```
SWX3200(config)#http-server access deny 192.168.10.0/24
SWX3200(config)#http-server access permit any
```

**4.17.6 HTTP サーバーのログインタイムアウト時間の設定****[書式]**

**http-server login-timeout** *min* [*sec*]

**no http-server login-timeout**

**[パラメーター]**

*min* : <0-35791>  
タイムアウト時間(分)

*sec* : <0-2147483>  
タイムアウト時間(秒)

**[初期設定]**

http-server login-timeout 5

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

HTTP サーバーへのアクセスがない場合に自動的にログアウトするまでの時間を設定する。

sec を省略した場合は、0 が設定される。  
no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

#### [ノート]

設定可能な最小値は 1 分。

#### [設定例]

HTTP サーバーのタイムアウト時間を 2 分 30 秒に設定する。

```
SWX3200(config)#http-server login-timeout 2 30
```

## 4.18 HTTP Proxy

### 4.18.1 HTTP Proxy 機能の有効化

#### [書式]

**http-proxy switch**

**no http-proxy**

#### [パラメーター]

*switch* : HTTP Proxy 機能を有効にするか否か

設定値	説明
enable	有効にする
disable	無効にする

#### [初期設定]

http-proxy disable

#### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

#### [説明]

HTTP サーバーの HTTP Proxy 機能を有効にする。

no 形式で実行した場合は無効にする。

#### [設定例]

HTTP サーバーの HTTP Proxy 機能を有効にする。

```
SWX3200(config)#http-proxy enable
```

### 4.18.2 HTTP Proxy 機能のタイムアウト時間の設定

#### [書式]

**http-proxy timeout time**

**no http-proxy timeout [time]**

#### [パラメーター]

*time* : <1-180>  
タイムアウトするまでの時間 (秒)

#### [初期設定]

http-proxy timeout 60

#### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

#### [説明]

L2MS エージェントの Web GUI を取得するときのタイムアウト時間を設定する。

no 形式で実行した場合は 60 秒にする。

**[設定例]**

HTTP Proxy 機能のタイムアウト時間を 2 分に設定する。

```
SWX3200(config)#http-proxy timeout 120
```

### 4.18.3 HTTP Proxy 機能 設定状態の表示

---

**[書式]**

```
show http-proxy
```

**[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

HTTP Proxy 機能の設定状況を表示する。以下の項目が表示される。

- HTTP Proxy 機能の有効/無効
- タイムアウト時間

**[設定例]**

HTTP Proxy 機能の設定状況を表示する。

```
SWX3200#show http-proxy
Service:Enable
Timeout:60
```

## 4.19 SSH サーバー

---

### 4.19.1 SSH サーバーの起動および受付ポート番号の変更

---

**[書式]**

```
ssh-server enable [port]
```

```
ssh-server disable
```

```
no ssh-server
```

**[キーワード]**

enable : SSH サーバーを有効にする

disable : SSH サーバーを無効にする

**[パラメーター]**

port : <1-65535>

SSH サーバーのリスニングポート番号（省略した場合：22）

**[初期設定]**

```
ssh-server disable
```

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

SSH サーバーを有効にする。また、リスニング TCP ポート番号を指定することができる。

SSH サーバーを有効にする場合は、事前にホスト鍵の作成 (ssh-server host key generate)を行っておく必要がある。

no 形式で実行した場合は SSH サーバーを無効にする。

**[ノート]**

SSH クライアントからログインする場合は、事前にユーザー名とパスワードの登録(username)をしておく必要がある。

**[設定例]**

リスニングポート番号を 12345 にして SSH サーバーを起動する。

```
SWX3200#ssh-server host key generate
```

```
SWX3200#configure terminal
SWX3200(config)#ssh-server enable 12345
```

## 4.19.2 SSH サーバーの設定状態の表示

### [書式]

```
show ssh-server
```

### [入力モード]

特権 EXEC モード

### [説明]

SSH サーバーの設定状況を表示する。

以下の項目が表示される。

- SSH サーバー機能の有効/無効
- リスニングポートの番号
- SSH サーバーホスト鍵の有無
- SSH サーバーへのアクセスを許可する VLAN インターフェース
- SSH サーバーへのアクセスを制限するフィルター

### [設定例]

SSH サーバーの設定状況を表示する。

```
SWX3200#show ssh-server
Service:Enable
Port:23
Hostkey:Generated
Management interface(vlan): 1
Interface(vlan):1, 2, 3
Access:
  deny 192.168.100.5
  permit 192.168.100.0/24
```

## 4.19.3 SSH サーバーへアクセスできるホストの設定

### [書式]

```
ssh-server interface ifname
```

```
no ssh-server interface ifname
```

### [パラメーター]

*ifname* : VLAN インターフェース名

### [初期設定]

なし

### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

### [説明]

SSH サーバーへのアクセスを許可する VLAN インターフェースを設定する。

no 形式で実行した場合は、指定したインターフェースを削除する。

本コマンドは最大 8 件まで設定でき、設定した順に適用する。

本コマンドを設定していない場合は、保守 VLAN のみアクセスできる。

### [設定例]

VLAN #1, VLAN #2 に接続しているホストからの SSH サーバーへのアクセスを許可する。

```
SWX3200(config)#ssh-server interface vlan1
SWX3200(config)#ssh-server interface vlan2
```

## 4.19.4 SSH サーバーへアクセスできるクライアントの設定

### [書式]

```
ssh-server access action info
```

```
no ssh-server access [action info]
```

### [パラメーター]

*action* : アクセス条件に対する動作を指定する

設定値	説明
deny	条件を"拒否"する
permit	条件を"許可"する

*info* : 条件とする送信元 IPv4/IPv6 アドレス情報を設定する。

設定値	説明
A.B.C.D	IPv4 アドレス(A.B.C.D)を指定する
A.B.C.D/M	サブネットマスク長(Mbit)付きの IPv4 アドレス(A.B.C.D)を指定する
X:X::X:X	IPv6 アドレス(X:X::X:X)を指定する
X:X::X:X/M	サブネットマスク長(Mbit)付きの IPv6 アドレス(X:X::X:X)を指定する
any	すべての IPv4/IPv6 アドレスを指定する

### [初期設定]

なし

### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

### [説明]

SSH で接続するクライアント端末を IPv4/IPv6 アドレスで制限する。

本コマンドは最大 8 件まで設定が可能であり、先に設定されたものが優先して適用される。

本コマンドを設定した場合、登録した条件を満たさないアクセスはすべて拒否する。

ただし、本コマンドを設定していない場合は、すべてのアクセスを許可する。

no 形式で実行した場合は、指定した設定を削除する。

no 形式でパラメーターを省略した場合は、すべての設定を削除する。

### [ノート]

**ssh-server enable** コマンドが設定されていない場合、本コマンドは機能しない。

### [設定例]

192.168.1.1 と 192.168.10.0/24 のセグメントからの SSH サーバーへのアクセスのみを許可する。

```
SWX3200(config)#ssh-server access permit 192.168.1.1
SWX3200(config)#ssh-server access permit 192.168.10.0/24
```

192.168.10.0/24 のセグメントからの SSH サーバーへのアクセスのみを拒否する。

```
SWX3200(config)#ssh-server access deny 192.168.10.0/24
SWX3200(config)#ssh-server access permit any
```

## 4.19.5 SSH サーバーホスト鍵の作成

### [書式]

```
ssh-server host key generate [bit bit]
```



**[パラメーター]**

*bit* : 1024, 2048  
RSA 鍵のビット長

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

SSH サーバーのホスト RSA 鍵とホスト DSA 鍵を設定する。

RSA 鍵は *bit* パラメータによって生成する鍵のビット数を指定できる。DSA 鍵は 1024 ビットの鍵を生成する。

**[ノート]**

SSH サーバー機能を利用する場合は、事前に本コマンドを実行してホスト鍵を生成する必要がある。

既にホスト鍵が設定されている状態で本コマンドを実行した場合、ユーザーに対してホスト鍵を更新するか否かを確認する。

ホスト鍵の生成には、数分程度の時間がかかる場合がある。

本コマンドは、SSH サーバーが無効の場合にのみ実行できる。

**[設定例]**

2048 ビットの RSA 鍵と、DSA 鍵を生成する。

```
SWX3200#ssh-server host key generate bit 2048
```

#### 4.19.6 SSH サーバーホスト鍵のクリア

---

**[書式]**

**clear ssh-server host key**

**[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

SSH サーバーのホスト RSA 鍵とホスト DSA 鍵を削除する。

**[ノート]**

本コマンドは、SSH サーバーが無効の場合にのみ実行できる。

**[設定例]**

ホスト RSA 鍵とホスト DSA 鍵を削除する。

```
SWX3200#clear ssh-server host key
```

#### 4.19.7 SSH サーバー公開鍵の表示

---

**[書式]**

**show ssh-server host key [fingerprint]**

**[キーワード]**

*fingerprint* : 鍵指紋を表示する

**[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

SSH サーバーの公開鍵を表示する。

*fingerprint* キーワードを指定した場合は、公開鍵の鍵長と鍵指紋、アスキーアートを表示する。

**[ノート]**

鍵指紋のハッシュアルゴリズムは、MD5 と SHA256 の両方を表示する。

**[設定例]**

公開鍵を表示する。

```
SWX3200#show ssh-server host key
ssh-dss XXXXXXXXXXXX1kc3MAAAEBAPTb9YYdgvE+4bbhF4mtoIJri+ujdAIfgr4hL/0w7Jlvc50eXg
sXJoCq1PlsLRGH00zxVYb0OouPCUV/jPFcatgOIii8eJNzUqSB1e6MOftGjmESrdYiafyIUhps+YWqd
TlIo0AFnVUKMqAbYODA3Cy7kNVptYRK8rcKwK1ChbatWnT/Z7RcmEVEou0q1Oyp79b3DcpFM7ofa4d
9ySb6mj06Y/Ok8lL5qFhCHmGOGtqJTKZsqb5VnPz8FYC8t1s6/tpyrUa5aG2af/yTEa5U5BDYAuc88
wNIUG9a1Go/8WIHiBJAm432o7UPqTHWO/5nYEQu44gmEPQrPGJ65GT8AAAAVAOpjE0Jyei+4c5qWSF
PXUgrLf5HAAABAQCnnPO+ZjWZcZwGa6LxTGMczAjDy5uwD4DWBbRxsPKaXlsicJGC0aridnTthIGa8
ARypDjhpL1a37SDezx8yClQ5vh+4SPLdS1hdSSzXXE+MXIICXnOVPdiKC4ia10n81tMxW/EPw4SqFP
77r7VvCE/JpXv82AN2JTJ/HAn3X7lvMyCsKZLoWrEcEcBH5anvAQKByVt7RerToZ4vSgods kv7nyXX
XXXXXXXX
```

```
ssh-rsa XXXXXXXXXXXX1yc2EAAAABIwAAAQEAwvAZK18jKTCHIHQfRV4r7UOYChX0oeKjBbuuLSDhSH
Wmhpg3xxJO0pdIedSF3Kn7LX2SfymQYJ7XYIqMjmU0oziv/zi+De/z3M7wJHQUwfmZEDAdR6Mx39w
6Q04/ehQcaszjXi+0Al2wG/kk561AU23CW/i21o//5GZTzKFKyEJUWauHWEW9glF5Yy7F64PesqoH
6h5oDNK7LhlT7s4QXRnUJphI1INrW278Dnvryr3liR+tgTJAq3cGHfYsaQCdankDilIQhUazUY0vJO
/gjYCjMuWH6Ek/cst+Pctgnt0XV5B1079uRUmcACs2pDX5EWrwPXXXXXXXXXX==
```

公開鍵の鍵指紋を表示する。

```
SWX3200#show ssh-server host key fingerprint
ssh-dss
1024 MD5:XX:XX:a8:b9:51:93:9d:d2:ec:40:1a:43:66:3a:XX:XX
+---[DSA 1024]-----+
| . * . |
| = * = + . o |
| E + X + o |
| o . + = + . |
| .. .. O X . |
| oo = . B . * . o |
| o + S o |
| . o |
| E |
+-----[MD5]-----+
1024 SHA256:XXXXearwsCXvYtFIKrS6yYSrjMh0fW6W0Bw7aAOXXXX
+---[DSA 1024]-----+
| . + E . |
| o o |
| o X S |
| + = * . |
| o . B * . |
| + o . |
| * * + |
| X + . @ + o = |
| @ * o . = o . |
+-----[SHA256]-----+
```

```
ssh-rsa
2048 MD5:XX:XX:b8:07:e3:5e:57:b8:80:e3:fc:b3:24:17:XX:XX
+---[RSA 2048]-----+
| |
| ... * |
| * + . |
| . |
| . + |
| |
| E |
| . B . . |
| . oo |
+-----[MD5]-----+
2048 SHA256:XXXXMkUuEbkJggPD68UoR+gobWPhgu7qqXzE8iUXXXX
+---[RSA 2048]-----+
| * . = = + |
| * o + = . . |
| * = o . . S |
| * S . . |
| + B * o |
```

```

| = = . . . |
|   o       |
|   .       |
| . * *     |
+----- [SHA256] -----+

```

## 4.19.8 SSH クライアントの生存確認の設定

### [書式]

```

ssh-server client alive enable [interval [count]]
ssh-server client alive disable
no ssh-server client alive

```

### [パラメーター]

*interval* : <1-2147483647>  
クライアントの生存確認間隔（秒 省略した場合：100）

*count* : <1-2147483647>  
クライアントの生存確認最大カウント数（省略した場合：3）

### [初期設定]

ssh-server client alive disable

### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

### [説明]

クライアントの生存確認を行うか否かを設定する。

クライアントに *interval* で設定した秒間隔で応答を要求するメッセージを送る。*count* で指定した回数だけ連続して応答がなかったら、このクライアントとの接続を切り、セッションを終了する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

## 4.20 SSH クライアント

### 4.20.1 SSH クライアントの起動

### [書式]

```
ssh [user@] host [port]
```

### [パラメーター]

*user* : リモートホストにログインする際に使用するユーザー名

*host* : リモートホスト名、または、IPv4 アドレス(A.B.C.D)、または、IPv6 アドレス(X:X::X:X)  
IPv6 リンクローカルアドレスを指定する場合は、送出インターフェースも指定する必要がある(fe80::X%vlanN の形式)

*port* : <1-65535>  
使用するポート番号（省略した場合：22）

### [初期設定]

なし

### [入力モード]

特権 EXEC モード

### [説明]

指定したホストへ SSH で接続する。

*user* を省略した場合、ログイン中のユーザー名を使用して SSH サーバーへのアクセスをする。

無名ユーザーでログイン中に *user* を省略した場合は"root"を使用する。

**[ノート]**

エスケープ文字はチルダ (~) とする。エスケープ文字は行頭に入力されたときだけ認識される。  
 行頭からエスケープ文字を2回続けて入力した場合には、エスケープ文字がサーバの入力として使用される。  
 エスケープ文字に続けてピリオド(.)が入力された場合、強制的に接続を閉じる。  
 エスケープ文字に続けてクエスチョン(?)が入力された場合、エスケープ入力の一覧が表示される。

**[設定例]**

IPv4 アドレス 192.168.100.1 のホストに、ユーザー名 `uname`、ポート番号 12345 で SSH 接続する。

```
SWX3200#ssh uname@192.168.100.1 12345
```

IPv6 アドレス `fe80::2a0:deff:fe11:2233` のホストに、ユーザー名 `uname`、ポート番号 12345 で SSH 接続する。

```
SWX3200#ssh uname@fe80::2a0:deff:fe11:2233%vlan1 12345
```

**4.20.2 SSH クライアントの有効化**

---

**[書式]**

```
ssh-client switch
no ssh-client
```

**[パラメーター]**

*switch* : SSH クライアントを有効にするか否か

設定値	説明
enable	有効にする
disable	無効にする

**[初期設定]**

```
ssh-client disable
```

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

SSH クライアントとして `ssh` コマンドを使用できるようにする。  
`no` 形式で実行した場合は SSH クライアントを無効にする。

**[設定例]**

SSH クライアントを有効にする。

```
SWX3200(config)#ssh-client enable
```

**4.20.3 SSH ホスト情報のクリア**

---

**[書式]**

```
clear ssh host host
```

**[パラメーター]**

*host* : リモートホスト名、または、IPv4 アドレス(A.B.C.D)、または、IPv6 アドレス(X:X::X:X)

**[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

SSH クライアントとして接続した SSH サーバーの公開鍵を削除する。

**[設定例]**

SSH ホスト情報をクリアする。

```
SWX3200#clear ssh host 192.168.100.1
```

## 4.21 メール通知

### 4.21.1 SMTP メールサーバーの設定

#### [書式]

```
mail server smtp id host host [port port] [encrypt method] [auth username password]
no mail server smtp id
```

#### [キーワード]

port : メールサーバーのポート番号を指定する  
 encrypt : 暗号化の方式を指定する  
 auth : SMTP 認証で使うアカウント情報を指定する

#### [パラメーター]

*id* : <1-10>  
 メールサーバー ID

*host* : メールサーバーアドレス、または、ホスト名  
 IPv4 アドレス(A.B.C.D)、IPv6 アドレス(X:X::X:X)  
 IPv6 リンクローカルアドレスを指定する場合は、送出インターフェースも指定する必要がある(fe80::X%vlanN の形式)  
 ホスト名(64 文字以内、半角英数字と-.)

*port* : <1-65535>  
 メールサーバーのポート番号(省略時は 25, *method* として over-ssl が指定されていた場合は 465)

*method* : 暗号化の方式

設定値	説明
over-ssl	通信を暗号化する ( over SSL )
starttls	通信を暗号化する ( STARTTLS )

*username* : SMTP 認証で使用するユーザー名  
 (64 文字以内、? " | > と半角スペースを除く半角英数字・半角記号)

*password* : SMTP 認証で使用するパスワード  
 (64 文字以内、? " | > と半角スペースを除く半角英数字・半角記号)

#### [初期設定]

なし

#### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

#### [説明]

メール送信に使用するサーバー情報を設定する。

#### [ノート]

SMTP 認証を行う際、AUTH LOGIN コマンドを使って認証を行う。

SSL/TLS のバージョンは TLSv1, TLSv1.1, TLSv1.2 に対応している。

メールサーバーのアドレスとして IPv6 アドレスを設定する場合、SSL/TLS による暗号化は利用できない。

#### [設定例]

メール送信サーバーに、smtp-server-test.com を設定する。

```
SWX3200(config)#mail server smtp 1 host smtp-server-test.com
```

メール送信サーバーとして `smtp-server-test2.com` を指定し、暗号化と SMTP 認証を利用する設定を行う。

```
SWX3200(config)#mail server smtp 1 host smtp-server-test2.com encrypt over-ssl auth
test_user test_password
```

### 4.21.2 SMTP メールサーバー名の設定

---

#### [書式]

```
mail server smtp id name server_name
no mail server smtp id
```

#### [パラメーター]

*id* : <1-10>  
メールサーバー ID

*server\_name* : メールサーバー名  
(64 文字以内、?を除く半角英数字・半角記号)

#### [初期設定]

なし

#### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

#### [説明]

メール送信に使用するサーバーの名前を設定する。

#### [設定例]

メール送信サーバーの名前として `test_mail_server` を設定する。

```
SWX3200(config)#mail server smtp 1 name test_mail_server
```

### 4.21.3 メール通知のトリガー設定

---

#### [書式]

```
mail notify temp-id trigger lan-map [type [type ...]]
mail notify temp-id trigger terminal
mail notify temp-id trigger stack
no mail notify temp-id trigger lan-map
no mail notify temp-id trigger terminal
no mail notify temp-id trigger stack
```

#### [キーワード]

`lan-map` : LAN マップに関するイベントを通知する

`terminal` : 端末監視機能に関するイベントを通知する

`stack` : スタック機能に関するイベントを通知する

#### [パラメーター]

*temp-id* : <1-10>  
メールテンプレート ID  
イベント通知時に使用するテンプレートを指定する

*type* : LAN マップに関するイベントの種類

設定値	説明
hardware	本体異常
loop	ループ検出
sfp-power	SFP 受光レベル異常
queue-usage	送信キュー監視
poe	PoE 給電
snapshot	スナップショット
l2ms	L2MS マネージャの重複

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

指定した機能のイベント情報をメール通知するための設定を行う。

lan-map を指定して *type* を指定すると、指定した LAN マップに関するイベントだけが通知される。*type* を省略した場合は、LAN マップに関するすべてのイベントが通知される。**[ノート]**

スタック機能に関するイベント通知は、スタック機能に対応している機種のみ。

**[設定例]**

メールテンプレート #1 に LAN マップ異常検知のイベントトリガーを設定する。

```
SWX3200(config)#mail notify 1 trigger lan-map
```

**4.21.4 メール送信のテンプレート設定モード****[書式]****mail template *temp-id*****no template****[パラメーター]***temp-id* : <1-10>

メールテンプレート ID

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

メール送信時に使用するテンプレートを設定するモードに移行する。

テンプレートモードに移行することで下記の項目を設定することができる。テンプレートは最大 10 件作成可能。

- メール送信の宛先アドレス
- メール送信の送信元アドレス
- メール送信の件名
- メール送信待ち時間の設定(イベント通知のみ使用)

**[設定例]**

メールテンプレート #1 の設定モードに移行する。

```
SWX3200(config)#mail template 1
SWX3200(config-mail)#
```

### 4.21.5 メール送信のサーバー ID の設定

---

**[書式]**

**send server** *server-id*

**no send server**

**[パラメーター]**

*server-id* : <1-10>  
メールテンプレート ID

**[初期設定]**

no send server

**[入力モード]**

メールテンプレートモード

**[説明]**

使用するメールサーバーの ID を指定する。

**[設定例]**

メールテンプレート #1 で使用するメールサーバーにサーバー ID #1 を指定する。

```
SWX3200(config)#mail template 1  
SWX3200(config-mail)#send server 1
```

### 4.21.6 メール送信の送信元メールアドレスの設定

---

**[書式]**

**send from** *address*

**no send from** *address*

**[パラメーター]**

*address* : 送信元メールアドレス  
(256 文字以内、半角英数字と\_-.@)

**[初期設定]**

no send from

**[入力モード]**

メールテンプレートモード

**[説明]**

送信元メールアドレスを設定する。

**[設定例]**

メールテンプレート #1 の送信元メールアドレスに `sample@test.com` を指定する。

```
SWX3200(config)#mail template 1  
SWX3200(config-mail)#send from sample@test.com
```

### 4.21.7 メール送信の宛先メールアドレスの設定

---

**[書式]**

**send to** *address*

**no send to**

**[パラメーター]**

*address* : 宛先メールアドレス  
(256 文字以内、半角英数字と\_-.@)

**[初期設定]**

no send to



**[入力モード]**

メールテンプレートモード

**[説明]**

宛先メールアドレスを設定する。(最大 4 件)

**[ノート]**

本設定はイベント通知の宛先として使用され、証明書の配布先や通知先としては使用されない。

**[設定例]**

メールテンプレート #1 の宛先メールアドレスに `user@test.com` を指定する。

```
SWX3200(config)#mail template 1
SWX3200(config-mail)#send to user@test.com
```

## 4.21.8 メール送信の件名の設定

---

**[書式]**

**send subject** *subject*

**no send subject**

**[パラメーター]**

*temp-id* : メール送信時の件名  
(128 文字以内、?>を除く半角英数字・半角記号)

**[初期設定]**

no send subject

**[入力モード]**

メールテンプレートモード

**[説明]**

メール送信の件名を指定する。

**[ノート]**

未設定の場合は以下の件名となる。

- イベント通知 : Notification from SWX3200
- 証明書配布 : Certification publishment
- 証明書通知 : Certification expiration

**[設定例]**

メールテンプレート #1 のメール送信時の件名に "TestMail" を設定する。

```
SWX3200(config)#mail template 1
SWX3200(config-mail)#send subject TestMail
```

## 4.21.9 メール送信待ち時間の設定

---

**[書式]**

**send notify wait-time** *time*

**no send notify wait-time**

**[パラメーター]**

*time* : <1-86400>  
送信待ち時間(秒)

**[初期設定]**

send notify wait-time 30

**[入力モード]**

メールテンプレートモード

**[説明]**

イベント通知系のメールが実際に送信されるまでの待機時間を設定する。

**[ノート]**

本設定はイベント通知のメール送信待機時間として使用される。

**[設定例]**

メールテンプレート #1 のメール送信待ち時間に 60 秒を設定する。

```
SWX3200(config)#mail template 1
SWX3200(config-mail)#send notify wait-time 60
```

**4.21.10 証明書送付時のメール設定**

---

**[書式]**

```
mail send certificate temp-id
no mail send certificate
```

**[パラメーター]**

```
temp-id          : <1-10>
                  メールテンプレート ID
```

**[初期設定]**

```
no mail send certificate
```

**[入力モード]**

RADIUS コンフィグレーションモード

**[説明]**

RADIUS サーバーのクライアント証明書を送付するときに使用するテンプレート ID を指定する。

RADIUS サーバーのクライアント証明書は、RADIUS サーバー機能の `user` コマンドで指定したメールアドレスへ送付する。

**[ノート]**

RADIUS サーバーのクライアント証明書送付のメール本文例

```
-----
Certification is published.
Name : [名前] ※ user コマンドの NAME オプションの設定値
Account : [ユーザー名] ※ user コマンドの USERID 値
MAC address : XX:XX:XX:XX:XX:XX
Expire : YYYY/MM/DD
-----
```

**[設定例]**

RADIUS サーバーのクライアント証明書をメール送付するときに使用するテンプレート ID に #1 を指定する。

```
SWX3200(config-radius)#mail send certificate 1
```

**4.21.11 証明書通知時のメール設定**

---

**[書式]**

```
mail send certificate-notify temp-id
no mail send certificate-notify
```

**[パラメーター]**

```
temp-id          : <1-10>
                  メールテンプレート ID
```

**[初期設定]**

```
no mail send certificate-notify
```

**[入力モード]**

RADIUS コンフィグレーションモード

**[説明]**

RADIUS サーバーのクライアント証明書をメール通知するときに使用するテンプレートを指定する。

**[ノート]**

RADIUS サーバーのクライアント証明書の有効期間切れ事前通知のメール本文例

```
-----
Your certificate will expire in [X] days.
Name : [名前] ※ user コマンドの NAME オプションの設定値
Account : [ユーザー名] ※ user コマンドの USERID 値
MAC address : XX:XX:XX:XX:XX:XX
Expire : YYYY/MM/DD
-----
```

**[設定例]**

RADIUS サーバーのクライアント証明書をメール通知するときに使用するテンプレートに#2 を指定する。

```
SWX3200(config-radius)#mail send certificate-notify 2
```

### 4.21.12 証明書の有効期限切れ通知タイミングの設定

---

**[書式]**

```
mail certificate expire-notify day [day] [day]
no mail certificate expire-notify
```

**[パラメーター]**

```
day          : <1-90>
              有効期限切れを通知する残存日数
```

**[初期設定]**

```
mail certificate expire-notify 30
```

**[入力モード]**

RADIUS コンフィグレーションモード

**[説明]**

RADIUS サーバーのクライアント証明書の有効期限切れを事前に通知する日数を指定する。

通知日数は 3 件まで指定できる。

**[ノート]**

*day* は入力順序に関わらず、降順で表示される。

**[設定例]**

RADIUS サーバーのクライアント証明書の有効期限切れの事前通知を 50 日前と 10 日前に設定する。

```
SWX3200(config-radius)#mail certificate expire-notify 50 10
```

### 4.21.13 メール送信情報の表示

---

**[書式]**

```
show mail information [temp-id]
```

**[パラメーター]**

```
temp-id      : <1-10>
              メールテンプレート ID
```

**[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

指定したテンプレート ID のメール送信情報を表示する。

テンプレート ID を省略した場合は、全てのメール情報を表示する。

**[設定例]**

メールテンプレート #1 のメール情報を表示する。

```
SWX3200#show mail information 1
Template ID          : 1
Notify trigger      : lan-map, terminal, stack
LAN map notices     : hardware/loop/sfp-power/queue-usage/poe/snapshot/l2ms
Server host         : smtp-server.com
Server port         : 25
Encryption          : STARTTLS
Wait time           : 30 sec
Mail address (from) : sample@test.com
Mail address (to)   : user1@test.com
                   : user2@test.com
                   : user3@test.com
                   : user4@test.com
```

## 4.22 Yamaha Unified Network Operation Service (Y-UNOS)

---

### 4.22.1 Y-UNOS 機能の設定

---

**[書式]**

```
y-unos enable
y-unos disable
no y-unos
```

**[キーワード]**

```
enable      : Y-UNOS 機能を有効にする
disable     : Y-UNOS 機能を無効にする
```

**[初期設定]**

```
y-unos enable
```

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

Y-UNOS (Yamaha Unified Network Operation Service:ネットワークを介してデバイス同士を連携するサービス) 機能を有効または無効にする。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

**[ノート]**

Y-UNOS 機能は保守 VLAN のみで動作する。保守 VLAN に IPv4 アドレスが設定されていない場合や、保守 VLAN がリンクダウンしている状態では Y-UNOS 機能を停止する。

Y-UNOS 機能の有効化/無効化には最大 1 秒かかる場合がある。

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

**[設定例]**

Y-UNOS 機能を有効にする。

```
SWX3200(config)#y-unos enable
```

Y-UNOS 機能を無効にする。

```
SWX3200(config)#y-unos disable
```

### 4.22.2 Y-UNOS 情報の表示

---

**[書式]**

```
show y-unos
```

**[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

Y-UNOS に関する設定やステータスの情報を表示する。

表示内容は以下のとおり。

- Y-UNOS 機能の設定(Y-UNOS)
- Y-UNOS 機能の状態(Status)
- Y-UNOS 機能の IPv4 アドレス(IPv4-Address)
  - 保守 VLAN の IPv4 アドレスと ID を表示する
- 検出機器の一覧
  - モデル名(Model)
  - シリアル番号(Serial)
  - ファームウェアバージョン(Version)
  - MAC アドレス(MAC-Address)
  - IPv4 アドレス(IPv4-Address)
  - ホスト名(HostName)

Y-UNOS 機能の状態(Status)では以下のいずれかを表示する。

Status	説明
Active	Y-UNOS 機能が動作している状態
Inactive(stack enable)	Y-UNOS 機能が動作していない状態(スタック機能が有効になっている) ※スタック対応機種のみ
Inactive(no ipv4 address)	Y-UNOS 機能が動作していない状態(保守 VLAN に IPv4 アドレスが設定されていない、または保守 VLAN がリンクダウンしている)
Disable	Y-UNOS 機能が無効な状態

**[設定例]**

Y-UNOS 情報を表示する。

```
SWX3200>show y-unos
Y-UNOS      : Enable
Status      : Active
IPv4 address : 192.168.10.6 (vlan1)

Model      Serial      Version      MAC-Address      IPv4-Address      HostName
-----
RM-CR      RMCR00001  V2.0.0      0000.0000.0000  192.168.10.5      RMCR-hostname
SWX3220-16MT  Z740000000 Rev.4.02.11 0000.0000.0000  192.168.10.4      SWX3220
SWX2310-28GT  Z610000000 Rev.2.04.15 0000.0000.0000  192.168.10.28     SW-Hostname002
```

## 4.23 LLDP

### 4.23.1 LLDP 機能の有効化

**[書式]**

```
lldp run
no lldp run
```

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

システム全体で LLDP 機能を有効にする。

no 形式で実行した場合は、システム全体で LLDP 機能を無効にする。

**[ノート]**

ポートに対して LLDP 機能を有効にするには以下のコマンドを設定する必要がある。

**set lldp enable** コマンドの *type* (LLDP エージェントモード)は必要に応じて txrx, txonly, rxonly を設定する。

- **lldp run** (グローバルコンフィグレーションモード)
- **lldp-agent** (インターフェースモード)
- **set lldp enable type** (LLDP エージェントモード)

**[設定例]**

LAN ポート #1 の LLDP 機能の送受信を有効にする。

```
SWX3200#configure terminal
Enter configuration commands, one per line.  End with CNTL/Z.
SWX3200(config)#lldp run
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#lldp-agent
SWX3200(lldp-agent)#set lldp enable txrx
```

**4.23.2 システムの説明文の設定****[書式]**

**lldp system-description line**

**no lldp system-description**

**[パラメーター]**

*line* : システムの説明文の文字列(255 文字以内)

**[初期設定]**

no lldp system-description

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

LLDP 機能で使用する、システムの説明文を設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

初期設定の値は、「機種名+ファームウェアリビジョン」である。

**[設定例]**

システムの説明文を SWITCH1\_POINT\_A にする。

```
SWX3200(config)#lldp system-description SWITCH1_POINT_A
```

**4.23.3 システムの名称の設定****[書式]**

**lldp system-name name**

**no lldp system-name**

**[パラメーター]**

*name* : システムの名称の文字列(255 文字以内)

**[初期設定]**

no lldp system-name

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

LLDP 機能で使用する、システムの名称を設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

初期設定の値は「機種名」である。

設定値は LLDP System Name TLV に設定される。

#### [設定例]

システムの名称を SWITCH1 にする。

```
SWX3200(config)#lldp system-name SWITCH1
```

### 4.23.4 LLDP エージェントの作成

#### [書式]

```
lldp-agent
no lldp-agent
```

#### [初期設定]

なし

#### [入力モード]

インターフェースモード

#### [説明]

LLDP エージェントを作成し、LLDP エージェントモードに遷移する。

no 形式で実行した場合は、LLDP エージェントを削除する。

#### [ノート]

LLDP エージェントを削除すると LLDP エージェントモードで設定したコマンドも削除される。

#### [設定例]

port1.1 で LLDP エージェントを作成し、LLDP エージェントモードに移行する。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#lldp-agent
SWX3200(lldp-agent)#
```

### 4.23.5 LLDP による自動設定機能の設定

#### [書式]

```
lldp auto-setting switch
no lldp auto-setting
```

#### [パラメーター]

*switch* : LLDP による自動設定機能の設定

設定値	説明
enable	LLDP による自動設定機能を有効にする
disable	LLDP による自動設定機能を無効にする

#### [初期設定]

lldp auto-setting disable

#### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

#### [説明]

特定のヤマハ機器が送信する LLDP フレームにより、スイッチの設定を自動的に変更する機能を有効にする。

また、**power-inline disable delay** コマンドによる給電停止タイミングの通知機能を有効にする。

LLDP フレームでは以下の機能が設定される。

- フロー制御
- QoS
- IGMP スヌーピング
- EEE

- RADIUS サーバーホスト
- 端末監視

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

物理インターフェースのみに設定できる。

#### [ノート]

本機能を使用するためには、**set lldp enable** コマンドで、LLDP フレームを受信できる設定にする必要がある。

#### [設定例]

LLDP による自動設定機能を有効にする。

```
SWX3200(config)#lldp auto-setting enable
```

### 4.23.6 LLDP 送受信モードの設定

#### [書式]

**set lldp enable type**

**set lldp disable**

**no set lldp enable**

#### [パラメーター]

*type* : 送受信モード

設定値	説明
rxonly	受信専用を設定する
txonly	送信専用を設定する
txrx	送信および受信を設定する

#### [初期設定]

set lldp disable

#### [入力モード]

LLDP エージェントモード

#### [説明]

対象インターフェースでの LLDP フレームの送受信モードを設定する。

**set lldp disable** の場合は、LLDP フレームを送受信しない。

no 形式で実行した場合は、初期設定に戻る。

#### [設定例]

LAN ポート #1 の LLDP 送受信モードを受信専用を設定する。

```
SWX3200(config)#lldp run
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#lldp-agent
SWX3200(lldp-agent)#set lldp enable rxonly
```

### 4.23.7 管理アドレスの種類の設定

#### [書式]

**set management-address-tlv type**

**no set management-address-tlv**

#### [パラメーター]

*type* : 管理アドレスの種類

設定値	説明
ip-address	管理アドレスを IP アドレスとする
mac-address	管理アドレスを MAC アドレスとする



**[初期設定]**

```
set management-address-tlv ip-address
```

**[入力モード]**

LLDP エージェントモード

**[説明]**

LLDP で使用する、ポートの管理アドレスの種類を設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

設定値は LLDP Management Address TLV に設定される。

**[設定例]**

LAN ポート #1 の管理アドレスの種類を MAC アドレスに設定する。

```
SWX3200(config)#lldp run
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#lldp-agent
SWX3200(lldp-agent)#set management-address mac-address
```

**4.23.8 基本管理 TLV の設定**

---

**[書式]**

```
tlv-select basic-mgmt
no tlv-select basic-mgmt
```

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

LLDP エージェントモード

**[説明]**

送信フレームに基本管理 TLV を追加する。

no 形式で実行した場合は、送信フレームから基本管理 TLV を除く。

このコマンドで以下の TLV が LLDP フレームに追加される。

<基本管理 TLV>

- (1) Port Description TLV : ポートの説明文
- (2) System Name TLV : システムの名称
- (3) System Description TLV : システムの説明文
- (4) System Capabilities TLV : システムの能力
- (5) Management Address TLV : ポートの管理用アドレス (MAC アドレスまたは IP アドレス)

**[設定例]**

LAN ポート #1 で送信する LLDP フレームに基本管理 TLV を追加する。

```
SWX3200(config)#lldp run
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#lldp-agent
SWX3200(lldp-agent)#tlv-select basic-mgmt
```

**4.23.9 IEEE-802.1 TLV の設定**

---

**[書式]**

```
tlv-select ieee-8021-org-specific
no tlv-select ieee-8021-org-specific
```

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

LLDP エージェントモード

**[説明]**

送信フレームに IEEE-802.1 TLV を追加する。

no 形式で実行した場合は、送信フレームから IEEE-802.1 TLV を除く。

このコマンドで以下の TLV が LLDP フレームに追加される。

<IEEE-802.1 TLV>

- (1) Port VLAN ID : ポート VLAN ID
- (2) Port and Protocol VLAN ID : プロトコル VLAN ID
- (3) Protocol Identity : サポートするプロトコルのリスト
- (4) Link Aggregation : リンクアグリゲーション情報
- (5) VLAN Name : ポート VLAN の名称

**[設定例]**

LAN ポート #1 で送信する LLDP フレームに IEEE-802.1 TLV を追加する。

```
SWX3200(config)#lldp run
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#lldp-agent
SWX3200(lldp-agent)#tlv-select ieee-8021-org-specific
```

**4.23.10 IEEE-802.3 TLV の設定**

---

**[書式]**

```
tlv-select ieee-8023-org-specific
no tlv-select ieee-8023-org-specific
```

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

LLDP エージェントモード

**[説明]**

送信フレームに IEEE-802.3 TLV を追加する。

no 形式で実行した場合は、送信フレームから IEEE-802.3 TLV を除く。

このコマンドで以下の TLV が LLDP フレームに追加される。

<IEEE-802.3 TLV>

- (1) MAC/PHY Configuration/Status : オートネゴシエーションのサポート情報
- (2) Power Via MDI : PoE 情報 (PoE 機能のある機種のみ)
- (3) Link Aggregation : リンクアグリゲーション情報
- (4) Maximum Frame Size : 最大フレームサイズ

**[設定例]**

LAN ポート #1 で送信する LLDP フレームに IEEE-802.3 TLV を追加する。

```
SWX3200(config)#lldp run
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#lldp-agent
SWX3200(lldp-agent)#tlv-select ieee-8023-org-specific
```

**4.23.11 LLDP-MED TLV の設定**

---

**[書式]**

```
tlv-select med
no tlv-select med
```

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

LLDP エージェントモード

**[説明]**

送信フレームに LLDP-MED TLV を追加する。

no 形式で実行した場合は、送信フレームから LLDP-MED TLV を除く。

このコマンドで以下の TLV が LLDP フレームに追加される。

<LLDP-MED TLV>

- (1) Media Capabilities : 送信する LLDP-MED TLV の種類
- (2) Network Policy : Voice VLAN 情報(Voice VLAN が設定されているポートのみ)
- (3) Extended Power-via-MDI : 拡張 PoE 情報(PoE 機能のある機種のみ)

**[ノート]**

Location Identification TLV の値は "Location" が設定されている。

**[設定例]**

LAN ポート #1 で送信する LLDP フレームに LLDP-MED TLV を追加する。

```
SWX3200(config)#lldp run
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#lldp-agent
SWX3200(lldp-agent)#tlv-select med
```

**4.23.12 LLDP フレームの送信間隔の設定****[書式]**

```
set timer msg-tx-interval tx_interval
no set timer msg-tx-interval
```

**[パラメーター]**

*tx\_interval* : <5-3600>  
LLDP フレーム送信間隔(秒)

**[初期設定]**

```
set timer msg-tx-interval 30
```

**[入力モード]**

LLDP エージェントモード

**[説明]**

LLDP フレームの送信間隔を設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

**[設定例]**

LAN ポート #1 で送信する LLDP フレームの送信間隔を 60 秒に設定する。

```
SWX3200(config)#lldp run
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#lldp-agent
SWX3200(lldp-agent)#set timer msg-tx-interval 60
```

**4.23.13 高速送信期間の LLDP フレーム送信間隔の設定****[書式]**

```
set timer msg-fast-tx fast_tx
no set timer msg-fast-tx
```

**[パラメーター]**

*fast\_tx* : <1-3600>  
高速送信期間の LLDP フレーム送信間隔(秒)

**[初期設定]**

```
set timer msg-fast-tx 1
```

**[入力モード]**

LLDP エージェントモード

**[説明]**

高速送信期間の LLDP フレーム送信間隔を設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

高速送信期間とはポートの接続機器が新しく見つかった直後の期間で、高速送信期間設定用の以下のコマンドに従い LLDP フレームが送信される。

- **set timerx msg-fast-tx fast\_tx**: 高速送信期間の送信間隔(秒)を設定する。
- **set tx-fast-init value**: 高速送信期間に送信する LLDP フレームの個数を設定する。

**[設定例]**

LAN ポート #1 で高速送信期間の LLDP フレーム送信間隔を 2 秒に設定する。

```
SWX3200(config)#lldp run
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#lldp-agent
SWX3200(lldp-agent)#set timer msg-fast-tx 2
```

**4.23.14 LLDP フレーム送信停止から再初期化までの時間の設定****[書式]**

```
set timer reinit-delay reinit_delay
no set timer reinit-delay
```

**[パラメーター]**

```
reinit_delay      : <1-10>
                  LLDP フレーム送信停止から再初期化までの時間(秒)
```

**[初期設定]**

```
set timer reinit-delay 2
```

**[入力モード]**

LLDP エージェントモード

**[説明]**

LLDP フレーム送信停止から再初期化までの時間を設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

**[設定例]**

LAN ポート #1 で LLDP フレーム送信停止から再初期化までの時間を 10 秒に設定する。

```
SWX3200(config)#lldp run
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#lldp-agent
SWX3200(lldp-agent)#set timer reinit-delay 10
```

**4.23.15 機器情報の保持時間(TTL)を算出するための乗数の設定****[書式]**

```
set msg-tx-hold value
no set msg-tx-hold
```

**[パラメーター]**

```
value            : <1-100>
                  機器情報の保持時間(TTL)の値を算出するための乗数
```

**[初期設定]**

```
set msg-tx-hold 4
```

**[入力モード]**

LLDP エージェントモード

**[説明]**

機器情報の保持時間 (TTL) を算出するための乗数を設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

この設定値は LLDP フレーム送信間隔(msg-tx-interval)に乗算され、さらに + 1 して TTL 値(秒)となる。

TTL 値は、Time To Live TLV に設定される。

$TTL = \text{msg-tx-interval} \times \text{msg-tx-hold} + 1$  (秒)

**[設定例]**

LAN ポート #1 で機器情報の保持時間 (TTL) を算出するための乗数を 2 に設定する。

```
SWX3200(config)#lldp run
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#lldp-agent
SWX3200(lldp-agent)#set msg-tx-hold 2
```

**4.23.16 高速送信期間の LLDP フレーム送信個数の設定****[書式]**

**set tx-fast-init value**

**no set tx-fast-init**

**[パラメーター]**

*value* : <1-8>

高速送信期間の LLDP フレーム送信個数

**[初期設定]**

set tx-fast-init 4

**[入力モード]**

LLDP エージェントモード

**[説明]**

高速送信期間の LLDP フレーム送信個数を設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

**[設定例]**

LAN ポート #1 で高速送信期間の LLDP フレーム送信個数を 2 に設定する。

```
SWX3200(config)#lldp run
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#lldp-agent
SWX3200(lldp-agent)#set tx-fast-init 2
```

**4.23.17 ポート単位で管理できる機器の最大接続台数の設定****[書式]**

**set too-many-neighbors limit max\_value**

**no set too-many-neighbors limit**

**[パラメーター]**

*max\_value* : <1-1000>

ポート単位で管理できる機器の最大接続台数

**[初期設定]**

set too-many-neighbors limit 5

**[入力モード]**

LLDP エージェントモード

**[説明]**

ポート単位で管理できる機器の最大台数を設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定にも戻る。

ポートの最大接続台数を超えた場合、新しい機器から送信された LLDP フレームは無視する。

#### [ノート]

コマンドを設定すると、対象ポートで最初の LLDP フレームを受信したときに一度、リモート機器管理テーブルがクリアされる。

#### [設定例]

LAN ポート #1 でポート単位で管理できる機器の最大台数を 10 に設定する。

```
SWX3200(config)#lldp run
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#lldp-agent
SWX3200(lldp-agent)#set too-many-neighbors limit 10
```

### 4.23.18 LLDP 機能のインターフェース一括設定

#### [書式]

**lldp interface enable** *type*

**lldp interface disable**

#### [キーワード]

enable : LLDP 機能を有効にする  
 disable : LLDP 機能を無効にする

#### [パラメーター]

*type* : 送受信モード

設定値	説明
rxonly	受信専用を設定する
txonly	送信専用を設定する
txrx	送信および受信を設定する

#### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

#### [説明]

LLDP 機能の有効/無効を全ての LAN/SFP ポートに一括設定する。

有効設定の場合は、指定した LLDP フレームの送受信モードを設定する。

#### [ノート]

本コマンドはグローバルコンフィグレーションモードのみ実行可能。

なお、本コマンドは各インターフェースの LLDP 設定をするためのものであり、running-config には表示されない。

#### [設定例]

全ての LAN/SFP ポートの LLDP 機能を有効にし、LLDP フレームを送受信可能なモードに設定する。

```
SWX3200(config)#lldp interface enable txrx
```

### 4.23.19 インターフェースの状態表示

#### [書式]

**show lldp interface** *ifname* [*neighbor*]

#### [キーワード]

neighbor : 接続している機器の情報を表示する。

#### [パラメーター]

*ifname* : LAN/SFP ポートのインターフェース名  
 表示するインターフェース

[入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

[説明]

*ifname* で指定したインターフェースの LLDP 情報を表示する。

*neighbor* を指定した場合はインターフェースに接続している機器の情報を表示する。

以下の項目が表示される。

**show lldp interface *ifname*** の場合

- インターフェース及びその統計情報

Agent Mode	ブリッジモード(Nearest bridge 固定)
Enable (tx/rx)	送信モード/受信モード (Y : 可能、N : 不可)
Message fast transmit time	高速送信期間の LLDP フレーム送信間隔(秒)
Message transmission interval	LLDP フレーム送信間隔(秒)
Reinitialisation delay	送信停止後から再初期化までの時間(秒)
MED Enabled	LLDP-MED TLV 送信の有効/無効
Device Type	デバイスタイプ(NETWORK_CONNECTIVITY 固定)
Total frames transmitted	LLDP フレームの送信数
Total entries aged	TTL 秒以上受信がなく、管理テーブルから削除された機器の数
Total frames received	LLDP フレームの受信数
Total frames received in error	LLDP フレームの受信エラー数
Total frames discarded	破棄された LLDP フレームの数
Total discarded TLVs	破棄された TLV の数
Total unrecognised TLVs	認識できなかった TLV の数

**show lldp interface *ifname* neighbor** の場合

- 基本管理情報

Interface Name	受信したインターフェース名
System Name	システム名称
System Description	システムの説明
Port Description	ポートの説明
System Capabilities	システムの能力
Interface Numbering	インターフェース番号のタイプ
Interface Number	インターフェース番号
OID Number	OID 番号
Management Address	MAC アドレスまたは IP アドレス

- Mandatory TLV の情報

CHASSIS ID TYPE	CHASSIS ID TLV のタイプと値
PORT ID TYPE	PORT ID TLV のタイプと値
TTL (Time To Live)	機器情報の保持時間(秒)

- 8021 ORIGIN SPECIFIC TLV の情報

Port Vlan id	ポート VLAN の ID
PP Vlan id	プロトコル VLAN の ID

VLAN ID	ポート VLAN の ID
VLAN Name	ポート VLAN の名称
Remote Protocols Advertised	サポートするプロトコルのリスト
Remote VID Usage Digestt	VID Usage Digestt 値
Remote Management Vlan	管理用 VLAN の名称
Link Aggregation Status	リンクアグリゲーションの有効/無効
Link Aggregation Port ID	リンクアグリゲーションポートの ID

- 8023 ORIGIN SPECIFIC TLV の情報

AutoNego Support	オートネゴシエーション機能の有効/無効
AutoNego Capability	オートネゴシエーション可能な通信方式
Operational MAU Type	通信速度とデュプレックスモード
MDI power support	PoE 機能サポートの有無
PSE power pair	PSE パワーペアー
Power class	PoE 給電クラス
Type/source/priority	PoE 給電タイプ、ソース、優先度
PD requested power value	PD 機器が要求する電力 (0.1mW 単位)
PSE allocated power value	PSE 機器が給電できる電力 (0.1mW 単位)
Link Aggregation Status	リンクアグリゲーションの有効/無効
Link Aggregation Port ID	リンクアグリゲーションポートの ID
Max Frame Size	最大フレームサイズ

- LLDP-MED TLV の情報 (LLDP-MED TLV を受信した場合に表示される)

MED Capabilities	LLDP-MED TLV の種類のリスト
MED Capabilities Dev Type	LLDP-MED メディアデバイスタイプ
MED Application Type	アプリケーションタイプ
MED Vlan id	VLAN の ID
MED Tag/Untag	VLAN タグの有無
MED L2 Priority	L2 の優先度
MED DSCP Val	DSCP 値の優先度
MED Location Data Format	位置情報のフォーマット
Latitude Res	緯度の分解能(有効な上位ビット数)
Latitude	緯度(34 ビット)
Longitude Res	経度の分解能(有効な上位ビット数)
Longitude	経度(34 ビット)
AT	高度タイプ
	1:メーター
	2:ビルフロア
Altitude Res	高度の分解能(有効な上位ビット数)
Altitude	高度(30 ビット)



Datum	測地基準
	0:米国の世界測地系(WGS 84)
	1:北アメリカ測地系(NAD 83)
	2:北アメリカ測地系(NAD 83)の平均既往最低潮位
LCI length	位置情報データの長さ
What	場所の参照位置
	0:DHCP サーバーの場所
	1:クライアントに最も近いと考えられるネットワーク要素の位置
	2:クライアントの位置
Country Code	国コード
CA type	CA (Civic Address) タイプ
MED Inventory	Inventory 情報リスト

位置情報に関しては RFC 3825 を参照

#### [設定例]

LAN ポート #1 の LLDP 情報を表示する。

```
SWX3200#show lldp interface port1.1
Agent Mode           : Nearest bridge
Enable (tx/rx)       : Y/Y
Message fast transmit time : 1
Message transmission interval : 30
Reinitialisation delay : 2
MED Enabled          : Y
Device Type          : NETWORK_CONNECTIVITY
LLDP Agent traffic statistics
  Total frames transmitted : 0
  Total entries aged       : 0
  Total frames received    : 0
  Total frames received in error : 0
  Total frames discarded   : 0
  Total discarded TLVs     : 0
  Total unrecognised TLVs : 0
SWX3200#
```

## 4.23.20 全てのインターフェースにおける接続機器の情報表示

#### [書式]

```
show lldp neighbors
```

#### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

#### [説明]

全てのインターフェースにおける接続機器の情報を表示する。

(表示形式は **show lldp interface ifname neighbor** コマンドを参照)

#### [設定例]

接続している機器の情報を表示する。

```
SWX3200#show lldp neighbors
Interface Name       : port1.1
System Name          : SWX3200-28GT
System Description   : SWX3200 Rev.4.00.05 (Fri Mar 9 09:34:05 2018)
Port Description     : port1.3
System Capabilities  : L2 Switching
Interface Numbering  : 2
Interface Number     : 5003
OID Number           :
Management MAC Address : ac44.f230.0000
Mandatory TLVs
```

```

CHASSIS ID TYPE
  IP ADDRESS          : 0.0.0.0
PORT ID TYPE
  INTERFACE NAME     : port1.3
TTL (Time To Live)  : 41
8021 ORIGIN SPECIFIC TLVs
  Port Vlan id       : 1
  PP Vlan id         : 0
  Remote VLANs Configured
    VLAN ID          : 1
    VLAN Name        : default
  Remote Protocols Advertised :
    Multiple Spanning Tree Protocol
  Remote VID Usage Digestt : 0
  Remote Management Vlan : 0
  Link Aggregation Status :
  Link Aggregation Port ID :
8023 ORIGIN SPECIFIC TLVs
  AutoNego Support   : Supported Enabled
  AutoNego Capability : 27649
  Operational MAU Type : 30
  Power via MDI Capability (raw data)
    MDI power support : 0x0
    PSE power pair    : 0x0
    Power class       : 0x0
    Type/source/priority : 0x0
    PD requested power value : 0x0
    PSE allocated power value : 0x0
  Link Aggregation Status :
  Link Aggregation Port ID :
  Max Frame Size      : 1522
LLDP-MED TLVs
  MED Capabilities :
    Capabilities
    Network Policy
  MED Capabilities Dev Type : End Point Class-3
  MED Application Type     : Reserved
  MED Vlan id              : 0
  MED Tag/Untag            : Untagged
  MED L2 Priority          : 0
  MED DSCP Val             : 0
  MED Location Data Format : ECS ELIN
    Latitude Res          : 0
    Latitude              : 0
    Longitude Res         : 0
    Longitude             : 0
    AT                    : 0
    Altitude Res          : 0
    Altitude              : 0
    Datum                 : 0
    LCI length            : 0
    What                  : 0
    Country Code          : 0
    CA type               : 0
  MED Inventory
SWX3200#

```

#### 4.23.21 LLDP フレームカウンターのクリア

##### [書式]

```
clear lldp counters
```

##### [入力モード]

特権 EXEC モード

##### [説明]

全てのポートの LLDP フレームカウンターをクリアする。

##### [設定例]

LLDP フレームカウンターをクリアする。

```
SWX3200>clear lldp counters
```

## 4.24 L2MS (Layer 2 management service)の設定

### 4.24.1 L2MS モードへの移行

#### [書式]

```
l2ms configuration
```

#### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

#### [説明]

L2MS の設定を行うための L2MS モードに移行する。

#### [ノート]

L2MS モードからグローバルコンフィグレーションモードに戻るには **exit** コマンドを使用し、特権 EXEC モードに戻るには **end** コマンドを使用する。

#### [設定例]

L2MS モードに移行する。

```
SWX3200 (config)#l2ms configuration
SWX3200 (config-l2ms)#
```

### 4.24.2 L2MS 機能の設定

#### [書式]

```
l2ms enable
```

```
l2ms disable
```

```
no l2ms
```

#### [キーワード]

enable : L2MS 機能を使用する

disable : L2MS 機能を使用しない

#### [初期設定]

l2ms enable

#### [入力モード]

L2MS モード

#### [説明]

L2MS 機能を使用するか否かを設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

#### [設定例]

L2MS 機能を使用する。

```
SWX3200 (config)#l2ms configuration
SWX3200 (config-l2ms)#l2ms enable
```

### 4.24.3 L2MS 機能の役割の設定

#### [書式]

```
l2ms role role
```

```
no l2ms role
```

#### [パラメーター]

role : L2MS 機能の役割

設定値	説明
manager	配下に接続した SWX シリーズや WLX302 シリーズの設定・制御を行う L2MS マネージャーとして動作する
agent	ルーター、ファイアーウォール、L2MS マネージャーに設定された SWX シリーズ等、L2MS マネージャーとして動作するヤマハ機器から管理されるよう動作する

**[初期設定]**

l2ms role agent

**[入力モード]**

L2MS モード

**[説明]**

L2MS 機能を使用する際の役割を設定する。

no 形式で実行した場合は agent として動作する。

**[ノート]**

同一ネットワーク内に L2MS (スイッチ制御機) 機能を有効にしたヤマハルーターやファイアーウォール、L2MS マネージャーに設定された SWX シリーズが複数存在した場合、L2MS 機能が正常に動作しません。

同一ネットワークには、L2MS マネージャーとなる機器が 1 台となるようにしてください。

**[設定例]**

L2MS 機能をマネージャーとして使用する。

```
SWX3200(config)#l2ms configuration
SWX3200(config-l2ms)#l2ms enable
SWX3200(config-l2ms)#l2ms role manager
```

#### 4.24.4 L2MS エージェントの監視時間間隔の設定

**[書式]**

**agent-watch interval** *time*

**no agent-watch interval**

**[パラメーター]**

*time* : <2-10>  
監視時間間隔(秒)

**[初期設定]**

agent-watch interval 3

**[入力モード]**

L2MS モード

**[説明]**

L2MS のエージェントを探索するフレームの送信時間間隔を設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

*time* を大きな値に設定した場合、探索フレームの送信頻度は減るが、L2MS のエージェントを接続してから L2MS マネージャーが認識するまでの時間が長くなる。*time* を小さな値に設定した場合はその逆となり、探索フレームの送信頻度は増えるが、L2MS のエージェントを接続してから L2MS マネージャーが認識するまでの時間が短くなる。

**[ノート]**

L2MS のエージェントの監視は L2MS がマネージャーとして動作している場合のみ行う。

**[設定例]**

監視時間間隔を 5 秒に設定する。

```
SWX3200(config)#l2ms configuration
SWX3200(config-l2ms)#l2ms enable
SWX3200(config-l2ms)#l2ms role manager
SWX3200(config-l2ms)#agent-watch interval 5
```

#### 4.24.5 L2MS エージェントのダウン検出を判断する回数の設定

##### [書式]

```
agent-watch down-count count
no agent-watch down-count
```

##### [パラメーター]

*count* : <2-10>  
           ダウンと判断する回数

##### [初期設定]

```
agent-watch down-count 3
```

##### [入力モード]

L2MS モード

##### [説明]

L2MS エージェントからの応答フレームを受信せずダウンしたと判断するまでの探索フレーム送信回数を設定する。  
 no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

探索フレームを *count* で設定した回数送信しても L2MS エージェントから応答フレームを受信しない場合、当該 L2MS エージェントはダウンしたと判断する。

##### [ノート]

L2MS エージェントを接続しているポートがリンクダウンした場合は、当コマンドの設定よりも早いタイミングで L2MS エージェントがダウンしたと判断することがある。

L2MS のエージェントの監視は L2MS がマネージャーとして動作している場合のみ行う。

##### [設定例]

ダウン検出を判断する回数を 8 回に設定する。

```
SWX3200(config)#l2ms configuration
SWX3200(config-l2ms)#l2ms enable
SWX3200(config-l2ms)#l2ms role manager
SWX3200(config-l2ms)#agent-watch down-count 8
```

#### 4.24.6 端末の管理機能の設定

##### [書式]

```
terminal-watch enable
terminal-watch disable
no terminal-watch
```

##### [キーワード]

enable : 端末の管理機能を有効にする  
 disable : 端末の管理機能を有効にしない

##### [初期設定]

```
terminal-watch disable
```

##### [入力モード]

L2MS モード

##### [説明]

端末の管理機能を有効にする。有効になると定期的にネットワーク内に存在する端末情報の取得を行う。

no 形式で実行した場合は、端末の管理機能が無効となる。

**[ノート]**

端末の管理は L2MS がマネージャーとして動作している場合のみ行う。

**[設定例]**

端末の管理機能を有効にする。

```
SWX3200(config)#l2ms configuration
SWX3200(config-l2ms)#l2ms enable
SWX3200(config-l2ms)#l2ms role manager
SWX3200(config-l2ms)#terminal-watch enable
```

**4.24.7 端末情報の取得時間間隔の設定****[書式]**

**terminal-watch interval *time***  
**no terminal-watch interval**

**[パラメーター]**

*time* : <1800-86400>  
 取得時間間隔(秒)

**[初期設定]**

terminal-watch interval 1800

**[入力モード]**

L2MS モード

**[説明]**

ネットワークの端末情報を取得する時間間隔を設定する。*time* に設定した時間が経過すると、ネットワークに存在する端末の情報を取得する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

**[ノート]**

端末の管理機能が有効ではない場合、本コマンドの設定に関わらず、端末情報の取得は行わない。

**[設定例]**

端末情報の取得間隔を 3600 秒に設定する。

```
SWX3200(config)#l2ms configuration
SWX3200(config-l2ms)#l2ms enable
SWX3200(config-l2ms)#l2ms role manager
SWX3200(config-l2ms)#terminal-watch enable
SWX3200(config-l2ms)#terminal-watch interval 3600
```

**4.24.8 L2MS 制御フレームの送受信設定****[書式]**

**l2ms filter enable**  
**l2ms filter disable**  
**no l2ms filter**

**[キーワード]**

enable : L2MS の制御フレームを送受信できない  
 disable : L2MS の制御フレームを送受信できる

**[初期設定]**

l2ms filter disable

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

L2MS の制御フレームを送受信するか否かを設定する。

no 形式で実行した場合は、L2MS の制御フレームを送受信できるようになる。

**[ノート]**

本コマンドは、以下のインターフェースには設定できない。

- VLAN インターフェース
- 論理インターフェースに收容されている物理インターフェース

論理インターフェースに收容されている物理インターフェースは、收容先の本コマンドの設定に従って動作する。なお、物理インターフェースを論理インターフェースに收容する場合に、物理インターフェースの設定は初期値に戻る。

本コマンドの設定に関わらず、以下のいずれかの条件を満たしている場合は、L2MS の制御フレームが送受信されないことがある。

- STP またはループ検出機能によってインターフェースが **Blocking** 状態になっている
- **switchport trunk native vlan none** コマンドが設定されている
- 論理インターフェースに收容されている

**[設定例]**

port1.5 で L2MS の制御フレームを送受信しないようにする。

```
SWX3200(config)#interface port1.5
SWX3200(config-if)#l2ms filter enable
```

**4.24.9 L2MS エージェントの管理のリセット****[書式]**

**l2ms reset**

**[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

L2MS マネージャーが管理している全ての L2MS エージェントを管理下から外して、L2MS エージェントの探索をやり直す。

**[ノート]**

L2MS がマネージャーとして動作している場合のみ実行できる。

本コマンドを実行すると、管理されていた L2MS エージェントも自身を L2MS マネージャーの被管理状態から外す。

本コマンドを実行した後に再び L2MS エージェントを探索するタイミングは、**agent-watch interval** コマンドで設定した時間に依存する。

**[設定例]**

L2MS エージェントの管理をリセットする。

```
SWX3200#l2ms reset
```

**4.24.10 L2MS の情報の表示****[書式]**

**show l2ms [detail]**

**[キーワード]**

detail : 詳細情報も表示する

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

L2MS の動作状態に応じて、以下の情報を表示する。

- L2MS がマネージャーとして動作している場合
  - 管理している L2MS エージェントの数
  - 管理している L2MS エージェントの情報
    - MAC アドレス
    - 機種名
    - 機器名

- 経路
- アップリンクポート
- 適用されている設定
- L2MS がマネージャーとして動作していて、**detail** を指定した場合
  - L2MS マネージャーの情報
    - L2MS マネージャーに接続されている端末の数
    - L2MS マネージャーに接続されている端末の情報
      - MAC アドレス
      - 接続されているポート
      - 端末を発見した時刻
  - 管理している L2MS エージェントの数
  - 管理している L2MS エージェントの情報
    - MAC アドレス
    - 機種名
    - 機器名
    - 経路
    - リンクアップしているポート
    - アップリンクポート
    - ダウンリンクポート
    - 適用されている設定
    - L2MS エージェントに接続されている端末の数
    - L2MS エージェントに接続されている端末の情報 (スイッチの場合)
      - MAC アドレス
      - 接続されているポート
      - 端末を発見した時刻
    - L2MS エージェントに接続されている端末の情報 (AP の場合)
      - 接続されている SSID
      - 接続されている周波数
      - 端末を発見した時刻
- L2MS がエージェントとして動作している場合
  - L2MS マネージャーに管理されているか否か
  - L2MS マネージャーの MAC アドレス(管理されている場合)

#### [ノート]

L2MS が動作していない場合、情報は表示されない。

detail の指定は、L2MS がマネージャーとして動作している場合のみ有効である。

#### [設定例]

L2MS がマネージャーとして動作している場合の L2MS 情報の詳細を表示する。

```
SWX3200>show l2ms detail
Role : Manager

[Manager]
Number of Terminals      : 0

[Agent]
Number of Agents         : 2
[ac44.f230.00a5]
Model name               : SWX2100-24G
Device name              : SWX2100-24G_z5301050WX
Route                    : port2.1
LinkUp                   : 1, 3, 9
  Uplink                  : 1
  Downlink                : 3
Config                   : None
Appear time               : Tue Mar 13 18:43:18 2018
Number of Terminals      : 1
[bcae.c5a4.7fb3]
Port                     : 9
```



```

Appear time      : Wed Mar 14 14:01:18 2018

[00a0.deae.b8bf]
Model name      : SWX2300-24G
Device name     : SWX2300-24G_S4L000401
Route          : port2.1-3
LinkUp         : 1
  Uplink       : 1
  Downlink    : None
Config        : None
Appear time    : Tue Mar 13 18:43:18 2018
Number of Terminals : 0

```

#### 4.24.11 L2MS のエージェントコンフィグ情報の表示

##### [書式]

```
show l2ms agent-config [agent]
```

##### [パラメーター]

**agent** : MAC アドレス(HHHH.HHHH.HHHH)、または、経路(portD.D-D.D)  
 対象の L2MS エージェント端末の MAC アドレスまたは経路を指定する。省略時は全 L2MS エージェント端末を対象とする。

##### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

##### [説明]

L2MS エージェント端末(SWX2200)のコンフィグ情報を表示する。

表示内容は以下のとおりである。

項目	説明
<b>system-name</b> name	機器の名前の設定
<b>energy-saving</b> mode	省電力機能を使用するか否かの設定
<b>led-brightness</b> mode	LED の輝度の調整
<b>port-speed</b> port speed	ポートの通信速度および動作モードの設定
<b>port-use</b> port mode	ポートを使用するか否かの設定
<b>port-auto-crossover</b> port mode	オートクロスオーバー機能を使用するか否かの設定
<b>port-speed-downshift</b> port mode	速度ダウンシフト機能を使用するか否かの設定
<b>port-flow-control</b> port mode	フロー制御を使用するか否かの設定
<b>vlan-id</b> vlan_register_num vid	VLAN ID の設定
<b>vlan-port-mode</b> port mode	ポートの VLAN 動作モードの設定
<b>vlan-access</b> port vlan_register_num	アクセスポートの設定
<b>vlan-trunk</b> port vlan_register_num mode	トランクポートの設定
<b>vlan-multiple-use</b> mode	マルチプル VLAN を使用するか否かの設定
<b>vlan-multiple</b> port group_num mode	マルチプル VLAN のグループの設定
<b>qos-dscp-remark-type</b> port type	DSCP リマーキングの書き換え方式の設定
<b>qos-dscp-remark-class</b> port class	受信パケットのクラス分けの設定
<b>qos-speed-unit</b> unit	帯域制限を行う際の速度単位の設定
<b>qos-policing-use</b> port mode	受信トラフィックのポリシングを行うか否かの設定
<b>qos-policing-speed</b> port level	受信トラフィックの帯域幅の設定
<b>qos-shaping-use</b> port mode	送信トラフィックのシェーピングを行うか否かの設定

項目	説明
<b>qos-shaping-speed</b> port level	送信トラフィックの帯域幅の設定
<b>mirroring-use</b> mode	ミラーリング機能を使用するか否かの設定
<b>mirroring-dest</b> port	ミラーリングパケットを送出するポートの設定
<b>mirroring-src-rx</b> port mode	受信したパケットをミラーリングするか否かの設定
<b>mirroring-src-tx</b> port mode	送信するパケットをミラーリングするか否かの設定
<b>counter-frame-rx-type</b> port counter type	受信フレームカウンタでカウントするフレームの種類の設定
<b>counter-frame-tx-type</b> port counter type	送信フレームカウンタでカウントするフレームの種類の設定
<b>loopdetect-count</b> count	1秒あたりのループが発生したと判断する閾値の設定
<b>loopdetect-linkdown</b> action	ループ発生時の動作の設定
<b>loopdetect-recovery-timer</b> time	ポートをリンクダウンしてから復帰させるまでの時間の設定
<b>loopdetect-port-use</b> port mode	ループ検出機能を使用するか否かの設定
<b>poe-class</b> port class	各ポートで給電可能なクラスの上限の設定

### [設定例]

全ての L2MS エージェント端末のコンフィグ情報を表示する。

```
SWX3200>show l2ms agent-config
```

```
[port1.23-1.23-8]
system-name TEST3_SWX2200-8G
vlan-id 2 2
vlan-id 3 3
vlan-port-mode 1 hybrid
vlan-access 5 2
vlan-access 6 3
vlan-trunk 1 2 join
vlan-trunk 1 3 join

[00a0.de00.0001]
system-name TEST2_SWX2200-8G
vlan-id 2 2
vlan-id 3 3
vlan-port-mode 1 hybrid
vlan-port-mode 8 hybrid
vlan-trunk 1 2 join
vlan-trunk 1 3 join
vlan-trunk 8 2 join
vlan-trunk 8 3 join

[00a0.de00.0002]
system-name TEST1_SWX2200-24G
port-speed 7 100-hdx
port-auto-crossover 7 off
port-speed-downshift 7 off
port-flow-control 7 on
vlan-id 2 2
vlan-id 3 3
vlan-port-mode 1 hybrid
vlan-port-mode 23 hybrid
vlan-trunk 1 2 join
vlan-trunk 1 3 join
vlan-trunk 23 2 join
vlan-trunk 23 3 join
loopdetect-count 5
loopdetect-linkdown linkdown-recovery
loopdetect-recovery-timer 600
loopdetect-port-use 7 off
```

MAC アドレスが 00a0.de00.0001 の L2MS エージェント端末のコンフィグ情報を表示する。

```
SWX3200>show l2ms agent-config 00a0.de00.0001
```

```
[00a0.de00.0001]
system-name TEST2_SWX2200-8G
vlan-id 2 2
vlan-id 3 3
vlan-port-mode 1 hybrid
vlan-port-mode 8 hybrid
vlan-trunk 1 2 join
vlan-trunk 1 3 join
vlan-trunk 8 2 join
vlan-trunk 8 3 join
```

経路が 1.23-1.23-8 の L2MS エージェント端末のコンフィグ情報を表示する。

```
SWX3200>show l2ms agent-config port1.23-1.23-8
```

```
[port1.23-1.23-8]
system-name TEST3_SWX2200-8G
vlan-id 2 2
vlan-id 3 3
vlan-port-mode 1 hybrid
vlan-access 5 2
vlan-access 6 3
vlan-trunk 1 2 join
vlan-trunk 1 3 join
```

#### 4.24.12 無線 AP 配下の端末情報の取得間隔の設定

##### [書式]

```
wireless-terminal-watch interval time
no wireless-terminal-watch interval
```

##### [パラメーター]

```
time : <10-86400>
        取得時間間隔(秒)
```

##### [初期設定]

```
wireless-terminal-watch interval 60
```

##### [入力モード]

```
L2MS モード
```

##### [説明]

無線 AP 配下の端末情報を取得する間隔を設定する。*time* に設定した時間が経過すると、無線 AP 配下に存在する端末の情報を取得する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

##### [ノート]

端末の監視が動作していない場合、本コマンドの設定に関わらず、端末情報の取得は行わない。

##### [設定例]

端末情報の取得間隔を 3600 秒に設定する

```
SWX3200(config)#l2ms configuration
SWX3200(config-l2ms)#l2ms enable
SWX3200(config-l2ms)#l2ms role manager
SWX3200(config-l2ms)#terminal-watch enable
SWX3200(config-l2ms)#wireless-terminal-watch interval 3600
```

#### 4.24.13 イベント監視機能の設定

##### [書式]

```
event-watch enable
event-watch disable
no event-watch
```

**[キーワード]**

enable : イベント監視機能を有効にする  
 disable : イベント監視機能を有効にしない

**[初期設定]**

event-watch enable

**[入力モード]**

L2MS モード

**[説明]**

イベント監視機能を有効にするか否かを設定する。有効の場合は定期的にネットワーク内に存在する L2MS エージェントのイベント情報の取得を行う。

no 形式で実行した場合は、イベント監視機能が有効となる。

**[ノート]**

イベントの監視は L2MS がマネージャーとして動作している場合のみ行う。

**[設定例]**

イベント監視機能を無効にする。

```
SWX3200(config)#l2ms configuration
SWX3200(config-l2ms)#l2ms enable
SWX3200(config-l2ms)#l2ms role manager
SWX3200(config-l2ms)#event-watch disable
```

**4.24.14 イベント情報の取得時間間隔の設定**

---

**[書式]**

**event-watch interval** *time*

**no event-watch interval**

**[パラメーター]**

*time* : <60-1800>  
 取得時間間隔(秒)

**[初期設定]**

event-watch interval 300

**[入力モード]**

L2MS モード

**[説明]**

ネットワークに存在する L2MS エージェントのイベント情報を取得する時間間隔を設定する。*time* に設定した時間が経過すると、ネットワークに存在する L2MS エージェントのイベント情報を取得する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

**[ノート]**

イベント監視機能が有効ではない場合、本コマンドの設定に関わらず、イベント情報の取得は行わない。

**[設定例]**

監視時間間隔を 60 秒に設定する。

```
SWX3200(config)#l2ms configuration
SWX3200(config-l2ms)#l2ms enable
SWX3200(config-l2ms)#l2ms role manager
SWX3200(config-l2ms)#event-watch interval 60
```

**4.24.15 L2MS エージェントのゼロコンフィグ機能を使用するか否かの設定**

---

**[書式]**

**config-auto-set** enable

**config-auto-set** disable

**no config-auto-set****[キーワード]**

- enable : L2MS エージェントのゼロコンフィグ機能を使用する  
 disable : L2MS エージェントのゼロコンフィグ機能を使用しない

**[初期設定]**

config-auto-set enable

**[入力モード]**

L2MS モード

**[説明]**

L2MS エージェント機器設定のゼロコンフィグ機能を使用するか否かを設定する。

ゼロコンフィグ機能が有効かつ、L2MS エージェントのヤマハスイッチまたは無線 AP の設定(コンフィグ)が保存されている場合、工場出荷状態の L2MS エージェントがネットワークに接続された時に、保存されている設定(コンフィグ)を自動で設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

**[ノート]**

エージェント SWX2200 に対する設定の同期は、本設定とは関係なく行われる。

**[設定例]**

L2MS エージェントのゼロコンフィグ機能を使用する。

```
SWX3200(config)#l2ms configuration
SWX3200(config-l2ms)#l2ms enable
SWX3200(config-l2ms)#l2ms role manager
SWX3200(config-l2ms)#config-auto-set enable
```

## 4.25 スナップショット

---

### 4.25.1 スナップショット機能の設定

---

**[書式]**

**snapshot enable**  
**snapshot disable**  
**no snapshot**

**[キーワード]**

- enable : スナップショット機能を有効にする  
 disable : スナップショット機能を有効にしない

**[初期設定]**

snapshot disable

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

スナップショット機能を有効にする。

no 形式で実行した場合は、スナップショット機能が無効となる。

**[ノート]**

本コマンドは、L2MS がマネージャーとして動作している場合のみ有効である。

**[設定例]**

スナップショット機能を有効にする。

```
SWX3200(config)#snapshot enable
```

## 4.25.2 スナップショットの比較対象に端末を含めるか否かの設定

---

### [書式]

**snapshot trap terminal** [except-wireless]

**no snapshot trap terminal**

### [キーワード]

except-wireless : 無線接続された端末情報をスナップショットの比較対象から除外する。

### [初期設定]

no snapshot trap terminal

### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

### [説明]

端末情報をスナップショットの比較対象に含める。

except-wireless オプションを指定した場合は、無線アクセスポイント配下に無線接続された端末情報は、スナップショットの比較対象から除外される。

no 形式で実行した場合は、端末情報はスナップショットの比較対象外となる。

### [ノート]

本コマンドは、マネージャーとして動作し、かつ **terminal-watch enable** コマンドと **snapshot enable** コマンドが設定されている場合のみ有効である。

### [設定例]

端末情報をスナップショットの比較対象に含める。

```
SWX3200(config)#snapshot trap terminal
```

## 4.25.3 スナップショットの作成

---

### [書式]

**snapshot save** [after-update]

### [キーワード]

after-update : ネットワークの接続状態を更新した後、スナップショットとして保存する

### [入力モード]

特権 EXEC モード

### [説明]

LAN マップのスナップショット機能でベースとなるスナップショットファイルを保存する。

after-update オプションが含まれない場合、現在マネージャーが保持しているネットワークの接続状態をスナップショットファイルとして保存する。

after-update オプションが含まれる場合、ネットワークの接続状態の情報を最新に更新した後、スナップショットファイルとして保存する。

### [ノート]

after-update オプションが含まれる場合、ネットワークの接続状態の情報を最新に更新するがネットワークの構成によっては更新が完了するまでに時間がかかる場合がある。

### [設定例]

ネットワークの接続状態を更新した後、スナップショットファイルを保存する。

```
SWX3200#snapshot save after-update
```

## 4.25.4 スナップショットの削除

---

### [書式]

**snapshot delete**

### [入力モード]

特権 EXEC モード

**[説明]**

スナップショットファイルを削除する。

**[設定例]**

スナップショットファイルを削除する。

```
SWX3200#snapshot delete
```

## 4.26 ファームウェア更新

---

### 4.26.1 ファームウェア更新サイトの設定

---

**[書式]**

**firmware-update url** *url*

**no firmware-update url**

**[パラメーター]**

*url* : 半角英数字および半角記号(255 文字以内)  
ファームウェアが置かれている URL

**[初期設定]**

firmware-update url http://www.rtpo.yamaha.co.jp/firmware/revision-up/swx3200.bin

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

WEB サーバーに置かれているファームウェアファイルを使ってファームウェア更新するときのダウンロード先の URL を設定する。

入力形式は“http://サーバーの IP アドレスあるいはホスト名/パス名”という形式となる。

IPv6 アドレスの場合は"[IPv6 アドレス]"のように"[]"で囲う必要がある。

IPv6 リンクローカルアドレスを指定する場合は、送出インターフェースも指定する必要がある(fe80::X%vlanN の形式)。

サーバーのポート番号が 80 以外の場合は、“http://サーバーの IP アドレスあるいはホスト名:ポート番号/パス名”という形式で、URL の中に指定する必要がある。

**[設定例]**

ファームウェアのダウンロード先 URL を http://192.168.100.1/swx3200.bin に設定する。

```
SWX3200(config)#firmware-update url http://192.168.100.1/swx3200.bin
SWX3200(config)#
```

### 4.26.2 ファームウェア更新で使用する HTTP プロキシサーバーの設定

---

**[書式]**

**firmware-update http-proxy** *server port*

**no firmware-update http-proxy**

**[パラメーター]**

*server* : A.B.C.D  
HTTP プロキシサーバーの IPv4 アドレス

*server* : [X:X::X:X]  
HTTP プロキシサーバーの IPv6 アドレス  
[X:X::X:X]のように[]で囲う必要がある

IPv6 リンクローカルアドレスを指定する場合は、送出インターフェースも指定する必要がある(fe80::X%vlanN の形式)

: 半角英数字および半角記号(255 文字以内)  
HTTP プロキシサーバーの FQDN

```
port                : <1-65535>
                    HTTP プロキシサーバーのリスニングポート番号
```

**[初期設定]**

```
no firmware-update http-proxy
```

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

WEB サーバーに置かれているファームウェアファイルを使ってファームウェア更新するときの HTTP プロキシサーバーを設定する。

HTTP プロキシサーバーが設定されていない場合、HTTP プロキシサーバーを経由せずにファームウェア更新が行われる。

ポート番号も明示的に設定する必要がある。

no 形式で実行した場合は、HTTP プロキシサーバーの設定を削除する。

**[設定例]**

HTTP プロキシサーバーを 192.168.100.1(ポート番号 8080)に設定する。

```
SWX3200(config)#firmware-update http-proxy 192.168.100.1 8080
SWX3200(config)#
```

**4.26.3 ファームウェア更新の実行****[書式]**

```
firmware-update execute [no-confirm] [no-reboot]
```

**[キーワード]**

```
no-confirm          : ファームウェア更新の確認をしない
no-reboot           : ファームウェア更新後に再起動しない
```

**[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

WEB サーバーに置かれているファームウェアファイルと現在実行中のファームウェアのリビジョンをチェックし、書き換え可能であればファームウェアのリビジョンアップを実行する。

書き換え可能なリビジョンのファームウェアが存在すると、確認を求められるので、更新する場合は "y" を、更新しない場合は "n" を入力する必要がある。

no-confirm を指定すると、確認をせずにリビジョンアップを実行する。

no-reboot を指定すると、リビジョンアップ実行後に再起動しない。次回起動時に更新後のファームウェアで起動する。

**[ノート]**

**firmware-update url** コマンドでダウンロード先 URL を変更できる。

**firmware-update revision-down enable** コマンドを設定すると古いリビジョンへのリビジョンダウンが行えるようになる。

no-reboot 指定時は、**firmware-update revision-time** コマンドが設定されていた場合でも、指定時刻に再起動しない。

**[設定例]**

WEB サーバーに置かれているファームウェアファイルでファームウェア更新する。

```
SWX3200#firmware-update execute
Found the new revision firmware
Current Revision: Rev.4.00.01
New Revision:    Rev.4.00.03
Downloading...
Update to this firmware? (y/n)y
Updating...
Finish
SWX3200#
```



#### 4.26.4 ファームウェアダウンロードタイムアウト時間の設定

##### [書式]

```
firmware-update timeout time
no firmware-update timeout
```

##### [パラメーター]

```
time          : <100-86400>
                タイムアウト時間(秒)
```

##### [初期設定]

```
firmware-update timeout 300
```

##### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

##### [説明]

WEB サーバーからファームウェアをダウンロードするときのタイムアウト時間を設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

##### [設定例]

ファームウェアダウンロードのタイムアウト時間を 120 秒に設定する。

```
SWX3200 (config) # firmware-update timeout 120
SWX3200 (config) #
```

#### 4.26.5 リビジョンダウンの許可

##### [書式]

```
firmware-update revision-down enable
no firmware-update revision-down
```

##### [初期設定]

```
no firmware-update revision-down
```

##### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

##### [説明]

WEB サーバーに置かれているファームウェアファイルを使ってファームウェア更新するとき、現在のリビジョンよりも古いリビジョンへのファームウェアのリビジョンダウンを許可する。

no 形式で実行した場合はリビジョンダウンを許可しない。

##### [設定例]

リビジョンダウンを許可する。

```
SWX3200 (config) # firmware-update revision-down enable
SWX3200 (config) #
```

#### 4.26.6 ファームウェア更新機能設定の表示

##### [書式]

```
show firmware-update
```

##### [入力モード]

特権 EXEC モード

##### [説明]

ファームウェア更新機能に関する現在の設定状況を表示する。

以下の項目が表示される。

- ダウンロード先の URL
- プロキシサーバーの URL
- ダウンロードのタイムアウト時間

- リビジョンダウンの許可
- 次回起動時のファームウェアリビジョン
- 更新後の再起動時刻
- スタック構成時の再起動方法

#### [設定例]

ファームウェア更新機能の設定状況を表示する。

```
SWX3200#show firmware-update
url: http://www.rtpro.yamaha.co.jp/firmware/revision-up/swx3200.bin
http-proxy: -
timeout: 300 (seconds)
revision-down: Disable
firmware revision for next boot: -
reload-time: -
reload-method: Normal
SWX3200#
```

## 4.26.7 SD カードからのファームウェア更新の実行

#### [書式]

**firmware-update sd execute** [no-confirm] [no-reboot] [sd-unmount]

#### [キーワード]

- no-confirm : ファームウェア更新と SD カードのマウント継続の確認をしない
- no-reboot : ファームウェア更新後に再起動しない
- sd-unmount : ファームウェア更新前に確認をせず SD カードをアンマウントする

#### [入力モード]

特権 EXEC モード

#### [説明]

SD カード内に格納されているファームウェアファイルでファームウェア更新を実行する。

パラメーターを指定しない場合は、SD カード内に書き換え可能なファームウェアが存在すると更新と SD カードのマウント状態を継続するかの確認を求められる。

ファームウェアを更新する場合は "y" を、更新しない場合は "n" を入力する必要がある。

SD カードのマウント状態を継続する場合は "y" を、アンマウントする場合は "n" を入力する必要がある。

no-confirm を指定すると、確認をせずに SD カードのマウント状態を継続しファームウェア更新を実行する。

no-reboot を指定すると、リビジョンアップ実行後に再起動しない。次回起動時に更新後のファームウェアで起動する。

sd-unmount を指定すると、確認をせずに SD カードのアンマウントを行う。

#### [ノート]

ファームウェアファイルは、SD カードの"/swx3200/firmware/swx3200.bin"ファイルを参照する。

SD カード内のファームウェアファイルと現在実行中のファームウェアのリビジョンチェックは行わない。

SD カードを取り外さない場合は、再起動時に **boot prioritize sd** コマンドの指定に従い SD カード内のファームウェアで起動される。

アンマウントして SD カードを取り外してもファームウェア更新は継続する。

no-reboot 指定時は、**firmware-update revision-time** コマンドが設定されていた場合でも、指定時刻に再起動しない。

#### [設定例]

SD カード内のファームウェアファイルでファームウェア更新する。

```
SWX3200#firmware-update sd execute
Update the firmware.
Current Revision: Rev.4.00.01
New Revision:      Rev.4.00.03

Update to this firmware? (y/n)y
Continue without unmounting the SD card? (y/n)n
Unmounted the SD card. Pull out the SD card.
Updating...
```

```
Finish
SWX3200#
```

## 4.26.8 ファームウェア更新の再起動時刻の設定

### [書式]

```
firmware-update reload-time hour [min]
no firmware-update reload-time
```

### [パラメーター]

*hour* : <0-23>  
ファームウェア更新の再起動時刻(時)

*min* : <0-59>  
ファームウェア更新の再起動時刻(分)

### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

### [説明]

ファームウェア更新後の再起動による新ファームウェア適用時刻を設定する。

no 形式で実行した場合はファームウェア更新直後に再起動して新ファームウェアを適用する。

### [設定例]

ファームウェア更新の再起動時刻を AM 1:30 に設定する。

```
SWX3200(config)#firmware-update reload-time 1 30
SWX3200(config)#
```

## 4.26.9 スタック構成時のファームウェア更新による再起動方法の設定

### [書式]

```
firmware-update reload-method method
no firmware-update reload-method
```

### [パラメーター]

*method* : スタック構成時のファームウェア更新による再起動方法

設定値	説明
normal	メインスイッチ・メンバースイッチ同時再起動
sequential	メインスイッチ・メンバースイッチ順次再起動

### [初期設定]

```
firmware-update reload-method normal
```

### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

### [説明]

スタック構成時のファームウェア更新による再起動方法を設定する。

normal の場合、メインスイッチ・メンバースイッチを同時に再起動する。sequential の場合、メインスイッチを再起動完了後、メンバースイッチを再起動することで運用中のネットワークサービスに影響がないように新ファームウェアを適用する。

no 形式で実行した場合は初期値に戻る。

### [ノート]

本コマンドはスタック機能が有効時のみ指定可能。

### [設定例]

ファームウェア更新による再起動方法を順次再起動に設定する。

```
SWX3200 (config) #firmware-update reload-method sequential
SWX3200 (config) #
```

## 4.27 スタック

### 4.27.1 スタック機能の設定

#### [書式]

```
stack switch
no stack
```

#### [パラメーター]

*switch* : スタック機能の動作

設定値	説明
enable	スタック機能を有効にする
disable	スタック機能を無効にする

#### [初期設定]

stack disable

#### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

#### [説明]

スタック機能を有効または無効にする。  
no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

#### [ノート]

本コマンドはスタック対応機種でのみ実行できる。

SD カードに保存した Config で起動し、その後 SD カードをアンマウントした状態で本コマンドを実行するとエラーとなる。

#### [設定例]

スタック機能を有効にする。

```
SWX3200 (config) #stack enable
```

スタック機能を無効にする。

```
SWX3200 (config) #stack disable
```

### 4.27.2 スタック ID の変更

#### [書式]

```
stack stack_id renumber new_stack_id
```

#### [パラメーター]

*stack\_id* : <1-2>  
変更対象のメンバースイッチのスタック ID。存在しない ID を指定した場合はエラーになる

*new\_stack\_id* : <1-2>  
変更後のスタック ID

#### [初期設定]

なし

#### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

#### [説明]

指定したメンバースイッチのスタック ID を変更する。

**[ノート]**

本コマンドはスタック対応機種でのみ実行できる。

本コマンドはスタック機能を無効に設定した場合のみ実行できる。

自分自身のスタック ID のみ変更できる。

SD カードに保存した Config で起動し、その後 SD カードをアンマウントした状態で本コマンドを実行するとエラーとなる。

**[設定例]**

スタック ID:1 のメンバースイッチを ID:2 に変更する。

```
SWX3200(config)#stack 1 renumber 2
```

**4.27.3 スタック情報の表示****[書式]**

**show stack**

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

スタックに関する設定やステータスの情報を表示する。

表示内容は以下のとおり。

- スタック機能の設定(Stack)
- 自身のスタック ID[設定値](Configured ID)
- 自身のスタック ID[運用値](Running ID)
- 自身のステータス(Status)
- 自身のスタックポートで使う IP アドレスの範囲(Subnet on stack port)
- スタック構成時の MAC アドレス(Virtual MAC-Address)
- メンバースイッチ毎の情報
  - スタック ID[運用値](ID)
  - モデル名(Model)
  - ステータス(Status)
  - ロール(Role)
  - シリアル番号(Serial)
  - 物理 MAC アドレス(MAC-Address)
- スタックポートごとの情報
  - インターフェース番号(Interface)
  - ステータス(Status)

メンバースイッチ毎のステータス(Status)では以下のいずれかを表示する。

Status	説明
Setting	メンバースイッチ間でスタックを構成するために必要な設定を行っている状態。
Active	メンバースイッチ間でスタックが構成されている状態。
Inacive	障害が発生し、仮想化されたスイッチから離脱している状態。
Standalone	スタック機能が有効だが、メンバースイッチとネゴシエーションが取れず、1 台で運用している状態。起動してから一度もスタックが構成されていないことを示す。
Standalone(separated)	スタック機能が有効だが、メンバースイッチとネゴシエーションが取れず、1 台で運用している状態。起動してからスタックが構成されていたことを示す。
Disable	スタック機能が無効な状態。

**[ノート]**

本コマンドはスタック対応機種でのみ実行できる。

**[設定例]**

スタック情報を表示する。

```
SWX3200#show stack
Stack: Enable
```

```
Configured ID      : 1
Running ID        : 1
Status            : Active
Subnet on stack port : Auto-ip
Virtual MAC-Address : 00a0.de00.0000
```

ID	Model	Status	Role	Serial	MAC-Address
1	SWX3200-52GT	Active	Main	S000000000	00a0.de00.0000
2	SWX3200-52GT	Active	Member	S000000000	00a0.de00.0000

Interface	Status
port1.51	up
port1.52	up
port2.51	up
port2.52	up

#### 4.27.4 スタックポートで使う IP アドレスの範囲設定

**[書式]**

```
stack subnet NETWORK_ADDR
```

```
stack subnet auto-ip
```

```
no stack subnet
```

**[パラメーター]**

```
NETWORK_ADDR : A.B.C.D
R
```

IP アドレス空間 (A.B.C.0)

**[初期設定]**

```
stack subnet auto-ip
```

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

本コマンドはスタック対応機種でのみ実行できる。

本コマンドはスタック機器間で使用する IP アドレス空間を設定する。

NETWORK\_ADDR には、サブネット 255.255.255.0 が固定で適用される。 auto-ip の場合、スタック機器間で Auto IP 機能が使用される。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

本コマンドによって指定された IP アドレス空間は、スタックポート以外のポートでは使用できない。

本コマンドの設定を動作に反映させるためには再起動が必要である。

スタック機器の IP アドレス空間は必ず同じパラメーターを設定する。異なるパラメーターを設定した場合、スタック機器間で正しい通信が行えない。

**[設定例]**

スタックポートの IP アドレスの範囲として "192.168.101.0" を設定する。

```
SWX3200(config)#stack subnet 192.168.101.0
```

#### 4.27.5 メンバースイッチへのリモートログイン

**[書式]**

```
remote-login stack_id
```

**[パラメーター]**

*stack\_id* : <1-2>  
スタック ID

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

スタック構成で、メインスイッチから指定されたメンバースイッチへリモートログインする。リモートログインに成功すると自動的にプロンプトにスタック ID が付与されて表示される。

**[設定例]**

メインスイッチからメンバースイッチ(ID:2)へリモートログインする。

```
SWX3200#remote-login 2
...
SWX3200-2>
```

## 4.28 スケジュール

---

### 4.28.1 スケジュールの設定

---

**[書式]**

**schedule** *id* **time** *date* *time* *template\_id*  
**schedule** *id* **event** *event* *template\_id*  
**no schedule** *id*

**[パラメーター]**

*id* : <1-10>  
スケジュール番号

*date* : <1-12> または \* / <1-12> または sun, mon, ..., sat または \*

月/日

月の設定例	設定内容
1	1 月
1,2	1 月と 2 月
2-	2 月から 12 月まで
2-7	2 月から 7 月まで
-7	1 月から 7 月まで
*	毎月

日の設定例	設定内容
1	1 日
1,2	1 日と 2 日
2-	2 日から 12 日まで
2-7	2 日から 7 日まで
-7	1 日から 7 日まで
mon	月曜日
sat,sun	土曜日と日曜日
mon-fri	月曜日から金曜日まで
-fri	日曜日から金曜日まで
*	毎月

*time* : <0-23> または \* : <0-59> または \* : <0-59>

時:分:秒 (秒の指定は省略可能)

時の設定例	設定内容
12	12 時
12,13	12 時と 13 時
12-	12 時から 23 時まで
10-20	10 時から 20 時まで
-20	0 時から 20 時まで
*	毎時

分の設定例	設定内容
30	30 分
15,45	15 分と 45 分
30-	30 分から 59 分まで
15-45	15 分から 45 分まで
-45	0 分から 45 分まで
*	毎分

*event* : イベント



設定値	説明
startup	起動したとき
sd-attached	microSD カードをアタッチしたとき

*template\_id* : <1-10>  
スケジュールテンプレート番号

#### [初期設定]

なし

#### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

#### [説明]

*time* を使用してスケジュールを設定した場合、指定した時刻になったときに指定されたスケジュールテンプレートに記述されているアクションを実行する。

*event* を使用してスケジュールを設定した場合、指定したイベントが発生ときに指定されたスケジュールテンプレートに記述されているアクションを実行する。

*no* 形式で実行した場合は、指定した ID のスケジュールを削除する。

#### [ノート]

複数のスケジュールが同時刻に実行される場合、ID の小さい方から順に実行される。

日の指定で数字と曜日を混在させて指定することはできない。

秒の指定を省略した場合、00 秒を指定した場合と同じ設定になる。

月日と時間の設定では"-","や","を用いた範囲指定や"\*"による全指定をすることができる。ただし秒数に"-","や","を用いた範囲指定や"\*"による全指定をすることはできない。

#### [設定例]

毎週月曜日の 0,1,2,12,21,22,23 時ちょうどにスケジュールテンプレート #1 を実行するスケジュール #1 を設定する。

```
SWX3200(config)#schedule time */mon -2,12-14,21-:0 1
```

## 4.28.2 スケジュールテンプレートの説明文の設定

#### [書式]

**description line**

**no description**

#### [パラメーター]

*line* : 半角英数字および半角記号(64 文字以内)  
スケジュールテンプレートの説明文

#### [初期設定]

no description

#### [入力モード]

スケジュールテンプレートモード

#### [説明]

スケジュールテンプレートの説明文を設定する。

*no* 形式で実行した場合は、スケジュールテンプレートの説明文を削除する。

#### [設定例]

スケジュールテンプレート #1 に説明文を設定する。

```
SWX3200(config)#schedule template 1
SWX3200(config-schedule)#description Get tech-support
```

### 4.28.3 スケジュールテンプレートの有効/無効の設定

#### [書式]

**action switch**

**no action**

#### [パラメーター]

*switch* : スケジュールテンプレートの設定

設定値	説明
enable	スケジュールテンプレートを有効にする
disable	スケジュールテンプレートを無効にする

#### [初期設定]

action enable

#### [入力モード]

スケジュールテンプレートモード

#### [説明]

スケジュールテンプレートを有効または無効にする。

本コマンドで **disable** を指定することで、トリガーの起動によるアクションの実行を止めることができる。

**no** 形式で実行した場合は、スケジュールテンプレートを有効にする。

#### [設定例]

スケジュールテンプレート #1 を無効にする。

```
SWX3200(config)#schedule template 1
SWX3200(config-schedule)#action disable
```

### 4.28.4 スケジュールテンプレートの設定

#### [書式]

**schedule template *template\_id***

**no schedule template**

#### [パラメーター]

*template\_id* : <1-10>  
スケジュールテンプレート番号

#### [初期設定]

なし

#### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

#### [説明]

スケジュールテンプレートを設定するモードに移行する。

**no** 形式で実行した場合は、指定したスケジュールテンプレートを削除する。

#### [設定例]

スケジュールテンプレート #1 を設定するモードに移行する。

```
SWX3200(config)#schedule template 1
SWX3200(config-schedule)#
```

## 4.28.5 スケジュールテンプレートのコマンド実行の設定

### [書式]

**cli-command** *id* *command*

**no cli-command** *id*

### [パラメーター]

*id* : <1-20>  
コマンド番号

*command* : コマンド

### [初期設定]

なし

### [入力モード]

スケジュールテンプレートモード

### [説明]

スケジュール機能のトリガーが起動したときに実行されるコマンドを設定する。

no 形式で実行した場合、指定した番号のコマンドを削除する。

### [ノート]

同じスケジュールテンプレートに **cli-command** コマンドと **script** コマンドの両方が設定されている場合、**script** コマンドが実行され、**cli-command** コマンドは動作しない。

複数のコマンドを指定した場合、コマンド番号が小さい方から順に実行される。

複数のコマンドを指定した場合、コマンドが途中で実行エラーになったとしても残りのコマンドは実行される。

トリガーが起動した時点で、特権 EXEC モードでコマンドが実行されるため、コマンドによっては適切なモードに遷移するためのコマンドもあわせて設定する必要がある。

設定を保存する場合は最後の **write** コマンドを実行する必要がある。

省略形でコマンドを指定することはできない。例えばインターフェースとして Port1.1 の入力モードに入る場合、**int port1.1** ではなく、**interface port1.1** と記述する必要がある。

以下のコマンドは実行できない。

backup system, baudrate select, boot prioritize sd, no boot prioritize sd, certificate user, clock で始まるコマンド, cold start, copy radius-server local, crypto pki generate ca, no crypto pki generate ca, disable, enable password, exit, firmware-update execute, firmware-update sd execute, logout, ntpdate で始まるコマンド, password-encryption, no password encryption, ping, ping6, quit, reload, remote-login, restart, restore system, schedule, no schedule, schedule template, no schedule template, show で始まるコマンド, ssh, ssh-server host key generate, stack で始まるコマンド, no stack で始まるコマンド, startup-config select, no startup-config select, system-diagnostics on-demand execute(\*1), telnet, traceroute, traceroute6

(\*1):system-diagnostics on-demand execute no-confirm は実行可能

### [設定例]

スケジュールテンプレート #1 のコマンド番号 #1 に **copy tech-support sd** コマンドを登録する。

```
SWX3200(config)#schedule template 1
SWX3200(config-schedule)#cli-command 1 copy tech-support sd
```

## 4.28.6 スケジュールテンプレートのスクリプト実行の設定

### [書式]

**script** *ref*

**no script**

### [パラメーター]

*ref* : スクリプトファイルの参照先

設定値	説明
sd	microSD カード

**[初期設定]**

no script

**[入力モード]**

スケジュールテンプレートモード

**[説明]**

トリガー起動時のスクリプト実行の有効/無効を設定する。

no 形式で実行した場合は、スクリプト実行を無効にします。

**[ノート]**

スケジュール機能のトリガーが起動したとき、microSD カード内の/機種名/schedule/script.txt に記述されている文字列を先頭から 100 行までコマンドとして実行する。

同じスケジュールテンプレートに cli-command コマンドと script コマンドの両方が設定されている場合、script コマンドが実行され、cli-command コマンドは動作しない。

cli-command コマンドで実行が禁止されているコマンドは実行することはできない。

**[設定例]**

スケジュールテンプレート #1 でスクリプト実行を有効にする。

```
SWX3200(config)#schedule template 1
SWX3200(config-schedule)#script sd
```

## 4.29 保守運用一般

---

### 4.29.1 ホスト名の設定

---

**[書式]**hostname *hostname*no hostname [*hostname*]**[パラメーター]**

*hostname* : 半角英数字および半角記号(63 文字以内)  
ホスト名

**[初期設定]**

hostname SWX3200

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

ホスト名を設定する。

本コマンドで設定したホスト名はコマンドプロンプトとして使用する。SNMP アクセス可能な場合は、MIB 変数 sysName の値として使用する。

no 形式で実行した場合は設定を初期値に戻す。

**[設定例]**

ホスト名を"yamaha"に設定する。

```
SWX3200(config)#hostname yamaha
yamaha(config)#
```

### 4.29.2 システムの再起動

---

**[書式]**reload [*stack-member ID*]restart [*stack-member ID*]

**[キーワード]**

`stack_member` : スタック構成時に、再起動させるスタックメンバーを指定省略した場合は、全スタックメンバーが再起動する

**[パラメーター]**

`ID` : <1-2>  
スタック ID

**[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

システムを再起動する。

**[ノート]**

実行中の設定(ランニングコンフィグ)が起動時の設定(スタートアップコンフィグ)から変更されている場合、再起動により変更が無効になるため、必要に応じて、**reload** コマンドや **restart** コマンド実行前に、**copy running-config startup-config** コマンドや **write** コマンド、または **save** コマンドを実行すること。

`stack-member` オプションはスタック機能が有効時のみ指定可能。

**[設定例]**

システムを再起動する。

```
SWX3200#reload
reboot system? (y/n): y
```

### 4.29.3 設定の初期化

---

**[書式]**

**cold start**

**[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

工場出荷時の設定で再起動する。SYSLOG も初期化する。

**[ノート]**

コマンド実行時に管理パスワードを入力する必要がある。

管理パスワードが初期設定の状態では、本コマンドを実行することができません。前もって管理パスワードを変更する必要があります。

**[設定例]**

設定を初期化する。

```
SWX3200#cold start
Password:
```

### 4.29.4 SD カードのマウント

---

**[書式]**

**mount sd**

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード, 特権 EXEC モード

**[説明]**

SD カードのマウント処理を実行する。

SD カード挿入時には自動的にマウントされるため実行する必要はない。**unmount sd** コマンドでアンマウントされている場合に実行する必要がある。

**[ノート]**

SD カードはアンマウント状態の場合、使用できない。

**[設定例]**

SD カードをマウントする。

```
SWX3200>mount sd
```

**4.29.5 SD カードのアンマウント****[書式]**

**unmount sd**

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード, 特権 EXEC モード

**[説明]**

SD カードのアンマウント処理を実行する。

本コマンドを実行しなかったり、Web GUI 上からアンマウント処理を実行しないで SD カードを SD スロットから抜いた場合、一部 OS 上で修復の警告が出る場合がある。

**[ノート]**

SD カードはアンマウント状態の場合、使用できない。

**[設定例]**

SD カードをアンマウントする。

```
SWX3200>unmount sd
```

**4.29.6 初期 LED モードの設定****[書式]**

**led-mode default mode**

**no led-mode default**

**[パラメーター]**

*mode* : 初期 LED モード

設定値	説明
link-act	LINK/ACT モード
off	OFF モード

**[初期設定]**

led-mode default link-act

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

初期 LED モードを設定する。

本コマンドを実行すると、設定したモードで LED が点灯する。

no 形式で実行すると、初期設定に戻る。

**[設定例]**

初期 LED モードを OFF モードに設定する。

```
SWX3200(config)#led-mode default off
```

**4.29.7 LED モードの表示****[書式]**

**show led-mode**

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

LED モードの設定や状態を表示する。

以下の項目を表示する。

- 初期 LED モードの設定
- 現在の LED モードの状態

**[設定例]**

LED モードの設定や状態を表示する。

```
SWX3200>show led-mode
default mode : off
current mode : link-act
```

## 4.29.8 ポートエラー LED 状態の表示

**[書式]**

**show error port-led**

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

エラーが発生しているポートの ID と以下のエラー要因を表示する。

項目	説明
loop-detected (blocking)	ループ検出してブロッキング中
loop-detected (shutdown)	ループ検出して shutdown 中
sfp rx-power error (low)	SFP 受光レベルが正常範囲より低下
sfp rx-power error (high)	SFP 受光レベルが正常範囲より上昇

**[設定例]**

ポートのエラー状態を表示する。

```
SWX3200>show error port-led
ID          error
-----
port1.1    loop-detected (blocking)
```

## 4.29.9 システム情報のバックアップ

**[書式]**

**backup system**

**[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

本体の以下設定を SD カードへコピーする。

- スタートアップコンフィグ #0 - #4 とそれらに付随する情報
- **startup-config select** コマンドの設定値
- **boot prioritize sd** コマンドの設定値
- **boot auto-apply** コマンドの設定情報

SD カードの "/swx3200/firmware" フォルダに "swx3200.bin" が存在した場合、バックアップフォルダにコピーする。

SD カードがマウントされている場合に限り実行できる。

**[ノート]**

SD カードにバックアップされたファイルは編集および削除を行わないこと。

**[設定例]**

システム情報のバックアップを実行する。

```
SWX3200#backup system  
Succeeded to backup system files and firmware file.
```

## 4.29.10 システム情報のリストア

---

### [書式]

**restore system**

### [入力モード]

特権 EXEC モード

### [説明]

SD カード内にバックアップしたシステム情報を本体へリストアする。

SD カード内のバックアップフォルダにファームウェアファイルが存在した場合、そのファイルを用いてファームウェアの更新も行う。

リストア後、再起動が行われる。

SD カードがマウントされている場合に限り実行できる。

### [ノート]

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

### [設定例]

システム情報を本体へリストアする。

```
SWX3200# restore system  
restore and reboot system? (y/n) y  
Update the firmware.  
Current Revision: 4.00.01  
New Revision:      4.00.03  
  
Update to this firmware? (y/n) y  
Unmounted the SD card.  Pull out the SD card.  
Updating...  
Finish  
Succeeded to restore system files.  
SWX3200#
```



## 第5章

### インターフェース制御

#### 5.1 インターフェース基本設定

##### 5.1.1 説明文の設定

**[書式]**

**description line**

**no description**

**[パラメーター]**

*line* : 半角英数字および半角記号(80文字以内)  
対象インターフェースに対する説明文

**[初期設定]**

no description

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

対象インターフェースに対して説明文を設定する。no形式で実行した場合は、説明文を削除する。

**[設定例]**

LANポート #1 に説明文を設定する。

```
SWX3200(config)#interface port1.1  
SWX3200(config-if)#description Connected to rtx1210-router
```

##### 5.1.2 シャットダウン

**[書式]**

**shutdown**

**no shutdown**

**[初期設定]**

no shutdown

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

対象インターフェースをシャットダウンして使用しないようにする。  
本コマンドが設定されたインターフェースは、接続されてもリンクアップしなくなる。  
no形式で実行した場合は、対象インターフェースを使用できるようになる。

**[ノート]**

本コマンドは LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースにのみ設定可能。

論理インターフェースを対象として本コマンドを設定した場合は、そのインターフェースに所属する全ての LAN/SFP ポートの設定が変更される。

**[設定例]**

LANポート #1 をシャットダウンして使用しないようにする。

```
SWX3200(config)#interface port1.1  
SWX3200(config-if)#shutdown
```

### 5.1.3 通信速度・通信モードの設定

#### [書式]

**speed-duplex type**

**no speed-duplex**

#### [パラメーター]

*type* : 通信速度・通信モードタイプ

通信速度・通信モードタイプ	説明
auto	オートネゴシエーション
10000-full	10Gbps/Full
1000-full	1000Mbps/Full
100-full	100Mbps/Full
100-half	100Mbps/Half
10-full	10Mbps/Full
10-half	10Mbps/Half

#### [初期設定]

speed-duplex auto

#### [入力モード]

インターフェースモード

#### [説明]

通信速度と通信モードを設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

#### [ノート]

本コマンドによる設定変更を行うと、当該インターフェースが一時的にリンクダウンする。

本コマンドは LAN/SFP ポートにのみ設定可能。

LAN ポートに *type10000-full* は設定できない。

SFP+ポートに設定できる *type* は auto と 10000-full のみである。

SFP+ポートに SFP モジュールを接続し、10000-full を指定した場合には 1000-full として動作する。

#### [設定例]

LAN ポート #1 の通信速度/通信モードを 100Mbps/Full に設定する。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#speed-duplex 100-full
```

### 5.1.4 MRU 設定

#### [書式]

**mru mru**

**no mru**

#### [パラメーター]

*mru* : <64-10240>

受信可能な最大フレームサイズ(設定する値は偶数であること)

#### [初期設定]

mru 1522

#### [入力モード]

インターフェースモード

**[説明]**

受信可能な最大フレームサイズを設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

**[ノート]**

本コマンドは LAN/SFP ポートにのみ設定可能。

**[設定例]**

LAN ポート #1 の mru を 9000 バイトに設定する。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#mru 9000
```

**5.1.5 クロス/ストレート自動判別設定****[書式]**

**mdix auto action**

**no mdix auto**

**[パラメーター]**

*type* : クロス/ストレート自動判別の動作

設定値	説明
enable	クロス/ストレート自動判別を有効にする
disable	クロス/ストレート自動判別を無効にする

**[初期設定]**

mdix auto enable

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

クロス/ストレート自動判別を有効にする。有効にすると自動的に必要なケーブル接続タイプ(ストレートまたはクロス)を検出し、接続を適切に設定する。

no 形式で実行した場合は、自動判別が無効になり MDI となる。

**[ノート]**

本コマンドは LAN ポートにのみ設定可能。

本コマンドによる設定変更を行うと、当該インターフェースが一時的にリンクダウンする。

**[設定例]**

LAN ポート #1 のクロスストレートの自動判別設定を無効にする。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#mdix auto disable
```

**5.1.6 EEE 設定****[書式]**

**eee action**

**no eee**

**[パラメーター]**

*type* : EEE の動作

設定値	説明
enable	EEE を有効にする
disable	EEE を無効にする

**[初期設定]**

```
eee disable
```

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

省電力機能 Energy Efficient Ethernet(EEE)を有効にする。

no 形式で実行した場合は、EEE が無効になる。

**[ノート]**

本コマンドは LAN ポートにのみ設定可能。

本コマンドによる設定変更を行うと、当該インターフェースが一時的にリンクダウンする。

**[設定例]**

LAN ポート #1 の EEE を有効にする。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#eee enable
```

**5.1.7 EEE 対応可否を表示する****[書式]**

```
show eee capabilities interface ifname
```

**[パラメーター]**

*ifname* : LAN ポートのインターフェース名  
表示するインターフェース

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、 特権 EXEC モード

**[説明]**

指定したインターフェースが EEE に対応しているかどうかを表示する。

以下の項目が表示される。

項目	説明
interface	インターフェース名
EEE(efficient-ethernet)	自身が EEE に対応しているか否か
Link Partner	対向機が EEE に対応しているか否か

**[ノート]**

対向機が接続されていない場合は、EEE に対応していないと表示される。

**[設定例]**

LAN ポート #1 の EEE 対応可否を表示する。

[対向機が EEE に対応している場合]

```
SWX3200#show eee capabilities interface port1.1
interface:port1.1
  EEE(efficient-ethernet):  yes (1000-T, 100-TX)
  Link Partner             :  yes (1000-T, 100-TX)
```

[対向機が EEE に対応していない場合]

```
SWX3200#show eee capabilities interface port1.1
interface:port1.1
  EEE(efficient-ethernet):  yes (1000-T, 100-TX)
  Link Partner             :  not enabled
```

**5.1.8 EEE ステータス情報を表示する****[書式]**

```
show eee status interface ifname
```

**[パラメーター]**

*ifname* : LAN ポートのインターフェース名  
表示するインターフェース

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

指定したインターフェースの EEE ステータスを表示する。

以下の項目が表示される。

項目	説明
interface	インターフェース名
EEE(efficient-ethernet)	EEE が有効か否か
Rx LPI Status	受信側の省電力モードの状態
Tx LPI Status	送信側の省電力モードの状態
Wake Error Count	エラーカウント

**[設定例]**

LAN ポート #1 の EEE ステータスを表示する。

**[EEE が無効の場合]**

```
SWX3200#show eee status interface port1.1
interface:port1.1
  EEE(efficient-ethernet): Disabled
  Rx LPI Status           : None
  Tx LPI Status           : None
  Wake Error Count       : 0
```

**[EEE が有効の場合]**

```
SWX3200#show eee status interface port1.1
interface:port1.1
  EEE(efficient-ethernet): Operational
  Rx LPI Status           : Received
  Tx LPI Status           : Received
  Wake Error Count       : 0
```

**[EEE が有効かつ省電力モードへ移行中の場合]**

```
SWX3200#show eee status interface port1.1
interface:port1.1
  EEE(efficient-ethernet): Operational
  Rx LPI Status           : Interrupted
  Tx LPI Status           : Interrupted
  Wake Error Count       : 0
```

**[EEE が有効かつ省電力モードへ移行している場合]**

```
SWX3200#show eee status interface port1.1
interface:port1.1
  EEE(efficient-ethernet): Operational
  Rx LPI Status           : Low Power
  Tx LPI Status           : Low Power
  Wake Error Count       : 0
```

**5.1.9 ポートミラーリングの設定****[書式]**

```
mirror interface ifname direction direct
no mirror interface ifname [direction direct]
```

**[キーワード]**

*direction* : トラフィックの監視方向を設定する

**[パラメーター]**

*ifname* : LAN/SFP ポートのインターフェース名  
 トラフィックをミラーリングするインターフェース

*direct* : トラフィックの監視方向

トラフィックの監視方向	説明
both	受信側と送信側の両方
receive	受信側
transmit	送信側

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

対象インターフェースをスニファークポート、*ifname* をモニターポートとして、*direct* で設定されたトラフィックをミラーリングする。

no 形式で実行した場合は、ミラーリングの設定を削除する。

**[ノート]**

本コマンドは LAN/SFP ポートのみ設定可能。

スニファークポートに設定できるインターフェースは 1 つのみ。

**[設定例]**

LAN ポート #1 をスニファークポートとして、LAN ポート #4 の送受信フレームと LAN ポート #5 の送信フレームをミラーリングする。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#mirror interface port1.4 direction both
SWX3200(config-if)#mirror interface port1.5 direction transmit
```

**5.1.10 ポートミラーリングの状態表示****[書式]**

**show mirror** [interface *ifname*]

**[キーワード]**

interface : 表示する監視ポートを指定する

**[パラメーター]**

*ifname* : LAN/SFP ポートのインターフェース名  
 表示する監視ポート

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

ポートミラーリングの設定を表示する。interface を省略した場合は、全ての監視ポートに対する設定が表示される。1 つの監視ポートごとに、以下の項目が表示される。

項目	説明
Monitored Port	監視ポートのインターフェース名
Sniffer Port	スニファークポートのインターフェース名
Direction	トラフィックの監視方向

**[設定例]**

ミラーリングポートの設定を表示する。

```
SWX3200#show mirror
Sniffer Port   Monitored Port  Direction
=====
port1.1        port1.4          both
port1.1        port1.5          transmit
```

**5.1.11 インターフェースの状態表示**

**[書式]**

**show interface** [ *type* [ *index* ] ]

**[パラメーター]**

*type* : インターフェースタイプ

インターフェースタイプ	説明
port	物理インターフェース
vlan	VLAN インターフェース
sa	スタティック論理インターフェース
po	LACP 論理インターフェース

*index* : インデックス番号

インターフェース ID	説明
S.X	物理インターフェースのスタック ID(S), 筐体に印字された番号(X)を指定する。
<1-4094>	VLAN ID を指定する。
<1-96>	スタティック論理インターフェース番号を指定する。
<1-127>	LACP 論理インターフェース番号を指定する。

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

*ifname* で指定したインターフェースの状態を表示する。*ifname* を省略した場合は、全てのインターフェースの状態を表示する。

以下の項目が表示される。

項目	説明
Interface	インターフェース名
Link is	リンクステータス ※2 (shutdown 時は要因を表示する) <ul style="list-style-type: none"> <li>shutdown 設定時 : (by shutdown)</li> <li>ポートエラー検出時 : (by err-disable)</li> </ul>
Hardware is	インターフェース種別(Ethernet、VLAN など)
HW addr	物理(MAC)アドレス ※1
Description	インターフェースの説明文
ifIndex	インターフェースインデックス番号
MRU	Maximum Receive Unit ※4

項目		説明
ARP ageing timeout		ARP タイムアウト時間(ARP エントリ保持時間) ※3
Speed-Duplex		通信速度、通信モードの設定値と動作状態 ※1
Auto MDI/MDIX		Auto MDI/MDIX 有効/無効 ※1
IPv4 address		IP アドレス/マスク長 ※3 (IP アドレス設定時のみ表示される)
broadcast		IP ブロードキャストアドレス ※3 (IP アドレス設定時のみ表示される)
Switchport mode		スイッチポートのモード <ul style="list-style-type: none"> <li>access : タグなし</li> <li>trunk : タグ付き</li> </ul>
Ingress filter		入力フィルタリングの状態 <ul style="list-style-type: none"> <li>enable : 有効</li> <li>disable : 無効</li> </ul>
Acceptable frame types		受信可能なフレームタイプ <ul style="list-style-type: none"> <li>all : 全てのフレームを受信(タグ有無関係なし)</li> <li>vlan-tagged only : VLAN タグの付いたフレームのみ受信</li> </ul>
Default Vlan		タグなしフレームを扱う VLAN ID <ul style="list-style-type: none"> <li>タグなしポートの場合 : <b>switchport access vlan</b> コマンドで指定した VLAN</li> <li>タグ付きポートの場合 : ネイティブ VLAN</li> <li>タグ付きポートでタグ付きパケットのみ受信設定の場合 : None</li> <li>未指定時 : vlan1</li> </ul>
Configured Vlans		該当インターフェースが所属している VLAN ID の一覧
input	packets	受信パケット数 ※2
	bytes	受信バイト数 ※2
	multicast packets	受信マルチキャストパケット数 ※2
	drop packets	受信バッファ溢れしたパケット数 ※2, ※5
output	packets	送信パケット数 ※2
	bytes	送信バイト数 ※2
	multicast packets	送信マルチキャストパケット数 ※2
	broadcast packets	送信ブロードキャストパケット数 ※2
	drop packets	テールドロップした送信パケット数 ※2, ※5

※1 物理インターフェースのみ表示

※2 物理インターフェース、論理インターフェースのみ表示

※3 VLAN インターフェースのみ表示

※4 論理インターフェースおよび VLAN インターフェースの場合は、そのインターフェースに属している物理イン



ターフェースの最小値を表示

※5 テールドロップが有効な場合に送信の情報、無効な場合には受信の情報のみ表示されます。

**[設定例]**

LAN ポート #1 の状態を表示する。

```
SWX3200# show interface port 1.1
Interface port1.1
  Link is UP
  Hardware is Ethernet
  HW addr: 00a0.de00.0000
  Description: Connected to router
  ifIndex 5001, MRU 1522
  Speed-Duplex: auto(configured), 1000-full(current)
  Auto MDI/MDIX: on
  Vlan info:
    Switchport mode      : access
    Ingress filter      : enable
    Acceptable frame types : all
    Default Vlan        : 1
    Configured Vlans    : 1
  Interface counter:
    input  packets      : 320
           bytes        : 25875
           multicast packets: 301
    output packets     : 628
           bytes        : 129895
           multicast packets: 628
           broadcast packets: 0
           drop packets  : 0
```

VLAN #1 の状態を表示する。

```
SWX3200#show interface vlan 1
Interface vlan1
  Hardware is VLAN
  Description: Connected to router(VLAN)
  ifIndex 301, ARP ageing timeout 1200
  IPv4 address 192.168.100.240/24 broadcast 192.168.100.255
                                     (u)-Untagged, (t)-Tagged
VLAN ID  Name                               State  Member ports
=====  =====
1         default                             ACTIVE port1.1(u) port1.2(u)
                                           port1.3(u) port1.4(u)
                                           port1.5(u) port1.6(u)
                                           port1.7(u) port1.8(u)
```

**5.1.12 インターフェースの状態の簡易表示**

**[書式]**

**show interface brief**

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、 特権 EXEC モード、 個別コンフィグレーションモード

**[説明]**

インターフェースの状態を簡易表示する。

以下の項目が表示される。

項目	説明
Interface	インターフェース名
Type	インターフェース種別 ※2
PVID	タグなしフレームを扱う VLAN ID ※2
Mode	スイッチポートのモード ※2 <ul style="list-style-type: none"> <li>access : タグなし</li> <li>trunk : タグ付き</li> </ul>

項目	説明
Status	リンクステータス
Reason	リンクダウンの要因 <ul style="list-style-type: none"> <li>AD: shutdown 設定</li> <li>ED: ポートエラー検出</li> <li>PD: 上記以外</li> </ul>
Speed	通信速度の動作状態 ※2
Port Ch	所属する論理インターフェースの種別 ※1 <ul style="list-style-type: none"> <li>(S): スタティック論理インターフェース</li> <li>(P): LACP 論理インターフェース</li> </ul> 所属する論理インターフェースの ID
Description	インターフェースの説明文

※1 物理インターフェースのみ表示

※2 物理インターフェース、論理インターフェースのみ表示

### [設定例]

インターフェースの状態を簡易表示する。

```
SWX3200#show interface brief
```

```
Codes: ETH - Ethernet, AGG - Aggregate , PVID - Port Vlan-id
       ED - ErrDisabled, PD - Protocol Down, AD - Admin Down
```

```
-----
Ethernet  Type  PVID  Mode      Status  Reason  Speed  Port  Description
Interface                                     Ch #
-----
port1.1   ETH   1     access   up      --      1g     (S) 1  --
port1.2   ETH   1     access   up      --      1g     --     --
port1.3   ETH   1     access   down    PD      auto   --     --
port1.4   ETH   1     access   down    AD      auto   --     --
port1.5   ETH   1     access   up      --      1g     --     --
port1.6   ETH   1     access   up      --      1g     --     --
port1.7   ETH   1     access   up      --      1g     --     --
port1.8   ETH   1     access   up      --      1g     --     --
-----
```

```
-----
Interface  Status  Reason  Description
-----
vlan1      up      --      --
vlan2      down    PD      --
-----
```

```
-----
Port-channel  Type  PVID  Mode      Status  Reason  Speed  Description
Interface
-----
sa1           AGG   1     access   up      --      1g     --
-----
```

## 5.1.13 インターフェースのリセット

### [書式]

```
interface reset ifname
```

### [パラメーター]

*ifname* : LAN/SFP ポートまたは論理インターフェース  
リセットするインターフェース

**[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

指定したインターフェースをリセットする。

**[ノート]**

対象インターフェースのリンク状態をリセットし、リンクを再確立する。

なお、リセットに伴い一時的にリンクダウンが発生する。

論理インターフェースに所属している LAN/SFP ポートには実行できない。

**[設定例]**

LAN ポート #1 をリセットする

```
SWX3200#interface reset port1.1
```

**5.1.14 フレームカウンター表示**

**[書式]**

**show frame-counter** [*ifname*]

**[パラメーター]**

*ifname* : LAN/SFP ポートのインターフェース名  
表示するインターフェース

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

*ifname* で指定したインターフェースのフレームカウンター情報を表示する。*ifname* を省略した場合は、全てのインターフェースの情報を表示する。

以下の項目が表示される。

項目	説明
Packets	送信／受信パケット数
Octets	送信／受信オクテット数
Broadcast packets	ブロードキャストパケット送信数／受信数
Multicast packets	マルチキャストパケット送信数／受信数
Unicast packets	ユニキャストパケット送信数／受信数
Undersize packets	アンダーサイズパケット受信数(64 オクテット未満のパケット)
Oversize packets	オーバーサイズパケット受信数(1523 オクテット以上のパケット※1)
Fragments	フラグメントパケット受信数(64 オクテット未満で CRC が異常であるパケット)
Jabbers	ジャバーパケット受信数(1523 オクテット以上で CRC が異常であるパケット※1)
FCS errors	FCS エラーパケット受信数
RX errors	受信エラー数
TX errors	送信エラー数
Collisions	コリジョン発生回数
Drop packets	テールドロップした送信パケット数、バッファ溢れにより受信できなかったパケット数 ※2
64octet packets	64 オクテット長のパケット送受信数

項目	説明
65-127octet packets	65～127 オクテット長のパケット送受信数
128-255octet packets	128～255 オクテット長のパケット送受信数
256-511octet packets	256～511 オクテット長のパケット送受信数
512-1023octet packets	512～1023 オクテット長のパケット送受信数
1024-MAXoctet packets	1024～最大オクテット長(※1)のパケット送受信数

※1 各インターフェースの MRU に依存して変動する。

※2 テールドロップが有効な場合に送信の情報、無効な場合には受信の情報のみ表示されます。

### [設定例]

LAN ポート #1 のフレームカウンターを表示する。

```
SWX3200#show frame-counter port1.1
Interface port1.1 Ethernet MAC counters:
  Received:
    Packets           : 84
    Octets            : 6721
    Broadcast packets : 8
    Multicast packets : 76
    Unicast packets  : 0
    Undersize packets : 0
    Oversize packets : 0
    Fragments        : 0
    Jabbers          : 0
    FCS errors       : 0
    RX errors        : 0

  Transmitted:
    Packets           : 91
    Octets            : 11193
    Broadcast packets : 0
    Multicast packets : 91
    Unicast packets  : 0
    TX errors        : 0
    Collisions       : 0
    Drop packets     : 0

  Received and Transmitted:
    64octet packets  : 1
    65-127octet packets : 166
    128-255octet packets : 7
    256-511octet packets : 1
    512-1023octet packets : 0
    1024-MAXoctet packets : 0
```

## 5.1.15 フレームカウンターのクリア

### [書式]

**clear counters ifname**

**clear counters all**

### [キーワード]

all : すべてのインターフェースのフレームカウンターをクリアする

### [パラメーター]

ifname : LAN/SFP ポートまたは論理インターフェースのインターフェース名  
対象のインターフェース

### [入力モード]

特権 EXEC モード

**[説明]**

インターフェースのフレームカウンターをクリアする。

*ifname* を指定した場合は、そのインターフェースのフレームカウンターをクリアする。

*ifname* に論理インターフェースを指定した場合は、そのインターフェースに所属する全ての LAN/SFP ポートのフレームカウンターをクリアする。

**[設定例]**

LAN ポート #1 のフレームカウンターをクリアする。

```
SWX3200#clear counters port1.1
```

**5.1.16 SFP モジュールの状態表示****[書式]**

```
show ddm status
```

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

SFP モジュールの状態を表示する。

1 つの項目に対して SFP ポートごとに現在値、上限閾値、下限閾値が表示される。

項目	説明
Temperature	モジュール内部温度(°C)
Voltage	電圧値(V)
Current	電流値(mA)
TX-Power	発光の強度(dBm)
RX-Power	受光の強度(dBm)

**[設定例]**

SFP モジュールの状態を表示する。

```
SWX3200#show ddm status
```

Interface	Temperature (Celsius)	High Alarm Threshold	High Warning Threshold	Low Warning Threshold	Low Alarm Threshold
port1.25	42.7	100.0	85.0	-40.0	-55.0
port1.26	-	-	-	-	-
port1.27	40.7	95.0	90.0	-20.0	-25.0
port1.28	Unsupported	Unsupported	Unsupported	Unsupported	Unsupported
Interface	Voltage (V)	High Alarm Threshold	High Warning Threshold	Low Warning Threshold	Low Alarm Threshold
port1.25	3.37	3.62	3.46	3.13	2.97
port1.26	-	-	-	-	-
port1.27	3.34	3.89	3.70	2.89	2.70
port1.28	Unsupported	Unsupported	Unsupported	Unsupported	Unsupported
Interface	Current (mA)	High Alarm Threshold	High Warning Threshold	Low Warning Threshold	Low Alarm Threshold
port1.25	4.0	16.0	15.0	2.0	2.0
port1.26	-	-	-	-	-
port1.27	6.2	17.0	14.0	2.0	1.0
port1.28	Unsupported	Unsupported	Unsupported	Unsupported	Unsupported
Interface	TX-Power (dBm)	High Alarm Threshold	High Warning Threshold	Low Warning Threshold	Low Alarm Threshold
port1.25	-5.4806	0.4139	0.0000	-10.7058	-12.2184
port1.26	-	-	-	-	-
port1.27	-5.4714	-1.9997	-1.9997	-11.0237	-11.7392
port1.28	Unsupported	Unsupported	Unsupported	Unsupported	Unsupported

Interface	RX-Power (dBm)	High Alarm Threshold	High Warning Threshold	Low Warning Threshold	Low Alarm Threshold
port1.25	-7.5696	2.5527	0.0000	-16.9897	-40.0000
port1.26	-	-	-	-	-
port1.27	-8.7614	1.0002	-1.0017	-18.0134	-20.0000
port1.28	Unsupported	Unsupported	Unsupported	Unsupported	Unsupported

### 5.1.17 SFP モジュールの受光レベル監視の設定

#### [書式]

```
sfp-monitor rx-power action
no sfp-monitor rx-power
```

#### [パラメーター]

*action* : SFP モジュールの受光レベル監視の動作

設定値	説明
enable	SFP モジュールの受光レベル監視を有効にする
disable	SFP モジュールの受光レベル監視を無効にする

#### [初期設定]

```
sfp-monitor rx-power enable
```

#### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

#### [説明]

SFP モジュールの受光レベル監視を設定する。

#### [設定例]

SFP モジュールの受光レベル監視を無効にする。

```
SWX3200(config)#sfp-monitor rx-power disable
```

### 5.1.18 送信キューの使用率監視の設定(システム)

#### [書式]

```
tx-queue-monitor usage-rate action
no tx-queue-monitor usage-rate
```

#### [パラメーター]

*action* : システム全体の送信キューの使用率監視の設定

設定値	説明
enable	システム全体の送信キューの使用率監視を有効にする
disable	システム全体の送信キューの使用率監視を無効にする

#### [初期設定]

```
tx-queue-monitor usage-rate enable
```

#### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

#### [説明]

システム全体の送信キューの使用率監視を有効または無効にする。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

**[ノート]**

送信キューの使用率監視を有効にするためには、本コマンドに加えて、インターフェースでも送信キューの使用率監視を有効にする必要がある。

**[設定例]**

システム全体で送信キューの使用率監視を無効にする。

```
SWX3200(config)#tx-queue-monitor usage-rate disable
```

**5.1.19 送信キューの使用率監視の設定(インターフェース)****[書式]**

```
tx-queue-monitor usage-rate action
```

```
no tx-queue-monitor usage-rate
```

**[パラメーター]**

*action* : 対象インターフェースの送信キューの使用率監視の設定

設定値	説明
enable	対象インターフェースの送信キューの使用率監視を有効にする
disable	対象インターフェースの送信キューの使用率監視を無効にする

**[初期設定]**

```
tx-queue-monitor usage-rate enable
```

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

対象インターフェースの送信キューの使用率監視を有効または無効にする。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻す。

**[ノート]**

本コマンドは LAN/SFP ポートにのみ設定可能。

送信キューの使用率監視を有効にするためには、本コマンドに加えて、システム全体でも送信キューの使用率監視を有効にする必要がある。

**[設定例]**

LAN ポート #1 の送信キューの使用率監視を無効にする。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#tx-queue-monitor usage-rate disable
```

**5.1.20 送信キューの使用率監視の設定表示****[書式]**

```
show tx-queue-monitor
```

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

送信キューの使用率監視の設定を表示する。

表示内容は以下のとおり。

- システム全体の送信キューの使用率監視の設定
- LAN/SFP ポートごとの設定
  - インターフェース名(port)
  - LAN/SFP ポートの送信キューの使用率監視の設定(usage-rate)。

**[設定例]**

送信キューの使用率監視の設定を表示する。

```
SWX3200>show tx-queue-monitor
usage-rate: Enable
```

```
port          usage-rate
-----
port1.1      enable
port1.2      enable
port1.3      enable
port1.4      enable
port1.5      enable
port1.6      enable
port1.7      disable
:            :
port2.1      enable
:            :
```

## 5.2 リンクアグリゲーション

### 5.2.1 スタティック論理インターフェースの設定

**[書式]**

```
static-channel-group link-id
no static-channel-group
```

**[パラメーター]**

```
link-id          : <1-96>
                  スタティック論理インターフェース番号
```

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

対象インターフェースを *link-id* で指定したスタティック論理インターフェースに所属させる。

**no** 形式で実行した場合は、対象インターフェースをスタティック論理インターフェースから脱退させる。

**[ノート]**

本コマンドは LAN/SFP ポートにのみ設定可能。

スタティック論理インターフェースが存在しない *link-id* に対して、LAN/SFP ポートを所属させる場合は、新たにスタティック論理インターフェースが生成される。

スタティック論理インターフェースから脱退させた結果、所属する LAN/SFP ポートが無くなった場合は、スタティック論理インターフェースが削除される。

1つのスタティック論理インターフェースに最大8つの LAN/SFP ポートを所属させることができる。

既に存在しているスタティック論理インターフェースに対して所属させる場合は、LAN/SFP ポートとスタティック論理インターフェースで、以下の設定を全て一致させること。設定が異なる場合はエラーとなる。

- VLAN の設定
- QoS のトラストモード設定(デフォルト CoS 値、ポート優先度を含む)

新たにスタティック論理インターフェースが生成される場合は、LAN/SFP ポートの上記設定がスタティック論理インターフェースの初期設定となる。

LAN/SFP ポートをスタティック論理インターフェースに所属させると、MSTP の設定が初期設定値に戻る。また、スタティック論理インターフェースから脱退した場合も MSTP の設定が初期設定値に戻る。

1つの LAN/SFP ポートを複数の論理インターフェースに所属させることは出来ない。**no** 形式で脱退させてから異なる論理インターフェースに所属させること。

**[設定例]**

LAN ポート #1 をスタティック論理インターフェース #5 に所属させる。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#static-channel-group 5
```



## 5.2.2 スタティック論理インターフェースの状態表示

### [書式]

**show static-channel-group**

### [入力モード]

非特権 EXEC モード, 特権 EXEC モード

### [説明]

スタティック論理インターフェースの状態を表示する。

存在するスタティック論理インターフェースごとに以下の項目が表示される。

- スタティック論理インターフェース名
- ロードバランス機能のルール
- 所属している LAN/SFP ポートのインターフェース名

ロードバランス機能のルールについては、**port-channel load-balance** コマンドの *type* パラメーター参照のこと。

### [設定例]

スタティック論理インターフェースの状態を表示する。

```
SWX3200#show static-channel-group
% Static Aggregator: sa5
% Load balancing: src-dst-mac
% Member:
  port1.1
  port1.2
  port1.3
  port1.4
```

## 5.2.3 LACP 論理インターフェースの設定

### [書式]

**channel-group link-id mode mode**

**no channel-group**

### [パラメーター]

*link-id* : <1-127>  
LACP 論理インターフェース番号

*mode* : 動作モード

<i>mode</i>	説明
active	LACP を ACTIVE モードで機能させる。ACTIVE モードでは、対向機器に対して自動的に LACP フレームを送信する。
passive	LACP を PASSIVE モードで機能させる。PASSIVE モードでは、対向機器から LACP フレームを受信した場合にのみ LACP フレームを送信する。

### [入力モード]

インターフェースモード

### [説明]

対象インターフェースを *link-id* で指定した LACP 論理インターフェースに所属させる。

**no** 形式で実行した場合は、対象インターフェースを LACP 論理インターフェースから脱退させる。

### [ノート]

本コマンドは LAN/SFP ポートにのみ設定可能。

LACP 論理インターフェースに LAN/SFP ポートを所属させた場合は、当該 LAN/SFP ポートに **lacp timeout long** が設定される。

また、LACP 論理インターフェースから脱退させた場合は、当該 LAN/SFP ポートの **lacp timeout** コマンドの設定が削除される。

LACP 論理インターフェースが存在しない *link-id* に対して、LAN/SFP ポートを所属させる場合は、新たに LACP 論理インターフェースが生成される。

LACP 論理インターフェースから脱退させた結果、所属する LAN/SFP ポートが無くなった場合は、LACP 論理インターフェースが削除される。

1 つの LACP 論理インターフェースに最大 12 の LAN/SFP ポートを所属させることができる。

所属する LAN/SFP ポート数が、8 つまでは LACP 論理インターフェースに即時に束ねられ、8 つを越えた分については障害発生に備えての待機ポートとなる。

通信モードが半二重の LAN/SFP ポートは LACP リンクアグリゲーションに対応しない。(所属は可能だが LACP リンクアグリゲーションとして動作はしない。)

通信速度が異なる LAN/SFP ポートが同一 LACP 論理インターフェースに所属している場合の動作は異速度リンクアグリゲーションの設定に依存する。詳細は **lacp multi-speed** コマンドを参照のこと。

既に存在している LACP 論理インターフェースに対して LAN/SFP ポートを所属させる場合は、LAN/SFP ポートと LACP 論理インターフェースで、以下の設定を全て一致させること。設定が異なる場合はエラーとなる。

- VLAN の設定
- QoS のトラストモード設定(デフォルト CoS 値、ポート優先度を含む)

新たに LACP 論理インターフェースが生成される場合は、LAN/SFP ポートの上記設定が LACP 論理インターフェースの初期設定となる。

LAN/SFP ポートを LACP 論理インターフェースに所属させると、MSTP の設定が初期設定値に戻る。

また、LACP 論理インターフェースから脱退した場合も MSTP の設定が初期設定値に戻る。

1 つの LAN/SFP ポートを複数の論理インターフェースに所属させることは出来ない。

no 形式で脱退させてから異なる論理インターフェースに所属させること。

#### [設定例]

LAN ポート #1 を ACTIVE モードで LACP 論理インターフェース #10 に所属させる。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#channel-group 10 mode active
```

## 5.2.4 LACP 論理インターフェースの状態表示

### [書式]

**show etherchannel** [*ifname*]

### [パラメーター]

*ifname* : LAN/SFP ポートのインターフェース名  
LACP 論理インターフェースを構成しているインターフェース

### [入力モード]

非特権 EXEC モード, 特権 EXEC モード

### [説明]

*ifname* を省略した場合、LACP 論理インターフェースの状態を表示する。

存在する LACP 論理インターフェースごとに以下の項目が表示される。

- LACP 論理インターフェース名
- ロードバランス機能のルール
- 所属している LAN/SFP ポートのインターフェース名

ロードバランス機能のルールについては、**port-channel load-balance** コマンドの *type* パラメーター参照のこと。

*ifname* を指定した場合、LACP 論理インターフェースを構成している、LAN/SFP ポートの状態を表示する。

以下の項目が表示される。

項目	説明
Etherchannel portN.N	LAN/SFP ポート名
Physical admin key	物理的な特性を識別する鍵(bandwidth,duplex,mru,VLAN 構成から作成)

項目	説明
Receive machine state	LACP プロトコル Receive machine 遷移変数の状態 <ul style="list-style-type: none"> <li>"Invalid"</li> <li>"Initialize"</li> <li>"Port disabled"</li> <li>"LACP disabled"</li> <li>"Expired"</li> <li>"Defaulted"</li> <li>"Current"</li> </ul>
Periodic Transmission machine state	LACP プロトコル Periodic Transmission 遷移変数の状態 <ul style="list-style-type: none"> <li>"Invalid"</li> <li>"No periodic"</li> <li>"Fast periodic" (1 秒間隔で送信)</li> <li>"Slow periodic" (30 秒間隔で送信)</li> <li>"Periodic"</li> </ul>
Mux machine state	LACP プロトコル Receive machine 遷移変数の状態 <ul style="list-style-type: none"> <li>"Detached"</li> <li>"Waiting"</li> <li>"Attached"</li> <li>"Collecting/Distributing"</li> </ul>
Selection	使用状態 <ul style="list-style-type: none"> <li>"Selected"</li> <li>"Unselected"</li> <li>"Standby"</li> </ul>
Information	以下の表を参照(Actor 自分自身、Partner 対向相手)
Aggregator ID	LACP 上の識別 ID

Information では以下の項目が表示される。

項目	説明
LAG	LACP システム ID(プライオリティ、MAC アドレス)
Admin Key	LACP 鍵の元となる ID(論理ポート番号)
Port priority	LACP ポート優先度
Ifindex	インターフェース番号
Timeout	Timeout 値("Long"=90 秒、"Short"=3 秒)
Active	LACP 動作モード("Active", "Passive")
Synchronized	Synchronization フラグ
Collecting	Collecting フラグ
Distributing	Distributing フラグ
Defaulted	Defaulted フラグ
Expired	Expired フラグ

**[設定例]**

LACP 論理インターフェースの状態を表示する。

```
SWX3200#show etherchannel
% LACP Aggregator: po10
% Load balancing: src-dst-mac
% Member:
  port1.1
  port1.2
```

```
port1.3
port1.4
```

LACP 論理インターフェースを構成している、LAN/SFP ポートの状態を表示する。

```
SWX3200#show etherchannel port1.1
Etherchannel port1.1
Physical admin key                3
Receive machine state             Current
Periodic Transmission machine state Slow periodic
Mux machine state                 Collecting/Distributing
Selection                          Selected
Information Actor Partner
LAG 0x8000, 00-a0-de-e0-e0-e0 0x8000, 00-a0-de-11-11-11
Admin Key 0001 0001
Port Priority 32768 32768
Ifindex 5001 5001
Timeout Long Long
Active 1 1
Synchronized 1 1
Collecting 1 1
Distributing 1 1
Defaulted 0 0
Expired 0 0
```

## 5.2.5 LACP システム優先度の設定

### [書式]

```
lcp system-priority priority
no lcp system-priority
```

### [パラメーター]

*priority* : <1-65535>

LACP システム優先度  
小さいほど優先度が高い

### [初期設定]

```
lcp system-priority 32768
```

### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

### [説明]

LACP システム優先度を設定する。

no 形式で実行した場合は設定を初期値に戻す。

### [ノート]

LACP 論理インターフェースが対向機器と接続された場合、システム優先度を比較して、優先度が高い方に制御権が与えられる。

### [設定例]

LACP システム優先度を 100 に設定する。

```
SWX3200(config)#lcp system-priority 100
```

## 5.2.6 LACP システム優先度の表示

### [書式]

```
show lcp sys-id
```

### [入力モード]

非特権 EXEC モード, 特権 EXEC モード

### [説明]

LACP システム優先度と LACP システム ID を表示する。

以下の項目が表示される。

- LACP システム優先度(0x で始まる 16 進数)
- LACP システム ID

#### [ノート]

LACP システム優先度は、**lacp system-priority** コマンドで設定できる。

LACP システム ID は、MAC アドレスから生成される。

#### [設定例]

LACP のシステム優先度を表示する。

```
SWX3200>show lacp sys-id
% System 0x8000, 00-a0-de-e0-e0-e0
```

## 5.2.7 LACP 異速度リンクアグリゲーションの設定

#### [書式]

```
lacp multi-speed switch
no lacp multi-speed
```

#### [パラメーター]

*switch* : 異速度リンクアグリゲーション機能の有効・無効設定

設定値	説明
enable	異速度リンクアグリゲーションを有効にする
disable	異速度リンクアグリゲーションを無効にする

#### [初期設定]

lacp multi-speed disable

#### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

#### [説明]

LACP における異速度リンクアグリゲーション機能の有効・無効を設定する。

no 形式で実行した場合は設定を初期値に戻す。

#### [ノート]

異速度リンクアグリゲーションが有効の場合の動作

- 最大数 (8 ポート) までのすべての所属ポートを通信速度に関わらずアクティブにする。
- ロードバランスはすべての所属ポートを同等に扱う。
- 対向機器が異なる通信速度を受け入れない場合、自機器と対向機器とで所属ポートの一覧を相互に交換し、双方が使用可能な所属ポートをアクティブとする。

異速度リンクアグリゲーションが無効の場合の動作

- 所属ポート内で最初にリンクアップしたポートと同じ通信速度のポートのみをアクティブにする。
  - 通信速度が異なる他のポートはスタンバイのままとする。
  - オートネゴシエーションに設定されている場合、所属ポート内で最初にネゴシエーションした結果と同じ通信速度のポートのみをアクティブにする。
- 最初にリンクアップしたポート群が全てリンクダウンしたとき、LACP 論理インターフェースもリンクダウンする。

#### [設定例]

異速度リンクアグリゲーションを有効に設定する。

```
SWX3200(config)#lacp multi-speed enable
```

## 5.2.8 LACP タイムアウトの設定

#### [書式]

```
lacp timeout duration
```

**[パラメーター]**

*duration* : タイムアウトを指定する

<i>duration</i>	説明
short	タイムアウトを 3 秒とする
long	タイムアウトを 90 秒とする

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

LACP タイムアウトを設定する。

**[ノート]**

本コマンドは LACP 論理インターフェースに所属している LAN/SFP ポートにのみ設定可能。

LACP 論理インターフェースに LAN/SFP ポートを所属させた場合は、当該 LAN/SFP ポートに **lacp timeout long** が設定される。

また、LACP 論理インターフェースから脱退させた場合は、当該 LAN/SFP ポートの **lacp timeout** コマンドの設定が削除される。

LACP タイムアウトとは、対向機器からの LACP フレームを受信できなかった場合にダウンしたと見なすまでの時間を表す。

また、LACP タイムアウトの設定は LACP フレームに格納されて対向機器に送られ、受信した対向機器は格納された LACP タイムアウトの 1/3 の間隔で LACP フレームを送信するようになる。

自身の LACP フレームの送信間隔は、対向機器から送られてくる LACP フレーム内に格納されている LACP タイムアウトに依存する。

**[設定例]**

LAN ポート #1 の LACP タイムアウトを short に設定する。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#lacp timeout short
```

## 5.2.9 LACP フレームカウンターのクリア

---

**[書式]**

**clear lacp [*link-id*] counters**

**[パラメーター]**

*link-id* : <1-127>  
LACP 論理インターフェース番号

**[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

LACP のフレームカウンターをクリアする。

*link-id* を省略した場合は、存在する全ての LACP 論理インターフェースのフレームカウンターをクリアする。

**[設定例]**

全ての LACP 論理インターフェースのフレームカウンターをクリアする。

```
SWX3200#clear lacp counters
```

## 5.2.10 LACP フレームカウンターの表示

---

**[書式]**

**show lacp-counter [*link-id*]**

**[パラメーター]**

*link-id* : <1-127>

## LACP 論理インターフェース番号

## [入力モード]

非特権 EXEC モード, 特権 EXEC モード

## [説明]

LACP のフレームカウンターを表示する。

*link-id* を省略した場合は、存在する全ての LACP 論理インターフェースのフレームカウンターを表示する。

所属している LAN/SFP ポートごとに、以下の項目が表示される。

- 送受信された LACP フレーム
- 送受信された Marker プロトコルフレーム
- 送受信されたエラーフレーム

## [設定例]

全ての LACP 論理インターフェースのフレームカウンターを表示する。

```
SWX3200#show lacp-counter
% Traffic statistics
Port          LACPDUs          Marker          Pckt err
           Sent    Recv    Sent    Recv    Sent    Recv
% Aggregator po1 , ID 4601
port1.1    297     298     0       0       0       0
port1.2    306     299     0       0       0       0
port1.3    305     298     0       0       0       0
port1.4    309    1350     0       0       0       0
port1.5    186     186     0       0       0       0
```

## 5.2.11 ロードバランス機能のルールの設定

## [書式]

**port-channel load-balance** *type*

**no port-channel load-balance**

## [パラメーター]

*type* : 転送先インターフェースを決めるためのルール

<i>type</i>	説明
dst-ip	宛先 IPv4/IPv6 アドレス
dst-mac	宛先 MAC アドレス
dst-port	宛先 TCP/UDP ポート番号
src-dst-ip	送信元および宛先 IPv4/IPv6 アドレス
src-dst-mac	送信元および宛先 MAC アドレス
src-dst-port	送信元および宛先 TCP/UDP ポート番号
src-ip	送信元 IPv4/IPv6 アドレス
src-mac	送信元 MAC アドレス
src-port	送信元 TCP/UDP ポート番号

## [初期設定]

port-channel load-balance src-dst-mac

## [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

## [説明]

ロードバランス機能の転送先インターフェースを決めるためのルールを設定する。

受信したフレーム内の L2/L3/L4 情報を使用し、転送先が決定される。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

**[ノート]**

本コマンドはシステム全体の設定となる。

IPv4/IPv6 パケットではないフレームの場合は、設定されているルールに関わらず、送信元および宛先 MAC アドレスを元に転送先インターフェースが決定する。

**[設定例]**

ロードバランス機能で、送信元および宛先 IPv4/IPv6 アドレスを元に転送先インターフェースを決定するように設定する。

```
SWX3200(config)#port-channel load-balance src-dst-ip
```

**5.2.12 LACP 論理インターフェースのプロトコル状態表示****[書式]**

```
show etherchannel status [link-id] [summary | detail]
```

**[キーワード]**

summary : 概略表示

detail : 詳細表示

**[パラメーター]**

link-id : <1-127>

LACP 論理インターフェース番号

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード, 特権 EXEC モード

**[説明]**

link-id で指定した LACP 論理インターフェースの状態を表示する。

link-id を省略したときは、全ての LACP 論理インターフェース状態を表示する。

summary を指定した場合は概略表示し、detail を指定した場合は詳細表示する。

summary も、detail も省略したときは、summary が指定されたものとする。

以下の項目が表示される。

項目	説明
Aggregator	LACP 論理インターフェース
ID	LACP 論理インターフェース上の識別 ID
Actor LAG	自分自身の LACP システム ID(プライオリティ、MAC アドレス)
Admin Key	自分自身の LACP 鍵の元となる ID(論理ポート番号)
Status	リンクアグリゲーションのステータス("Not ready"/"Ready")
Partner LAG	対向相手の LACP システム ID(プライオリティ、MAC アドレス)
Partner Key	対向相手の LACP 鍵の元となる ID
Link count	データ通信中ポート数/通信可能なポート数
Link	構成する LAN/SFP ポート一覧(詳細は以下の表)

Link には以下の項目が表示される。

使用状態	説明
"Unselected"	LACP 制御プロトコル通信中。
"Selected"	LACP が有効な、LAN/SFP ポートとして選択した。



使用状態	説明
"Standby"	LACP が有効な、LAN/SFP ポートとし、待機ポートとした。

Synchronization フラグ	説明
"no"	Synchronization フラグが立っていない。
"yes"	Synchronization フラグが立っている。

使用状態と、Synchronization フラグから、リンクアップした LAN/SFP ポートの状態がわかる。

使用状態	Synchronization	リンクアップした LAN/SFP ポートの状態
Unselected	no	LACP 制御プロトコル通信中。
Selected	no	LACP が有効な、LAN/SFP ポートとして選択した。リンクアグリゲーションとして束ねるための、ネゴシエーション中。
Standby	no	LACP が有効な、LAN/SFP ポートとして選択し、待機ポートと決定した。
Selected	yes	LACP が有効な、LAN/SFP ポートとして選択した。リンクアグリゲーションとして束ねられてデータ通信可能となった。

**[設定例]**

LACP 論理インターフェースの状態を表示する。

```
SWX3200#show etherchannel status summary
Aggregator po1
  ID          4601
  Status      Ready
  Partner LAG 0x8000, 00-a0-de-11-11-11
  Partner Key 0001
  Link count  1/ 1
Aggregator po2
  ID          4602
  Status      Not ready
  Partner LAG 0x8000, 00-a0-de-11-11-11
  Partner Key 0001
  Link count  0/ 1
Aggregator po127
  ID          4727
  Status      Not ready
  Partner LAG 0x8000, 00-a0-de-11-11-11
  Partner Key 0001
  Link count  0/ 1

SWX3200#show etherchannel status detail
Aggregator po1
  ID          4601
  Status      Ready
  Actor LAG   0x8000, 00-a0-de-e0-e0-e0
  Admin Key   0001
  Partner LAG 0x8000, 00-a0-de-11-11-11
  Partner Key 0001
  Link count  1/ 1
  Link
    port1.1   Selected      Synchronized  yes
Aggregator po2
  ID          4602
  Status      Ready
  Actor LAG   0x8000, 00-a0-de-e0-e0-e0
  Admin Key   0002
```

```

Partner LAG 0x8000, 00-a0-de-11-11-11
Partner Key 0001
Link count 0/ 1
Link
  port1.2 Selected Synchronized no
  port1.3 Unselected Synchronized no
Aggregator po127
ID 4727
Status Ready
Actor LAG 0x8000, 00-a0-de-e0-e0-e0
Admin Key 0127
Partner LAG 0x8000, 00-a0-de-11-11-11
Partner Key 0001
Link count 0/ 1
Link
  port1.4 Selected Synchronized no

```

### 5.2.13 LACP ポート優先度の設定

#### [書式]

```
lacp port-priority priority
```

```
no lacp port-priority
```

#### [パラメーター]

```
priority : <1-65535>
```

LACP ポート優先度

小さいほど優先度が高い

#### [初期設定]

```
lacp port-priority 32768
```

#### [入力モード]

インターフェースモード

#### [説明]

LACP ポート優先度を設定する。

no 形式で実行した場合は設定を初期値に戻す。

#### [ノート]

LACP 論理インターフェースに束ねるときの LAN/SFP ポート数が 8 つまでは LACP 論理インターフェースに即時に束ねられ、8 つを越えた分については障害発生に備えて待機ポートとなる。

このような時、LAN/SFP ポート間で優先順位が評価されて、優先順位の高いものから束ねられる。

優先順位の評価方法は、以下の通りである。

- 1) LACP ポート優先度が小さい程優先される。
- 2) LACP ポート優先度が同じであれば、インターフェース番号が小さい程優先される。

SFP ポートを優先させる場合は、LACP ポート優先度を他のポートより小さく設定する必要がある。

#### [設定例]

LACP ポート優先度を 1024 に設定する。

```

SWX3200(config-if)#channel-group 1 mode active
SWX3200(config-if)#lacp port-priority 1024

```

## 5.3 ポート認証

### 5.3.1 システム全体での IEEE 802.1X 認証機能の設定

#### [書式]

```
aaa authentication dot1x
```

```
no aaa authentication dot1x
```

**[初期設定]**

```
no aaa authentication dot1x
```

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

システム全体で IEEE 802.1X 認証を有効にする。

no 形式で実行した場合は、システム全体で IEEE 802.1X 認証を無効にする。

認証は、**radius-server host** コマンドで設定した RADIUS サーバーを使用する。

**[ノート]**

実際に IEEE 802.1X 認証を使用するためには、対象インターフェースでも IEEE 802.1X 認証を有効にする必要がある。(dot1x port-control コマンド)

**[設定例]**

システム全体で IEEE 802.1X 認証を有効化する。

```
SWX3200(config)#aaa authentication dot1x
```

### 5.3.2 システム全体での MAC 認証機能の設定

---

**[書式]**

```
aaa authentication auth-mac
no aaa authentication auth-mac
```

**[初期設定]**

```
no aaa authentication auth-mac
```

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

システム全体で MAC 認証を有効にする。

no 形式で実行した場合は、システム全体で MAC 認証を無効にする。

認証は、**radius-server host** コマンドで設定した RADIUS サーバーを使用する。

**[ノート]**

実際に MAC 認証を使用するためには、対象インターフェースでも MAC 認証を有効にする必要がある。(auth-mac enable コマンド)

**[設定例]**

システム全体で MAC 認証を有効化する。

```
SWX3200(config)#aaa authentication auth-mac
```

### 5.3.3 システム全体での Web 認証機能の設定

---

**[書式]**

```
aaa authentication auth-web
no aaa authentication auth-web
```

**[初期設定]**

```
no aaa authentication auth-web
```

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

システム全体で Web 認証を有効にする。

no 形式で実行した場合は、システム全体で Web 認証を無効にする。

認証は、**radius-server host** コマンドで設定した RADIUS サーバーを使用する。

**[ノート]**

実際に Web 認証を使用するためには、対象インターフェースでも Web 認証を有効にする必要がある。(auth-web enable コマンド)

**[設定例]**

システム全体で Web 認証を有効化する。

```
SWX3200(config)#aaa authentication auth-web
```

**5.3.4 IEEE 802.1X 認証機能の動作モード設定****[書式]**

```
dot1x port-control mode
no dot1x port-control
```

**[パラメーター]**

*mode* : IEEE 802.1X 認証の動作モード

動作モード	説明
auto	IEEE 802.1X 認証の Authenticator として動作する
force-authorized	IEEE 802.1X 認証の認証済みポートに固定設定する
force-unauthorized	IEEE 802.1X 認証の未認証ポートに固定設定する

**[初期設定]**

```
no dot1x port-control
```

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

対象インターフェースに対して、IEEE 802.1X 認証機能の動作モードを設定する。

no 形式でコマンドを実行した場合は、対象インターフェースの IEEE 802.1X 認証機能は無効となる。

**[ノート]**

本コマンドは LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースにのみ設定可能。

**[設定例]**

LAN ポート #1 で、IEEE 802.1X 認証機能の動作モードを auto に設定する。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#dot1x port-control auto
```

**5.3.5 IEEE 802.1X 認証の未認証ポートでの転送制御の設定****[書式]**

```
dot1x control-direction direction
no dot1x control-direction
```

**[パラメーター]**

*direction* : 未認証ポートでのパケット転送動作を設定

転送動作	説明
both	送受信とも破棄する。
in	受信のみ破棄する。

**[初期設定]**

```
dot1x control-direction both
```

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

対象インターフェースに対して、IEEE 802.1X 認証の未認証時のパケット転送動作を変更する。

no 形式で実行した場合は、初期設定に戻る。

both を指定している場合、サブリカントから受信したパケットを破棄し、他のポートからサブリカントの接続されているインターフェースへのブロードキャスト/マルチキャストパケットも破棄する。

in を指定している場合、サブリカントから受信したパケットのみを破棄し、他のポートからサブリカントの接続されているインターフェースへのブロードキャスト/マルチキャストパケットは転送する。

**[ノート]**

本コマンドは LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースにのみ設定可能。

対象インターフェースで、ホストモードをマルチサブリカントモードに設定した場合や MAC 認証と併用した場合は、自動的に in となる。

対象インターフェースでゲスト VLAN の設定をしている場合は、本コマンドの設定自体が無効となる。

本コマンドの設定を変更すると、認証状態は初期状態に戻る。

本コマンドを使用するためには、対象インターフェースでポート認証機能を有効にする必要がある。(dot1x port-control コマンド)

**[設定例]**

LAN ポート #1 の未認証ポートでのパケット転送動作を受信のみ破棄にする。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#dot1x control-direction in
```

**5.3.6 EAPOL パケットの送信回数の設定****[書式]**

**dot1x max-auth-req count**

**no dot1x max-auth-req**

**[パラメーター]**

*count* : <1-10>

EAPOL パケットの最大送信回数

**[初期設定]**

dot1x max-auth-req 2

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

対象インターフェースに対して、EAPOL パケットの送信回数の最大値を設定する。

no 形式でコマンドを実行した場合は、初期設定に戻る。

**[ノート]**

本コマンドは LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースにのみ設定可能。

本コマンドを使用するためには、対象インターフェースでポート認証機能を有効にする必要がある。(dot1x port-control コマンド)

**[設定例]**

LAN ポート #1 で、EAPOL パケットの送信回数を 3 に設定する。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#dot1x max-auth-req 3
```

**5.3.7 MAC 認証機能の設定****[書式]**

**auth-mac enable**

**auth-mac disable**

**no auth-mac enable****[キーワード]**

enable : MAC 認証機能を有効にする  
 disable : MAC 認証機能を無効にする

**[初期設定]**

auth-mac disable

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

対象インターフェースに対して、MAC 認証を有効にする。

no 形式で実行した場合、または、disable を指定した場合は、MAC 認証を無効にする。

**[ノート]**

本コマンドは LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースにのみ設定可能。

実際に MAC 認証を使用するためには、システム全体でも MAC 認証を有効にする必要がある。(aaa authentication auth-mac コマンド)

**[設定例]**

LAN ポート #1 の MAC 認証機能を有効にする。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#auth-mac enable
```

**5.3.8 MAC 認証時の MAC アドレス形式の設定****[書式]****auth-mac auth-user type case****no auth-mac auth-user****[パラメーター]**

type : 形式を指定

設定値	形式
hyphen	XX-XX-XX-XX-XX-XX
colon	XX:XX:XX:XX:XX:XX
unformatted	XXXXXXXXXXXX

case : 大文字・小文字を指定

設定値	説明
lower-case	小文字(a~f)
upper-case	大文字(A~F)

**[初期設定]**

auth-mac auth-user hyphen lower-case

**[入力モード]**

グローバルコンフィギュレーションモード

**[説明]**

MAC 認証において、認証時に使用するユーザー名・パスワードの形式を変更する。

MAC 認証では、サブリカントの MAC アドレスをユーザー名・パスワードとして使用し RADIUS サーバーへ認証を要求する。

no 形式で実行した場合は、初期設定に戻る。

**[ノート]**

本コマンドを使用するためには、対象インターフェースで MAC 認証機能を有効にする必要がある。(auth-mac enable コマンド)

**[設定例]**

MAC 認証に使用する MAC アドレス形式をハイフンなし、大文字に変更する。

```
SWX3200(config)#auth-mac auth-user unformatted upper-case
```

### 5.3.9 MAC 認証のスタティック登録の設定

---

**[書式]**

```
auth-mac static enable
auth-mac static disable
no auth-mac static
```

**[キーワード]**

enable : スタティック登録を有効にする  
 disable : スタティック登録を無効にする

**[初期設定]**

```
auth-mac static disable
```

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

MAC 認証機能で、認証をパスしたサブリカントの MAC アドレスを FDB にスタティックエントリーとして登録する。

no 形式で実行した場合、または、disable を指定した場合は、スタティック登録を無効にする。

**[ノート]**

本コマンドは LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースにのみ設定可能。

本コマンドの設定を変更すると、認証状態は初期状態に戻る。

通常、MAC 認証は FDB にダイナミックエントリーとして登録するためエージングタイムアウトの対象となるが、本コマンド有効時はスタティックエントリーとして登録するため対象外となる。

clear auth state コマンド、または、auth clear-state time コマンドで、スタティック登録(認証情報)をクリアすることができる。

本コマンドを使用するためには、対象インターフェースで MAC 認証機能を有効にする必要がある。(auth-mac enable コマンド)

**[設定例]**

LAN ポート #1 の MAC 認証のスタティック登録を有効にする。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#auth-mac static enable
```

### 5.3.10 Web 認証機能の設定

---

**[書式]**

```
auth-web enable
auth-web disable
no auth-web enable
```

**[キーワード]**

enable : Web 認証機能を有効にする  
 disable : Web 認証機能を無効にする

**[初期設定]**

```
auth-web disable
```

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

対象インターフェースに対して、Web 認証を有効にする。

no 形式で実行した場合、または、**disable** を指定した場合は、Web 認証を無効にする。

**[ノート]**

本コマンドは LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースにのみ設定可能。

実際に Web 認証を使用するためには、システム全体でも Web 認証を有効にする必要がある。**(aaa authentication auth-web コマンド)**

マルチサブリカントモード以外では Web 認証機能を有効にすることはできません。

ゲスト VLAN との併用はできません。

**[設定例]**

LAN ポート #1 の Web 認証機能を有効にする。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#auth-web enable
```

### 5.3.11 ホストモードの設定

**[書式]**

**auth host-mode mode**

**no auth host-mode**

**[パラメーター]**

*mode* : ポート認証の動作モード

動作モード	説明
single-host	1 ポートあたり 1 サブリカントのみ通信を許可するモードで、最初に認証をパスしたサブリカントのみを許可する
multi-host	1 ポートあたり複数サブリカントの通信を許可するモードで、最初のサブリカントが認証をパスすると、同じポート配下のサブリカントは認証を行わなくても通信が可能となる
multi-suppliant	1 ポートあたり複数サブリカントの通信を許可するモードでサブリカント毎に通信の許可・拒否を決定する

**[初期設定]**

auth host-mode single-host

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

対象インターフェースに対して、ポート認証の動作モードを変更する。

no 形式で実行した場合は、初期設定に戻る。

**[ノート]**

本コマンドは LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースにのみ設定可能。

本コマンドの設定を変更すると、認証状態は初期状態に戻る。

マルチサブリカントモードでダイナミック VLAN を利用する場合、サブリカント単位で VLAN を指定することが可能。

マルチホストモードでダイナミック VLAN を利用する場合、2 番目以降のサブリカントは最初のサブリカントが適用した VLAN ID が適用される。



本コマンドを使用するためには、対象インターフェースでポート認証機能を有効にする必要がある。(dot1x port-control コマンド、auth-mac enable コマンド、auth-web enable コマンド)

#### [設定例]

LAN ポート #1 をマルチサブリカントモードに変更する。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#auth host-mode multi-supPLICANT
```

### 5.3.12 認証順序の設定

#### [書式]

```
auth order dot1x auth-mac
auth order auth-mac dot1x
no auth order
```

#### [キーワード]

dot1x : IEEE 802.1X 認証方式  
auth-mac : MAC 認証方式

#### [初期設定]

```
auth order dot1x auth-mac
```

#### [入力モード]

インターフェースモード

#### [説明]

ポート認証機能で、認証方式を併用した場合、認証を行う順番を設定する。  
no 形式で実行した場合は、初期設定に戻る。

#### [ノート]

本コマンドは LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースにのみ設定可能。

Web 認証は、本設定に関係なく Web 認証画面で ID/Password を入力したときに認証を行う。

IEEE 802.1X 認証、MAC 認証、Web 認証の設定が無効な場合、その認証方式は実施されない。

本コマンドを使用するためには、対象インターフェースでポート認証機能を有効にする必要がある。(dot1x port-control コマンド、auth-mac enable コマンド、auth-web enable コマンド)

#### [設定例]

LAN ポート #1 の認証方式の順番を、MAC 認証 -> IEEE 802.1X 認証の順番で行うように設定する。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#auth order auth-mac dot1x
```

### 5.3.13 再認証の設定

#### [書式]

```
auth reauthentication
no auth reauthentication
```

#### [初期設定]

```
no auth reauthentication
```

#### [入力モード]

インターフェースモード

#### [説明]

対象インターフェースに対して、サブリカントの再認証を有効にする。

no 形式で実行した場合は、再認証を無効にする。

本設定を有効にした場合は、認証に成功したサブリカントを定期的に再認証する。

再認証の間隔は、auth timeout reauth-period コマンドで変更できる。

#### [ノート]

本コマンドは LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースにのみ設定可能。

IEEE 802.1X 認証時は、再認証のタイミングになると、サブリカントに EAPOL パケットを送信してユーザー情報を再取得し、RADIUS サーバーに認証要求を行う。

MAC 認証時は、再認証のタイミングになると、サブリカントの MAC アドレスをユーザー名、および、パスワードと見なして RADIUS サーバーに認証要求を行う。

Web 認証時は、再認証のタイミングになると、サブリカントの認証状態を未認証に遷移させる。

本コマンドを使用するためには、対象インターフェースでポート認証機能を有効にする必要がある。(dot1x port-control コマンド、auth-mac enable コマンド、auth-web enable コマンド)

#### [設定例]

LAN ポート #1 の再認証を有効にする。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#auth reauthentication
```

### 5.3.14 ダイナミック VLAN の設定

#### [書式]

```
auth dynamic-vlan-creation
no auth dynamic-vlan-creation
```

#### [初期設定]

```
no auth dynamic-vlan-creation
```

#### [入力モード]

インターフェースモード

#### [説明]

対象インターフェースに対して、ダイナミック VLAN を有効にする。

no 形式で実行した場合は、ダイナミック VLAN を無効にする。

ダイナミック VLAN が有効なインターフェースでは、RADIUS サーバーから指定された属性値 (Tunnel-Private-Group-ID)をもとに、所属 VLAN を動的に変更する。

#### [ノート]

本コマンドは LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースにのみ設定可能。

本コマンドの設定を変更すると、認証状態は初期状態に戻る。

マルチサブリカントモードでダイナミック VLAN を利用する場合、サブリカント単位で VLAN を指定することが可能。

マルチホストモードでダイナミック VLAN を利用する場合、2 番目以降のサブリカントは最初のサブリカントが適用した VLAN ID が適用される。

本コマンドを使用するためには、対象インターフェースでポート認証機能を有効にする必要がある。(dot1x port-control コマンド、auth-mac enable コマンド、auth-web enable コマンド)

#### [設定例]

LAN ポート #1 でダイナミック VLAN を有効にする。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#auth dynamic-vlan-creation
```

### 5.3.15 ゲスト VLAN の設定

#### [書式]

```
auth guest-vlan vlan-id
no auth guest-vlan
```

#### [パラメーター]

```
vlan-id          : <1-4094>
                  ゲスト VLAN 用の VLAN ID
```

#### [初期設定]

```
no auth guest-vlan
```

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

対象インターフェースに接続されているサブリカントが未認証、あるいは、認証失敗のときに所属するゲスト VLAN を指定する。

no 形式で実行した場合は、ゲスト VLAN の設定を削除する。

**[ノート]**

本コマンドは LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースにのみ設定可能。

本コマンドの設定を変更すると、認証状態は初期状態に戻る。

本コマンドを使用するためには、対象インターフェースでポート認証機能を有効にする必要がある。(dot1x port-control コマンド、auth-mac enable コマンド)

本コマンドは、Web 認証が有効なとき設定できません。

**[設定例]**

LAN ポート #1 でゲスト VLAN #10 を指定する。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#auth guest-vlan 10
```

### 5.3.16 認証失敗後の抑止期間の設定

---

**[書式]**

```
auth timeout quiet-period time
no auth timeout quiet-period
```

**[パラメーター]**

*time* : <1-65535>  
認証失敗後、サブリカントとの通信を拒否する期間(秒)

**[初期設定]**

```
auth timeout quiet-period 60
```

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

対象インターフェースに対して、認証失敗後の認証抑止期間を設定する。

no 形式で実行した場合は、初期設定に戻る。

認証抑止期間中に受信したパケットはすべて破棄する。

**[ノート]**

本コマンドは LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースにのみ設定可能。

本コマンドを使用するためには、対象インターフェースでポート認証機能を有効にする必要がある。(dot1x port-control コマンド、auth-mac enable コマンド、auth-web enable コマンド)

**[設定例]**

LAN ポート #1 の抑止期間の設定を 300 に設定する。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#auth timeout quiet-period 300
```

### 5.3.17 再認証間隔の設定

---

**[書式]**

```
auth timeout reauth-period time
no auth timeout reauth-period
```

**[パラメーター]**

*time* : <300-86400>  
サブリカントの再認証間隔(秒)

**[初期設定]**

```
auth timeout reauth-period 3600
```

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

対象インターフェースに対して、サブリカントの再認証間隔を設定する。

no 形式で実行した場合は、初期設定に戻る。

**[ノート]**

本コマンドは LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースにのみ設定可能。

本コマンドを使用するためには、対象インターフェースでポート認証機能、かつ、再認証機能を有効にする必要がある。(dot1x port-control コマンド、auth-mac enable コマンド、auth-web enable コマンド、auth reauthentication コマンド)

**[設定例]**

LAN ポート #1 の再認証間隔の設定を 1200 に設定する。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#auth timeout reauth-period 1200
```

### 5.3.18 RADIUS サーバー全体の応答待ち時間の設定

---

**[書式]**

```
auth timeout server-timeout time
```

```
no auth timeout server-timeout
```

**[パラメーター]**

*time* : <1-65535>

認証要求に対する認証サーバーからの応答待ち時間(秒)

**[初期設定]**

```
auth timeout server-timeout 30
```

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

対象インターフェースでポート認証を行うときの、RADIUS サーバー全体からの応答待ち時間を設定する。

no 形式で実行した場合は、初期設定に戻る。

**[ノート]**

本コマンドは LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースにのみ設定可能。

本設定値は、

**(radius-server timeout コマンドの設定値) × (radius-server retransmit コマンドの設定値 + 1) × (RADIUS サーバー数)** 以上にする必要がある。

本コマンドを使用するためには、対象インターフェースでポート認証機能を有効にする必要がある。(dot1x port-control コマンド、auth-mac enable コマンド、auth-web enable コマンド)

**[設定例]**

LAN ポート #1 の認証要求に対する RADIUS サーバー全体の応答待ち時間を 180 秒に設定する。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#auth timeout server-timeout 180
```

### 5.3.19 サブリカント応答待ち時間の設定

---

**[書式]**

```
auth timeout supp-timeout time
```

```
no auth timeout supp-timeout
```

## [パラメーター]

*time* : <1-65535>  
 サプリカントからの応答待ち時間(秒)

## [初期設定]

auth timeout supp-timeout 30

## [入力モード]

インターフェースモード

## [説明]

対象インターフェースに対して、ポート認証を行うときのサプリカントからの応答待ち時間を設定する。  
 no 形式で実行した場合は、初期設定に戻る。

## [ノート]

本コマンドは LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースにのみ設定可能。

本コマンドを使用するためには、対象インターフェースでポート認証機能を有効にする必要がある。(dot1x port-control コマンド、auth-mac enable コマンド、auth-web enable コマンド)

## [設定例]

LAN ポート #1 のサプリカントからの応答待ち時間を 180 秒に設定する。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#auth timeout supp-timeout 180
```

### 5.3.20 RADIUS サーバーホストの設定

## [書式]

**radius-server host** *host* [*auth-port port*] [*timeout time*] [*retransmit count*] [*key secret*]  
**no radius-server host**

## [キーワード]

*auth-port* : RADIUS サーバーの認証用 UDP ポート番号を設定する  
*timeout* : RADIUS サーバーへの要求に対する応答待機時間を設定する  
*retransmit* : RADIUS サーバーへの要求再送回数を設定する  
*key* : RADIUS サーバーとの通信時に使用するパスワードを設定する

## [パラメーター]

*host* : IPv4 アドレス(A.B.C.D) または IPv6 アドレス(X:X::X:X)  
 IPv6 リンクローカルアドレスを指定する場合は、送出インターフェースも指定する必要がある(fe80::X%vlanN の形式)  
*port* : <0-65535>  
 認証用 UDP ポート番号(省略時は初期値の 1812 を使用する)  
*time* : <1-1000>  
 応答待機時間(秒)(省略時は radius-server timeout コマンド設定(初期値 5 秒)に従う)  
*count* : <0-100>  
 要求再送回数(省略時は radius-server retransmit コマンド設定(初期値 3 回)に従う)  
*secret* : 半角英数字および、'?'、スペースを除く半角記号(128 文字以内)  
 共有パスワード(省略時は radius-server key コマンド設定に従う)

## [初期設定]

なし

## [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

認証サーバーリストにサーバーを追加する。

最大エントリー数は8である。

no 形式でコマンドを実行した場合は、指定したサーバーを認証サーバーリストから削除する。

**[ノート]**

設定値は、(**radius-server timeout** コマンドの設定値) x (**radius-server retransmit** コマンドの設定値 + 1) x (RADIUS サーバー数) の値が、**auth timeout server-timeout** コマンドの設定値内になるように調整する必要がある。

LLDP 自動設定機能で設定された **radius-server host** コマンドの末尾には、一時的な設定であることを表す "dynamic" オプションが付与される。"dynamic" オプションが付与されている場合、**write** コマンドを実行してもスタートアップコンフィグに保存されない。

**[設定例]**

IP アドレス 192.168.100.100、応答待機時間 10 秒、要求再送回数 5 回として認証サーバーリストに追加する。

```
SWX3200(config)#radius-server host 192.168.100.100 timeout 10 retransmit 5
```

IP アドレス 192.168.100.101、認証用 UDP ポート 1645、共有パスワード "abcde" を認証サーバーリストに追加する。

```
SWX3200(config)#radius-server host 192.168.100.101 auth-port 1645 key abcde
```

ローカル RADIUS サーバーを認証サーバーリストに追加する。

```
SWX3200(config)#radius-server host 127.0.0.1 key secret_local
```

**5.3.21 RADIUS サーバー 1 台あたりの応答待ち時間の設定****[書式]**

**radius-server timeout** *time*

**no radius-server timeout**

**[パラメーター]**

*time* : <1-1000>

要求応答待機時間(秒)

**[初期設定]**

radius-server timeout 5

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

RADIUS サーバー 1 台あたりの応答待ち時間を設定する。

no 形式でコマンドを実行した場合は、初期設定に戻る。

**[ノート]**

**radius-server host** コマンドでサーバー固有の要求応答待機時間が設定されている場合、**radius-server host** コマンドの設定に従う。

設定値は、

(**radius-server timeout** コマンドの設定値) × (**radius-server retransmit** コマンドの設定値 + 1) × (RADIUS サーバー数) の値が、**auth timeout server-timeout** コマンドの設定値内になるように調整する必要がある。

**[設定例]**

RADIUS サーバー 1 台あたりの応答待ち時間を 10 秒に設定する。

```
SWX3200(config)#radius-server timeout 10
```

**5.3.22 RADIUS サーバーへの要求再送回数の設定****[書式]**

**radius-server retransmit** *count*

**no radius-server retransmit**

**[パラメーター]**

*count* : <0-100>

## 要求再送回数

## [初期設定]

```
radius-server retransmit 3
```

## [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

## [説明]

RADIUS サーバーへの要求再送回数を設定する。

no 形式でコマンドを実行した場合は、初期設定に戻る。

## [ノート]

**radius-server host** コマンドでサーバー固有の要求再送回数が設定されている場合、**radius-server host** コマンドの設定に従う。

## [設定例]

RADIUS サーバーへの要求再送回数を 5 回に設定する。

```
SWX3200(config)#radius-server retransmit 5
```

### 5.3.23 RADIUS サーバー共有パスワードの設定

---

## [書式]

```
radius-server key secret
```

```
no radius-server key
```

## [パラメーター]

*secret* : 共有パスワード  
半角英数字および、'?'、スペースを除く半角記号(128 文字以内)

## [初期設定]

```
no radius-server key
```

## [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

## [説明]

RADIUS サーバーとの通信時に使用する共有パスワードを設定する。

no 形式でコマンドを実行した場合は、初期設定に戻る。

## [ノート]

**radius-server host** コマンドでサーバー固有の共有パスワードが設定されている場合、**radius-server host** コマンドの設定に従う。

## [設定例]

RADIUS サーバーとの共有パスワードとして"abcde"を設定する。

```
SWX3200(config)#radius-server key abcde
```

### 5.3.24 RADIUS サーバー使用抑制時間の設定

---

## [書式]

```
radius-server deadtime time
```

```
no radius-server deadtime
```

## [パラメーター]

*time* : <0-1440>  
RADIUS サーバーの使用抑制時間(分)

## [初期設定]

```
radius-server deadtime 0
```

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

RADIUS サーバーへの要求がタイムアウトしたとき、該当サーバーの使用を抑制する時間を設定する。

no 形式でコマンドを実行した場合は、初期設定に戻る。

**[設定例]**

RADIUS サーバー使用抑制時間を 1 分に設定する。

```
SWX3200(config)#radius-server deadtime 1
```

**5.3.25 RADIUS サーバーに通知する NAS-Identifier 属性の設定**

---

**[書式]****auth radius attribute nas-identifier *line*****no auth radius attribute nas-identifier****[パラメーター]**

*line* : 識別文字(253 文字以内)  
 NAS-Identifier 属性として設定する任意の文字列

**[初期設定]**

no auth radius attribute nas-identifier

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

ポート認証機能において、RADIUS サーバーに NAS-Identifier 属性として通知する任意の文字列を設定する。

本設定をした場合は、RADIUS サーバーに NAS-Identifier 属性として通知し、設定を削除した場合は通知を停止する。

no 形式でコマンドを実行した場合は、初期設定に戻る。

**[設定例]**

RADIUS サーバーに通知する NAS-Identifier 属性に「Nas-ID-001」をセットする。

```
SWX3200(config)#auth radius attribute nas-identifier Nas-ID-001
```

**5.3.26 ポート認証情報の表示**

---

**[書式]****show auth status [interface *ifname*]****[キーワード]**

interface : 特定のインターフェースの情報のみを表示する

**[パラメーター]**

*ifname* : インターフェース名  
 表示するインターフェース

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

ポート認証機能の設定状態、および現在の認証状態を表示する。

**[設定例]**

ポート認証情報を表示する。

```
SWX3200#show auth status
[System information]
 802.1X Port-Based Authentication : Enabled
MAC-Based Authentication          : Disabled
```



```
WEB-Based Authentication      : Enabled
```

```
Clear-state time : Not configured
```

```
Redirect URL :
  Not configured
```

```
Auth-web custom-file :
  There is no custom-file
```

```
RADIUS server address :
  192.168.100.101 (port:1812)
```

#### [Interface information]

```
Interface port1.1 (up)
```

```
802.1X Authentication      : Auto (configured:auto)
MAC Authentication         : Disabled (configured:disable)
WEB Authentication         : Disabled (configured:disable)
Host mode                  : Single-host
Dynamic VLAN creation      : Disabled
Guest VLAN                 : Disabled
Reauthentication           : Disabled
Reauthentication period   : 60 sec
MAX request                : 2 times
Supplicant timeout        : 30 sec
Quiet period               : 60 sec
Controlled directions     : Both (configured:both)
Protocol version           : 2
Authentication status     : Authorized
Clear-state time          : Not configured
```

```
Interface port1.4 (down)
```

```
802.1X Authentication      : Force Authorized (configured:-)
MAC Authentication         : Disabled (configured:disable)
WEB Authentication         : Enabled (configured:enable)
Host mode                  : Multi-supplicant
Dynamic VLAN creation      : Disabled
Guest VLAN                 : Disabled
Reauthentication           : Disabled
Reauthentication period   : 3600 sec
MAX request                : 2 times
Supplicant timeout        : 30 sec
Server timeout            : 30 sec
Quiet period               : 60 sec
Controlled directions     : In (configured:both)
Protocol version           : 2
Clear-state time          : Not configured
```

### 5.3.27 サブリカント情報の表示

#### [書式]

```
show auth supplicant [interface ifname]
```

#### [キーワード]

```
interface      : 特定のインターフェースの情報のみを表示する
```

#### [パラメーター]

```
ifname       : インターフェース名
               表示するインターフェース
```

#### [入力モード]

特権 EXEC モード

#### [説明]

ポート認証におけるサブリカント情報を表示する。

#### [設定例]

LAN ポート #1 のサブリカント情報を表示する。

```
SWX3200#show auth supplicant interface port1.1
Port      MAC address      User name      Status      VLAN Method
-----
port1.1   0011.2233.4455   user          Authenticated  1 802.1X
```

### 5.3.28 統計情報の表示

#### [書式]

**show auth statistics** [interface *ifname*]

#### [キーワード]

interface : 特定のインターフェースの統計情報のみを表示する

#### [パラメーター]

*ifname* : インターフェース名  
表示するインターフェース

#### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

#### [説明]

ポート認証におけるパケットの統計情報を表示する。

#### [設定例]

LAN ポート #1 の統計情報を表示する。

```
SWX3200#show auth statistics interface port1.1
Interface port1.1
  EAPOL frames:
    Received frames      : 11
    EAPOL Start          : 1
    EAPOL Logoff         : 0
    EAP Response ID      : 1
    EAP Response         : 9
    Invalid EAPOL        : 0
    EAP Length error     : 0
    Last EAPOL version   : 1
    Last EAPOL source    : 0011.2233.4455
    Transmitted frames   : 11
    EAP Request ID       : 1
    EAP Request          : 9
    EAP Success          : 1
    EAP Fail             : 0

  RADIUS packets:
    Received packets     : 10
    Access Request       : 0
    Access Challenge     : 9
    Access Accept        : 1
    Access Reject        : 0
    Transmitted packets  : 10
    Access Request       : 10
```

### 5.3.29 統計情報のクリア

#### [書式]

**clear auth statistics** [interface *ifname*]

#### [キーワード]

interface : 特定のインターフェースの統計情報のみをクリアする

#### [パラメーター]

*ifname* : インターフェース名  
表示するインターフェース

**[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

ポート認証におけるパケットの統計情報をクリアする。

**[設定例]**

LAN ポート #1 の統計情報をクリアする。

```
SWX3200#clear auth statistics interface port1.1
```

**5.3.30 RADIUS サーバー設定情報の表示****[書式]**

```
show radius-server
```

**[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

RADIUS サーバーに関する設定情報を表示する。

認証サーバーリストに登録してある RADIUS サーバーの設定情報(サーバーホスト、認証用 UDP ポート番号、共有パスワード、要求応答待機時間、要求再送回数、サーバー使用抑制時間)を表示する。

**[設定例]**

RADIUS サーバーに関する設定情報を表示する。

```
SWX3200#show radius-server
Server Host : 192.168.100.101
  Authentication Port : 1812
  Secret Key          : abcde
  Timeout             : 10 sec
  Retransmit Count    : 5
  Deadtime            : 0 min

Server Host : 192.168.100.102
  Authentication Port : 1645
  Secret Key          : fghij
  Timeout             : 5 sec
  Retransmit Count    : 3
  Deadtime            : 0 min
```

**5.3.31 Web 認証成功後のリダイレクト先 URL の設定****[書式]**

```
auth-web redirect-url url
```

```
no auth-web redirect-url
```

**[パラメーター]**

*url* : 半角英数字および半角記号 (最大 256 文字)  
リダイレクト先の URL

**[初期設定]**

```
no auth-web redirect-url
```

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

Web 認証成功後にリダイレクトする URL を指定する。

no 形式で実行した場合は認証後のリダイレクト機能を無効にする。

**[ノート]**

"?"を含んだ URL を指定することはできません。

**[設定例]**

Web 認証成功後のリダイレクト先に `http://192.168.100.200` を指定する。

```
SWX3200(config)#auth-web redirect-url http://192.168.100.200
```

**5.3.32 認証状態のクリア****[書式]**

```
clear auth state [all] [interface ifname] [supplicant mac-addr]
```

**[キーワード]**

`all` : 全てのサブリカントの認証状態をクリアする  
`interface` : 特定のインターフェースに接続されているサブリカントの認証状態をクリアする  
`supplicant` : 特定のサブリカントの認証状態をクリアする

**[パラメーター]**

`ifname` : インターフェース名  
 クリアするインターフェース  
`mac-addr` : hhhh.hhhh.hhhh (h は 16 進数)  
 対象の MAC アドレス

**[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

サブリカントの認証状態をクリアする。

**[設定例]**

LAN ポート #1 に接続されているサブリカントの認証状態をクリアする。

```
SWX3200#clear auth state interface port1.1
```

**5.3.33 認証状態のクリアする時刻の設定(システム)****[書式]**

```
auth clear-state time time
```

```
no auth clear-state time
```

**[パラメーター]**

`time` : <0-23>  
 認証状態をクリアする時刻

**[初期設定]**

```
no auth clear-state time
```

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

システム全体にサブリカントの認証状態をクリアする時刻を設定する。

no 形式で実行した場合は、認証状態をクリアする時刻の設定を削除する。

**[ノート]**

インターフェースに認証状態をクリアする時刻が設定されている場合、インターフェースに設定された時刻で認証状態のクリアを行う。

**[設定例]**

システム全体でサブリカントの認証状態をクリアする時刻を 12 時に設定する。

```
SWX3200(config)#auth clear-state time 12
```

### 5.3.34 認証状態のクリアする時刻の設定(インターフェース)

#### [書式]

```
auth clear-state time time
no auth clear-state time
```

#### [パラメーター]

*time* : <0-23>  
認証状態をクリアする時刻

#### [初期設定]

```
no auth clear-state time
```

#### [入力モード]

インターフェースモード

#### [説明]

対象インターフェイスにサブリカントの認証状態をクリアする時刻を設定する。

no 形式で実行した場合は、認証状態をクリアする時刻の設定を削除する。

#### [ノート]

本コマンドは LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースにのみ設定可能。

対象インターフェイスではシステム全体に認証状態をクリアする時刻が設定されていても、本コマンドで設定された時刻で認証状態のクリアを行う。

#### [設定例]

LAN ポート #1 に接続されたサブリカントの認証状態をクリアする時刻を 12 時に設定する。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#auth clear-state time 12
```

### 5.3.35 Web 認証画面カスタマイズ用ファイルの配置

#### [書式]

```
copy auth-web custom-file all src_config_num dst_config_num
copy auth-web custom-file filename src_config_num dst_config_num
```

#### [キーワード]

all : 全ての Web 認証画面カスタマイズ用ファイルをコピーする

#### [パラメーター]

*filename* : 半角英数字および半角記号  
Web 認証画面カスタマイズ用ファイルのファイル名

*src\_config\_num* : コピー元のコンフィグ番号

設定値	説明
0-4	スタートアップコンフィグ番号
sd	SD カード

*dst\_config\_num* : コピー先のコンフィグ番号

設定値	説明
0-4	スタートアップコンフィグ番号
sd	SD カード

#### [入力モード]

特権 EXEC モード

**[説明]**

Web 認証画面カスタマイズ用のファイルをコピーする。

**[ノート]**

SD カードからスイッチへ Web 認証画面カスタマイズ用ファイルをコピーする場合は、SD カード内の /機種名/startup-config/web-auth/ に各ファイルを設置してください。

SD カードがマウントされていない状態では、SD カード内の Config を対象にして本コマンドを実行するとエラーとなる。

**[設定例]**

全ての Web 認証画面カスタマイズ用ファイルを SD カードからスタートアップコンフィグ #0 へコピーする。

```
SWX3200#copy auth-web startup-config all sd 0
```

### 5.3.36 Web 認証画面カスタマイズ用ファイルの削除

---

**[書式]**

```
erase auth-web custom-file all config_num
```

```
erase auth-web custom-file filename config_num
```

**[キーワード]**

all : 全ての Web 認証画面カスタマイズ用ファイルを削除する

**[パラメーター]**

filename : 半角英数字および半角記号  
Web 認証画面カスタマイズ用ファイルのファイル名

config\_num : コンフィグ番号

設定値	説明
0-4	スタートアップコンフィグ番号
sd	SD カード

**[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

Web 認証画面カスタマイズ用のファイルを削除する。

**[ノート]**

SD カードがマウントされていない状態では、SD カード内の Config を対象にして本コマンドを実行するとエラーとなる。

**[設定例]**

logo.png をスタートアップコンフィグ#0 から削除する

```
SWX3200#erase auth-web startup-config logo.png 0
```

### 5.3.37 EAP パススルーの設定

---

**[書式]**

```
pass-through eap switch
```

```
no pass-through eap
```

**[パラメーター]**

switch : EAP パススルーの動作

設定値	説明
enable	EAP パススルーを有効にする
disable	EAP パススルーを無効にする

**[初期設定]**

pass-through eap enable

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

EAP パススルーの有効/無効を切り替え、EAPOL フレームの転送可否を設定する。

disable を指定した場合は、EAP フレームを破棄する。

no 形式で実行した場合、または、enable を指定した場合は、EAPOL フレームを転送する。

**[ノート]**

802.1X 認証機能が有効なインターフェースについては認証機能を優先し、EAP パススルーの設定は適用されない。

**[設定例]**

EAP パススルーを無効にする。

```
SWX3200(config)#pass-through eap disable
```

## 5.4 ポートセキュリティー

---

### 5.4.1 ポートセキュリティー機能の設定

---

**[書式]**

```
port-security enable
port-security disable
no port-security
```

**[キーワード]**

enable : ポートセキュリティー機能を有効にする  
 disable : ポートセキュリティー機能を無効にする

**[初期設定]**

port-security disable

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

対象インターフェースに対して、ポートセキュリティー機能を有効にする。

no 形式で実行した場合、または、disable を指定した場合は、対象インターフェースでポートセキュリティー機能を無効にする。

**[ノート]**

本コマンドは LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースにのみ設定可能。

ポートセキュリティー機能を有効にした時点で、登録されていない端末は破棄される。

**[設定例]**

LAN ポート #1 のポートセキュリティー機能を有効にする。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#port-security enable
```

### 5.4.2 許可 MAC アドレス登録

---

**[書式]**

```
port-security mac-address mac-addr action ifname vlan vlan-id
```

**no port-security mac-address mac-addr action ifname vlan vlan-id**

[キーワード]

vlan : VLAN ID を指定

[パラメーター]

mac-addr : hhhh.hhhh.hhhh (h は 16 進数)  
対象の MAC アドレス

action : mac-addr 宛のフレームに対する動作

設定値	説明
forward	転送する

ifname : LAN/SFP ポートまたは論理インターフェース  
対象のインターフェース名

vlan-id : <1-4094>  
対象の VLAN ID

[初期設定]

なし

[入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

[説明]

ポートセキュリティーを有効にしたポートで通信を許可する MAC アドレスを登録する。

no 形式で実行した場合は、登録を削除する。

[設定例]

MAC アドレス 00:A0:DE:00:00:01 を、LAN ポート #1 の許可アドレスとして登録する。

```
SWX3200(config)#port-security mac-address 00a0.de00.0001 forward port1.1 vlan 1
```

### 5.4.3 セキュリティー違反時の動作の設定

[書式]

**port-security violation action**

**no port-security violation**

[パラメーター]

action : ポートセキュリティー違反時の動作

動作モード	説明
discard	パケット破棄
shutdown	ポートをシャットダウン

[初期設定]

port-security violation discard

[入力モード]

インターフェースモード

[説明]

対象インターフェースに対して、ポートセキュリティー違反時の動作アクションを設定する。

no 形式で実行した場合は、初期設定に戻る。

[ノート]

shutdown モードでシャットダウンされたポートを復旧させる場合は、no shutdown コマンドを用いる。



本コマンドは LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースにのみ設定可能。

**[設定例]**

LAN ポート #1 の違反時の動作をポートダウンに変更する。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#port-security violation shutdown
```

### 5.4.4 ポートセキュリティー情報の表示

**[書式]**

**show port-security status**

**[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

ポートセキュリティー情報を表示する。

**[設定例]**

ポートセキュリティー情報を表示する。

```
SWX3200#show port-security status
Port      Security  Action    Status    Last violation
-----
port1.1   Enabled   Discard   Blocking  00a0.de00.0003
port1.2   Disabled  Discard   Normal
port1.3   Disabled  Discard   Normal
port1.4   Disabled  Discard   Normal
port1.5   Disabled  Discard   Normal
port1.6   Disabled  Discard   Normal
port1.7   Disabled  Discard   Normal
port1.8   Disabled  Discard   Normal
port1.9   Disabled  Discard   Normal
port1.10  Disabled  Discard   Normal
```

## 5.5 エラー検出機能

### 5.5.1 errdisable 状態からの自動復旧機能の設定

**[書式]**

**errdisable auto-recovery function [interval interval]**  
**no errdisable auto-recovery function**

**[キーワード]**

interval : 自動復旧時間の設定

**[パラメーター]**

function : errdisable の原因となる機能

設定値	説明
bpduguard	BPDU ガード機能
loop-detect	ループ検出機能

interval : <10-1000000>  
 自動復旧するまでの時間(秒)

**[初期設定]**

no errdisable auto-recovery bpduguard (BPDU ガード機能)  
 errdisable auto-recovery loop-detect interval 300 (ループ検出機能)

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

エラー検出機能によって `errdisable` 状態になったときに自動的に復旧する機能を有効にして、自動復旧するまでの時間を設定する。

`interval` を省略した場合は、300 秒が設定される。

`no` 形式で実行した場合は、自動復旧機能が無効となる。

**[ノート]**

本コマンドを実行する前に BPDU ガード機能によって `errdisable` 状態になった LAN/SFP ポートでは、次回 BPDU を検出したときに設定の変更が反映される。

**[設定例]**

BPDU ガードで `errdisable` 状態になったときの自動復旧を有効にし、復旧時間を 600 秒にする。

```
SWX3200(config)#errdisable auto-recovery bpduguard interval 600
```

ループ検出で `errdisable` 状態になったときの自動復旧を無効にする。

```
SWX3200(config)#no errdisable auto-recovery loop-detect
```

## 5.5.2 エラー検出機能の情報表示

---

**[書式]**

**show errdisable**

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

エラー検出機能の情報を表示する。

以下の項目が表示される。

- `errdisable` 状態からの自動復旧が有効か否か
- `errdisable` 状態のインターフェースおよびエラーを検出した機能

**[設定例]**

エラー検出機能の情報を表示する。

```
SWX3200>show errdisable
```

function	auto recovery	interval
BPDU guard	disable	
Loop detect	enable	300
Port-security	disable	

port	reason
port1.1	BPDU guard
port1.7	Loop detect

## 第 6 章

### Layer 2 機能

#### 6.1 FDB(フォワーディングデータベース)

##### 6.1.1 MAC アドレス学習機能の設定

###### [書式]

```
mac-address-table learning enable
mac-address-table learning disable
no mac-address-table learning
```

###### [キーワード]

enable : MAC アドレス学習機能を有効にする  
disable : MAC アドレス学習機能を無効にする

###### [初期設定]

```
mac-address-table learning enable
```

###### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

###### [説明]

MAC アドレス学習機能の有効/無効を設定する。

no 形式で実行すると、MAC アドレス学習機能機能が有効となる。

###### [ノート]

MAC アドレス学習機能が無効な場合は、フレームを受信しても MAC アドレステーブルにダイナミックエントリが登録されない。

###### [設定例]

MAC アドレス学習機能を有効にする。

```
SWX3200(config)#mac-address-table learning enable
```

##### 6.1.2 ダイナミックエントリのエージングタイム設定

###### [書式]

```
mac-address-table ageing-time time
no mac-address-table ageing-time
```

###### [パラメーター]

time : <10-400>  
エージングタイム(秒)

###### [初期設定]

```
mac-address-table ageing-time 300
```

###### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

###### [説明]

ダイナミックエントリのエージングタイムを設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

###### [ノート]

本コマンドで設定した時間と、実際にダイナミックエントリが MAC アドレステーブルから削除されるまでの時間との間で、誤差が生じる場合がある。

**[設定例]**

ダイナミックエントリーのエイジングタイムを 400 秒にする。

```
SWX3200(config)#mac-address-table ageing-time 400
```

**6.1.3 ダイナミックエントリーの削除**

---

**[書式]**

```
clear mac-address-table dynamic
clear mac-address-table dynamic address mac-addr
clear mac-address-table dynamic vlan vlan-id
clear mac-address-table dynamic interface ifname [instance inst]
```

**[キーワード]**

*address* : MAC アドレスを指定する  
*vlan* : VLAN ID を指定する  
*interface* : インターフェースを指定する  
*instance* : MST インスタンスを指定する

**[パラメーター]**

*mac-addr* : hhhh.hhhh.hhhh (h は 16 進数)  
 対象の MAC アドレス  
*ifname* : LAN/SFP ポートまたは論理インターフェースの名前  
 対象のインターフェース  
*vlan-id* : <1-4094>  
 対象の VLAN ID  
*inst* : <1-63>  
 対象の MST インスタンス ID

**[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

MAC アドレステーブルからダイナミックエントリーを削除する。

キーワードを指定した場合は、対象条件に一致したエントリーのみを削除する。

キーワードを指定しない場合は、全てのダイナミックエントリーを削除する。

**[設定例]**

MAC アドレスが 00a0.de11.2233 のダイナミックエントリーを削除する。

```
SWX3200#clear mac-address-table dynamic address 00a0.de11.2233
```

**6.1.4 スタティックエントリーの設定**

---

**[書式]**

```
mac-address-table static mac-addr action ifname [vlan vlan-id]  

no mac-address-table static mac-addr action ifname [vlan vlan-id]
```

**[キーワード]**

*vlan* : VLAN ID を指定する

**[パラメーター]**

*mac-addr* : hhhh.hhhh.hhhh (h は 16 進数)  
 対象の MAC アドレス  
*action* : *mac-addr* 宛のフレームに対する動作

設定値	説明
forward	転送する
discard	破棄する

- ifname* : LAN/SFP ポートまたは論理インターフェースの名前  
対象のインターフェース
- vlan-id* : <1-4094>  
対象の VLAN ID

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

MAC アドレステーブルにスタティックエントリを登録する。

*action* に forward を設定した場合は、設定した MAC アドレスおよび VLAN ID に一致した受信フレームを、設定したインターフェースに転送する。

*action* に discard を設定した場合は、設定した MAC アドレスおよび VLAN ID に一致した受信フレームを、破棄する。

no 形式で実行した場合は、MAC アドレステーブルからスタティックエントリを削除する。

vlan を省略した場合は、VLAN #1 が設定される。

**[ノート]**

*action* に discard を設定した場合は、*mac-addr* にマルチキャスト MAC アドレスを指定することはできない。

*mac-addr* に以下の MAC アドレスを指定することはできない。

- 0000.0000.0000
- 0100.5e00.0000～0100.5eff.ffff
- 0180.c200.0000～0180.c200.000f
- 0180.c200.0020～0180.c200.002f
- 3333.0000.0000～3333.ffff.ffff
- ffff.ffff.ffff

**[設定例]**

00a0.de11.2233 宛のフレームを LAN ポート #2 に転送するよう登録する。

```
SWX3200(config)#mac-address-table static 00a0.de11.2233 forward port1.2
```

**6.1.5 MAC アドレステーブルの表示****[書式]**

```
show mac-address-table
```

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

MAC アドレステーブルを表示する。

以下の項目が表示される。

- VLAN ID
- インターフェース名
- MAC アドレス
- フレームに対する動作
- エントリの種類
- エージングタイム

**[設定例]**

MAC アドレステーブルを表示する。

```
SWX3200>show mac-address-table
VLAN  port      mac          fwd      type      timeout
  1   port1.1    00a0.de11.2233 forward  static      0
  1   sa1       1803.731e.8c2b forward  dynamic    300
  1   sa2       782b.cbc2.218d forward  dynamic    300
```

**6.1.6 MAC アドレス数の表示****[書式]**

```
show mac-address-table count
show mac-address-table count interface ifname
show mac-address-table count vlan vlan-id
```

**[キーワード]**

**interface** : 特定のインターフェースの MAC アドレス数のみ表示する  
**vlan** : 特定の VLAN の MAC アドレス数のみ表示する

**[パラメーター]**

**ifname** : 表示するインターフェースの名前  
LAN/SFP ポートまたは論理インターフェースのみ指定可能  
**vlan-id** : <1-4094>  
表示する VLAN ID

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

FDB エントリに登録されている MAC アドレス数を表示する。

自動学習により登録されたダイナミックアドレス、および、手動登録されたスタティックアドレスの登録数が表示される。

**[設定例]**

FDB エントリに登録されている MAC アドレス数を表示する。

```
SWX3200>show mac-address-table count
MAC Entries for all vlans
Dynamic Address   : 20
Static Address    : 10
Total MAC Address : 30
```

**6.2 VLAN****6.2.1 VLAN モードへの移行****[書式]**

```
vlan database
```

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

VLAN インターフェースの設定を行うための VLAN モードに移行する。

**[ノート]**

VLAN モードからグローバルコンフィグレーションモードに戻るには **exit** コマンドを使用し、特権 EXEC モードに戻るには **end** コマンドを使用する。

**[設定例]**

VLAN モードに移行する。

```
SWX3200 (config)#vlan database
SWX3200 (config-vlan)#
```

## 6.2.2 VLAN インターフェースの設定

### [書式]

```
vlan vlan-id [name name] [state state]
no vlan vlan-id
```

### [キーワード]

**name** : VLAN の名前を指定する  
**state** : VLAN の状態を指定する

### [パラメーター]

**vlan-id** : <2-4094>  
 VLAN ID

**name** : 半角英数字および半角記号(32 文字以内)  
 VLAN の名前

**state** : フレームの転送を行うか否かの状態

設定値	説明
enable	フレームを転送する
disable	フレームを転送しない

### [初期設定]

なし

### [入力モード]

VLAN モード

### [説明]

VLAN インターフェースを設定する。

**no** 形式で実行した場合は、VLAN インターフェースを削除する。

**name** を省略した場合は、VLAN の名前に"VLANxxxx"(xxxx は 4 桁の VLAN ID)が設定される。

**state** を省略した場合は、**enable** が設定される。

**disable** を指定した場合は、当該 VLAN インターフェースへの設定は全て削除されます。

### [ノート]

既に **name** が設定されている VLAN ID に対して、**name** を省略して本コマンドを設定した場合は、既に設定されている **name** のまま変更されない。

**vlan-id** に複数の VLAN ID を指定可能。ただし、複数の VLAN ID を指定した場合は、**name** を指定することができない。

複数指定する場合、以下のように、"- " や "," を使用すること。

- VLAN #2 から VLAN #4 までを選択する場合: 2-4
- VLAN #2 と VLAN #4 を選択する場合: 2,4

### [設定例]

VLAN #1000 を Sales という名前で設定する。

```
SWX3200 (config-vlan)#vlan 1000 name Sales
```

## 6.2.3 プライベート VLAN の設定

### [書式]

```
private-vlan vlan-id type
no private-vlan vlan-id type
```

## [パラメーター]

*vlan-id* : <2-4094>

**vlan** コマンドで設定されている VLAN ID

*type* : プライベート VLAN の種別

設定値	説明
primary	プライマリー VLAN
community	セカンダリー VLAN(コミュニティー VLAN)
isolated	セカンダリー VLAN(アイソレート VLAN)

## [初期設定]

なし

## [入力モード]

VLAN モード

## [説明]

*vlan-id* をプライベート VLAN として使用する。

`no` 形式で実行した場合は、プライベート VLAN の設定が削除されて、通常の VLAN として使用する。

## [ノート]

コミュニティー VLAN として設定すると、プライマリー VLAN のプロミスカサポートおよび同じコミュニティー VLAN に所属する他のインターフェースとは通信できるが、他のコミュニティー VLAN およびアイソレート VLAN に所属するインターフェースとは通信できなくなる。

アイソレート VLAN として設定すると、プライマリー VLAN のプロミスカサポートとのみ通信することができるが、コミュニティー VLAN およびアイソレート VLAN に所属する他のインターフェースとは通信できなくなる。

## [設定例]

以下のプライベート VLAN を設定する。

- VLAN #100: プライマリー VLAN
- VLAN #101: セカンダリー VLAN(コミュニティー VLAN)
- VLAN #102: セカンダリー VLAN(コミュニティー VLAN)
- VLAN #103: セカンダリー VLAN(アイソレート VLAN)

```
SWX3200(config-vlan)#vlan 100
SWX3200(config-vlan)#vlan 101
SWX3200(config-vlan)#vlan 102
SWX3200(config-vlan)#vlan 103
SWX3200(config-vlan)#private-vlan 100 primary
SWX3200(config-vlan)#private-vlan 101 community
SWX3200(config-vlan)#private-vlan 102 community
SWX3200(config-vlan)#private-vlan 103 isolated
```

## 6.2.4 プライマリー VLAN に対するセカンダリー VLAN の設定

## [書式]

```
private-vlan vlan-id association add 2nd-vlan-ids
private-vlan vlan-id association remove 2nd-vlan-ids
no private-vlan vlan-id association
```

## [キーワード]

`add` : 指定した VLAN を関連付ける

`remove` : 指定した VLAN の関連付けを削除する

## [パラメーター]

*vlan-id* : <2-4094>



- プライマリー VLAN に設定されている VLAN ID
- `2nd-vlan-ids` : <2-4094>
- セカンダリー VLAN に設定されている VLAN ID
- 複数指定する場合、以下のように、"-" や "," を使用すること
- VLAN #2 から VLAN #4 までを選択する場合: 2-4
  - VLAN #2 と VLAN #4 を選択する場合: 2,4

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

VLAN モード

**[説明]**

プライベート VLAN のプライマリー VLAN に対して、セカンダリー VLAN(アイソレート VLAN、コミュニティー VLAN)の関連付けを設定する。

`add` を指定することで `vlan-id` と `2nd-vlan-ids` の関連付けを設定する。

`remove` を指定することで `vlan-id` と `2nd-vlan-ids` の関連付けを削除する。

`no` 形式で実行した場合は、プライマリー VLAN への関連付けをすべて削除する。

**[設定例]**

以下のプライベート VLAN を設定したのち、プライマリー VLAN に対してセカンダリー VLAN を関連付ける。

- VLAN #100: プライマリー VLAN
- VLAN #101: セカンダリー VLAN(コミュニティー VLAN)
- VLAN #102: セカンダリー VLAN(コミュニティー VLAN)
- VLAN #103: セカンダリー VLAN(アイソレート VLAN)

```
SWX3200(config-vlan)#vlan 100
SWX3200(config-vlan)#vlan 101
SWX3200(config-vlan)#vlan 102
SWX3200(config-vlan)#vlan 103
SWX3200(config-vlan)#private-vlan 100 primary
SWX3200(config-vlan)#private-vlan 101 community
SWX3200(config-vlan)#private-vlan 102 community
SWX3200(config-vlan)#private-vlan 103 isolated
SWX3200(config-vlan)#private-vlan 100 association add 101
SWX3200(config-vlan)#private-vlan 100 association add 102
SWX3200(config-vlan)#private-vlan 100 association add 103
```

## 6.2.5 アクセスポート(タグなしポート)の設定

**[書式]**

```
switchport mode access
```

**[初期設定]**

```
switchport mode access
```

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

対象インターフェースのポート種別をアクセスポートに設定する。

**[ノート]**

本コマンドは LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースにのみ設定可能。

論理インターフェースを対象として本コマンドを設定した場合は、そのインターフェースに所属する全ての LAN/SFP ポートの設定が変更される。

ポート種別をトランクポートからアクセスポートに変更した場合は、`switchport trunk allowed vlan` コマンドの設定および `switchport trunk native vlan` コマンドの設定が初期設定に戻る。

アクセスポートとして所属する VLAN ID は、`switchport access vlan` コマンドで設定する。

**[設定例]**

LAN ポート #1 をアクセスポートに設定する。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#switchport mode access
```

**6.2.6 アクセスポート(タグなしポート)の所属 VLAN の設定****[書式]**

**switchport access vlan** *vlan-id*

**no switchport access vlan**

**[パラメーター]**

*vlan-id* : <1-4094>  
所属する VLAN ID

**[初期設定]**

switchport access vlan 1

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

対象インターフェースがアクセスポートとして所属する VLAN ID を設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

**[ノート]**

本コマンドは **switchport mode access** コマンドが設定されている LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースにのみ設定可能。

論理インターフェースを対象として本コマンドを設定した場合は、そのインターフェースに所属する全ての LAN/SFP ポートの設定が変更される。

ポート種別をトランクポートに変更した場合は、本コマンドの設定が初期設定に戻る。

**[設定例]**

LAN ポート #1 がアクセスポートとして所属する VLAN を VLAN #10 に設定する。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#switchport access vlan 10
```

**6.2.7 トランクポート(タグ付きポート)の設定****[書式]**

**switchport mode trunk** [*ingress-filter action*]

**[キーワード]**

*ingress-filter* : 入力フィルターの動作を指定する

**[パラメーター]**

*action* : 入力フィルターの動作

設定値	説明
enable	入力フィルターを有効にする
disable	入力フィルターを無効にする

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

対象インターフェースのポート種別をトランクポートに設定する。

ingress-filter を省略した場合は、enable が設定される。

入力フィルタが有効な場合は、受信フレームの VLAN ID がインターフェースの所属している VLAN ID と一致したときのみ、フレームを転送する。

入力フィルタが無効な場合は、すべてのフレームを転送する。

**[ノート]**

本コマンドは LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースにのみ設定可能。

論理インターフェースを対象として本コマンドを設定した場合は、そのインターフェースに所属する全ての LAN/SFP ポートの設定が変更される。

ポート種別をアクセスポートからトランクポートに変更した場合は、**switchport access vlan** コマンドの設定が初期設定に戻る。

トランクポートとして所属する VLAN ID は、**switchport trunk allowed vlan** コマンドで設定する。また、ネイティブ VLAN の設定は **switchport trunk native vlan** コマンドで設定する。

**[設定例]**

LAN ポート #1 をトランクポートに設定する。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#switchport mode trunk
```

**6.2.8 トランクポート(タグ付きポート)の所属 VLAN の設定****[書式]**

```
switchport trunk allowed vlan all
switchport trunk allowed vlan none
switchport trunk allowed vlan add vlan-ids
switchport trunk allowed vlan except vlan-ids
switchport trunk allowed vlan remove vlan-ids
no switchport trunk
```

**[キーワード]**

all	: vlan コマンドで設定されているすべての VLAN に所属させる
none	: 全ての VLAN から脱退させる
add	: 指定した VLAN に所属させる
except	: 指定した VLAN 以外の、vlan コマンドで設定されているすべての VLAN に所属させる
remove	: 指定した VLAN から脱退させる

**[パラメーター]**

<i>vlan-ids</i>	: <1-4094>
-----------------	------------

**vlan** コマンドで設定されている VLAN ID  
複数指定する場合、以下のように、"- " や "," を使用すること

- VLAN #2 から VLAN #4 までを選択する場合: 2-4
- VLAN #2 と VLAN #4 を選択する場合: 2,4

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

対象インターフェースがトランクポートとして所属する VLAN ID を設定する。

no 形式で実行した場合、所属する VLAN ID がすべて削除されてポート種別がアクセスポートに変更される。

**[ノート]**

本コマンドは **switchport mode trunk** コマンドが設定されている LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースにのみ設定可能。

論理インターフェースを対象として本コマンドを設定した場合は、そのインターフェースに所属する全ての LAN/SFP ポートの設定が変更される。

ポート種別をアクセスポートに変更した場合は、本コマンドの設定が初期設定に戻る。

all または **except** を指定して設定した場合は、その後に変更した **vlan** コマンドの内容が常に反映される。

all または **except** を指定して設定した場合は、以下の設定を行うと、残りの所属している VLAN ID を **add** で指定した設定に変更される。

- **remove** を指定して所属している VLAN ID を削除した場合
- **switchport trunk native vlan** コマンドで所属している VLAN ID を指定した場合

**except** を指定して設定を行った後、**add** を指定して除外していた VLAN ID に所属させた場合は、所属している VLAN ID を **add** で指定した設定に変更される。

**remove** を指定した後に所属していない VLAN ID を指定するとエラーになる。

本コマンドと **switchport trunk native vlan** コマンドの設定は、後着優先となる。

- 本コマンドで所属させた VLAN ID を指定して **switchport trunk native vlan** コマンドを設定した場合、指定した VLAN ID から脱退させられる。
- **switchport trunk native vlan** コマンドで設定されている VLAN ID を指定して所属させた場合、**switchport trunk native vlan none** が設定される。

**switchport trunk allowed vlan add** コマンドで、*vlan-ids* に "-" や "," を組み合わせて指定した場合、古いバージョン (Rev. 2.00.08 以前) に戻すとコマンド設定に失敗する。結果として、正常に通信できなくなる可能性がある。(設定例：  
switchport trunk allowed vlan add 101,103-105)

**[設定例]**

LAN ポート #1 をトランクポートに設定して VLAN #2 に所属させる。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#switchport mode trunk
SWX3200(config-if)#switchport trunk allowed vlan add 2
```

**6.2.9 トランクポート(タグ付きポート)のネイティブ VLAN の設定****[書式]**

**switchport trunk native vlan *vlan-id***

**switchport trunk native vlan none**

**no switchport trunk native vlan**

**[キーワード]**

**none** : ネイティブ VLAN を無効にする

**[パラメーター]**

***vlan-id*** : <1-4094>

**vlan** コマンドで設定されている VLAN ID

**[初期設定]**

switchport trunk native vlan 1

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

対象インターフェースのネイティブ VLAN を設定する。

**none** を指定した場合は、ネイティブ VLAN が無効になる。これにより対象インターフェースでは、受信したタグなしフレームを破棄する。

**no** 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

[ノート]

本コマンドは **switchport mode trunk** コマンドが設定されている LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースにのみ設定可能。

論理インターフェースを対象として本コマンドを設定した場合は、そのインターフェースに所属する全ての LAN/SFP ポートの設定が変更される。

ポート種別をアクセスポートに変更した場合は、本コマンドの設定が初期設定に戻る。

本コマンドと **switchport trunk allowed vlan** コマンドの設定は、後着優先となる。

- **switchport trunk allowed vlan** コマンドで所属させた VLAN ID を指定して本コマンドを設定した場合、指定した VLAN ID から脱退させられる。
- 本コマンドで設定した VLAN ID を **switchport trunk allowed vlan** コマンドで所属させた場合、**switchport trunk native vlan none** が設定される。

[設定例]

LAN ポート #1 をトランクポートに設定してネイティブ VLAN に VLAN #2 を設定する。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#switchport mode trunk
SWX3200(config-if)#switchport trunk native vlan 2
```

### 6.2.10 プライベート VLAN のポート種別の設定

[書式]

```
switchport mode private-vlan port-type
no switchport mode private-vlan port-type
```

[パラメーター]

*port-type* : ポートの動作

設定値	説明
promiscuous	プロミスカスポート
host	ホストポート

[初期設定]

なし

[入力モード]

インターフェースモード

[説明]

対象インターフェースのプライベート VLAN のポート種別を設定する。

no 形式で実行した場合、対象インターフェースに設定されているプライベート VLAN の設定を削除する。

[ノート]

本コマンドは **switchport mode access** コマンドが設定されている LAN/SFP ポートにのみ設定可能。

加えて、以下のインターフェースで **promiscuous** を設定できる。

- トランクポートとして動作しているインターフェース
- 論理インターフェース

[設定例]

LAN ポート #1 をプロミスカスポート、LAN ポート #2 をホストポートに設定する。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#switchport mode private-vlan promiscuous
SWX3200(config-if)#exit
SWX3200(config)#interface port1.2
SWX3200(config-if)#switchport mode private-vlan host
```

### 6.2.11 プライベート VLAN のホストポートの設定

[書式]

```
switchport private-vlan host-association pri-vlan-id add 2nd-vlan-id
```

**no switchport private-vlan host-association****[キーワード]**

add : プライマリー VLAN に対するセカンダリー VLAN を設定する

**[パラメーター]**

*pri-vlan-id* : <2-4094>  
プライマリー VLAN として設定されている VLAN ID

*2nd-vlan-id* : <2-4094>  
セカンダリー VLAN として設定されている VLAN ID

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

対象インターフェースがプライベート VLAN のホストポートとして所属するプライマリー VLAN を設定して、セカンダリー VLAN を関連付ける。

no 形式で実行した場合、対象インターフェースがホストポートとして所属するプライマリー VLAN の設定およびセカンダリー VLAN の関連付けを削除する。

**[ノート]**

本コマンドは **switchport mode private-vlan** コマンドでホストポートとして設定されている LAN/SFP ポートにのみ設定可能。

*pri-vlan-id* と *2nd-vlan-id* は、**private-vlan association** コマンドで関連付けられている必要がある。

**switchport mode private-vlan** コマンドでポートの種別がホストポート以外に設定された場合、本コマンドの設定は削除される。

**[設定例]**

各インターフェースに以下のプライベート VLAN を設定する。

- LAN ポート #1: プライマリー VLAN #100、セカンダリー VLAN #101
- LAN ポート #2: プライマリー VLAN #100、セカンダリー VLAN #102
- LAN ポート #3: プライマリー VLAN #100、セカンダリー VLAN #103

```
SWX3200(config)# interface port1.1
SWX3200(config-if)# switchport mode private-vlan host
SWX3200(config-if)# switchport private-vlan host-association 100 add 101
SWX3200(config-if)# interface port1.2
SWX3200(config-if)# switchport mode private-vlan host
SWX3200(config-if)# switchport private-vlan host-association 100 add 102
SWX3200(config-if)# interface port1.3
SWX3200(config-if)# switchport mode private-vlan host
SWX3200(config-if)# switchport private-vlan host-association 100 add 103
```

**6.2.12 プライベート VLAN のプロミスカスポートの設定****[書式]**

**switchport private-vlan mapping *pri-vlan-id* add *2nd-vlan-ids***

**switchport private-vlan mapping *pri-vlan-id* remove *2nd-vlan-ids***

**no switchport private-vlan mapping**

**[キーワード]**

add : プライマリー VLAN に対するセカンダリー VLAN を設定する

remove : プライマリー VLAN に対するセカンダリー VLAN を削除する

**[パラメーター]**

*pri-vlan-id* : <2-4094>  
プライマリー VLAN として設定されている VLAN ID

`2nd-vlan-ids` : <2-4094>

セカンダリー VLAN に設定されている VLAN ID

複数指定する場合、以下のように、"-" や "," を使用すること

- VLAN #2 から VLAN #4 までを選択する場合: 2-4
- VLAN #2 と VLAN #4 を選択する場合: 2,4

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

インターフェイスモード

**[説明]**

対象インターフェイスがプロミスカスポートとして所属するプライマリー VLAN を設定して、セカンダリー VLAN を関連付ける。

no 形式で実行した場合、対象インターフェイスがプロミスカスポートとして所属するプライマリー VLAN の設定およびセカンダリー VLAN の関連付けを削除する。

**[ノート]**

本コマンドは **switchport mode private-vlan** コマンドでプロミスカスポートとして設定されている LAN/SFP ポートにのみ設定可能。

加えて、プロミスカスポートとして設定されている以下のインターフェイスでも設定できる。

- トランクポートとして動作しているインターフェイス
- 論理インターフェイス

`pri-vlan-id` と `2nd-vlan-ids` は、**private-vlan association** コマンドで関連付けられている必要がある。

論理インターフェイスを対象として本コマンドを設定した場合は、そのインターフェイスに所属する全ての LAN/SFP ポートの設定が変更される。

**switchport mode private-vlan** コマンドでポートの種別がプロミスカスポート以外に設定された場合、本コマンドの設定は削除される。

コミュニティ VLAN は、複数のプロミスカスポートに対して関連付けることができる。

1 つのプライマリー VLAN に対して、複数のプロミスカスポートを設定できる。

アイソレート VLAN 内のインターフェイスは、1 つのプロミスカスポートとのみ通信が可能のため、1 つのアイソレート VLAN に関連付けられるプロミスカスポートは 1 つのみ。

**[設定例]**

LAN ポート #1 をプロミスカスポートとして動作させて、プライマリー VLAN #100 を設定し、セカンダリー VLAN #101, #102, #103 を関連付ける。

```
SWX3200(config)# interface port1.1
SWX3200(config-if)# switchport mode private-vlan promiscuous
SWX3200(config-if)# switchport private-vlan mapping 100 add 101
SWX3200(config-if)# switchport private-vlan mapping 100 add 102
SWX3200(config-if)# switchport private-vlan mapping 100 add 103
```

**6.2.13 ボイス VLAN の設定**

**[書式]**

**switchport voice vlan type**

**no switchport voice vlan**

**[パラメーター]**

*type* : タイプ

設定値	説明
<1-4094>	VLAN ID
dot1p	プライオリティタグフレームを使用する
untagged	タグなしフレームを使用する

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

ボイス VLAN の設定をする。アクセスポートに設定した物理インターフェースのみ設定できる。

VLAN ID を指定した場合、指定した VLAN ID の 802.1p タグつきフレームを音声トラフィックとして利用する。

dot1p を指定した場合、プライオリティタグフレーム(VLAN ID は 0 で、CoS 値が指定された 802.1p タグ)を音声トラフィックとして利用する。

untagged を指定した場合、タグなしフレームを音声トラフィックとして利用する。

**[設定例]**

LAN ポート #1 をボイス VLAN として VLAN #100 に設定する。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#switchport voice vlan 100
```

**6.2.14 ボイス VLAN の CoS 値の設定**

---

**[書式]**

**switchport voice cos value**

**no switchport voice cos**

**[パラメーター]**

*value* : <0-7>

接続機器に設定する CoS 値

**[初期設定]**

switchport voice cos 5

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

接続機器で音声トラフィックに使用すべき CoS 値を設定する。

以下のときに LLDP-MED で接続機器に設定を通知する。

- 該当ポートでボイス VLAN が設定されている。
- 該当ポートで LLDP-MED 送受信が可能。

**[設定例]**

LAN ポート #1 でボイス VLAN として使用すべき CoS 値を 6 に設定する。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#switchport voice cos 6
```

**6.2.15 ボイス VLAN の DSCP 値の設定**

---

**[書式]**

**switchport voice dscp value**

**no switchport voice dscp**

**[パラメーター]**

*value* : <0-63>

接続機器に設定する DSCP 値

**[初期設定]**

switchport voice dscp 0



**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

接続機器で音声トラフィックに使用すべき DSCP 値を設定する。

以下のときに LLDP-MED で接続機器に設定を通知する。

- 該当ポートでボイス VLAN が設定されている。
- 該当ポートで LLDP-MED 送受信が可能。

**[設定例]**

LAN ポート #1 でボイス VLAN として使用すべき DSCP 値を 63 に設定する。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#switchport voice dscp 63
```

**6.2.16 マルチプル VLAN グループの設定****[書式]**

```
switchport multiple-vlan group group-ids
no switchport multiple-vlan group
```

**[パラメーター]**

*group-ids* : <1-256>

マルチプル VLAN グループ ID

複数指定する場合、以下のように、"- " や "," を使用すること

- グループ #2 からグループ #4 までを選択する場合: 2-4
- グループ #2 とグループ #4 を選択する場合: 2,4

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

マルチプル VLAN のグループを指定する。

インターフェースに対してグループを指定した場合、該当インターフェースでは、マルチプル VLAN グループが同じインターフェース間のみで通信できる。同じ VLAN でも、マルチプル VLAN グループが違う場合、通信できない。

物理インターフェース、リンクアグリゲーション論理インターフェースのみ指定できる。

初期状態では各インターフェースはマルチプル VLAN グループに所属しない。

no 形式で実行した場合、初期設定に戻る。

**[ノート]**

プライベート VLAN との併用はできない。

リンクアグリゲーション論理インターフェースに所属させるポートのマルチプル VLAN グループは同一にする必要がある。

マルチプル VLAN グループが適用されるのは、ポート間のフォワーディングのみ。自発の packets はマルチプル VLAN グループ設定の影響を受けない。

マルチプル VLAN を設定していても、以下の影響で正しく通信できないことがある。

- スパニングツリーのブロック状態
- IGMP スヌーピング/MLD スヌーピングの状態
- ループ検出のブロック状態

**[設定例]**

LAN ポート #1 をマルチプル VLAN グループ #10 に設定する。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#switchport multiple-vlan group 10
SWX3200(config-if)#exit
```

## 6.2.17 マルチプル VLAN グループの名前の設定

### [書式]

```
multiple-vlan group group-id name name
no multiple-vlan group group-id
```

### [パラメーター]

*group-id* : <1-256>  
マルチプル VLAN グループ ID

*name* : 半角英数字および半角記号(32 文字以内)  
マルチプル VLAN グループの名前

### [初期設定]

multiple-vlan group *group-id* name GROUPxxxx ※xxxx は 4 桁のグループ ID

### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

### [説明]

マルチプル VLAN グループに名前を設定する。

no 形式で実行した場合は、初期値に戻る。

設定した名前は、**show vlan multiple-vlan** コマンドで表示される。

### [設定例]

マルチプル VLAN グループ#10 を Network1 という名前に設定する。

```
SWX3200(config)#multiple-vlan group 10 name Network1
```

## 6.2.18 マルチプル VLAN 設定時の YMPI フレーム透過機能の設定

### [書式]

```
multiple-vlan transfer ympi switch
no multiple-vlan transfer ympi
```

### [パラメーター]

*switch* : マルチプル VLAN 設定時の YMPI フレーム透過機能の動作

設定値	説明
enable	透過機能を有効にする
disable	透過機能を無効にする

### [初期設定]

multiple-vlan transfer ympi enable

### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

### [説明]

マルチプル VLAN 設定時に、ヤマハ無線アクセスポイントの管理フレームである YMPI フレームを透過させるかどうかを設定する。

複数のヤマハ無線アクセスポイントが異なるマルチプル VLAN グループに所属していて、クラスター管理機能または無線 LAN コントローラー機能を利用したい場合、有効にする必要がある。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

### [設定例]

マルチプル VLAN 設定時の YMPI フレーム透過機能を無効にする。

```
SWX3200(config)#multiple-vlan transfer ympi disable
```

## 6.2.19 VLAN 情報の表示

### [書式]

```
show vlan vlan-id
show vlan brief
```

### [キーワード]

brief : 全ての VLAN 情報を表示する

### [パラメーター]

*vlan-id* : <1-4094>  
表示する VLAN ID

### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

### [説明]

指定した VLAN ID の情報を表示する。

以下の項目が表示される。

項目	説明
VLAN ID	VLAN ID
Name	VLAN の名前
State	VLAN の状態 (フレームを転送するか否か) <ul style="list-style-type: none"> <li>ACTIVE : 転送する</li> <li>SUSPEND : 転送しない</li> </ul>
Member ports	VLAN ID に所属しているインターフェース <ul style="list-style-type: none"> <li>(u) : アクセスポート (タグなしポート)</li> <li>(t) : トランクポート (タグ付きポート)</li> </ul>

### [設定例]

全 VLAN 情報を表示する。

```
SWX3200>show vlan brief
(u)-Untagged, (t)-Tagged
```

```
VLAN ID  Name                               State  Member ports
=====  =====
1         default                                ACTIVE  port1.1 (u) port1.2 (u)
                                         port1.3 (u) port1.4 (u)
                                         port1.5 (u) port1.6 (u)
                                         port1.7 (u) port1.8 (u)
```

## 6.2.20 プライベート VLAN 情報の表示

### [書式]

```
show vlan private-vlan
```

### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

### [説明]

プライベート VLAN の情報を表示する。

以下の項目が表示される。

項目	説明
PRIMARY	プライマリー VLAN の VLAN ID
SECONDARY	セカンダリー VLAN の VLAN ID

項目	説明
TYPE	セカンダリ VLAN の種類 <ul style="list-style-type: none"> <li>isolated : アイソレート VLAN</li> <li>community : コミュニティ VLAN</li> </ul>
INTERFACES	ホストポートとして所属しているインターフェース

**[設定例]**

プライベート VLAN の情報を表示する。

```
SWX3200>show vlan private-vlan
```

PRIMARY	SECONDARY	TYPE	INTERFACES
2	21	isolated	
2	22	community	

**6.2.21 マルチプル VLAN グループ設定情報の表示****[書式]**

```
show vlan multiple-vlan [group group-id]
```

**[キーワード]**

group : 特定のマルチプル VLAN グループの情報を表示する

**[パラメーター]**

group-id : <1-256>  
マルチプル VLAN グループ ID

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

マルチプル VLAN グループの設定状態を表示する。

group 指定を省略した場合は、実際にインターフェースに割り当てられているグループすべてを表示する  
YMPI フレーム透過機能の設定状態も表示する。

**[設定例]**

マルチプル VLAN グループの設定状態を表示する。

```
SWX3200>show vlan multiple-vlan
GROUP ID Name Member ports
=====
1 GROUP0001 port1.1 port1.2
port1.5
YMPI transfer: Enable
```

**6.3 STP(スパニングツリープロトコル)****6.3.1 システムのスパニングツリーの設定****[書式]**

```
spanning-tree shutdown
no spanning-tree shutdown
```

**[初期設定]**

```
no spanning-tree shutdown
```

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

システム全体のスパニングツリーを無効にする。

no 形式で実行した場合は、システム全体のスパニングツリーを有効にする。

**[ノート]**

スパニングツリーを有効にするためには、本コマンドに加えてインターフェースでもスパニングツリーを有効にする必要がある。

**[設定例]**

システム全体でスパニングツリーを無効にする。

```
SWX3200(config)#spanning-tree shutdown
```

### 6.3.2 転送遅延時間の設定

---

**[書式]**

**spanning-tree forward-time** *time*

**no spanning-tree forward-time**

**[パラメーター]**

*time* : <4-30>  
転送遅延時間(秒)

**[初期設定]**

```
spanning-tree forward-time 15
```

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

転送遅延時間を設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

**[ノート]**

本コマンドの設定は以下の条件を満たす必要がある。

$$2 \times (\text{ハロータイム} + 1) \leq \text{最大エージング時間} \leq 2 \times (\text{転送遅延時間} - 1)$$

最大エージング時間は、**spanning-tree max-age** コマンドで設定できる。

ハロータイムは常に 2 秒で、変更することはできない。

**[設定例]**

転送遅延時間を 10 秒に設定する。

```
SWX3200(config)#spanning-tree forward-time 10
```

### 6.3.3 最大エージング時間の設定

---

**[書式]**

**spanning-tree max-age** *time*

**no spanning-tree max-age**

**[パラメーター]**

*time* : <6-40>  
最大エージング時間(秒)

**[初期設定]**

```
spanning-tree max-age 20
```

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

最大エージング時間を設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

#### [ノート]

最大エージング時間とは、再構成を試行するまでに L2 スイッチがスパニングツリーコンフィギュレーションメッセージを受信せずに待機する時間である。

本コマンドの設定は以下の条件を満たす必要がある。

$$2 \times (\text{ハロータイム} + 1) \leq \text{最大エージング時間} \leq 2 \times (\text{転送遅延時間} - 1)$$

転送遅延時間は、**spanning-tree forward-time** コマンドで設定できる。

ハロータイムは常に 2 秒で、変更することはできない。

#### [設定例]

最大エージング時間を 25 秒に設定する。

```
SWX3200(config)#spanning-tree max-age 25
```

### 6.3.4 ブリッジプライオリティの設定

#### [書式]

**spanning-tree priority** *priority*

**no spanning-tree priority**

#### [パラメーター]

*priority* : <0-61440> (4096 の倍数)  
プライオリティ値

#### [初期設定]

```
spanning-tree priority 32768
```

#### [入力モード]

グローバルコンフィギュレーションモード

#### [説明]

ブリッジプライオリティを設定する。数値が小さいほど優先度が高い。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

#### [ノート]

MSTP の場合は CIST(インスタンス #0)に対する設定となる。

#### [設定例]

ブリッジプライオリティを 4096 に設定する

```
SWX3200(config)#spanning-tree priority 4096
```

### 6.3.5 インターフェースのスパニングツリーの設定

#### [書式]

**spanning-tree** *switch*

#### [パラメーター]

*switch* : スパニングツリーの動作

設定値	説明
enable	スパニングツリーを有効にする
disable	スパニングツリーを無効にする

#### [初期設定]

```
spanning-tree enable
```

#### [入力モード]

インターフェースモード

**[説明]**

対象インターフェースのスパニングツリーの動作を設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

**[ノート]**

本コマンドは LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースにのみ設定可能。

論理インターフェースに所属している LAN/SFP ポートに対して本コマンドを設定することはできない。

**[設定例]**

LAN ポート #1 でスパニングツリーを無効にする。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#spanning-tree disable
```

### 6.3.6 インターフェースのリンクタイプの設定

---

**[書式]**

**spanning-tree link-type *type***

**no spanning-tree link-type**

**[パラメーター]**

*type* : リンクタイプ

設定値	説明
point-to-point	ポイントツーポイントリンク
shared	共有リンク

**[初期設定]**

spanning-tree link-type point-to-point

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

対象インターフェースのリンクタイプを設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

**[ノート]**

本コマンドは LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースにのみ設定可能。

論理インターフェースに所属している LAN/SFP ポートに対して本コマンドを設定することはできない。

LAN/SFP ポートを論理インターフェースに所属させた場合は、当該 LAN/SFP ポートに対する本コマンドの設定が、初期設定に戻る。

**[設定例]**

LAN ポート #1 のリンクタイプを shared に設定する。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#spanning-tree link-type shared
```

### 6.3.7 インターフェースの BPDU フィルタリングの設定

---

**[書式]**

**spanning-tree bpdu-filter *filter***

**no spanning-tree bpdu-filter**

**[パラメーター]**

*filter* : BPDU フィルタリングの動作

設定値	説明
enable	BPDU フィルタリングを有効にする
disable	BPDU フィルタリングを無効にする

**[初期設定]**

spanning-tree bpdu-filter disable

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

対象インターフェースの BPDU フィルタリングを設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

**[ノート]**

本コマンドは LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースにのみ設定可能。

論理インターフェースに所属している LAN/SFP ポートに対して本コマンドを設定することはできない。

LAN/SFP ポートを論理インターフェースに所属させた場合は、当該 LAN/SFP ポートに対する本コマンドの設定が、初期設定に戻る。

**[設定例]**

LAN ポート #1 の BPDU フィルタリングを有効にする。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#spanning-tree bpdu-filter enable
```

### 6.3.8 インターフェースの BPDU ガードの設定

**[書式]**

**spanning-tree bpdu-guard** *guard*

**no spanning-tree bpdu-guard**

**[パラメーター]**

*guard* : BPDU ガードの動作

設定値	説明
enable	BPDU ガードを有効にする
disable	BPDU ガードを無効にする

**[初期設定]**

spanning-tree bpdu-guard disable

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

対象インターフェースの BPDU ガードを設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

**[ノート]**

本コマンドは LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースにのみ設定可能。

論理インターフェースに所属している LAN/SFP ポートに対して本コマンドを設定することはできない。

LAN/SFP ポートを論理インターフェースに所属させた場合は、当該 LAN/SFP ポートに対する本コマンドの設定が、初期設定に戻る。

LAN/SFP ポートが BPDU ガードによって **shutdown** された場合は、当該インターフェースに対して **no shutdown** コマンドを実行することで復旧できる。

論理インターフェースが BPDU ガードによって **shutdown** された場合は、当該インターフェースに対して **shutdown** コマンドを実行した後に **no shutdown** コマンドを実行することで復旧できる。



**[設定例]**

LAN ポート #1 の BPDU ガードを有効にする。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#spanning-tree bpdu-guard enable
```

**6.3.9 インターフェースのパスコストの設定****[書式]**

```
spanning-tree path-cost path-cost
no spanning-tree path-cost
```

**[パラメーター]**

*path-cost* : <1-200000000>  
パスコスト値

**[初期設定]**

インターフェースのリンク速度に応じて、以下の値を使用する。

リンク速度	パスコスト値
1000Mbps	20000
100Mbps	200000
10Mbps	2000000

論理インターフェースは、所属している LAN/SFP ポートのリンク速度を合計した値を元に、パスコスト値が決まる。

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

対象インターフェースのパスコストを設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

**[ノート]**

MSTP の場合は CIST(インスタンス #0)に対する設定となる。

本コマンドは LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースにのみ設定可能。

論理インターフェースに所属している LAN/SFP ポートに対して本コマンドを設定することはできない。

LAN/SFP ポートを論理インターフェースに所属させた場合は、当該 LAN/SFP ポートに対する本コマンドの設定が、初期設定に戻る。

**[設定例]**

LAN ポート #1 のパスコストを 100000 に設定する。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#spanning-tree path-cost 100000
```

**6.3.10 インターフェースのプライオリティの設定****[書式]**

```
spanning-tree priority priority
no spanning-tree priority
```

**[パラメーター]**

*priority* : <0-240> (16 の倍数)  
プライオリティ値

**[初期設定]**

spanning-tree priority 128

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

対象インターフェースのプライオリティを設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

数値が小さいほど優先度が高く、対向インターフェースがルートポートになる可能性が高くなる。

**[ノート]**

MSTP の場合は CIST(インスタンス #0)に対する設定となる。

本コマンドは LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースにのみ設定可能。

論理インターフェースに所属している LAN/SFP ポートに対して本コマンドを設定することはできない。

LAN/SFP ポートを論理インターフェースに所属させた場合は、当該 LAN/SFP ポートに対する本コマンドの設定が、初期設定に戻る。

**[設定例]**

LAN ポート #1 のプライオリティを 64 に設定する

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#spanning-tree priority 64
```

**6.3.11 インターフェースのエッジポートの設定**

---

**[書式]**

**spanning-tree edgeport**

**no spanning-tree edgeport**

**[初期設定]**

no spanning-tree edgeport

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

対象インターフェースのエッジポートを設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

**[ノート]**

本コマンドは LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースにのみ設定可能。

論理インターフェースに所属している LAN/SFP ポートに対して本コマンドを設定することはできない。

LAN/SFP ポートを論理インターフェースに所属させた場合は、当該 LAN/SFP ポートに対する本コマンドの設定が、初期設定に戻る。

**[設定例]**

LAN ポート #1 をエッジポートにする。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#spanning-tree edgeport
```

**6.3.12 スパニングツリーの状態表示**

---

**[書式]**

**show spanning-tree** [interface *ifname*]

**[キーワード]**

interface : 表示するインターフェースを指定する

**[パラメーター]**

*ifname* : LAN/SFP ポートまたは論理インターフェースの名前  
表示するインターフェース

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

## 【説明】

スパニングツリーの状態を表示する。

interface を省略した場合は、全てのインターフェースの状態が表示される。

MSTP の場合は CIST(インスタンス #0)の情報を表示する。

以下の項目が表示される。

項目	説明
Bridge up	スパニングツリープロトコルの有効/無効
Root Path Cost	ルートブリッジのパスコスト
Root Port	ルートポートのインターフェースインデックス番号。ルートブリッジのときは 0 と表示される。論理インターフェースの場合は論理インターフェースのインターフェースインデックス番号で表示される。
Bridge Priority	ブリッジプライオリティ
Forward Delay	ルートブリッジの転送遅延時間設定値
Hello Time	ルートブリッジのハロータイム設定値
Max Age	ルートブリッジの最大エージング時間設定値
Root Id	ルートのブリッジ識別子。ルートのブリッジプライオリティ(16進数先頭4桁)と MAC アドレスで構成される
Bridge Id	ブリッジ識別子。ブリッジプライオリティ(16進数先頭4桁)と MAC アドレスで構成される
topology change(s)	トポロジーチェンジが発生した回数(厳密には TC フラグの付いた BPDU の数を示す)
last topology change	最後にトポロジーチェンジが発生した日時
Ifindex	インターフェースインデックス番号
Port Id	インターフェースのポート ID
Role	インターフェースの役割。Disabled、Designated、Rootport、Alternate のいずれか
State	インターフェースの状態。Listening、Learning、Forwarding、Discarding のいずれか
Designated Path Cost	パスコスト
Configured Path Cost	インターフェースのパスコスト設定値
Add type Explicit ref count	インターフェースが所属する STP ドメインの数
Designated Port Id	Designated ポートの ID
Priority	インターフェースのプライオリティ
Root	ルートのブリッジ識別子。ルートのブリッジプライオリティ(16進数先頭4桁)と MAC アドレスで構成される
Designated Bridge	ブリッジ識別子。ブリッジプライオリティ(16進数先頭4桁)と MAC アドレスで構成される
Message Age	メッセージ経過時間
Hello Time	ハロータイム設定値
Forward Delay	転送遅延時間設定値
Forward Timer	実際の転送遅延タイマー
Msg Age Timer	インターフェースが BPDU の情報を破棄するタイマー。初期設定の場合、STP は 20 秒から、RSTP/MSTP は Hello Time×3 の時間をカウントダウンする

項目	説明
Hello Timer	ハローの送信に使用するタイマー。0 になった時点でハローパケットを送信する
topo change timer	トポロジーチェンジタイマー
forward-transitions	インターフェースが Forward State になった回数
Version	スパニングツリープロトコルの動作モード(バージョン)
Received	受信した BPDU のタイプ
Send	送信する BPDU のタイプ
portfast configured	エッジポートの設定値と現在の状態。portfast off、portfast on、edgeport on のいずれか
bpdu-guard	インターフェースの BPDU ガード機能の設定値と現在の状態
bpdu-filter	インターフェースの BPDU フィルタリング機能の設定値と現在の状態
root guard configured	ルートガード機能の設定値と現在の状態
Configured Link Type	インターフェースのリンクタイプの設定値と現在の状態。point-to-point または shared
auto-edge configured	オートエッジの設定値と現在の状態

### [設定例]

LAN ポート #1 のスパニングツリーの状態を表示する。

```
SWX3200>show spanning-tree interface port1.1
% Default: Bridge up - Spanning Tree Enabled - topology change detected
% Default: CIST Root Path Cost 0 - CIST Root Port 0 - CIST Bridge Priority 32768
% Default: Forward Delay 15 - Hello Time 2 - Max Age 20 - Transmit Hold Count 6 -
Max-hops 20
% Default: CIST Root Id 8000ac44f2300110
% Default: CIST Reg Root Id 8000ac44f2300110
% Default: CIST Bridge Id 8000ac44f2300110
% Default: 6 topology change(s) - last topology change Tue Feb 27 19:52:52 2018

% port1.1: Port Number 905 - Ifindex 5001 - Port Id 0x8389 - Role Designated -
State Forwarding
% port1.1: Designated External Path Cost 0 -Internal Path Cost 0
% port1.1: Configured Path Cost 20000 - Add type Explicit ref count 1
% port1.1: Designated Port Id 0x8389 - CIST Priority 128 -
% port1.1: CIST Root 8000ac44f2300110
% port1.1: Regional Root 8000ac44f2300110
% port1.1: Designated Bridge 8000ac44f2300110
% port1.1: Message Age 0 - Max Age 20
% port1.1: CIST Hello Time 2 - Forward Delay 15
% port1.1: CIST Forward Timer 0 - Msg Age Timer 0 - Hello Timer 1 - topo change
timer 0
% port1.1: forward-transitions 1
% port1.1: Version Multiple Spanning Tree Protocol - Received MSTP - Send MSTP
% port1.1: No portfast configured - Current portfast off
% port1.1: bpdu-guard disabled - Current bpdu-guard off
% port1.1: bpdu-filter disabled - Current bpdu-filter off
% port1.1: no root guard configured - Current root guard off
% port1.1: Configured Link Type point-to-point - Current point-to-point
% port1.1: No auto-edge configured - Current port Auto Edge off
```

### 6.3.13 スパニングツリーの BPDU の統計情報の表示

#### [書式]

**show spanning-tree statistics** [interface *ifname*]

#### [キーワード]

interface : 表示するインターフェースを指定する

**[パラメーター]**

*ifname* : LAN/SFP ポートまたは論理インターフェースの名前  
表示するインターフェース

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

スパニングツリーの BPDU の統計情報の表示する。

*interface* を省略した場合は、全てのインターフェースの状態が表示される。

**[設定例]**

LAN ポート #1 の BPDU の統計情報を表示する。

```
SWX3200>show spanning-tree statistics interface port1.1
Port number = 905 Interface = port1.1
=====
% BPDU Related Parameters
% -----
% Port Spanning Tree : Enable
% Spanning Tree Type : Multiple Spanning Tree Protocol
% Current Port State : Forwarding
% Port ID : 8389
% Port Number : 389
% Path Cost : 20000
% Message Age : 0
% Designated Root : ac:44:f2:30:01:10
% Designated Cost : 0
% Designated Bridge : ac:44:f2:30:01:10
% Designated Port Id : 0x8389
% Top Change Ack : FALSE
% Config Pending : FALSE

% PORT Based Information & Statistics
% -----
% Config Bpdu's xmitted : 3
% Config Bpdu's received : 0
% TCN Bpdu's xmitted : 2
% TCN Bpdu's received : 3
% Forward Trans Count : 1

% STATUS of Port Timers
% -----
% Hello Time Configured : 2
% Hello timer : ACTIVE
% Hello Time Value : 0
% Forward Delay Timer : INACTIVE
% Forward Delay Timer Value : 0
% Message Age Timer : INACTIVE
% Message Age Timer Value : 0
% Topology Change Timer : INACTIVE
% Topology Change Timer Value : 0
% Hold Timer : INACTIVE
% Hold Timer Value : 0

% Other Port-Specific Info
% -----
% Max Age Transitions : 1
% Msg Age Expiry : 0
% Similar BPDUS Rcvd : 0
% Src Mac Count : 0
% Total Src Mac Rcvd : 3
% Next State : Discard/Blocking
% Topology Change Time : 0

% Other Bridge information & Statistics
% -----
% STP Multicast Address : 01:80:c2:00:00:00
% Bridge Priority : 32768
% Bridge Mac Address : ac:44:f2:30:01:10
% Bridge Hello Time : 2
```

```

% Bridge Forward Delay          : 15
% Topology Change Initiator     : 5001
% Last Topology Change Occured  : Tue Feb 27 19:52:52 2018
% Topology Change               : FALSE
% Topology Change Detected      : TRUE
% Topology Change Count         : 6
% Topology Change Last Recvd from : 00:a0:de:ae:b8:79

```

### 6.3.14 プロトコル互換モードのクリア

---

#### [書式]

```
clear spanning-tree detected protocols [interface ifname]
```

#### [キーワード]

interface : クリアするインターフェースを指定する

#### [パラメーター]

*ifname* : LAN/SFP ポートまたは論理インターフェースの名前  
 クリアするインターフェース

#### [入力モード]

特権 EXEC モード

#### [説明]

STP 互換モードで動作していたインターフェースを通常モードへ戻す。

interface を省略した場合は、全てのインターフェースの状態がクリアされる。

#### [ノート]

STP の BPDU を受信した場合、受信したインターフェースは STP 互換モードで動作するようになる。しかし、その後 STP の BPDU を受信しなくなっても、当該インターフェースは STP 互換モードで動作し続ける。このような場合に本コマンドを実行することで、STP 互換モードから通常モードへ戻すことができる。

#### [設定例]

LAN ポート #1 を STP 互換から通常モードへ戻す。

```
SWX3200#clear spanning-tree detected protocols interface port1.1
```

### 6.3.15 MST モードへの移行

---

#### [書式]

```
spanning-tree mst configuration
```

#### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

#### [説明]

MST インスタンスや MST リージョンの設定を行うための MST モードに移行する。

#### [ノート]

MST モードからグローバルコンフィグレーションモードに戻るには **exit** コマンドを使用し、特権 EXEC モードに戻るには **end** コマンドを使用する。

#### [設定例]

MST モードに移行する。

```
SWX3200(config)#spanning-tree mst configuration
SWX3200(config-mst)#
```

### 6.3.16 MST インスタンスの生成

---

#### [書式]

```
instance instance-id
no instance
```

**[パラメーター]**

*instance-id* : <1-15>  
 インスタンス ID

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

MST モード

**[説明]**

MST インスタンスを生成する。

no 形式で実行した場合は、MST インスタンスを削除する。

**[ノート]**

MST インスタンスの生成と VLAN との関連付けは、**instance vlan** コマンドで設定する。

**[設定例]**

MST インスタンス #1 を生成する。

```
SWX3200(config)#spanning-tree mst configuration
SWX3200(config-mst)#instance 1
```

**6.3.17 MST インスタンスに対する VLAN の設定**

---

**[書式]**

**instance** *instance-id* **vlan** *vlan-id*  
**no instance** *instance-id* **vlan** *vlan-id*

**[パラメーター]**

*instance-id* : <1-15>  
 インスタンス ID

*vlan-id* : <2-4094>  
**vlan** コマンドで設定されている VLAN ID

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

MST モード

**[説明]**

MST インスタンスに対して VLAN を関連付ける。

no 形式で実行した場合は、MST インスタンスに対する VLAN の関連付けを削除する。削除した結果、MST インスタンスに対して 1 つも VLAN が関連付けられていない場合は、MST インスタンスを削除する。

生成されていない MST インスタンスを指定した場合は、MST インスタンスの生成も行われる。

**[ノート]**

他の MST インスタンスに関連付けられている VLAN ID を指定することはできない。

**[設定例]**

MST インスタンス #1 に VLAN #2 を関連付ける。

```
SWX3200(config)#spanning-tree mst configuration
SWX3200(config-mst)#instance 1 vlan 2
```

**6.3.18 MST インスタンスのプライオリティの設定**

---

**[書式]**

**instance** *instance-id* **priority** *priority*  
**no instance** *instance-id* **priority**

**[パラメーター]**

*instance-id* : <1-15>  
 インスタンス ID

*priority* : <0-61440> (4096 の倍数)  
 プライオリティ値

**[初期設定]**

instance *instance-id* priority 32768

**[入力モード]**

MST モード

**[説明]**

MST インスタンスのプライオリティを設定する。

数値が小さいほど優先度が高く、MST インスタンス内のルートブリッジになる可能性が高くなる。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

**[設定例]**

MST インスタンス #2 のプライオリティを 4096 に設定する。

```
SWX3200(config)#spanning-tree mst configuration
SWX3200(config-mst)#instance 2
SWX3200(config-mst)#instance 2 priority 4096
```

### 6.3.19 MST リージョン名の設定

---

**[書式]**

**region** *region-name*  
**no region**

**[パラメーター]**

*region-name* : 半角英数字および半角記号(32 文字以内)  
 リージョン名

**[初期設定]**

region Default

**[入力モード]**

MST モード

**[説明]**

MST リージョン名を設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

**[設定例]**

MST リージョン名を Test1 に設定する。

```
SWX3200(config)#spanning-tree mst configuration
SWX3200(config-mst)#region Test1
```

### 6.3.20 MST リージョンのリビジョン番号の設定

---

**[書式]**

**revision** *revision*

**[パラメーター]**

*revision* : <0-65535>  
 リビジョン番号

**[初期設定]**

revision 0



**[入力モード]**

MST モード

**[説明]**

MST リージョンのリビジョン番号を設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

**[設定例]**

MST リージョンのリビジョン番号を 2 に設定する。

```
SWX3200(config)#spanning-tree mst configuration
SWX3200(config-mst)#revision 2
```

**6.3.21 インターフェースに対する MST インスタンスの設定****[書式]****spanning-tree instance *instance-id*****no spanning-tree instance****[パラメーター]***instance-id* : <1-15>

生成されている MST インスタンスの ID

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

対象インターフェースに対して MST インスタンスを設定する。

no 形式で実行した場合は、MST インスタンスの設定を削除する。

**[ノート]**

本コマンドは LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースにのみ設定可能。

論理インターフェースに所属している LAN/SFP ポートに対して本コマンドを設定することはできない。

LAN/SFP ポートを論理インターフェースに所属させた場合は、当該 LAN/SFP ポートに対する本コマンドの設定が、初期設定に戻る。

**[設定例]**

LAN ポート #1 に MST インスタンス #2 を設定する。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#spanning-tree instance 2
```

**6.3.22 MST インスタンスにおけるインターフェースのプライオリティの設定****[書式]****spanning-tree instance *instance-id* priority *priority*****no spanning-tree instance *instance-id* priority****[パラメーター]***instance-id* : <1-15>

対象インターフェースに設定されている MST インスタンスの ID

*priority* : <0-240> (16 の倍数)

プライオリティ値

**[初期設定]**spanning-tree instance *instance-id* priority 128

**[入力モード]**

インターフェイスモード

**[説明]**

MST インスタンスにおける対象インターフェイスのプライオリティを設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

**[ノート]**

本コマンドは LAN/SFP ポートおよび論理インターフェイスにのみ設定可能。

論理インターフェイスに所属している LAN/SFP ポートに対して本コマンドを設定することはできない。

LAN/SFP ポートを論理インターフェイスに所属させた場合は、当該 LAN/SFP ポートに対する本コマンドの設定が、初期設定に戻る。

**[設定例]**

LAN ポート #1 の MST インスタンス #2 のプライオリティを 16 に設定する。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#spanning-tree instance 2
SWX3200(config-if)#spanning-tree instance 2 priority 16
```

**6.3.23 MST インスタンスにおけるインターフェイスのパスコストの設定****[書式]****spanning-tree instance *instance-id* path-cost *path-cost*****no spanning-tree instance *instance-id* path-cost****[パラメーター]**

*instance-id* : <1-15>  
対象インターフェイスに設定されている MST インスタンスの ID

*path-cost* : <1-200000000>  
パスコスト値

**[初期設定]**

インターフェイスのリンク速度に応じて、以下の値を使用する。

リンク速度	パスコスト値
1000Mbps	20000
100Mbps	200000
10Mbps	2000000

論理インターフェイスは、所属している LAN/SFP ポートのリンク速度を合計した値を元に、パスコスト値が決まる。

**[入力モード]**

インターフェイスモード

**[説明]**

MST インスタンスにおける対象インターフェイスのパスコストを設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

**[ノート]**

本コマンドは LAN/SFP ポートおよび論理インターフェイスにのみ設定可能。

論理インターフェイスに所属している LAN/SFP ポートに対して本コマンドを設定することはできない。

LAN/SFP ポートを論理インターフェイスに所属させた場合は、当該 LAN/SFP ポートに対する本コマンドの設定が、初期設定に戻る。

**[設定例]**

LAN ポート #1 の MST インスタンス #2 のパスコストを 100000 に設定する。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#spanning-tree instance 2
SWX3200(config-if)#spanning-tree instance 2 path-cost 100000
```

### 6.3.24 MST リージョン情報の表示

#### [書式]

```
show spanning-tree mst config
```

#### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード、インターフェースモード

#### [説明]

MST リージョンの識別情報を表示する。

#### [設定例]

MST リージョンの識別情報を表示する。

```
SWX3200>show spanning-tree mst config
%
% MSTP Configuration Information for bridge Default :
%-----
% Format Id      : 0
% Name          : Default
% Revision Level : 0
% Digest        : 0xAC36177F50283CD4B83821D8AB26DE62
%-----
```

### 6.3.25 MSTP 情報の表示

#### [書式]

```
show spanning-tree mst [detail] [interface ifname]
```

#### [キーワード]

detail : 詳細情報を表示する  
interface : 表示するインターフェースを指定する

#### [パラメーター]

*ifname* : LAN/SFP ポートまたは論理インターフェースの名前  
表示するインターフェース

#### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード、インターフェースモード

#### [説明]

MSTP の情報を表示する。

通常は MST インスタンスと VLAN およびインターフェースの関連付け情報を表示する。

detail を指定した場合は、インターフェースおよび MST インスタンスの詳細情報を表示する。

interface を省略した場合は、すべてのインターフェースの情報が表示される。

#### [ノート]

*ifname* に、論理インターフェースに所属している LAN/SFP ポートを指定することはできない。

#### [設定例]

MSTP の情報を表示する。

```
SWX3200>show spanning-tree mst
% Default: Bridge up - Spanning Tree Enabled - topology change detected
% Default: CIST Root Path Cost 0 - CIST Root Port 0 - CIST Bridge Priority 32768
% Default: Forward Delay 15 - Hello Time 2 - Max Age 20 - Transmit Hold Count 6 -
Max-hops 20
% Default: CIST Root Id 8000ac44f2300110
% Default: CIST Reg Root Id 8000ac44f2300110
% Default: CIST Bridge Id 8000ac44f2300110
% Default: 9 topology change(s) - last topology change Tue Feb 27 20:14:35 2018

%
% Instance      VLAN
% 0:            1
% 1:            100 (port1.8)
```

LAN ポート #8 の MSTP の詳細情報を表示する

```
SWX3200>show spanning-tree mst detail interface port1.8
% Default: Bridge up - Spanning Tree Enabled - topology change detected
% Default: CIST Root Path Cost 0 - CIST Root Port 0 - CIST Bridge Priority 32768
% Default: Forward Delay 15 - Hello Time 2 - Max Age 20 - Transmit Hold Count 6 -
Max-hops 20
% Default: CIST Root Id 8000ac44f2300110
% Default: CIST Reg Root Id 8000ac44f2300110
% Default: CIST Bridge Id 8000ac44f2300110
% Default: 9 topology change(s) - last topology change Tue Feb 27 20:14:35 2018

% port1.8: Port Number 912 - Ifindex 5008 - Port Id 0x8390 - Role Designated -
State Forwarding
% port1.8: Designated External Path Cost 0 -Internal Path Cost 0
% port1.8: Configured Path Cost 20000 - Add type Explicit ref count 2
% port1.8: Designated Port Id 0x8390 - CIST Priority 128 -
% port1.8: CIST Root 8000ac44f2300110
% port1.8: Regional Root 8000ac44f2300110
% port1.8: Designated Bridge 8000ac44f2300110
% port1.8: Message Age 0 - Max Age 20
% port1.8: CIST Hello Time 2 - Forward Delay 15
% port1.8: CIST Forward Timer 0 - Msg Age Timer 0 - Hello Timer 0 - topo change
timer 0
% port1.8: forward-transitions 1
% port1.8: Version Multiple Spanning Tree Protocol - Received MSTP - Send MSTP
% port1.8: No portfast configured - Current portfast off
% port1.8: bpdu-guard disabled - Current bpdu-guard off
% port1.8: bpdu-filter disabled - Current bpdu-filter off
% port1.8: no root guard configured - Current root guard off
% port1.8: Configured Link Type point-to-point - Current point-to-point
% port1.8: No auto-edge configured - Current port Auto Edge off
%
% Instance 1: Vlans: 100
% Default: MSTI Root Path Cost 0 -MSTI Root Port 0 - MSTI Bridge Priority 32768
% Default: MSTI Root Id 8001ac44f2300110
% Default: MSTI Bridge Id 8001ac44f2300110
% port1.8: Port Number 912 - Ifindex 5008 - Port Id 0x8390 - Role Designated -
State Forwarding
% port1.8: Designated Internal Path Cost 0 - Designated Port Id 0x8390
% port1.8: Configured Internal Path Cost 20000
% port1.8: Configured CST External Path cost 20000
% port1.8: CST Priority 128 - MSTI Priority 128
% port1.8: Designated Root 8001ac44f2300110
% port1.8: Designated Bridge 8001ac44f2300110
% port1.8: Message Age 0
% port1.8: Hello Time 2 - Forward Delay 15
% port1.8: Forward Timer 0 - Msg Age Timer 0 - Hello Timer 0
```

### 6.3.26 MST インスタンス情報の表示

#### [書式]

**show spanning-tree mst instance** *instance-id* [interface *ifname*]

#### [キーワード]

**interface** : 表示するインターフェースを指定する

#### [パラメーター]

**instance-id** : <1-15>  
生成されている MST インスタンスの ID

**ifname** : LAN/SFP ポートまたは論理インターフェースの名前  
表示するインターフェース

#### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード、インターフェースモード

#### [説明]

指定した MST インスタンスの情報を表示する。

interface を省略した場合は、指定した MST インスタンスが設定されているすべてのインターフェースの情報が表示される。

#### [ノート]

*ifname* に、論理インターフェースに所属している LAN/SFP ポートを指定することはできない。

#### [設定例]

MST インスタンス #1 の情報を表示する。

```
SWX3200>show spanning-tree mst instance 1
% Default: MSTI Root Path Cost 0 - MSTI Root Port 0 - MSTI Bridge Priority 32768
% Default: MSTI Root Id 8001ac44f2300110
% Default: MSTI Bridge Id 8001ac44f2300110
% port1.8: Port Number 912 - Ifindex 5008 - Port Id 0x8390 - Role Designated -
State Forwarding
% port1.8: Designated Internal Path Cost 0 - Designated Port Id 0x8390
% port1.8: Configured Internal Path Cost 20000
% port1.8: Configured CST External Path cost 20000
% port1.8: CST Priority 128 - MSTI Priority 128
% port1.8: Designated Root 8001ac44f2300110
% port1.8: Designated Bridge 8001ac44f2300110
% port1.8: Message Age 0
% port1.8: Hello Time 2 - Forward Delay 15
% port1.8: Forward Timer 0 - Msg Age Timer 0 - Hello Timer 0
%
```

## 6.4 ループ検出

### 6.4.1 ループ検出機能の設定(システム)

#### [書式]

**loop-detect** *switch*

**no loop-detect**

#### [パラメーター]

*switch* : システム全体のループ検出機能の設定

設定値	説明
enable	システム全体のループ検出機能を有効にする
disable	システム全体のループ検出機能を無効にする

#### [初期設定]

loop-detect disable

#### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

#### [説明]

システム全体のループ検出機能を有効または無効にする。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

#### [ノート]

システム全体でスパンニングツリー機能とループ検出機能を併用できる。

ループ検出機能を有効にするためには、本コマンドに加えて、インターフェースでもループ検出機能を有効にする必要がある。

ループ検出機能が有効な場合でも、以下のインターフェースではループ検出機能は動作しない。

- スパンニングツリー機能が動作している LAN/SFP ポート。ただし、Forwarding ポートでは LDF の送受信を行うため、誤接続等によりループが発生した場合は、ループ検出機能が動作する。
- ミラーリング機能のミラーポートとして動作している LAN/SFP ポート
- 論理インターフェースに収容されている LAN/SFP ポート

**[設定例]**

システム全体でループ検出機能を有効にする。

```
SWX3200(config)#loop-detect enable
```

システム全体でループ検出機能を無効にする。

```
SWX3200(config)#loop-detect disable
```

**6.4.2 ループ検出機能の設定(インターフェース)****[書式]**

```
loop-detect switch
```

```
no loop-detect
```

**[パラメーター]**

*switch* : 対象インターフェースのループ検出機能の設定

設定値	説明
enable	対象インターフェースのループ検出機能を有効にする
disable	対象インターフェースのループ検出機能を無効にする

**[初期設定]**

```
loop-detect enable
```

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

対象インターフェースのループ検出機能を有効または無効にする。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻す。

**[ノート]**

本コマンドは LAN/SFP ポートにのみ設定可能。

ループ検出機能を有効にするためには、本コマンドに加えて、システム全体でもループ検出機能を有効にする必要がある。

ループ検出機能が有効な場合でも、以下のインターフェースではループ検出機能は動作しない。

- スパニングツリー機能が動作している LAN/SFP ポート。ただし、Forwarding ポートでは LDF の送受信を行うため、誤接続等によりループが発生した場合は、ループ検出機能が動作する。
- ミラーリング機能のミラーポートとして動作している LAN/SFP ポート
- 論理インターフェースに收容されている LAN/SFP ポート

スパニングツリー機能(STP)およびループ検出機能(LPD)の設定状態に対して、どちらの機能が有効になるかを以下の表に示す。

			インターフェース			
			LPD 無効		LPD 有効	
			STP 無効	STP 有効	STP 無効	STP 有効
システム	LPD 無効	STP 無効	-	-	-	-
		STP 有効	-	STP	-	STP
	LPD 有効	STP 無効	-	-	LPD	LPD
		STP 有効	-	STP	LPD	STP

**[設定例]**

LAN ポート #1 のループ検出機能を有効にする。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
```

```
SWX3200(config-if)#loop-detect enable
```

LAN ポート #1 のループ検出機能を無効にする。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#loop-detect disable
```

### 6.4.3 ループ検出時の Port Blocking の設定

#### [書式]

```
loop-detect blocking switch
no loop-detect blocking
```

#### [パラメーター]

*switch* : 対象インターフェースの Port Blocking の設定

設定値	説明
enable	対象インターフェースの Port Blocking を有効にする
disable	対象インターフェースの Port Blocking を無効にする

#### [初期設定]

loop-detect blocking enable

#### [入力モード]

インターフェースモード

#### [説明]

対象インターフェースで、ループを検出した場合の Blocking を有効または無効にする。  
no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

#### [ノート]

本コマンドは LAN/SFP ポートにのみ設定可能。

#### [設定例]

LAN ポート #1 でループを検出した場合に Blocking するようにする。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#loop-detect blocking enable
```

LAN ポート #1 でループを検出した場合に Blocking しないようにする。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#loop-detect blocking disable
```

### 6.4.4 Port Blocking のループ解消を一定間隔で確認する

#### [書式]

```
loop-detect blocking interval interval
no loop-detect blocking interval
```

#### [パラメーター]

*interval* : <10-3600>  
ループ解消確認の間隔時間 (秒)

#### [初期設定]

なし

#### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

#### [説明]

通常、ループが解消されると、即座に Blocking は解除される。  
このコマンドを設定すると、一定間隔でループが解消されているか確認するようになる。

ループが解消されていれば **Blocking** を解除するが、ループが解消されていなければ、再度その時間が経過するまで **Blocking** を継続する。

no 形式で実行した場合は、初期設定に戻す。

#### [ノート]

Port Blocking 状態のポートがリンクダウンした場合、Port Blocking は即時に解除される。

#### [設定例]

Port Blocking のループ解消確認の間隔時間を 300 秒に設定する。

```
SWX3200(config)#loop-detect blocking interval 300
```

### 6.4.5 ループ検出状態のリセット

#### [書式]

**loop-detect reset**

#### [入力モード]

特権 EXEC モード

#### [説明]

全てのインターフェースのループ検出状態をリセットする。

#### [ノート]

本コマンドは、システム全体のループ検出機能が有効な場合にのみ実行することができる。

#### [設定例]

ループ検出状態をリセットする。

```
SWX3200#loop-detect reset
```

### 6.4.6 ループ検出機能の状態表示

#### [書式]

**show loop-detect**

#### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

#### [説明]

ループ検出機能の設定や状態を表示する。

表示内容は以下のとおり。

- システム全体のループ検出機能の設定
- Port Blocking のループ解消確認の間隔時間("auto" または "N seconds")
- LAN/SFP ポートごとのループ検出の状態
  - インターフェース名(port)
  - LAN/SFP ポートのループ検出機能の設定(loop-detect)。ループ検出機能が動作している場合は、(\*)が付与される
  - Port Blocking の設定状態(port-blocking)
  - ループの検出状態(status)

#### [設定例]

ループ検出状態の状態を表示する。

```
SWX3200>show loop-detect
```

```
loop-detect: Enable
```

```
port-blocking interval: 300 seconds
```

port	loop-detect	port-blocking	status
port1.1	enable (*)	enable	Detected
port1.2	enable (*)	enable	Blocking
port1.3	enable (*)	enable	Normal
port1.4	enable (*)	disable	Normal
port1.5	enable (*)	enable	Normal
port1.6	enable (*)	enable	Shutdown
port1.7	disable	enable	-----



```

:
:
:
:
-----
(*) : Indicates that the feature is enabled.

```

## 6.5 DHCP スヌーピング

### 6.5.1 DHCP スヌーピングの有効/無効設定 (システム)

#### [書式]

**ip dhcp snooping** *switch*

**no ip dhcp snooping**

#### [パラメーター]

*switch* : システム全体の DHCP スヌーピング機能の設定

設定値	説明
enable	システム全体の DHCP スヌーピング機能の設定を有効にする
disable	システム全体の DHCP スヌーピング機能の設定を無効にする

#### [初期設定]

ip dhcp snooping disable

#### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

#### [説明]

システム全体の DHCP スヌーピング機能の設定を有効または無効にする。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻す。

#### [ノート]

DHCP スヌーピング機能を有効にするためには、本コマンドに加えて、VLAN インターフェースでも DHCP スヌーピング機能を有効にする必要がある。

さらに、**ip dhcp snooping trust** コマンドで DHCP サーバーが接続されているポートを設定する必要がある。

システム全体の DHCP サーバー機能またはリレーエージェント機能が有効な場合、本機能を有効にできない。

また、本機能が有効な場合、システム全体の DHCP サーバー機能及び DHCP リレーエージェント機能を有効にできない。

#### [設定例]

システム全体で DHCP スヌーピング機能を有効にする。

```
SWX3200(config)#ip dhcp snooping enable
```

システム全体で DHCP スヌーピング機能を無効にする。

```
SWX3200(config)#ip dhcp snooping disable
```

### 6.5.2 DHCP スヌーピングの有効/無効設定 (VLAN)

#### [書式]

**ip dhcp snooping** *switch*

**no ip dhcp snooping**

#### [パラメーター]

*switch* : 対象インターフェースの DHCP スヌーピング機能の設定

設定値	説明
enable	対象インターフェースの DHCP スヌーピング機能の設定を有効にする
disable	対象インターフェースの DHCP スヌーピング機能の設定を無効にする

**[初期設定]**

```
ip dhcp snooping disable
```

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

対象インターフェースの DHCP スヌーピング機能の設定を有効または無効にする。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻す。

**[ノート]**

本コマンドは VLAN インターフェースにのみ設定できる。

DHCP スヌーピング機能を有効にするためには、本コマンドに加えて、システム全体でも DHCP スヌーピング機能を有効にする必要がある。

さらに、**ip dhcp snooping trust** コマンドで DHCP サーバーが接続されているポートを設定する必要がある。

**[設定例]**

VLAN1 で DHCP スヌーピング機能を有効にする。

```
SWX3200(config)#interface vlan1
SWX3200(config-if)#ip dhcp snooping enable
```

VLAN1 で DHCP スヌーピング機能を無効にする。

```
SWX3200(config)#interface vlan1
SWX3200(config-if)#ip dhcp snooping disable
```

### 6.5.3 DHCP スヌーピングのポート種別設定

**[書式]**

```
ip dhcp snooping trust
no ip dhcp snooping trust
```

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

対象インターフェースを DHCP スヌーピングの Trusted ポートに設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻す。

初期状態ではすべてのポートが Untrusted ポートに設定されている。

**[ノート]**

本コマンドは LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースにのみ設定できる。

論理インターフェースに所属している LAN/SFP ポートは設定できない。

Trusted ポートでは DHCP パケットのフィルタリングが行われず、信頼された DHCP サーバーが接続されているポートに設定する。

Untrusted ポートでは、以下の DHCP パケットのフィルタリング処理が実行される。

- DHCP サーバーから送信される DHCP パケットを破棄する。

- バインディングデータベースに MAC アドレスが登録されていて、かつ登録インターフェースとは異なるインターフェースから受信した IP アドレス解放要求 (DHCP RELEASE) および IP アドレス重複検出通知 (DHCP DECLINE) を破棄する。
- MAC アドレス検証が有効の場合、DHCP パケットの送信元 MAC アドレスとクライアントハードウェアアドレス (chaddr) を比較し、一致しない場合は当該 DHCP パケットを破棄する。
- Option 82 が有効の場合、DHCP クライアントから受信した DHCP パケットに既に Option 82 情報が付与されているとき、当該 DHCP パケットを破棄する。

#### [設定例]

port1.5 を Trusted ポートに指定する。

```
SWX3200(config)#interface port1.5
SWX3200(config-if)#ip dhcp snooping trust
```

### 6.5.4 MAC アドレス検証の有効/無効設定

#### [書式]

```
ip dhcp snooping verify mac-address switch
no ip dhcp snooping verify mac-address
```

#### [パラメーター]

*switch* : MAC アドレス検証の設定

設定値	説明
enable	MAC アドレス検証の設定を有効にする
disable	MAC アドレス検証の設定を無効にする

#### [初期設定]

```
ip dhcp snooping verify mac-address enable
```

#### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

#### [説明]

Untrusted ポートで受信した DHCP パケットの送信元 MAC アドレスとクライアントハードウェアアドレス (chaddr) を比較し、一致しない場合は当該 DHCP パケットを破棄する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻す。

#### [設定例]

MAC アドレス検証の設定を無効にする。

```
SWX3200(config)#ip dhcp snooping verify mac-address disable
```

### 6.5.5 Option 82 の有効/無効設定

#### [書式]

```
ip dhcp snooping information option switch
no ip dhcp snooping information option
```

#### [パラメーター]

*switch* : Option 82 の設定

設定値	説明
enable	Option 82 の設定を有効にする
disable	Option 82 の設定を無効にする

#### [初期設定]

```
ip dhcp snooping information option enable
```

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

DHCP パケットの Option 82 情報の付加、検査、削除の有効/無効の設定を行う。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻す。

Option 82 が有効の場合、Untrusted ポートで DHCP クライアントから受信した DHCP パケットに Option 82 情報を付与し、

DHCP サーバーから DHCP クライアント宛ての戻りパケットの Option 82 情報を削除して転送する。

Option 82 情報は以下のとおり。

- Remote-ID
  - デフォルトでは、本機の MAC アドレスが付与される。
  - **ip dhcp snooping information option format remote-id** コマンドで、Remote-ID に任意の文字列（半角英数字および半角記号）を付与することができる。
- Circuit-ID
  - デフォルトでは、DHCP クライアントから DHCP パケットを受信した VLAN ID とインターフェース番号が付与される。
  - **ip dhcp snooping vlan vlan-id information option format-type circuit-id** コマンドで、Circuit-ID の情報を、DHCP クライアントから DHCP パケットを受信した VLAN ID とポート番号に変更することができる。
- Subscriber-ID
  - デフォルトでは付与されない。
  - **ip dhcp snooping subscriber-id** コマンドで、対象ポートの Subscriber-ID に任意の文字列を設定することで付与される。

また、Untrusted ポートで既に Option 82 情報が付与された DHCP パケットを受信した場合、その DHCP パケットを破棄する。

**ip dhcp snooping information option allow-untrusted** コマンドで、Untrusted ポートにおける Option 82 を含む DHCP パケットの転送を許可することができる。**[設定例]**

Option 82 の設定を無効にする。

```
SWX3200(config)#ip dhcp snooping information option disable
```

**6.5.6 Option 82 付きパケットの Untrusted ポート受信許可設定**

---

**[書式]**

```
ip dhcp snooping information option allow-untrusted
no ip dhcp snooping information option allow-untrusted
```

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

Untrusted ポートで Option 82 情報が付与された DHCP パケットの転送を有効にする。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻す。

**[設定例]**

Untrusted ポートで Option 82 情報が付与された DHCP パケットの転送を有効にする。

```
SWX3200(config)#ip dhcp snooping information option allow-untrusted
```

**6.5.7 Option 82 の Remote-ID の設定**

---

**[書式]**

```
ip dhcp snooping information option format remote-id string remoteid
ip dhcp snooping information option format remote-id hostname
no ip dhcp snooping information option format remote-id
```

**[キーワード]**

string : REMOTEID 文字列を指定する  
 hostname : REMOTEID にホスト名を設定する

**[パラメーター]**

*remoteid* : 任意の文字列 (半角英数字および半角記号 63 文字以内)

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

Option 82 の Remote-ID に任意の文字列を付与することができる。

ただし、任意の文字列に"?"を含めることはできない。

no 形式で実行した場合は、Remote-ID に本機の MAC アドレスが付与される。

**[ノート]**

本コマンドは VLAN インターフェースにのみ設定できる。

**[設定例]**

Remote-ID に任意の文字列を付与する。

```
SWX3200(config)#interface vlan1
SWX3200(config-if)#ip dhcp snooping information option format remote-id pcl
```

**6.5.8 Option 82 の Circuit-ID の設定****[書式]**

```
ip dhcp snooping information option format-type circuit-id vlan-port
ip dhcp snooping information option format-type circuit-id string string
ip dhcp snooping information option format-type circuit-id vlan-ifindex
no ip dhcp snooping information option format-type circuit-id
```

**[キーワード]**

vlan-port : Circuit-ID type 0 VLAN ID, Module(スタック ID), ポート番号を使用する  
 string : Circuit-ID type 1 任意の文字列を使用する  
 vlan-ifindex : Circuit-ID type 2 VLAN ID, ifindex を使用する

**[パラメーター]**

*string* : 任意の文字列 (半角英数字および半角記号 63 文字以内)

**[初期設定]**

ip dhcp snooping information option format-type circuit-id vlan-ifindex

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

Option 82 の Circuit-ID で使用する情報を指定する。

vlan-port を指定した場合は、DHCP クライアントから DHCP パケットを受信した VLAN ID と、スタック番号、ポート番号を付与する。

string を指定した場合は、任意の文字列を付与する。ただし、任意の文字列に"?"を含めることはできない。

vlan-ifindex を指定した場合は、DHCP クライアントから DHCP パケットを受信した VLAN ID と、インターフェース番号を付与する。

no 形式で実行した場合は、初期設定に戻る。

**[ノート]**

本コマンドは VLAN インターフェースにのみ設定できる。

**[設定例]**

Circuit ID に DHCP クライアントから DHCP パケットを受信した VLAN ID とポート番号を付与する。

```
SWX3200(config)#interface vlan1
SWX3200(config-if)#ip dhcp snooping information option format-type circuit-id vlan-
port
```

## 6.5.9 Option 82 の Subscriber-ID の設定

---

**[書式]**

```
ip dhcp snooping subscriber-id subid
no ip dhcp snooping subscriber-id
```

**[パラメーター]**

*subid* : 任意の文字列 (半角英数字および半角記号 50 文字以内)

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

対象ポートの Subscriber-ID に任意の文字列(1~50 文字)を設定する。ただし、文字列に"?"を含めることはできない。no 形式で実行した場合は、Option 82 情報に Subscriber-ID が付与されない。

**[ノート]**

本コマンドは LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースにのみ設定できる。  
論理インターフェースに所属している LAN/SFP ポートは設定できない。

**[設定例]**

port1.1 の Subscriber-ID を設定する。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#ip dhcp snooping subscriber-id a_room
```

## 6.5.10 DHCP パケット受信レート制限の設定

---

**[書式]**

```
ip dhcp snooping limit rate limit
no ip dhcp snooping limit rate
```

**[パラメーター]**

*limit* : 10 - 125  
1 秒あたりに受信可能な DHCP パケット数 (pps)

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

システム全体で 1 秒あたりに受信可能な DHCP パケット数を設定する。  
受信レートの上限を超過した場合、受信レートを越えた受信 DHCP パケットは破棄する。  
no 形式で実行した場合は、DHCP パケットの受信レート制限を行わない。

**[設定例]**

システム全体の DHCP パケット受信レートを 100pps に設定する。

```
SWX3200(config)#ip dhcp snooping limit rate 100
```

**6.5.11 DHCP パケット破棄時 SYSLOG 出力の有効/無効設定**

**[書式]**

```
ip dhcp snooping logging switch
no ip dhcp snooping logging
```

**[パラメーター]**

*switch* : DHCP パケット破棄時 SYSLOG 出力の設定

設定値	説明
enable	DHCP パケット破棄時に SYSLOG に出力する
disable	DHCP パケット破棄時に SYSLOG に出力しない

**[初期設定]**

```
ip dhcp snooping logging enable
```

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

DHCP パケット破棄時に破棄理由を SYSLOG に出力する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻す。

**[設定例]**

DHCP パケット破棄時に SYSLOG に出力する。

```
SWX3200(config)#ip dhcp snooping logging enable
```

**6.5.12 DHCP スヌーピングのシステム設定情報の表示**

**[書式]**

```
show ip dhcp snooping
```

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

DHCP スヌーピングのシステム設定情報を表示する。

**[設定例]**

DHCP スヌーピングのシステム設定情報を表示する。

```
SWX3200>show ip dhcp snooping
DHCP Snooping Information for system:
DHCP Snooping service ..... Enabled
Option 82 insertion ..... Enabled
Option 82 on untrusted ports ..... Disabled
Verify MAC address ..... Enabled
Rate limit ..... 100 pps
Logging ..... Enabled
```

**6.5.13 DHCP スヌーピングのインターフェース設定情報の表示**

**[書式]**

```
show ip dhcp snooping interface
```

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

DHCP スヌーピングのインターフェース設定情報を表示する。

**[設定例]**

DHCP スヌーピングのインターフェース設定情報を表示する。

```
SWX3200>show ip dhcp snooping interface
DHCP Snooping information for vlan1:
  DHCP snooping ... Enabled
  Remote-ID ..... 00a0.de00.0001
  Circuit-ID ..... vlan-ifindex
  Interface   Type           Subscriber-ID
  -----
  port1.1     Trusted
  port1.2     Untrusted     a_room
  port1.10    Untrusted     b_room

DHCP Snooping information for vlan2:
  DHCP snooping ... Enabled
  Remote-ID ..... yamaha
  Circuit-ID ..... vlan-port
  Interface   Type           Subscriber-ID
  -----
  port1.3     Trusted
  port1.4     Untrusted     c_room
  port1.5     Untrusted     d_room

DHCP Snooping information for vlan3:
  DHCP snooping ... Disabled

DHCP Snooping information for vlan4:
  DHCP snooping ... Enabled
  Remote-ID ..... yamaha
  Circuit-ID ..... torakusu
  Interface   Type           Subscriber-ID
  -----
  port1.8     Untrusted     e_room
  port1.9     Trusted
```

## 6.5.14 バインディングデータベースの表示

**[書式]**

**show ip dhcp snooping binding**

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

バインディングデータベースに登録されているエントリー情報を表示する。

エントリー情報は以下のとおりです。

- DHCP クライアントから DHCP メッセージを受信した VLAN ID
- DHCP クライアントから DHCP メッセージを受信したインターフェース情報
- DHCP クライアントの MAC アドレス
- DHCP クライアントの IP アドレス
- リース時間

**[設定例]**

バインディングデータベースの内容を表示する。

```
SWX3200>show ip dhcp snooping binding
DHCP Snooping Bindings:
Total number of bindings in database: 4

VLAN  Interface  MAC address  IP address  Expires(sec)
-----
```



1	port1.1	0000.1111.2222	192.168.100.2	259170
1	port1.2	0000.3333.4444	192.168.100.3	112000
2	sa1	0000.5555.6666	192.168.200.2	100000
2	port1.10	0000.7777.8888	192.168.200.3	infinite

### 6.5.15 DHCP スヌーピングの統計情報表示

#### [書式]

**show ip dhcp snooping statistics**

#### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

#### [説明]

DHCP スヌーピングの統計情報を表示する。

インターフェースごとに、受信した DHCP パケットと破棄された DHCP パケットの数を表示する。

#### [ノート]

DHCP パケット受信レート制限の設定によって破棄されたパケットはカウントされない。

#### [設定例]

DHCP スヌーピングの統計情報を表示する。

```
SWX3200>show ip dhcp snooping statistics
DHCP Snooping Statistics:
```

VLAN	Interface	IN-Packets	IN-Discards
1	port1.1	200	100
1	port1.2	300	0
1	port1.5	0	0
2	port1.3	0	0
2	port1.4	0	0
2	sa1	50	2

### 6.5.16 バインディングデータベースのクリア

#### [書式]

**clear ip dhcp snooping binding**

#### [入力モード]

特権 EXEC モード

#### [説明]

バインディングデータベースをクリアする。

#### [設定例]

バインディングデータベースをクリアする。

```
SWX3200#clear ip dhcp snooping binding
```

### 6.5.17 DHCP スヌーピングの統計情報のクリア

#### [書式]

**clear ip dhcp snooping statistics**

#### [入力モード]

特権 EXEC モード

#### [説明]

DHCP スヌーピングの統計情報をクリアする。

#### [設定例]

DHCP スヌーピングの統計情報をクリアする。

```
SWX3200#clear ip dhcp snooping statistics
```

## 第 7 章

### Layer 3 機能

#### 7.1 IPv4 アドレス管理

##### 7.1.1 IPv4 アドレスの設定

###### [書式]

```
ip address ip_address/mask [secondary] [label textline]
ip address ip_address netmask [secondary] [label textline]
no ip address ip_address/mask [secondary]
no ip address ip_address netmask [secondary]
no ip address
```

###### [キーワード]

label : IPv4 アドレスにラベルを設定する  
secondary : セカンダリーアドレスとして設定する

###### [パラメーター]

*ip\_address* : A.B.C.D  
IPv4 アドレス  
*mask* : <1-31>  
マスクビット数  
*netmask* : A.B.C.D  
IPv4 アドレス形式のネットマスク  
*textline* : ラベル (64 文字以内)

###### [初期設定]

なし

###### [入力モード]

インターフェースモード

###### [説明]

VLAN インターフェースに対して IPv4 アドレスとネットマスクを設定する。

IPv4 アドレスは 1 つの VLAN インターフェースに、プライマリーアドレスを 1 個と、セカンダリーアドレスを 4 個まで設定できる。

システム全体で設定できる IPv4 アドレスは最大 256 個までである。

セカンダリーアドレスを設定するためには、あらかじめプライマリーアドレスを設定する必要がある。

no 形式で実行した場合は、指定した IPv4 アドレスを削除する。IPv4 アドレスを指定しなかった場合は、全ての IPv4 アドレスを削除する。

セカンダリーアドレスを設定している状態で、プライマリーアドレスを削除することはできない。

ラベルを指定した場合は、**show interface** コマンドで「IPv4 address」欄に表示される。

###### [ノート]

複数のインターフェースに同一サブネットの IPv4 アドレスを割り当てることはできない。

###### [設定例]

VLAN #1 に IPv4 アドレスとして 192.168.1.100 を設定する。

```
SWX3200(config)#interface vlan1
SWX3200(config-if)#ip address 192.168.1.100/24
```

## 7.1.2 IPv4 アドレスの表示

### [書式]

```
show ip interface [interface] brief
```

### [パラメーター]

*interface* : VLAN インターフェース名

### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

### [説明]

インターフェース毎の IPv4 アドレスを表示する。

表示内容は以下のとおり。

- IPv4 アドレス
  - セカンダリーアドレスの場合、IPv4 アドレスの後に "(secondary)" を付加して表示する。
  - **ip address dhcp** コマンドによって動的に IPv4 アドレスが設定されている場合は、IPv4 アドレスの前に "\*" を付加して表示する。
  - **ip address dhcp** コマンドを設定後に IPv4 アドレスが設定されていない場合(サーバ検索中等)は、"searching" と表示する。
  - **ip address** コマンドが設定されていない場合は "unassigned" と表示する。
- 物理層の状態
- データリンク層の状態

インターフェースを指定した場合はそのインターフェースの情報を、省略した場合は IPv4 アドレスを設定できる全てのインターフェースの情報を表示する。

### [ノート]

指定したインターフェースが IPv4 アドレスを割り当てられないものである場合はエラーになる。

### [設定例]

全ての VLAN インターフェースの IPv4 アドレスを表示する。

```
SWX3200>show ip interface brief
Interface      IP-Address          Admin-Status      Link-Status
vlan1          192.168.1.100/24
vlan2          192.168.101.100/24 (secondary)      up
vlan3          192.168.2.100/24   up
vlan3          unassigned          up                 down
```

## 7.1.3 DHCP クライアントによる動的 IPv4 アドレスの設定

### [書式]

```
ip address dhcp [hostname hostname]
```

```
no ip address
```

### [キーワード]

*hostname* : DHCP サーバーのホスト名を設定する

### [パラメーター]

*hostname* : ホスト名または IPv4 アドレス(A.B.C.D)

### [初期設定]

なし

### [入力モード]

インターフェースモード

### [説明]

DHCP クライアントを使用して、DHCP サーバーから付与された IPv4 アドレスを VLAN インターフェースに対して設定する。

DHCP サーバーを指定すると、Discover/Request メッセージに HostName オプション（オプションコード 12）を付加することができる。

IPv4 アドレスを取得した状態で **no ip address** コマンドを実行すると、取得していた IP アドレスの開放メッセージを DHCP サーバーに送る。

DHCP クライアントが設定されているインターフェースに、セカンダリーアドレスは設定できない。

no 形式で実行した場合は、DHCP クライアントの設定を削除する。

#### [ノート]

DHCP サーバーに対して要求するリース期間は 72 時間で固定とする。ただし、実際にリースされる期間は DHCP サーバーの設定に依存する。

本コマンドにより DHCP サーバーからデフォルトゲートウェイ、DNS サーバー、デフォルトドメイン名を取得した場合でも、**ip route, dns-client name-server, dns-client domain-name** コマンドの設定のほうが優先される。

本コマンドを設定しても DHCP サーバーから IPv4 アドレスが取得できない場合、Auto IP 機能が有効な VLAN インターフェースに限り、IPv4 リンクローカルアドレス(169.254.xxx.xxx/16)が自動的に割り当てられる。

スタック機能が有効かつスタックポートで Auto IP 機能を使用している場合、本コマンドは使用できない。

#### [設定例]

VLAN #100 に DHCP クライアントによって IPv4 アドレスを付与する。

```
SWX3200(config)#interface vlan100
SWX3200(config-if)#ip address dhcp
```

## 7.1.4 DHCP クライアントの状態の表示

#### [書式]

**show dhcp lease**

#### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

#### [説明]

DHCP クライアントの状態を表示する。以下の項目が表示される。

- DHCP クライアントとして動作しているインターフェース
- 割り当てられた IPv4 アドレス
- リース期限
- リース延長要求期限
- リース再取得期限
- DHCP サーバー名
- DHCP オプションとして取得した情報
  - ネットマスク
  - デフォルトゲートウェイ
  - リース時間
  - DNS サーバー
  - DHCP サーバー ID
  - ドメイン名

#### [ノート]

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

#### [設定例]

DHCP クライアントの状態を表示する。

```
SWX3200>show dhcp lease
Interface vlan1
```

```
-----
IP Address:          192.168.100.2
Expires:             2018/01/01 00:00:00
Renew:               2018/01/01 00:00:00
Rebind:              2018/01/01 00:00:00
Server:
Options:
  subnet-mask        255.255.255.0
  default-gateway    192.168.100.1
```

```

dhcp-lease-time      259200
domain-name-servers  192.168.100.1
dhcp-server-identifier 192.168.100.1
domain-name          example.com

```

## 7.1.5 Auto IP 機能の設定

### [書式]

```

auto-ip switch
no auto-ip

```

### [パラメーター]

*switch* : Auto IP 機能の動作

設定値	説明
enable	Auto IP 機能を有効にする
disable	Auto IP 機能を無効にする

### [初期設定]

```
auto-ip disable
```

### [入力モード]

インターフェースモード

### [説明]

VLAN インターフェースに対して、IPv4 リンクローカルアドレス(169.254.xxx.xxx/16)を自動生成する Auto IP 機能を有効にする。

Auto IP 機能は、**ip address dhcp** コマンドを設定後に、DHCP サーバーから IPv4 アドレスが取得できない場合にのみ機能する。

Auto IP 機能は、1 つの VLAN インターフェースにのみ有効にすることができる。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻す。

### [ノート]

IPv4 リンクローカルアドレスが決定した後に DHCP サーバーから IPv4 アドレスが取得できた場合、IPv4 リンクローカルアドレスを破棄して、DHCP サーバーから取得した IPv4 アドレスを使用する。

スタック機能が有効かつスタックポートで Auto IP 機能を使用している場合、本コマンドは使用できない。

### [設定例]

VLAN #2 の Auto IP 機能を有効にする。

```

SWX3200(config)#interface vlan2
SWX3200(config-if)#auto-ip enable

```

## 7.2 IPv4 経路制御

### 7.2.1 IPv4 静的経路設定

#### [書式]

```

ip route ip_address/mask gateway [number]
ip route ip_address/mask null [number]
ip route ip_address netmask gateway [number]
ip route ip_address netmask null [number]
no ip route ip_address/mask [gateway [number]]
no ip route ip_address/mask [null [number]]
no ip route ip_address netmask [gateway [number]]
no ip route ip_address netmask [null [number]]

```

#### [キーワード]

null : パケットを転送せずに破棄する

**[パラメーター]**

<i>ip_address</i>	: A.B.C.D	IPv4 アドレス デフォルトゲートウェイを指定するときは 0.0.0.0 とする
<i>mask</i>	: <1-31>	マスクビット数 デフォルトゲートウェイを指定するときは 0 とする
<i>netmask</i>	: A.B.C.D	アドレス形式のネットマスク デフォルトゲートウェイを指定するときは 0.0.0.0 とする
<i>gateway</i>	: A.B.C.D	ゲートウェイの IPv4 アドレス
<i>number</i>	: <1-255>	管理距離（経路選択時の優先度）（省略した場合：1） 値が小さいほど優先度が高い。

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

IPv4 の静的経路を追加する。

no 形式で実行した場合は、指定した経路を削除する。

**[設定例]**

デフォルトゲートウェイを 192.168.1.1 とする。

```
SWX3200(config)#ip route 0.0.0.0/0 192.168.1.1
```

送り先が 172.16.0.0/16 の場合のゲートウェイを 192.168.2.1 とする。

```
SWX3200(config)#ip route 172.16.0.0 255.255.0.0 192.168.2.1
```

**7.2.2 等コストマルチパスの登録可能数設定****[書式]****maximum-paths num****no maximum-paths [num]****[パラメーター]**

<i>num</i>	: <1-8>	等コストマルチパスの登録数
------------	---------	---------------

**[初期設定]**

4

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

等コストマルチパスの登録可能数を設定する。

本コマンドの設定値は、IPv4 と IPv6 の経路表および転送表に登録可能な等コストマルチパスの経路数となる。

**[設定例]**

等コストマルチパスの登録可能数を 8 に設定する。

```
SWX3200 (config) #maximum-paths 8
```

### 7.2.3 IPv4 転送表の表示

#### [書式]

```
show ip route [ip_address[/mask]]
```

#### [パラメーター]

```
ip_address      : A.B.C.D
                 IPv4 アドレス

mask           : <0-32>
                 マスクビット数 (省略した場合 : 32)
```

#### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

#### [説明]

IPv4 転送表 (FIB: Forwarding Information Base) を表示する。

IPv4 アドレスを省略した場合は、FIB の内容をすべて表示する。

IPv4 アドレスまたはネットワークアドレスを指定した場合、宛先がそれらと一致する経路エントリの詳細情報を表示する。

#### [設定例]

IPv4 転送表をすべて表示する。

```
SWX3200>show ip route
Codes: C - connected, S - static
       * - candidate default

Gateway of last resort is 192.168.100.1 to network 0.0.0.0

S*    0.0.0.0/0 [1/0] via 192.168.100.1, vlan1
S     172.16.0.0/16 [1/0] via 192.168.200.240, vlan100
S     192.168.1.1/32 [1/0] is directly connected, vlan100
C     192.168.100.0/24 is directly connected, vlan1
C     192.168.200.0/24 is directly connected, vlan100
```

192.168.100.10宛てのパケットを送るときに使用される経路を表示する。

```
SWX3200>show ip route 192.168.100.10
Routing entry for 192.168.100.0/24
  Known via "connected", distance 0, metric 0, best
  * is directly connected, vlan1
```

### 7.2.4 IPv4 経路表の表示

#### [書式]

```
show ip route database
```

#### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

#### [説明]

IPv4 経路表 (RIB: Routing Information Base) を表示する。

#### [設定例]

IPv4 経路表を表示する。

```
SWX3200>show ip route database
Codes: C - connected, S - static
       > - selected route, * - FIB route

S     *> 0.0.0.0/0 [1/0] via 192.168.100.1, vlan1
S     *> 172.16.0.0/16 [1/0] via 192.168.200.240, vlan100
S     *> 192.168.1.1/32 [1/0] is directly connected, vlan100
C     *> 192.168.100.0/24 is directly connected, vlan1
C     *> 192.168.200.0/24 is directly connected, vlan100
```

```
Gateway of last resort is not set
```

## 7.2.5 IPv4 経路表に登録されている経路エントリーのサマリーの表示

### [書式]

```
show ip route summary
```

### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

### [説明]

IPv4 経路表（RIB: Routing Information Base）に登録されている経路エントリーのサマリーを表示する。

### [設定例]

IPv4 経路表に登録されている経路エントリーのサマリーを表示する。

```
SWX3200>show ip route summary
IP routing table name is Default-IP-Routing-Table(0)
IP routing table maximum-paths is 1
Route Source      Networks
connected         2
static            3
Total             5
```

## 7.2.6 IPv4 経路のクリア

### [書式]

```
clear ip route *
clear ip route ip_address/mask
```

### [パラメーター]

*ip\_address* : A.B.C.D  
IPv4 アドレス

*mask* : <0-32>  
マスクビット数

### [入力モード]

特権 EXEC モード

### [説明]

IPv4 転送表の RIP, OSPFv2 の経路をクリアする。

第一書式では、すべての RIP, OSPFv2 の経路をクリアする。

第二書式では、RIP, OSPFv2 の経路の中で指定したネットワーク範囲内の経路だけをクリアする。

### [設定例]

IPv4 転送表の RIP, OSPFv2 の経路をすべてクリアする。

```
SWX3200#clear ip route *
```

IPv4 転送表の RIP, OSPFv2 の経路の中で 10.0.0.0/8 に含まれるものだけをクリアする。

```
SWX3200#clear ip route 10.0.0.0/8
```

## 7.3 ARP

### 7.3.1 ARP テーブルの表示

#### [書式]

```
show arp
```

#### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

#### [説明]

ARP キャッシュを表示する。



**[設定例]**

ARP キャッシュを表示する。

```
SWX3200>show arp
  IP Address      MAC Address      Interface  Type
192.168.100.10   00a0.de00.0000  vlan1     dynamic
192.168.100.100 00a0.de00.0001  vlan1     static
```

**7.3.2 ARP テーブルの消去****[書式]**

**clear arp-cache**

**[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

ARP キャッシュをクリアする。

**[設定例]**

ARP キャッシュをクリアする。

```
SWX3200#clear arp-cache
```

**7.3.3 静的 ARP エントリーの設定****[書式]**

**arp ip\_address mac\_address interface**

**no arp ip\_address**

**[パラメーター]**

*ip\_address* : A.B.C.D  
IP アドレス

*mac\_address* : HHHH.HHHH.HHHH  
MAC アドレス

*interface* : portN.M  
物理インターフェイス名

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

静的グループ ARP エントリーを作成する。

no 形式で実行した場合は、指定したエントリーを削除する。

**[設定例]**

port1.1 に接続された IP アドレス 192.168.100.100、MAC アドレス 00a0.de00.0000 の静的 ARP エントリーを作成する。

```
SWX3200(config)#arp 192.168.100.100 00a0.de00.0000 port1.1
```

**7.3.4 ARP タイムアウトの設定****[書式]**

**arp-ageing-timeout time**

**no arp-ageing-timeout [time]**

**[パラメーター]**

*time* : <1-3000>

## ARP エントリー保持時間 (秒)

## [初期設定]

```
arp-ageing-timeout 300
```

## [入力モード]

インターフェースモード

## [説明]

対象 VLAN インターフェースにおける ARP エントリー保持時間を変更する。この時間内に受信されなかった ARP エントリーは削除される。

no 形式で実行した場合は、ARP エントリー時間を 300 秒にする。

## [設定例]

VLAN #1 の ARP エントリー保持時間を 10 分に変更する。

```
SWX3200(config)#interface vlan1
SWX3200(config)#arp-aging-timeout 600
```

### 7.3.5 ARP タイムアウト時の ARP リクエスト送信方式の設定

## [書式]

```
arp-ageing-timeout request mode
```

```
no arp-ageing-timeout request
```

## [パラメーター]

*mode* : ARP リクエスト送信方式

設定値	説明
unicast	ARP タイムアウト時に送信する ARP リクエストをユニキャストで送信する
broadcast	ARP タイムアウト時に送信する ARP リクエストをブロードキャストで送信する

## [初期設定]

```
arp-ageing-timeout request unicast
```

## [入力モード]

インターフェースモード

## [説明]

対象 VLAN インターフェースにおいて ARP エントリーの保持時間が満了したときに送信する ARP リクエストの方式を設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻す。

## [設定例]

VLAN #1 の ARP エントリーの保持時間が満了したときに送信する ARP リクエストをブロードキャストで送信する。

```
SWX3200(config)#interface vlan1
SWX3200(config)#arp-aging-timeout request broadcast
```

## 7.4 IPv4 転送制御

### 7.4.1 IPv4 転送設定

## [書式]

```
ip forwarding switch
```

```
no ip forwarding [switch]
```

[パラメーター]

*switch* : IPv4 パケットの転送設定

設定値	説明
enable	IPv4 パケットの転送を有効にする
disable	IPv4 パケットの転送を無効にする

[初期設定]

ip forwarding enable

[入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

[説明]

IPv4 パケットの転送を有効または無効にする。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻す。

### 7.4.2 IPv4 転送設定の表示

[書式]

**show ip forwarding**

[入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

[説明]

IPv4 パケットの転送設定を表示する。

[設定例]

IPv4 パケットの転送設定を表示する。

```
SWX3200>show ip forwarding
IP forwarding is on
```

### 7.4.3 IPv4 ディレクティッドブロードキャストの転送設定

[書式]

**ip directed-broadcast *switch***

**no ip directed-broadcast**

[パラメーター]

*switch* : IPv4 ディレクティッドブロードキャストの転送設定

設定値	説明
enable	IPv4 ディレクティッドブロードキャストの転送を有効にする
disable	IPv4 ディレクティッドブロードキャストの転送を無効にする

[初期設定]

ip directed-broadcast disable

[入力モード]

インターフェースモード

[説明]

VLAN インターフェースに対して、他の VLAN インターフェースからのディレクティッドブロードキャスト転送の動作を設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻す。

**[ノート]**

本コマンドは VLAN インターフェースにのみ設定できる。また VLAN インターフェースに IP アドレスが割り当てられている場合のみ動作する。

ディレクティッドブロードキャスト転送を有効に設定している場合、smurf 攻撃等に利用される可能性があるので注意すること。

**[設定例]**

VLAN#2 のディレクティッドブロードキャスト転送を有効にする。

```
SWX3200(config)#interface vlan2
SWX3200(config-if)#ip directed-broadcast enable
```

**7.4.4 MTU の設定****[書式]**

**mtu** *mtu*  
**no** **mtu**

**[パラメーター]**

*mtu* : <68-9216>  
送信可能な最大パケットサイズ

**[初期設定]**

mtu 1500

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

VLAN インターフェースから送信可能なパケットサイズの最大値(MTU 値)を設定する。

本製品が送信するパケット、および本製品が L3 転送(ルーティング)するパケットが対象となり、本製品が L2 転送(スイッチング)するイーサフレームは対象外となる。

IPv4 ヘッダーの Total Length が MTU 値を超えるパケットを L3 転送する場合、IP フラグメントされて送信される。

IPv6 ヘッダーの Payload Length が MTU 値を超えるパケットを L3 転送する場合、ICMPv6 エラーが返送されてパケットは破棄される。

mru コマンドで設定されたイーサフレーム長に収まるサイズのパケットがルーティングの対象となるため、ジャンボフレームをルーティングする場合には mru コマンドで受信可能なイーサフレーム長を調整する必要がある。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻す。

**[ノート]**

本コマンドは VLAN インターフェースにのみ設定可能。

MTU 値は、初期値を除いて最大で 7 つまで異なる値を設定することができる。

ipv6 enable が設定された VLAN インターフェースでは、MTU の設定可能範囲は <1280-9216> となる。

MTU 値が 1280 よりも小さく設定されている VLAN インターフェースに対して ipv6 enable コマンドを設定することはできない。

**[設定例]**

VLAN インターフェース #1 に所属する LAN ポート #1 と、VLAN インターフェース #2 に所属する LAN ポート #2 間で、10240 バイトまでのジャンボフレームを許容し、MTU を 2000 バイトにする。

```
SWX3200(config)#interface port1.1-2
SWX3200(config-if)#mru 10240
SWX3200(config-if)#interface vlan1-2
SWX3200(config-if)#mtu 2000
```

**7.5 IPv4 疎通確認****7.5.1 IPv4 疎通確認****[書式]**

**ping** *host* [*repeat count*] [*size datalen*] [*timeout timeout*] [*source ip\_address*]

**[キーワード]**

- repeat : 実行回数を設定する
- size : ICMP データ部分の長さ(バイト単位)を設定する
- timeout : 実行回数分の Echo リクエストを送信した後の応答待ち時間を設定する
- source : ICMP パケットの送信元アドレスを設定する

**[パラメーター]**

- host : ICMP Echo を送信する宛先  
ホスト名、または、宛先の IP アドレス(A.B.C.D)
- count : 実行回数 (省略した場合 : 5)

設定値	説明
<1-2147483647>	指定した回数実行する
continuous	Ctrl+C が入力されるまで実行を繰り返す

- datalen : <36-18024>  
ICMP データ部分の長さ(バイト) (省略した場合 : 56)
- timeout : <1-65535>  
応答待ち時間 (省略した場合 : 2)  
実行回数を continuous にした場合は無視される
- ip\_address : A.B.C.D  
IPv4 アドレス

**[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

ICMP Echo を指定したホストに送出し、ICMP Echo Reply の応答を待つ。  
応答があれば、その旨を表示する。コマンドの終了後に統計情報を表示する。

**[設定例]**

IP アドレス 192.168.100.254 宛てにデータサイズ 120 バイト、実行回数は 3 回で疎通確認を行う。

```
SWX3200#ping 192.168.100.254 repeat 3 size 120
PING 192.168.100.254 (192.168.100.254): 120 data bytes
128 bytes from 192.168.100.254: seq=0 ttl=255 time=8.368 ms
128 bytes from 192.168.100.254: seq=1 ttl=255 time=9.946 ms
128 bytes from 192.168.100.254: seq=2 ttl=255 time=10.069 ms

--- 192.168.100.254 ping statistics ---
3 packets transmitted, 3 packets received, 0% packet loss
round-trip min/avg/max = 8.368/9.461/10.069 ms
```

**7.5.2 IPv4 経路確認****[書式]**

**traceroute host**

**[パラメーター]**

- host : 経路を確認する宛先  
ホスト名、または、宛先の IPv4 アドレス(A.B.C.D)

**[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

指定したホストまでの経路情報を表示する。

**[設定例]**

192.168.100.1 までの経路確認を行う。

```
SWX3200#traceroute 192.168.100.1
traceroute to 192.168.100.1 (192.168.100.1), 30 hops max
 1  192.168.10.1 (192.168.10.1)  0.563 ms  0.412 ms  0.428 ms
 2  192.168.20.1 (192.168.20.1)  0.561 ms  0.485 ms  0.476 ms
 3  192.168.30.1 (192.168.30.1)  0.864 ms  0.693 ms  21.104 ms
 4  192.168.40.1 (192.168.40.1)  0.751 ms  0.783 ms  0.673 ms
 5  192.168.50.1 (192.168.50.1)  7.689 ms  7.527 ms  7.168 ms
 6  192.168.100.1 (192.168.100.1)  33.948 ms  10.413 ms  7.681 ms
```

## 7.6 IPv6 アドレス管理

### 7.6.1 IPv6 の設定

**[書式]**

**ipv6 switch**

**no ipv6**

**[パラメーター]**

*switch* : IPv6 の動作

設定値	説明
enable	IPv6 を有効にする
disable	IPv6 を無効にする

**[初期設定]**

ipv6 disable

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

VLAN インターフェースに対して IPv6 を有効にしリンクローカルアドレスを自動設定する。

IPv6 は最大 256 個までの VLAN インターフェースで有効にすることができる。

IPv6 を無効にした場合、関連する設定も同時に削除される。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

**[ノート]**

自動設定されたリンクローカルアドレスは、**show ipv6 interface brief** コマンドで確認できる。

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

**[設定例]**

VLAN #1 の IPv6 を有効にする。

```
SWX3200(config)#interface vlan1
SWX3200(config-if)#ipv6 enable
```

### 7.6.2 IPv6 アドレスの設定

**[書式]**

**ipv6 address ipv6\_address/prefix\_len**

**no ipv6 address ipv6\_address/prefix\_len**

**no ipv6 address**

**[パラメーター]**

*ipv6\_address* : X:X::X:X  
IPv6 アドレス

*prefix\_len* : <1-127>

## IPv6 プレフィックス長

## [入力モード]

インターフェースモード

## [説明]

VLAN インターフェースに対して IPv6 アドレスとプレフィックス長を設定する。

IPv6 アドレスは **ipv6 enable** コマンドが設定されている VLAN インターフェースに設定することができる。

本コマンドは、**ipv6 address autoconfig** コマンドと併用できる。

IPv6 アドレスは 1 つの VLAN インターフェースに、グローバルアドレス(RA 設定を含む)を 5 個までと、リンクローカルアドレスを 1 個設定できる。

システム全体で設定できる IPv6 アドレスは最大 256 個までである(自動的に割り当てられるリンクローカルアドレスを除く)。

no 形式で実行した場合は、指定した IPv6 アドレスを削除する。IPv6 アドレスを指定しなかった場合は、全ての IPv6 アドレス(RA 設定を含む)を削除する。

## [ノート]

複数のインターフェースに同一サブネットの IPv6 アドレスを割り当てることはできない。

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

## [設定例]

VLAN #1 に IPv6 アドレスとして 2001:db8:1::2 を設定する。

```
SWX3200(config)#interface vlan1
SWX3200(config-if)#ipv6 address 2001:db8:1::2/64
```

## 7.6.3 IPv6 アドレスの RA 設定

## [書式]

**ipv6 address autoconfig**

**no ipv6 address autoconfig**

## [初期設定]

なし

## [入力モード]

インターフェースモード

## [説明]

RA を使用して、VLAN インターフェースに IPv6 アドレスを設定する。

RA は **ipv6 enable** コマンドが設定されている VLAN インターフェースに設定することができる。

本コマンドは、**ipv6 address ipv6\_address/prefix\_len** コマンドと併用できる。

no 形式で実行した場合は、RA の設定を削除する。

## [ノート]

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

## [設定例]

VLAN #1 に、RA を使用して IPv6 アドレスを設定する。

```
SWX3200(config)#interface vlan1
SWX3200(config-if)#ipv6 address autoconfig
```

## 7.6.4 IPv6 アドレスの表示

## [書式]

**show ipv6 interface [interface] brief**

## [パラメーター]

*interface* : VLAN インターフェース名  
表示するインターフェース

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

インターフェース毎の IPv6 アドレスを表示する。

- IPv6 アドレス
  - IPv6 アドレスが設定されていない場合は "unassigned" となる。
- 物理層の状態
- データリンク層の状態

インターフェースを指定した場合はそのインターフェースの情報を、省略した場合は IPv6 アドレスが設定された全てのインターフェースの情報を表示する。

**[ノート]**

指定したインターフェースが IPv6 アドレスを割り当てられないものである場合はエラーになる。

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

**[設定例]**

全ての VLAN インターフェースの IPv6 アドレスを表示する。

```
SWX3200>show ipv6 interface brief
Interface          IPv6-Address          Admin-Status
Link-Status
vlan1              2001:db8:1::2/64
                  2001:db8:2::2/64
                  fe80::2a0:deff:fe:2/64          up          up
vlan2              2001:db8:2::2/64
                  fe80::2a0:deff:fe:2/64          up
down
vlan3              unassigned            up
down
```

## 7.7 IPv6 経路制御

### 7.7.1 IPv6 静的経路設定

**[書式]**

```
ipv6 route ipv6_address/prefix_len gateway [number]
ipv6 route ipv6_address/prefix_len null [number]
no ipv6 route ipv6_address/prefix_len [gateway [number]]
no ipv6 route ipv6_address/prefix_len [null [number]]
```

**[キーワード]**

null : パケットを転送せずに破棄する

**[パラメーター]**

*ipv6\_address* : X:X::X:X  
IPv6 アドレス  
デフォルトゲートウェイを指定するときは :: (0:0:0:0:0:0:0 の省略形) とする

*prefix\_len* : <1-127>  
IPv6 プレフィックス  
デフォルトゲートウェイを指定するときは 0 とする

*gateway* : X:X::X:X  
ゲートウェイの IPv6 アドレス  
IPv6 リンクローカルアドレスを指定するときは、送出インターフェースも指定する必要がある (fe80::X%vlanN の形式)

*number* : <1-255>



管理距離（経路選択時の優先度）（省略した場合：1）  
値が小さいほど優先度が高い。

#### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

#### [説明]

IPv6 の静的経路を追加する。

no 形式で実行した場合は、指定した経路を削除する。

#### [ノート]

デフォルトゲートウェイの設定は、RA による設定よりも、静的経路による設定が最優先される。

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

#### [設定例]

送り先が 2001:db8:2::/64 の場合のゲートウェイを 2001:db8:1::1 とする。

```
SWX3200(config)#ipv6 route 2001:db8:2::/64 2001:db8:1::1
```

デフォルトゲートウェイを経路 VLAN #1 上の fe80::2a0:deff:fe:1 とする。

```
SWX3200(config)#ipv6 route ::/0 fe80::2a0:deff:fe:1%vlan1
```

## 7.7.2 IPv6 転送表の表示

#### [書式]

```
show ipv6 route [ipv6_address[/prefix_len]]
```

#### [パラメーター]

*ipv6\_address* : X:X::X:X

IPv6 アドレス

*mask* : <0-128>

IPv6 プレフィックス長（省略した場合：128）

#### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

#### [説明]

IPv6 転送表（FIB: Forwarding Information Base）を表示する。

IPv6 アドレスを省略した場合は、FIB の内容をすべて表示する。

IPv6 アドレスまたはネットワークアドレスを指定した場合、宛先がそれらと一致する経路エントリーの詳細情報を表示する。

#### [ノート]

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

#### [設定例]

IPv6 転送表をすべて表示する。

```
SWX3200>show ipv6 route
```

```
Codes: C - connected, S - static
```

```
Timers: Uptime
```

```
S      ::/0 [1/0] via fe80::2a0:deff:fe:1, vlan1, 00:03:08
```

```
C      2001:db8:1::/64 via ::, vlan1, 00:01:10
```

```
S      2001:db8:2::/64 [1/0] via 2001:db8:1::1, vlan1, 00:01:52
```

```
C      fe80::/64 via ::, vlan1, 00:03:08
```

2001:db8:1::2 宛てのパケットを送るときに使用される経路を表示する。

```
SWX3200>show ipv6 route 2001:db8:1::2
```

```
Routing entry for 2001:db8:1::/64
```

```
Known via "connected", distance 0, metric 0, best
```

```
Last update 00:18:27 ago
```

```
* directly connected, vlan1
```

### 7.7.3 IPv6 経路表の表示

---

#### [書式]

```
show ipv6 route database
```

#### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

#### [説明]

IPv6 経路表 (RIB: Routing Information Base) を表示する。

#### [ノート]

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

#### [設定例]

IPv6 経路表を表示する。

```
SWX3200>show ipv6 route database
Codes: C - connected, S - static
       > - selected route, * - FIB route
Timers: Uptime

S   *> ::/0 [1/0] via fe80::2a0:deff:fe:1, vlan1, 00:21:39
C   *> 2001:db8:1::/64 via ::, vlan1, 00:19:41
S   *> 2001:db8:2::/64 [1/0] via 2001:db8:1::1, vlan1, 00:20:23
C   *> fe80::/64 via ::, vlan1, 00:21:39
```

### 7.7.4 IPv6 経路表に登録されている経路エントリーのサマリーの表示

---

#### [書式]

```
show ipv6 route summary
```

#### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

#### [説明]

IPv6 経路表 (RIB: Routing Information Base) に登録されている経路エントリーのサマリーを表示する。

#### [ノート]

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

#### [設定例]

IPv6 経路表のサマリーを表示する。

```
SWX3200>show ipv6 route summary
IPv6 routing table name is Default-IPv6-Routing-Table(0)
IPv6 routing table maximum-paths is 1
Route Source      Networks
connected         2
static            2
Total             4
```

### 7.7.5 IPv6 経路のクリア

---

#### [書式]

```
clear ipv6 route *
clear ipv6 route ipv6_address/prefix_len
```

#### [パラメーター]

*ipv6\_address* : X:X::X:X  
IPv6 アドレス

*mask* : <0-128>  
IPv6 プレフィックス長

#### [入力モード]

特権 EXEC モード

**[説明]**

IPv6 転送表の RIPng, OSPFv3 の経路をクリアする。

第一書式では、すべての RIPng, OSPFv3 の経路をクリアする。

第二書式では、RIPng, OSPFv3 の経路の中で指定したネットワーク範囲内の経路だけをクリアする。

**[ノート]**

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

**[設定例]**

IPv6 転送表の RIPng, OSPFv3 の経路をすべてクリアする。

```
SWX3200#clear ipv6 route *
```

IPv6 転送表の RIPng, OSPFv3 の経路の中で 2001:db8:1::/64 に含まれるものだけをクリアする。

```
SWX3200#clear ipv6 route 2001:db8:1::/64
```

## 7.8 Neighbor キャッシュ

---

### 7.8.1 静的 Neighbor キャッシュエントリーの設定

---

**[書式]**

```
ipv6 neighbor ipv6_address interface mac_address interface
```

```
no ipv6 neighbor ipv6_address interface
```

**[パラメーター]**

*ipv6\_address* : X:X::X:X

IPv6 アドレス

*interface* : vlanN

VLAN インターフェイス名

*mac\_address* : HHHH.HHHH.HHHH

MAC アドレス

*interface* : portN.M

物理インターフェイス名

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

Neighbor キャッシュに静的エントリーを追加する。

no 形式で実行した場合は、指定した静的エントリーを削除する。

**[ノート]**

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

**[設定例]**

VLAN #1 上の port1.1 にある、IPv6 アドレス 2001:db8:cafe::1 の MAC アドレスを Neighbor キャッシュに設定する。

```
SWX3200(config)#ipv6 neighbor 2001:db8:cafe::1 vlan1 00a0.de80.cafe port1.1
```

### 7.8.2 Neighbor キャッシュテーブルの表示

---

**[書式]**

```
show ipv6 neighbors
```

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

Neighbor キャッシュテーブルを表示する。

**[ノート]**

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

**[設定例]**

Neighbor キャッシュテーブルを表示する。

```
SWX3200>show ipv neighbors
IPv6 Address          MAC Address          Interface  Type
2001:db8:1:0:3538:5dc7:6bc4:1a23  0011.2233.4455      vlan1     dynamic
2001:db8:cafe::1      00a0.de80.cafe      vlan1     static
fe80::0211:22ff:fe33:4455  0011.2233.4455      vlan1     dynamic
fe80::6477:88ff:fe99:aabb  6677.8899.aabb      vlan1     dynamic
```

### 7.8.3 Neighbor キャッシュテーブルの消去

---

**[書式]**

**clear ipv6 neighbors**

**[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

Neighbor キャッシュをクリアする。

**[ノート]**

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

**[設定例]**

Neighbor キャッシュをクリアする。

```
SWX3200#clear ipv6 neighbors
```

## 7.9 IPv6 転送制御

---

### 7.9.1 IPv6 転送設定

---

**[書式]**

**ipv6 forwarding *switch***

**no ipv6 forwarding [*switch*]**

**[パラメーター]**

*switch* : IPv6 パケットの転送設定

設定値	説明
enable	IPv6 パケットの転送を有効にする
disable	IPv6 パケットの転送を無効にする

**[初期設定]**

ipv6 forwarding enable

**[入力モード]**

グローバルコンフィギュレーションモード

**[説明]**

IPv6 パケットの転送を有効または無効にする。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

### 7.9.2 IPv6 転送設定の表示

---

**[書式]**

**show ipv6 forwarding**

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

IPv6 パケットの転送設定を表示する。

**[設定例]**

IPv6 パケットの転送設定を表示する。

```
SWX3200>show ipv6 forwarding
IPv6 forwarding is on
```

## 7.10 IPv6 疎通確認

### 7.10.1 IPv6 疎通確認

**[書式]**

```
ping6 host [repeat count] [size datalen] [timeout timeout] [source ipv6_address]
```

**[キーワード]**

- repeat : 実行回数を設定する
- size : ICMPv6 データ部分の長さ(バイト単位)を設定する
- timeout : 実行回数分の Echo リクエストを送信した後の応答待ち時間を設定する
- source : ICMPv6 パケットの送信元アドレスを設定する

**[パラメーター]**

- host* : ホスト名、または、IPv6 アドレス(X:X::X:X)  
ICMPv6 Echo を送信する宛先  
IPv6 リンクローカルアドレスを指定する場合は、送出インターフェースも指定する必要がある(fe80::X%vlanN の形式)
- count* : 実行回数 (省略した場合 : 5)

設定値	説明
<1-2147483647>	指定した回数実行する
continuous	Ctrl+C が入力されるまで実行を繰り返す

- datalen* : <36-18024>  
ICMP データ部分の長さ(バイト) (省略した場合 : 56)
- timeout* : <1-65535>  
応答待ち時間 (省略した場合 : 2)  
実行回数を continuous にした場合は無視される
- ipv6\_address* : X:X::X:X  
IPv6 アドレス

**[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

ICMPv6 Echo を指定したホストに送出し、ICMPv6 Echo Reply が送られてくるのを待つ。  
送られてきたら、その旨を表示する。コマンドが終了すると簡単な統計情報を表示する。

**[ノート]**

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

**[設定例]**

fe80::2a0:deff:fe11:2233 宛てに疎通確認を行う。

```
SWX3200#ping6 fe80::2a0:deff:fe11:2233%vlan1
PING fe80::2a0:deff:fe11:2233%vlan1 (fe80::2a0:deff:fe11:2233%vlan1): 56 data bytes
64 bytes from fe80::2a0:deff:fe11:2233: seq=0 ttl=64 time=2.681 ms
```

```
64 bytes from fe80::2a0:deff:fe11:2233: seq=1 ttl=64 time=4.760 ms
64 bytes from fe80::2a0:deff:fe11:2233: seq=2 ttl=64 time=10.045 ms
64 bytes from fe80::2a0:deff:fe11:2233: seq=3 ttl=64 time=10.078 ms
64 bytes from fe80::2a0:deff:fe11:2233: seq=4 ttl=64 time=10.210 ms

--- fe80::2a0:deff:fe11:2233%vlan1 ping statistics ---
5 packets transmitted, 5 packets received, 0% packet loss
round-trip min/avg/max = 2.681/7.554/10.210 ms
```

## 7.10.2 IPv6 経路確認

### [書式]

```
tracroute6 host
```

### [パラメーター]

*host* : 経路を確認する宛先  
ホスト名、または、宛先の IPv6 アドレス(X:X::X:X)

### [入力モード]

特権 EXEC モード

### [説明]

指定したホストまでの経路情報を表示する。

### [ノート]

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

### [設定例]

2001:db8:1::2 までの経路確認を行う。

```
SWX3200#tracroute6 2001:db8:1::2
tracroute to 2001:db8:1::2 (2001:db8:1::2), 30 hops max
 1 2001:db8:10::1 (2001:db8:10::1) 0.563 ms 0.412 ms 0.428 ms
 2 2001:db8:20::1 (2001:db8:20::1) 0.561 ms 0.485 ms 0.476 ms
 3 2001:db8:30::1 (2001:db8:30::1) 0.864 ms 0.693 ms 21.104 ms
 4 2001:db8:40::1 (2001:db8:40::1) 0.751 ms 0.783 ms 0.673 ms
 5 2001:db8:50::1 (2001:db8:50::1) 7.689 ms 7.527 ms 7.168 ms
 6 2001:db8:1::2 (2001:db8:1::2) 33.948 ms 10.413 ms 7.681 ms
```

## 7.11 DNS クライアント

### 7.11.1 DNS への問い合わせ機能の設定

#### [書式]

```
dns-client switch
```

```
no dns-client
```

#### [パラメーター]

*switch* : DNS クライアントの動作

設定値	説明
enable	DNS クライアントを有効にする
disable	DNS クライアントを無効にする

#### [初期設定]

```
dns-client disable
```

#### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

#### [説明]

DNS への問い合わせ機能を有効または無効にする。

no 形式で実行した場合は無効にする。

**[設定例]**

DNS への問い合わせ機能を有効にする。

```
SWX3200(config)#dns-client enable
```

**7.11.2 DNS サーバーリストの設定****[書式]**

```
dns-client name-server server
```

```
no dns-client name-server server
```

**[パラメーター]**

*server* : A.B.C.D

DNS サーバーの IPv4 アドレス

: X:X::X:X

DNS サーバーの IPv6 アドレス

IPv6 リンクローカルアドレスを指定する場合は、送出インターフェースも指定する必要がある(fe80::X%vlanN の形式)

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

DNS サーバーリストにサーバーを追加する。

サーバーは最大 3 件まで設定できる。

no 形式で実行した場合は、指定したサーバーを DNS サーバーリストから削除する。

**[ノート]**

**ip address dhcp** コマンドによって DHCP サーバーから DNS サーバーリストを取得した場合、本コマンドの設定が優先される。

ただし、本コマンドによる DNS サーバーリストの登録数が 3 件未満の場合は、合計 3 件までリストの末尾に DHCP サーバーから取得した DNS サーバーリストを追加する。

**[設定例]**

DNS サーバーリストに IP アドレス 192.168.100.1、2001:db8::1234、fe80::2a0:deff:fe11:2233 を追加する。

```
SWX3200(config)#dns-client name-server 192.168.100.1
```

```
SWX3200(config)#dns-client name-server 2001:db8::1234
```

```
SWX3200(config)#dns-client name-server fe80::2a0:deff:fe11:2233%vlan1
```

**7.11.3 デフォルトドメイン名の設定****[書式]**

```
dns-client domain-name name
```

```
no dns-client domain-name name
```

**[パラメーター]**

*name* : ドメイン名 (最大 256 文字)

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

DNS 問い合わせ時に使用するデフォルトドメイン名を設定する。

no 形式で実行した場合はデフォルトドメイン名を削除する。

#### [ノート]

**ip address dhcp** コマンドによって DHCP サーバーからデフォルトドメイン名(オプションコード 15)を取得した場合、本コマンドの設定が優先される。

**dns-client domain-list** コマンドで検索ドメインリストが設定されている場合は、本コマンドで設定したデフォルトドメイン名、および、**ip address dhcp** コマンドによって自動設定されたデフォルトドメイン名は使用されない。

#### [設定例]

デフォルトドメイン名を **example.com** に設定する。

```
SWX3200(config)#dns-client domain-name example.com
```

### 7.11.4 検索ドメインリストの設定

#### [書式]

**dns-client domain-list** *name*

**no dns-client domain-list** *name*

#### [パラメーター]

*name* : ドメイン名 (最大 256 文字)

#### [初期設定]

なし

#### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

#### [説明]

DNS 問い合わせ時に使用する検索ドメインリストにドメイン名を追加する。

検索ドメインリストは最大 6 件までドメインを登録できる。

no 形式で実行した場合は、指定したドメイン名を検索ドメインリストから削除する。

#### [ノート]

本コマンドで検索ドメインリストが設定されている場合、**dns-client domain-name** コマンドで設定したデフォルトドメイン名、および、**ip address dhcp** コマンドによって自動設定されたデフォルトドメイン名は使用されない。

#### [設定例]

ドメイン名 **example1.com**, **example2.com** を検索ドメインリストに追加する。

```
SWX3200(config)#dns-client domain-list example1.com
```

```
SWX3200(config)#dns-client domain-list example2.com
```

### 7.11.5 DNS クライアント情報の表示

#### [書式]

**show dns-client**

#### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

#### [説明]

DNS クライアント情報を表示する。

表示内容は以下のとおり。

項目	説明
DNS Client is enabled	DNS クライアントが有効
DNS Client is disabled	DNS クライアントが無効
Default domain	デフォルトドメイン名
Domain list	検索ドメインリスト
Name Servers	DNS サーバーリスト(IP アドレス)



**[設定例]**

DNS クライアント情報を表示する。

```
SWX3200>show dns-client
```

```
DNS client is enabled
Default domain   : example.com
Domain list      : example1.com example2.com
Name Servers     : 192.168.100.1 2001:db8::1234 fe80::2a0:deff:fe11:2233%vlan1

* - Values assigned by DHCP Client.
```

**7.12 OSPF****7.12.1 OSPFv2 モードへの移行****[書式]**

```
router ospf [process_id]
```

```
no router ospf [process_id]
```

**[パラメーター]**

```
process_id      : <0-65535>
                  OSPF プロセス ID
```

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

OSPFv2 モードへと移行し、OSPFv2 関連の設定を行う。

複数の OSPF プロセスを使用する場合は、*process\_id* を指定する。ただし、複数の OSPF プロセスのはサポート対象外となる。

**[ノート]**

no 形式で実行すると、指定した OSPF プロセスの設定がすべて削除される。

OSPFv2 モードからグローバルコンフィグレーションモードに移行するには、**exit** コマンドを使用する。

**[設定例]**

```
SWX3200(config)# router ospf
SWX3200(config-router)#
SWX3200(config-router)# exit
SWX3200(config)#
```

**7.12.2 OSPFv3 モードへの移行****[書式]**

```
router ipv6 ospf [name]
```

```
no router ipv6 ospf [name]
```

**[パラメーター]**

```
name           : OSPFv3 プロセス ID
```

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

OSPFv3 モードへと移行し、OSPF 関連の設定を行う。

複数の OSPF プロセスを使用する場合は、*name* を指定する。ただし、複数の OSPF プロセスの使用はサポート対象外となる。

#### [ノート]

no 形式で実行すると、指定した OSPFv3 プロセスの設定がすべて削除される。

OSPFv3 モードからグローバルコンフィグレーションモードに移行するには、**no router ospf** もしくは **exit** コマンドを使用する。

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

#### [設定例]

```
SWX3200(config)# router ipv6 ospf
SWX3200(config-router)#
SWX3200(config-router)# exit
SWX3200(config)#
```

### 7.12.3 OSPF エリア内での認証の設定

#### [書式]

```
area area_id authentication [message-digest]
no area area_id authentication
```

#### [キーワード]

message-digest : MD5 ダイジェストによる認証が行われる

#### [パラメーター]

*area\_id* : エリア ID

設定値	説明
A.B.C.D	IPv4 アドレス形式の OSPF エリア ID
<0-4294967295>	4 オクテット整数形式の OSPF エリア ID

#### [初期設定]

なし

#### [入力モード]

OSPFv2 モード

#### [説明]

OSPF エリア内での認証を有効にする。

message-digest を指定しない場合は、簡易パスワードによる認証が行われる。このとき、認証鍵は **ip ospf authentication-key** コマンドでインターフェース毎に設定する。

message-digest を指定する場合は、MD5 ダイジェストによる認証が行われる。このとき、認証鍵は **ip ospf message-digest-key** コマンドでインターフェース毎に設定する。

本コマンドは、すべてのインターフェースに対して適用される。インターフェース毎に認証の有無を切り替える場合は、**ip ospf authentication** コマンドを使用する。

#### [設定例]

OSPF バックボーンエリアで簡易パスワードによる認証を有効にする。

VLAN #1 インターフェースの認証鍵を "yamaha" とする。

```
SWX3200(config-router)# area 0.0.0.0 authentication
SWX3200(config-router)# exit
SWX3200(config)# interface vlan1
SWX3200(config-if)# ip ospf authentication-key yamaha
```

OSPF エリア 1 で MD5 ダイジェストによる認証を有効にする。

VLAN #10 インターフェースの認証鍵を "yamaha" とする。

```
SWX3200(config-router)# area 1 authentication message-digest
SWX3200(config-router)# exit
```

```
SWX3200(config)# interface vlan10
SWX3200(config-if)# ip ospf message-digest-key 1 md5 yamaha
```

## 7.12.4 デフォルト経路のメトリック値の設定(OSPFv2)

### [書式]

```
area area_id default-cost metric
no area area_id default-cost
```

### [パラメーター]

*area\_id* : エリア ID

設定値	説明
A.B.C.D	IPv4 アドレス形式の OSPF エリア ID
<0-4294967295>	4 オクテット整数形式の OSPF エリア ID

*metric* : <0-16777215>

スタブエリアまたは NSSA に通知するデフォルト経路のメトリック値

### [初期設定]

```
area area_id default-cost 1
```

### [入力モード]

OSPFv2 モード

### [説明]

スタブエリアまたは NSSA に通知するデフォルト経路のメトリック値を設定する。  
スタブエリアまたは NSSA の ABR であるときのみ有効となる。

### [設定例]

エリア 1 をスタブエリアとし、デフォルト経路のメトリック値を 10 とする。

```
SWX3200(config-router)# area 1 stub no-summary
SWX3200(config-router)# area 1 default-cost 10
```

## 7.12.5 エリア間で広告する経路情報のフィルタリングの設定

### [書式]

```
area area_id filter-list access access_list_id direction
no area area_id filter-list access access_list_id direction
```

### [パラメーター]

*area\_id* : エリア ID

設定値	説明
A.B.C.D	IPv4 アドレス形式の OSPF エリア ID
<0-4294967295>	4 オクテット整数形式の OSPF エリア ID

*access\_list\_id* : access-list コマンドで指定したアクセスリスト番号

*direction* : フィルターを適用する経路広告の向き

設定値	説明
in	本コマンドで指定したエリアに対して他のエリアから広告される経路情報をフィルタリングする
out	本コマンドで指定したエリアから他のエリアに広告される経路情報をフィルタリングする

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

OSPFv2 モード

**[説明]**

エリア間で広告する経路情報のフィルタリングを設定する。

ABR であるときのみ有効となる。

**[設定例]**

アクセスリストを使い、203.0.113.0/24 以外のすべての経路情報をエリア 1 に広告しないようにする。

```
SWX3200(config)# access-list 1 deny 203.0.113.0 0.0.0.255
SWX3200(config)# access-list 1 permit any
SWX3200(config)# router ospf
SWX3200(config-router)# area 1 filter-list access 1 in
```

**7.12.6 エリアを NSSA として設定(OSPFv2)****[書式]**

**area** *area\_id* **nssa** [*option* [*option* ...]]

**no area** *area\_id* **nssa** [*option* [*option* ...]]

**[パラメーター]**

*area\_id* : エリア ID

設定値	説明
A.B.C.D	IPv4 アドレス形式の OSPF エリア ID
<0-4294967295>	4 オクテット整数形式の OSPF エリア ID

*option* : オプション (当該 NSSA の ABR であるときのみ有効)

設定値	説明
default-information-originate [metric <0-16777214>] [metric-type <1-2>]	デフォルト経路の LSA(タイプ 7)を当該 NSSA に通知する。 metric オプションでデフォルト経路の LSA(タイプ 7)のメトリック値を設定する。省略時は 1 となる。 metric-type オプションでメトリックタイプを設定する。省略時は 2 となる。
no-redistribution	当該 NSSA に外部経路を再配布しない。
no-summary	他のエリアの経路情報を当該 NSSA に通知しない。
stability-interval <0-2147483647>	当該 NSSA への LSA(タイプ 7)の通知を継続する時間(秒)を設定する。NSSA の Translator を他の機器に移行する場合に使用し、本設定により外部経路を LSA(タイプ 7)で当該 NSSA に通知することで余分な LSDB の更新を最小限に抑え、より安定した Translator の移行を行うことができる。
translator-role <i>role</i>	当該 NSSA の ABR としての動作を指定する。 <i>role</i> として always を指定した場合、常に LSA(タイプ 7)を LSA(タイプ 5)に変換する。 <i>role</i> として candidate を指定した場合、当該 NSSA の Translator のときのみ LSA(タイプ 7)を LSA(タイプ 5)に変換する。 <i>role</i> として never を指定した場合、LSA (タイプ 7)を変換しない。 省略時は candidate となる。

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

OSPFv2 モード

**[説明]**

指定したエリアを NSSA として設定する。

オプションを指定した no 形式により、特定のオプションを無効にすることができる。

**[設定例]**

エリア 1 を NSSA として設定する。

```
SWX3200(config-router)# area 1 nssa
```

**7.12.7 指定したネットワークアドレスの範囲にある経路情報を集約して他のエリアに通知(OSPFv2)**

**[書式]**

**area** *area\_id* **range** *range* [*type*]

**no area** *area\_id* **range** *range* [*type*]

**[パラメーター]**

*area\_id* : エリア ID

設定値	説明
A.B.C.D	IPv4 アドレス形式の OSPF エリア ID
<0-4294967295>	4 オクテット整数形式の OSPF エリア ID

*range* : 集約先となるネットワークアドレス

設定値	説明
A.B.C.D/M	IPv4 アドレス形式のネットワーク範囲
A.B.C.D W.X.Y.Z	IP アドレスとサブネットマスク形式のネットワーク範囲

*type* : 経路情報の通知

設定値	説明
advertise	集約した経路情報を他のエリアに通知する。
not-advertise	指定したネットワークアドレスの範囲にある経路情報は他のエリアに通知しない。

#### [初期設定]

なし

#### [入力モード]

OSPFv2 モード

#### [説明]

当該エリア内の経路情報の中で、指定したネットワークアドレスの範囲にある経路情報を集約して他のエリアに通知する。

ABR であるときのみ有効となる。

*type* 省略時は advertise が設定されているとみなす。

#### [設定例]

エリア 1 の 203.0.113.0/24 の範囲にある経路情報を 203.0.113.0/24 に集約して他のエリアに通知する。

```
SWX3200(config-router)# area 1 range 203.0.113.0/24
```

## 7.12.8 エリアをスタブエリアとして設定(OSPFv2)

#### [書式]

**area** *area\_id* **stub** [**no-summary**]

**no area** *area\_id* **stub** [**no-summary**]

#### [キーワード]

no-summary : 他のエリアへの経路情報を当該スタブエリアに通知しない(完全スタブエリアとして設定する)。

#### [パラメーター]

*area\_id* : エリア ID

設定値	説明
A.B.C.D	IPv4 アドレス形式の OSPF エリア ID
<0-4294967295>	4 オクテット整数形式の OSPF エリア ID

#### [初期設定]

なし

**[入力モード]**

OSPFv2 モード

**[説明]**

指定したエリアをスタブエリアとして設定する。

オプションを指定した **no** 形式により、特定のオプションを無効にすることができる。

**[設定例]**

エリア 1 をスタブエリアとして設定する。

```
SWX3200(config-router)# area 1 stub
```

エリア 1 を完全スタブエリアとして設定する。

```
SWX3200(config-router)# area 1 stub no-summary
```

**7.12.9 エリア上で仮想リンクを設定(OSPFv2)****[書式]**

```
area area_id virtual-link router_id [option [option ...]]
```

```
no area area_id virtual-link router_id [option [option ...]]
```

**[パラメーター]**

*area\_id* : エリア ID

設定値	説明
A.B.C.D	IPv4 アドレス形式の OSPF エリア ID
<0-4294967295>	4 オクテット整数形式の OSPF エリア ID

*router\_id* : 仮想リンクの対向となる ABR のルーター ID (A.B.C.D)

*option* : オプション

設定値	説明
authentication [ <i>type</i> ]	仮想リンクでの認証を有効にする。 <i>type</i> を指定しない場合、authentication-key オプションで設定された簡易パスワードによる認証を行う。 <i>type</i> で message-digest を指定した場合、message-digest-key オプションで設定された MD5 ダイジェスト認証用鍵で認証を行う。 <i>type</i> で null を指定した場合、仮想リンクでの認証は行われない。
authentication-key <i>string</i>	簡易パスワードを 8 文字以内で指定する。本パラメータはコマンドライン末尾にて指定する。
message-digest-key <1-255> md5 <i>string</i>	MD5 ダイジェスト認証用鍵を 16 文字以内で指定する。本パラメータはコマンドライン末尾にて指定する。
dead-interval <1-65535>	仮想リンク対向となる ABR から Hello パケットを受信できなくなってからダウンと判断するまでの待ち時間を指定する。省略時は 40 となる。
hello-interval <1-65535>	仮想リンク対向となる ABR への Hello パケット送信間隔を指定する。省略時は 10 となる。
retransmit-interval <1-3600>	OSPF パケットの再送間隔を指定する。省略時は 5 となる。
transmit-delay <1-3600>	OSPF パケットの送信遅延時間を指定する。省略時は 1 となる。

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

OSPFv2 モード

**[説明]**

指定したエリア上で仮想リンクを設定する。

オプションを指定した no 形式により、特定のオプションを無効にすることができる。

仮想リンクの対向となる ABR でも本コマンドによる仮想リンクの設定が必要であり、オプションも同様とする必要がある。

**[設定例]**

エリア 1 上で、ABR (203.0.113.1)との間に仮想リンクを設定する。

```
SWX3200(config-router)# area 1 virtual-link 203.0.113.1
```

**7.12.10 インターフェースの帯域幅の設定(OSPFv2)****[書式]**

**auto-cost reference-bandwidth** *bandwidth*

**no auto-cost reference-bandwidth** *bandwidth*

**[パラメータ]**

*bandwidth* : <1-4294967>

帯域幅(Mbps)



**[初期設定]**

```
auto-cost reference-bandwidth 100
```

**[入力モード]**

```
OSPFv2 モード
```

**[説明]**

インターフェースのデフォルトメトリック値を算出するために使用する帯域幅を指定する。

**[設定例]**

インターフェースの帯域幅を 100Mbps としてデフォルトメトリック値を算出する。

```
SWX3200(config-router)# auto-cost reference-bandwidth 100
```

**7.12.11 Opaque-LSA の設定****[書式]**

```
capability opaque mode
```

```
no capability opaque
```

**[パラメーター]**

*mode* : Opaque-LSA

設定値	説明
enable	Opaque-LSA を有効にする。
disable	Opaque-LSA を無効にする。

**[初期設定]**

```
capability opaque enable
```

**[入力モード]**

```
OSPFv2 モード
```

**[説明]**

Opaque-LSA を有効にする。

**7.12.12 集約した経路のメトリック算出方法の設定****[書式]**

```
compatible rfc1583
```

```
no compatible rfc1583
```

**[初期設定]**

```
no compatible rfc1583
```

**[入力モード]**

```
OSPFv2 モード
```

**[説明]**

ABR として集約した経路のメトリック算出方法を設定する。

ABR であるときのみ有効となる。

本コマンドが設定されていない場合、RFC2328 に準拠したメトリック算出が行われる。

**7.12.13 LSDB 要約リストの最適化の設定(OSPFv2)****[書式]**

```
db-summary-opt mode
```

```
no db-summary-opt
```

## [パラメーター]

*mode* : モード

設定値	説明
enable	LSDB 要約リストの最適化を有効にする。
disable	LSDB 要約リストの最適化を無効にする。

## [初期設定]

*mode* : disable

## [入力モード]

OSPFv2 モード

## [説明]

LSDB 要約リストの最適化を有効にする。

本機能を有効にすると、ネイバーから受信した DD (Database Description) パケットに含まれる LSA に比べて、LSDB 要約リスト内の LSA が同じもしくは新しい場合には、LSDB の要約リストからその LSA を削除することでデータベース情報交換の最適化を行う。

## 7.12.14 デフォルト外部経路の設定(OSPFv2)

## [書式]

**default-information originate** [*option* [*option* ...]]**no default-information originate** [*option* [*option* ...]]

## [パラメーター]

*option* : オプション

設定値	説明
always	デフォルト経路情報を保持していなくてもデフォルト外部経路情報を通知する。省略した場合は、デフォルト経路情報を保持しているときのみデフォルト外部経路情報を通知する。
metric <0-16777214>	デフォルト外部経路情報を OSPF ルーティングドメインに通知するときのメトリック値を設定する。省略時は 10 となる。
metric-type <1-2>	デフォルト外部経路情報のメトリックタイプを設定する。省略時は 2 となる。

## [初期設定]

なし

## [入力モード]

OSPFv2 モード

## [説明]

OSPF ルーティングドメインに対してデフォルト外部経路を通知するかどうかを設定する。

ASBR であるときのみ有効となる。

オプションを指定した no 形式により、特定のオプションを無効にすることができる。

## [設定例]

メトリック値を 10 かつメトリックタイプを 1 として OSPF ルーティングドメインへ常にデフォルト外部経路を通知する。

```
SWX3200(config-router)# default-information originate always metric 10 metric-type 1
```

### 7.12.15 OSPF ルーティングドメインに通知するときのメトリック値の設定(OSPFv2)

#### [書式]

```
default-metric metric
no default-metric
```

#### [パラメーター]

*metric* : <1-16777214>  
デフォルトメトリック値

#### [初期設定]

なし

#### [入力モード]

OSPFv2 モード

#### [説明]

外部経路情報を OSPF ルーティングドメインに通知するとき使用されるメトリック値を設定する。

**redistribute** コマンドと併せて使用する。

### 7.12.16 OSPF から FIB に取り込まれる経路の優先度の設定(OSPFv2)

#### [書式]

```
distance priority
distance ospf [option [option]]
no distance
no distance ospf
```

#### [パラメーター]

*priority* : <1-255>  
OSPF から FIB に取り込まれる経路の優先度

*option* : オプション

設定値	説明
intra-area <1-255>	エリア内の経路情報の優先度
inter-area <1-255>	エリア間の経路情報の優先度
external <1-255>	外部経路情報の優先度

#### [初期設定]

*priority* : 110

#### [入力モード]

OSPFv2 モード

#### [説明]

OSPF から FIB に取り込まれる経路の優先度を設定する。

*priority* を指定した場合は、すべての経路情報の優先度として扱われる。

#### [設定例]

OSPF から FIB に取り込まれる経路の優先度を 200 とする。

```
SWX3200(config-router)# distance 200
```

OSPF から FIB に取り込まれる経路の優先度を、エリア内の経路情報の優先度を 100、エリア間の経路情報の優先度を 120、外部経路情報の優先度を 140 とする。

```
SWX3200(config-router)# distance ospf intra-area 100 inter-area 120 external 140
```

## 7.12.17 RIB と OSPF ルーティングテーブル間の経路情報のフィルタリングの設定(OSPFv2)

### [書式]

```

distribute-list access_list_id out kind
distribute-list access_list_id in
no distribute-list access_list_id out [kind]
no distribute-list access_list_id in

```

### [パラメーター]

*access\_list\_id* : access-list コマンドで指定したアクセスリスト番号

*kind* : 経路の種別

設定値	説明
connected	直結経路を対象とする。
ospf [ <i>process_id</i> ]	OSPF で持つ経路情報を対象とする。
rip	RIP で持つ経路情報を対象とする。
static	静的経路情報を対象とする。

*process\_id* : <0-65535> OSPF プロセス ID (*kind* として *ospf* が指定された場合のみ使用可能)

### [初期設定]

なし

### [入力モード]

OSPFv2 モード

### [説明]

RIB (Routing Information Base) と OSPF ルーティングテーブル間の経路情報のフィルタリングを設定する。ASBR であるときのみ有効となる。

### [設定例]

静的に設定された経路の中で、203.0.113.0/24 の経路を RIB から OSPF ルーティングテーブルに取り込まない。

```

SWX3200(config)# access-list 1 deny 203.0.113.0/24
SWX3200(config)# access-list 1 permit any
SWX3200(config)# router ospf
SWX3200(config-router)# distribute-list 1 out static

```

OSPF で取得した 203.0.113.0/24 の経路は、RIB に取り込まない。

```

SWX3200(config)# access-list 1 deny 203.0.113.0/24
SWX3200(config)# access-list 1 permit any
SWX3200(config)# router ospf
SWX3200(config-router)# distribute-list 1 in

```

## 7.12.18 スタブホスト経路の設定

### [書式]

```

host host area area_id [cost cost]
no host host area area_id [cost cost]

```

### [パラメーター]

*host* : A.B.C.D  
ホストの IP アドレス

*area\_id* : エリア ID

設定値	説明
A.B.C.D	IPv4 アドレス形式の OSPF エリア ID
<0-4294967295>	4 オクテット整数形式の OSPF エリア ID

*cost* : <0-65535>  
コスト値

#### [初期設定]

なし

#### [入力モード]

OSPFv2 モード

#### [説明]

指定したエリアに対して、指定した IP アドレスをスタブホスト経路として通知する。

#### [設定例]

203.0.113.1 をスタブホスト経路としてエリア 1 に通知する。

```
SWX3200(config-router)# host 203.0.113.1 area 1
```

### 7.12.19 同時に処理可能な DD 交換処理数を設定(OSPFv2)

#### [書式]

```
max-concurrent-dd dd_num
no max-concurrent-dd [dd_num]
```

#### [パラメーター]

*dd\_num* : <1-65535>  
同時に処理可能な DD 交換処理数

#### [初期設定]

max-concurrent-dd 5

#### [入力モード]

OSPFv2 モード

#### [説明]

同時に処理可能な DD 交換処理数を設定する。

最大で、指定した数だけ同時に Exchange 状態にあるネイバーと DD の交換を行うことができる。

### 7.12.20 OSPF を動作させるインターフェースとエリアを紐付け

#### [書式]

```
network network area area_id
```

#### [パラメーター]

*network* : ネットワークの範囲。指定した範囲の IP アドレスが設定されたインターフェースで OSPF が動作する。入力形式は以下。

設定値	説明
A.B.C.D/M	サブネットマスク長を指定した IPv4 アドレス
A.B.C.D E.F.G.H	ワイルドカードビット(E.F.G.H)付きの IPv4 アドレス(A.B.C.D)

*area\_id* : エリア ID

設定値	説明
A.B.C.D	IPv4 アドレス形式の OSPF エリア ID
<0-4294967295>	4 オクテット整数形式の OSPF エリア ID

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

OSPFv2 モード

**[説明]**

OSPF を動作させるインターフェースとエリアの紐付けを行う。 *network* で指定したネットワーク範囲に含まれる IP アドレスが設定されたインターフェースで OSPF が動作し、 *area\_id* で指定したエリアに所属することになる。

**[設定例]**

VLAN #1 インターフェースに接続されている 203.0.113.0/24 のネットワークをバックボーンエリアに所属させ、 VLAN #2 インターフェースに接続されている 172.16.0.0/16 のネットワークをエリア 1 に所属させる。

```
SWX3200(config)# interface vlan1
SWX3200(config-if)# ip address 203.0.113.1/24
SWX3200(config-if)# exit
SWX3200(config)# interface vlan2
SWX3200(config-if)# ip address 172.16.0.1/16
SWX3200(config-if)# exit
SWX3200(config)# router ospf
SWX3200(config-router)# network 203.0.113.0/24 area 0
SWX3200(config-router)# network 172.16.0.0/16 area 1
```

**7.12.21 OSPF ルーター ID の設定****[書式]**

```
ospf router-id router_id
router-id router_id
no ospf router-id
no router-id [router_id]
```

**[パラメーター]**

*router\_id* : ルーター ID (IPv4 形式の IP アドレス)

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

OSPFv2 モード

**[説明]**

OSPF ルーター ID を設定する。

OSPF ルーター ID の指定方法はいくつか用意されているが、以下の優先順位で決定する。

1. OSPFv2 モードで入力した **ospf router-id** コマンドもしくは **router-id** コマンドの設定値
2. グローバルコンフィギュレーションモードで入力した **router-id** コマンドの設定値
3. VLAN インターフェースに設定されている中で一番大きな IP アドレス

**[ノート]**

ルーター ID を変更した場合、本体の再起動または OSPF プロセスの再起動後から変更後のルーター ID が有効となる。

**7.12.22 OSPF プロセスで扱うリンクステート広告数の上限の設定****[書式]**

```
overflow database lsa_num [action]
```

**no overflow database**

[パラメーター]

- lsa\_num* : <0-4294967294>  
リンクステート広告の上限数
- action* : リンクステート広告数が設定を超えたときの動作。省略時は **hard** となる。

設定値	説明
hard	OSPF プロセスをチャットダウンする
soft	警告メッセージを出力する

[初期設定]

*lsa\_num* : なし (上限なし)

[入力モード]

OSPFv2 モード

[説明]

OSPF プロセスで扱うことができるリンクステート広告数の上限を設定する。  
上限を設定した場合、リンクステート広告の数が上限に達した場合は *action* で指定した動作が実行される。

### 7.12.23 受信可能な AS external LSA の上限の設定

---

[書式]

**overflow database external *lsa\_num* time**  
**no\_overflow database external**

[パラメーター]

- lsa\_num* : <0-2147483647>  
AS external LSA の上限数
- time* : <0-65535>  
オーバーフロー状態から復旧するまでの時間(秒)

[初期設定]

なし

[入力モード]

OSPFv2 モード

[説明]

OSPF プロセスで一度に受信することが可能な AS external LSA の上限を設定する。  
*time* を 0 とした場合、自動復旧しない。

### 7.12.24 OSPF パッシブインターフェースの設定(OSPFv2)

---

[書式]

**passive-interface [*interface* [**disable**]]**  
**no passive-interface [*interface* [**disable**]]**

[パラメーター]

- interface* : インターフェース名

[初期設定]

なし

[入力モード]

OSPFv2 モード

**[説明]**

OSPF パッシブインターフェースを設定する。

*interface* が指定されない場合、すべてのインターフェースで OSPF Hello メッセージが送信されなくなる。

*interface* が指定された場合、そのインターフェースで OSPF Hello メッセージが送信されなくなる。ただし、パッシブインターフェースに接続しているネットワークの情報は OSPF プロセスの処理対象となる。

**[設定例]**

172.16.1.0/24(VLAN #1), 172.16.2.0/24(VLAN #2), 172.16.3.0/24(VLAN #3)の3つのネットワークに接続された OSPF ルーターで、それらのネットワークをバックボーンエリアに所属させるが、VLAN #3 インターフェース上の 172.16.3.0/24 のネットワークでは OSPF を動作させずに経路情報だけ取り込む。

```
SWX3200(config-router)# network 172.16.0.0/16 area 0
SWX3200(config-router)# passive-interface vlan3
```

**7.12.25 指定した外部経路情報を OSPF エリアに AS external LSA として広告(OSPFv2)****[書式]**

**redistribute kind** [*option* [*option* ...]]

**no redistribute kind** [*option* [*option* ...]]

**[パラメーター]**

*kind* : 経路の種類

設定値	説明
connected	直結経路を対象とする。
ospf [ <i>process_id</i> ]	OSPF で持つ経路情報を対象とする。
rip	RIP で持つ経路情報を対象とする。
static	静的経路情報を対象とする。

*option* : オプション

設定値	説明
metric <0-16777214>	外部経路情報を OSPF エリアに再広告するときのメトリック値を設定する。省略した場合は <b>default-metric</b> コマンドの設定値がメトリック値として使用される。
metric-type <1-2>	外部経路情報のメトリックタイプを設定する。省略した場合は、2 となる。
tag <0-4294967295>	ルートタグ番号を設定する。

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

OSPFv2 モード

**[説明]**

指定した外部経路情報を OSPF エリアに AS external LSA として広告する。

ASBR であるときのみ有効となる。

**[設定例]**

静的に設定された経路情報をメトリック値 10 として OSPF エリアに広告する。

```
SWX3200(config-router)# redistribute static metric 10
```



## 7.12.26 OSPF エリアに広告するときの集約先ネットワークアドレスの設定(OSPFv2)

### [書式]

```
summary-address network [not-advertise] [tag tag]
no summary-address network [not-advertise] [tag tag]
```

### [キーワード]

not-advertise : 集約先ネットワークアドレスに含まれる宛先を持つ外部経路情報は、OSPF エリアに広告されなくなる。

### [パラメーター]

network : ネットワークの範囲。指定した範囲の IP アドレスが設定されたインターフェースで OSPF が動作する。入力形式は以下。

設定値	説明
A.B.C.D/M	サブネットマスク長を指定した IPv4 アドレス
A.B.C.D E.F.G.H	ワイルドカードビット(E.F.G.H)付きの IPv4 アドレス(A.B.C.D)

tag : <0-4294967295>  
経路タグ番号

### [初期設定]

なし

### [入力モード]

OSPFv2 モード

### [説明]

外部経路情報を集約して OSPF エリアに広告するときの集約先ネットワークアドレスを設定する。設定したネットワークアドレスに含まれる宛先を持つ外部経路情報が集約の対象となる。ASBR であるときのみ有効となる。

### [設定例]

外部経路情報として 172.16.1.0/24 と 172.16.2.0/24 が RIB に登録されているとき、172.16.0.0/16 に集約して OSPF エリアに広告する。

```
SWX3200(config-router)# summary-address 172.16.0.0/16
```

外部経路情報として保持しているものの中で、172.16.0.0/16 に含まれる経路情報は広告しない。

```
SWX3200(config-router)# summary-address 172.16.0.0/16 not-advertise
```

## 7.12.27 LSA を受信するまでの最小待ち時間の設定

### [書式]

```
timers lsa arrival time
no timers lsa arrival
```

### [パラメーター]

time : <0-600000>  
最小待ち時間(ミリ秒)

### [初期設定]

timers lsa arrival 1000

### [入力モード]

OSPFv2 モード

**[説明]**

隣接ルーターが送信する LSA の中で、前回受信した LSA と同じものを受信するまでの最小待ち時間を設定する。指定した時間以内に前回受信した LSA と同じものを受信した場合、その LSA は破棄される。

**7.12.28 最短経路計算に関わる変更時の遅延時間の設定**

---

**[書式]**

```
timers spf exp min max
no timers spf exp
```

**[パラメーター]**

*min* : <0-2147483647>  
遅延時間の最小値(ミリ秒)

*max* : <0-2147483647>  
遅延時間の最大値(ミリ秒)

**[初期設定]**

```
timers spf exp 500 50000
```

**[入力モード]**

```
OSPFv2 モード
```

**[説明]**

最短経路計算(SPF の計算)に関わる変更が通知されたときの遅延時間を設定する。

**7.12.29 リンクステート広告の送信待ち時間の設定**

---

**[書式]**

```
timers throttle lsa all start hold max
no timers throttle lsa all
```

**[パラメーター]**

*start* : <0-600000>  
トポロジ変化時の LSA 送信待ち時間(ミリ秒)

*hold* : <0-600000>  
トポロジ連続変化時の LSA 送信待ち時間(ミリ秒)

*max* : <0-600000>  
トポロジが変化しない場合の LSA 送信待ち時間(ミリ秒)

**[初期設定]**

```
timers throttle lsa all 0 0 0
```

**[入力モード]**

```
OSPFv2 モード
```

**[説明]**

リンクステート広告の送信待ち時間を設定する。

*start* では、トポロジに変化があった場合にそれを反映させたリンクステート広告を送信するまでの待ち時間を設定する。

*hold* では、連続してトポロジに変化があった場合に最初のリンクステート広告を送信するまでの待ち時間を設定する。

*max* では、トポロジに変化がなく、前回と同じリンクステート広告を送信するまでの待ち時間を設定する。

**7.12.30 デフォルト経路のメトリック値の設定(OSPFv3)**

---

**[書式]**

```
area area_id default-cost metric
```

**no area area\_id default-cost**

[パラメーター]

*area\_id* : エリア ID

設定値	説明
A.B.C.D	IPv4 アドレス形式の OSPF エリア ID
<0-4294967295>	4 オクテット整数形式の OSPF エリア ID

*metric* : <0-16777215>

スタブエリアまたは NSSA に通知するデフォルト経路のメトリック値

[初期設定]

area area\_id default-cost 1

[入力モード]

OSPFv3 モード

[説明]

スタブエリアまたは NSSA に通知するデフォルト経路のメトリック値を設定する。

スタブエリアまたは NSSA の ABR であるときのみ有効となる。

[設定例]

エリア 1 をスタブエリアとし、デフォルト経路のメトリック値を 10 とする。

```
SWX3200(config-router)# area 1 stub no-summary
SWX3200(config-router)# area 1 default-cost 10
```

### 7.12.31 エリアを NSSA として設定(OSPFv3)

[書式]

**area area\_id nssa** [option [option ...]]

**no area area\_id nssa** [option [option ...]]

[パラメーター]

*area\_id* : エリア ID

設定値	説明
A.B.C.D	IPv4 アドレス形式の OSPF エリア ID
<0-4294967295>	4 オクテット整数形式の OSPF エリア ID

*option* : オプション (当該 NSSA の ABR であるときのみ有効)

設定値	説明
default-information-originate [metric <0-16777214>] [metric-type <1-2>]	デフォルト経路の LSA(タイプ 7)を当該 NSSA に通知する。 metric オプションでデフォルト経路の LSA(タイプ 7)のメトリック値を設定する。省略時は 1 となる。 metric-type オプションでメトリックタイプを設定する。省略時は 2 となる。
no-redistribution	当該 NSSA に外部経路を再配布しない。
no-summary	他のエリアの経路情報を当該 NSSA に通知しない。
stability-interval <0-2147483647>	当該 NSSA への LSA(タイプ 7)の通知を継続する時間(秒)を設定する。NSSA の Translator を他の機器に移行する場合に使用し、本設定により外部経路を LSA(タイプ 7)で当該 NSSA に通知することで余分な LSDB の更新を最小限に抑え、より安定した Translator の移行を行うことができる。
translator-role <i>role</i>	当該 NSSA の ABR としての動作を指定する。 <i>role</i> として always を指定した場合、常に LSA(タイプ 7)を LSA(タイプ 5)に変換する。 <i>role</i> として candidate を指定した場合、当該 NSSA の Translator のときのみ LSA(タイプ 7)を LSA(タイプ 5)に変換する。 <i>role</i> として never を指定した場合、LSA (タイプ 7)を変換しない。 省略時は candidate となる。

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

OSPFv3 モード

**[説明]**

指定したエリアを NSSA として設定する。

オプションを指定した no 形式により、特定のオプションを無効にすることができる。

**[設定例]**

エリア 1 を NSSA として設定する。

```
SWX3200(config-router)# area 1 nssa
```

**7.12.32 指定したネットワークアドレスの範囲にある経路情報を集約して他のエリアに通知(OSPFv3)****[書式]****area** *area\_id* **range** *range* [*type*]**no area** *area\_id* **range** *range* [*type*]**[パラメーター]***area\_id* : エリア ID

設定値	説明
A.B.C.D	IPv4 アドレス形式の OSPF エリア ID
<0-4294967295>	4 オクテット整数形式の OSPF エリア ID

*range* : 集約先となるネットワークアドレス

設定値	説明
X:X::X:X/M	集約先となる IPv6 ネットワークアドレスを設定する。OSPFv3 モードで指定可能。

*type* : 経路情報の通知

設定値	説明
advertise	集約した経路情報を他のエリアに通知する。
not-advertise	指定したネットワークアドレスの範囲にある経路情報は他のエリアに通知しない。

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

OSPFv3 モード

**[説明]**

当該エリア内の経路情報の中で、指定したネットワークアドレスの範囲にある経路情報を集約して他のエリアに通知する。

ABR であるときのみ有効となる。

advertise を指定した場合、集約した経路情報を他のエリアに通知する。

not-advertise を指定した場合、指定したネットワークアドレスの範囲にある経路情報は他のエリアに通知しない。

省略時は advertise が設定されているとみなす。

**7.12.33 エリアをスタブエリアとして設定(OSPFv3)**

**[書式]**

**area area\_id stub [no-summary]**

**no area area\_id stub [no-summary]**

**[キーワード]**

no-summary : 他のエリアへの経路情報を当該スタブエリアに通知しない(完全スタブエリアとして設定する)。

**[パラメーター]**

*area\_id* : エリア ID

設定値	説明
A.B.C.D	IPv4 アドレス形式の OSPF エリア ID
<0-4294967295>	4 オクテット整数形式の OSPF エリア ID

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

OSPFv3 モード

**[説明]**

指定したエリアをスタブエリアとして設定する。

オプションを指定した no 形式により、特定のオプションを無効にすることができる。

### 7.12.34 エリア上で仮想リンクを設定(OSPFv3)

#### [書式]

```
area area_id virtual-link router_id [option [option ...]]
no area area_id virtual-link router_id [option [option ...]]
```

#### [パラメーター]

*area\_id* : エリア ID

設定値	説明
A.B.C.D	IPv4 アドレス形式の OSPF エリア ID
<0-4294967295>	4 オクテット整数形式の OSPF エリア ID

*router\_id* : 仮想リンクの対向となる ABR のルーター ID (A.B.C.D)

*option* : オプション

設定値	説明
dead-interval <1-65535>	仮想リンク対向となる ABR から Hello パケットを受信できなくなってからダウンと判断するまでの待ち時間を指定する。省略時は 40 となる。
hello-interval <1-65535>	仮想リンク対向となる ABR への Hello パケット送信間隔を指定する。省略時は 10 となる。
retransmit-interval <1-3600>	OSPF パケットの再送間隔を指定する。省略時は 5 となる。
transmit-delay <1-3600>	OSPF パケットの送信遅延時間を指定する。省略時は 1 となる。

#### [初期設定]

なし

#### [入力モード]

OSPFv3 モード

#### [説明]

指定したエリア上で仮想リンクを設定する。

オプションを指定した no 形式により、特定のオプションを無効にすることができる。

仮想リンクの対向となる ABR でも本コマンドによる仮想リンクの設定が必要であり、オプションも同様とする必要がある。

### 7.12.35 インターフェースの帯域幅の設定(OSPFv3)

#### [書式]

```
auto-cost reference-bandwidth bandwidth
no auto-cost reference-bandwidth bandwidth
```

#### [パラメーター]

*bandwidth* : <1-4294967>  
帯域幅(Mbps)

#### [初期設定]

auto-cost reference-bandwidth 100

[入力モード]

OSPFv3 モード

[説明]

インターフェースのデフォルトメトリック値を算出するために使用する帯域幅を指定する。

[設定例]

インターフェースの帯域幅を 100Mbps としてデフォルトメトリック値を算出する。

```
SWX3200(config-router)# auto-cost reference-bandwidth 100
```

### 7.12.36 LSDB 要約リストの最適化の設定(OSPFv3)

[書式]

**db-summary-opt mode**

**no db-summary-opt**

[パラメーター]

*mode* : モード

設定値	説明
enable	LSDB 要約リストの最適化を有効にする。
disable	LSDB 要約リストの最適化を無効にする。

[初期設定]

db-summary-opt disable

[入力モード]

OSPFv3 モード

[説明]

LSDB 要約リストの最適化を有効にする。

本機能を有効にすると、ネイバーから受信した DD (Database Description)パケットに含まれる LSA に比べて、LSDB 要約リスト内の LSA が同じもしくは新しい場合には、LSDB の要約リストからその LSA を削除することでデータベース情報交換の最適化を行う。

### 7.12.37 デフォルト外部経路の設定(OSPFv3)

[書式]

**default-information originate** [*option* [*option* ...]]

**no default-information originate** [*option* [*option* ...]]

[パラメーター]

*option* : オプション

設定値	説明
always	デフォルト経路情報を保持していなくてもデフォルト外部経路情報を通知する。省略した場合は、デフォルト経路情報を保持しているときのみデフォルト外部経路情報を通知する。
metric <0-16777214>	デフォルト外部経路情報を OSPF ルーティングドメインに通知するときのメトリック値を設定する。省略時は 10 となる。
metric-type <1-2>	デフォルト外部経路情報のメトリックタイプを設定する。省略時は 2 となる。

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

OSPFv3 モード

**[説明]**

OSPF ルーティングドメインに対してデフォルト外部経路を通知するかどうかを設定する。

ASBR であるときのみ有効となる。

オプションを指定した no 形式により、特定のオプションを無効にすることができる。

**[設定例]**

メトリック値を 10 かつメトリックタイプを 1 として OSPF ルーティングドメインへ常にデフォルト外部経路を通知する。

```
SWX3200(config-router)# default-information originate always metric 10 metric-type 1
```

**7.12.38 OSPF ルーティングドメインに通知するときのメトリック値の設定(OSPFv3)****[書式]**

```
default-metric metric
```

```
no default-metric
```

**[パラメーター]**

```
metric          : <1-16777214>
                  デフォルトメトリック値
```

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

OSPFv3 モード

**[説明]**

外部経路情報を OSPF ルーティングドメインに通知するとき使用されるメトリック値を設定する。

**redistribute** コマンドと併せて使用する。

**7.12.39 OSPF から FIB に取り込まれる経路の優先度の設定(OSPFv3)****[書式]**

```
distance priority
```

```
distance ospfv3 [option [option]]
```

```
no distance
```

```
no distance ospfv3
```

**[パラメーター]**

```
priority        : <1-254>
                  OSPF から FIB に取り込まれる経路の優先度
```

```
option          : オプション
```

設定値	説明
intra-area <1-254>	エリア内の経路情報の優先度
inter-area <1-254>	エリア間の経路情報の優先度
external <1-254>	外部経路情報の優先度

**[初期設定]**

priority 110



[入力モード]

OSPFv3 モード

[説明]

OSPF から FIB に取り込まれる経路の優先度を設定する。

*priority* を指定した場合は、すべての経路情報の優先度として扱われる。

### 7.12.40 RIB と OSPF ルーティングテーブル間の経路情報のフィルタリングの設定(OSPFv3)

[書式]

```

distribute-list access_list_id out kind
distribute-list access_list_id in
no distribute-list access_list_id out [kind]
no distribute-list access_list_id in
    
```

[パラメーター]

*access\_list\_id* : access-list コマンドで指定したアクセスリスト番号

*kind* : 経路の種別

設定値	説明
connected	直結経路を対象とする。
ospf [ <i>process_id</i> ]	OSPF で持つ経路情報を対象とする。
rip	RIP で持つ経路情報を対象とする。
static	静的経路情報を対象とする。

*process\_id* : <0-65535> OSPF プロセス ID (kind として ospf が指定された場合のみ使用可能)

[初期設定]

なし

[入力モード]

OSPFv3 モード

[説明]

RIB (Routing Information Base) と OSPF ルーティングテーブル間の経路情報のフィルタリングを設定する。

ASBR であるときのみ有効となる。

### 7.12.41 スタブホスト経路の設定

[書式]

```

host host area area_id
no host host area area_id
    
```

[パラメーター]

*host* : X:X::X:X  
ホストの IPv6 アドレス

*area\_id* : エリア ID

設定値	説明
A.B.C.D	IPv4 アドレス形式の OSPF エリア ID
<0-4294967295>	4 オクテット整数形式の OSPF エリア ID

[初期設定]

なし

**[入力モード]**

OSPFv3 モード

**[説明]**

指定したエリアに対して、指定した IP アドレスをスタブホスト経路として通知する。

**[設定例]**

1000::1 をスタブホスト経路としてエリア 1 に通知する。

```
SWX3200(config-router)# host 1000::1 area 1
```

**7.12.42 同時に処理可能な DD 交換処理数を設定(OSPFv3)**

---

**[書式]**

```
max-concurrent-dd dd_num
no max-concurrent-dd [dd_num]
```

**[パラメーター]**

*dd\_num* : <1-65535>  
同時に処理可能な DD 交換処理数

**[初期設定]**

max-concurrent-dd 5

**[入力モード]**

OSPFv3 モード

**[説明]**

同時に処理可能な DD 交換処理数を設定する。

最大で、指定した数だけ同時に Exchange 状態にあるネイバーと DD の交換を行うことができる。

**7.12.43 OSPF パッシブインターフェースの設定(OSPFv3)**

---

**[書式]**

```
passive-interface [interface [disable]]
no passive-interface [interface [disable]]
```

**[パラメーター]**

*interface* : インターフェース名

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

OSPFv3 モード

**[説明]**

OSPF パッシブインターフェースを設定する。

*interface* が指定されない場合、すべてのインターフェースで OSPF Hello メッセージが送信されなくなる。

*interface* が指定された場合、そのインターフェースで OSPF Hello メッセージが送信されなくなる。ただし、パッシブインターフェースに接続しているネットワークの情報は OSPF プロセスの処理対象となる。

**7.12.44 指定した外部経路情報を OSPF エリアに AS external LSA として広告(OSPFv3)**

---

**[書式]**

```
redistribute kind [option [option ...]]
no redistribute kind [option [option ...]]
```

**[パラメーター]**

*kind* : 経路の種別

設定値	説明
connected	直結経路を対象とする。
ospf [ <i>process_id</i> ]	OSPF で持つ経路情報を対象とする。
rip	RIP で持つ経路情報を対象とする。
static	静的経路情報を対象とする。

*option* : オプション

設定値	説明
metric <0-16777214>	外部経路情報を OSPF エリアに再広告するときのメトリック値を設定する。省略した場合は <b>default-metric</b> コマンドの設定値がメトリック値として使用される。
metric-type ><1-2>	外部経路情報のメトリックタイプを設定する。省略した場合は、2 となる。
tag <0-4294967295>	ルートタグ番号を設定する。

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

OSPFv3 モード

**[説明]**

指定した外部経路情報を OSPF エリアに AS external LSA として広告する。  
ASBR であるときのみ有効となる。

**[設定例]**

静的に設定された経路情報をメトリック値 10 として OSPF エリアに広告する。

```
SWX3200(config-router)# redistribute static metric 10
```

**7.12.45 OSPF ルーター ID の設定(OSPFv3)**

**[書式]**

**router-id** *router\_id*  
**no router-id** [*router\_id*]

**[パラメーター]**

*router-id* : ルーター ID (IPv4 形式の IP アドレス)

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

OSPFv3 モード

**[説明]**

OSPF ルーター ID を設定する。

OSPF ルーター ID の指定方法はいくつか用意されているが、以下の優先順位で決定する。

1. OSPFv3 モードで入力した **ospf router-id** コマンドもしくは **router-id** コマンドの設定値
2. グローバルコンフィギュレーションモードで入力した **router-id** コマンドの設定値
3. VLAN インターフェースに設定されている中で一番大きな IP アドレス

## [ノート]

ルーター ID を変更した場合、本体の再起動または OSPF プロセスの再起動後から変更後のルーター ID が有効となる。

### 7.12.46 OSPF エリアに広告するときの集約先ネットワークアドレスの設定(OSPFv3)

## [書式]

**summary-address** *network* [**not-advertise**] [**tag** *tag*]

**no summary-address** *network* [**not-advertise**] [**tag** *tag*]

## [キーワード]

**not-advertise** : 集約先ネットワークアドレスに含まれる宛先を持つ外部経路情報は、OSPF エリアに広告されなくなる。

## [パラメーター]

*network* : ネットワークの範囲。指定した範囲の IP アドレスが設定されたインターフェースで OSPF が動作する。入力形式は以下。

設定値	説明
X:X::X:X/M	IPv6 アドレス形式のネットワーク範囲

*tag* : <0-4294967295>  
経路タグ番号

## [初期設定]

なし

## [入力モード]

OSPFv3 モード

## [説明]

外部経路情報を集約して OSPF エリアに広告するときの集約先ネットワークアドレスを設定する。設定したネットワークアドレスに含まれる宛先を持つ外部経路情報が集約の対象となる。ASBR であるときのみ有効となる。

### 7.12.47 エリア内での認証をインターフェース毎に設定

## [書式]

**ip ospf** [*ip\_address*] **authentication** [*type*]

**no ip ospf** [*ip\_address*] **authentication**

## [パラメーター]

*ip\_address* : インターフェースの IP アドレス(IPv4 形式)

*type* : 認証タイプ

設定値	説明
null	エリア認証を使用しない。
message-digest	ダイジェスト認証を使用する。

## [初期設定]

なし

## [入力モード]

インターフェースモード

## [説明]

エリア内での認証をインターフェース毎に有効にする。

*type* を指定しない場合は、簡易パスワードによる認証が行われる。このとき、認証鍵は **ip ospf authentication-key** コマンドで設定する。

*type* で **message-digest** を指定した場合は、MD5 ダイジェストによる認証が行われる。このとき、認証鍵は **ip ospf message-digest-key** コマンドで設定する。

本コマンドは、**area authentication** コマンドよりも優先される。

本コマンドが設定されていない場合は、**area authentication** コマンドの設定値に応じてエリア内での認証の有無が決まる。

## 7.12.48 エリアの認証で使われる認証鍵の設定

### [書式]

**ip ospf** [*ip\_address*] **authentication-key** *key*

**no ip ospf** [*ip\_address*] **authentication-key**

### [パラメーター]

*ip\_address* : インターフェースの IP アドレス(IPv4 形式)

*key* : 認証鍵となる文字列(半角 8 文字以内)

### [初期設定]

なし

### [入力モード]

インターフェースモード

### [説明]

簡易パスワードによるエリアの認証で使われる認証鍵を設定する。

本コマンドによって設定された認証鍵は、**ip ospf authentication** コマンドもしくは **area authentication** コマンドで簡易パスワードによる認証が有効になっている場合に使用される。

### [設定例]

VLAN #1 インターフェースでエリアの認証を有効にし、認証鍵を *yamaha* とする。

```
SWX3200(config)# interface vlan1
SWX3200(config-if)# ip ospf authentication
SWX3200(config-if)# ip ospf authentication-key yamaha
```

## 7.12.49 インターフェースでのコストを固定に設定

### [書式]

**ip ospf** [*ip\_address*] **cost** *cost*

**no ip ospf** [*ip\_address*] **cost**

### [パラメーター]

*ip\_address* : インターフェースの IP アドレス(IPv4 形式)

*cost* : <1-65535>  
コスト値

### [初期設定]

なし

### [入力モード]

インターフェースモード

### [説明]

指定したインターフェースでのコストを固定に設定する。

### 7.12.50 インターフェイスでの LSA フラッディングを抑制

---

**[書式]**

```
ip ospf [ip_address] database-filter all out  
no ip ospf [ip_address] database-filter all out
```

**[パラメーター]**

*ip\_address* : インターフェイスの IP アドレス(IPv4 形式)

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

インターフェイスモード

**[説明]**

指定したインターフェイスでの LSA フラッディングを抑制する。

### 7.12.51 隣接ルーターがダウンしたと判断するまでの時間の設定

---

**[書式]**

```
ip ospf [ip_address] dead-interval interval  
no ip ospf [ip_address] dead-interval
```

**[パラメーター]**

*ip\_address* : インターフェイスの IP アドレス(IPv4 形式)

*interval* : <1-65535>  
インターバル時間(秒)

**[初期設定]**

ip ospf dead-interval 40

**[入力モード]**

インターフェイスモード

**[説明]**

Hello パケットを受信しなくなってから隣接ルーターがダウンしたと判断するまでの時間を設定する。

### 7.12.52 OSPF を停止

---

**[書式]**

```
ip ospf disable all  
no ip ospf disable all
```

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

インターフェイスモード

**[説明]**

指定したインターフェイスで OSPF を停止します。

### 7.12.53 Hello パケットの送信間隔の設定

---

**[書式]**

```
ip ospf [ip_address] hello-interval interval  
no ip ospf [ip_address] hello-interval
```

## [パラメーター]

*ip\_address* : インターフェースの IP アドレス

*interval* : <1-65535>  
インターバル時間(秒)

## [初期設定]

ip ospf hello-interval 10

## [入力モード]

インターフェースモード

## [説明]

Hello パケットの送信間隔を設定する。

## 7.12.54 OSPF 認証で使用する MD5 ダイジェスト認証用鍵の設定

---

## [書式]

**ip ospf** [*ip\_address*] **message-digest-key** *id* **md5** *key*  
**no ip ospf** [*ip\_address*] **message-digest-key** *id*

## [パラメーター]

*ip\_address* : インターフェースの IP アドレス(IPv4 形式)

*id* : <1-255>  
鍵の識別番号

*key* : 鍵となる文字列(半角 16 文字以内)

## [初期設定]

なし

## [入力モード]

インターフェースモード

## [説明]

指定したインターフェースの OSPF 認証で使用する MD5 ダイジェスト認証用鍵を設定する。

## [ノート]

本コマンドの設定値は、**area authentication** コマンドまたは **ip ospf authentication** コマンドで MD5 ダイジェスト認証が有効になっている場合のみ使用される。

## 7.12.55 指名ルーター(DR)を選出するための優先度の設定

---

## [書式]

**ip ospf priority** *priority*  
**no ip ospf priority**

## [パラメーター]

*priority* : <0-255>  
優先度

## [初期設定]

priority : 1

## [入力モード]

インターフェースモード

## [説明]

指名ルーター(DR)を選出するための優先度を設定する。

OSPF ネットワーク内で優先度が一番高い機器が指名ルーターに選出される。

同じ優先度を持つ機器が複数存在する場合には、ルーター id によって指名ルーターが選出される。

優先度として 0 を指定した場合、指名ルーターには選出されない。

### 7.12.56 パケットの再送間隔時間の設定

---

#### [書式]

**ip ospf** [*ip\_address*] **retransmit-interval** *interval*

**no ip ospf** [*ip\_address*] **retransmit-interval**

#### [パラメーター]

*ip\_address* : インターフェースの IP アドレス(IPv4 形式)

*interval* : <1-1800>  
インターバル値(秒)

#### [初期設定]

ip ospf retransmit-interval 5

#### [入力モード]

インターフェースモード

#### [説明]

Link State Request, Link State Update, Database Description の各パケットの再送間隔時間を設定する。

### 7.12.57 Link State Update パケットの age フィールドの送信時に増加させる値の設定

---

#### [書式]

**ip ospf** [*ip\_address*] **transmit-delay** *delay*

**no ip ospf** [*ip\_address*] **transmit-delay**

#### [パラメーター]

*ip\_address* : インターフェースの IP アドレス(IPv4 形式)

*delay* : <1-3600>  
送信遅延時間(秒)

#### [初期設定]

ip ospf transmit-delay 1

#### [入力モード]

インターフェースモード

#### [説明]

Link State Update パケットの age フィールドの値を本コマンドの設定値分だけ増加させて送信する。

### 7.12.58 インターフェースでのコストを固定に設定(IPv6)

---

#### [書式]

**ipv6 ospf cost** *cost* [*instance-id id*]

**no ipv6 ospf cost** [*instance-id id*]

#### [パラメーター]

*cost* : <1-65535>  
コスト値

*id* : <0-31><64-95>  
インスタンス ID



**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

指定したインターフェースでのコストを固定に設定する。

**[ノート]**

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

**7.12.59 隣接ルーターがダウンしたと判断するまでの時間の設定(IPv6)**

---

**[書式]****ipv6 ospf dead-interval *interval* [instance-id *id*]****no ipv6 ospf dead-interval [instance-id *id*]****[パラメーター]**

*interval* : <1-65535>  
 インターバル時間(秒)

*id* : <0-31><64-95>  
 インスタンス ID

**[初期設定]**

ipv6 ospf dead-interval 40

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

Hello パケットを受信しなくなってから隣接ルーターがダウンしたと判断するまでの時間を設定する。

**[ノート]**

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

**7.12.60 Hello パケットの送信間隔の設定(IPv6)**

---

**[書式]****ipv6 ospf hello-interval *interval* [instance-id *id*]****no ipv6 ospf hello-interval [instance-id *id*]****[パラメーター]**

*interval* : <1-65535>  
 インターバル時間(秒)

*id* : <0-31><64-95>  
 インスタンス ID

**[初期設定]**

ipv6 ospf hello-interval 10

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

Hello パケットの送信間隔を設定する。

**[ノート]**

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

### 7.12.61 指名ルーター(DR)を選出するための優先度の設定(IPv6)

---

#### [書式]

```
ipv6 ospf priority priority [instance-id id]
no ipv6 ospf priority [instance-id id]
```

#### [パラメーター]

```
priority          : <0-255>
                   優先度

id               : <0-31><64-95>
                   インスタンス ID
```

#### [初期設定]

```
ipv6 ospf priority 1
```

#### [入力モード]

```
インターフェイスモード
```

#### [説明]

指名ルーター(DR)を選出するための優先度を設定する。

OSPF ネットワーク内で優先度が一番高い機器が指名ルーターに選出される。

同じ優先度を持つ機器が複数存在する場合には、ルーター *id* によって指名ルーターが選出される。

優先度として 0 を指定した場合、指名ルーターには選出されない。

#### [ノート]

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

### 7.12.62 パケットの再送間隔時間の設定(IPv6)

---

#### [書式]

```
ipv6 ospf retransmit-interval interval [instance-id id]
no ipv6 ospf retransmit-interval [instance-id id]
```

#### [パラメーター]

```
interval         : <1-1800>
                   インターバル値(秒)

id               : <0-31><64-95>
                   インスタンス ID
```

#### [初期設定]

```
ipv6 ospf retransmit-interval 5
```

#### [入力モード]

```
インターフェイスモード
```

#### [説明]

Link State Request, Link State Update, Database Description の各パケットの再送間隔時間を設定する。

#### [ノート]

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

### 7.12.63 インターフェイスでのエリア指定(IPv6)

---

#### [書式]

```
ipv6 router ospf area area_id [instance-id id] [tag tag]
no ipv6 router ospf area area_id [instance-id id] [tag tag]
```

## [パラメーター]

*area\_id* : エリア ID

設定値	説明
A.B.C.D	IPv4 アドレス形式の OSPF エリア ID
<0-4294967295>	4 オクテット整数形式の OSPF エリア ID

*id* : <0-31><64-95>  
インスタンス ID

*tag* : <0-4294967295>  
OSPFv3 プロセスタグ

## [初期設定]

なし

## [入力モード]

インターフェースモード

## [説明]

指定したインターフェースでの OSPFv3 所属エリアを指定する。

## [ノート]

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

## 7.12.64 Link State Update パケットの age フィールドの送信時に増加させる値の設定(IPv6)

## [書式]

```
ipv6 ospf transmit-delay delay [instance-id id]  
no ipv6 ospf transmit-delay [instance-id id]
```

## [パラメーター]

*delay* : <1-1800>  
送信遅延時間(秒)

*id* : <0-31><64-95>  
インスタンス ID

## [初期設定]

ipv6 ospf transmit-delay 1

## [入力モード]

インターフェースモード

## [説明]

Link State Update パケットの age フィールドの値を本コマンドの設定値分だけ増加させて送信する。

## [ノート]

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

## 7.12.65 OSPF プロセスの再起動(IPv4)

## [書式]

```
clear ip ospf [process_id] process
```

## [パラメーター]

*process\_id* : <0-65535>  
OSPF プロセス ID

**[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

OSPF プロセスを再起動し、OSPF の処理を最初からやりなおす。

*process\_id* パラメーターを指定しない場合、すべての OSPF プロセスが対象となる。**7.12.66 OSPF プロセスの情報の表示(IPv4)**

---

**[書式]****show ip ospf [*process\_id*]****[パラメーター]***process\_id* : <0-65535>  
OSPF プロセス ID**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

OSPF プロセスの情報を表示する。

*process\_id* パラメーターを省略した場合は動作中のすべての OSPF プロセスの情報が表示される。**7.12.67 ABR および ASBR の経路情報の表示(IPv4)**

---

**[書式]****show ip ospf [*process\_id*] border-routers****[パラメーター]***process\_id* : <0-65535>  
OSPF プロセス ID**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

エリア境界ルーター(ABR)および AS 境界ルーター(ASBR)の経路情報を表示する。

*process\_id* パラメーターを省略した場合、動作中のすべての OSPF プロセスが対象となる。**7.12.68 リンクステートデータベースの中で指定した条件に合致する LSA の情報の表示(IPv4)**

---

**[書式]****show ip ospf [*process\_id*] database [*condition*]****[パラメーター]***process\_id* : <0-65535>  
OSPF プロセス ID  
*condition* : 表示する情報

設定値	説明
adv-router A.B.C.D	広告元が指定した IP アドレスの LSA のみを表示する。
max-age	リンク状態の age が最大値(3600 秒)となっている LSA のみを表示する。
self-originate	広告元が自分自身のルーター ID となっている LSA のみを表示する。

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

リンクステートデータベースの中で指定した条件に合致する LSA の情報を表示する。  
条件を指定しない場合、すべての LSA の情報が表示される。

**7.12.69 リンクステートデータベースの ASBR サマリー LSA の情報の表示****[書式]**

```
show ip ospf [process_id] database asbr-summary [condition]
```

**[パラメーター]**

*process\_id* : <0-65535>  
OSPF プロセス ID

*condition* : 表示する情報

設定値	説明
A.B.C.D	ASBR の中でリンクステート ID が指定した ID と一致する LSA だけを表示する。
adv-router A.B.C.D	広告元が指定した IP アドレスの LSA のみを表示する。
self-originate	広告元が自分自身のルーター ID となっている LSA のみを表示する。

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

リンクステートデータベースの ASBR サマリー LSA (タイプ 4)の情報を表示する。

**7.12.70 リンクステートデータベースの AS external LSA の情報の表示(IPv4)****[書式]**

```
show ip ospf [process_id] database external [condition]
```

**[パラメーター]**

*process\_id* : <0-65535>  
OSPF プロセス ID

*condition* : 表示する情報

設定値	説明
A.B.C.D	ASBR の中でリンクステート ID が指定した ID と一致する LSA だけを表示する。
adv-router A.B.C.D	広告元が指定した IP アドレスの LSA のみを表示する。
self-originate	広告元が自分自身のルーター ID となっている LSA のみを表示する。

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

リンクステートデータベースの AS external LSA (タイプ 5)の情報を表示する。

### 7.12.71 リンクステートデータベースのネットワーク LSA の情報の表示(IPv4)

#### [書式]

```
show ip ospf [process_id] database network [condition]
```

#### [パラメーター]

*process\_id* : <0-65535>  
OSPF プロセス ID

*condition* : 表示する情報

設定値	説明
A.B.C.D	ASBR の中でリンクステート ID が指定した ID と一致する LSA だけを表示する。
adv-router A.B.C.D	広告元が指定した IP アドレスの LSA のみを表示する。
self-originate	広告元が自分自身のルーター ID となっている LSA のみを表示する。

#### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

#### [説明]

リンクステートデータベースのネットワーク LSA (タイプ 2)の情報を表示する。

### 7.12.72 リンクステートデータベースの NSSA AS external LSA の情報の表示

#### [書式]

```
show ip ospf [process_id] database nssa-external [condition]
```

#### [パラメーター]

*process\_id* : <0-65535>  
OSPF プロセス ID

*condition* : 表示する情報

設定値	説明
A.B.C.D	ASBR の中でリンクステート ID が指定した ID と一致する LSA だけを表示する。
adv-router A.B.C.D	広告元が指定した IP アドレスの LSA のみを表示する。
self-originate	広告元が自分自身のルーター ID となっている LSA のみを表示する。

#### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

#### [説明]

リンクステートデータベースの NSSA AS external LSA (タイプ 7)の情報を表示する。

### 7.12.73 リンクステートデータベースのルーター LSA の情報の表示(IPv4)

#### [書式]

```
show ip ospf [process_id] database router [condition]
```

#### [パラメーター]

*process\_id* : <0-65535>  
OSPF プロセス ID

*condition* : 表示する情報

設定値	説明
A.B.C.D	ASBR の中でリンクステート ID が指定した ID と一致する LSA だけを表示する。
adv-router A.B.C.D	広告元が指定した IP アドレスの LSA のみを表示する。
self-originate	広告元が自分自身のルーター ID となっている LSA のみを表示する。

[入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

[説明]

リンクステートデータベースのルーター LSA (タイプ 1)の情報を表示する。

### 7.12.74 リンクステートデータベースのネットワークサマリー LSA の情報の表示

[書式]

**show ip ospf [process\_id] database summary [condition]**

[パラメーター]

*process\_id* : <0-65535>  
OSPF プロセス ID

*condition* : 表示する情報

設定値	説明
A.B.C.D	ASBR の中でリンクステート ID が指定した ID と一致する LSA だけを表示する。
adv-router A.B.C.D	広告元が指定した IP アドレスの LSA のみを表示する。
self-originate	広告元が自分自身のルーター ID となっている LSA のみを表示する。

[入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

[説明]

リンクステートデータベースのネットワークサマリー LSA (タイプ 3)の情報を表示する。

### 7.12.75 OSPF インターフェースの情報の表示(IPv4)

[書式]

**show ip ospf interface [interface]**

[パラメーター]

*interface* : VLAN インターフェース

[入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

[説明]

OSPF インターフェースの情報を表示する。

### 7.12.76 OSPF ネイバーの情報の表示(IPv4)

#### [書式]

```
show ip ospf [process_id] neighbor [condition]
```

#### [パラメーター]

*process\_id* : <0-65535>  
OSPF プロセス ID

*condition* : 表示する情報

設定値	説明
A.B.C.D [detail]	指定したネイバーの情報を表示する。detailを指定した場合は詳細な情報が表示される。
interface A.B.C.D	指定した IP アドレスを持つ OSPF インターフェースに隣接するネイバーの情報を表示する。
[detail] all	すべてのネイバーの情報を表示する。detailを指定した場合は詳細な情報が表示される。

#### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

#### [説明]

OSPF ネイバーの情報を表示する。

### 7.12.77 OSPF 経路表の表示(IPv4)

#### [書式]

```
show ip ospf [process_id] route [condition]
```

#### [パラメーター]

*process\_id* : <0-65535>  
OSPF プロセス ID

*condition* : 表示する情報

設定値	説明
A.B.C.D	特定の経路情報を表示する。
A.B.C.D/M	指定したネットワーク内の経路情報を表示する。
summary	経路情報のサマリーを表示する。

#### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

#### [説明]

OSPF 経路表を表示する。

### 7.12.78 OSPF の仮想リンクの情報の表示(IPv4)

#### [書式]

```
show ip ospf [process_id] virtual-links
```

#### [パラメーター]

*process\_id* : <0-65535>  
OSPF プロセス ID



**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

OSPF の仮想リンクの情報を表示する。

**7.12.79 OSPF の設定・状態の表示(IPv4)**

---

**[書式]**

```
show ip protocols ospf
```

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

OSPF の設定・状態を表示する。

**7.12.80 OSPF プロセスの再起動(IPv6)**

---

**[書式]**

```
clear ipv6 ospf [process_id] process
```

**[パラメーター]**

```
process_id      : <0-65535>  
                  OSPF プロセス ID
```

**[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

OSPF プロセスを再起動し、OSPF の処理を最初からやりなおす。

*process\_id* パラメーターを指定しない場合、すべての OSPF プロセスが対象となる。

**[ノート]**

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

**7.12.81 OSPF プロセスの情報の表示(IPv6)**

---

**[書式]**

```
show ipv6 ospf [process_id]
```

**[パラメーター]**

```
process_id      : <0-65535>  
                  OSPF プロセス ID
```

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

OSPF プロセスの情報を表示する。

*process\_id* パラメーターを省略した場合は動作中のすべての OSPF プロセスの情報が表示される。

**[ノート]**

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

**7.12.82 ABR および ASBR の経路情報の表示(IPv6)**

---

**[書式]**

```
show ipv6 ospf [process_id] border-routers
```

**[パラメーター]**

```
process_id      : <0-65535>
```

## OSPF プロセス ID

## [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

## [説明]

エリア境界ルーター(ABR)および AS 境界ルーター(ASBR)の経路情報を表示する。

**process\_id** パラメーターを省略した場合、動作中のすべての OSPF プロセスが対象となる。

## [ノート]

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

### 7.12.83 リンクステートデータベースの中で指定した条件に合致する LSA の情報の表示(IPv6)

## [書式]

```
show ipv6 ospf [process_id] database [condition]
```

## [パラメーター]

*process\_id* : <0-65535>  
OSPF プロセス ID

*condition* : 表示する情報

設定値	説明
adv-router A.B.C.D	広告元が指定した IP アドレスの LSA のみを表示する。
max-age	リンク状態の age が最大値(3600 秒)となっている LSA のみを表示する。
self-originate	広告元が自分自身のルーター ID となっている LSA のみを表示する。

## [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

## [説明]

リンクステートデータベースの中で指定した条件に合致する LSA の情報を表示する。

条件を指定しない場合、すべての LSA の情報が表示される。

## [ノート]

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

### 7.12.84 リンクステートデータベースの AS external LSA の情報の表示(IPv6)

## [書式]

```
show ipv6 ospf [process_id] database external [condition]
```

## [パラメーター]

*process\_id* : <0-65535>  
OSPF プロセス ID

*condition* : 表示する情報

設定値	説明
A.B.C.D	ASBR の中でリンクステート ID が指定した ID と一致する LSA だけを表示する。
adv-router A.B.C.D	広告元が指定した IP アドレスの LSA のみを表示する。
self-originate	広告元が自分自身のルーター ID となっている LSA のみを表示する。

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

リンクステートデータベースの AS external LSA (タイプ 5)の情報を表示する。

**[ノート]**

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

### 7.12.85 リンクステートデータベースの Inter-Area-Prefix LSA の情報の表示(IPv6)

**[書式]**

```
show ipv6 ospf [process_id] database inter-prefix [condition]
```

**[パラメーター]**

*process\_id* : <0-65535>  
OSPF プロセス ID

*condition* : 表示する情報

設定値	説明
A.B.C.D	ASBR の中でリンクステート ID が指定した ID と一致する LSA だけを表示する。
adv-router A.B.C.D	広告元が指定した IP アドレスの LSA のみを表示する。
self-originate	広告元が自分自身のルーター ID となっている LSA のみを表示する。

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

リンクステートデータベースの Inter-Area-Prefix LSA (タイプ 3)の情報を表示する。

**[ノート]**

スタック機能が有効な場合、本コマンドは実行できない。

### 7.12.86 リンクステートデータベースの Inter-Area-Router LSA の情報の表示(IPv6)

**[書式]**

```
show ipv6 ospf [process_id] database inter-router [condition]
```

**[パラメーター]**

*process\_id* : <0-65535>  
OSPF プロセス ID

*condition* : 表示する情報

設定値	説明
A.B.C.D	ASBR の中でリンクステート ID が指定した ID と一致する LSA だけを表示する。
adv-router A.B.C.D	広告元が指定した IP アドレスの LSA のみを表示する。
self-originate	広告元が自分自身のルーター ID となっている LSA のみを表示する。

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

リンクステートデータベースの Inter-Area-Router LSA (タイプ 4)の情報を表示する。

**[ノート]**

スタック機能が有効な場合、本コマンドは実行できない。

### 7.12.87 リンクステートデータベースの Intra-Area-Prefix LSA の情報の表示(IPv6)

**[書式]**

```
show ipv6 ospf [process_id] database intra-prefix [condition]
```

**[パラメーター]**

*process\_id* : <0-65535>  
OSPF プロセス ID

*condition* : 表示する情報

設定値	説明
A.B.C.D	ASBR の中でリンクステート ID が指定した ID と一致する LSA だけを表示する。
adv-router A.B.C.D	広告元が指定した IP アドレスの LSA のみを表示する。
self-originate	広告元が自分自身のルーター ID となっている LSA のみを表示する。

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

リンクステートデータベースの Intra-Area-Prefix LSA (タイプ 9)の情報を表示する。

**[ノート]**

スタック機能が有効な場合、本コマンドは実行できない。

### 7.12.88 リンクステートデータベースの Link LSA の情報の表示(IPv6)

**[書式]**

```
show ipv6 ospf [process_id] database link [condition]
```

**[パラメーター]**

*process\_id* : <0-65535>  
OSPF プロセス ID

*condition* : 表示する情報

設定値	説明
A.B.C.D	ASBR の中でリンクステート ID が指定した ID と一致する LSA だけを表示する。
adv-router A.B.C.D	広告元が指定した IP アドレスの LSA のみを表示する。
self-originate	広告元が自分自身のルーター ID となっている LSA のみを表示する。

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

リンクステートデータベースの Link LSA (タイプ 8)の情報を表示する。

**[ノート]**

スタック機能が有効な場合、本コマンドは実行できない。

### 7.12.89 リンクステートデータベースのネットワーク LSA の情報の表示(IPv6)

**[書式]**

```
show ipv6 ospf [process_id] database network [condition]
```

**[パラメーター]**

*process\_id* : <0-65535>  
OSPF プロセス ID

*condition* : 表示する情報

設定値	説明
A.B.C.D	ASBR の中でリンクステート ID が指定した ID と一致する LSA だけを表示する。
adv-router A.B.C.D	広告元が指定した IP アドレスの LSA のみを表示する。
self-originate	広告元が自分自身のルーター ID となっている LSA のみを表示する。

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

リンクステートデータベースのネットワーク LSA (タイプ 2)の情報を表示する。

**[ノート]**

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

### 7.12.90 リンクステートデータベースのルーター LSA の情報の表示(IPv6)

**[書式]**

```
show ipv6 ospf [process_id] database router [condition]
```

**[パラメーター]**

*process\_id* : <0-65535>  
OSPF プロセス ID

*condition* : 表示する情報

設定値	説明
A.B.C.D	ASBR の中でリンクステート ID が指定した ID と一致する LSA だけを表示する。
adv-router A.B.C.D	広告元が指定した IP アドレスの LSA のみを表示する。
self-originate	広告元が自分自身のルーター ID となっている LSA のみを表示する。

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

リンクステートデータベースのルーター LSA (タイプ 1)の情報を表示する。

**[ノート]**

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

### 7.12.91 OSPF インターフェースの情報の表示(IPv6)

---

**[書式]**

**show ipv6 ospf interface** [*interface*]

**[パラメーター]**

*interface* : VLAN インターフェース

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

OSPF インターフェースの情報を表示する。

**[ノート]**

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

### 7.12.92 OSPF ネイバーの情報の表示(IPv6)

---

**[書式]**

**show ipv6 ospf** [*process\_id*] **neighbor** [*condition*]

**[パラメーター]**

*process\_id* : <0-65535>

OSPF プロセス ID

*condition* : 表示する情報

設定値	説明
A.B.C.D [detail]	指定したネイバーの情報を表示する。detail を指定した場合は詳細な情報が表示される。
interface A.B.C.D	指定した IP アドレスを持つ OSPF インターフェースに隣接するネイバーの情報を表示する。
[detail] all	すべてのネイバーの情報を表示する。detail を指定した場合は詳細な情報が表示される。

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

OSPF ネイバーの情報を表示する。

**[ノート]**

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

---

**7.12.93 OSPF 経路表の表示(IPv6)**

---

**[書式]**

```
show ipv6 ospf [process_id] route
```

**[パラメーター]**

```
process_id      : <0-65535>  
                  OSPF プロセス ID
```

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

OSPF 経路表を表示する。

**[ノート]**

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

---

**7.12.94 OSPF の仮想リンクの情報の表示(IPv6)**

---

**[書式]**

```
show ipv6 ospf [process_id] virtual-links
```

**[パラメーター]**

```
process_id      : <0-65535>  
                  OSPF プロセス ID
```

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

OSPF の仮想リンクの情報を表示する。

**[ノート]**

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

---

**7.12.95 OSPF の設定・状態の表示(IPv6)**

---

**[書式]**

```
show ipv6 protocols ospf
```

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

OSPF の設定・状態を表示する。

**[ノート]**

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

---

**7.13 RIP**

---

---

**7.13.1 RIP モードへの遷移**

---

**[書式]**

```
router rip  
no router rip
```

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

RIP モードへと遷移し、RIPv1,RIPv2 関連の設定を行う。

**[ノート]**

no 形式で実行すると、RIP モードの設定がすべて削除される。

RIP モードからグローバルコンフィグレーションモードに遷移するためには、**exit** コマンドを使用する。

**7.13.2 RIPng モードへの遷移**

---

**[書式]**

```
router ipv6 rip
no router ipv6 rip
```

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

RIPng モードへと遷移し、RIPng 関連の設定を行う。

**[ノート]**

no 形式で実行すると、RIPng モードの設定がすべて削除される。

RIPng モードからグローバルコンフィグレーションモードに遷移するためには、**exit** コマンドを使用する。

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

**7.13.3 デフォルト外部経路の設定**

---

**[書式]**

```
default-information originate [always]
no default-information originate [always]
```

**[キーワード]**

always : デフォルト経路を保持していなくてもデフォルト経路を RIP 経路表に登録

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

RIP モード、RIPng モード

**[説明]**

デフォルト経路(0.0.0.0/0)を RIP 経路表に登録する。

always が指定されていない場合、デフォルト経路を保持しているときだけそのデフォルト経路を RIP 経路表に登録する。

always が指定されている場合、デフォルト経路を保持していなくてもデフォルト経路を RIP 経路表に登録する。

always は RIP モードでのみ指定可能。

**7.13.4 外部経路を RIP で再広告するときのデフォルトメトリック値の設定**

---

**[書式]**

```
default-metric metric
no default-metric [metric]
```

**[パラメーター]**

metric : メトリック値 (RIP モードの場合 : 1 .. 15、RIPng モードの場合 : 1 .. 16)

**[初期設定]**

default-metric 1



**[入力モード]**

RIP モード、RIPng モード

**[説明]**

外部経路を RIP で再広告するときのデフォルトメトリック値を設定する。

**redistribute** コマンドによってメトリック値が指定されている場合は、**redistribute** コマンドの設定値が優先される。**7.13.5 RIP から RIB に取り込まれる経路の優先度を設定****[書式]****distance** *priority***no distance** [*priority*]**[パラメーター]***priority* : <1-255>

RIP から RIB に取り込まれる経路の優先度

**[初期設定]**

distance 120

**[入力モード]**

RIP モード、RIPng モード

**[説明]**

RIP から RIB に取り込まれる経路の優先度（Administrative Distance 値）を設定する。

**7.13.6 RIB と RIP 経路表のフィルタリングの設定****[書式]****distribute-list** *access\_list\_id* *type* [*vlan\_interface*]**no distribute-list** *access\_list\_id* *type* [*vlan\_interface*]**[パラメーター]***access\_list\_id* : アクセスリスト番号*type* : 方向

設定値	説明
in	in 方向
out	out 方向

*vlan\_interface* : VLAN インターフェース**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

RIP モード、RIPng モード

**[説明]**

RIB と RIP 経路表の間で経路情報をフィルタリングする。

RIP パケットで受信した経路情報の中で RIB に登録しない経路をフィルタリングする場合は in 方向を指定する。

RIB に登録された経路情報の中で指定した経路を RIP で広告しないようにフィルタリングする場合は out 方向を指定する。

**7.13.7 近隣の RIP ルーターの設定****[書式]****neighbor** *ip\_address* [*vlan\_interface*]

## [パラメーター]

*ip\_address* : ネイバーとして登録する IP アドレス

*vlan\_interface* : VLAN インターフェース

## [初期設定]

なし

## [入力モード]

RIP モード、RIPng モード

## [説明]

近隣の RIP ルーターを明示的に指定する。指定した RIP ルーターに対する RIP パケットはユニキャストで送信される。

*vlan\_interface* パラメーターは、RIPng モードでのみ選択可能。

本コマンドを設定した場合、指定した IP アドレスへのユニキャスト通信とマルチキャスト通信の両方が行われる。

本コマンドで指定したネイバーのみと RIPng を組む場合は、**passive-interface** コマンドを使用することでマルチキャストでの RIP パケット送信を停止することができる。

### 7.13.8 RIP で通知するネットワークの設定

---

## [書式]

**network** *prefix*

**network** *vlan\_interface*

**no network** *prefix*

**no network** *vlan\_interface*

## [パラメーター]

*prefix* : RIP で通知するネットワークアドレス

*vlan\_interface* : VLAN インターフェース

## [初期設定]

なし

## [入力モード]

RIP モード

## [説明]

RIP で通知するネットワークアドレスまたはそのネットワークに所属する VLAN インターフェースを指定します。

直結経路の中で指定したネットワークアドレスの範囲に含まれるネットワークが RIP で広告されます。

### 7.13.9 アクセスリストに合致する経路情報についてメトリック値を加算

---

## [書式]

**offset-list** *access\_list\_id type metric [vlan\_interface]*

**no offset-list** *access\_list\_id type metric [vlan\_interface]*

## [パラメーター]

*access\_list\_id* : アクセスリスト番号

*type* : 方向

設定値	説明
in	in 方向
out	out 方向

*metric* : <0-16>

メトリック値

*vlan\_interface* : VLAN インターフェース

[初期設定]

なし

[入力モード]

RIP モード、RIPng モード

[説明]

指定したアクセスリストに合致する経路情報についてメトリック値を加算します。

in 方向で指定した場合、RIP 経路表から RIB に登録されるときに指定したメトリック値が加算されて登録されます。

out 方向で指定した場合、RIB に登録された経路情報を RIP で広告するときに指定したメトリック値が加算されて広告されます。

VLAN インターフェースを指定した場合、その VLAN インターフェースで送受信される経路情報のみが対象となります。

### 7.13.10 RIP パケットの受信のみ VLAN インターフェースの設定

[書式]

**passive-interface** *vlan\_interface*  
**no passive-interface** *vlan\_interface*

[パラメーター]

*vlan\_interface* : VLAN インターフェース

[初期設定]

なし

[入力モード]

RIP モード、RIPng モード

[説明]

指定した VLAN インターフェースでは、RIP パケットの受信のみ行われ、RIP パケットの送信は行われない。

ただし、**neighbor** コマンドで指定した RIP ルーターに対しては RIP パケットの送信が行われる。

### 7.13.11 外部経路情報を RIP ネットワークへ再広告

[書式]

**redistribute** *kind* [**metric** *metric*]

[パラメーター]

*kind* : 経路の種類

設定値	説明
connected	直結経路を再広告の対象とする。
ospf	OSPFv2 経路を再広告の対象とする。RIP モードでのみ選択可能。
ospf6	OSPFv3 経路を再広告の対象とする。RIPng モードでのみ選択可能。
static	静的経路を再広告の対象とする。

*metric* : <0-16>

メトリック値

[初期設定]

なし

**[入力モード]**

RIP モード、RIPng モード

**[説明]**

指定した外部経路情報を RIP ネットワークに再広告する。

**7.13.12 RIP に関連するタイマーの設定**

---

**[書式]****timers basic update timeout garbage****[パラメーター]**

*update* : <5-2147483647>  
RIP の更新パケットの送信間隔タイマー(秒)

*timeout* : <5-2147483647>  
経路が更新されなくなってからその経路を無効と見なすまでの期間(秒)

*garbage* : <5-2147483647>  
無効と見なされた経路情報を保持する期間(秒)

**[初期設定]**

timers basic 30 180 120

**[入力モード]**

RIP モード、RIPng モード

**[説明]**

RIP に関連するタイマーを設定します。

**7.13.13 RIP のバージョンの設定**

---

**[書式]****version version****[パラメーター]**

*version* : <1-2>  
RIP のバージョン

**[初期設定]**

version 2

**[入力モード]**

RIP モード

**[説明]**

RIP のバージョンを設定します。

**ip rip send version** コマンドと **ip rip receive version** コマンドが設定されている場合には、そちらの設定が優先されます。

**7.13.14 IPv2 の認証で使うキーチェーンの設定**

---

**[書式]****ip rip authentication key-chain key\_name [key\_name ...]****no ip rip authentication key-chain [key\_name [key\_name ...]]****[パラメーター]**

*key\_name* : キーチェーン名

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

RIPv2 の認証で使うキーチェーンを指定します。

**key chain** コマンドでキーチェーンを前もって作成しておく必要があります。**7.13.15 RIPv2 で使用する認証の方式の設定**

---

**[書式]****ip rip authentication mode** *mode***no ip rip authentication mode** [*mode*]**[パラメーター]***mode* : 認証方式

設定値	説明
text	簡易パスワードによる認証を行う。
md5	MD5 ダイジェストによる認証を行う。

**[初期設定]**

ip rip authentication mode text

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

RIPv2 で使用する認証の方式を指定します。

**7.13.16 RIPv2 の認証で使用するパスワードの設定**

---

**[書式]****ip rip authentication string** *password***no ip rip authentication string** [*password*]**[パラメーター]***password* : 認証用パスワード**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

RIPv2 の認証で使用するパスワードを設定します。

**7.13.17 メトリックが 0 の経路を受信したときの動作の設定**

---

**[書式]****ip rip metric-zero-accept** *mode***no ip rip metric-zero-accept****[パラメーター]***mode* : メトリックが 0 の経路を受信したときの動作

設定値	説明
enable	メトリックが 0 の経路を受信した場合、経路情報に反映させる。
disable	メトリックが 0 の経路を受信した場合、経路情報に反映させない。

**[初期設定]**

```
ip rip metric-zero-accept disable
```

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

メトリックが 0 の経路を受信したときの動作を指定する。

### 7.13.18 RIP パケットの受信を行うか否かの設定

**[書式]**

```
ip rip receive-packet mode
no ip rip receive-packet [mode]
```

**[パラメーター]**

*mode* : RIP パケットの受信

設定値	説明
enable	当該インターフェースで RIP パケットを受信する。
disable	当該インターフェースで RIP パケットを受信しない。

**[初期設定]**

```
ip rip receive-packet enable
```

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

RIP パケットの受信を行うか否かを設定します。

### 7.13.19 受信可能とする RIP のバージョンを設定

**[書式]**

```
ip rip receive version version [version]
no ip rip receive version [version [version]]
```

**[パラメーター]**

*version* : RIP バージョン

設定値	説明
1	RIPv1 のパケット受信を行う。
2	RIPv2 のパケット受信を行う。

**[初期設定]**

なし (version コマンドの設定に従う)

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

当該インターフェースで受信可能とする RIP のバージョンを設定する。

本コマンドの設定は、**version** コマンドの設定よりも優先される。

**7.13.20 RIP パケットの送信の設定****[書式]**

```
ip rip send-packet mode
no ip rip send-packet [mode]
```

**[パラメーター]**

*mode* : RIP パケットの送信

設定値	説明
enable	当該インターフェースで RIP パケットを送信する。
disable	当該インターフェースで RIP パケットを送信しない。

**[初期設定]**

```
ip rip send-packet enable
```

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

RIP パケットの送信を行うか否かを設定します。

**7.13.21 送信可能とする RIP のバージョンの設定****[書式]**

```
ip rip send version version [version]
no ip rip send version [version [version]]
```

**[パラメーター]**

*version* : RIP バージョン

設定値	説明
1	RIPv1 パケットを送信する。
1-compatible	RIPv2 のパケットをブロードキャストアドレス宛に送信する。
2	RIPv2 パケットを送信する。

**[初期設定]**

なし (version コマンドの設定に従う)

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

当該インターフェースで送信可能とする RIP のバージョンを設定する。

本コマンドの設定は、**version** コマンドの設定よりも優先される。

**7.13.22 スプリットホライズンの設定(IPv4)****[書式]**

```
ip rip split-horizon mode
no ip rip split-horizon
```

## [パラメーター]

*mode* : スプリットホライズン

設定値	説明
enable	スプリットホライズンを有効にする。
disable	スプリットホライズンを無効にする。

## [初期設定]

ip rip split-horizon enable

## [入力モード]

インターフェースモード

## [説明]

スプリットホライズンを有効にするか否かを設定します。

### 7.13.23 ポイズンリバースの設定(IPv4)

---

## [書式]

**ip rip poison-reverse *mode***

**no ip rip poison-reverse**

## [パラメーター]

*mode* : ポイズンリバース

設定値	説明
enable	ポイズンリバースを有効にする。
disable	ポイズンリバースを無効にする。

## [初期設定]

ip rip poison-reverse enable

## [入力モード]

インターフェースモード

## [説明]

ポイズンリバースを無効にするか否かを設定する。

### 7.13.24 送受信する RIPng パケットの経路情報の加算するメトリック値の設定

---

## [書式]

**ipv6 rip metric-offset *metric***

**no ipv6 rip metric-offset *metric***

## [パラメーター]

*metric* : <1-16>  
メトリック値

## [初期設定]

なし

## [入力モード]

インターフェースモード

## [説明]

当該インターフェースで送受信する RIPng パケットの経路情報を指定したメトリック値分加算する。

## [ノート]

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。



### 7.13.25 スプリットホライズンの設定(IPv6)

---

#### [書式]

```
ipv6 rip split-horizon mode
no ipv6 rip split-horizon
```

#### [パラメーター]

*mode* : スプリットホライズン

設定値	説明
enable	スプリットホライズンを有効にする。
disable	スプリットホライズンを無効にする。

#### [初期設定]

```
ipv6 rip split-horizon enable
```

#### [入力モード]

インターフェースモード

#### [説明]

スプリットホライズンを有効にするか否かを設定します。

#### [ノート]

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

### 7.13.26 ポイズンリバースの設定(IPv6)

---

#### [書式]

```
ipv6 rip poison-reverse mode
no ipv6 rip poison-reverse
```

#### [パラメーター]

*mode* : ポイズンリバース

設定値	説明
enable	ポイズンリバースを有効にする。
disable	ポイズンリバースを無効にする。

#### [初期設定]

```
ipv6 rip poison-reverse enable
```

#### [入力モード]

インターフェースモード

#### [説明]

ポイズンリバースを無効にするか否かを設定する。

#### [ノート]

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

### 7.13.27 RIPng の設定

---

#### [書式]

```
ipv6 router rip
no ipv6 router rip
```

#### [初期設定]

無効

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

当該インターフェースで RIPng を有効にします。

**[ノート]**

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

**7.13.28 RIPv2 の認証で使用するキーチェーンの生成**

---

**[書式]****key chain** *key\_name***no key chain** *key\_name***[パラメーター]***key\_name* : キーチェーン名**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

RIPv2 の認証で使用するキーチェーンを生成する。また、キーチェーンの鍵情報を生成するためのキーチェーンモードに遷移する。

キーチェーンモードからグローバルコンフィグレーションモードに遷移するには **exit** コマンドを使用する。**7.13.29 キーチェーンに登録する鍵の生成**

---

**[書式]****key number****no key number****[パラメーター]***number* : <0-2147483647>  
鍵番号**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

キーチェーンモード

**[説明]**

キーチェーンに登録する鍵を生成する。また、キーチェーンの鍵情報を設定するためのキーチェーンキーモードに遷移する。

キーチェーンキーモードからキーチェーンモードに遷移するには **exit** コマンドを使用する。**7.13.30 RIPv2 の認証で使用するパスワードの設定**

---

**[書式]****key-string** *password***no key-string****[パラメーター]***password* : パスワード (80 文字以内)

[初期設定]

なし

[入力モード]

キーチェーンキーモード

[説明]

RIPv2 の認証で使用するパスワードを設定します。

### 7.13.31 RIPv2 の認証で使用する鍵の受信有効期限の設定

[書式]

**accept-lifetime start end**

**no accept-lifetime**

[パラメーター]

*start* : time date 鍵の受信有効期限開始日時

設定値	説明
time	<0-23>:<0-59>:<0-59> 受信有効期限の開始時刻
date	<1-31> month <1993-2035> 受信有効期限の開始日 month は英語月名の頭 3 文字

*end* : 受信有効期限の終了日時または有効期限の期間

設定値	説明
time date	受信有効期限の終了日時 上記 START パラメーターと同じ形式
duration	<1-2147483646> 上記 START パラメーターで指定した受信有効期限開始日時からの期間
infinite	有効期限無し

[初期設定]

なし

[入力モード]

キーチェーンキーモード

[説明]

RIPv2 の認証で使用する鍵の受信有効期限を設定する。

[設定例]

キーチェーン名「KeyName」を作成し、鍵番号 100 のパスワードを「yamaha」とする。

その鍵の受信有効期限を 2020 年 4 月 1 日 12:00:00 から 2025 年 3 月 31 日 11:59:59 までとする。

```
SWX3200(config)# key chain KeyName
SWX3200(config-keychain)# key 100
SWX3200(config-keychain-key)# key-string yamaha
SWX3200(config-keychain-key)# accept-lifetime 12:0:0 1 apr 2020 11:59:59 31 mar 2025
```

### 7.13.32 RIPv2 の認証で使用する鍵の送信有効期限の設定

#### [書式]

**send-lifetime start end**

**no send-lifetime**

#### [パラメーター]

*start* : time date 鍵の送信有効期限開始日時

設定値	説明
time	<0-23>:<0-59>:<0-59> 送信有効期限の開始時刻
date	<1-31> month <1993-2035> 送信有効期限の開始日 month は英語月名の頭 3 文字

*end* : 送信有効期限の終了日時または有効期限の期間

設定値	説明
time date	送信有効期限の終了日時 上記 START パラメーターと同じ形式
duration	<1-2147483646> 上記 START パラメーターで指定した送信有効期限開始日時からの期間
infinite	有効期限無し

#### [初期設定]

なし

#### [入力モード]

キーチェーンキーモード

#### [説明]

RIPv2 の認証で使用する鍵の送信有効期限を設定する。

#### [設定例]

キーチェーン名「KeyName」を作成し、鍵番号 100 のパスワードを「yamaha」とする。

その鍵の送信有効期限を 2020 年 4 月 1 日 12:00:00 から 2025 年 3 月 31 日 11:59:59 までとする。

```
SWX3200(config)# key chain KeyName
SWX3200(config-keychain)# key 100
SWX3200(config-keychain-key)# send-lifetime 12:0:0 1 apr 2020 11:59:59 31 mar 2025
```

### 7.13.33 RIP 経路表から経路情報を削除(IPv4)

#### [書式]

**clear ip rip route type**

#### [パラメーター]

*type* : 経路の種別

設定値	説明
A.B.C.D/M	指定したプレフィックスに合致する経路情報を RIP 経路表から削除します。
all	すべての経路を RIP 経路表から削除します。
connected	直結経路を RIP 経路表から削除します。
ospf	OSPF 経路を RIP 経路表から削除します。
rip	RIP 経路を RIP 経路表から削除します。
static	静的経路を RIP 経路表から削除します。

[入力モード]

特権 EXEC モード

[説明]

RIP 経路表から指定した種別の経路情報を削除する。

### 7.13.34 RIP の統計情報のクリア

[書式]

**clear ip rip statistics** [*vlan\_interface*]

[パラメーター]

*vlan\_interface* : VLAN インターフェース

[入力モード]

特権 EXEC モード

[説明]

RIP の統計情報をクリアします。*vlan\_interface* パラメーターを指定した場合は、その VLAN インターフェース上の RIP の統計情報のみがクリアされます。

### 7.13.35 RIPng 経路表から経路情報を削除(IPv6)

[書式]

**clear ipv6 rip route type**

[パラメーター]

*type* : 経路の種別

設定値	説明
X:X::X:X/M	指定したプレフィックスに合致する経路情報を RIPng 経路表から削除します。
all	すべての経路を RIPng 経路表から削除します。
connected	直結経路を RIPng 経路表から削除します。
ospf6	OSPFv3 の経路を RIPng 経路表から削除します。
rip	RIPng の経路を RIPng 経路表から削除します。
static	静的経路を RIPng 経路表から削除します。

[入力モード]

特権 EXEC モード

**[説明]**

RIPng 経路表から指定した種別の経路情報を削除する。

**[ノート]**

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

### 7.13.36 RIP の設定・状態の表示(IPv4)

---

**[書式]**

```
show ip protocols rip
```

**[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

RIP の設定・状態を表示します。

### 7.13.37 RIPng の設定・状態の表示(IPv6)

---

**[書式]**

```
show ipv6 protocols rip
```

**[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

RIPng の設定・状態を表示します。

**[ノート]**

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

### 7.13.38 RIP 経路表の表示(IPv4)

---

**[書式]**

```
show ip rip
```

**[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

RIP 経路表を表示します。

### 7.13.39 RIPng 経路表の表示(IPv6)

---

**[書式]**

```
show ipv6 rip
```

**[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

RIPng 経路表を表示します。

**[ノート]**

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

### 7.13.40 インターフェース毎の RIP の状態の表示(IPv4)

---

**[書式]**

```
show ip rip interface [vlan_interface]
```

**[パラメーター]**

*vlan\_interface* : VLAN インターフェース

**[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

インターフェース毎の RIP の状態を表示する。

VLAN インターフェースを指定した場合、指定した VLAN インターフェース上の RIP の状態のみ表示される。

**7.13.41 インターフェース毎の RIPng の状態の表示(IPv6)**

---

**[書式]**

```
show ipv6 rip interface [vlan_interface]
```

**[パラメーター]**

*vlan\_interface* : VLAN インターフェース

**[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

インターフェース毎の RIPng の状態を表示する。

VLAN インターフェースを指定した場合、指定した VLAN インターフェース上の RIPng の状態のみ表示される。

**[ノート]**

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

**7.13.42 RIP の統計情報の表示**

---

**[書式]**

```
show ip rip statistics [vlan_interface]
```

**[パラメーター]**

*vlan\_interface* : VLAN インターフェース

**[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

RIP の統計情報を表示する。

VLAN インターフェースを指定した場合は、指定した VLAN インターフェース上の RIP の統計情報が表示される。

**7.14 VRRP**

---

**7.14.1 VRRP モードへの移行**

---

**[書式]**

```
router vrrp vrid ifname
```

```
no router vrrp vrid ifname
```

**[パラメーター]**

*vrid* : <1-255>

バーチャルルーター ID

*ifname* : VLAN インターフェース名

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

VRRP の設定を行うためのモードへ移行する。

該当バーチャルルーターが生成されていない場合は生成する。

no 形式で実行した場合は該当バーチャルルーターに関するすべての設定を削除する。

**[ノート]**

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

**[設定例]**

VLAN #1 にバーチャルルーター #1 を生成し、VRRP モードへ移行する。

```
SWX3200)#configure terminal
SWX3200(config)#router vrrp 1 vlan1
SWX3200(config-router)#
```

VLAN #1 のバーチャルルーター #1 を削除する。

```
SWX3200)#configure terminal
SWX3200(config)#no router vrrp 1 vlan1
```

## 7.14.2 VRRP モードへの移行(IPv6)

---

**[書式]**

**router ipv6 vrrp vrid ifname**

**no router ipv6 vrrp vrid ifname**

**[パラメーター]**

*vrid* : <1-255>  
バーチャルルーター ID

*ifname* : VLAN インターフェース名

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

VRRP の設定を行うためのモードへ移行する。

該当バーチャルルーターが生成されていない場合は生成する。

no 形式で実行した場合は該当バーチャルルーターに関するすべての設定を削除する。

**[ノート]**

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

**[設定例]**

VLAN #1 にバーチャルルーター #1 を生成し、VRRP モード(IPv6)へ移行する。

```
SWX3200)#configure terminal
SWX3200(config)#router ipv6 vrrp 1 vlan1
SWX3200(config-router)#
```

VLAN #1 のバーチャルルーター #1 を削除する。

```
SWX3200)#configure terminal
SWX3200(config)#no router ipv6 vrrp 1 vlan1
```

## 7.14.3 advertisement パケットの送信間隔設定

---

**[書式]**

**advertisement-interval interval**

**no advertisement-interval**



## [パラメーター]

*interval* : <5-4095>  
advertisement パケットの送信間隔 (1/100 秒)

## [初期設定]

advertisement-interval 100

## [入力モード]

VRRP モード

## [説明]

advertisement パケットの送信間隔を設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

## [ノート]

本コマンドはバーチャルルーターが無効な場合のみ設定変更できる。

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

## [設定例]

advertisement パケットの送信間隔を 5 秒 (500) に設定する。

```
SWX3200(config-router)#advertisement-interval 500
```

## 7.14.4 サーキットフェイルオーバー設定

## [書式]

**circuit-failover** *ifname value*  
**no circuit-failover** *ifname value*

## [パラメーター]

*ifname* : 監視対象の VLAN インターフェースまたは物理インターフェース名  
*value* : <1-253>  
バーチャルルーターの優先度から減算する値

## [初期設定]

なし

## [入力モード]

VRRP モード

## [説明]

サーキットフェイルオーバーの設定をする。

監視対象のインターフェースがダウンした場合、バーチャルルーターの優先度から指定された値を減算する。

バーチャルルーターの優先度を減算した値がバックアップルーターの優先度を下回るように設定することで、監視対象のインターフェースがダウンするとバックアップルーターとして動作するようになる。

監視対象のインターフェースが復旧した場合は、バーチャルルーターの優先度も減算前の値に戻る。

no 形式で実行した場合は設定を削除する。

## [ノート]

本コマンドはバーチャルルーターが無効な場合のみ設定変更できる。

監視対象のインターフェースはバーチャルルーターごとに 1 つのみ指定できる。

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

## [設定例]

VLAN#20 がダウンした場合に、優先度を 10 下げるように設定する。

```
SWX3200(config-router)#circuit-failover vlan20 10
```

### 7.14.5 バーチャルルーターの有効/無効設定

#### [書式]

**virtual-router switch**

**no virtual-router**

#### [パラメーター]

*switch* : バーチャルルーターの動作

設定値	説明
enable	バーチャルルーターを有効にする
disable	バーチャルルーターを無効にする

#### [初期設定]

virtual-router disable

#### [入力モード]

VRRP モード

#### [説明]

バーチャルルーターの有効/無効を設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

#### [ノート]

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

#### [設定例]

バーチャルルーターを有効にする。

```
SWX3200(config-router)#virtual-router enable
```

### 7.14.6 プリエンプトモード設定

#### [書式]

**preempt-mode switch**

**no preempt-mode**

#### [パラメーター]

*switch* : プリエンプトモードの設定

設定値	説明
enable	プリエンプトモードを有効にする
disable	プリエンプトモードを無効にする

#### [初期設定]

preempt-mode enable

#### [入力モード]

VRRP モード

#### [説明]

プリエンプトモードを設定する。

プリエンプトモードが有効な場合、常により優先度の高いものがマスタールーターになる。

プリエンプトモードが無効な場合、すでにマスタールーターが存在していれば、より優先度が高いバーチャルルーターでもバックアップルーターになる。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

#### [ノート]

本コマンドはバーチャルルーターが無効な場合のみ設定変更できる。

マスタールーターとバックアップルーターは、プリエンプトモードの設定を揃えて使用すること。  
スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

#### [設定例]

プリエンプトモードを無効に設定する。

```
SWX3200(config-router)#preempt-mode disable
```

### 7.14.7 バーチャルルーターの優先度設定

#### [書式]

**priority** *priority*  
**no priority**

#### [パラメーター]

*priority* : <1-255>  
優先度

#### [初期設定]

priority 255 (**virtual-ip** コマンドで **owner** キーワードを指定した場合)

priority 100 (**virtual-ip** コマンドで **owner** キーワードを指定していない場合)

#### [入力モード]

VRRP モード

#### [説明]

バーチャルルーターの優先度を設定する。

**virtual-ip** コマンドで **owner** キーワードを指定した場合は、初期値（255）から変更できない。

**virtual-ip** コマンドで **owner** キーワードを指定していない場合は、1～254 の範囲で指定できる。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

#### [ノート]

本コマンドはバーチャルルーターが無効な場合のみ設定変更できる。

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

#### [設定例]

バーチャルルーターの優先度を 150 に設定する。

```
SWX3200(config-router)#priority 150
```

### 7.14.8 バーチャル IP アドレス設定

#### [書式]

**virtual-ip** *ip\_address* [**owner**]  
**no virtual-ip**

#### [キーワード]

**owner** : router vrrp コマンドで指定した VLAN インターフェースの IP アドレスと同じ IP アドレスを設定する場合のみ指定する。

#### [パラメーター]

*ip\_address* : A.B.C.D  
IP アドレス

#### [初期設定]

no virtual-ip

#### [入力モード]

VRRP モード

**[説明]**

バーチャル IP アドレスを設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

**[ノート]**

本コマンドはバーチャルルーターが無効な場合のみ設定変更できる。

VLAN インターフェースと同じ IP アドレスを使用する場合は、本スイッチで動作している各種サーバーにアクセスできないので注意すること。

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

**[設定例]**

バーチャル IP アドレスを 192.168.100.1 に設定する。(VLAN インターフェースの IP アドレスと異なる場合)

```
SWX3200(config-router)#virtual-ip 192.168.100.1
```

バーチャル IP アドレスを 192.168.100.1 に設定する。(VLAN インターフェースの IP アドレスと一致する場合)

```
SWX3200(config-router)#virtual-ip 192.168.100.1 owner
```

### 7.14.9 バーチャル IP アドレス設定(IPv6)

---

**[書式]**

**virtual-ipv6** *ipv6\_address* [owner]

**no virtual-ipv6**

**[キーワード]**

owner : router vrrp コマンドで指定した VLAN インターフェースの IPv6 アドレスと同じ IPv6 アドレスを設定する場合のみ指定する。

**[パラメーター]**

*ipv6\_address* : X:X::X:X  
IPv6 アドレス

**[初期設定]**

no virtual-ipv6

**[入力モード]**

VRRP モード(IPv6)

**[説明]**

バーチャル IPv6 アドレスを設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

**[ノート]**

本コマンドはバーチャルルーターが無効な場合のみ設定変更できる。

VLAN インターフェースと同じ IPv6 アドレスを使用する場合は、本スイッチで動作している各種サーバーにアクセスできないので注意すること。

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

**[設定例]**

バーチャル IP アドレスを fe80::10:1 に設定する。(VLAN インターフェースの IP アドレスと異なる場合)

```
SWX3200(config-router)#virtual-ipv6 fe80::10:1
```

バーチャル IP アドレスを fe80::10:1 に設定する。(VLAN インターフェースの IP アドレスと一致する場合)

```
SWX3200(config-router)#virtual-ipv6 fe80::10:1 owner
```

### 7.14.10 VRRP 情報を表示

---

**[書式]**

**show vrrp** [ *vrid* ] [ *ifname* ]

**[パラメーター]**

*vrid* : <1-255>  
バーチャルルーター ID

*ifname* : VLAN インターフェース名

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

VRRP の設定と状態を表示する。

**[設定例]**

VLAN #1 のバーチャルルーター #1 の情報を表示する。

```
SWX3200#show vrrp 1 vlan1
VRRP Version: 3
VMAC enabled
Backward Compatibility disabled

Address family IPv4
VRRP Id: 1 on interface: vlan1
State: AdminUp - Master
Virtual IP address: 192.168.100.228 (Not-owner)
Operational primary IP address: 192.168.100.240
Operational master IP address: 192.168.100.240
Priority not configured; Current priority: 100
Advertisement interval: 100 centi sec
Master Advertisement interval: 100 centi sec
Skew time: 60 centi sec
Accept mode: FALSE
Preempt mode: TRUE
Monitored circuit: vlan10, Priority Delta: 30, Status: UP
Multicast membership on IPv4 interface vlan1: JOINED
V2-Compatible: FALSE
```

**7.14.11 VRRP 情報を表示(IPv6)****[書式]**

**show vrrp ipv6** [*vrid*] [*ifname*]

**[パラメーター]**

*vrid* : <1-255>  
バーチャルルーター ID

*ifname* : VLAN インターフェース名

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

VRRP の設定と状態を表示する。

**[設定例]**

VLAN #1 のバーチャルルーター #1 の情報を表示する。

```
SWX3200#show vrrp ipv6 1 vlan1
VRRP Version: 3
VMAC enabled
Address family IPv6
VRRP Id: 1 on interface: vlan1
State: AdminUp - Master
Virtual IP address: fe80::1:1 (Not-owner)
Operational primary IP address: fe80::ae44:f2ff:fe11:1111
Operational master IP address: fe80::ae44:f2ff:fe11:1111
Priority is 100
```

```

Advertisement interval: 100 centi sec
Master Advertisement interval: 100 centi sec
Skew time: 60 centi sec
Accept mode: FALSE
Preempt mode: TRUE
Multicast membership on IPv6 interface  vlan1: JOINED
V2-Compatible: FALSE

```

### 7.14.12 VRRP の統計情報を表示

#### [書式]

```
show vrrp statistics [ vrid ] [ ifname ]
```

#### [パラメーター]

```

vrid          : <1-255>
               バーチャルルーター ID
ifname       : VLAN インターフェース名

```

#### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

#### [説明]

VRRP の統計情報を表示する。

#### [設定例]

VLAN #1 のバーチャルルーター #1 の統計情報を表示する。

```

SWX3200#show vrrp statistics 1 vlan1
VRRP Version: 3
VMAC enabled
Backward Compatibility disabled

Address family IPv4
VRRP Id: 1 on interface: vlan1
Checksum Errors: 0
Version Errors: 0
VRid Errors: 0
Master Transitions: 1
Advertisements Rcvd: 3
Pkts Rcvd with IP TTL Errors: 0
Pkts Rcvd with Zero Priority: 0
Pkts Sent with Zero Priority: 0
Pkts Rcvd with Invalid TYPE: 0
Pkts Rcvd with Packet Length Errors: 0
Pkts Rcvd with IP Count Mismatch: 0
Discontinuity Time: (0) 0:00:00.00
Refresh Rate: 1000 ms

```

### 7.14.13 VRRP の統計情報を表示(IPv6)

#### [書式]

```
show vrrp ipv6 statistics [ vrid ] [ ifname ]
```

#### [パラメーター]

```

vrid          : <1-255>
               バーチャルルーター ID
ifname       : VLAN インターフェース名

```

#### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

#### [説明]

VRRP の統計情報を表示する。

**[設定例]**

VLAN #1 のバーチャルルーター #1 の統計情報を表示する。

```
SWX3200#show vrrp ipv6 statistics 1 vlan1
VRRP Version: 3
VMAC enabled
Address family IPv6
VRRP Id: 1 on interface: vlan1
Checksum Errors: 0
Version Errors: 0
VRid Errors: 0
Master Transitions: 1
Advertisements Rcvd: 3
Pkts Rcvd with IP TTL Errors: 0
Pkts Rcvd with Zero Priority: 0
Pkts Sent with Zero Priority: 0
Pkts Rcvd with Invalid TYPE: 0
Pkts Rcvd with Packet Length Errors: 0
Pkts Rcvd with IP Count Mismatch: 0
Discontuinity Time: (0) 0:00:00.00
Refresh Rate: 1000 ms
```

## 7.15 PBR

### 7.15.1 ルートマップの生成

**[書式]**

```
route-map route-map-id [action] [seq_num]
no route-map route-map-id [[action seq_num][seq_num]
```

**[パラメーター]**

*action* : 適用条件に合致したパケットに対する動作の指定

設定値	説明
permit	許可する (set の処理内容を実行) ※省略時は permit とみなす
deny	拒否する (通常のルーティングを介して転送)

*route-map-id* : <1-4094>  
ルートマップの ID

*seq\_num* : <1-65535>  
エントリーのシーケンス番号 (ルートマップ内におけるエントリーの位置)

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

指定された ID のルートマップが存在しない場合、ルートマップおよびエントリーを生成し、ルートマップモードに遷移する。

既存の ID、シーケンス番号が指定された場合は、新たに生成はせず既存のルートマップ、エントリーの編集モードとなる。

ルートマップには最大 64 件のエントリーを設定することができる。

生成したルートマップを適用する場合は、インターフェースモードで ip policy route-map (もしくは ipv6 policy route-map) コマンドを実行する。

no 形式で permit/deny 以降が指定された場合は、すべての条件が一致するエントリーを削除する。結果としてすべてのエントリーがなくなった場合はそのルートマップを削除する。

no 形式で route-map-id のみが指定された場合は、ID が一致するルートマップ（およびすべてのエントリー）を削除する。

#### [ノート]

seq\_num が省略された場合は、エントリーの最後尾に追加する。このとき生成するエントリーのシーケンス番号は最後尾エントリーのシーケンス番号に 10 を加算した値とする。なお、ルートマップ生成時に seq\_num が省略された場合にはシーケンス番号を 10 とする。また、10 加算した値が 65535 を超える場合はエラーとする。

シーケンス番号はパケット受信時の処理順となる。一つのルートマップに複数のエントリーが存在する場合、シーケンス番号順に処理していき、条件に合致した時点で処理を終了する。

また、ルートマップには暗黙の deny エントリーが存在し、いずれのエントリーの条件にも合致しなかった場合には通常のルーティング機能を介して転送する。

インターフェースに適用されているルートマップはエントリーの追加および編集ができない。また、no 形式で削除することもできない。必ず適用を解除してから操作すること。

#### [設定例]

シーケンス番号 10 の permit エントリーを持つ ID 100 のルートマップを生成する。

```
SWX3200(config)#route-map 100 permit 10
SWX3200(config-route-map)#
```

### 7.15.2 ルートマップの説明文追加

---

#### [書式]

**description line**

**no description**

#### [パラメーター]

*line* : 半角英数字および半角記号(32 文字以内)  
 ルートマップの説明文

#### [初期設定]

なし

#### [入力モード]

ルートマップモード

#### [説明]

ルートマップに説明文を追加する。

no 形式で実行された場合、ルートマップの説明文を削除する。

#### [ノート]

すでに説明文が設定済みだった場合は、あとから設定された説明文に上書きする。

#### [設定例]

ルートマップを作成し、説明文 Test を追加する。

```
SWX3200(config)#route-map 1
SWX3200(config-route-map)#description Test
```

### 7.15.3 ルートマップエントリーへの適用条件設定

---

#### [書式]

**match access-list acl-id**

**no match access-list [acl-id]**

#### [パラメーター]

*acl-id* : <1-4000>  
 IPv4 もしくは MAC もしくは IPv6 アクセスリストの ID

#### [初期設定]

なし



**[入力モード]**

ルートマップモード

**[説明]**

ルートマップエントリーに適用条件を設定する。

no 形式で実行した場合、ルートマップエントリーから適用条件を削除する。

**[ノート]**

permit エントリーでは、受信パケットがアクセスリストと合致した場合、処理内容 (set) を実行する。

deny エントリーでは、受信パケットがアクセスリストと合致した場合、通常のルーティング機能を介して転送する。

エントリーに適用条件 (match) が設定されていない場合、無効なエントリーとみなす。

また、エントリーに設定できる適用条件 (match) は 1 つのみとし、すでに適用条件を設定済みの状態でコマンドが実行された場合はエラーとする。

IPv4 アクセスリストの TCP フラグ指定には対応しない。TCP フラグが指定されていた場合は無視する。

また、PBR ではマルチキャスト、ブロードキャストには対応しない。アクセスリストにマルチキャストアドレス、ブロードキャストアドレスが含まれていた場合の動作は保証しない。

**[設定例]**

送信元 192.168.1.0/24 のセグメントからの通信をネクストホップ 10.0.0.1 へ転送するためのルートマップを作成する。

```
SWX3200(config)#access-list 1 permit any 192.168.1.0 0.0.0.255 any
SWX3200(config)#route-map 100 permit 10
SWX3200(config-route-map)#match access-list 1
SWX3200(config-route-map)#set ip next-hop 10.0.0.1
SWX3200(config-route-map)#exit
```

**7.15.4 ルートマップエントリーへの処理内容 (IPv4 転送先) 設定****[書式]**

**set ip next-hop** *ip\_address*

**no set ip next-hop** [*ip\_address*]

**[パラメーター]**

*ip\_address* : A.B.C.D

転送先の IPv4 アドレス

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

ルートマップモード

**[説明]**

ルートマップエントリーに処理内容 (IPv4 転送先) を設定する。

no 形式で実行した場合、ルートマップエントリーから処理内容 (IPv4 転送先) を削除する。

**[ノート]**

set ip next-hop が設定されたエントリーでは、適用条件 (match) に合致した受信パケットをネクストホップへ転送する。

ただし、ネクストホップの IPv4 アドレスが ARP キャッシュに存在しない場合は通常のルーティング機能を介してパケットを転送する。

エントリーに設定できる処理内容 (set) は 1 つのみとし、すでに処理内容が設定済みの状態でコマンドが実行された場合はエラーとする。

エントリーに処理内容 (set) が設定されていない場合、無効なエントリーとみなす。ただし、deny エントリーでは set を省略可能とする。

なお、deny エントリーにも set ip next-hop の設定は可能だが処理を実行することはない。

**[設定例]**

送信元 192.168.1.0/24 のセグメントからの通信をネクストホップ 10.0.0.1 へ転送するためのルートマップを作成する。

```
SWX3200(config)#access-list 1 permit any 192.168.1.0 0.0.0.255 any
SWX3200(config)#route-map 100 permit 10
SWX3200(config-route-map)#match access-list 1
SWX3200(config-route-map)#set ip next-hop 10.0.0.1
SWX3200(config-route-map)#exit
```

**7.15.5 ルートマップエントリーへの処理内容 (IPv6 転送先) 設定****[書式]**

```
set ipv6 next-hop ipv6_address
no set ipv6 next-hop [ipv6_address]
```

**[パラメーター]**

*ipv6\_address* : X:X::X:X  
転送先の IPv6 アドレス

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

ルートマップモード

**[説明]**

ルートマップエントリーに処理内容 (IPv6 転送先) を設定する。

no 形式で実行した場合、ルートマップエントリーから処理内容 (IPv6 転送先) を削除する。

**[ノート]**

set ipv6 next-hop が設定されたエントリーでは、適用条件 (match) に合致した受信パケットをネクストホップへ転送する。

ただし、ネクストホップの IPv6 アドレスが Neighbor キャッシュに存在しない場合は通常のルーティング機能を介してパケットを転送する。

エントリーに設定できる処理内容 (set) は 1 つのみとし、すでに処理内容が設定済みの状態でコマンドが実行された場合はエラーとする。

エントリーに処理内容 (set) が設定されていない場合、無効なエントリーとみなす。ただし、deny エントリーでは set を省略可能とする。

なお、deny エントリーにも set ipv6 next-hop の設定は可能だが処理を実行することはない。

**[設定例]**

送信元 3ffe:506::/32 からの通信をネクストホップ 2001:db8:1::1 へ転送するためのルートマップを作成する。

```
SWX3200(config)#access-list 3001 permit 3ffe:506::/32
SWX3200(config)#route-map 100 permit 10
SWX3200(config-route-map)#match access-list 3001
SWX3200(config-route-map)#set ipv6 next-hop 2001:db8:1::1
SWX3200(config-route-map)#exit
```

**7.15.6 ルートマップエントリーへの処理内容 (パケット破棄) 設定****[書式]**

```
set interface null
no set interface [null]
```

**[入力モード]**

ルートマップモード

**[説明]**

ルートマップエントリーに処理内容 (パケット破棄) を設定する。

no 形式で実行した場合、ルートマップエントリーから処理内容 (パケット破棄) を削除する。

**[ノート]**

set interface null が設定されたエントリーでは、適用条件 (match) に合致した受信パケットを破棄する。

エントリーに設定できる処理内容 (set) は 1 つのみとし、すでに処理内容が設定済みの状態でコマンドが実行された場合はエラーとする。

エントリーに処理内容 (set) が設定されていない場合、無効なエントリーとみなす。ただし、deny エントリーでは set を省略可能とする。

なお、deny エントリーにも set interface null の設定は可能だが処理を実行することはない。

**[設定例]**

送信元 192.168.1.0/24 のセグメントからの通信をネクストホップ 10.0.0.1 へ転送し、それ以外はすべて破棄するためのルートマップを作成する。

```
SWX3200(config)#access-list 1 permit any 192.168.1.0 0.0.0.255 any
SWX3200(config)#access-list 2 permit any any any
SWX3200(config)#route-map 100 permit 10
SWX3200(config-route-map)#match access-list 1
SWX3200(config-route-map)#set ip next-hop 10.0.0.1
SWX3200(config-route-map)#exit
SWX3200(config)#route-map 100 permit 20
SWX3200(config-route-map)#match access-list 2
SWX3200(config-route-map)#set interface null
SWX3200(config-route-map)#exit
```

**7.15.7 インターフェースへのルートマップの適用 (IPv4 用)****[書式]**

```
ip policy route-map route-map-id
no ip policy route-map [route-map-id]
```

**[パラメーター]**

*route-map-id* : <1-4094>  
                  ルートマップの ID

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

IPv4 パケット用にルートマップをインターフェースへ適用する。

no 形式で実行された場合は、インターフェースからルートマップの適用を解除する。

**[ノート]**

適応可能なインターフェースの種別は下記の通り。

- VLAN インターフェース

インターフェースに適用できるルートマップは IPv4 用、IPv6 用で各 1 つまでとし、既にルートマップが適用されている場合はエラーとする。

また、ルートマップに有効なエントリーが存在しない場合はエラーとする。

有効なエントリーの条件は下記の通り。

- match が設定されていること
  - IPv4 もしくは MAC のアクセスリストが指定されていること
  - アクセスリストに 1 つ以上の permit エントリーが存在すること
- permit の場合は set が設定されていること ※
  - ip next-hop もしくは interface null が指定されていること

※ deny の場合は set が設定されていなくてもよい (設定されていても無視する)

**[設定例]**

送信元 192.168.1.0/24 のセグメントからの通信をネクストホップ 10.0.0.1 へ転送するためのルートマップを vlan10 に適用する。

```
SWX3200(config)#access-list 1 permit any 192.168.1.0 0.0.0.255 any
SWX3200(config)#route-map 100 permit 10
SWX3200(config-route-map)#match access-list 1
SWX3200(config-route-map)#set ip next-hop 10.0.0.1
SWX3200(config-route-map)#exit
SWX3200(config)#interface vlan10
SWX3200(config-if)#ip policy route-map 100
```

**7.15.8 インターフェースへのルートマップの適用 (IPv6 用)****[書式]**

```
ipv6 policy route-map route-map-id
no ipv6 policy route-map [route-map-id]
```

**[パラメーター]**

*route-map-id* : <1-4094>  
ルートマップの ID

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

IPv6 パケット用にルートマップをインターフェースへ適用する。

no 形式で実行された場合は、インターフェースからルートマップの適用を解除する。

**[ノート]**

適応可能なインターフェースの種別は下記の通り。

- VLAN インターフェース

インターフェースに適用できるルートマップは IPv4 用、IPv6 用で各 1 つまでとし、既にルートマップが適用されている場合はエラーとする。

また、ルートマップに有効なエントリが存在しない場合はエラーとする。

有効なエントリの条件は下記の通り。

- match が設定されていること
  - IPv6 のアクセスリストが指定されていること
  - アクセスリストに 1 つ以上の permit エントリが存在すること
- permit の場合は set が設定されていること ※
  - ipv6 next-hop もしくは interface null が指定されていること

※ deny の場合は set が設定されていなくてもよい (設定されていても無視する)

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

**[設定例]**

送信元 3ffe:506::/32 のセグメントからの通信をネクストホップ 2001:db8:1::1 へ転送するためのルートマップを vlan10 に適用する。

```
SWX3200(config)#access-list 3001 permit 3ffe:506::/32
SWX3200(config)#route-map 100 permit 10
SWX3200(config-route-map)#match access-list 3001
SWX3200(config-route-map)#set ipv6 next-hop 2001:db8:1::1
SWX3200(config-route-map)#exit
SWX3200(config)#interface vlan10
SWX3200(config-if)#ipv6 policy route-map 100
```

## 7.15.9 PBR 機能の有効化/無効化

### [書式]

**pbr switch**

**no pbr**

### [パラメーター]

*switch* : PBR 機能の動作

設定値	説明
enable	PBR 機能を有効にする
disable	PBR 機能を無効にする

### [初期設定]

pbr enable

### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

### [説明]

PBR 機能を有効にする。

disable が指定された場合は PBR 機能を無効にする。

no 形式で実行された場合は、初期設定に戻す (enable 指定と同様)。

### [ノート]

機能を無効化する際も PBR 関連の設定はそのまま残すため、再度有効化することにより元の状態に復元可能。

### [設定例]

PBR 機能を有効にする。

```
SWX3200(config)#pbr enable
```

## 7.15.10 ルートマップ情報の表示

### [書式]

**show route-map** [*route-map-id*]

### [パラメーター]

*route-map-id* : <1-4094>

ルートマップの ID

### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

### [説明]

登録されているルートマップの情報を表示する。

route-map-id が省略された場合は、すべてのルートマップの情報を表示する。

### [設定例]

すべてのルートマップの情報を表示する。

```
SWX3200#show route-map
Route Map 100
Description:
 10 permit
   Match clauses:
     access-list 1
   Set clauses:
     ip next-hop 10.0.0.1
 20 permit
   Match clauses:
     access-list 2
```

```

Set clauses:
  interface null
Route Map 200
  Description: PBR_IPV6
  10 deny
  Match clauses:
    access-list 3001
  Set clauses:

```

### 7.15.11 IPv4 PBR 情報の表示

---

#### [書式]

**show ip route pbr**

#### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

#### [説明]

IPv4 用として適用されたルートマップの情報をインターフェースごとに表示する。

#### [ノート]

適用されているルートマップのすべてのエントリーを (無効なエントリーやネクストホップが ARP キャッシュに存在しないエントリーも含め) 表示する。

#### [設定例]

IPv4 用として適用されたルートマップの情報をインターフェースごとに表示する。

```

SWX3200#show ip route pbr
Policy Routing
vlan10
  Route Map 100, PBR1
    10 permit
      match access-list 1
      set ip next-hop 10.0.0.1
    20 permit
      match access-list 2
      set interface null
vlan20
  Route Map 200
    10 deny
      match access-list 2001

```

### 7.15.12 IPv6 PBR 情報の表示

---

#### [書式]

**show ipv6 route pbr**

#### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

#### [説明]

IPv6 用として適用されたルートマップの情報をインターフェースごとに表示する。

#### [ノート]

適用されているルートマップのすべてのエントリーを (無効なエントリーやネクストホップが Neighbor キャッシュに存在しないエントリーも含め) 表示する。

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

#### [設定例]

IPv6 用として適用されたルートマップの情報をインターフェースごとに表示する。

```

SWX3200#show ipv6 route pbr
Policy Routing
vlan10
  Route Map 100, PBR1
    10 permit
      match access-list 3001
      set ip next-hop 2001:db8:1::1

```

```
    20 permit
      match access-list 3002
      set interface null
vlan20
  Route Map 200
    10 deny
      match access-list 3003
```

## 第 8 章

### IP マルチキャスト制御

#### 8.1 IP マルチキャスト基本設定

##### 8.1.1 IP マルチキャストルーティングの設定

###### [書式]

```
ip multicast-routing
no ip multicast-routing
```

###### [初期設定]

```
no ip multicast-routing
```

###### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

###### [説明]

IP マルチキャストルーティングを有効にする。

no 形式で実行した場合は、IP マルチキャストルーティングを無効にする。

###### [設定例]

IP マルチキャストルーティングを有効にする。

```
SWX3200(config)#ip multicast-routing
```

##### 8.1.2 IP マルチキャストルーティングの設定 (物理ポート)

###### [書式]

```
multicast type
no multicast
```

###### [パラメーター]

*type* : マルチキャストルーティングの動作

設定値	説明
disable	対象ポートでマルチキャストルーティングを無効にする。
enable	対象ポートでマルチキャストルーティングを有効にする。

###### [初期設定]

```
multicast enable
```

###### [入力モード]

インターフェースモード

###### [説明]

対象物理ポートで、IP マルチキャストルーティング (L3 のマルチキャストパケット転送) を無効にする。

no 形式で実行した場合および enable を指定した場合は、対象物理ポートにおける IP マルチキャストルーティングを有効にする。(デフォルト動作)

###### [設定例]

ポート 1 で IP マルチキャストルーティングを無効にする。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#multicast disable
```



### 8.1.3 RPF チェック用ユニキャスト経路情報の設定

#### [書式]

```
ip mroute source/mask [protocol] rpfneighbor [distance]
no ip mroute source/mask [protocol]
```

#### [パラメーター]

*source* : マルチキャスト送信者の IPv4 アドレス (A.B.C.D)

*mask* : <0-32>  
マスクビット数

*protocol* : ユニキャストルーティングプロトコル

設定値	説明
rip	ユニキャストルーティングプロトコルに RIP を指定
ospf	ユニキャストルーティングプロトコルに OSPF を指定

*rpfneighbor* : RPF アドレス (A.B.C.D)

*distance* : <1-255>  
管理距離 (優先度)

#### [初期設定]

なし

#### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

#### [説明]

マルチキャストルーティングプロトコルが RPF ( Reverse Path Forwarding ) チェック時に使用するユニキャスト経路情報を静的に登録する。

no 形式で実行した場合は、静的に登録したユニキャスト経路情報を削除する。

#### [設定例]

マルチキャスト送信者 10.10.10.50/24 の RPF ネイバーを 10.10.10.20 に設定する。

```
SWX3200(config)#ip mroute 10.10.10.50/24 10.10.10.20
```

### 8.1.4 IP マルチキャスト経路の最大エントリー数の設定

#### [書式]

```
ip multicast route-limit routelimit [warnlimit]
no ip multicast route-limit
```

#### [パラメーター]

*routelimit* : <1-2147483647>  
IP マルチキャスト経路のエントリー最大数

*warnlimit* : <1-2147483647>  
IP マルチキャスト経路のエントリー数超過の警告を出すための閾値

#### [初期設定]

no ip multicast route-limit

#### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

IP マルチキャスト経路表に登録できる IP マルチキャスト経路の最大エントリー数を設定する。

警告の閾値を設定した場合、閾値を超えたときに警告メッセージが出力される。

警告の閾値には IP マルチキャスト経路の最大エントリー数以下の値を設定すること。

no 形式で実行した場合は、最大数、閾値共に 2147483647 となる。

**[設定例]**

IP マルチキャスト経路の最大エントリー数を 100 個に制限し、警告を出す閾値を 80 個に設定する。

```
SWX3200(config)#ip multicast route-limit 100 80
```

**8.1.5 IP マルチキャスト経路表の表示****[書式]**

```
show ip mroute [group [source] | source [group]] [entry] [type]
```

**[パラメーター]**

*group* : マルチキャストグループアドレス (A.B.C.D)

*source* : マルチキャスト送信者の IPv4 アドレス (A.B.C.D)

*entry* : 表示するエントリー種別

設定値	説明
dense	PIM-DM 由来のエントリーの情報のみを表示する
sparse	PIM-SM 由来のエントリーの情報のみを表示する

省略時は全てのエントリー情報を表示する

*type* : 表示形式

設定値	説明
count	統計情報を表示する
summary	サマリー情報を表示する

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

IP マルチキャスト経路表を表示する。

**[設定例]**

IP マルチキャスト経路表を表示する。

```
SWX3200#show ip mroute

IP Multicast Routing Table
Flags: I - Immediate Stat, T - Timed Stat, F - Forwarder installed
Timers: Uptime/Stat Expiry
Interface State: Interface (TTL)

(192.168.100.2, 239.1.1.5), uptime 00:01:49, stat expires 00:01:41
Owner PIM-DM, Flags: TF
  Incoming interface: vlan1
  Outgoing interface list:
    vlan2 (1)

(192.168.100.2, 239.255.255.250), uptime 00:02:53, stat expires 00:03:09
Owner PIM-DM, Flags: TF
  Incoming interface: vlan1
  Outgoing interface list:
```

```

vlan2 (1)
(192.168.200.2, 239.255.255.250), uptime 00:02:41, stat expires 00:03:09
Owner PIM-DM, Flags: TF
  Incoming interface: vlan2
  Outgoing interface list:
    vlan1 (1)

SWX3200#show ip mroute 239.1.1.5

IP Multicast Routing Table
Flags: I - Immediate Stat, T - Timed Stat, F - Forwarder installed
Timers: Uptime/Stat Expiry
Interface State: Interface (TTL)

(192.168.100.2, 239.1.1.5), uptime 00:02:26, stat expires 00:01:04
Owner PIM-DM, Flags: TF
  Incoming interface: vlan1
  Outgoing interface list:
    vlan2 (1)

SWX3200#show ip mroute 239.1.1.5 192.168.100.2

IP Multicast Routing Table
Flags: I - Immediate Stat, T - Timed Stat, F - Forwarder installed
Timers: Uptime/Stat Expiry
Interface State: Interface (TTL)

(192.168.100.2, 239.1.1.5), uptime 00:03:03, stat expires 00:00:27
Owner PIM-DM, Flags: TF
  Incoming interface: vlan1
  Outgoing interface list:
    vlan2 (1)

SWX3200#show ip mroute 239.1.1.5 count

IP Multicast Statistics
Total 3 routes using 372 bytes memory
Route limit/Route threshold: 2048/2048
Total NOCACHE/WRONGVIF/WHOLEPKT rcv from fwd: 116/0/0
Total NOCACHE/WRONGVIF/WHOLEPKT sent to clients: 116/0/0
Immediate/Timed stat updates sent to clients: 0/69
Reg ACK rcv/Reg NACK rcv/Reg pkt sent: 0/0/0
Next stats poll: 00:00:27

Forwarding Counts: Pkt count/Byte count, Other Counts: Wrong If pkts
Fwd msg counts: WRONGVIF/WHOLEPKT rcv
Client msg counts: WRONGVIF/WHOLEPKT/Imm Stat/Timed Stat sent
Reg pkt counts: Reg ACK rcv/Reg NACK rcv/Reg pkt sent

(192.168.100.2, 239.1.1.5), Forwarding: 2/1, Other: 0
  Fwd msg: 0/0, Client msg: 0/0/0/0, Reg: 0/0/0

SWX3200#show ip mroute 239.1.1.5 summary

IP Multicast Routing Table
Flags: I - Immediate Stat, T - Timed Stat, F - Forwarder installed
Timers: Uptime/Stat Expiry
Interface State: Interface (TTL)

(192.168.100.2, 239.1.1.5), 00:04:28/00:02:10, PIM-DM, Flags: TF

```

## 8.1.6 IP マルチキャスト用仮想インターフェース情報の表示

### [書式]

```
show ip mvif ifname
```

### [パラメーター]

*ifname* : インターフェース名

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

IP マルチキャスト用仮想インターフェースの情報を表示する。

**[設定例]**

IP マルチキャスト用仮想インターフェースの情報を表示する。

```
SWX3200#show ip mvif
Interface Vif Owner TTL Local Remote Uptime
         Idx Module Address Address
         vlan1 1 PIM-DM 1 192.168.100.100 0.0.0.0 00:00:05
         vlan2 2 PIM-DM 1 192.168.200.100 0.0.0.0 00:38:25

SWX3200#show ip mvif vlan1
Interface Vif Owner TTL Local Remote Uptime
         Idx Module Address Address
vlan1      1 PIM-DM 1 192.168.100.100 0.0.0.0 00:00:44
```

## 8.1.7 RPF 情報の表示

---

**[書式]**

**show ip rpf *source***

**[パラメーター]**

*source* : マルチキャスト送信者の IPv4 アドレス (A.B.C.D)

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

指定したマルチキャスト送信者の IPv4 アドレスの RPF (Reverse Path Forwarding) 情報を表示する。

**[設定例]**

マルチキャスト送信者の IPv4 アドレス 192.168.100.2 の RPF (Reverse Path Forwarding) 情報を表示する。

```
SWX3200#show ip rpf 192.168.100.2
RPF information for 192.168.100.2
RPF interface: vlan1
RPF neighbor: 0.0.0.0
RPF route: 192.168.100.0/24
RPF type: unicast (connected)
RPF recursion count: 0
Doing distance-preferred lookups across tables
Distance: 0
Metric: 0
```

## 8.1.8 IP マルチキャスト経路表のエントリーの削除

---

**[書式]**

**clear ip mroute *group* [*source*]**

**clear ip mroute statistics *group* [*source*]**

**[キーワード]**

*statistics* : マルチキャスト経路の統計情報を削除する。

**[パラメーター]**

*group* : マルチキャストグループアドレス (A.B.C.D)

"\*" は全エントリー

*source* : マルチキャスト送信者の IPv4 アドレス (A.B.C.D)

**[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

IP マルチキャスト経路表から指定したエントリを削除する。

**[設定例]**

マルチキャストグループ 225.1.1.1 を IP マルチキャスト経路表から削除する。

```
SWX3200# clear ip mroute 225.1.1.1
```

**8.1.9 未知のマルチキャストフレームの処理方法の設定****[書式]****l2-unknown-mcast mode****[パラメーター]***mode* : マルチキャストフレームの処理方法

設定値	説明
discard	破棄する
flood	フラッディングする

**[初期設定]**

l2-unknown-mcast flood

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

MAC アドレステーブルに登録されていないマルチキャストフレームの処理方法を設定する。

**[設定例]**

未知のマルチキャストを破棄する。

```
SWX3200(config)#l2-unknown-mcast discard
```

**8.1.10 未知のマルチキャストフレームの処理方法の設定(インターフェース)****[書式]****l2-unknown-mcast mode****no l2-unknown-mcast****[パラメーター]***mode* : マルチキャストフレームの処理方法

設定値	説明
discard	破棄する
flood	フラッディングする

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

VLAN インターフェースで受信した MAC アドレステーブルに登録されていないマルチキャストフレームの処理方法を設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻り、システム全体の未知のマルチキャストフレーム処理方法の設定に従う。

**[ノート]**

本コマンドは VLAN インターフェースにのみ設定できる。

本コマンドはシステム全体の未知のマルチキャストフレーム処理方法の設定より優先される。

**[設定例]**

VLAN #1 で受信した MAC アドレステーブルに登録されていないマルチキャストフレームを破棄する。

```
SWX3200(config)#interface vlan1
SWX3200(config-if)#l2-unknown-mcast discard
```

**8.1.11 リンクローカルマルチキャストフレームの転送設定**

---

**[書式]**

```
l2-unknown-mcast forward link-local
no l2-unknown-mcast forward link-local
```

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

l2-unknown-mcast discard を設定しているとき、リンクローカルマルチキャストアドレスのフレームを破棄せずに転送する。

no 形式で実行した場合は、指定した設定を削除する。

**[ノート]**

本コマンドにおける、リンクローカルマルチキャストアドレスは以下の範囲とする。

- IPv4: 224.0.0.0/24
- IPv6: ff02::/112

IPv4 マルチキャストアドレスを指定する形式は廃止された。この形式が含まれるコンフィグを読み込んだ場合は自動的に **l2-mcast flood** コマンドに置き換えられる。

**[設定例]**

リンクローカルマルチキャストアドレスのフレームを未知のマルチキャストとして破棄せずに転送する。

```
SWX3200(config)#l2-unknown-mcast discard
SWX3200(config)#l2-unknown-mcast forward link-local
```

**8.1.12 マルチキャストフレームの転送設定**

---

**[書式]**

```
l2-mcast flood ipv4_addr
no l2-mcast flood ipv4_addr
```

**[パラメーター]**

```
ipv4_addr      : A.B.C.D
                  IPv4 マルチキャストアドレス
```

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

VLAN インターフェースで受信したマルチキャスト通信の中で宛先が指定した IPv4 マルチキャストアドレスのフレームをフラグディングする。

本コマンドはシステム全体で 100 個まで設定ができる。

no 形式で実行した場合は、指定した IPv4 マルチキャストアドレスの設定を削除する。

また、IPv4 マルチキャストアドレスを省略した場合は、すべての設定を削除する。

#### [ノート]

本コマンドは VLAN インターフェースにのみ設定できる。

本コマンドで指定された IPv4 マルチキャストアドレスは IGMP スヌーピングの対象外となる。

#### [設定例]

VLAN #1 で受信した宛先 IPv4 アドレスが 224.0.0.251 のフレームをフラディングする。

```
SWX3200(config)#interface vlan1
SWX3200(config-if)#l2-mcast flood 224.0.0.251
```

## 8.1.13 トポロジー変更時の IGMP/MLD クエリー送信機能の有効/無効設定

#### [書式]

**l2-mcast snooping tcn-query enable *time***

**l2-mcast snooping tcn-query disable**

**no l2-mcast snooping tcn-query**

#### [パラメーター]

*time* : <1-30>  
IGMP/MLD クエリー送信待ち時間(秒)

#### [初期設定]

l2-mcast snooping tcn-query disable

#### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

#### [説明]

スパニングツリーによるトポロジー変更時に、クエリアーが IGMP/MLD クエリーを送信する機能の動作を設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

IGMP/MLD スヌーピングとスパニングツリーを併用した際に、トポロジー変更によってマルチキャスト通信が一時的に途絶えることがあるが、本機能を使用すればこの期間を短縮することができる。

有効にした場合は、トポロジー変更を検出すると、指定された時間待ったあとに IGMP/MLD クエリーを送信する。

無効にした場合は、トポロジー変更があっても IGMP/MLD クエリーを送信しない。

#### [設定例]

トポロジー変更時の IGMP/MLD クエリー送信を有効にし、待ち時間を 5 秒に設定する。

```
SWX3200(config)#l2-mcast snooping tcn-query enable 5
```

トポロジー変更時の IGMP/MLD クエリー送信を無効にする。

```
SWX3200(config)#l2-mcast snooping tcn-query disable
```

## 8.2 IGMP スヌーピング

### 8.2.1 IGMP スヌーピングの有効/無効設定

#### [書式]

**ip igmp snooping *switch***

**no ip igmp snooping**

#### [パラメーター]

*switch* : IGMP スヌーピングの動作

設定値	説明
enable	IGMP スヌーピングを有効にする
disable	IGMP スヌーピングを無効にする

**[初期設定]**

```
ip igmp snooping enable
```

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

インターフェースの IGMP スヌーピングの動作を設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

**[ノート]**

本コマンドは VLAN インターフェースにのみ設定できる。

**[設定例]**

VLAN #2 の IGMP スヌーピングを有効にする。

```
SWX3200#configure terminal
SWX3200(config)#interface vlan2
SWX3200(config-if)#ip igmp snooping enable
```

VLAN #2 の IGMP スヌーピングを無効にする。

```
SWX3200#configure terminal
SWX3200(config)#interface vlan2
SWX3200(config-if)#ip igmp snooping disable
```

**8.2.2 IGMP スヌーピング高速脱退の設定**

---

**[書式]**

```
ip igmp snooping fast-leave
no ip igmp snooping fast-leave
```

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

インターフェースの IGMP スヌーピング高速脱退を有効にする。

no 形式で実行すると、IGMP スヌーピング高速脱退を無効にする。

**[ノート]**

本コマンドは VLAN インターフェースにのみ設定できる。

本コマンドは、LAN/SFP ポートに複数のホストが接続されている VLAN インターフェースでは有効化しないこと。

**[設定例]**

VLAN #2 の IGMP スヌーピング高速脱退を有効にする。

```
SWX3200#configure terminal
SWX3200(config)#interface vlan2
SWX3200(config-if)#ip igmp snooping fast-leave
```

VLAN #2 の IGMP スヌーピング高速脱退を無効にする。

```
SWX3200#configure terminal
SWX3200(config)#interface vlan2
SWX3200(config-if)#no ip igmp snooping fast-leave
```

**8.2.3 マルチキャストルーターの接続先の設定**

---

**[書式]**

```
ip igmp snooping mrouter interface ifname
no ip igmp snooping mrouter interface ifname
```

**[パラメーター]**

*ifname* : LAN/SFP ポートのインターフェース名



## 設定するインターフェース

## [初期設定]

なし

## [入力モード]

インターフェースモード

## [説明]

マルチキャストルーターが接続されている LAN/SFP ポートを静的に設定する。

no 形式で実行すると、設定を破棄する。

## [ノート]

本コマンドは VLAN インターフェースにのみ設定できる。

設定した LAN/SFP ポートには、マルチキャストルーターが接続されていること。レシーバーから IGMP レポートを受信すると、設定した LAN/SFP ポートに転送する。

## [設定例]

マルチキャストルーターの接続先として LAN ポート #8 を設定する。

```
SWX3200#configure terminal
SWX3200(config)#interface vlan2
SWX3200(config-if)#ip igmp snooping mrouter interface port1.8
```

マルチキャストルーターの接続先から LAN ポート #8 を外す。

```
SWX3200#configure terminal
SWX3200(config)#interface vlan2
SWX3200(config-if)#no ip igmp snooping mrouter interface port1.8
```

## 8.2.4 クエリー送信機能の設定

---

## [書式]

**ip igmp snooping querier****no ip igmp snooping querier**

## [初期設定]

なし

## [入力モード]

インターフェースモード

## [説明]

IGMP クエリー送信機能を有効にする。

no 形式で実行すると、IGMP クエリー送信機能を無効にする。

## [ノート]

本コマンドは VLAN インターフェースにのみ設定できる。

本機能を有効にしたまま IP アドレスを変更すると、変更後に正しい IP アドレスでクエリーを送信しなくなるので注意すること。

## [設定例]

VLAN #2 の送信機能を有効にする。

```
SWX3200#configure terminal
SWX3200(config)#interface vlan2
SWX3200(config-if)#ip igmp snooping querier
```

VLAN #2 の送信機能を無効にする。

```
SWX3200#configure terminal
SWX3200(config)#interface vlan2
SWX3200(config-if)#no ip igmp snooping querier
```

## 8.2.5 IGMP クエリー送信間隔の設定

---

## [書式]

**ip igmp snooping query-interval *interval***

**no ip igmp snooping query-interval**

## [パラメーター]

*interval* : <20-18000>  
クエリー送信間隔(秒)

## [初期設定]

```
ip igmp snooping query-interval 125
```

## [入力モード]

インターフェースモード

## [説明]

IGMP クエリーの送信間隔を設定する。

no 形式で実行すると、IGMP クエリーの送信間隔を初期設定に戻す。

## [ノート]

本コマンドは VLAN インターフェースにのみ設定できる。

## [設定例]

VLAN #2 のクエリー送信間隔を 30 秒に設定する。

```
SWX3200#configure terminal
SWX3200(config)#interface vlan2
SWX3200(config-if)#ip igmp snooping query-interval 30
```

VLAN #2 のクエリー送信間隔を初期値に戻す。

```
SWX3200#configure terminal
SWX3200(config)#interface vlan2
SWX3200(config-if)#no ip igmp snooping query-interval
```

**8.2.6 IGMP パケットの TTL 値検証機能の設定**

## [書式]

**ip igmp snooping check ttl *switch***

**no ip igmp snooping check ttl**

## [パラメーター]

*switch* : IGMP パケットの TTL 値検証機能

設定値	説明
enable	有効にする
disable	無効にする

## [初期設定]

```
ip igmp snooping check ttl enable
```

## [入力モード]

インターフェースモード

## [説明]

IGMP パケットの TTL 値検証機能を設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

有効にした場合は、IP ヘッダーの TTL 値が不正(1 以外)な IGMP パケットを破棄する。

無効にした場合は、当該パケットを破棄せず、TTL 値を 1 に補正して転送する。

## [ノート]

本コマンドは VLAN インターフェースにのみ設定できる。

## [設定例]

VLAN #2 で IGMP パケットの TTL 値検証機能を有効にする。

```
SWX3200#configure terminal
SWX3200(config)#interface vlan2
SWX3200(config-if)#ip igmp snooping check ttl enable
```

VLAN #2 で IGMP パケットの TTL 値検証機能を無効にする。

```
SWX3200#configure terminal
SWX3200(config)#interface vlan2
SWX3200(config-if)#ip igmp snooping check ttl disable
```

## 8.2.7 IGMP バージョンの設定

### [書式]

```
ip igmp snooping version version
no ip igmp snooping version
```

### [パラメーター]

*version* : <2-3>  
IGMP バージョン

### [初期設定]

```
ip igmp snooping version 3
```

### [入力モード]

インターフェイスモード

### [説明]

IGMP のバージョンを設定する。

no 形式で実行すると、IGMP バージョンを初期設定(V3)に戻す。

### [ノート]

本コマンドは VLAN インターフェイスにのみ設定できる。

設定と異なるバージョンの IGMP パケットを受信した場合、以下の動作となる。

- V2 設定時
  - V3 クエリーを受信した場合、V2 クエリーとして転送
  - V3 レポートを受信した場合、破棄
- V3 設定時
  - V2 クエリーを受信した場合、V2 クエリーとして転送
  - V2 レポートを受信した場合、V3 レポートとして転送

### [設定例]

VLAN #2 で IGMP バージョンを 2 に設定する。

```
SWX3200#configure terminal
SWX3200(config)#interface vlan2
SWX3200(config-if)#ip igmp snooping version 2
```

VLAN #2 で IGMP バージョンを初期値に戻す。

```
SWX3200#configure terminal
SWX3200(config)#interface vlan2
SWX3200(config-if)#no ip igmp snooping version
```

## 8.2.8 IGMP レポート抑制機能の設定

### [書式]

```
ip igmp snooping report-suppression switch
no ip igmp snooping report-suppression
```

### [パラメーター]

*switch* : IGMP レポート抑制機能

設定値	説明
enable	有効にする
disable	無効にする

**[初期設定]**

```
ip igmp snooping report-suppression enable
```

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

IGMP レポート抑制機能を設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

有効にした場合は、受信した Report メッセージや Leave メッセージから得た情報をもとに、最小限のメッセージをマルチキャストルーターポートへ送信する。

無効にした場合は、受信した Report メッセージや Leave メッセージを逐次マルチキャストルーターポートへ転送する。

**[ノート]**

本コマンドは VLAN インターフェースにのみ設定できる。

**[設定例]**

VLAN #2 で IGMP レポート抑制機能を有効にする。

```
SWX3200#configure terminal
SWX3200(config)#interface vlan2
SWX3200(config-if)#ip igmp snooping report-suppression enable
```

VLAN #2 で IGMP レポート抑制機能を無効にする。

```
SWX3200#configure terminal
SWX3200(config)#interface vlan2
SWX3200(config-if)#ip igmp snooping report-suppression disable
```

## 8.2.9 マルチキャストルーターポートへのデータ転送抑制機能の設定

**[書式]**

```
ip igmp snooping mrouter-port data-suppression switch
```

```
no ip igmp snooping mrouter-port data-suppression
```

**[パラメーター]**

*switch* : マルチキャストルーターポートへのデータ転送抑制機能

設定値	説明
enable	有効にする
disable	無効にする

**[初期設定]**

```
ip igmp snooping mrouter-port data-suppression disable
```

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

マルチキャストルーターポートへのデータ転送抑制機能を設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

有効にした場合は、マルチキャストルーターポートで Report メッセージを受信した場合のみ該当データをマルチキャストルーターポートへ転送する。

無効にした場合は、いずれかのポートで Report メッセージを受信していれば、該当データはマルチキャストルーターポートにも転送される。

**[ノート]**

本コマンドは VLAN インターフェースにのみ設定できる。

**[設定例]**

VLAN #2 でマルチキャストルーターポートへのデータ転送抑制機能を有効にする。

```
SWX3200#configure terminal
SWX3200(config)#interface vlan2
SWX3200(config-if)#ip igmp snooping mrouter-port data-suppression enable
```

VLAN #2 でマルチキャストルーターポートへのデータ転送抑制機能を無効にする。

```
SWX3200#configure terminal
SWX3200(config)#interface vlan2
SWX3200(config-if)#ip igmp snooping mrouter-port data-suppression disable
```

**8.2.10 マルチキャストルーター接続ポート情報の表示****[書式]**

```
show ip igmp snooping mrouter ifname
```

**[パラメーター]**

*ifname* : VLAN インターフェース名  
表示するインターフェース

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

動的に学習された、または静的に設定したマルチキャストルーター接続ポート情報を表示する。

**[設定例]**

VLAN #2 のマルチキャストルーター接続ポートの情報を表示する。

```
SWX3200#show ip igmp snooping mrouter vlan2
VLAN   Interface          IP-address    Expires
2      port1.8 (dynamic)  192.168.100.216  00:00:49
```

**8.2.11 IGMP グループメンバーシップ情報の表示****[書式]**

```
show ip igmp snooping groups [detail]
show ip igmp snooping groups A.B.C.D [detail]
show ip igmp snooping groups ifname [detail]
```

**[キーワード]**

detail : 詳細情報

**[パラメーター]**

*A.B.C.D* : マルチキャストグループアドレス

*ifname* : VLAN インターフェース名  
表示するインターフェース

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

IGMP グループメンバーシップ情報を表示する。

**[設定例]**

IGMP グループメンバーシップの情報を表示する。

```
SWX3200#show ip igmp snooping groups
IGMP Snooping Group Membership
Group source list: (R - Remote, S - Static)
Vlan  Group/Source Address  Interface  Flags  Uptime  Expires  Last
```

```
Reporter   Version
1         239.255.255.250      port1.5      R      01:06:02      00:03:45
192.168.100.11   V3
```

IGMP グループメンバーシップの詳細情報を表示する。

```
SWX3200#show ip igmp snooping groups detail
IGMP Snooping Group Membership Details
Flags: (R - Remote, S - Static)

Interface:      port1.5
Group:          239.255.255.250
Flags:         R
Uptime:        01:07:10
Group mode:    Exclude (Expires: 00:04:13)
Last reporter: 192.168.100.11
Source list is empty
```

## 8.2.12 インターフェースの IGMP 関連情報を表示

### [書式]

```
show ip igmp snooping interface ifname
```

### [パラメーター]

*ifname* : VLAN インターフェース名  
表示するインターフェース

### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

### [説明]

VLAN インターフェースの IGMP 関連情報を表示する。

### [設定例]

VLAN #1 の IGMP 関連情報を表示する。

```
SWX3200#show ip igmp snooping interface vlan1

IGMP Snooping information for vlan1
IGMP Snooping enabled
Snooping Querier none
IGMP Snooping other querier timeout is 255 seconds
Group Membership interval is 260 seconds
IGMPv2/v3 fast-leave is disabled
IGMPv1/v2 Report suppression enabled
IGMPv3 Report suppression enabled
IGMP Snooping check TTL is enabled
IGMP Snooping Mrouter-port Data suppression enabled
Router port detection using IGMP Queries
Number of router-ports: 1
Number of Groups: 1
Number of v1-reports: 0
Number of v2-reports: 6
Number of v2-leaves: 0
Number of v3-reports: 127
Active Ports:
  port1.5
  port1.8
```

## 8.2.13 IGMP グループメンバーシップのエントリ削除

### [書式]

```
clear ip igmp snooping
clear ip igmp snooping group A.B.C.D
clear ip igmp snooping interface ifname
```

### [キーワード]

group : 削除するマルチキャストグループアドレスを指定する

interface : 削除する VLAN インターフェースを指定する

#### [パラメーター]

A.B.C.D : マルチキャストグループアドレス  
 "\*"は全エントリー

ifname : VLAN インターフェース名  
 削除するインターフェース

#### [入力モード]

特権 EXEC モード

#### [説明]

IGMP グループメンバーシップのエントリを削除する。

#### [設定例]

VLAN #1 の IGMP グループメンバーシップのエントリを削除する。

```
SWX3200#clear ip igmp snooping interface vlan1
```

## 8.3 MLD スヌーピング

### 8.3.1 MLD スヌーピングの有効/無効設定

#### [書式]

```
ipv6 mld snooping switch
no ipv6 mld snooping
```

#### [パラメーター]

switch : MLD スヌーピングの動作

設定値	説明
enable	MLD スヌーピングを有効にする
disable	MLD スヌーピングを無効にする

#### [初期設定]

```
ipv6 mld snooping enable
```

#### [入力モード]

インターフェースモード

#### [説明]

インターフェースの MLD スヌーピングの動作を設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

#### [ノート]

本コマンドは VLAN インターフェースにのみ設定できる。

#### [設定例]

VLAN #2 の MLD スヌーピングを有効にする。

```
SWX3200#configure terminal
SWX3200(config)#interface vlan2
SWX3200(config-if)#ipv6 mld snooping enable
```

VLAN #2 の MLD スヌーピングを無効にする。

```
SWX3200#configure terminal
SWX3200(config)#interface vlan2
SWX3200(config-if)#ipv6 mld snooping disable
```

### 8.3.2 MLD スヌーピング高速脱退の設定

---

**[書式]**

```
ipv6 mld snooping fast-leave
no ipv6 mld snooping fast-leave
```

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

インターフェースの MLD スヌーピング高速脱退を有効にする。

no 形式で実行すると、MLD スヌーピング高速脱退を無効にする。

**[ノート]**

本コマンドは VLAN インターフェースにのみ設定できる。また、MLD スヌーピングが有効な場合のみ設定できる。

本コマンドは、LAN/SFP ポートに複数のホストが接続されている VLAN インターフェースでは有効化しないこと。

**[設定例]**

VLAN #2 の MLD スヌーピング高速脱退を有効にする。

```
SWX3200#configure terminal
SWX3200(config)#interface vlan2
SWX3200(config-if)#ipv6 mld snooping fast-leave
```

VLAN #2 の MLD スヌーピング高速脱退を無効にする。

```
SWX3200#configure terminal
SWX3200(config)#interface vlan2
SWX3200(config-if)#no ipv6 mld snooping fast-leave
```

### 8.3.3 マルチキャストルーターの接続先の設定

---

**[書式]**

```
ipv6 mld snooping mrouter interface ifname
no ipv6 mld snooping mrouter interface ifname
```

**[パラメーター]**

*ifname* : LAN/SFP ポートのインターフェース名  
設定するインターフェース

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

マルチキャストルーターが接続されている LAN/SFP ポートを静的に設定する。

no 形式で実行すると、設定を破棄する。

**[ノート]**

本コマンドは VLAN インターフェースにのみ設定できる。また、MLD スヌーピングが有効な場合のみ設定できる。

設定した LAN/SFP ポートには、マルチキャストルーターが接続されていること。レシーバーから MLD レポートを受信すると、設定した LAN/SFP ポートに転送する。

**[設定例]**

マルチキャストルーターの接続先として LAN ポート #8 を設定する。

```
SWX3200#configure terminal
SWX3200(config)#interface vlan2
SWX3200(config-if)#ipv6 mld snooping mrouter interface port1.8
```

マルチキャストルーターの接続先から LAN ポート #8 を外す。



```
SWX3200#configure terminal
SWX3200(config)#interface vlan2
SWX3200(config-if)#no ipv6 mld snooping mrouter interface port1.8
```

### 8.3.4 クエリー送信機能の設定

#### [書式]

```
ipv6 mld snooping querier
no ipv6 mld snooping querier
```

#### [初期設定]

なし

#### [入力モード]

インターフェースモード

#### [説明]

MLD クエリー送信機能を有効にする。

no 形式で実行すると、MLD クエリー送信機能を無効にする。

#### [ノート]

本コマンドは VLAN インターフェースにのみ設定できる。また、MLD スヌーピングが有効な場合のみ設定できる。本機能を使用する場合は必ず **ipv6 enable** コマンドをいずれかの VLAN インターフェースに設定すること。 **ipv6 enable** コマンドが設定されていない場合、MLD クエリーは送信されないので注意すること。

#### [設定例]

VLAN #2 の MLD クエリー送信機能を有効にする。

```
SWX3200#configure terminal
SWX3200(config)#interface vlan2
SWX3200(config-if)#ipv6 mld snooping querier
```

VLAN #2 の MLD クエリー送信機能を無効にする。

```
SWX3200#configure terminal
SWX3200(config)#interface vlan2
SWX3200(config-if)#no ipv6 mld snooping querier
```

### 8.3.5 MLD クエリー送信間隔の設定

#### [書式]

```
ipv6 mld snooping query-interval interval
no ipv6 mld snooping query-interval
```

#### [パラメーター]

*interval* : <20-18000>  
クエリー送信間隔(秒)

#### [初期設定]

ipv6 mld snooping query-interval 125

#### [入力モード]

インターフェースモード

#### [説明]

MLD クエリーの送信間隔を設定する。

no 形式で実行すると、MLD クエリーの送信間隔を初期設定に戻す。

#### [ノート]

本コマンドは VLAN インターフェースにのみ設定できる。また、MLD スヌーピングが有効な場合のみ設定できる。

#### [設定例]

VLAN #2 のクエリー送信間隔を 30 秒に設定する。

```
SWX3200#configure terminal
SWX3200 (config)#interface vlan2
SWX3200 (config-if)#ipv6 mld snooping query-interval 30
```

VLAN #2 のクエリー送信間隔を初期値に戻す。

```
SWX3200#configure terminal
SWX3200 (config)#interface vlan2
SWX3200 (config-if)#no ipv6 mld snooping query-interval
```

### 8.3.6 MLD バージョンの設定

#### [書式]

**ipv6 mld snooping version** *version*

**no ipv6 mld snooping version**

#### [パラメーター]

*version* : <1-2>  
MLD バージョン

#### [初期設定]

ipv6 mld snooping version 2

#### [入力モード]

インターフェイスモード

#### [説明]

MLD のバージョンを設定する。

no 形式で実行すると、MLD バージョンを初期設定(V2)に戻す。

#### [ノート]

本コマンドは VLAN インターフェイスにのみ設定できる。また、MLD スヌーピングが有効な場合のみ設定できる。設定と異なるバージョンの MLD パケットを受信した場合、以下の動作となる。

- V1 設定時
  - V2 クエリーを受信した場合、V1 クエリーとして転送
  - V2 レポートを受信した場合、破棄
- V2 設定時
  - V1 クエリーを受信した場合、V1 クエリーとして転送
  - V1 レポートを受信した場合、V2 レポートとして転送

#### [設定例]

VLAN #2 で MLD バージョンを 1 に設定する。

```
SWX3200#configure terminal
SWX3200 (config)#interface vlan2
SWX3200 (config-if)#ipv6 mld snooping version 1
```

VLAN #2 で MLD バージョンを初期値に戻す。

```
SWX3200#configure terminal
SWX3200 (config)#interface vlan2
SWX3200 (config-if)#no ipv6 mld snooping version
```

### 8.3.7 マルチキャストルーター接続ポート情報の表示

#### [書式]

**show ipv6 mld snooping mrouter** *ifname*

#### [パラメーター]

*ifname* : VLAN インターフェイス名  
表示するインターフェイス

#### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

動的に学習された、または静的に設定したマルチキャストルーター接続ポート情報を表示する。

**[設定例]**

VLAN #2 のマルチキャストルーター接続ポートの情報を表示する。

```
SWX3200#show ipv6 mld snooping mrouter vlan2
VLAN      Interface                IP-address      Expires
2         port1.11 (dynamic)        fe80::ae44:f2ff:fe30:291  00:01:04
```

**8.3.8 MLD グループメンバーシップ情報の表示****[書式]**

```
show ipv6 mld snooping groups [detail]
show ipv6 mld snooping groups X:X::X:X [detail]
show ipv6 mld snooping groups ifname [detail]
```

**[キーワード]**

detail : 詳細情報

**[パラメーター]**

X:X::X:X : マルチキャストグループアドレス

ifname : VLAN インターフェース名  
表示するインターフェース

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

MLD グループメンバーシップ情報を表示する。

**[設定例]**

MLD グループメンバーシップの情報を表示する。

```
SWX3200#show ipv6 mld snooping groups
MLD Connected Group Membership
Group Address                Interface                Uptime    Expires    Last
Reporter
ff15::1                      port1.3                 00:00:44 00:01:07
fe80::a00:27ff:fe8b:87e3
```

MLD グループメンバーシップの詳細情報を表示する。

```
SWX3200#show ipv6 mld snooping groups detail
MLD Snooping Group Membership Details
Flags: (R - Remote, S - Static)

Interface:    port1.3
Group:        ff15::1
Uptime:       00:00:03
Group mode:   Include ()
Last reporter: fe80::a00:27ff:fe8b:87e3
Group source list: (R - Remote, M - SSM Mapping, S - Static )
Source Address                Uptime    v2 Exp    Fwd  Flags
fe80::221:70ff:fef9:8a39     00:00:03  00:01:06  Yes  R
```

**8.3.9 インターフェースの MLD 関連情報を表示****[書式]**

```
show ipv6 mld snooping interface ifname
```

**[パラメーター]**

ifname : VLAN インターフェース名  
表示するインターフェース

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

VLAN インターフェースの MLD 関連情報を表示する。

**[設定例]**

VLAN #1 の MLD 関連情報を表示する。

```
SWX3200#show ipv6 mld snooping interface vlan1

MLD Snooping information for vlan1
MLD Snooping enabled
Snooping Querier none
MLD Snooping other querier timeout is 255 seconds
Group Membership interval is 260 seconds
MLDv1 fast-leave is disabled
MLDv1 Report suppression enabled
MLDv2 Report suppression enabled
Router port detection using MLD Queries
Number of router-ports: 0
Number of Groups: 0
Number of v1-reports: 0
Number of v1-leaves: 0
Number of v2-reports: 12
Active Ports:
  port1.8
```

**8.3.10 MLD グループメンバーシップのエントリー削除****[書式]**

```
clear ipv6 mld snooping
clear ipv6 mld snooping group X:X::X:X
clear ipv6 mld snooping interface ifname
```

**[キーワード]**

group : 削除するマルチキャストグループアドレスを指定する  
interface : 削除する VLAN インターフェースを指定する

**[パラメーター]**

X:X::X:X : マルチキャストグループアドレス  
"\*"は全エントリー  
ifname : VLAN インターフェース名  
削除するインターフェース

**[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

MLD グループメンバーシップのエントリーを削除する。

**[設定例]**

VLAN #1 の MLD グループメンバーシップのエントリーを削除する。

```
SWX3200#clear ipv6 mld snooping interface vlan1
```

**8.4 PIM****8.4.1 PIM 動作モードの設定****[書式]**

```
ip pim mode [passive]
no ip pim mode [passive]
```

**[キーワード]**

`passive` : 対象インターフェースをパッシブインターフェースに指定する。

**[パラメーター]**

`mode` : PIM 動作モード

設定値	説明
<code>dense-mode</code>	PIM-DM を有効にする。
<code>sparse-mode</code>	PIM-SM を有効にする。

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

対象インターフェースで、`dense-mode` 指定時は PIM-DM を、`sparse-mode` 指定時は PIM-SM を有効にする。

`no` 形式で実行した場合は無効にする。

すべての VLAN インターフェースで同じ動作モードを使用する必要がある。

パッシブインターフェースに指定した場合、マルチキャストパケットの転送は行うが、PIM メッセージの送受信は行わない。

**[ノート]**

PIM-DM および PIM-SM を有効にする場合は、`ip multicast-routing` コマンドでマルチキャストルーティングを有効にすること。また、本コマンドを設定することで自動的に IGMP は有効になるが、IGMP 機能と IGMP スヌーピング機能も明示的に有効にすることを推奨する。

**[設定例]**

VLAN #2 で PIM-DM を有効にする。

```
SWX3200(config)#interface vlan2
SWX3200(config-if)# ip pim dense-mode
SWX3200(config-if)# ip igmp
```

VLAN #2 で PIM-SM を有効にする。

```
SWX3200(config)#interface vlan2
SWX3200(config-if)# ip pim sparse-mode
SWX3200(config-if)# ip igmp
```

**8.4.2 Hello メッセージの送信間隔の設定****[書式]**

`ip pim hello-interval interval`

`no ip pim hello-interval`

**[パラメーター]**

`interval` : <1-18724>

PIM Hello メッセージの送信間隔 (秒)

**[初期設定]**

`ip pim hello-interval 30`

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

PIM-SM および PIM-DM が有効になっている対象インターフェースで、Hello メッセージの送信間隔である Hello Period の値を設定する。

no 形式で実行した場合は、初期値に戻る。

#### [ノート]

**ip pim hello-holdtime** コマンドによる Hello メッセージの保持時間 Hello Holdtime の設定が存在しない場合、Hello Holdtime は (Hello Period × 3.5) 秒となる。

また、本コマンドで Hello Period の設定値を変更した結果、Hello Holdtime が Hello Period より小さくなった場合、Hello Holdtime は (Hello Period × 3.5) 秒に更新される。

#### [設定例]

Hello メッセージの送信間隔 を 20 秒に設定する。

```
SWX3200(config)#interface vlan2
SWX3200(config-if)#ip pim hello-interval 20
```

### 8.4.3 Hello メッセージの保持時間の設定

---

#### [書式]

```
ip pim hello-holdtime time
no ip pim hello-holdtime
```

#### [パラメーター]

*time* : <1-65535> (秒)

#### [初期設定]

なし

#### [入力モード]

インターフェースモード

#### [説明]

PIM-SM および PIM-DM が有効になっている対象インターフェースで、受信した Hello メッセージを保持する時間を設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

初期値は (Hello Period × 3.5) であり、Hello Period が初期値の 30 秒の場合、Hello Holdtime の初期値は 105 秒となる。

#### [ノート]

Hello Period の値は **ip pim hello-interval** コマンドで変更可能。

Hello Period の設定値を変更したことにより、Hello Holdtime が Hello Period より小さくなった場合、(Hello Period × 3.5) 秒に更新される。

#### [設定例]

Hello メッセージを保持する時間を 120 秒に設定する。

```
SWX3200(config)#interface vlan2
SWX3200(config-if)#ip pim hello-holdtime 120
```

### 8.4.4 PIM ネイバーフィルターの設定

---

#### [書式]

```
ip pim_neighbor-filter listnum
no ip_pim_neighbor-filter listnum
```

#### [パラメーター]

*listnum* : <1-2000>  
IPv4 アクセスリストの ID

#### [初期設定]

なし

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

PIM-SM および PIM-DM が有効になっている対象インターフェースで、IPv4 アクセスリストを適用することで、特定の PIM ルーターと隣接関係を形成しないようにする。

no 形式で実行した場合は、PIM ネイバーフィルターの設定を削除する。

**[ノート]**

IPv4 アクセスリストは、PIM ネイバーの隣接関係を形成する場合は **permit** を、形成しない場合は **deny** を指定すること。

**[設定例]**

IP アドレスが 192.168.1.10 の PIM ルーターと隣接関係を形成しないようにする。

```
SWX3200(config)#interface vlan1
SWX3200(config-if)#ip pim neighbor-filter 10
SWX3200(config-if)#exit
SWX3200(config)#access-list 10 deny any 192.168.1.10 0.0.0.0 any
SWX3200(config)#access-list 10 permit any any any
```

## 8.4.5 Generation ID の設定

---

**[書式]**

```
ip pim exclude-genid
no ip pim exclude-genid
```

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

Hello メッセージに GenID (Generation ID) を含めないようにする。

no 形式で実行した場合は、PIM Hello メッセージに GenID を含める。

**[設定例]**

Hello メッセージに GenID を含めないようにする。

```
SWX3200(config)#interface vlan2
SWX3200(config-if)#ip pim exclude-genid
```

## 8.4.6 DR 優先度の設定

---

**[書式]**

```
ip pim dr-priority priority
no ip pim dr-priority [priority]
```

**[パラメーター]**

*priority* : <0-4294967294>  
DR 優先度

**[初期設定]**

```
ip pim dr-priority 1
```

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

対象インターフェースで、DR ( Designated Router ) 優先度を設定する。

複数の PIM-SM ルーターが同一の LAN に存在する場合、DR 優先度が最も大きい PIM-SM ルーターが代表ルーター (DR) となる。

no 形式で実行した場合は、初期設定に戻る。

#### [設定例]

DR 優先度を 2 に設定する。

```
SWX3200(config)#interface vlan2
SWX3200(config-if)#ip pim dr-priority 2
```

## 8.4.7 静的 RP の設定

#### [書式]

```
ip pim rp-address address [listnum]
no ip pim rp-address address [listnum]
```

#### [パラメーター]

*address* : RP の IP アドレス (A.B.C.D)

*listnum* : <1-2000>  
IPv4 アクセスリストの ID

#### [初期設定]

なし

#### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

#### [説明]

静的にランデブーポイント (RP) の設定を行う。

no 形式で実行した場合は、静的 RP の情報を削除する。

#### [ノート]

複数の静的 RP を登録することができる。また、静的 RP と Bootstrap Router (BSR) メカニズムを併用することも可能。

BSR で学習した RP と静的 RP が同時に存在する場合、BSR で学習した RP を優先的に使用する。BSR で学習した RP が複数存在する場合は、RP 優先度とハッシュ関数によって RP を選択する。

静的 RP が複数存在する場合は、最も大きい IP アドレスを持つものが RP に選択される。

IPv4 アクセスリストによるグループ範囲の指定が存在しない場合や any を指定した場合は、グループ範囲は 224.0.0.0/4 (すべてのマルチキャストグループアドレス) となる。

IPv4 アクセスリストでグループ範囲を指定する場合は、RP によって管理されるマルチキャストグループに対して permit の設定にする必要がある。

#### [設定例]

静的 RP として 10.0.0.1 を指定する。

```
SWX3200(config)#ip pim rp-address 10.0.0.1
```

## 8.4.8 RP 候補の設定

#### [書式]

```
ip pim rp-candidate ifname [group-list listnum] [interval interval] [priority priority]
no ip pim rp-candidate [ifname]
```

#### [キーワード]

*group-list* : IPv4 アクセスリストを指定し、特定のマルチキャストグループを対象とする。

*interval* : Candidate-RP-Advertisement メッセージの送信間隔を指定する。

*priority* : RP 選択時の優先度を指定する。小さい方が優先的に RP に選択される。



**[パラメーター]**

<i>ifname</i>	:	ランデブーポイント候補として広告する IP アドレスが設定されているインターフェース名
<i>listnum</i>	:	<1-2000> IPv4 アクセスリスト
<i>interval</i>	:	<1-16383> Candidate-RP-Advertisement メッセージの送信間隔 ( 秒 )
<i>priority</i>	:	<0-255> RP 選択時の優先度

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

ランデブーポイント候補 (C-RP) として動作するインターフェースを設定する。

no 形式で実行した場合は、C-RP としての動作を無効にする。

**[ノート]**

BSR で学習した RP と静的 RP が同時に存在する場合、BSR で学習した RP を優先的に使用する。BSR で学習した RP が複数存在する場合は、RP 優先度とハッシュ関数によって RP を選択する。

静的 RP が複数存在する場合は、最も大きい IP アドレスを持つものが RP に選択される。

IPv4 アクセスリストによるグループ範囲の指定が存在しない場合や any を指定した場合は、グループ範囲は 224.0.0.0/4 (すべてのマルチキャストグループアドレス) となる。

IPv4 アクセスリストでグループ範囲を指定する場合は、RP によって管理されるマルチキャストグループに対して permit の設定にする必要がある。

**[設定例]**

VLAN #2 をすべてのマルチキャストグループアドレス 224.0.0.0/4 の RP 候補に指定する。

```
SWX3200(config)#ip pim rp-candidate vlan2
```

**8.4.9 Candidate-RP-Advertisement メッセージの設定****[書式]**

```
ip pim crp-fixed-prefix
no ip pim crp-fixed-prefix
```

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

ランデブーポイント候補 (C-RP) において、マルチキャストグループ範囲の指定が存在しない場合、Prefix Count = 1 かつ Group = 224.0.0.0/4 (すべてのマルチキャストグループ) の Candidate-RP-Advertisement メッセージを送信するように設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定の動作に戻る。

初期設定では、**ip pim rp-candidate** コマンドによるマルチキャストグループ範囲の指定が存在しない場合、Prefix Count = 0 かつ Group 情報なしの Candidate-RP-Advertisement メッセージを送信する。**[設定例]**

C-RP の設定でマルチキャストグループ範囲の指定が存在しない場合に、Prefix Count = 1 かつ Group=224.0.0.0/4 の Candidate-RP-Advertisement メッセージを送信する。

```
SWX3200(config)#ip pim crp-fixed-prefix
```

## 8.4.10 BSR 候補の設定

### [書式]

```
ip pim bsr candidate ifname [mask [priority]]
no ip pim bsr-candidate [ifname]
```

### [パラメーター]

*ifname* : インターフェース名  
指定するインターフェース

*mask* : <0-32>  
RP 選択時のハッシュマスク長

*priority* : <0-255>  
BSR 優先度

### [初期設定]

なし

### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

### [説明]

指定したインターフェースに設定されている IP アドレスを用いて、ブートストラップルーター候補 (C-BSR) として動作を有効にする。

BSR は、マルチキャストグループとランデブーポイント (RP) のマッピングを行う。BSR 優先度が大きいほど、BSR に選出されやすくなる。

no 形式で実行した場合は、C-BSR としての動作を無効にする。

### [設定例]

VLAN #2 の IP アドレスを用いて、PIM-SM ネットワークで C-BSR として動作するように設定する。

```
SWX3200(config)#ip pim bsr-candidate vlan2
```

## 8.4.11 BSR メッセージの送受信設定

### [書式]

```
ip pim bsr-border
no ip pim bsr-border
```

### [初期設定]

なし

### [入力モード]

インターフェースモード

### [説明]

PIM-SM が有効になっている対象インターフェースで、ブートストラップルーター (BSR) メッセージの送受信を停止する。

no 形式で実行した場合は、BSR メッセージの送受信を行うようにする。

### [設定例]

VLAN #2 で BSR メッセージの送受信を停止する。

```
SWX3200(config)#interface vlan2
SWX3200(config-if)#ip pim bsr-border
```

## 8.4.12 RP 優先度の使用設定

### [書式]

```
ip pim ignore-rp-set-priority
no ip pim ignore-rp-set-priority
```

### [初期設定]

なし

### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

### [説明]

ランデブーポイント候補 (C-RP) から RP を選択するときに RP 優先度を無視してハッシュ関数だけを使用する。no 形式で実行した場合は、RP 優先度とハッシュ関数を用いて RP を選択する。

### [設定例]

RP 優先度を使わずにハッシュ関数のみで RP を選択するように設定する。

```
SWX3200(config)#ip pim ignore-rp-set-priority
```

## 8.4.13 Register メッセージの送信元 IP アドレスの設定

### [書式]

```
ip pim register-source address
ip pim register-source ifname
no ip pim register-source
```

### [パラメーター]

*address* : Register メッセージの送信元 IP アドレス (A.B.C.D)

*ifname* : インターフェース名。指定インターフェースの IP アドレスが Register メッセージの送信元 IP アドレスとして使用される。

### [初期設定]

なし

### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

### [説明]

Register メッセージの送信元 IP アドレスを明示的に指定する。その際、デフォルトの RPF インターフェースの IP アドレスを上書きする。

no 形式で実行した場合は、マルチキャスト送信者に最も近い RPF インターフェースの IP アドレスを使用する。

### [ノート]

IP アドレスには、ランデブーポイント (RP) から到達可能なアドレスを設定すること。

### [設定例]

Register メッセージの送信元 IP アドレスを 192.168.100.100 に設定する。

```
SWX3200(config)#ip pim register-source 192.168.100.100
```

## 8.4.14 Register メッセージのフィルタリング設定

### [書式]

```
ip pim accept-register list listnum
no ip pim accept-register
```

### [パラメーター]

*listnum* : <1-2000>

## IPv4 アクセスリストの ID

## [初期設定]

なし

## [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

## [説明]

ランデブーポイント (RP) で、Register メッセージのフィルタリングを行う。

no 形式で実行した場合は、フィルタリングの設定を削除する。

## [ノート]

フィルタリングには、マルチキャスト IP アドレスの送信元 IP アドレスのみ使用するため、アクセスリストの宛先 IP アドレスの設定は無視される。

Register メッセージの受信を許可する場合は permit を、遮断する場合は deny を指定する。

## [設定例]

RP において、送信元アドレス 10.0.0.1 からの Register メッセージを遮断する。

```
SWX3200(config)#access-list 120 deny any 10.0.0.1 0.0.0.0 any
SWX3200(config)#access-list 120 permit any any any
SWX3200(config)#ip pim accept-register list 120
```

### 8.4.15 Register メッセージの送信レート上限値の設定

---

## [書式]

**ip pim register-rate-limit** *limit***no ip pim register-rate-limit**

## [パラメーター]

*limit* : <1-65535>

1 秒間に送信可能なパケット数の上限値。

## [初期設定]

なし

## [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

## [説明]

PIM-SM が有効になっているインターフェースで、1 秒間に送信可能な Register メッセージのパケット数の上限値を指定する。

no 形式で実行した場合は、制限を解除する。

## [ノート]

送信レートの制限は、システム全体ではなく、(S, G) グループごとの上限として適用される。

## [設定例]

1 秒間に送信可能な Register メッセージの最大パケット数を 3000 に制限する。

```
SWX3200(config)#ip pim register-rate-limit 3000
```

### 8.4.16 Register メッセージのチェックサム計算方法の設定

---

## [書式]

**ip pim register-checksum** all [group-list *listnum*]**no ip pim register-checksum** all [group-list *listnum*]

## [キーワード]

group-list : IPv4 アクセスリストを指定し、特定のマルチキャストグループを対象とする。

**[パラメーター]**

*listnum* : <1-2000>  
IPv4 アクセスリストの ID

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

Register メッセージのチェックサム計算時に、PIM メッセージのパケット全体を対象として計算するように設定する。

no 形式で実行した場合は、ヘッダーのみを対象としてチェックサムを計算する。

**[設定例]**

マルチキャストグループ 224.0.1.1 から受信した Register メッセージのチェックサム計算時に PIM メッセージ全体を対象として計算を行う。

```
SWX3200(config)#ip pim register-checksum all group-list 20
SWX3200(config)#access-list 20 permit any 224.0.1.1 0.0.0.0 any
```

**8.4.17 Register メッセージの送信待機時間の設定****[書式]**

```
ip pim register-suppression time
no ip pim register-suppression
```

**[パラメーター]**

*time* : <1-65535>  
Register メッセージの送信待機時間(秒)

**[初期設定]**

ip pim register-suppression 60

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

Register-Stop メッセージの受信後、再び Register メッセージを送信するまでの時間 Register Suppression Timeout を設定する。

no 形式で実行した場合は、初期設定に戻る。

**[ノート]**

**ip pim rp-register-kat** コマンドによる RP Keepalive Timer (KAT) の設定が存在しない場合、KAT は Register Suppression Timeout の値を用いて自動的に決定される。

**[設定例]**

Register-Stop メッセージ受信後に再び Register メッセージを送信するまでの時間を 500 秒に設定する。

```
SWX3200(config)#ip pim register-suppression 500
```

**8.4.18 Join/Prune メッセージの送信間隔の設定****[書式]**

```
ip pim jp-timer time
no ip pim jp-timer [time]
```

**[パラメーター]**

*time* : <1-65535>

## Join/Prune メッセージの送信間隔(秒)

## [初期設定]

```
ip pim jp-timer 60
```

## [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

## [説明]

PIM-SM が有効になっているインターフェースで、Join/Prune メッセージの送信間隔 ( Join/Prune Period ) を設定する。no 形式で実行した場合は、初期値に戻る。

## [設定例]

Join/Prune メッセージの送信間隔を 120 秒に設定する。

```
SWX3200(config)#ip pim jp-timer 120
```

### 8.4.19 RP の Keepalive Timer の設定

---

## [書式]

```
ip pim rp-register-kat time
no ip pim rp-register-kat
```

## [パラメーター]

*time* : <1-65535> (秒)  
(S, G)エントリーの Keepalive Timer の値

## [初期設定]

なし

## [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

## [説明]

ランデブーポイント ( RP ) において、(S, G) エントリー の Keepalive Timer ( KAT ) の値を設定する。データトラフィックがなくなってから KAT 秒経過した場合、(S, G) エントリーの Join 状態を削除する。no 形式で実行した場合は、初期値に戻る。

## [ノート]

本コマンドを設定しておらず、**ip pim register-suppression** コマンドで Register Suppression Timeout を設定している場合、KAT は Register Suppression Timeout をもとに自動変更される。

## [設定例]

(S, G) エントリーの Keepalive Timer を 3000 秒に設定する。

```
SWX3200(config)#ip pim rp-register-kat 3000
```

### 8.4.20 SPT 移行動作の設定

---

## [書式]

```
ip pim spt-disable [group-list listnum]
no ip pim spt-disable [group-list listnum]
```

## [キーワード]

group-list : IPv4 アクセスリストを指定し、特定のマルチキャストグループを対象とする。

## [パラメーター]

*listnum* : <1-2000>  
IPv4 アクセスリストの ID

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

ラストホップルーターとして動作しているとき、最短ツリー (SPT) を使用せずに、RP を経由する共有ツリー (RPT) を使用してマルチキャストルーティングを行う。

no 形式で実行した場合は、SPT を使用して最短経路でマルチキャストルーティングを行う。

**[ノート]**

IPv4 アクセスリストは、対象とするマルチキャストグループを許可 (permit) する設定にすること。

**[設定例]**

マルチキャストグループ 224.0.1.3 に対して、RPT を使用してマルチキャストルーティングを行うようにする。

```
SWX3200(config)#ip pim spt-disable group-list 10
SWX3200(config)#access-list 10 permit any 224.0.1.3 0.0.0.0 any
```

**8.4.21 PIM-SSM の設定****[書式]**

```
ip pim ssm default
ip pim ssm range [listnum]
no ip pim ssm
```

**[パラメーター]**

*listnum* : <1-2000>  
IPv4 アクセスリストの ID

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

PIM-SSM (Source Specific Multicast) を有効にする。

default を指定した場合は、SSM レンジとして 232.0.0.0/8 を使用し、標準 IPv4 アクセスリストを用いて任意の SSM レンジを指定することができる。

no 形式で実行した場合は、PIM-SSM を無効化し、SSM レンジの設定を削除する。

**[ノート]**

SSM レンジ内のマルチキャスト受信者がマルチキャストグループに参加するには、IGMPv3 のマルチキャスト送信者を指定する必要がある。

IGMPv2 の場合は、**ip igmp ssm-map enable** コマンドにより SSM マッピング機能を有効化し、**ip igmp ssm-map static** コマンドによりマルチキャストグループとマルチキャスト送信者を静的に関連付ける必要がある。

**[設定例]**

PIM-SSM を有効化し、SSM レンジとして 232.0.0.0/8 を使用する。

```
SWX3200(config)#ip pim ssm default
```

**8.4.22 State Refresh メッセージの送信間隔の設定****[書式]**

```
ip pim state-refresh origination-interval interval
no ip pim state-refresh rigation-interval
```

**[パラメーター]**

*interval* : <1-100>  
State Refresh メッセージの送信間隔 ( 秒 )

**[初期設定]**

ip pim state-refresh origination-interval 60

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

PIM-DM が有効になっている対象インターフェースで、State Refresh メッセージの送信間隔 State Refresh Interval を設定する。

no 形式で実行した場合は、初期値に戻る。

**[ノート]**

マルチキャスト送信者が接続されている VLAN に対して設定を行うこと。

**[設定例]**

State Refresh メッセージの送信間隔を 180 秒に設定する。

```
SWX3200(config)#interface vlan2
SWX3200(config-if)# ip pim state-refresh origination-interval 180
```

### 8.4.23 Graft メッセージの最大再送回数の設定

---

**[書式]**

**ip pim graft-retransmit count**  
**no ip pim graft-retransmit**

**[パラメーター]**

*count* : <1-65535>  
Graft メッセージの最大再送回数。

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

PIM-DM が有効になっている対象インターフェースで、Graft メッセージの最大再送回数を設定する。

no 形式で実行した場合は、Graft Ack メッセージを受信するまで再送し続ける。

**[設定例]**

Graft メッセージの最大再送回数を 5 回に設定する。

```
SWX3200(config)# interface vlan2
SWX3200(config-if)# ip pim graft-retransmit 5
```

### 8.4.24 PIM メッセージの転送遅延時間の設定

---

**[書式]**

**ip pim propagation-delay time**  
**no ip pim propagation-delay**

**[パラメーター]**

*time* : <0-32767>  
PIM メッセージの転送遅延時間 ( ミリ秒 )



**[初期設定]**

```
ip pim propagation-delay 500
```

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

PIM-DM が有効になっている対象インターフェースで、PIM メッセージの推定転送遅延時間 Propagation Delay を設定する。

no 形式で実行した場合は、初期値に戻る。

**[設定例]**

PIM メッセージの Propagation Delay を 1000 ミリ秒に設定する。

```
SWX3200(config)#interface vlan2
SWX3200(config-if)#ip pim propagation-delay 1000
```

**8.4.25 ユニキャスト BSM の送受信設定**

---

**[書式]**

```
ip pim unicast-bsm
no ip pim unicast-bsm
```

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

PIM-SM が有効になっている対象インターフェースで、ユニキャストブートストラップメッセージ (BSM) の送受信を有効にする。

no 形式で実行した場合は、ユニキャスト BSM の送受信を無効にする。

**[設定例]**

ユニキャスト BSM の送受信を有効にする。

```
SWX3200(config)#ip pim unicast-bsm
```

**8.4.26 RP-reachability メッセージの確認設定**

---

**[書式]**

```
ip pim register-rp-reachability
no ip pim register-rp-reachability
```

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

RP-reachability メッセージのチェックを有効にする。

no 形式で実行した場合は、RP-reachability メッセージのチェックを行わない。

**[設定例]**

RP-reachability メッセージのチェックを有効にする。

```
SWX3200(config)#ip pim register-rp-reachability
```

## 8.4.27 PIM インターフェース情報の表示

### [書式]

```
show ip pim interface [detail]
```

### [キーワード]

detail : 詳細情報も表示する

### [初期設定]

なし

### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

### [説明]

PIM が有効になっているインターフェースの情報を表示する。

### [設定例]

PIM-DM が有効になっているインターフェースの情報を表示する。

```
SWX3200#show ip pim interface
Total interfaces: 3
Address          Interface    VIFindex    Ver/    Nbr    DR    DR
                Mode        Count      Mode    Count  Prior
192.168.20.1     vlan20      1           v2/D    0      1
192.168.110.2   vlan110     0           v2/D    1      1
192.168.130.1   vlan130     2           v2/D    0      1
```

PIM-DM が有効になっているインターフェースの詳細情報を表示する。

```
SWX3200#show ip pim interface detail
vlan20 (vif 1):
  Address 192.168.20.1, Mode: Dense
  DR N/A
  Hello period 30 seconds, Next Hello in 9 seconds
  Triggered Hello period 5 seconds
  PIM GenID sent in Hellos: 3924591a
  Graft retransmissions: infinite
  State refresh origination interval is 5 seconds
  Propagation delay is 500 milli-seconds
  Neighbors:
  PIM neighbor count: 0
  PIM configured DR priority: 1
  PIM border interface: no
  PIM Neighbor policy: not configured

vlan110 (vif 0):
  Address 192.168.110.2, Mode: Dense
  DR N/A
  Hello period 30 seconds, Next Hello in 4 seconds
  Triggered Hello period 5 seconds
  PIM GenID sent in Hellos: 68e2d99a
  Graft retransmissions: infinite
  State refresh origination interval is 3 seconds
  Propagation delay is 500 milli-seconds
  Neighbors:
  192.168.110.1
  PIM neighbor count: 1
  PIM configured DR priority: 1
  PIM border interface: no
  PIM Neighbor policy: not configured

vlan130 (vif 2):
  Address 192.168.130.1, Mode: Dense
  DR N/A
  Hello period 30 seconds, Next Hello in 21 seconds
  Triggered Hello period 5 seconds
  PIM GenID sent in Hellos: 18eec518
  Graft retransmissions: infinite
  State refresh origination interval is 60 seconds
```

```

Propagation delay is 500 milli-seconds
Neighbors:
PIM neighbor count: 0
PIM configured DR priority: 1
PIM border interface: no
PIM Neighbor policy: not configured

```

PIM-SM が有効になっているインターフェースの情報を表示する。

```

SWX3200#show ip pim interface
Total interfaces: 3
Address          Interface    VIFindex    Ver/    Nbr    DR        DR
                Interface    VIFindex    Mode    Count  Prior    DR
192.168.20.1     vlan20      2           v2/S    0      1         192.168.20.1
192.168.110.2    vlan110     0           v2/S    1      1         192.168.110.2

```

PIM-SM が有効になっているインターフェースの詳細情報を表示する。

```

SWX3200#show ip pim interface detail
vlan20 (vif 2):
  Address 192.168.20.1, Mode: Sparse
  DR 192.168.20.1, DR's priority: 1
  Hello period 30 seconds, Next Hello in 2 seconds
  Triggered Hello period 5 seconds
  PIM GenID sent in Hellos: 61d3c50d
  Interface ID: Router-ID:192.168.110.2 Local-ID 320
  Neighbors:
  PIM neighbor count: 0
  PIM configured DR priority: 1
  PIM border interface: no
  PIM Neighbor policy: not configured

vlan110 (vif 0):
  Address 192.168.110.2, Mode: Sparse
  DR 192.168.110.2, DR's priority: 1
  Hello period 30 seconds, Next Hello in 5 seconds
  Triggered Hello period 5 seconds
  PIM GenID sent in Hellos: 7c30c40a
  Interface ID: Router-ID:192.168.110.2 Local-ID 410
  Neighbors:
    192.168.110.1
  PIM neighbor count: 1
  PIM neighbor holdtime: 105
  PIM configured DR priority: 1
  PIM border interface: no
  PIM Neighbor policy: not configured

```

## 8.4.28 IP マルチキャスト経路表の表示

### [書式]

```
show ip pim mroute [group] [source] [detail]
```

### [キーワード]

detail : 詳細情報を表示する。

### [パラメーター]

group : マルチキャストグループアドレス (A.B.C.D) (PIM-SM 使用時のみ)

source : 送信元 IPv4 アドレス (A.B.C.D) (PIM-SM 使用時のみ)

### [初期設定]

なし

### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

### [説明]

IP マルチキャスト経路表を表示する。

**[設定例]**

PIM-DM 動作時の IP マルチキャスト経路表を表示する。

```
SWX3200#show ip pim mroute
PIM-DM Multicast Routing Table
(192.168.30.100, 239.0.0.1)
  RPF Neighbor: 192.168.110.1, Nexthop: 192.168.110.1
  Upstream IF: vlan110
    Upstream State: Forwarding
    Upstream Prune Limit Timer Expiry: 0 secs
    Assert State: NoInfo
  Source Active Timer Expiry: 180 secs
  State Refresh Timer Expiry: 0 secs
  Downstream IF List:
    vlan130:, not in 'olist'
      Downstream State: NoInfo
      Assert State: NoInfo
    vlan20:, in 'olist'
      Downstream State: NoInfo
      Assert State: NoInfo
```

PIM-SM 動作時の IP マルチキャスト経路表を表示する。

```
SWX3200#show ip pim mroute
IP Multicast Routing Table

(*,*,RP) Entries: 0
(*,G) Entries: 2
(S,G) Entries: 2
(S,G,rpt) Entries: 2
FCR Entries: 0

(*, 239.0.0.1)
RP: 192.168.120.1
RPF nbr: 192.168.110.1
RPF idx: vlan110
Upstream State: JOINED
  Local      ..i.....
  Joined     .....
  Asserted   .....
FCR:

(192.168.30.100, 239.0.0.1)
RPF nbr: 192.168.110.1
RPF idx: vlan110
SPT bit: 1
Upstream State: JOINED
  Local      .....
  Joined     .....
  Asserted   .....
  Outgoing   ..o.....

(192.168.30.100, 239.0.0.1, rpt)
RP: 192.168.120.1
RPF nbr: 192.168.110.1
RPF idx: vlan110
Upstream State: NOT PRUNED
  Local      .....
  Pruned     .....
  Outgoing   ..o.....
```

PIM-SM 動作時の IP マルチキャスト経路表の詳細情報を表示する。

```
SWX3200#show ip pim mroute 239.0.0.1 detail
(*, 239.0.0.1) Uptime: 00:13:40
RP: 192.168.120.1, RPF nbr: 192.168.110.1, RPF idx: vlan110
Upstream:
  State: JOINED, SPT Switch: Enabled, JT Expiry: 40 secs
  Macro state: Join Desired,
Downstream:
  vlan20:
    State: NO INFO, ET: off, PPT: off
    Assert State: NO INFO, AT: off
```

```

Winner: 0.0.0.0, Metric: 4294967295, Pref: 4294967295, RPT bit: on
Macro state: Could Assert, Assert Track
Local Olist:
  vlan20

(192.168.30.100, 239.0.0.1) Uptime: 00:09:20
RPF nbr: 192.168.110.1, RPF idx: vlan110
Upstream:
  State: JOINED, SPT Bit: on, JT Expiry: 41 secs, KAT Expiry: 70 secs
  Macro state: Join Desired,
Downstream:
Inherited Olist:
  vlan20

(192.168.30.100, 239.0.0.1, rpt) Uptime: 00:09:20
RP: 192.168.120.1RPF nbr: 192.168.110.1, RPF idx: vlan110
Upstream:
  State: NOT PRUNED, OT: off
  Macro state: RPT Join,
Downstream:
Inherited Olist:
  vlan20

```

## 8.4.29 PIM ネイバー情報の表示

### [書式]

```
show ip pim neighbor [ifname] [address] [detail]
```

### [キーワード]

detail : 詳細情報を表示する。

### [パラメーター]

ifname : インターフェース名

address : ネイバーインターフェースの IP アドレス

### [初期設定]

なし

### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

### [説明]

PIM ネイバーの情報を表示する。

### [設定例]

PIM-DM 動作時の PIM ネイバーの情報を表示する。

```

SWX3200#show ip pim neighbor
Neighbor      Interface      Uptime/Expires      Ver      DR
Address
192.168.110.1  vlan110        02:14:48/00:01:28   v2       N /
192.168.130.2  vlan130        00:37:50/00:01:27   v2       N /

```

PIM-DM 動作時の PIM ネイバーの詳細情報を表示する。

```

SWX3200#show ip pim neighbor detail
Nbr 192.168.110.1 (vlan110)
  Expires in 88 seconds, uptime 02:15:48

Nbr 192.168.130.2 (vlan130)
  Expires in 87 seconds, uptime 00:38:50

```

PIM-SM 動作時の PIM ネイバーの情報を表示する。

```

SWX3200#show ip pim neighbor
Neighbor      Interface      Uptime/Expires      Ver      DR

```

Address				Priority/Mode
192.168.110.1	vlan110	00:19:30/00:01:40	v2	1 /

PIM-SM 動作時の PIM ネイバーの詳細情報を表示する。

```
Nbr 192.168.110.1 (vlan110)
Expires in 81 seconds, uptime 00:19:19
Holdtime: 105 secs, DR priority: 1, Gen ID: 277507370,
Interface ID: Router-ID: 192.168.120.1 Local-ID: 410,
```

### 8.4.30 ネクストホップ情報の表示

#### [書式]

```
show ip pim nexthop
```

#### [初期設定]

なし

#### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

#### [説明]

ネクストホップ情報を表示する。

#### [設定例]

PIM-DM 動作時のネクストホップ情報を表示する。

```
SWX3200#show ip pim nexthop
Flags: N = New, R = RP, S = Source, U = Unreachable
Destination      Type  Nexthop  Nexthop      Nexthop  Nexthop  Metric  Pref  Refcnt
                Num   Addr     Ifindex      Name
-----
192.168.20.100   ..S.  1        0.0.0.0      320      vlan20   3       1     1
192.168.30.100   ..S.  1        192.168.110.1 410      vlan110 20      110   2
```

PIM-SM 動作時のネクストホップ情報を表示する。

```
SWX3200#show ip pim nexthop
Flags: N = New, R = RP, S = Source, U = Unreachable
Destination      Type  Nexthop  Nexthop      Nexthop  Nexthop  Metric  Pref  Refcnt
                Num   Addr     Ifindex      Name
-----
192.168.20.100   ..S.  1        0.0.0.0      320      vlan20   3       1     3
192.168.30.100   ..S.  1        192.168.110.1 410      vlan110 20      110   3
192.168.110.1    ..S.  1        0.0.0.0      410      vlan110 3       1     1
192.168.120.1    .RS.  1        192.168.110.1 410      vlan110 20      110   8
192.168.130.1    .R..  1        0.0.0.0      430      vlan130 3       1     1
192.168.130.2    N..U  0        0.0.0.0      -1       -1       255   1
```

### 8.4.31 RP 情報の表示

#### [書式]

```
show ip pim rp mapping
```

#### [初期設定]

なし

#### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

#### [説明]

ランデブーポイント (RP) の情報を表示する。

#### [設定例]

静的ランデブーポイント (RP) の情報を表示する。

```
SWX3200#show ip pim rp mapping
PIM Group-to-RP Mappings
```

```
Group(s): 238.0.0.0/8, Static
  RP: 172.17.10.1
    Uptime: 00:00:13
Group(s): 239.0.0.0/8, Static
  RP: 172.17.10.2
    Uptime: 00:00:23
```

動的ランデブーポイント (RP) の情報を表示する。

```
SWX3200#show ip pim rp mapping
PIM Group-to-RP Mappings
Group(s): 224.0.0.0/4
  RP: 192.168.120.1
    Info source: 192.168.120.1, via bootstrap, priority 190
    Uptime: 00:00:42, expires: 00:01:48
```

### 8.4.32 RP 選出候補の表示

#### [書式]

```
show ip pim rp-hash group
```

#### [パラメーター]

*group* : マルチキャストグループアドレス (A.B.C.D)

#### [初期設定]

なし

#### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

#### [説明]

指定したマルチキャストグループのランデブーポイント (RP) 選出候補を表示する。

#### [設定例]

マルチキャストグループ 224.0.1.3 の RP 選出候補を表示する。(静的 RP 設定時)

```
SWX3200#show ip pim rp-hash 224.0.1.3
RP: 192.168.40.1
```

マルチキャストグループ 224.0.1.3 の RP 選出候補を表示する。(動的設定時)

```
SWX3200#show ip pim rp-hash 224.0.1.3
RP: 192.168.30.254
Info source: 192.168.30.254, via bootstrap
```

### 8.4.33 BSR 情報の表示

#### [書式]

```
show ip pim bsr-router
```

#### [初期設定]

なし

#### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

#### [説明]

ブートストラップルーター (BSR) の情報を表示する。

#### [設定例]

BSR の情報を表示する。(非 BSR 動作時)

```
SWX3200#show ip pim bsr-router
PIMv2 Bootstrap information
  BSR address: 192.168.120.1
  Uptime:      00:20:37, BSR Priority: 70, Hash mask length: 0
  Expires:     00:01:33
```

```
Role: Non-candidate BSR
State: Accept Preferred
```

BSR の情報を表示する。( BSR 動作時 )

```
SWX3200#show ip pim bsr-router
PIMv2 Bootstrap information
This system is the Bootstrap Router (BSR)
  BSR address: 192.168.120.1
  Uptime:      00:29:03, BSR Priority: 70, Hash mask length: 0
  Next bootstrap message in 00:00:04
  Role: Candidate BSR
  State: Elected BSR

Candidate RP: 192.168.120.1(vlan120)
  Advertisement interval 60 seconds
  Next C-RP advertisement in 00:00:03
```

### 8.4.34 RP 情報のクリア

#### [書式]

```
clear ip pim sparse-mode bsr rp-set *
```

#### [初期設定]

なし

#### [入力モード]

特権 EXEC モード

#### [説明]

ブートストラップルーター ( BSR ) から学習したすべてのランデブーポイント ( RP ) 情報をクリアする。

#### [設定例]

全ての RP 情報をクリアする。

```
SWX3200#clear ip pim sparse-mode bsr rp-set *
```

## 8.5 IGMP

### 8.5.1 IGMP の設定

#### [書式]

```
ip igmp type
no ip igmp
```

#### [パラメーター]

*type* : IGMP の動作

設定値	説明
enable	IGMP を有効にする。
disable	IGMP を無効にする。

#### [初期設定]

```
ip igmp disable
```

#### [入力モード]

インターフェイスモード

#### [説明]

対象インターフェイスで、PIM などのマルチキャストルーティングプロトコルが動作していない場合でも IGMP を有効にする。マルチキャストルーティングプロトコルが動作している場合は、本コマンドの設定に関わらず IGMP は有効になる。



no 形式で実行した場合もしくはパラメーターに **disable** を指定した場合は、IGMP 関連の全ての設定(IGMP プロキシの設定も含む)を初期化し、マルチキャストルーティングプロトコルが動作していない場合は IGMP を無効にする。

#### [ノート]

対象インターフェースでマルチキャストルーティングプロトコルを有効にした場合は本コマンドも有効にし、マルチキャストルーティングプロトコルを無効にした場合は本コマンドも無効にすることを推奨する。

#### [設定例]

VLAN #2 で IGMP を有効にする。

```
SWX3200(config)#interface vlan2
SWX3200(config-if)#ip igmp enable
```

## 8.5.2 IGMP バージョンの設定

#### [書式]

```
ip igmp version version
no ip igmp version
```

#### [パラメーター]

```
version          : <2-3>
                  バージョン
```

#### [初期設定]

なし

#### [入力モード]

インターフェースモード

#### [説明]

対象インターフェースで、IGMP のバージョンを設定する。

no 形式で実行した場合は、初期設定に戻る。

#### [設定例]

IGMP のバージョンを IGMPv2 に変更する

```
SWX3200(config)#interface vlan2
SWX3200(config-if)#ip igmp version 2
```

## 8.5.3 Query Interval の設定

#### [書式]

```
ip igmp query-interval time
no ip igmp query-interval
```

#### [パラメーター]

```
time            : <1-18000>
                  General Membership Query の送信間隔(秒)
```

#### [初期設定]

ip igmp query-interval 125

#### [入力モード]

インターフェースモード

#### [説明]

対象インターフェースで、General Membership Query の送信間隔 (Query Interval) を設定する。

no 形式で実行した場合は、初期設定に戻る。

#### [ノート]

**ip igmp query-max-response-time** コマンドで設定値よりも大きい値を指定すること。

**[設定例]**

General Membership Query の送信間隔を 120 秒 に設定する

```
SWX3200(config)#interface vlan2
SWX3200(config-if)#ip igmp query-interval 120
```

**8.5.4 General Membership Query の最大応答時間の設定****[書式]**

**ip igmp query-max-response-time** *time*

**no ip igmp query-max-response-time**

**[パラメーター]**

*time* : <1-240>

General Membership Query に対する最大応答時間。(秒)

**[初期設定]**

ip igmp query-max-response-time 10

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

対象インターフェースで、IGMP の General Membership Query に対する最大応答時間 ( Max Response Time ) を設定する。

no 形式で実行した場合は、初期設定に戻る。

**[設定例]**

General Membership Query に対する最大応答時間を 8 秒に設定する。

```
SWX3200(config)#interface vlan2
SWX3200(config-if)#ip igmp query-max-response-time 8
```

**8.5.5 Last Member Query Interval の設定****[書式]**

**ip igmp last-member-query-interval** *interval*

**no ip igmp last-member-query-interval**

**[パラメーター]**

*interval* : <1000-25500>(ミリ秒)

対象インターフェースで Leave Group メッセージ受信後に送信する Group-Specific Membership Query の 送信間隔。

**[初期設定]**

ip igmp last-member-query-interval 1000

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

対象インターフェースで、Leave Group メッセージ受信後に送信する Group-Specific Membership Query の送信間隔 ( Last Member Query Interval ) を設定する。

no 形式で実行した場合は、初期設定に戻る。

**[設定例]**

Leave Group メッセージ受信後に送信する Group-Specific Membership Query の送信間隔を 2 秒に設定する。

```
SWX3200(config)#interface vlan2
SWX3200(config-if)#ip igmp last-member-query-interval 2000
```

## 8.5.6 Last Member Query Count の設定

### [書式]

```
ip igmp last-member-query-count count
no ip igmp last-member-query-count
```

### [パラメーター]

*count* : <2-7>

対象インターフェースで Leave Group メッセージ受信後に送信する Group-Specific Query の送信回数。

### [初期設定]

```
ip igmp last-member-query-count 2
```

### [入力モード]

インターフェースモード

### [説明]

対象インターフェースで、Leave Group メッセージ受信後に送信する Group-Specific Query の送信回数 ( Last Member Query Count ) を設定する。

no 形式で実行した場合は、初期設定に戻る。

### [設定例]

Leave Group メッセージ受信後に送信する Group-Specific Query の送信回数を 3 回に設定する。

```
SWX3200(config)#interface vlan2
SWX3200(config-if)#ip igmp last-member-query-count 3
```

## 8.5.7 Other Querier Present Interval の設定

### [書式]

```
ip igmp querier-timeout time
no ip igmp querier-timeout
```

### [パラメーター]

*time* : <60-300>

他のクエリアーが存在しなくなったとみなすまでの時間。(秒)

### [初期設定]

なし

### [入力モード]

インターフェースモード

### [説明]

対象インターフェースで、他のクエリアーがクエリー送信を停止してから、クエリアーとしての動作を引き継ぐまでの待機時間 ( Other Querier Present Interval ) を設定する。

no 形式で実行した場合は、初期設定に戻る。

初期設定の場合、Other Querier Present Interval = ( Robustness Variable × Query Interval ) + ( Query Response Time × 0.5 ) となり、すべてのパラメータが初期値の場合、( 2 × 125 ) + ( 10 × 0.5 ) = 255 秒となる。

### [設定例]

他のクエリアーが存在しなくなったとみなすまで 120 秒間待機する。

```
SWX3200(config)#interface vlan2
SWX3200(config-if)#ip igmp querier-timeout 120
```

## 8.5.8 Robustness Variable の設定

### [書式]

```
ip igmp robustness-variable variable
```

**no ip igmp robustness-variable****[パラメーター]**

*variable* : <2-7>  
 パケットの損失へのロバスト性を表すパラメーター。

**[初期設定]**

ip igmp robustness-variable 2

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

対象インターフェースで、IGMP の動作パラメーターの Robustness Variable を設定する。Robustness Variable が大きいほど、パケット損失に対するロバスト性が高くなる。no 形式で実行した場合は、初期設定に戻る。

**[設定例]**

Robustness Variable を 3 に設定する

```
SWX3200(config)#interface vlan2
SWX3200(config-if)#ip igmp robustness-variable 3
```

## 8.5.9 IGMP の即時脱退設定

---

**[書式]**

**ip igmp immediate-leave group-list *listnum***

**no ip igmp immediate-leave**

**[パラメーター]**

*listnum* : <1-2000>  
 IPv4 アクセスリストの ID

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

対象インターフェースで、IGMP の即時脱退を有効にする。no 形式で実行した場合は、IGMP の即時脱退を無効にする。

**[ノート]**

即時脱退を有効にすると、IGMPv2 の Leave Group メッセージを受信後、IGMP グループメンバーシップのエントリを即時削除する。

VLAN 上に複数のマルチキャスト受信者が存在する場合は、即時脱退を有効化しないこと。

**[設定例]**

VLAN #2 上で、225.192.20.0～225.192.20.255 の範囲のマルチキャストグループの即時脱退を有効にする。

```
SWX3200(config)#interface vlan2
SWX3200(config-if)#ip igmp immediate-leave group-list 1
SWX3200(config-if)#exit
SWX3200(config)#access-list 1 permit any 225.192.20.0 0.0.0.255 any
```

## 8.5.10 IGMP パケットの送信元アドレスチェックの設定

---

**[書式]**

**ip igmp check source-address *type***

**no ip igmp check source-address**

**[パラメーター]**

*type* : アドレスチェックの動作

設定値	説明
disable	送信元アドレスのチェックを無効にする
enable	送信元アドレスのチェックを有効にする

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

disable を指定した場合は、対象インターフェースで、IGMP パケット ( Report/Leave メッセージ ) の送信元アドレスチェックを無効にする。

no 形式で実行した場合は、および enable を指定した場合は送信元アドレスチェックを有効にする。

初期設定は有効。

送信元アドレスのチェックが有効の場合、IGMP パケットの送信元 IP アドレスをチェックし、受信インターフェースが所属するサブネットのアドレス範囲外だった場合は IGMP パケットを破棄する。

**[ノート]**

送信元 IP アドレス が 0.0.0.0 の IGMP パケットはアドレスチェックの対象とならない。

**[設定例]**

IGMP の送信元アドレスチェックを無効にする。

```
SWX3200(config)# interface vlan2
SWX3200(config-if)# ip igmp check source-address disable
```

**8.5.11 マルチキャストグループの参加制限設定****[書式]**

**ip igmp access-group listnum**

**no ip igmp access-group**

**[パラメーター]**

*listnum* : <1-2000>

IPv4 アクセスリストの ID

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

対象インターフェースに IPv4 アクセスリストを適用し、マルチキャスト受信者が参加できるマルチキャストグループを制限する。

no 形式で実行した場合は、マルチキャストグループの制限を解除する。

**[ノート]**

IPv4 アクセスリストは、参加させるマルチキャストグループを許可 ( permit ) する設定にすること。

**[設定例]**

参加可能なマルチキャストグループの範囲を 225.2.0.0~225.2.255.255 に制限する。

```
SWX3200(config)#access-list 1 permit any 225.2.0.0 0.0.0.255 any
SWX3200(config)#interface vlan2
SWX3200(config-if)#ip igmp access-group 1
```

## 8.5.12 IGMP グループメンバーシップの最大登録数の設定

### [書式]

**ip igmp limit number** [except listnum]

**no ip igmp limit**

### [キーワード]

except : 登録数の制限に含めないマルチキャストグループを指定する

### [パラメーター]

number : <1-2097152>  
グループメンバーシップの最大エントリー数

listnum : <1-2000>  
IPv4 アクセスリストの ID

### [初期設定]

なし

### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード、インターフェースモード

### [説明]

IGMP グループメンバーシップの最大登録数を設定する。

グローバルコンフィグレーションモードの場合は、システム全体の最大数を設定し、インターフェースモードの場合はインターフェース上の最大数を設定する。

IPv4 アクセスリストを適用することで、特定のマルチキャストグループを最大数の制限から除外することができる。

no 形式で実行した場合は、最大登録数の設定を削除する。

### [ノート]

IPv4 アクセスリストは、除外するマルチキャストグループを許可 ( permit ) する設定にすること。

### [設定例]

IGMP グループメンバーシップの最大登録数を 100 に設定し、マルチキャストグループ 239.0.0.1 は制限に含めない。

```
SWX3200(config)#access-list 1 permit any 239.0.0.1 0.0.0.0 any
SWX3200(config)#ip igmp limit 100 except 1
```

## 8.5.13 IGMP グループメンバーシップの静的エントリーの設定

### [書式]

**ip igmp static-group group** [source source]

**no ip igmp static-group**

### [キーワード]

source : マルチキャスト送信者の IP アドレスを指定する

### [パラメーター]

group : マルチキャストグループアドレス (A.B.C.D)

source : マルチキャスト送信者の IPv4 アドレス (A.B.C.D)

### [初期設定]

なし

### [入力モード]

インターフェースモード

### [説明]

対象インターフェースに、IGMP グループメンバーシップの静的エントリーを登録する。

no 形式で実行した場合は、エントリーを削除する。

#### [ノート]

IGMPv3 の場合にのみ、マルチキャスト送信者の IP アドレスを指定できる。

本コマンドを設定することで、対象インターフェースに静的にマルチキャスト受信者が存在するとみなし、マルチキャストトラフィックを転送するようになるが、本機自体がマルチキャストトラフィックを受信することはなく IGMP レポートの送信も行わない。

#### [設定例]

静的 IGMP グループメンバー (マルチキャストグループ : 226.1.2.4、マルチキャスト送信者 : 10.0.0.1) を追加する。

```
SWX3200(config)#interface vlan2
SWX3200(config-if)#ip igmp static-group 226.1.2.4 source 10.0.0.1
```

### 8.5.14 SSM マッピング機能の設定

#### [書式]

**ip igmp ssm-map** *type*

**no ip igmp ssm-map**

#### [パラメーター]

*type* : SSM マッピング機能の動作

設定値	説明
disable	SSM マッピングを無効にする。
enable	SSM マッピングを有効にする。

#### [初期設定]

ip igmp ssm-map enable

#### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

#### [説明]

IGMP の SSM ( Source Specific Multicast ) マッピング機能を無効にする。

no 形式で実行した場合および enable を指定した場合は SSM マッピング機能を有効にする。

#### [ノート]

マルチキャストグループアドレスとマルチキャスト送信者のマッピングを有効にする。これにより、IGMPv2 にしか対応していないマルチキャスト受信者でも、PIM-SSM を使用できる。

デフォルトで、標準 SSM レンジのみでなくマルチキャストグループ全体を SSM レンジとして指定できる。

#### [設定例]

SSM マッピング機能を無効にする。

```
SWX3200(config)#ip igmp ssm-map disable
```

### 8.5.15 SSM マッピングの静的エントリーの設定

#### [書式]

**ip igmp ssm-map static** *listnum source*

**no ip igmp ssm-map static** *listnum source*

#### [パラメーター]

*listnum* : <1-2000>  
IPv4 アクセスリストの ID

*source* : マルチキャスト送信者の IPv4 アドレス (A.B.C.D)

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

IGMP の SSM マッピングの静的エントリーを設定する。

IPv4 アクセスリストで指定したマルチキャストグループに対して、マルチキャスト送信者の IPv4 アドレスを対応付けることができる。

これにより、IGMPv2 の該当グループへの参加要求は、対応づけた送信元アドレスの指定がある参加要求として処理される。

no 形式で実行した場合は、指定した静的エントリーを削除する。

**[ノート]**

IPv4 アクセスリストは、マルチキャスト送信者の IPv4 アドレスと関連付けるマルチキャストグループを許可 (permit) する設定にすること。

デフォルトで、標準 SSM レンジのみでなくマルチキャストグループ全体を SSM レンジとして指定できる。

**[設定例]**

マルチキャストグループ 224.1.1.0 ~ 224.1.1.255 に対してマルチキャスト送信者の IPv4 アドレス 192.168.100.100 を関連付ける。

```
SWX3200(config)# ip igmp ssm-map static 1 192.168.100.100
SWX3200(config)# access-list 1 permit any 224.1.1.0 0.0.0.255 any
```

**8.5.16 IGMP プロキシの下流インターフェースの設定**

---

**[書式]**

```
ip igmp mroute-proxy ifname
no ip igmp mroute-proxy
```

**[パラメーター]***ifname* : IGMP プロキシの上流インターフェース(マルチキャストルーター側)**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

対象インターフェースを IGMP プロキシの下流インターフェース (マルチキャスト受信者側) に設定し、さらに上流インターフェース (マルチキャストルーター側) を指定する。

no 形式で実行した場合は、IGMP プロキシの下流インターフェースとしての動作を無効にする。

**[ノート]**

IGMP プロキシ機能を使用する場合は以下の設定を行うこと。

- **ip multicast-routing** コマンドでマルチキャストルーティング機能を有効にすること。
- 上流・下流インターフェースの両方で、**ip igmp** コマンドで IGMP を有効にすること。
- 指定した上流インターフェースで、あらかじめ **ip igmp proxy-service** コマンドを設定しておくこと。

IGMP プロキシ機能を使用するインターフェースでは、マルチキャストルーティングプロトコルを有効にしないこと。

1 つの上流インターフェースに対して、複数の下流インターフェースを指定することが可能。

**[設定例]**

VLAN #2 を IGMP プロキシの下流インターフェースとして設定し、VLAN #3 を IGMP プロキシの上流インターフェースとして指定する。



```
SWX3200(config)#interface vlan2
SWX3200(config-if)#ip igmp mroute-proxy vlan3
```

### 8.5.17 IGMP プロキシの上流インターフェースの設定

#### [書式]

```
ip igmp proxy-service
no ip igmp proxy-service
```

#### [初期設定]

なし

#### [入力モード]

インターフェースモード

#### [説明]

対象インターフェースを IGMP プロキシの上流インターフェース (マルチキャストルーター側) に設定する。  
no 形式で実行した場合は、IGMP プロキシの上流インターフェースとしての動作を無効にする。

#### [ノート]

IGMP プロキシ機能を使用する場合は以下の設定を行うこと。

- **ip multicast-routing** コマンドでマルチキャストルーティング機能を有効にすること。
- 上流・下流インターフェースの両方で、**ip igmp** コマンドで IGMP を有効にすること。
- **ip igmp mroute-proxy** コマンドで下流インターフェースの設定を行う前に、あらかじめ本コマンドを設定しておくこと。

IGMP プロキシ機能を使用するインターフェースでは、マルチキャストルーティングプロトコルを有効にしないこと。

1 つの上流インターフェースに対して、複数の下流インターフェースを指定することが可能。

#### [設定例]

VLAN #3 を IGMP プロキシの上流インターフェースとして設定する。

```
SWX3200(config)#interface vlan3
SWX3200(config-if)#ip igmp proxy-service
```

### 8.5.18 マルチキャストグループ情報の表示

#### [書式]

```
show ip igmp groups [ifname] [group] [detail]
```

#### [キーワード]

detail : 詳細情報も表示する

#### [パラメーター]

ifname : インターフェース名

group : マルチキャストグループアドレス (A.B.C.D)

#### [初期設定]

なし

#### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

#### [説明]

IGMP で学習したマルチキャストグループを表示する。

#### [設定例]

全インターフェースのマルチキャストグループ情報を表示する

```
SWX3200#show ip igmp groups detail
```

```

IGMP Connected Group Membership Details
Flags: (M - SSM Mapping, R - Remote, L - Local,
SG - Static Group, SS - Static Source)
Interface:    vlan1
Group:        224.1.1.1
Flags:        L
Uptime:       00:00:04
Group mode:   Exclude (Expires: 00:04:15, Static)
Last reporter: 3.3.3.3
Group source list: (R - Remote, M - SSM Mapping, S - Static, L - Local)
Include Source List :

Source Address Uptime v3 Exp Fwd Flags
2.2.2.2 00:00:04 stopped Yes L

```

### 8.5.19 IGMP インターフェース情報の表示

---

#### [書式]

```
show ip igmp interface [ifname]
```

#### [パラメーター]

*ifname* : インターフェース名

#### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

#### [説明]

指定インターフェースもしくは全てのインターフェースの IGMP 関連情報を表示する。

#### [設定例]

IGMP が有効になっている全てのインターフェースの IGMP 関連情報を表示する。

```

SWX3200#show ip igmp interface
Interface vlan1 (Index 301)
  IGMP Enabled, Active, Querier, Version 3 (default)
  Internet address is 192.168.100.240
  IGMP interface has 0 group-record states
  IGMP Interface statistics:
  v1-reports: 0
  v2-reports: 0, v2-leaves: 0
  v3-reports: 0
  IGMP robustness variable is 2
  IGMP query interval is 125 seconds
  IGMP querier timeout is 255 seconds
  IGMP max query response time is 10 seconds
  Group Membership interval is 260 seconds
  IGMP Last member query count is 2
  Last member query response interval is 1000 milliseconds
  Source Address checking is enabled

```

### 8.5.20 IGMP SSM マップ情報の表示

---

#### [書式]

```
show ip igmp ssm-map [group]
```

#### [パラメーター]

*group* : マルチキャストグループアドレス(A.B.C.D)

#### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

#### [説明]

IGMP SSM マップ の情報を表示する。

#### [設定例]

IGMP SSM マップ情報を表示する

```
SWX3200#show ip igmp ssm-mapping
SSM Mapping: Enabled
Database: Static mappings configured
```

マルチキャストグループ 232.1.1.4 の IGMP SSM マップ情報を表示する

```
SWX3200#show ip igmp ssm-map 232.1.1.4
Group address: 232.1.1.4
Database : Static
Source list : 172.16.8.5
              : 172.16.8.6
```

### 8.5.21 IGMP プロキシインターフェース情報の表示

**[書式]**

**show ip igmp proxy** [groups [*ifname*] [*groups*] [detail]]

**[キーワード]**

- groups : IGMP プロキシグループ情報を表示する。
- detail : 詳細情報を表示する。

**[パラメーター]**

- groups* : マルチキャストグループアドレス (A.B.C.D)
- ifname* : VLAN インターフェース名

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

IGMP プロキシが有効になっているインターフェースの情報を表示する。

**[設定例]**

IGMP プロキシが有効になっている全てのインターフェースの情報を表示する。

```
SWX3200#show ip igmp proxy groups
IGMP Connected Proxy Group Membership
Group Address      Interface      State      Member state
239.0.0.1          vlan2          Active     Delay

SWX3200#show ip igmp proxy groups detail
Interface:         vlan2
Group:             239.0.0.1
Group mode:        Exclude
State:             Active
Member state:      Delay
Source list is empty
```

### 8.5.22 IGMP グループメンバーシップの削除

**[書式]**

**clear ip igmp** [*entry*]

**[パラメーター]**

- entry* : 削除するエントリー

設定値	説明
group <i>group</i> [ <i>ifname</i> ]	指定したマルチキャストグループのエントリーを削除する。
interface <i>ifname</i>	指定したインターフェースのエントリーを削除する。

- group* : マルチキャストグループアドレス (A.B.C.D)

"\*" は全エントリー

*ifname* : インターフェース名

#### [入力モード]

特権 EXEC モード

#### [説明]

IGMP グループメンバーシップのエントリを削除する。

#### [ノート]

静的に登録した IGMP グループメンバーシップは削除されない。

#### [設定例]

マルチキャストグループ 224.1.1.1 の IGMP グループメンバーシップのエントリを削除する。

```
SWX3200#clear ip igmp group 224.1.1.1
```

## 第 9 章

### トラフィック制御

#### 9.1 ACL

##### 9.1.1 IPv4 アクセスリストの生成

[書式]

```
access-list ipv4-acl-id [seq_num] action protocol src-info [src-port] dst-info [dst-port] [ack] [fin] [psh] [rst] [syn] [urg]
no access-list ipv4-acl-id [seq_num] [action protocol src-info [src-port] dst-info [dst-port] [ack] [fin] [psh] [rst] [syn]
[urg]]
```

[キーワード]

- ack : protocol に tcp を指定した場合、条件に TCP ヘッダの ACK フラグを指定する。
- fin : protocol に tcp を指定した場合、条件に TCP ヘッダの FIN フラグを指定する。
- psh : protocol に tcp を指定した場合、条件に TCP ヘッダの PSH フラグを指定する。
- rst : protocol に tcp を指定した場合、条件に TCP ヘッダの RST フラグを指定する。
- syn : protocol に tcp を指定した場合、条件に TCP ヘッダの SYN フラグを指定する。
- urg : protocol に tcp を指定した場合、条件に TCP ヘッダの URG フラグを指定する。

[パラメーター]

- ipv4-acl-id* : <1-2000>  
IPv4 アクセスリストの ID
- seq\_num* : <1-65535>  
シーケンス番号。対象アクセスリスト内におけるエントリーの位置を指定する。  
シーケンス番号を省略した場合は、リストの最後尾にエントリーが追加される。このとき、  
既存の最後尾エントリーに 10 を加算した値が新規エントリーの番号として自動採番される。  
(最初にシーケンス番号なしで追加した場合、エントリーの番号は 10 になる。)

- action* : アクセス条件に対する動作を指定する

設定値	説明
deny	条件を"拒否"する
permit	条件を"許可"する

- protocol* : 対象とするプロトコル種別を指定する

設定値	説明
<0-255>	IP ヘッダのプロトコル番号
any	すべての IPv4 パケット
tcp	TCP パケット
udp	UDP パケット

- src-info* : 条件とする送信元 IPv4 アドレス情報を設定する

設定値	説明
A.B.C.D E.F.G.H	ワイルドカードビット(E.F.G.H)付きの IPv4 アドレス(A.B.C.D)を指定する
A.B.C.D/M	サブネットマスク長(Mbit)付きの IPv4 アドレス(A.B.C.D)を指定する
host A.B.C.D	単一の IPv4 アドレス(A.B.C.D)を指定する
any	すべての IPv4 アドレスを対象とする

*src-port* : <0-65535>

protocol に tcp, udp を指定した場合、条件とする送信元ポート番号<0-65535>を指定する。省略することも可能

指定方法	説明
eq X	ポート番号(X)を指定する
range X Y	ポート番号(X)から(Y)を指定する

*dst-info* : 条件とする宛先 IPv4 アドレス情報を設定する

設定値	説明
A.B.C.D E.F.G.H	ワイルドカードビット(E.F.G.H)付きの IPv4 アドレス(A.B.C.D)を指定する
A.B.C.D/M	サブネットマスク長(Mbit)付きの IPv4 アドレス(A.B.C.D)を指定する
host A.B.C.D	単一の IPv4 アドレス(A.B.C.D)を指定する
any	すべての IPv4 アドレスを対象とする

*dst-port* : <0-65535>

protocol に tcp, udp を指定した場合、条件とする宛先ポート番号<0-65535>を指定する。省略することも可能

指定方法	説明
eq X	ポート番号(X)を指定する
range X Y	ポート番号(X)から(Y)を指定する

## [初期設定]

なし

## [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

## [説明]

IPv4 アクセスリストを生成する。

生成したアクセスリストには、複数(MAX:768 件)の条件を設定することができる。

生成した IPv4 アクセスリストを適用させる場合は、インターフェースモードで **access-group** コマンドを使用する。

no 形式で action 以降を指定した場合は、条件全てが一致する IPv4 アクセスリストを削除する。

no 形式で action 以降を指定しなかった場合は、アクセスリストの ID が一致する IPv4 アクセスリストを削除する。

## [ノート]

LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースに適用しているアクセスリストは、no 形式で削除することはできない。必ず適用を解除してから削除すること。

src-port, dst-port 共に、range で範囲が指定できるが、このように範囲を指定した IPv4 アクセスリストはシステム全体で一つだけ **access-group** コマンドでインターフェースに適用できる。

**[設定例]**

送信元 192.168.1.0/24 のセグメントから、172.16.1.1 への通信を拒否する IPv4 アクセスリスト #1 を作成する。

```
SWX3200(config)#access-list 1 deny any 192.168.1.0 0.0.0.255 host 172.16.1.1
```

IPv4 アクセスリスト #1 を削除する。

```
SWX3200(config)#no access-list 1
```

**9.1.2 IPv4 アクセスリストの説明文追加****[書式]**

**access-list *ipv4-acl-id* *description line***

**no access-list *ipv4-acl-id* *description***

**[パラメーター]**

*ipv4-acl-id* : <1-2000>  
説明文を追加する IPv4 アクセスリストの ID

*line* : 追加する説明文。ASCII で 32 文字まで設定可能

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

グローバルコンフィギュレーションモード

**[説明]**

生成してある IPv4 アクセスリストに説明文を追加する。

no 形式で実行した場合、IPv4 アクセスリストの説明文を削除する。

**[ノート]**

LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースにアクセスリストを適用させた後も、本コマンドで説明文を追加することは可能。(後着の説明文が上書きする)

**[設定例]**

送信元 192.168.1.0/24 のセグメントから、172.16.1.1 への通信を拒否する IPv4 アクセスリスト #1 を作成し、説明文「Test」を追加する。

```
SWX3200(config)#access-list 1 deny any 192.168.1.0 0.0.0.255 host 172.16.1.1
SWX3200(config)#access-list 1 description Test
```

**9.1.3 IPv4 アクセスリストの適用****[書式]**

**access-group *ipv4-acl-id* *direction***

**no access-group *ipv4-acl-id* *direction***

**[パラメーター]**

*ipv4-acl-id* : <1-2000>  
適用する IPv4 アクセスリストの ID

*direction* : 適用フレームの方向を指定する

設定値	説明
in	受信フレームに対して適用させる
out	送信フレームに対して適用させる

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

インターフェイスモード

**[説明]**

LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースに IPv4 アクセスリストを適用する。

受信/送信フレームがアクセスリストの条件と一致した場合、アクセスリストのアクションが該当フレームに対するアクション(**permit**, **deny**)となる。**no** 形式で実行した場合、適用したアクセスリストを LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースから削除する。**[ノート]**アクセスリストは、同一のインターフェースに、受信フレーム(**in**)と送信フレーム(**out**)のそれぞれに 1 つずつしか登録できない。

送信フレームに対するアクセスリストは LAN/SFP ポートに対してのみ適用可能。

制約事項は以下の通り。

ポート番号範囲(**range X Y**)を指定した IPv4 アクセスリストは、送信フレーム(**out**)に適用できない。

受信フレームに対するアクセスリストが設定された LAN/SFP ポートは論理インターフェースに所属できない。

受信フレームに対するアクセスリストは論理インターフェースに所属している LAN/SFP ポートに対して適用できない。ただし、スタートアップコンフィグ上に論理インターフェースに所属している LAN/SFP ポートに受信フレームに対するアクセスリスト設定がある場合、最若番ポートの設定が論理インターフェースに適用される。

**[設定例]**

LAN ポート #1 の受信フレームに対して、アクセスリスト #1 を適用する。

```
SWX3200 (config)#interface port1.1
SWX3200 (config-if)#access-group 1 in
```

**9.1.4 IPv6 アクセスリストの生成****[書式]****access-list** *ipv6-acl-id* [*seq\_num*] *action src-info***no access-list** *ipv6-acl-id* [*seq\_num*] [*action src-info*]**[パラメーター]***ipv6-acl-id* : <3001-4000>

IPv6 アクセスリストの ID

*seq\_num* : <1-65535>

シーケンス番号。対象アクセスリスト内におけるエントリーの位置を指定する。

シーケンス番号を省略した場合は、リストの最後尾にエントリーが追加される。このとき、既存の最後尾エントリーに 10 を加算した値が新規エントリーの番号として自動採番される。(最初にシーケンス番号なしで追加した場合、エントリーの番号は 10 になる。)

*action* : アクセス条件に対する動作を指定する

設定値	説明
deny	条件を"拒否"する
permit	条件を"許可"する

*src-info* : 条件とする送信元 IPv6 アドレス情報を設定する

設定値	説明
X::X::X:X/M	サブネットマスク長(Mbit)付きの IPv6 アドレス(X::X::X:X)を指定する
any	すべての IPv6 アドレスを対象とする

**[初期設定]**

なし



**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

IPv6 アクセスリストを生成する。

生成したアクセスリストには、複数(MAX:768 件)の条件を設定することができる。

生成したアクセスリストを適用させる場合は、インターフェースモードで **access-group** コマンドを使用する。

no 形式で action 以降を指定した場合は、条件全てが一致する IPv6 アクセスリストを削除する。

no 形式で action 以降を指定しなかった場合は、アクセスリストの ID が一致する IPv6 アクセスリストを削除する。

**[ノート]**

LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースに適用しているアクセスリストは、no 形式で削除することはできない。必ず適用を解除してから削除すること。

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

**[設定例]**

3ffe:506::/32 からのパケットを拒否する IPv6 アクセスリスト #3002 を作成する。

```
SWX3200(config)#access-list 3002 deny 3ffe:506::/32
```

IPv6 アクセスリスト #3002 を削除する。

```
SWX3200(config)#no access-list 3002
```

**9.1.5 IPv6 アクセスリストの説明文追加**

---

**[書式]****access-list *ipv6-acl-id* *description line*****no access-list *ipv6-acl-id* *description*****[パラメーター]***ipv6-acl-id* : <3001-4000>

説明文を追加する IPv6 アクセスリストの ID

*line* : 追加する説明文。ASCII で 32 文字まで設定可能**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

生成してある IPv6 アクセスリストに説明文を追加する。

no 形式で実行した場合、IPv6 アクセスリストの説明文を削除する。

**[ノート]**

LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースにアクセスリストを適用させた後も、本コマンドで説明文を追加することは可能。(後着の説明文で上書きする)

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

**[設定例]**

3ffe:506::/32 からのパケットを拒否する IPv6 アクセスリスト #3002 を作成し、説明文「Test」を追加する。

```
SWX3200(config)#access-list 3002 deny 3ffe:506::/32
```

```
SWX3200(config)#access-list 3002 description Test
```

**9.1.6 IPv6 アクセスリストの適用**

---

**[書式]****access-group *ipv6-acl-id* *direction***

**no access-group** *ipv6-acl-id direction*

[パラメーター]

*ipv6-acl-id* : <3001-4000>  
適用する IPv6 アクセスリストの ID

*direction* : 適用フレームの方向を指定する

設定値	説明
in	受信フレームに対して適用させる
out	送信フレームに対して適用させる

[初期設定]

なし

[入力モード]

インターフェースモード

[説明]

LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースに IPv6 アクセスリストを適用する。

受信/送信フレームがアクセスリストの条件と一致した場合、アクセスリストのアクションが該当フレームに対するアクション(permit, deny)となる。

no 形式で実行した場合、適用したアクセスリストを LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースから削除する。

[ノート]

アクセスリストは、同一のインターフェースに、受信フレーム(in)と送信フレーム(out)のそれぞれに 1 つずつしか登録できない。

送信フレームに対するアクセスリストは LAN/SFP ポートに対してのみ適用可能である。

制約事項は以下の通り。

受信フレームに対するアクセスリストが設定された LAN/SFP ポートは論理インターフェースに所属できない。

受信フレームに対するアクセスリストは論理インターフェースに所属している LAN/SFP ポートに対して適用できない。ただし、スタートアップコンフィグ上に論理インターフェースに所属している LAN/SFP ポートに受信フレームに対するアクセスリスト設定がある場合、最若番ポートの設定が論理インターフェースに適用される。

スタック機能が有効な場合、本コマンドは使用できない。

[設定例]

LAN ポート #1 の受信フレームに対して、IPv6 アクセスリスト #3002 を適用する。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#access-group 3002 in
```

## 9.1.7 MAC アクセスリストの生成

[書式]

**access-list** *mac-acl-id [seq\_num] action src-info dst-info*  
**no access-list** *mac-acl-id [seq\_num] [action src-info dst-info]*

[パラメーター]

*mac-acl-id* : <2001-3000>  
MAC アクセスリストの ID

*seq\_num* : <1-65535>  
シーケンス番号。対象アクセスリスト内におけるエントリーの位置を指定する。  
シーケンス番号を省略した場合は、リストの最後尾にエントリーが追加される。このとき、既存の最後尾エントリーに 10 を加算した値が新規エントリーの番号として自動採番される。(最初にシーケンス番号なしで追加した場合、エントリーの番号は 10 になる。)

*action* : アクセス条件に対する動作を指定する

設定値	説明
deny	条件を"拒否"する
permit	条件を"許可"する

*src-info* : 条件とする送信元 MAC アドレス情報を設定する

設定値	説明
HHHH.HHHH.HHHH WWW.WWW.WWW	ワイルドカードビット (WWW.WWW.WWW)付きの MAC アドレス(HHHH.HHHH.HHHH)を指定する
host HHHH.HHHH.HHHH	単一の MAC アドレス(HHHH.HHHH.HHHH)を指定する
any	すべての MAC アドレスを対象とする

*dst-info* : 条件とする宛先 MAC アドレス情報を設定する

設定値	説明
HHHH.HHHH.HHHH WWW.WWW.WWW	ワイルドカードビット (WWW.WWW.WWW)付きの MAC アドレス(HHHH.HHHH.HHHH)を指定する
host HHHH.HHHH.HHHH	単一の MAC アドレス(HHHH.HHHH.HHHH)を指定する
any	すべての MAC アドレスを対象とする

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

MAC アクセスリストを生成する。

生成したアクセスリストには、複数(MAX:768 件)の条件を設定することができる。

生成したアクセスリストを適用させる場合は、インターフェースモードで **access-group** コマンドを実行する。

no 形式で action 以降を指定した場合は、条件全てが一致する MAC アクセスリストを削除する。

no 形式で action 以降を指定しなかった場合は、アクセスリストの ID が一致する MAC アクセスリストを削除する。

**[ノート]**

LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースに適用しているアクセスリストは、no 形式で削除することはできない。必ず適用を解除してから削除すること。

"W", "H"は 0-9,a-f,A-F からなる 1 文字となる。

**[設定例]**

MAC アドレス 00-A0-DE-12-34-56 からのフレームを拒否する MAC アクセスリスト #2001 を作成する。

```
SWX3200(config)#access-list 2001 deny mac 00A0.DE12.3456 0000.0000.0000 any
```

MAC アクセスリスト #2001 を削除する。

```
SWX3200(config)#no access-list 2001
```

**9.1.8 MAC アクセスリストの説明文追加**

**[書式]**

**access-list mac-acl-id description line**

**no access-list mac-acl-id description**

**[パラメーター]**

*mac-acl-id* : <2001-3000>  
 説明文を追加する MAC アクセスリストの ID

*line* : 追加する説明文。ASCII で 32 文字まで設定可能

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

生成してある MAC アクセスリストに説明文を追加する。  
 no 形式で実行した場合、MAC アクセスリストの説明文を削除する。

**[ノート]**

LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースにアクセスリストを適用させた後も、本コマンドで説明文を追加することは可能。(後着の説明文が上書きする)

**[設定例]**

MAC アドレス 00-A0-DE-12-34-56 からのフレームを拒否する MAC アクセスリスト #2001 を作成し、説明文「Test」を追加する。

```
SWX3200(config)#access-list 2001 deny mac 00A0.DE12.3456 0000.0000.0000 any
SWX3200(config)#access-list 2001 description Test
```

## 9.1.9 MAC アクセスリストの適用

**[書式]**

**access-group** *mac-acl-id* *direction*  
**no access-group** *mac-acl-id* *direction*

**[パラメーター]**

*mac-acl-id* : <2001-3000>  
 適用する MAC アクセスリストの ID

*direction* : 適用フレームの方向を指定する

設定値	説明
in	受信フレームに対して適用させる

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースに対して MAC アクセスリストを適用する。  
 受信フレームがアクセスリストの条件と一致した場合、アクセスリストのアクションが該当フレームに対するアクション(permit, deny)となる。  
 no 形式で実行した場合、適用したアクセスリストを LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースから削除する。

**[ノート]**

同一のインターフェースに複数のアクセスリストを登録することはできない。

制約事項は以下の通り。

受信フレームに対するアクセスリストが設定された LAN/SFP ポートは論理インターフェースに所属できない。

受信フレームに対するアクセスリストは論理インターフェースに所属している LAN/SFP ポートに対して適用できない。ただし、スタートアップコンフィグ上に論理インターフェースに所属している LAN/SFP ポートに受信フレームに対するアクセスリスト設定がある場合、最若番ポートの設定が論理インターフェースに適用される。

#### [設定例]

LAN ポート #1 の受信フレームに対して、アクセスリスト #2001 を適用する。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#access-group 2001 in
```

### 9.1.10 生成したアクセスリストの表示

#### [書式]

```
show access-list [acl_id]
```

#### [パラメーター]

*acl-id* : <1-2000>, <2001-3000>, <3001-4000>

アクセスリストの ID

#### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

#### [説明]

登録されているアクセスリストを表示する。

*acl\_id* を省略した場合は、全てのアクセスリストを表示する。

インターフェースに適用され、かつ、条件にあったフレームを 1 つ以上受信または転送した場合、そのフレームの統計数(*match*)も表示する。

#### [ノート]

トラフィック分類(QoS)の条件にあったフレームの統計数(*match*)もカウントアップする。

ルートマップ(PBR)の条件にあったフレームの統計数(*match*)はカウントアップしない。

#### [設定例]

一覧を表示する。

```
SWX3200>show access-list
IPv4 access list 1
  10 deny any 192.168.1.0/24 host 172.16.1.1 [match= 62]
MAC access list 2001
  10 deny host 00A0.DE12.3456 any [match= 123]
IPv6 access list 3002
  10 deny 3ffe:506::/32
```

### 9.1.11 統計数のクリア

#### [書式]

```
clear access-list counters [acl_id]
```

#### [パラメーター]

*acl-id* : <1-2000>, <2001-3000>, <3001-4000>

アクセスリストの ID

#### [入力モード]

特権 EXEC モード

#### [説明]

show access-list コマンドで表示される統計数(*match*)をクリアする。

#### [設定例]

統計数をクリアする。

```
SWX3200>clear access-list counters
```

### 9.1.12 インターフェースに適用したアクセスリストの表示

---

#### [書式]

```
show access-group
```

#### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

#### [説明]

インターフェース毎に、適用されている全アクセスリストの ID を表示する。

#### [設定例]

一覧を表示する。

```
SWX3200>show access-group
Interface port1.1 : IPv4 access group 1 in
Interface port1.7 : IPv6 access group 3002 in
Interface port1.8 : MAC access group 2001 in
```

### 9.1.13 VLAN アクセスマップの設定および VLAN アクセスマップモードへの移行

---

#### [書式]

```
vlan access-map access-map-name
no vlan access-map access-map-name
```

#### [パラメーター]

*access-map-name* : 半角英数字および半角記号(256 文字以内)  
アクセスマップ名

#### [初期設定]

なし

#### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

#### [説明]

*access-map-name* で指定した名前の VLAN アクセスマップを作成したのち、VLAN アクセスマップを設定するための VLAN アクセスマップモードに移行する。

no 形式で実行した場合は、指定した VLAN アクセスマップを削除する。

#### [ノート]

VLAN アクセスマップモードからグローバルコンフィグレーションモードに戻るには **exit** コマンドを使用し、特権 EXEC モードに戻るには **end** コマンドを使用する。

#### [設定例]

VAM001 という名前の VLAN アクセスマップを作成して、VLAN アクセスマップモードへ移行する。

```
SWX3200 (config)#vlan access-map VAM001
SWX3200 (config-vlan-access-map)#
```

### 9.1.14 VLAN アクセスマップに対するアクセスリストの設定

---

#### [書式]

```
match access-list list-id
no match access-list list-id
```

#### [パラメーター]

*list-id* : <1-2000>, <2001-3000>, <3001-4000>  
access-list コマンドで設定されているアクセスリスト番号

#### [初期設定]

なし

**[入力モード]**

VLAN アクセスマップモード

**[説明]**

対象 VLAN アクセスマップに適用するアクセスリストを設定する。

no 形式で実行した場合は、指定したアクセスリストを対象 VLAN アクセスマップから削除する。

**[ノート]**

1 つの VLAN アクセスマップに対して設定可能なアクセスリストは、1 つのみ。

**show vlan access-map** コマンドで設定を確認できる。**[設定例]**

VAM001 という名前の VLAN アクセスマップを作成して、192.168.0.1 からのパケットを拒否するアクセスリストを設定する。

```
SWX3200(config)#access-list 2 deny any 192.168.0.1/32 any
SWX3200(config)#vlan access-map VAM001
SWX3200(config-vlan-access-map)#match access-list 2
```

**9.1.15 VLAN アクセスマップフィルターの設定****[書式]****vlan filter access-map-name vlan-id [direction]****no vlan filter access-map-name vlan-id [direction]****[パラメーター]****access-map-name** : 半角英数字および半角記号(256 文字以内)

vlan access-map コマンドで設定されているアクセスマップ名

**vlan-id** : <1-4094>

vlan コマンドで enable 状態に設定されている VLAN ID

**direction** : 適用フレームの方向を指定する。省略した場合は受信フレームに対して適用される

設定値	説明
in	受信フレームに対して適用させる
out	送信フレームに対して適用させる

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

指定した VLAN に VLAN アクセスマップフィルターを適用する。

no 形式で実行した場合は、指定した VLAN に対する VLAN アクセスマップフィルターを削除する。

**[ノート]**

disable 状態に設定されている VLAN ID に対して本コマンドを設定することはできない。

VLAN アクセスマップは、同一のインターフェースに、受信フレーム(in)と送信フレーム(out)にそれぞれ 1 つずつ適用できる。

ただし、以下のアクセスリストを設定した VLAN アクセスマップは、送信フレーム(out)に適用できない。

- MAC アクセスリスト
- ポート番号範囲(range X Y)を指定した IPv4 アクセスリスト

**[設定例]**

VAM001 という名前の VLAN アクセスマップを作成して、192.168.0.1 からのパケットを拒否するアクセスリストを設定したのち、VLAN #1000 の受信フレームに対して VAM001 を適用する。

```
SWX3200(config)#vlan database
SWX3200(config-vlan)#vlan 1000
```

```
SWX3200(config-vlan)#exit
SWX3200(config)#access-list 2 deny any 192.168.0.1/32 any
SWX3200(config)#vlan access-map VAM001
SWX3200(config-vlan-access-map)#match access-list 2
SWX3200(config-vlan-access-map)#exit
SWX3200(config)#vlan filter VAM001 1000 in
```

### 9.1.16 VLAN アクセスマップの表示

---

#### [書式]

**show vlan access-map**

#### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

#### [説明]

登録されている VLAN アクセスマップを表示する。

以下の項目が表示される。

- VLAN アクセスマップの名前
- VLAN アクセスマップに適用されているアクセスリスト

#### [設定例]

VLAN アクセスマップの情報を表示する。

```
SWX3200>show vlan access-map
Vlan access-map VAM001
    match ipv4 access-list 2
```

### 9.1.17 VLAN アクセスマップフィルターの表示

---

#### [書式]

**show vlan filter**

#### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

#### [説明]

VLAN アクセスマップフィルターの適用情報を表示する。

以下の項目が表示される。

- VLAN アクセスマップの名前
- VLAN アクセスマップが適用されている VLAN ID
- VLAN アクセスマップが適用されているフレームの方向(in/out)

#### [設定例]

VLAN アクセスマップフィルターの情報を表示する。

```
SWX3200>show vlan filter
Vlan Filter VAM001 is applied to vlan 1000 in
Vlan Filter VAM001 is applied to vlan 1001 out
Vlan Filter VAM002 is applied to vlan 2000-2001 in
```

## 9.2 QoS (Quality of Service)

---

### 9.2.1 QoS の有効・無効制御

---

#### [書式]

**qos action**

**qos\_disable**

#### [パラメーター]

*action* : Qos の動作



設定値	説明
enable	Qos を有効にする
disable	Qos を無効にする

**[初期設定]**

no qos

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

QoS を有効にする。

no 形式で実行した場合、QoS を無効する。このとき、関連する QoS 設定も同時に削除する。

**[ノート]**

フロー制御のシステム設定が有効な場合、Qos を有効にすることはできない。

QoS 関連コマンドは、QoS を有効にしておかないと実行できないものが多数ある。

**[設定例]**

QoS を有効にする。

```
SWX3200(config)#qos enable
```

QoS を無効にする。

```
SWX3200(config)#qos disable
```

## 9.2.2 デフォルト CoS の設定

---

**[書式]**

**qos cos value**

**no qos cos**

**[パラメーター]**

*value* : <0-7>  
デフォルト CoS 値

**[初期設定]**

qos cos 0

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースのデフォルト CoS を設定する。

no 形式で実行した場合、初期値(CoS=0)を設定する。

デフォルト CoS は、インターフェースのトラストモードが CoS に設定されている状態でタグなしフレームを受信した際に使用される。(フレームに CoS が設定されていないため)

**[ノート]**

本コマンドを実行するには、QoS を有効にしておくこと。

実行するインターフェースのトラストモードが CoS ではない場合、本コマンドは実行エラーとなる。

デフォルト CoS が異なる LAN/SFP ポートは論理インターフェースとして束ねることはできない。

実行するインターフェースが論理インターフェースに所属している LAN/SFP ポートの場合、本コマンドは実行エラーとなる。ただし、スタートアップコンフィグ上の論理インターフェースに所属している LAN/SFP ポートの設定は、最若番ポートの設定が論理インターフェースに適用される。

**[設定例]**

デフォルト CoS 値を 2 に設定する。

```
SWX3200(config-if)#qos cos 2
```

デフォルト CoS 値を初期値に戻す。

```
SWX3200(config-if)#no qos cos
```

### 9.2.3 トラストモードの設定

#### [書式]

```
qos trust mode
```

```
no qos trust
```

#### [パラメーター]

*mode* : トラストモード

設定値	説明
cos	送信キューを CoS 値に基づいて決定する
dscp	送信キューを DSCP 値に基づいて決定する
port-priority	受信ポートに設定された優先度を適用する

#### [初期設定]

```
qos trust cos
```

#### [入力モード]

インターフェースモード

#### [説明]

LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースのトラストモードを設定する。

no 形式で実行した場合、初期値(CoS トラストモード)を設定する。

トラストモードが cos の場合は、受信フレームの CoS 値を使用して送信キューの決定を行い、dscp の場合は、受信フレームの DSCP 値を使用して送信キューの決定を行う。port-priority の場合は、受信インターフェースに設定された優先度に基づいて、送信キューの決定を行う。

CoS 値や DSCP 値、受信ポートに対応付ける送信キューは、以下のコマンドで変更することができる。

トラストモード	送信キュー決定に使用する設定値	対応コマンド
CoS	CoS-送信キュー ID 変換テーブル	<b>qos cos-queue</b>
DSCP	DSCP-送信キュー ID 変換テーブル	<b>qos dscp-queue</b>
Port Priority	受信ポートごとに設定された優先度	<b>qos port-priority-queue</b>

なお、QoS の一連の処理の中で、送信キューを決定する(変更する)タイミングは 4 種類ある。

1. 送信キュー割り当て時
2. クラスマップによる送信キュー指定
3. クラスマップによるプレマーキング指定
4. クラスマップによるリマーキング指定

2, 3, 4 はトラストモード"CoS"または"DSCP"の場合のみ指定可能であり、いずれの場合も自身のトラストモードに対応する「送信キュー ID 変換テーブル」を参照することにより、送信キューが割り当てられる。

#### [ノート]

本コマンドを実行するには、QoS を有効にしておくこと。

LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースにポリシーマップが適用されている場合、トラストモードの変更はできない。

トラストモードが異なる LAN/SFP ポートは論理インターフェースとして束ねることはできない。

論理インターフェースに所属している LAN/SFP ポートはトラストモードの変更はできない。ただし、スタートアップコンフィグ上の論理インターフェースに所属している LAN/SFP ポートの設定は、最番号ポートの設定が論理インターフェースに適用される。

QoS 機能では、トラストモードによって実行制限があるものや、表示結果の異なるものがある。

#### [設定例]

LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースのトラストモードを DSCP に設定する。

```
SWX3200(config-if)#qos trust dscp
```

LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースのトラストモードをデフォルト(CoS)に設定する。

```
SWX3200(config-if)#no qos trust
```

## 9.2.4 QoS 機能の設定状態の表示

### [書式]

```
show qos
```

### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

### [説明]

QoS 機能の有効(Enable)、無効(Disable)状態を表示する。

### [設定例]

システムの QoS の設定状態を表示する。

```
SWX3200#show qos
Enable
```

## 9.2.5 インターフェースの QoS 情報の表示

### [書式]

```
show qos interface [ifname]
```

### [パラメーター]

*ifname* : LAN/SFP ポートおよび論理インターフェース名。省略時は全ポートを対象とする。  
表示するインターフェース

### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

### [説明]

指定したインターフェースの QoS 設定情報を表示する。表示内容は以下のとおり。

項目	説明
Port Trust Mode	インターフェースのトラストモード(CoS/DSCP/Port-Priority)
Input Policy-Map Name	インターフェースに適用済みのポリシーマップ名とクラスマップ情報(注 1)
Port Default CoS Priority	デフォルト CoS 値(注 2)
Port-Priority-Queue	ポート優先度(注 3)
Egress Traffic Shaping	トラフィックシェーピング(ポート単位)
Egress Traffic Queue Shaping	トラフィックシェーピング(キュー単位)
Queue Scheduling	送信キューのスケジューリング方式と重み
CoS (Queue)	CoS-送信キュー ID 変換テーブル(注 2)
DSCP (Queue)	DSCP-送信キュー ID 変換テーブル(注 4)
Special Queue Assignment: Sent From CPU	CPU から送信されるフレームの送信キュー指定

注 1) 適用されているポリシーマップがない場合は表示されない。クラスマップ情報の詳細は **show class-map** コマンドを参照のこと。

注 2) トラストモードが"CoS"の場合のみ表示される。

注 3) トラストモードが"ポート優先"の場合のみ表示される。

注 4) トラストモードが"DSCP"の場合のみ表示される。

### [ノート]

本コマンドを実行するには、QoS を有効にしておくこと。

**[設定例]**

LANポート#1のQoS設定を表示する。(トラストモード CoS)

```
SWX3200#show qos interface port1.1
```

```
Port Trust Mode: CoS

Port Default CoS Priority: 0

Egress Traffic Shaping: Rate 30016 Kbps, Burst 1876 KByte

Queue Scheduling:
Queue0 : Weight 1 ( 5.3%)
Queue1 : Weight 1 ( 5.3%)
Queue2 : Weight 2 (10.5%)
Queue3 : Weight 5 (26.3%)
Queue4 : Weight 5 (26.3%)
Queue5 : Weight 5 (26.3%)
Queue6 : SP
Queue7 : SP

Cos (Queue): 0(2), 1(0), 2(1), 3(3), 4(4), 5(5), 6(6), 7(7)

Special Queue Assignment:
Sent From CPU: Queue7
```

LANポート#1のQoS設定を表示する。(トラストモード DSCP)

```
SWX3200#show qos interface port1.1
```

```
Port Trust Mode: DSCP

Egress Traffic Shaping: Not Configured

Queue Scheduling:
Queue0 : SP
Queue1 : SP
Queue2 : SP
Queue3 : SP
Queue4 : SP
Queue5 : SP
Queue6 : SP
Queue7 : SP

DSCP (Queue): 0(2), 1(2), 2(2), 3(2), 4(2), 5(2), 6(2), 7(2)
               8(0), 9(0), 10(0), 11(0), 12(0), 13(0), 14(0), 15(0)
               16(1), 17(1), 18(1), 19(1), 20(1), 21(1), 22(1), 23(1)
               24(3), 25(3), 26(3), 27(3), 28(3), 29(3), 30(3), 31(3)
               32(4), 33(4), 34(4), 35(4), 36(4), 37(4), 38(4), 39(4)
               40(5), 41(5), 42(5), 43(5), 44(5), 45(5), 46(5), 47(5)
               48(6), 49(6), 50(6), 51(6), 52(6), 53(6), 54(6), 55(6)
               56(7), 57(7), 58(7), 59(7), 60(7), 61(7), 62(7), 63(7)

Special Queue Assignment:
Sent From CPU: Queue7
```

## 9.2.6 送信キュー使用率の表示

**[書式]**

```
show qos queue-counters [ifname]
```

**[パラメーター]**

*ifname* : LAN/SFP ポート名。省略時は全ポートを対象とする。  
表示するインターフェース

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

指定した LAN/SFP ポートの送信キュー毎の使用率を表示する。キューの使用率は以下で計算する。

(キューの使用率) = (キューに格納されているバッファ数) / (キューの最大長)

[ノート]

本コマンドは QoS の状態(有効/無効)にかかわらず使用できる。

[設定例]

LAN ポート #1 のキュー使用率を表示する。

```
SWX3200#show qos queue-counters port1.1
QoS: Enable
Interface port1.1 Queue Counters:
Queue 0          59.4 %
Queue 1          15.0 %
Queue 2           0.0 %
Queue 3           0.0 %
Queue 4           0.0 %
Queue 5           3.6 %
Queue 6           0.0 %
Queue 7           0.1 %
```

### 9.2.7 CoS-送信キュー ID 変換テーブルの設定

[書式]

```
qos cos-queue cos-value queue-id
no qos cos-queue cos-value
```

[パラメーター]

- cos-value* : <0-7>  
変換元の CoS 値
- queue-id* : <0-7>  
CoS 値に対応する送信キュー ID

[初期設定]

[ノート] 参照

[入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

[説明]

送信キューを決定するために使用する CoS-送信キュー ID 変換テーブルの値を設定する。

no 形式で実行した場合、指定した CoS 値の送信キュー ID を初期設定に戻す。

CoS-送信キュー ID 変換テーブルは、トラストモードが CoS に設定されている場合に使用される。

[ノート]

本コマンドを実行するには、QoS を有効にしておくこと。

CoS-送信キュー ID 変換テーブルの初期設定は下表のとおり。

CoS 値	送信キュー
0	2
1	0
2	1
3	3
4	4
5	5
6	6
7	7

[設定例]

CoS 値"0"に対して送信キュー #4 を割り当てる。

```
SWX3200(config)#qos cos-queue 0 4
```

CoS 値"0"の送信キュー ID を初期値に戻す。

```
SWX3200(config)#no qos cos-queue 0
```

## 9.2.8 DSCP-送信キュー ID 変換テーブルの設定

### [書式]

```
qos dscp-queue dscp-value queue-id
no qos dscp-queue dscp-value
```

### [パラメーター]

*dscp-value* : <0-63>  
変換元の DSCP 値

*queue-id* : <0-7>  
DSCP 値に対応する送信キュー ID

### [初期設定]

[ノート] 参照

### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

### [説明]

送信キューを決定するために使用する DSCP-送信キュー ID 変換テーブルの値を設定する。

no 形式で実行した場合、指定した DSCP 値の送信キュー ID を初期設定に戻す。

DSCP-送信キュー ID 変換テーブルは、トラストモードが DSCP に設定されている場合に使用される。

### [ノート]

本コマンドを実行するには、QoS を有効にしておくこと。

DSCP-送信キュー ID 変換テーブルの初期設定は下表のとおり。

DSCP 値	送信キュー
0-7	2
8-15	0
16-23	1
24-31	3
32-39	4
40-47	5
48-55	6
56-63	7

### [設定例]

DSCP 値"0"に対して送信キュー #4 を割り当てる。

```
SWX3200(config)#qos dscp-queue 0 4
```

DSCP 値"23"の送信キュー ID を初期値に戻す。

```
SWX3200(config)#no qos dscp-queue 23
```

## 9.2.9 ポート優先度の設定

### [書式]

```
qos port-priority-queue queue-id
no qos port-priority-queue
```

### [パラメーター]

*queue-id* : <0-7>

## LAN/SFP ポートに設定する送信キュー ID

## [初期設定]

```
qos port-priority-queue 2
```

## [入力モード]

インターフェースモード

## [説明]

LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースに、受信インターフェースに対応する優先度(送信キュー ID)を設定する。

no 形式で実行した場合、指定したインターフェースの送信キュー ID を初期値(2)に戻す。

ポート優先度は、トラストモードが"ポート優先"に設定されている場合の送信キューの決定に使用される。

## [ノート]

本コマンドを実行するには、QoS を有効にしておくこと。

実行するインターフェースのトラストモードが"ポート優先"ではない場合、本コマンドは実行エラーとなる。

ポート優先度が異なる LAN/SFP ポートは論理インターフェースとして束ねることはできない。

実行するインターフェースが論理インターフェースに所属している LAN/SFP ポートの場合、本コマンドは実行エラーとなる。ただし、スタートアップコンフィグ上の論理インターフェースに所属している LAN/SFP ポートの設定は、最若番ポートの設定が論理インターフェースに適用される。

## [設定例]

LAN ポート #1 のポート優先度として、送信キュー ID #4 を割り当てる。

```
SWX3200#interface port1.1
SWX3200(config-if)#qos port-priority-queue 4
```

## 9.2.10 スイッチ本体から送信されるフレームの送信キュー指定

## [書式]

```
qos queue sent-from-cpu queue-id
```

```
no qos queue sent-from-cpu
```

## [パラメーター]

```
queue-id          : <0-7>
                  送信キュー ID
```

## [初期設定]

```
qos queue sent-from-cpu 7
```

## [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

## [説明]

スイッチ本体(CPU)から各 LAN/SFP ポートへ送信されるフレームの格納先の送信キューを設定する。

no 形式で実行した場合、初期値を設定する。

## [ノート]

本コマンドを実行するには、QoS を有効にしておくこと。

CPU から送信されるフレームの優先度を下げると、より優先度の高いキューからの送信が優先されるため、高負荷の状態では L2MS やループ検出などの機能が動作しなくなる可能性がある。このため、本設定値は可能な限り大きな値(高優先度)とすることを推奨する。

スタック機能有効時、CPU から送信されるフレームの格納先送信キュー ID の初期設定値は"6"となる。

## [設定例]

CPU から送信されるフレームの格納先送信キューを #5 に設定する。

```
SWX3200(config)#qos queue sent-from-cpu 5
```

## 9.2.11 クラスマップ(トラフィックの分類条件)の生成

---

### [書式]

**class-map** *name*

**no class-map** *name*

### [パラメーター]

*name* : クラスマップ名 (20 文字以下、大文字小文字を区別する)

### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

### [説明]

クラスマップを生成する。

クラスマップは、受信フレームをトラフィッククラスに分類するための条件を定義するものであり、**match** コマンドで定義した条件とそれに対するアクション(**permit/deny**)で構成される。クラスマップのアクションは、次のようになる。

- アクセスリスト(ACL)を指定した場合(**match access-group** コマンドを実行)  
ACL に対するアクションがクラスマップのアクションとなる。
- アクセスリスト(ACL)以外を指定した場合  
許可(**permit**)となる。

生成後、その内容を指定するクラスマップモードに移動する。

**no** 形式で実行した場合は、指定したクラスマップを削除する。

### [ノート]

本コマンドを実行するには、QoS を有効にしておくこと。

指定したクラスマップが生成済みの場合、前回の設定に対して変更が行なわれる。ただし、ポリシーマップが LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースに適用済みの場合、ポリシーマップに関連付けられているクラスマップは編集・削除することはできない。

### [設定例]

クラスマップ"class1"を作成する。

```
SWX3200 (config) #class-map class1
SWX3200 (config-cmap) #
```

## 9.2.12 クラスマップの関連付け

---

### [書式]

**class** *name*

**no class** *name*

### [パラメーター]

*name* : クラスマップ名

### [入力モード]

ポリシーマップモード

### [説明]

ポリシーマップにクラスマップを関連付ける。

クラスマップの関連付けに成功すると、ポリシーマップ・クラスモードに移動する。ポリシーマップ・クラスモードでは、トラフィッククラス毎に以下の設定を行うことができる。

- プレマーキングまたは送信キュー指定
- メータリング
- ポリシング
- リマーキング

**no** 形式で実行した場合は、ポリシーマップからクラスマップの関連付けを解除する。



ポリシーマップの適用された LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースでは、関連付けをしたクラスマップの条件に従って受信フレームをトラフィッククラスに分類する。クラスマップのアクションが **permit** の場合、該当トラフィッククラスに対してユーザーの指定した QoS 処理が行われる。

一つのポリシーマップに関連付けられるクラスマップは、8 つまでとする。

#### [ノート]

本コマンドを実行するには、QoS を有効にしておくこと。

deny アクションのトラフィッククラスに対して、QoS 処理の設定をしても意味がない。

#### [設定例]

LAN ポート #1 の受信フレームに対して以下の設定をする。

- 10.1.0.0 のネットワークからのトラフィックを許可
- CIR:48kbps, CBS:12kbyte, EBS:12kbyte で、帯域クラスを分類
- Green:転送、Yellow:DSCP 値を 10 に書き換え、Red:破棄

#### [トラフィッククラスの定義]

```
SWX3200(config)#access-list 1 permit any 10.1.0.0 0.0.255.255 any
SWX3200(config)#class-map class1
SWX3200(config-cmap)#match access-list 1
SWX3200(config-cmap)#exit
```

#### [ポリシーの設定]

```
SWX3200(config)#policy-map policy1
SWX3200(config-pmap)#class class1
SWX3200(config-pmap-c)#police 48 12 12 yellow-action remark red-action drop
SWX3200(config-pmap-c)#remark-map yellow ip-dscp 10
SWX3200(config-pmap-c)#exit
SWX3200(config-pmap)#exit
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#service-policy input policy1
```

## 9.2.13 トラフィック分類条件の設定(access-list)

#### [書式]

**match access-list** *acl-id*

**no match access-list** *acl-id*

#### [パラメーター]

*acl-id* : <1 - 2000>  
IPv4 アクセスリスト ID

: <2001 - 3000>  
MAC アクセスリスト ID

: <3001 - 4000>  
IPv6 アクセスリスト ID

#### [入力モード]

クラスマップモード

#### [説明]

トラフィッククラスの分類条件にアクセスリストを使用する。

受信フレームがアクセスリストの条件に一致した場合、アクセスリストのアクションがトラフィッククラスのアクション(permit, deny)となる。

no 形式で実行した場合、アクセスリストによる条件設定を削除する。

#### [ノート]

本コマンドを実行するには、QoS を有効にしておくこと。

トラフィック分類でアクセスリストに設定できる条件は最大 39 件までとなる。

#### [設定例]

クラスマップ"class1"の分類条件にアクセスリスト #1 を設定する。

```
SWX3200 (config)#class-map class1
SWX3200 (config-cmap)#match access-list 1
```

## 9.2.14 トラフィック分類条件の設定(CoS)

---

### [書式]

```
match cos cos-list
no match cos
```

### [パラメーター]

```
cos-list          : <0 - 7>
```

分類条件として使用する CoS 値。最大 8 個まで登録できる。

### [入力モード]

クラスマップモード

### [説明]

トラフィッククラスの分類条件に VLAN タグヘッダの CoS 値を使用する。

no 形式で実行した場合、CoS の条件設定を削除する。

登録数の上限(8 個)まで、設定を繰り返すことができる。

### [ノート]

本コマンドを実行するには、QoS を有効にしておくこと。

### [設定例]

クラスマップ"class1"の分類条件に CoS 値"1"と"2"を設定する。

```
SWX3200 (config)#class-map class1
SWX3200 (config-cmap)#match cos 1 2
```

## 9.2.15 トラフィック分類条件の設定(TOS 優先度)

---

### [書式]

```
match ip-precedence tos-list
no match ip-precedence
```

### [パラメーター]

```
tos-list          : <0 - 7>
```

分類条件として使用する IP ヘッダの TOS 優先度(precedence)フィールド値。最大 8 個まで登録できる。

### [入力モード]

クラスマップモード

### [説明]

トラフィッククラスの分類条件に IP ヘッダの TOS 優先度(precedence)フィールド値を使用する。

no 形式で実行した場合、TOS 優先度による条件設定を削除する。

登録数の上限(8 個)まで、設定を繰り返すことができる。

### [ノート]

本コマンドを実行するには、QoS を有効にしておくこと。

### [設定例]

クラスマップ"class1"の分類条件に TOS 優先度"3"と"4"を設定する。

```
SWX3200 (config)#class-map class1
SWX3200 (config-cmap)#match ip-precedence 3 4
```

## 9.2.16 トラフィック分類条件の設定(DSCP)

---

### [書式]

```
match ip-dscp dscp-list
no match ip-dscp
```

[パラメーター]

*dscp-list* : <0 - 63>

分類条件として使用する IP ヘッダの DSCP(DiffServ Code Point)フィールド値。最大 8 個まで登録できる。

[入力モード]

クラスマップモード

[説明]

トラフィッククラスの分類条件に IP ヘッダの DSCP(DiffServ Code Point)フィールド値を使用する。

no 形式で実行した場合、DSCP による条件設定を削除する。

登録数の上限(8 個)まで、設定を繰り返すことができる。

[ノート]

本コマンドを実行するには、QoS を有効にしておくこと。

[設定例]

クラスマップ"class1"の分類条件に DSCP 値"48"と"56"を設定する。

```
SWX3200(config)#class-map class1
SWX3200(config-cmap)#match ip-dscp 48 56
```

## 9.2.17 トラフィック分類条件の設定(Ethernet Type)

[書式]

**match ethertype** *type*

**match ethertype** *type* tagged

**match ethertype** *type* untagged

**no match ethertype**

[キーワード]

tagged : 条件に VLAN タグ付きを指定する

untagged : 条件に VLAN タグなしを指定する

[パラメーター]

*type* : イーサネットフレームのタイプを指定する。

設定値	説明
0xXXXX	タイプ値の 16 進表記
any	全てのフレーム

[入力モード]

クラスマップモード

[説明]

トラフィッククラスの分類条件にイーサネットフレームのタイプ値と VLAN タグの有無を使用する。

no 形式で実行した場合、イーサネットフレームのタイプ値と VLAN タグの有無による条件設定を削除する。

既に **match ethertype** コマンドで設定を行っている場合は、内容を変更する。

[ノート]

本コマンドを実行するには、QoS を有効にしておくこと。

tagged 指定はアクセスポートに適用した場合無効となる(アクセスポートではタグ付きフレームを扱わないため)。

[設定例]

クラスマップ"class1"の分類条件に、イーサネットフレームのタイプ値"0x0800"を設定する。

```
SWX3200(config)#class-map class1
SWX3200(config-cmap)#match ethertype 0x0800
```

## 9.2.18 トラフィック分類条件の設定(VLAN ID)

---

### [書式]

```
match vlan id
no match vlan
```

### [パラメーター]

*id* : <1 - 4094>  
分類条件として使用する VLAN ID

### [入力モード]

クラスマップモード

### [説明]

トラフィッククラスの分類条件に VLAN ID を使用する。  
no 形式で実行した場合、VLAN ID による条件設定を削除する。  
登録数の上限(30 個)まで、設定を繰り返すことができる。

### [ノート]

本コマンドを実行するには、QoS を有効にしておくこと。

### [設定例]

クラスマップ"class1"の分類条件に VLAN #20 を設定する。

```
SWX3200(config)#class-map class1
SWX3200(config-cmap)#match vlan 20
```

## 9.2.19 トラフィック分類条件の設定(VLAN ID レンジ指定)

---

### [書式]

```
match vlan-range id-start to id-end
```

### [パラメーター]

*id-start* : <1 - 4094>  
分類条件として使用する VLAN ID の開始値。

*id-end* : <1 - 4094>  
分類条件として使用する VLAN ID の終了値。開始から終了までの指定範囲は最大で 30。

### [入力モード]

クラスマップモード

### [説明]

トラフィッククラスの分類条件に VLAN ID を使用する。  
分類条件を削除する場合は、**no match vlan** コマンドを使用する。  
**match vlan** コマンドの設定と併用することができる。  
登録数の上限(30 個)まで、**match vlan** コマンドや **match vlan-range** コマンドの設定を繰り返すことができる。

### [ノート]

本コマンドを実行するには、QoS を有効にしておくこと。

### [設定例]

クラスマップ"class1"の分類条件に、VLAN #20 から#30 までを設定する。

```
SWX3200(config)#class-map class1
SWX3200(config-cmap)#match vlan-range 20 to 30
```

## 9.2.20 クラスマップ情報の表示

---

### [書式]

```
show class-map [name]
```

## [パラメーター]

*name* : クラスマップ名。省略時、すべてのクラスマップ情報が表示される。

## [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

## [説明]

指定したクラスマップの情報(分類条件)を表示する。クラスマップ毎の表示内容は以下のとおり。

セクション	項目	説明
分類条件(match)	Match Access-List	アクセスリスト ID
	Match ethertype	Ethernet Type
	Match vlan	VLAN ID
	Match vlan-range	
	Match CoS	CoS 値
	Match IP precedence	TOS 優先度
	Match IP DSCP	DSCP 値

- 分類条件は、各種別のうち設定されているものが一つだけ表示される。
- 分類条件は、対応するコマンド(match)が設定されていない場合は表示されない。

## [ノート]

本コマンドを実行するには、QoS を有効にしておくこと。

## [設定例]

クラスマップ"class1"の情報を表示する。

```
SWX3200#show class-map class1
```

```
Class-Map Name: class1
Match vlan 10
```

## 9.2.21 受信フレームに対するポリシーマップの生成

## [書式]

```
policy-map name
no policy-map name
```

## [パラメーター]

*name* : ポリシーマップ名 (32 文字以下、大文字小文字を区別する)

## [入力モード]

グローバルコンフィギュレーションモード

## [説明]

ポリシーマップを生成する。ポリシーマップは、受信フレームに対する以下の処理をトラフィッククラス毎にまとめたものである。

- トラフィック分類
- プレマーキング
- メータリング
- ポリシング
- リマーキング

本コマンドで生成したポリシーマップは、**service-policy input** コマンドによって LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースに適用することができる。これにより、ポリシーマップ内の各クラスマップによって受信フレームがトラフィッククラスに分類されるようになり、各トラフィックに対してユーザーの指定した QoS 処理が行われるようになる。

生成後、その内容を設定するポリシーマップモードに移動する。

**no** 形式で実行した場合、指定したポリシーマップを削除する。

**[ノート]**

本コマンドを実行するには、QoS を有効にしておくこと。

指定したポリシーマップが生成済みの場合、前回の設定に対して変更が行なわれる。ただし、ポリシーマップが LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースに適用済みの場合、編集・削除することはできない。

**[設定例]**

LAN ポート #1 の受信フレームに対して以下の設定をする。

- 10.1.0.0 のネットワークからのトラフィックを許可
- CIR:48kbps, CBS:12kbyte, EBS:12kbyte で、帯域クラスを分類
- Green:転送、Yellow:DSCP 値を 10 に書き換え、Red:破棄

**[トラフィッククラスの定義]**

```
SWX3200(config)#access-list 1 permit any 10.1.0.0 0.0.255.255 any
SWX3200(config)#class-map class1
SWX3200(config-cmap)#match access-list 1
SWX3200(config-cmap)#exit
```

**[ポリシーの設定]**

```
SWX3200(config)#policy-map policy1
SWX3200(config-pmap)#class class1
SWX3200(config-pmap-c)#police 48 12 12 yellow-action remark red-action drop
SWX3200(config-pmap-c)#remark-map yellow ip-dscp 10
SWX3200(config-pmap-c)#exit
SWX3200(config-pmap)#exit
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#service-policy input policy1
```

**9.2.22 受信フレームに対するポリシーマップの適用****[書式]**

**service-policy input name**  
**no service-policy name**

**[パラメーター]**

*name* : 適用するポリシーマップ名

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

ポリシーマップを該当する LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースに適用する。

no 形式で実行した場合、LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースからポリシーマップを解除する。

**[ノート]**

本コマンドを実行するには、QoS を有効にしておくこと。

既にポリシーマップが LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースに適用済みの場合、エラーとなる。

ポリシーマップに関連付けられたクラスマップについて、LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースのトラストモードと対応しない設定が一つでも含まれていた場合、エラーとなる。クラスマップの設定のうち、トラストモードによる適用制限があるコマンドは以下のとおり。

トラストモード	コマンド	制限内容
CoS	<b>set ip-dscp-queue</b>	使用不可
DSCP	<b>set cos-queue</b>	使用不可

トラストモード	コマンド	制限内容
Port Priority	<b>set cos</b>	使用不可
	<b>set ip-precedence</b>	
	<b>set ip-dscp</b>	
	<b>set cos-queue</b>	
	<b>set ip-dscp-queue</b>	
	<b>police, remark-map</b>	リマーケティングが有効な組合せは使用不可(注 1)

注 1) リマーケティングが有効な組合せとは、**police** コマンドの **yellow-action** または **red-action** が **remark** に設定されており、且つ、該当色の **remark-map** が設定されている場合を指す。

ポリシーマップが適用された LAN/SFP ポートは、論理インターフェースに所属できない。

ポリシーマップは論理インターフェースに所属している LAN/SFP ポートに対して適用できない。ただし、スタートアップコンフィグ上に論理インターフェースに所属している LAN/SFP ポートにポリシーマップ設定がある場合、最若番ポートの設定が論理インターフェースに適用される。

メータリングは、以下の論理インターフェースに対して動作させることはできない。メータリング (ポリサー) 設定 (**police** 系コマンド) を含むポリシーマップを適用しないこと。

- SWX3200-52GT にて Port1~24, 49, 50 と Port 25~48, 51, 52 でグルーピングした論理インターフェース
- スタックを構成するメンバースイッチを跨いでグルーピングした論理インターフェース

#### [設定例]

LAN ポート #1 にポリシーマップ **policy1** を適用する。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#service-policy input policy1
```

LAN ポート #1 からポリシーマップ **policy1** を解除する。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#no service-policy input policy1
```

## 9.2.23 プレマーケティングの設定(CoS)

#### [書式]

```
set cos value
no set cos
```

#### [パラメーター]

**value** : <0-7>  
プレマーケティングで設定する CoS 値

#### [入力モード]

ポリシーマップ・クラスモード

#### [説明]

分類したトラフィッククラスの CoS 値を、指定した CoS 値に変更する。また、トラストモードに対応した送信キュー ID テーブルに基づき、送信キューの再割り当てを行う。

**no** 形式で実行した場合、トラフィッククラスに対する CoS 値のプレマーケティング処理を削除する。

#### [ノート]

本コマンドを実行するには、QoS を有効にしておくこと。

プレマーケティングは、送信キュー指定機能と併用することはできない。

#### [設定例]

LAN ポート #1 の受信フレームに対して以下の設定をする

- 10.1.0.0 のネットワークからのトラフィックを許可
- 分類したトラフィッククラスを CoS 値"2"に変更する

[トラフィッククラスの定義]

```
SWX3200(config)#access-list 1 permit any 10.1.0.0 0.0.255.255 any
SWX3200(config)#class-map class1
SWX3200(config-cmap)#match access-list 1
SWX3200(config-cmap)#exit
```

[ポリシーの設定]

```
SWX3200(config)#policy-map policy1
SWX3200(config-pmap)#class class1
SWX3200(config-pmap-c)#set cos 2
SWX3200(config-pmap-c)#exit
SWX3200(config-pmap)#exit
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#service-policy input policy1
```

## 9.2.24 プレマーキングの設定(TOS 優先度)

[書式]

```
set ip-precedence value
no set ip-precedence
```

[パラメーター]

*value* : <0 - 7>  
プレマーキングで設定する TOS 優先度

[入力モード]

ポリシーマップ・クラスモード

[説明]

分類したトラフィッククラスの IP ヘッダの TOS 優先度(*precedence*)フィールド値を、指定した TOS 値に変更する。また、トラストモードに対応した送信キュー ID テーブルに基づき、送信キューの再割り当てを行う。

*no* 形式で実行した場合、トラフィッククラスに対する TOS 優先度のプレマーキング処理を削除する。

[ノート]

本コマンドを実行するには、QoS を有効にしておくこと。

プレマーキングは、送信キュー指定機能と併用することはできない。

[設定例]

LAN ポート #1 の受信フレームに対して以下の設定をする

- 10.1.0.0 のネットワークからのトラフィックを許可
- 分類したトラフィッククラスを TOS 優先度"5"に変更する

[トラフィッククラスの定義]

```
SWX3200(config)#access-list 1 permit any 10.1.0.0 0.0.255.255 any
SWX3200(config)#class-map class1
SWX3200(config-cmap)#match access-list 1
SWX3200(config-cmap)#exit
```

[ポリシーの設定]

```
SWX3200(config)#policy-map policy1
SWX3200(config-pmap)#class class1
SWX3200(config-pmap-c)#set ip-precedence 5
SWX3200(config-pmap-c)#exit
SWX3200(config-pmap)#exit
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#service-policy input policy1
```

## 9.2.25 プレマーキングの設定(DSCP)

[書式]

```
set ip-dscp value
no set dscp
```

[パラメーター]

*value* : <0 - 63>  
プレマーキングで設定する DSCP 値



**[入力モード]**

ポリシーマップ・クラスモード

**[説明]**

分類したトラフィッククラスの DSCP 値を、指定した DSCP 値に変更する。また、トラストモードに対応した送信キュー ID テーブルに基づき、送信キューの再割り当てを行う。

no 形式で実行した場合、トラフィッククラスに対する DSCP 値のプレマーキング処理を削除する。

**[ノート]**

本コマンドを実行するには、QoS を有効にしておくこと。

プレマーキングは、送信キュー指定機能と併用することはできない。

RFC で推奨されていない DSCP 値へのプレマーキング/リマーキングは、合計 4 種類までを使用できる。RFC で推奨される DSCP 値は、下表のとおり。

PHB	DSCP 値	RFC
default	0	2474
Class Selector	0, 8, 16, 24, 32, 40, 48, 56	2474
Assured Forwarding	10, 12, 14, 18, 20, 22, 26, 28, 30, 34, 36, 38	2597
Expedited Forwarding(EF)	46	2598

**[設定例]**

LAN ポート #1 の受信フレームに対して以下の設定をする

- 10.1.0.0 のネットワークからのトラフィックを許可
- 分類したトラフィッククラスを DSCP 値"10"に変更する

**[トラフィッククラスの定義]**

```
SWX3200(config)#access-list 1 permit any 10.1.0.0 0.0.255.255 any
SWX3200(config)#class-map class1
SWX3200(config-cmap)#match access-list 1
SWX3200(config-cmap)#exit
```

**[ポリシーの設定]**

```
SWX3200(config)#policy-map policy1
SWX3200(config-pmap)#class class1
SWX3200(config-pmap-c)#set ip-dscp 10
SWX3200(config-pmap-c)#exit
SWX3200(config-pmap)#exit
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#service-policy input policy1
```

**9.2.26 個別ポリサーの設定(シングルレート)**

**[書式]**

**police** [single-rate] *CIR CBS EBS yellow-action action red-action action*  
**no police**

**[キーワード]**

single-rate : シングルレートポリサーを使用する

**[パラメーター]**

- CIR* : <1 - 102300000>  
トラフィックレート(kbps)
- CBS* : <11 - 2097120>  
適合トークンバケットのバーストサイズ(kbyte)
- EBS* : <11 - 2097120>  
超過トークンバケットのバーストサイズ(kbyte)
- action* : 帯域クラスに分類されたパケットの動作

設定値	動作
transmit	転送
drop	破棄
remark	リマーケティング(CoS/TOS/DSCP)

**[入力モード]**

ポリシーマップ・クラスモード

**[説明]**

分類したトラフィッククラスに対して、個別ポリサー(シングルレート)を設定する。

既に **police** コマンドで設定が行われている場合は、内容を更新する。

メータリングは、シングルレート・3 カラーマーカー(RFC2697)に基づいて行い、分類した帯域クラスに対して、以下の処理を指定することができる。

- **Green**: 転送のみ(指定不可)
- **Yellow**: 転送、破棄、リマーケティングから選択
- **Red**: 破棄、リマーケティングから選択

ただし、リマーケティングは、**Yellow**, **Red** のどちらか一方のみ指定することができる。

リマーケティングの詳細設定は、**remark-map** コマンド(ポリシーマップ・クラスモード)で行う。 *action* が"remark"に設定されたのにかかわらず、その帯域クラスに対するリマーケティングの詳細設定がなかった場合、リマーケティングは無効となる。この場合、初期設定(**Yellow**:転送、**Red**:破棄)が適用される。

no 形式で実行した場合、メータリング・ポリシング・リマーケティングの処理を削除する。

集約ポリサー(**police-aggregate** コマンド)との併用はできない。

**[ノート]**

本コマンドを実行するには、QoS を有効にしておくこと。

メータリングは、以下の論理インターフェースに対して動作させることはできない。メータリング (ポリサー) 設定 (police 系コマンド) を含むポリシーマップを適用しないこと。

- SWX3200-52GT にて Port1~24, 49, 50 と Port 25~48, 51, 52 でグルーピングした論理インターフェース
- スタックを構成するメンバースイッチを跨いでグルーピングした論理インターフェース

**[設定例]**

LAN ポート #1 の受信フレームに対して以下の設定をする

- 10.1.0.0 のネットワークからのトラフィックを許可
- CIR:48kbps, CBS:12kbyte, EBS:12kbyte で、帯域クラスを分類
- **Green**:転送、**Yellow**:DSCP 値を 10 に書き換え、**Red**:破棄

**[トラフィッククラスの定義]**

```
SWX3200(config)#access-list 1 permit any 10.1.0.0 0.0.255.255 any
SWX3200(config)#class-map class1
SWX3200(config-cmap)#match access-list 1
SWX3200(config-cmap)#exit
```

**[ポリシーの設定]**

```
SWX3200(config)#policy-map policy1
SWX3200(config-pmap)#class class1
SWX3200(config-pmap-c)#police 48 12 12 yellow-action remark red-action drop
SWX3200(config-pmap-c)#remark-map yellow ip-dscp 10
SWX3200(config-pmap-c)#exit
SWX3200(config-pmap)#exit
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#service-policy input policy1
```

**9.2.27 個別ポリサーの設定(ツインレート)****[書式]**

```
police twin-rate CIR PIR CBS PBS yellow-action action red-action action
no police
```

[キーワード]

twain-rate : ツインレートポリサーを使用する

[パラメーター]

- CIR** : <1 - 102300000>  
トラフィックレート(kbps)
- PIR** : <1 - 102300000>  
ピークトラフィックレート(kbps)。CIR より小さい値は指定できない。
- CBS** : <11 - 2097120>  
適合トークンバケットのバーストサイズ(kbyte)
- PBS** : <11 - 2097120>  
ピークトークンバケットのバーストサイズ(kbyte)
- action** : 帯域クラスに分類されたパケットの動作

設定値	動作
transmit	転送
drop	破棄
remark	リマーケティング(CoS/TOS/DSCP)

[入力モード]

ポリシーマップ・クラスモード

[説明]

分類したトラフィッククラスに対して、個別ポリサー(ツインレート)を設定する。

既に **police** コマンドで設定が行われている場合は、内容を更新する。

メータリングは、ツインレート・3 カラーマーカー(RFC2698)に基づいて行い、分類した帯域クラスに対して、以下の処理を指定することができる。

- **Green** : 転送のみ(指定不可)
- **Yellow** : 転送、破棄、リマーケティングから選択
- **Red** : 破棄、リマーケティングから選択

ただし、リマーケティングは、**Yellow, Red** のどちらか一方のみ指定することができる。

リマーケティングの詳細設定は、**remark-map** コマンド(ポリシーマップ・クラスモード)で行う。 **action** が"remark"に設定されたのかかわらず、その帯域クラスに対するリマーケティングの詳細設定がなかった場合、リマーケティングは無効となる。この場合、初期設定(**Yellow**:転送、**Red**:破棄)が適用される。

**no** 形式で実行した場合、メータリング・ポリシング・リマーケティングの処理を削除する。

集約ポリサー(**police-aggregate** コマンド)との併用はできない。

[ノート]

本コマンドを実行するには、QoS を有効にしておくこと。

メータリングは、以下の論理インターフェースに対して動作させることはできない。メータリング (ポリサー) 設定 (**police** 系コマンド) を含むポリシーマップを適用しないこと。

- SWX3200-52GT にて Port1~24, 49, 50 と Port 25~48, 51, 52 でグルーピングした論理インターフェース
- スタックを構成するメンバースイッチを跨いでグルーピングした論理インターフェース

[設定例]

LAN ポート #1 の受信フレームに対して以下の設定をする

- 10.1.0.0 のネットワークからのトラフィックを許可
- CIR:48kbps, PIR:96kbps, CBS:12kbyte, PBS:12kbyte で、帯域クラスを分類
- Green:転送、Yellow:DSCP 値を 10 に書き換え、Red:破棄

[トラフィッククラスの定義]

```
SWX3200(config)#ip-access-list 1 permit 10.1.0.0 0.0.255.255
SWX3200(config)#class-map class1
```

```
SWX3200 (config-cmap) #match access-group 1
SWX3200 (config-cmap) #exit
```

[ポリシーの設定]

```
SWX3200 (config) #policy-map policy1
SWX3200 (config-pmap) #class class1
SWX3200 (config-pmap-c) #police twin-rate 48 96 12 12 yellow-action remark red-action
drop
SWX3200 (config-pmap-c) #remark-map yellow ip-dscp 10
SWX3200 (config-pmap-c) #exit
SWX3200 (config-pmap) #exit
SWX3200 (config) #interface port1.1
SWX3200 (config-if) #service-policy input policy1
```

## 9.2.28 個別ポリサーのリマーキングの設定

[書式]

**remark-map** *color type value*

**no remark-map**

[パラメーター]

*color* : リマーキングを行う帯域クラス

設定値	説明
yellow	帯域クラス Yellow のリマーキング設定を行う
red	帯域クラス Red のリマーキング設定を行う

*type* : リマーキング種別

設定値	説明
cos	CoS リマーキング
ip-precedence	TOS 優先度リマーキング
ip-dscp	DSCP リマーキング

*value* : <0 - 7>  
CoS, TOS 優先度のリマーキング値

: <0 - 63>  
DSCP リマーキング値

[入力モード]

ポリシーマップ・クラスモード

[説明]

個別ポリサーで分類した帯域クラス **Yellow**, **Red** に対するリマーキング動作の設定を行う。また、トラストモードに対応した送信キュー ID テーブルに基づき、送信キューの再割り当てを行う。

リマーキングは、CoS 値、TOS 優先度、DSCP 値のいずれかを選択することができる。

**no** 形式で実行した場合、リマーキング設定を削除する。

リマーキングを行うためには、本コマンドの設定のほか、**police** コマンド(ポリシーマップ・クラスモード)で該当する帯域クラスのアクションを"remark"に設定しておく必要がある。

[ノート]

本コマンドを実行するには、QoS を有効にしておくこと。

リマーキングは、プレマーキングや送信キューの指定と併用することができる。

RFC で推奨されていない DSCP 値へのプレマーキング/リマーキングは、4 種類までをユーザー定義値として使用することができる。RFC で推奨される DSCP 値は、下表のとおり。

PHB	DSCP 値	RFC
default	0	2474

PHB	DSCP 値	RFC
Class Selector	0, 8, 16, 24, 32, 40, 48, 56	2474
Assured Forwarding	10, 12, 14, 18, 20, 22, 26, 28, 30, 34, 36, 38	2597
Expedited Forwarding(EF)	46	2598

**[設定例]**

LAN ポート #1 の受信フレームに対して以下の設定をする

- 10.1.0.0 のネットワークからのトラフィックを許可
- CIR:48kbps, CBS:12kbyte, EBS:12kbyte で、帯域クラスを分類
- Green:転送、Yellow:DSCP 値を 10 に書き換え、Red:破棄

**[トラフィッククラスの定義]**

```
SWX3200(config)#access-list 1 permit any 10.1.0.0 0.0.255.255 any
SWX3200(config)#class-map class1
SWX3200(config-cmap)#match access-list 1
SWX3200(config-cmap)#exit
```

**[ポリシーの設定]**

```
SWX3200(config)#policy-map policy1
SWX3200(config-pmap)#class class1
SWX3200(config-pmap-c)#police 48 12 12 yellow-action remark red-action drop
SWX3200(config-pmap-c)#remark-map yellow ip-dscp 10
SWX3200(config-pmap-c)#exit
SWX3200(config-pmap)#exit
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#service-policy input policy1
```

**9.2.29 集約ポリサーの生成****[書式]**

```
aggregate-police name
no aggregate-police name
```

**[パラメーター]**

*name* : 集約ポリサー名称 (20 文字以下、大文字小文字を区別する)

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

集約ポリサーを生成する。既に生成済みの場合は、その内容を編集する。

コマンドが成功すると、集約ポリサーの内容を編集する集約ポリサーモードに遷移する。

**no** 形式で実行すると、集約ポリサーを削除する。

以下の場合、集約ポリサーの内容を変更することはできない(集約ポリサーモードに遷移しない)。

- 集約ポリサーの設定されたクラスマップを含むポリシーマップが LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースに適用されている

以下の場合、集約ポリサーを削除することはできない。

- **police-aggregate** コマンドにより、集約ポリサーがトラフィッククラスに設定されている

**[ノート]**

本コマンドを実行するには、QoS を有効にしておくこと。

メータリングは、以下の論理インターフェースに対して動作させることはできない。メータリング (ポリサー) 設定 (**police** 系コマンド) を含むポリシーマップを適用しないこと。

- SWX3200-52GT にて Port1~24, 49, 50 と Port 25~48, 51, 52 でグルーピングした論理インターフェース
- スタックを構成するメンバースイッチを跨いでグルーピングした論理インターフェース

**[設定例]**

集約ポリサー"AGP-01"を生成する

```
SWX3200 (config)#aggregate-police AGP-01
SWX3200 (config-agg-policer)#
```

## 9.2.30 集約ポリサーの設定(シングルレート)

### [書式]

```
police [single-rate] CIR CBS EBS yellow-action action red-action action
no police
```

### [キーワード]

single-rate : シングルレートポリサーを使用する

### [パラメーター]

CIR : <1 - 102300000>

トラフィックレート(kbps)

CBS : <11 - 2097120>

適合トークンバケットのバーストサイズ(kbyte)

EBS : <11 - 2097120>

超過トークンバケットのバーストサイズ(kbyte)

action : 帯域クラスに分類されたパケットの動作

設定値	動作
transmit	転送
drop	破棄
remark	リマーケティング(CoS/TOS/DSCP)

### [入力モード]

集約ポリサーモード

### [説明]

集約ポリサーに、シングルレートポリサーの設定を行う。

no 形式で実行した場合、メータリング・ポリシング・リマーケティングの処理を削除する。

メータリングは、シングルレート・3 カラーマーカー(RFC2697)に基づいて行い、分類した帯域クラスに対して、以下の処理を指定することができる。

- Green : 転送のみ(指定不可)
- Yellow : 転送、破棄、リマーケティングから選択
- Red : 破棄、リマーケティングから選択

ただし、リマーケティングは、Yellow, Red のどちらか一方のみ指定することができる。

リマーケティングの詳細設定は、**remark-map** コマンド(集約ポリサーモード)で行う。 *action* が"remark"に設定されたのかにかかわらず、その帯域クラスに対するリマーケティングの詳細設定がなかった場合、リマーケティングは無効となる。この場合、初期設定(Yellow:転送、Red:破棄)が適用される。

### [ノート]

本コマンドを実行するには、QoS を有効にしておくこと。

メータリングは、以下の論理インターフェースに対して動作させることはできない。メータリング (ポリサー) 設定 (police 系コマンド) を含むポリシーマップを適用しないこと。

- SWX3200-52GT にて Port1~24, 49, 50 と Port 25~48, 51, 52 でグルーピングした論理インターフェース
- スタックを構成するメンバースイッチを跨いでグルーピングした論理インターフェース

### [設定例]

集約ポリサー "AGP-01" を作成する。

- CIR:48kbps, CBS:12kbyte, EBS:12kbyte とし、SrTCM によるメータリングを実行
- Yellow:DSCP 値を 10 に書き換え、Red:破棄

[集約ポリサーの作成]

```
SWX3200(config)#aggregate-police AGP-01
SWX3200(config-agg-policer)#police single-rate 48 12 12 yellow-action remark red-
action drop
SWX3200(config-agg-policer)#remark-map yellow ip-dscp 10
SWX3200(config-agg-policer)#exit
```

### 9.2.31 集約ポリサーの設定(ツインレート)

**[書式]**

**police twin-rate** *CIR PIR CBS PBS yellow-action action red-action action*

**no police**

**[キーワード]**

**twin-rate** : ツインレートポリサーを使用する

**[パラメーター]**

**CIR** : <1 - 102300000>  
トラフィックレート(kbps)

**PIR** : <1 - 102300000>  
ピークトラフィックレート(kbps)。CIR より小さい値は指定できない。

**CBS** : <11 - 2097120>  
適合トークンバケットのバーストサイズ(kbyte)

**PBS** : <11 - 2097120>  
ピークトークンバケットのバーストサイズ(kbyte)

**action** : 帯域クラスに分類されたパケットの動作

設定値	動作
transmit	転送
drop	破棄
remark	リマーケティング(CoS/TOS/DSCP)

**[入力モード]**

集約ポリサーモード

**[説明]**

集約ポリサーに、ツインレートポリサーの設定を行う。

**no** 形式で実行した場合、メータリング・ポリシング・リマーケティングの処理を削除する。

メータリングは、ツインレート・3 カラーマーカー(RFC2698)に基づいて行い、分類した帯域クラスに対して、以下の処理を指定することができる。

- **Green** : 転送のみ(指定不可)
- **Yellow** : 転送、破棄、リマーケティングから選択
- **Red** : 破棄、リマーケティングから選択

ただし、リマーケティングは、**Yellow, Red** のどちらか一方のみ指定することができる。

リマーケティングの詳細設定は、**remark-map** コマンド(集約ポリサーモード)で行う。 **action** が"remark"に設定されたのかにかかわらず、その帯域クラスに対するリマーケティングの詳細設定がなかった場合、リマーケティングは無効となる。この場合、初期設定(**Yellow**:転送、**Red**:破棄)が適用される。

**[ノート]**

本コマンドを実行するには、QoS を有効にしておくこと。

メータリングは、以下の論理インターフェースに対して動作させることはできない。メータリング (ポリサー) 設定 (**police** 系コマンド) を含むポリシーマップを適用しないこと。

- SWX3200-52GT にて Port1~24, 49, 50 と Port 25~48, 51, 52 でグルーピングした論理インターフェース
- スタックを構成するメンバースイッチを跨いでグルーピングした論理インターフェース

**[設定例]**

集約ポリサー "AGP-01" を作成する。

- CIR:48kbps, PIR:96kbps, CBS:12kbyte, PBS:12kbyte とし、TrTCM によるメータリングを実行
- Yellow:DSCP 値を 10 に書き換え、Red:破棄

[集約ポリサーの作成]

```
SWX3200(config)#aggregate-police AGP-01
SWX3200(config-agg-policer)#police twin-rate 48 96 12 12 yellow-action remark red-
action drop
SWX3200(config-agg-policer)#remark-map yellow ip-dscp 10
SWX3200(config-agg-policer)#exit
```

**9.2.32 集約ポリサーのリマーキングの設定****[書式]**

**remark-map** *color type value*

**no remark-map**

[パラメーター]

*color* : リマーキングを行う帯域クラス

設定値	説明
yellow	帯域クラス Yellow のリマーキング設定を行う
red	帯域クラス Red のリマーキング設定を行う

*type* : リマーキング種別

設定値	説明
cos	CoS リマーキング
ip-precedence	TOS 優先度リマーキング
ip-dscp	DSCP リマーキング

*value* : <0 - 7>  
CoS, TOS 優先度のリマーキング値

: <0 - 63>  
DSCP リマーキング値

**[入力モード]**

集約ポリサーモード

**[説明]**

集約ポリサーで分類した帯域クラス Yellow, Red に対するリマーキング動作の設定を行う。また、トラストモードに対応した送信キュー ID テーブルに基づき、送信キューの再割り当てを行う。

リマーキングは、CoS 値、TOS 優先度、DSCP 値のいずれかを選択することができる。

no 形式で実行した場合、リマーキング設定を削除する。

リマーキングを行うためには、本コマンドの設定のほか、**police** コマンド(集約ポリサーモード)で該当する帯域クラスのアクションを"remark"に設定しておく必要がある。

**[ノート]**

本コマンドを実行するには、QoS を有効にしておくこと。

リマーキングは、プレマーキングや送信キューの指定と併用することができる。

RFC で推奨されていない DSCP 値へのプレマーキング/リマーキングは、4 種類までをユーザー定義値として使用することができる。RFC で推奨される DSCP 値は、下表のとおり。

PHB	DSCP 値	RFC
default	0	2474



PHB	DSCP 値	RFC
Class Selector	0, 8, 16, 24, 32, 40, 48, 56	2474
Assured Forwarding	10, 12, 14, 18, 20, 22, 26, 28, 30, 34, 36, 38	2597
Expedited Forwarding(EF)	46	2598

**[設定例]**

集約ポリサー "AGP-01" にリマーケティングの設定を行う。

- CIR:48kbps, PIR:96kbps, CBS:12kbyte, PBS:12kbyte とし、TrTCM によるメータリングを実行
- Yellow:DSCP 値を 10 に書き換え、Red:破棄

**[集約ポリサーの作成]**

```
SWX3200(config)#aggregate-police AGP-01
SWX3200(config-agg-policer)#police twin-rate 48 96 12 12 yellow-action remark red-
action drop
SWX3200(config-agg-policer)#remark-map yellow ip-dscp 10
SWX3200(config-agg-policer)#exit
```

**9.2.33 集約ポリサーの表示****[書式]**

**show aggregate-police** [*name*]

**[パラメーター]**

*name* : 集約ポリサー名。省略時はすべての集約ポリサーが対象となる。

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

集約ポリサーの内容を表示する。表示内容は、**show class-map** コマンドで表示される **police** セクションと同様。

**[ノート]**

本コマンドを実行するには、QoS を有効にしておくこと。

**[設定例]**

集約ポリサー "AGP-01" の内容を表示する。

```
SWX3200#show aggregate-police AGP-01

Aggregator-Police Name: AGP-01
Mode: TrTCM
average rate (48 Kbits/sec)
peak rate (96 Kbits/sec)
burst size (12 KBytes)
peak burst size (16 KBytes)
yellow-action (Transmit)
red-action (Drop)
```

**9.2.34 集約ポリサーの適用****[書式]**

**police-aggregate** *name*  
**no police-aggregate** *name*

**[パラメーター]**

*name* : 適用する集約ポリサー

**[入力モード]**

ポリシーマップ・クラスモード

**[説明]**

トラフィッククラスに対して、集約ポリサーを設定する。

no 形式で実行した場合、トラフィッククラスに対する集約ポリサーの設定を削除する。

個別ポリサー(ポリシーマップ・クラスモードの **police single-rate, police twin-rate** コマンド)との併用はできない。

#### [ノート]

本コマンドを実行するには、QoS を有効にしておくこと。

メータリングは、以下の論理インターフェースに対して動作させることはできない。メータリング (ポリサー) 設定 (police 系コマンド) を含むポリシーマップを適用しないこと。

- SWX3200-52GT にて Port1~24, 49, 50 と Port 25~48, 51, 52 でグルーピングした論理インターフェース
- スタックを構成するメンバースイッチを跨いでグルーピングした論理インターフェース

#### [設定例]

ポリシーマップ"policy1"の2つのトラフィッククラス"class1", "class2"に対して、集約ポリサー"AGP-01"を適用する

- CIR:48kbps, CBS:12kbyte, EBS:12kbyte とし、SrTCM によるメータリングを実行
- Yellow:DSCP 値を 10 に書き換え、Red:破棄

#### [集約ポリサーの作成]

```
SWX3200(config)#aggregate-police AGP-01
SWX3200(config-agg-policer)#police single-rate 48 12 12 yellow-action remark red-
action drop
SWX3200(config-agg-policer)#remark-map yellow ip-dscp 10
SWX3200(config-agg-policer)#exit
```

#### [ポリシーの設定]

```
SWX3200(config)#policy-map policy1
SWX3200(config-pmap)#class class1
SWX3200(config-pmap-c)#police-aggregate AGP-01
SWX3200(config-pmap-c)#exit
SWX3200(config-pmap)#class class2
SWX3200(config-pmap-c)#police-aggregate AGP-01
SWX3200(config-pmap-c)#exit
SWX3200(config-pmap)#exit
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#service-policy input policy1
```

## 9.2.35 メータリングカウンターの表示

#### [書式]

**show qos metering-counters** [*ifname*]

#### [パラメーター]

*ifname* : LAN/SFP ポートおよび論理インターフェース名。省略時は全ポートを対象とする。

#### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

#### [説明]

指定した LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースにおける、すべてのポリサー(個別ポリサー/集約ポリサー)のメータリング統計情報を表示する。

表示される統計情報は以下のとおり。

項目	説明
Green Bytes	帯域クラス Green に分類されたバイト数
Yellow Bytes	帯域クラス Yellow に分類されたバイト数
Red Bytes	帯域クラス Red に分類されたバイト数

カウンターの開始は、LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースにポリシーマップを適用した時点を起点とする。

#### [ノート]

本コマンドを実行するには、QoS を有効にしておくこと。

#### [設定例]

LAN ポート #1 のメータリング統計情報を表示する。

```
SWX3200#show qos metering-counters port1.1
Interface: port1.1(policy1)

***** Individual *****
Class-map          : class1
  Green Bytes     : 178345
  Yellow Bytes    : 0
  Red Bytes       : 0

***** Aggregate *****
Aggregate-policer: AGP-01
Class-map          : class2
                   : class3
  Green Bytes     : 28672
  Yellow Bytes    : 2048
  Red Bytes       : 51552
```

### 9.2.36 メータリングカウンターのクリア

#### [書式]

```
clear qos metering-counters [ifname]
```

#### [パラメーター]

*ifname* : LAN/SFP ポートおよび論理インターフェース名。省略時は全ポートを対象とする。

#### [入力モード]

特権 EXEC モード

#### [説明]

指定した LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースにおける、すべてのポリサー(個別ポリサー/集約ポリサー)のメータリング統計情報をクリアする。

#### [ノート]

本コマンドを実行するには、QoS を有効にしておくこと。

#### [設定例]

LAN ポート #1 のメータリング統計情報をクリアする。

```
SWX3200#clear qos metering-counter port1.1
```

### 9.2.37 送信キューの指定(CoS-Queue)

#### [書式]

```
set cos-queue value
no set cos-queue
```

#### [パラメーター]

*value* : <0 - 7>  
送信キュー ID に対応した CoS 値

#### [入力モード]

ポリシーマップ・クラスモード

#### [説明]

分類したトラフィッククラスに送信キューを割り当てる。

送信キューの指定には CoS 値を使用し、「CoS-送信キュー ID 変換テーブル」に基づいた送信キューが割り当てられる。

no 形式で実行した場合、トラフィッククラスに対する送信キューの指定を無効にする。

#### [ノート]

本コマンドを実行するには、QoS を有効にしておくこと。

送信キュー指定は、プレマリーキングと併用することはできない。

CoS による送信キューの指定は、CoS トラストモード専用となる。ポリシーマップに、本コマンドを含むクラスマップが一つでも含まれる場合、そのポリシーマップは CoS トラストモード以外のポートには適用できない。

**[設定例]**

LAN ポート #1 の受信フレームに対して以下の設定をする

- 10.1.0.0 のネットワークからのトラフィックを許可
- 分類したトラフィッククラスは送信キュー 3(CoS:3)に変更する

[トラフィッククラスの定義]

```
SWX3200(config)#access-list 1 permit any 10.1.0.0 0.0.255.255 any
SWX3200(config)#class-map class1
SWX3200(config-cmap)#match access-list 1
SWX3200(config-cmap)#exit
```

[ポリシーの設定]

```
SWX3200(config)#policy-map policy1
SWX3200(config-pmap)#class class1
SWX3200(config-pmap-c)#set cos-queue 3
SWX3200(config-pmap-c)#exit
SWX3200(config-pmap)#exit
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#service-policy input policy1
```

## 9.2.38 送信キューの指定(DSCP-Queue)

**[書式]**

**set ip-dscp-queue value**

**no set ip-dscp-queue**

[パラメーター]

*value* : <0 - 63>

送信キュー ID に対応した DSCP 値

**[入力モード]**

ポリシーマップ・クラスモード

**[説明]**

分類したトラフィッククラスに送信キューを割り当てる。

送信キューの指定には DSCP 値を使用し、「DSCP-送信キュー ID 変換テーブル」に基づいた送信キューが割り当てられる。

no 形式で実行した場合、トラフィッククラスに対する送信キューの指定を無効にする。

**[ノート]**

本コマンドを実行するには、QoS を有効にしておくこと。

送信キュー指定は、プレマリーキングと併用することはできない。

DSCP による送信キューの指定は、DSCP トラストモード専用となる。ポリシーマップに、本コマンドを含むクラスマップが一つでも含まれる場合、そのポリシーマップは DSCP トラストモード以外のポートには適用できない。

**[設定例]**

LAN ポート #1 の受信フレームに対して以下の設定をする

- 10.1.0.0 のネットワークからのトラフィックを許可
- 分類したトラフィッククラスは送信キュー 3(DSCP:24)に変更する

[トラフィッククラスの定義]

```
SWX3200(config)#access-list 1 permit any 10.1.0.0 0.0.255.255 any
SWX3200(config)#class-map class1
SWX3200(config-cmap)#match access-list 1
SWX3200(config-cmap)#exit
```

[ポリシーの設定]

```
SWX3200(config)#policy-map policy1
SWX3200(config-pmap)#class class1
SWX3200(config-pmap-c)#set ip-dscp-queue 24
SWX3200(config-pmap-c)#exit
SWX3200(config-pmap)#exit
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#service-policy input policy1
```

### 9.2.39 ポリシーマップ情報の表示

**[書式]**

**show policy-map** *[name]*

**[パラメーター]**

*name* : ポリシーマップ名。省略時、すべてのポリシーマップ情報が表示される。

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

指定したポリシーマップの情報を表示する。表示内容は以下。

項目	説明
Policy-Map Name	ポリシーマップ名
State	ポリシーマップの適用状態(attached/detached)
Class-Map Name	クラスマップ情報。詳細は <b>show class-map</b> コマンドを参照のこと
Match	分類条件 - Match Access-List (アクセスリスト ID) - Match ethertype (Ethernet Type) - Match vlan (VLAN ID) - Match vlan-range (VLAN ID) - Match CoS (CoS 値) - Match IP precedence (TOS 優先度) - Match IP DSCP (DSCP 値)
Set	プレマーキング設定、送信キュー指定 - Set CoS (プレマーキング設定 : CoS 値) - Set IP precedence (プレマーキング設定 : TOS 優先度) - Set IP DSCP (プレマーキング設定 : DSCP 値) - Set CoS-Queue (送信キュー指定 : CoS) - Set IP-DSCP-Queue (送信キュー指定 : DSCP)
Police	メータリング/ポリシング/リマーキング設定 ※詳細は以下を参照

メータリング/ポリシング/リマーキング設定の詳細は以下のとおり。

項目	説明	
Aggregator-Police Name	集約ポリサー名称(設定されている場合のみ)	
Mode	メータリングアルゴリズム(SrTCM/TrTCM)	
SrTCM のみ表示	average rate	トラフィックレート(Kbits/sec)
	burst size	適合トークンパケットのバーストサイズ(KBytes)
	excess burst size	超過トークンパケットのバーストサイズ(KBytes)

項目	説明	
TrTCM のみ表示	average rate	トラフィックレート(Kbits/sec)
	peak rate	ピークトラフィックレート(Kbits/sec)
	burst size	適合トークンパケットのバーストサイズ(KBytes)
	peak burst size	ピークトークンパケットのバーストサイズ(KBytes)
yellow-action	帯域クラス Yellow に対する動作 (transmit/drop/remark)	
red-action	帯域クラス Red に対する動作(drop/remark)	

- Match と Set は、設定されているものが一つだけ表示される。
- Match と Set と Police は、対応するコマンド(match, set, police)が設定されていない場合は表示されない。

#### [ノート]

本コマンドを実行するには、QoS を有効にしておくこと。

#### [設定例]

ポリシーマップ"policy1"の情報を表示する。

```
SWX3200#show policy-map policy1
```

```
Policy-Map Name: policy1
State: attached

Class-Map Name: class1
Qos-Access-List Name: 1
Police: Mode: SrTCM
average rate (48 Kbits/sec)
burst size (12 KBytes)
excess burst size (12 KBytes)
yellow-action (Remark [DSCP:10])
red-action (Drop)
```

## 9.2.40 マップステータスの表示

#### [書式]

```
show qos map-status type [name]
```

#### [パラメーター]

*type* : 表示するマップ種別

設定値	説明
policy	ポリシーマップのステータス情報を表示
class	クラスマップのステータス情報を表示

*name* : 表示するポリシーマップ (またはクラスマップ) の名称。省略時はすべてのポリシーマップ (またはクラスマップ) が対象となる。

#### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

#### [説明]

ポリシーマップやクラスマップのステータス情報を表示する。

本コマンドを使用することで、ポリシーマップがどの LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースに適用されているか、クラスマップがどのポリシーマップに登録されているかなど、ポリシーマップやクラスマップの結合に関する情報を知ることができる。

表示内容は以下のとおり。

```
policy-map
```

項目	表示内容
input port	ポリシーマップが適用されている LAN/SFP ポートおよび論理インターフェースの一覧
edit/erase	<b>policy-map/no policy-map</b> が実行可能かどうか
attach limitation	トラストモード毎の適用可否

class-map

項目	表示内容
policy-map association	クラスマップが登録されているポリシーマップの一覧
edit/erase	<b>class-map/no class-map</b> が実行可能かどうか
attach limitation	トラストモード毎の適用可否

ポリシーマップやクラスマップの設定内容は、**show policy-map, show class-map** コマンドで確認すること。

[ノート]

本コマンドを実行するには、QoS を有効にしておくこと。

[設定例]

ポリシーマップ"policy1"のステータスを表示する。

```
SWX3200#show qos map-status policy policy1
policy1 status
  input port          : port1.3
  edit/erase         : Disable

  attach limitation
    CoS trust mode    : Enable
    DSCP trust mode   : Enable
    Port-Priority trust mode : Disable
```

クラスマップ"class1"のステータスを表示する。

```
SWX3200#show qos map-status class class1
class1 status
  policy-map association : policy1 (Detached)
  edit/erase           : Disable

  attach limitation
    CoS trust mode      : Enable
    DSCP trust mode     : Enable
    Port-Priority trust mode : Disable
```

### 9.2.41 送信キューのスケジューリング設定

[書式]

**qos wrr-weight** *queue-id* *weight*

**no qos wrr-weight** *queue-id*

[パラメーター]

*queue-id* : <0-7>  
送信キュー ID

*weight* : <1-32>  
WRR の重み

[初期設定]

- no qos wrr-weight 0
- no qos wrr-weight 1
- no qos wrr-weight 2
- no qos wrr-weight 3

```
no qos wrr-weight 4
```

```
no qos wrr-weight 5
```

```
no qos wrr-weight 6
```

```
no qos wrr-weight 7
```

### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

### [説明]

送信キューに対して、WRR(重み付きラウンドロビン)の重みづけ設定を行う。

スケジューリング方式は、すべての LAN/SFP ポートおよび論理インターフェース共通の設定となる。

no 形式で実行した場合、送信キューは絶対優先(SP)方式となる。

### [ノート]

本コマンドを実行するには、QoS を有効にしておくこと。

### [設定例]

送信キュー#7,#6 を SP 方式 (7 が優先)、#5,#4,#3,#2,#1,#0 を WRR 方式 (5:5:5:2:1:1)とする。

```
SWX3200(config)#no qos wrr-weight 7
SWX3200(config)#no qos wrr-weight 6
SWX3200(config)#qos wrr-weight 5 5
SWX3200(config)#qos wrr-weight 4 5
SWX3200(config)#qos wrr-weight 3 5
SWX3200(config)#qos wrr-weight 2 2
SWX3200(config)#qos wrr-weight 1 1
SWX3200(config)#qos wrr-weight 0 1
```

## 9.2.42 トラフィックシェーピング(ポート単位)の設定

### [書式]

```
traffic-shape rate kbps CIR burst BC
```

```
no traffic-shape rate
```

### [パラメーター]

*CIR* : <18-1000000>

トラフィックレート(kbps)。丸め込みが発生するため、入力値に対して実際の適用値が異なる場合がある([ノート]参照)

*BC* : <4-16000>

バーストサイズ(kbyte)。4kbyte 単位での設定となる。

### [初期設定]

```
no traffic-shape rate
```

### [入力モード]

インターフェースモード

### [説明]

ポートに対して、シェーピングを設定する。

no 形式で実行した場合、ポートシェーピングの設定は無効となる。

### [ノート]

本コマンドを実行するには、QoS を有効にしておくこと。

トラフィックレートは丸め込みが発生するため、入力値に対して実際の適用値が異なる場合がある。

### [設定例]

LAN ポート #1 からの送信を CIR:30016kbps, Bc:1876000byte に絞る。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#traffic-shape rate kbps 30016 burst 1876
```



## 9.2.43 トラフィックシェーピング(キュー単位)の設定

### [書式]

```
traffic-shape queue queue-id rate kbps CIR burst BC
no traffic-shape queue queue-id rate
```

### [パラメーター]

*queue-id* : <0-7>  
送信キュー ID

*CIR* : <18-1000000>  
トラフィックレート(kbps)。丸め込みが発生するため、入力値に対して実際の適用値が異なる場合がある([ノート]参照)

*BC* : <4-16000>  
バーストサイズ(kbyte)。4kbyte 単位での設定となる。

### [初期設定]

```
no traffic-shpe queue 0 rate
no traffic-shpe queue 1 rate
no traffic-shpe queue 2 rate
no traffic-shpe queue 3 rate
no traffic-shpe queue 4 rate
no traffic-shpe queue 5 rate
no traffic-shpe queue 6 rate
no traffic-shpe queue 7 rate
```

### [入力モード]

インターフェースモード

### [説明]

ポートの送信キューに対して、シェーピングを設定する。  
no 形式で実行した場合、送信キューに対するシェーピングの設定は無効となる。

### [ノート]

本コマンドを実行するには、QoS を有効にしておくこと。  
トラフィックレートは丸め込みが発生するため、入力値に対して実際の適用値が異なる場合がある。

### [設定例]

LAN ポート #1 のキュー #0 からの送信を CIR:10Mbps, Bc:64000byte に絞る。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#traffic-shape queue 0 rate kbps 10000 burst 64
```

## 9.3 フロー制御

### 9.3.1 フロー制御(IEEE 802.3x PAUSE の送受信)の設定(システム)

#### [書式]

```
flowcontrol type
no flowcontrol
```

#### [パラメーター]

*type* : フロー制御の動作

設定値	説明
enable	フロー制御を有効にする
disable	フロー制御を無効にする

**[初期設定]**

flowcontrol disable

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

システム全体のフロー制御(IEEE 802.3x PAUSE フレーム送受信)を有効にする。

no 形式で実行した場合、フロー制御を無効にする。

**[ノート]**

QoS 機能が有効なとき、システムのフロー制御を有効にすることはできない。

フロー制御を有効にした場合、自動的にテールドロップ機能は無効になる。ただし、スタック機能が有効にした場合は本制限に該当しない。

インターフェース毎のフロー制御は、システム側とインターフェース側のフロー制御設定をそれぞれ有効にした場合のみ動作する。

**[設定例]**

システムのフロー制御を有効にする。

```
SWX3200(config)#flowcontrol enable
```

### 9.3.2 フロー制御(IEEE 802.3x PAUSE の送受信)の設定(インターフェース)

**[書式]**

**flowcontrol type**

**no flowcontrol**

**[パラメーター]**

*type* : フロー制御の動作

設定値	説明
auto	フロー制御の自動ネゴシエーションを有効にする
both	Pause フレームの送信/受信を有効にする
disable	フロー制御を無効にする

**[初期設定]**

flowcontrol disable

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

LAN/SFP ポートのフロー制御(IEEE 802.3x PAUSE フレーム送受信)を有効にする。

no 形式で実行した場合、フロー制御を無効にする。

**[ノート]**

本コマンドは LAN/SFP ポートにのみ設定可能。

システムのフロー制御が無効な場合動作しない。

PAUSE フレームの送信と受信は両方セットで有効/無効の設定となる。

中断要求時に本製品が送信する PAUSE フレームの中断時間は、0xFFFF(65535)とする。

以下の制限がある。

- SFP+モジュールを用いる場合、フロー制御の自動ネゴシエーションは未サポート。
- 下記の条件に該当する場合、自動ネゴシエーションおよび **Pause** フレーム送信は未サポート。(Pause フレーム受信のみサポート)
  - 使用機器が SWX3200-52GT、かつ、フロー制御が有効な場合
  - スタック機能が有効、かつ、フロー制御が有効な場合

**[設定例]**

LAN ポート #1 のフロー制御を有効にする。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#flowcontrol both
```

LAN ポート #1 のフロー制御を無効にする。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#no flowcontrol
```

**9.3.3 フロー制御の動作状態の表示****[書式]**

**show flowcontrol** [interface *ifname*]

**[キーワード]**

interface : 表示するインターフェースを指定する

**[パラメーター]**

*ifname* : LAN/SFP ポート名。省略時は全インターフェースを対象とする。  
表示するインターフェース

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

フロー制御に関する情報(有効/無効, PAUSE フレームの送受信数)を表示する。

**[ノート]**

PAUSE フレーム送受信数は、該当ポートのフロー制御が有効となっている場合のみ表示される。

PAUSE フレーム送受信数は、**clear frame-counters** コマンド実行時にクリアされる。

**[設定例]**

LAN ポート #1 のフロー制御情報を表示する。

```
SWX3200#show flowcontrol port1.1
Port          FlowControl      RxPause TxPause
-----
port1.1      Both              4337    0
```

全ポートのフロー制御情報を表示する

```
SWX3200#show flowcontrol
System flow-control: Enable
Port          FlowControl      RxPause TxPause
-----
port1.1      Both              4337    0
port1.2      Disable           -        -
port1.3      Both              0       1732
port1.4      Disable           -        -
port1.5      Disable           -        -
port1.6      Disable           -        -
port1.7      Disable           -        -
port1.8      Disable           -        -
```

**9.4 ストーム制御****9.4.1 ストーム制御の設定****[書式]**

**storm-control** *type* [*type..*] **level** *level*

**no storm-control****[パラメーター]**

*type* : ストーム制御タイプ

ストーム制御タイプ	説明
broadcast	ブロードキャストストーム制御を有効にする
multicast	マルチキャストストーム制御を有効にする
unicast	宛先不明のユニキャストフレームの制御を有効にする

*level* : <0.00-100.00>

閾値を帯域幅のパーセンテージで設定する  
閾値は小数点以下第2位まで設定できる

**[初期設定]**

no storm-control

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

LAN/SFP ポートに対しブロードキャストストーム制御、マルチキャストストーム制御および、宛先不明のユニキャストフレームの制御を有効にし、受信制限をかける。

閾値を超えて受信したフレームは破棄される。ただし、閾値が 100% の場合は受信制限はしない。閾値は全フレーム共通であり、個別には設定できない。

**[設定例]**

LAN ポート #1 のブロードキャストストーム制御とマルチキャストストーム制御を有効にし閾値 30% を設定する。

```
SWX3200(config)#interface port1.1
SWX3200(config-if)#storm-control broadcast multicast level 30
```

**9.4.2 ストーム制御 受信上限値の表示****[書式]**

**show storm-control** [*ifname*]

**[パラメーター]**

*ifname* : LAN/SFP ポートのインターフェース名  
表示するインターフェース

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

フレームの受信上限値を表示する。

インターフェース名を省略した場合は、全インターフェースが対象となる。

**[設定例]**

全インターフェースの設定状態を表示する。

```
SWX3200#show storm-control
Port      BcastLevel   McastLevel   UcastLevel
port1.1   30.00%       30.00%       100.00%
port1.2   20.00%       20.00%       20.00%
port1.3   100.00%      100.00%      100.00%
port1.4   100.00%      100.00%      100.00%
port1.5   50.00%       50.00%       100.00%
```

port1.6	100.00%	100.00%	100.00%
port1.7	100.00%	100.00%	30.00%
port1.8	100.00%	100.00%	30.00%

## 第 10 章

### アプリケーション

#### 10.1 DHCP Server

##### 10.1.1 DHCP サーバー機能の設定(システム)

###### [書式]

```
dhcp-server switch
no dhcp-server
```

###### [パラメーター]

*switch* : DHCP サーバー機能の動作

設定値	説明
enable	DHCP サーバー機能を有効にする
disable	DHCP サーバー機能を無効にする

###### [初期設定]

```
dhcp-server disable
```

###### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

###### [説明]

システム全体の DHCP サーバー機能の動作を設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

###### [ノート]

DHCP サーバー機能を有効にするためには、本コマンドに加えて、インターフェースでも DHCP サーバー機能を有効にする必要がある。

###### [設定例]

システム全体で、DHCP サーバー機能を有効にする。

```
SWX3200(config)#dhcp-server enable
```

システム全体で、DHCP サーバー機能を無効にする。

```
SWX3200(config)#dhcp-server disable
```

##### 10.1.2 DHCP サーバー機能の設定(インターフェース)

###### [書式]

```
dhcp-server switch
no dhcp-server
```

###### [パラメーター]

*switch* : DHCP サーバー機能の動作

設定値	説明
enable	DHCP サーバー機能を有効にする
disable	DHCP サーバー機能を無効にする

###### [初期設定]

```
dhcp-server disable
```

**[入力モード]**

インターフェイスモード

**[説明]**

対象インターフェイスの DHCP サーバー機能の動作を設定する。

VLAN インターフェイスにのみ設定が可能。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

**[ノート]**

DHCP サーバー機能を有効にするためには、本コマンドに加えて、システム全体でも DHCP サーバー機能を有効にする必要がある。

DHCP サーバー機能で配布する IP アドレス等の情報は、DHCP プールで設定する。

DHCP プールは、**dhcp pool** コマンドで設定する。VLAN インターフェイスには、IPv4 アドレスが設定されている必要がある。

本コマンドは、最大で 32 の VLAN インターフェイスに設定可能。

**[設定例]**

VLAN #1 で、DHCP サーバー機能を有効にする。

```
SWX3200(config)#interface vlan1
SWX3200(config-if)#dhcp-server enable
```

VLAN #1 で、DHCP サーバー機能を無効にする。

```
SWX3200(config)#interface vlan1
SWX3200(config-if)#dhcp-server disable
```

**10.1.3 DHCP サーバーの動作タイプの設定**

**[書式]**

**server-type type**  
**no server-type**

**[パラメーター]**

*type* : DHCP サーバーの動作タイプ

動作モード	説明
normal	通常の DHCP サーバー
auth-web	Web 認証用の DHCP サーバー

**[初期設定]**

server-type normal

**[入力モード]**

DHCP モード

**[説明]**

対象の DHCP プールの動作モードを設定する。

TYPE に「auth-web」を指定した場合、IP アドレスと VLAN が一致していない DHCP Request を送信してきたクライアントに対して DHCPNAK を送信する。

no 形式でコマンドを実行した場合は、初期設定に戻る。

**[設定例]**

DHCP プール「pool\_auth」の動作タイプを Web 認証用の DHCP サーバーに設定する。

```
SWX3200(config)#dhcp pool pool_auth
SWX3200(config-dhcp)#server-type auth-web
```

## 10.1.4 DHCP プールの設定

---

### [書式]

```
dhcp pool pool_name
no dhcp pool pool_name
```

### [パラメーター]

*pool\_name* : DHCP プール名  
半角英数字および半角記号(31 文字以内)

### [初期設定]

なし

### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

### [説明]

DHCP プールの設定を行うために、DHCP モードへ移行する。

DHCP モードでは、本コマンドで指定した DHCP プール名に対して設定を行う。

no 形式で実行した場合は、設定値を削除する。

### [ノート]

DHCP モードからグローバルコンフィグレーションモードに戻るには **exit** コマンドを使用し、特権 EXEC モードに戻るには **end** コマンドを使用する。

DHCP プールを作成後、最初に DHCP クライアントの存在するネットワークを **network** コマンドで指定する必要がある。

DHCP プールの設定可能数は 64 である。

### [設定例]

DHCP プール「pool\_vlan1」を作成し、DHCP モードに移行する。

```
SWX3200 (config)#dhcp pool pool_vlan1
SWX3200 (config-dhcp)#
```

## 10.1.5 ネットワーク部の設定

---

### [書式]

```
network ip_address/mask
network ip_address netmask
no network
```

### [パラメーター]

*ip\_address* : A.B.C.D  
IP アドレス

*mask* : <1-31>  
マスクビット数

*netmask* : A.B.C.D  
アドレス形式のネットマスク

### [初期設定]

なし

### [入力モード]

DHCP モード

### [説明]

対象の DHCP プールにネットワーク部を設定する。

no 形式で実行した場合は、設定値を削除する。



DHCP クライアントが DHCP サーバー機能を有効にする VLAN インターフェースと同じネットワークに存在している場合は、VLAN インターフェースに設定している IP アドレスのネットワークを指定する。

DHCP リレーエージェント経由で DHCP クライアントからの要求を受け入れる場合は、クライアントの所属するネットワークを指定する。

#### [ノート]

同じネットワーク部を持つプールを複数設定することはできない。

クライアントへ通知する、DHCP オプション「Subnet Mask」(オプションコード 1)には、本コマンドの値が使用される。

#### [設定例]

DHCP プール「pool\_vlan1」に、ネットワーク部「192.168.100.0/24」を設定する。

```
SWX3200(config)#dhcp pool pool_vlan1
SWX3200(config-dhcp)#network 192.168.100.0/24
```

### 10.1.6 割り当てる IP アドレスの範囲の設定(DHCP)

#### [書式]

```
range start_ip_address [end_ip_address]
no range [start_ip_address [end_ip_address]]
```

#### [パラメーター]

*start\_ip\_address* : A.B.C.D  
割り当てる IP アドレスのうち、最初の IP アドレス

*end\_ip\_address* : A.B.C.D  
割り当てる IP アドレスのうち、最後の IP アドレス  
割り当てるアドレスが 1 つの場合は、省略可能

#### [初期設定]

なし

#### [入力モード]

DHCP モード

#### [説明]

対象の DHCP プールで割り当てる IP アドレスの範囲を設定する。

割り当てるアドレスは、**network** コマンドで指定したネットワーク内のアドレスでなければならない。

最大 8 つの範囲を設定できる。

複数の DHCP プールで同一の IP アドレスを含めることはできない。

複数の範囲で同一の IP アドレスを含めることはできない。

IP アドレス範囲にネットワークアドレス、ブロードキャストアドレスを含めることはできない。

DHCP プールクラスモードの **range** コマンドで設定されている IP アドレスと重複することはできない。

DHCP プールクラスモードの **range** コマンドで設定されている IP アドレスの範囲で同一 IP アドレスを含めることはできない。

パラメータを指定して、no 形式で実行した場合は、指定したパラメーターを持つ設定値を削除する。

パラメータを指定せず、no 形式で実行した場合は、対象の DHCP プールに設定した、すべての設定値を削除する。

#### [ノート]

全プールと全プールクラスで設定されている **range** コマンドの範囲数の合計が 8192 個を超えた場合、本コマンドはエラーとなる。

#### [設定例]

DHCP プール「pool\_vlan1」に、IP アドレスの範囲「192.168.100.2-192.168.100.191/24」を設定する。

```
SWX3200(config)#dhcp pool pool_vlan1
SWX3200(config-dhcp)#range 192.168.100.2 192.168.100.191
```

## 10.1.7 特定のクライアントに割り当てる IP アドレスの設定

---

### [書式]

```
bind host ip_address mac_address
no bind host [ip_address]
```

### [パラメーター]

*ip\_address* : A.B.C.D  
特定のクライアントに割り当てる IP アドレス

*mac\_address* : HHHH.HHHH.HHHH  
クライアントの MAC アドレス

### [初期設定]

なし

### [入力モード]

DHCP モード

### [説明]

対象の DHCP プールで、指定の MAC アドレスを持つクライアントに割り当てる IP アドレスを設定する。割り当てるアドレスは、**network** コマンドで指定したネットワーク内のアドレスでなければならない。

**bind host** コマンドの最大設定数は、すべてのプールの **bind host** コマンドを合計して 4096 個である。

1 つのプール内では、複数 MAC アドレスに同一の IP アドレスを設定することはできない。

1 つのプール内では、1 つの MAC アドレスに複数の IP アドレスを設定することはできない。

IP アドレス範囲にネットワークアドレス、ブロードキャストアドレスを含めることはできない。

パラメータを指定して、no 形式で実行した場合は、指定したパラメーターを持つ設定値を削除する。

パラメータを指定せず、no 形式で実行した場合は、対象の DHCP プールに設定した、すべての設定値を削除する。

### [設定例]

MAC アドレス「00a0.deae.b893」を持つクライアントに対し、IP アドレス「192.168.100.100」を割り当てするよう設定する。

```
SWX3200(config-dhcp)#bind host 192.168.100.100 00a0.deae.b893
```

## 10.1.8 リース時間の設定(DHCP)

---

### [書式]

```
lease day hour min [sec]
no lease
```

### [パラメーター]

*day* : <0-120>  
日

*hour* : <0-23>  
時

*min* : <0-59>  
分

*sec* : <0-59>  
秒(省略した場合:0)

### [初期設定]

lease 1 0 0

(1 日)

**[入力モード]**

DHCP モード

**[説明]**

対象の DHCP プールで、IP アドレスのリース時間を設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

**[ノート]**

最小値は 20 秒(lease 0 0 0 20)。

**[設定例]**

リース時間を 6 時間に設定する。

```
SWX3200(config-dhcp)#lease 0 6 0
```

**10.1.9 リースする IP アドレスの重複チェックの設定****[書式]****probe** *switch***no probe****[パラメーター]***switch* : リースする IP アドレスの重複チェックの動作

設定値	説明
enable	重複チェックを有効にする
disable	重複チェックを無効にする

**[初期設定]**

probe enable

**[入力モード]**

DHCP モード

**[説明]**

対象の DHCP プールで、リースする IP アドレスの重複チェックを設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

**[設定例]**

重複チェックを有効にする。

```
SWX3200(config-dhcp)#probe enable
```

重複チェックを無効にする。

```
SWX3200(config-dhcp)#probe disable
```

**10.1.10 リースする IP アドレスの重複チェックのタイムアウト時間設定****[書式]****probe timeout** *timeout***no probe timeout****[パラメーター]**

*timeout* : <1-5>  
送信したパケットに対する応答待ち時間(秒)

**[初期設定]**

probe timeout 1

**[入力モード]**

DHCP モード

**[説明]**

対象の DHCP プールで、リースする IP アドレスの重複チェックで用いるタイムアウト時間を設定する。  
no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

**[ノート]**

PING を使ってチェックする。

**[設定例]**

タイムアウト時間 2 秒に設定する。

```
SWX3200(config-dhcp)#probe timeout 2
```

### 10.1.11 通知するデフォルトゲートウェイアドレスの設定(DHCP)

---

**[書式]**

```
default-router ip_address
```

```
no default-router [ip_address]
```

**[パラメーター]**

```
ip_address      :  A.B.C.D
                  :  IP アドレス
```

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

DHCP モード

**[説明]**

対象の DHCP プールで、デフォルトゲートウェイとして通知する IP アドレスを設定する。

設定するアドレスは、**network** コマンドで指定したネットワーク内のアドレスでなければならない。

最大 8 つ設定できる。

パラメータを指定して、no 形式で実行した場合は、指定したパラメーターを持つ設定値を削除する。

パラメータを指定せず、no 形式で実行した場合は、対象の DHCP プールに設定した、すべての設定値を削除する。

**[ノート]**

クライアントへ通知する、DHCP オプション「Router Option」(オプションコード 3)には、本コマンドの値が使用される。

**[設定例]**

通知するデフォルトゲートウェイアドレスに、192.168.100.1 を設定する。

```
SWX3200(config-dhcp)#default-router 192.168.100.1
```

### 10.1.12 通知する DNS サーバーの設定(DHCP)

---

**[書式]**

```
dns-server ip_address
```

```
no dns-server [ip_address]
```

**[パラメーター]**

```
ip_address      :  A.B.C.D
                  :  IP アドレス
```

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

DHCP モード

**[説明]**

対象の DHCP プールで、DNS サーバーとして通知する IP アドレスを設定する。

最大 8 つ設定できる。

パラメータを指定して、no 形式で実行した場合は、指定したパラメーターを持つ設定値を削除する。

パラメータを指定せず、no 形式で実行した場合は、対象の DHCP プールに設定した、すべての設定値を削除する。

**[ノート]**

クライアントへ通知する、DHCP オプション「Domain Name Server Option」(オプションコード 6)には、本コマンドの値が使用される。

**[設定例]**

通知する DNS サーバーに、192.168.100.1 を設定する。

```
SWX3200(config-dhcp)#dns-server 192.168.100.1
```

**10.1.13 通知するドメイン名の設定(DHCP)**

---

**[書式]**

**domain-name** *domain\_name*

**no domain-name**

**[パラメーター]**

*domain\_name* : ドメイン名  
半角英数字、ドット(.)、ハイフン(-)(253 文字以内)

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

DHCP モード

**[説明]**

対象の DHCP プールで、ドメイン名を設定する。

no 形式で実行した場合は、設定値を削除する。

**[ノート]**

クライアントへ通知する、DHCP オプション「Domain Name」(オプションコード 15)には、本コマンドの値が使用される。

ドメイン名のドット(.)で区切られた部分(ラベル)の長さは、1 文字以上、63 文字以下でなければならない。

ドメイン名の先頭の文字にドット(.)を使用していた場合、本コマンドはエラーになる。

**[設定例]**

通知するドメイン名に、yamaha.example.com を設定する。

```
SWX3200(config-dhcp)#domain-name yamaha.example.com
```

**10.1.14 ブートファイル名の設定**

---

**[書式]**

**bootfile** *boot\_file\_name*

**no bootfile**

**[パラメーター]**

*boot\_file\_name* : ブートファイル名  
半角英数字および半角記号(127 文字以内)

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

DHCP モード

**[説明]**

対象の DHCP プールで、ブートファイル名を設定する。

no 形式で実行した場合は、設定値を削除する。

**[ノート]**ブートファイルが置かれているサーバーのアドレスは、**next-server** コマンドで指定する。**[設定例]**

ブートファイル名に、「execfile」を設定する。

```
SWX3200(config-dhcp)#bootfile execfile
```

**10.1.15 ブートファイルが置かれているサーバーの設定****[書式]****next-server** *ip\_address***no next-server****[パラメーター]**

*ip\_address* : A.B.C.D  
IP アドレス

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

DHCP モード

**[説明]**

対象の DHCP プールで、ブートファイルが置かれているサーバーを設定する。

no 形式で実行した場合は、設定値を削除する。

**[設定例]**

ブートファイルが置かれているサーバーに、192.168.100.1 を設定する。

```
SWX3200(config-dhcp)#next-server 192.168.100.1
```

**10.1.16 ユーザー定義の DHCP オプションの設定****[書式]****option** *option value***no option** [*option*]**[パラメーター]***option* : オプション

設定値	説明
<1-255>	オプション番号
ニーモニック	ニーモニックとして認識される文字列

*value* : オプション値**[初期設定]**

なし

[入力モード]

DHCP モード

[説明]

対象の DHCP プールで、ユーザー定義オプションの値を設定する。

最大 32 個設定できる。

パラメータを指定して、no 形式で実行した場合は、指定したパラメーターを持つ設定値を削除する。

パラメータを指定せず、no 形式で実行した場合は、対象の DHCP プールに設定した、すべての設定値を削除する。

オプション値は以下の種類があり、どれが使えるかはオプション番号で決まる。例えば、'router','dns','wins\_server' は IP アドレス、'hostname','domain' は文字列が使用できる。

1 オクテット整数	0..255
2 オクテット整数	0..65535
2 オクテット整数の配列	2 オクテット整数をコンマ(,)で並べたもの(最大 8 つ)
4 オクテット整数	0..4294967295
IP アドレス	IP アドレス
IP アドレスの配列	IP アドレスをコンマ(,)で並べたもの(最大 8 つ)
文字列	文字列(半角英数字および半角記号 最大 127 文字)
スイッチ	"on","off","1","0" のいずれか

使用可能なオプションは以下の通り。

オプション番号/コマンドで使用可能なニーモニック	オプションの型
1/subnet mask	IP アドレス
2/time_offset	4 オクテット整数
3/router	IP アドレスの配列
4/time_server	IP アドレスの配列
5/name_server	IP アドレスの配列
6/dns	IP アドレスの配列
7/log_server	IP アドレスの配列
8/cookie_server	IP アドレスの配列
9/lpr_server	IP アドレスの配列
10/impress_server	IP アドレスの配列
11/resource_location_server	IP アドレスの配列
12/hostname	文字列
13/boot_file_size	2 オクテット整数
14/merit_dump_file	文字列
15/domain	文字列
16/swap_server	IP アドレス
17/root_path	文字列
18/extensions_pathname	文字列
19/ip_forwarding	スイッチ
20/non_local_source_routing	スイッチ
21/policy_filter	IP アドレスの配列 ※IP アドレスとマスクの組からなる、偶数個の IP アドレスの設定が必要

オプション番号/コマンドで使用可能なニーモニック	オプションの型
22/maximum_datagram_reassembly	2 オクテット整数
23/default_ip_ttl	1 オクテット整数
24/path_mtu_aging_timeout	4 オクテット整数
25/path_mtu_plateau_table	2 オクテット整数の配列
26/interface_mtu	2 オクテット整数
27/all_subnets_are_local	スイッチ
28/broadcast_address	IP アドレス
29/perform_mask_discovery	スイッチ
30/mask_supplier	スイッチ
31/perform_router_discovery	スイッチ
32/router_solicitation_address	IP アドレス
33/static_route	IP アドレスの配列 ※宛先アドレスとルーターのアドレスの組からなる、偶数個の IP アドレスの設定が必要
34/trailer_encapsulation	スイッチ
35/arp_cache_timeout	4 オクテット整数
36/ethernet_encapsulation	スイッチ
37/tcp_default_ttl	1 オクテット整数
38/tcp_keepalive_interval	4 オクテット整数
39/tcp_keepalive_garbage	スイッチ
40/nis_domain	文字列
41/nis_server	IP アドレスの配列
42/ntp_server	IP アドレスの配列
44/wins_server	IP アドレスの配列
45/nbt_dd_server	IP アドレスの配列
46/nbt_node_type	1 オクテット整数
47/nbt_scope	文字列
48/x_font_server	IP アドレスの配列
49/x_display_manager	IP アドレスの配列
62/netware_domain_name	文字列
64/nis+_domain	文字列
65/nis+_server	IP アドレスの配列
66/tftp_server_name	文字列
67/boot_file_name	文字列
68/mobile_ip_home_agent	IP アドレスの配列
69/smtp_server	IP アドレスの配列
70/pop3_server	IP アドレスの配列
71/nntp_server	IP アドレスの配列
72/default_www_server	IP アドレスの配列
73/default_finger_server	IP アドレスの配列



オプション番号/コマンドで使用可能なニーモニック	オプションの型
74/default_irc_server	IP アドレスの配列
75/streettalk_server	IP アドレスの配列
76/streettalk_directory_assistance_server	IP アドレスの配列
85/nds_server	IP アドレスの配列
86/nds_tree_name	文字列
87/nds_context	文字列

**[ノート]**

クライアントへ通知する、DHCP オプションには本コマンドの値が使用される。

クライアントが該当オプションを要求しなかった場合、該当オプションは実際には送信されない。

設定済みのオプション番号に対して、再度登録した場合は、設定が上書きされる。

**[設定例]**

DHCP オプション「Time Server」(オプションコード 4)に、「192.168.100.240」を設定する。

```
SWX3200(config-dhcp)#option time_server 192.168.100.240
```

**10.1.17 DHCP クラスの設定****[書式]**

```
dhcp class class_name
no dhcp class class_name
```

**[パラメーター]**

*class\_name* : DHCP クラス名  
 ?"|"> と半角スペースを除く半角英数字・半角記号(31 文字以内)

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

DHCP クラスの設定を行うために、DHCP クラスモードへ移行する。

DHCP クラスモードでは、本コマンドで指定した DHCP クラス名に対して設定を行う。

no 形式で実行した場合は、設定値を削除する。

**[ノート]**

DHCP クラスモードからグローバルコンフィグレーションモードに戻るには **exit** コマンドを使用し、特権 EXEC モードに戻るには **end** コマンドを使用する。

DHCP プールの設定可能数は 16 である。

**[設定例]**

DHCP クラス「class\_customer1」を作成し、DHCP クラスモードに移行する。

```
SWX3200(config)#dhcp class class_customer1
SWX3200(config-dhcp-class)#
```

**10.1.18 remote-id の設定****[書式]**

```
remote-id remote-id
no remote-id [remote-id]
```

**[パラメーター]**

*remote-id* : 65 byte 以内の 16 進数、「:」で byte 毎に分ける

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

DHCP クラスモード

**[説明]**

対象の DHCP クラスに DHCP Option 82 で使用される *remote-id* を設定する。

**remote-id** コマンドの最大設定数は、すべての DHCP クラスの **remote-id** コマンドを合計して 128 個である。

パラメータを指定して、no 形式で実行した場合は、指定したパラメーターを持つ設定値を削除する。

パラメータを指定せず、no 形式で実行した場合は、対象の DHCP クラスに設定した、すべての *remote-id* 設定値を削除する。

**[設定例]**

DHCP クラス「class\_customer1」に、*remote-id*「00:06:ac:44:f2:00:00:01」を設定する。

```
SWX3200(config)#dhcp class class_customer1
SWX3200(config-dhcp-class)#remote-id 00:06:ac:44:f2:00:00:01
```

### 10.1.19 circuit-id の設定

---

**[書式]**

**circuit-id** *circuit-id*

**no circuit-id** [*circuit-id*]

**[パラメーター]**

*circuit-id* : 65 byte 以内の 16 進数、「:」で byte 毎に分ける

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

DHCP クラスモード

**[説明]**

対象の DHCP クラスに DHCP Option 82 で使用される *circuit-id* を設定する。

**circuit-id** コマンドの最大設定数は、すべての DHCP クラスの **circuit-id** コマンドを合計して 128 個である。

パラメータを指定して、no 形式で実行した場合は、指定したパラメーターを持つ設定値を削除する。

パラメータを指定せず、no 形式で実行した場合は、対象の DHCP クラスに設定した、すべての *circuit-id* 設定値を削除する。

**[設定例]**

DHCP クラス「class\_customer1」に、*circuit-id*「01:06:00:01:00:00:13:8d」を設定する。

```
SWX3200(config)#dhcp class class_customer1
SWX3200(config-dhcp-class)#circuit-id 01:06:00:01:00:00:13:8d
```

### 10.1.20 subscriber-id の設定

---

**[書式]**

**subscriber-id** *subscriber-id*

**no subscriber-id** [*subscriber-id*]

**[パラメーター]**

*subscriber-id* : 半角英数字および"?", "|"と">"を除く半角記号(50 文字以内)

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

DHCP クラスモード

**[説明]**

対象の DHCP クラスに DHCP Option 82 で使用される subscriber-id を設定する。

**subscriber-id** コマンドの最大設定数は、すべての DHCP クラスの **subscriber-id** コマンドを合計して 128 個である。パラメータを指定して、no 形式で実行した場合は、指定したパラメーターを持つ設定値を削除する。

パラメータを指定せず、no 形式で実行した場合は、対象の DHCP クラスに設定した、すべての subscriber-id 設定値を削除する。

**[設定例]**

DHCP クラス「class\_customer1」に、subscriber-id「subscriber\_id\_1」を設定する。

```
SWX3200(config)#dhcp class class_customer1
SWX3200(config-dhcp-class)#subscriber-id subscriber_id_1
```

## 10.1.21 DHCP プールクラスの設定

**[書式]**

**dhcp pool class** *class\_name*

**no dhcp pool class** *class\_name*

**[パラメーター]**

*class\_name* : DHCP クラス名  
? " | > と半角スペースを除く半角英数字・半角記号(31 文字以内)

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

DHCP モード

**[説明]**

DHCP プールクラスの設定を行うための DHCP プールクラスモードに移行する。

DHCP クラス名は、**dhcp class** コマンドで事前に作成する必要がある。

Option 82 の内容が、適用したクラスの id に一致した場合、DHCP プールクラス内の設定が DHCP サーバーで使用される。

DHCP プールクラスの最大設定可能数は 16 である。

no 形式で実行した場合は、設定値を削除する。

**[ノート]**

DHCP プールクラスモードから DHCP モードに戻るには **exit** コマンドを使用し、特権 EXEC モードに戻るには **end** コマンドを使用する。

DHCP クラス名は、**dhcp class** コマンドで設定したクラス名を指定する。本コマンドで使用しているクラス名が削除された場合、本コマンドも削除される。

**[設定例]**

DHCP プールクラスモードに移行する。

```
SWX3200(config)#dhcp pool pool1
SWX3200(config-dhcp)#dhcp pool class class_customer1
SWX3200(config-dhcp-pool-class)#
```

## 10.1.22 割り当てる IP アドレスの範囲の設定(DHCP プールクラス)

**[書式]**

**range** *start\_ip\_address* [*end\_ip\_address*]

```
no range [start_ip_address [end_ip_address]]
```

#### [パラメーター]

*start\_ip\_address* : A.B.C.D  
割り当てる IP アドレスのうち、最初の IP アドレス

*end\_ip\_address* : A.B.C.D  
割り当てる IP アドレスのうち、最後の IP アドレス  
割り当てるアドレスが 1 つの場合は、省略可能

#### [初期設定]

なし

#### [入力モード]

DHCP プールクラスモード

#### [説明]

対象の DHCP プールで割り当てる IP アドレスの範囲を設定する。

割り当てるアドレスは、**network** コマンドで指定したネットワーク内のアドレスでなければならない。

最大 8 つの範囲を設定できる。

複数の DHCP プールで同一の IP アドレスを含めることはできない。

複数の範囲で同一の IP アドレスを含めることはできない。

IP アドレス範囲にネットワークアドレス、ブロードキャストアドレスを含めることはできない。

DHCP モードの **range** コマンドで設定されている IP アドレスと重複することはできない。

DHCP モードの **range** コマンドで設定されている IP アドレスの範囲で同一 IP アドレスを含めることはできない。

パラメータを指定して、**no** 形式で実行した場合は、指定したパラメーターを持つ設定値を削除する。

パラメータを指定せず、**no** 形式で実行した場合は、対象の DHCP プールに設定した、すべての設定値を削除する。

#### [ノート]

全プールクラスと全プールで設定されている **range** コマンドの範囲数の合計が 8192 個を超えた場合、本コマンドはエラーとなる。

#### [設定例]

DHCP プール「pool\_vlan1」に、IP アドレスの範囲「192.168.100.2-192.168.100.191/24」を設定する。

```
SWX3200(config)#dhcp pool pool1
SWX3200(config-dhcp)#dhcp pool class class_customer1
SWX3200(config-dhcp-pool-class)#range 192.168.100.10 192.168.100.20
```

## 10.1.23 リース時間の設定(DHCP プールクラス)

#### [書式]

```
lease day hour min [sec]
```

```
no lease
```

#### [パラメーター]

*day* : <0-120>  
日

*hour* : <0-23>  
時

*min* : <0-59>  
分

*sec* : <0-59>  
秒(省略した場合 : 0)

**[初期設定]**

```
lease 1 0 0
```

(1 日)

**[入力モード]**

DHCP プールクラスモード

**[説明]**

対象の DHCP プールで、IP アドレスのリース時間を設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

**[ノート]**

最小値は 20 秒(lease 0 0 0 20)。

**[設定例]**

リース時間を 6 時間に設定する。

```
SWX3200(config)#dhcp pool pool1
SWX3200(config-dhcp)#dhcp pool class class_customer1
SWX3200(config-dhcp-pool-class)##lease 0 6 0
```

**10.1.24 通知するデフォルトゲートウェイアドレスの設定(DHCP プールクラス)****[書式]**

```
default-router ip_address
```

```
no default-router [ip_address]
```

**[パラメーター]**

```
ip_address      : A.B.C.D
                  IP アドレス
```

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

DHCP プールクラスモード

**[説明]**

対象の DHCP プールで、デフォルトゲートウェイとして通知する IP アドレスを設定する。

設定するアドレスは、DHCP モードの **network** コマンドで指定したネットワーク内のアドレスでなければならない。最大 8 つ設定できる。

パラメータを指定して、no 形式で実行した場合は、指定したパラメーターを持つ設定値を削除する。

パラメータを指定せず、no 形式で実行した場合は、対象の DHCP プールに設定した、すべての設定値を削除する。

**[ノート]**

クライアントへ通知する、DHCP オプション「Router Option」(オプションコード 3)には、本コマンドの値が使用される。

本コマンドが設定されない場合、クライアントへ通知する、DHCP オプション「Router Option」(オプションコード 3)には、DHCP モードの **default-router** コマンドの値が使用される。

**[設定例]**

通知するデフォルトゲートウェイアドレスに、192.168.100.1 を設定する。

```
SWX3200(config)#dhcp pool pool1
SWX3200(config-dhcp)#dhcp pool class class_customer1
SWX3200(config-dhcp-pool-class)#default-router 192.168.100.1
```

### 10.1.25 通知する DNS サーバーの設定(DHCP プールクラス)

---

#### [書式]

```
dns-server ip_address
no dns-server [ip_address]
```

#### [パラメーター]

```
ip_address      :  A.B.C.D
                  IP アドレス
```

#### [初期設定]

なし

#### [入力モード]

DHCP プールクラスモード

#### [説明]

対象の DHCP プールクラスで、DNS サーバーとして通知する IP アドレスを設定する。

最大 8 つ設定できる。

パラメータを指定して、no 形式で実行した場合は、指定したパラメーターを持つ設定値を削除する。

パラメータを指定せず、no 形式で実行した場合は、対象の DHCP プールに設定した、すべての設定値を削除する。

#### [ノート]

クライアントへ通知する、DHCP オプション「Domain Name Server Option」(オプションコード 6)には、本コマンドの値が使用される。

本コマンドが設定されない場合、クライアントへ通知する、DHCP オプション「Domain Name Server Option」(オプションコード 6)には、DHCP モードの **dns-server** コマンドの値が使用される。

#### [設定例]

通知する DNS サーバーに、192.168.100.1 を設定する。

```
SWX3200(config)#dhcp pool pool1
SWX3200(config-dhcp)#dhcp pool class class_customer1
SWX3200(config-dhcp-pool-class)#dns-server 192.168.100.1
```

### 10.1.26 通知するドメイン名の設定(DHCP プールクラス)

---

#### [書式]

```
domain-name domain_name
no domain-name
```

#### [パラメーター]

```
domain_name    :  ドメイン名
                  半角英数字、ドット(.)、ハイフン(-)(253 文字以内)
```

#### [初期設定]

なし

#### [入力モード]

DHCP プールクラスモード

#### [説明]

対象の DHCP プールクラスで、ドメイン名を設定する。

no 形式で実行した場合は、設定値を削除する。

#### [ノート]

クライアントへ通知する、DHCP オプション「Domain Name」(オプションコード 15)には、本コマンドの値が使用される。

本コマンドが設定されない場合、クライアントへ通知する、DHCP オプション「Domain Name」(オプションコード 15)には、DHCP モードの **domain-name** コマンドの値が使用される。

ドメイン名のドット(.)で区切られた部分(ラベル)の長さは、1文字以上、63文字以下でなければならない。  
ドメイン名の先頭の文字にドット(.)を使用していた場合、本コマンドはエラーになる。

### [設定例]

通知するドメイン名に、`yamaha.example.com` を設定する。

```
SWX3200(config)#dhcp pool pool1
SWX3200(config-dhcp)#dhcp pool class class_customer1
SWX3200(config-dhcp-pool-class)#domain-name yamaha.example.com
```

## 10.1.27 DHCP プールの情報の表示

### [書式]

```
show dhcp pool [pool_name]
```

### [パラメーター]

`pool_name` : プール名  
表示するプール名

### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

### [説明]

DHCP プールの情報の表示する。

POOL\_NAME を指定した場合、指定の POOL\_NAME の情報のみ表示される。

以下の項目が表示される。

- DHCP プール名
- ネットワークアドレス
- 固定で割り当てる IP アドレス
- 動的に割り当てる IP アドレスの範囲
- リース時間
- サブネットマスク
- 重複チェック
- 動的に割り当てられる IP アドレスの総数と、割り当てられている個数
- プールに適用した DHCP クラス名、および DHCP クラス中の設定
- プールに適用した DHCP クラス中の動的に割り当てる IP アドレスの範囲
- プールに適用した DHCP クラス中のリース時間

### [ノート]

DHCP プールの `network` が有効になっていない場合は、表示されない。

「動的に割り当てられる IP アドレスの総数と、割り当てられている個数」は、DHCP サーバーの設定が有効になっているときのみ表示される。

リース情報が多くある場合、表示に時間がかかることがある。

### [設定例]

現在のプールの状態を表示する。

```
SWX3200#show dhcp pool
Pool: p1
network: 192.168.100.0/24
address ranges:
  addr: 192.168.100.2 to 192.168.100.191
static host addresses:
lease <days:hours:minutes:seconds> <120:23:59:59>
sub netmask: 255.255.255.0
Probe:
  Status: Enabled
  Timeout: 1
Dynamic addresses:
  Total: 189
  Leased: 1
DHCP class: class_customer1
remote-id: 00:06:ac:44:f2:00:00:01
```

```
circuit-id: 01:06:00:01:00:00:13:8d
subscriber-id: subscriber_id_1
address ranges:
  addr: 192.168.100.10 to 192.168.100.20
lease <days:hours:minutes:seconds> <1:0:0:0>
```

## 10.1.28 DHCP クライアントへの IP アドレス割り当て情報の表示

### [書式]

```
show dhcp binding [pool_name]
```

### [パラメーター]

*pool\_name* : プール名  
表示するプール名

### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

### [説明]

DHCP クライアントへの IP アドレス割り当て情報を表示する。

POOL\_NAME を指定した場合、指定の POOL\_NAME の情報のみ表示される。

以下の項目が表示される。

- DHCP プール名
- ネットワークアドレス
- 割り当て中 IP アドレス
- 割り当て中クライアント MAC アドレス
- タイプ(動的な割り当て、固定の割り当て)
- リース終了時刻
- HostName

### [ノート]

固定の割り当てで設定されている IP アドレスは、本コマンドで常に表示される。

リース情報が多くある場合、表示に時間がかかることがある。

クライアントから DHCP の HostName オプションで通知があった場合に、動的に配布されたアドレスに対して、HostName を表示する。クライアントから DHCP の HostName オプションで通知が無い場合は、「-」を表示する。HostName は、64 文字まで表示可能。

### [設定例]

現在のプールの状態を表示する。

```
SWX3200#show dhcp binding
Pool p1 Network 192.168.100.0/24
DHCP Client Entries
IP Address      MacAddr          Type      Expiry           HostName
-----
192.168.100.100 0000.5e00.5300   Dynamic   2020/07/31 14:30:16   Example
192.168.100.101 0000.5e00.5301   Dynamic   2020/07/31 14:28:36   -
192.168.100.120 0000.5e00.5302   Static    -                -
```

## 10.1.29 DHCP サーバーの状態の表示

### [書式]

```
show dhcp server
```

### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

### [説明]

DHCP サーバーの状態を表示する。

以下の項目が表示される。

- DHCP サーバー起動状態
- DHCP サーバーが起動しているインターフェース。サーバーが起動中のときに表示される。



- DHCP サーバー機能 システム全体の有効、無効
- DHCP サーバー機能 インターフェースの設定
- DHCP サーバー機能 プールの設定

#### [設定例]

現在の DHCP サーバーの状態を表示する。

```
SWX3200#show dhcp server
DHCP server is running
  running interface list : vlan1 vlan2 vlan3
DHCP server system setting : enable
DHCP server interface setting list : vlan1 vlan2 vlan3
Pool list : p1 p2 p3
```

### 10.1.30 DHCP サーバーのリース情報の削除

#### [書式]

**clear dhcp-server lease**

#### [入力モード]

特権 EXEC モード

#### [説明]

DHCP サーバーのリース情報(IP アドレス割り当て情報)を削除する。

#### [ノート]

本コマンドを実行する際は、DHCP サーバーが停止している必要がある。

DHCP の起動状態は、**show dhcp server** コマンドにて確認できる。

#### [設定例]

リース情報を削除する

```
SWX3200#clear dhcp-server lease
```

## 10.2 DHCP Relay

### 10.2.1 DHCP リレーエージェント機能の設定

#### [書式]

**dhcp-relay switch**

**no dhcp-relay**

#### [パラメーター]

*switch* : DHCP リレーエージェント機能の動作

設定値	説明
enable	DHCP リレーエージェント機能を有効にする
disable	DHCP リレーエージェント機能を無効にする

#### [初期設定]

dhcp-relay disable

#### [入力モード]

グローバルコンフィグレーションモード

#### [説明]

システム全体の DHCP リレーエージェント機能の動作を設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

**[ノート]**

DHCP リレーエージェント機能を有効にするためには、本コマンドに加えて、インターフェースで DHCP リレーエージェント機能の転送先アドレスを設定する必要があります。

**[設定例]**

システム全体で、DHCP リレーエージェント機能を有効にする。

```
SWX3200(config)#dhcp-relay enable
```

システム全体で、DHCP リレーエージェント機能を無効にする。

```
SWX3200(config)#dhcp-relay disable
```

## 10.2.2 DHCP リレーエージェント機能の転送先アドレスの設定

**[書式]**

```
dhcp-relay server-address server
no dhcp-relay server-address server
```

**[パラメーター]**

*server* : A.B.C.D  
転送先 DHCP サーバーの IPv4 アドレス

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

対象インターフェースの DHCP リレーエージェント機能の転送先アドレスを設定する。

VLAN インターフェースにのみ設定が可能。

設定した VLAN インターフェースで受信した DHCP パケットが、指定した IPv4 アドレス宛てに転送される。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

**[ノート]**

VLAN インターフェースには、IPv4 アドレスが設定されている必要がある。

本コマンドは、最大で 32 の VLAN インターフェースに設定可能。

1 つの VLAN インターフェースに対して 5 個まで本コマンドを設定可能。

**[設定例]**

VLAN #1 で受信した DHCP パケットを、「192.168.200.1」へ転送する。

```
SWX3200(config)#interface vlan1
SWX3200(config-if)#dhcp-relay server-address 192.168.200.1
```

## 10.2.3 DHCP リレーエージェント機能のブロードキャスト転送の設定

**[書式]**

```
dhcp-relay broadcast switch
no dhcp-relay broadcast
```

**[パラメーター]**

*switch* : ブロードキャスト転送の動作

設定値	説明
enable	ブロードキャスト転送を有効にする
disable	ブロードキャスト転送を無効にする

**[初期設定]**

```
dhcp-relay broadcast disable
```

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

DHCP リレーエージェント機能のブロードキャスト転送の設定をする。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

**[ノート]**

以下のとき、ブロードキャストアドレス宛に、DHCP パケットが転送される。

- 本コマンドが有効になっている。
- **dhcp-relay server-address** コマンドでブロードキャストアドレスが指定されている。

**[設定例]**

ブロードキャスト転送を有効にする。

```
SWX3200(config)#dhcp-relay broadcast enable
```

## 10.2.4 DHCP リレーエージェントの状態の表示

---

**[書式]**

```
show dhcp relay
```

**[入力モード]**

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

**[説明]**

DHCP リレーエージェントの状態を表示する。

以下の項目が表示される。

- DHCP リレーエージェント起動状態
- DHCP リレーエージェントが起動しているインターフェース。リレーエージェントが起動中のときに表示される
- DHCP リレーエージェント機能 システム全体の有効、無効
- ブロードキャスト転送の設定
- 転送先アドレスの設定

**[設定例]**

```
SWX3200#show dhcp relay
DHCP relay is running
  running interface list : vlan1
DHCP relay system setting : enable
DHCP relay broadcast setting : disable
Server address list :
  vlan1 : 192.168.200.1
```

## 10.3 DNS Relay

---

### 10.3.1 DNS リレー機能の設定(システム)

---

**[書式]**

```
dns-forwarding switch
```

```
no dns-forwarding
```

**[パラメーター]**

*switch* : DNS リレー機能の動作

設定値	説明
enable	DNS リレー機能を有効にする
disable	DNS リレー機能を無効にする

**[初期設定]**

dns-forwarding disable

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

システム全体の DNS リレー機能の動作を設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

**[ノート]**

DNS リレー機能を有効にするためには、本コマンドに加えて、インターフェースで DNS リレー機能の転送先アドレスを設定する必要がある。

**[設定例]**

システム全体で、DNS リレー機能を有効にする。

```
SWX3200(config)#dns-forwarding enable
```

システム全体で、DNS リレー機能を無効にする。

```
SWX3200(config)#dns-forwarding disable
```

### 10.3.2 DNS リレー機能の設定(インターフェース)

**[書式]**

**dns-forwarding** *switch*

**no dns-forwarding**

**[パラメーター]**

*switch* : DNS リレー機能の動作

設定値	説明
enable	DNS リレー機能を有効にする
disable	DNS リレー機能を無効にする

**[初期設定]**

dns-forwarding disable

**[入力モード]**

インターフェースモード

**[説明]**

対象インターフェースの DNS リレー機能の動作を設定する。

VLAN インターフェースだけに設定が可能。

有効に設定した VLAN インターフェースで受信した DNS パケットが、**dns-forwarding name-server** コマンドで指定したアドレス宛てに転送される。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

**[ノート]**

DNS リレー機能を有効にするためには、本コマンドに加えて、システム全体でも DNS リレー機能を有効にする必要がある。

VLAN インターフェースには、IPv4 アドレスが設定されている必要がある。

**[設定例]**

VLAN #1 で、DNS リレー機能を有効にする。

```
SWX3200(config)#interface vlan1
SWX3200(config-if)#dns-forwarding enable
```

VLAN #1 で、DNS リレー機能を無効にする。

```
SWX3200(config)#interface vlan1
SWX3200(config-if)#dns-forwarding disable
```

**10.3.3 DNS リレー機能の転送先アドレスの設定****[書式]**

```
dns-forwarding name-server server [domain_name]
no dns-forwarding name-server server [domain_name]
```

**[パラメーター]**

*server* : A.B.C.D  
DNS サーバーの IPv4 アドレス

*domain\_name* : ドメイン名  
半角英数字、ドット(.)、ハイフン(-) (253 文字以内)

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

DNS リレー機能の転送先アドレスの設定する。

サーバーは最大 8 件まで設定できる。

ドメイン名を設定した場合、該当のドメイン名に対する問い合わせは、設定したサーバーだけに転送される。

no 形式で実行した場合は、指定したサーバーを DNS リレー機能の転送先アドレスから削除する。

**[ノート]**

ドメイン名は、後方最大一致で照合される。

例えば、rtpro.yamaha.co.jp を 192.168.100.2、yamaha.co.jp を 192.168.100.3 に指定したとき、rtpro.yamaha.co.jp は 192.168.100.2、network.yamaha.co.jp は、192.168.100.3 に転送される。

ドメイン名のドット(.)で区切られた部分(ラベル)の長さは、1 文字以上、63 文字以下でなければならない。

ドメイン名の先頭の文字にドット(.)を使用していた場合、本コマンドはエラーになる。

**[設定例]**

DNS リレー機能の転送先アドレスに、192.168.100.1 を追加する。

```
SWX3200(config)#dns-forwarding name-server 192.168.100.1
```

DNS リレー機能の転送先アドレスのうち、「swx.example.com」のドメインに対する問い合わせは、192.168.100.100 に転送するようにする。

```
SWX3200(config)#dns-forwarding name-server 192.168.100.100 swx.example.com
```

**10.3.4 DNS リレー機能のキャッシュエントリーの最大 TTL 設定****[書式]**

```
dns-forwarding cache max-ttl time
no dns-forwarding cache max-ttl
```

**[パラメーター]**

*time* : <60-3600>

秒

**[初期設定]**

dns-forwarding cache max-ttl 1800

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

DNS リレー機能のキャッシュエントリーの最大 TTL を設定する。

no 形式で実行した場合は初期設定に戻る。

**[ノート]**

転送先サーバーから通知された TTL が、本コマンドの設定値を超えていた場合、本コマンドの設定値がキャッシュエントリーの TTL として使用される。

**[設定例]**

DNS リレー機能のキャッシュエントリーの最大 TTL を 3600 秒に設定する。

```
SWX3200(config)#dns-forwarding cache max-ttl 3600
```

### 10.3.5 DNS リレー機能のキャッシュエントリーの削除

---

**[書式]****clear dns-forwarding cache****[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

DNS リレー機能のキャッシュエントリーを削除する。

**[設定例]**

キャッシュエントリーを削除する。

```
SWX3200#clear dns-forwarding cache
```

### 10.3.6 DNS リレー機能の静的レコードの設定

---

**[書式]****dns-forwarding static-host *host address* [*time*]****no dns-forwarding static-host *host address*****[パラメーター]**

*host* : ホスト名  
半角英数字、ドット(.)、ハイフン(-) (253 文字以内)

*address* : A.B.C.D  
ホストの IPv4 アドレス

*time* : <1-2147483647>  
静的レコードの TTL(秒) (省略した場合:1800)

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

DNS リレー機能の静的レコードを設定する。

DNS クライアントから、本コマンドで設定したホスト名、または、アドレスに対し問い合わせがあったとき、パケットをサーバーに転送せず、本コマンドの設定値を用いて返答する。

no 形式で実行した場合は、指定した静的レコードを削除する。

#### [ノート]

本コマンドは最大で 16 件まで設定できる。

本コマンドを設定した場合、指定したホスト名とアドレスに対応する、A レコードと PTR レコードが静的に保持される。

ホスト名のドット(.)で区切られた部分(ラベル)の長さは、1 文字以上、63 文字以下でなければならない。

ホスト名の先頭の文字にドット(.)を使用していた場合、本コマンドはエラーになる。

#### [設定例]

DNS リレー機能の静的レコードを設定する。「swx.example.com」を「192.168.100.100」として設定する。

```
SWX3200(config)#dns-forwarding static-host swx.example.com 192.168.100.100
```

### 10.3.7 DNS リレーの状態の表示

#### [書式]

**show dns-forwarding**

#### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

#### [説明]

DNS リレーの状態を表示する。

以下の項目が表示される。

- DNS リレー起動状態
- DNS リレーが起動しているインターフェース(DNS リレーが起動中のときに表示)
- DNS リレー機能 システム全体の有効、無効
- 転送先アドレスの設定
- 静的レコードの設定

#### [設定例]

DNS リレーの状態を表示する。

```
SWX3200#show dns-forwarding
DNS forwarding is running
  running interface list : vlan1
DNS forwarding system setting : enable
DNS forwarding interface setting list : vlan1
Server address list :
  192.168.200.1
  192.168.100.100 swx.example.com
Static host list :
  yamaha.swx.com 192.168.100.200
```

### 10.3.8 DNS リレーのキャッシュの表示

#### [書式]

**show dns-forwarding cache**

#### [入力モード]

非特権 EXEC モード、特権 EXEC モード

#### [説明]

DNS リレーのキャッシュの状態を表示する。

以下の項目が表示される。

- キャッシュエントリの最大 TTL
- 表示エントリー数
- レコードタイプ
- TTL
- ホスト名
- レコード情報

**[ノート]**

最大で 1000 件までのキャッシュが表示される。

1000 件を超えるキャッシュがある場合、最新の 1000 件のキャッシュが表示される。

**[設定例]**

DNS リレーのキャッシュの状態を表示する。

```
SWX3200#show dns-forwarding cache
DNS forwarding max TTL : 1800
Summary: 3 entry
```

TYPE	TTL	HOST (RECORD INFO)
A	10	swx01.example.com (192.168.100.100)
A	103	swx02.example.com (192.168.100.101)
AAAA	250	swx03.example.com

## 10.4 ローカル RADIUS サーバー

### 10.4.1 ローカル RADIUS サーバー機能の設定

**[書式]**

**radius-server local enable** *[port]*

**radius-server local disable**

**no radius-server local**

**[パラメーター]**

*port* : <1024-65535>  
 認証用 UDP ポート番号(省略時は 1812 とする)

**[初期設定]**

radius-server local disable

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

ローカル RADIUS サーバー機能の有効/無効を設定する。

また、認証用 UDP ポート番号を変更することができる。

no 形式でコマンドを実行した場合は初期設定値に戻る。

**[ノート]**

ローカル RADIUS サーバー機能を使用するためには、最初に **crypto pki generate ca** コマンドでルート認証局を生成する必要がある。

**[設定例]**

ローカル RADIUS サーバー機能を有効にする。

```
SWX3200(config)#radius-server local enable
```

### 10.4.2 アクセスインターフェースの設定

**[書式]**

**radius-server local interface** *interface*

**no radius-server local interface**

**[パラメーター]**

*interface* : VLAN インターフェース名

**[初期設定]**

なし



**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

ローカル RADIUS サーバーへのアクセスを許可する VLAN インターフェースを設定する。

アクセスインターフェースは最大 7 件まで設定できる。

no 形式でコマンドを実行した場合は、指定したインターフェースを削除する。

**[設定例]**

VLAN #1 と VLAN #100 に接続している RADIUS クライアント(NAS)からのアクセスを許可する。

```
SWX3200(config)#radius-server local interface vlan1
SWX3200(config)#radius-server local interface vlan100
```

**10.4.3 ルート認証局を生成****[書式]**

```
crypto pki generate ca [ca-name]
```

```
no crypto pki generate ca
```

**[パラメーター]**

*ca-name* : 認証局名

認証局名の入力可能文字

- 3 文字以上 32 文字以内
- \[ ] / " ? スペースを除く半角英数字・半角記号
- "DEFAULT"は指定不可

**[初期設定]**

なし

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

クライアント証明書を発行するためのルート認証局を生成する。

認証局名を省略した場合は"YAMAHA\_SWITCH"を使用する。

no 形式でコマンドを実行した場合は、指定したルート認証局を削除する。

**[ノート]**

ルート認証局を生成していない場合は、ローカル RADIUS サーバー機能は使用できない。

既にルート認証局が生成されている状態で異なる認証局名を設定した場合、ルート認証局は上書きされる。

ルート認証局を削除または上書きすると、発行済みのクライアント証明書はすべて無効となる。

ルート認証局が存在していても **crypto pki generate ca** 設定がないとルート認証局として使用できない。

**[設定例]**

認証局名が"MYRADIUS"のルート認証局を生成する。

```
SWX3200(config)#crypto pki generate ca MYRADIUS
```

**10.4.4 RADIUS コンフィグレーションモード****[書式]**

```
radius-server local-profile
```

**[入力モード]**

グローバルコンフィグレーションモード

**[説明]**

RADIUS コンフィグレーションモードに移行する。

ローカル RADIUS サーバー機能の動作仕様を設定するためのモードである。

**[設定例]**

RADIUS コンフィグレーションモードに移行する。

```
SWX3200(config)#radius-server local-profile
SWX3200(config-radius)#
```

**10.4.5 認証方式の設定****[書式]**

**authentication mode** [mode...]

**no authentication**

**[パラメーター]**

*mode* : 認証方式

設定値	説明
pap	PAP 認証方式
peap	PEAP 認証方式
eap-md5	EAP-MD5 認証方式
eap-tls	EAP-TLS 認証方式
eap-ttls	EAP-TTLS 認証方式

**[初期設定]**

authentication pap peap eap-md5 eap-tls eap-ttls

**[入力モード]**

RADIUS コンフィグレーションモード

**[説明]**

ローカル RADIUS サーバーで使用する認証方式を指定する。

no 形式でコマンドを実行した場合は初期設定値に戻り、すべての認証方式が有効となる。

**[ノート]**

PEAP, EAP-TTLS 認証方式の内部認証方式として、MSCHAPv2 と MD5 をサポートする。

MD5 を使用する場合は、認証方式に eap-md5 を指定する必要がある。

**[設定例]**

使用する認証方式を PEAP, EAP-MD5 に制限する。

```
SWX3200(config)#radius-server local-profile
SWX3200(config-radius)#authentication peap eap-md5
```

**10.4.6 RADIUS クライアント(NAS)の設定****[書式]**

**nas host** key *secret*

**no nas** *host*

**[キーワード]**

*key* : RADIUS クライアント(NAS)との通信時に使用するパスワードを設定する

**[パラメーター]**

*host* : IP アドレス、または、IP ネットワークアドレス

設定値	説明
IPv4 アドレス(A.B.C.D)	0.0.0.1～223.255.255.255 のうち 127.0.0.1 を除いたもの
IPv4 ネットワークアドレス(A.B.C.D/M)	ネットワークマスクの範囲は 8～32 で、IP アドレスのホスト部は 0 となる
IPv6 アドレス(A:B:C::D)	ユニキャストアドレスのうち、未指定アドレス(::/128)、デフォルトルートアドレス(::/0)、ループバックアドレス(::1/128)を除いたもの
IPv6 ネットワークアドレス(A:B:C::D/M)	プレフィックス長は 1～128

`secret` : 共有パスワード  
(128 文字以内、\[ ]"? スペースを除く半角英数字・半角記号)

#### [初期設定]

```
nas 127.0.0.1 key secret_local
```

#### [入力モード]

RADIUS コンフィグレーションモード

#### [説明]

RADIUS クライアントリストに RADIUS クライアント(NAS)を追加する。

最大登録数は 100 である。

no 形式でコマンドを実行した場合は、指定した RADIUS クライアントの設定を削除する。

#### [ノート]

本コマンドで設定した RADIUS クライアント(NAS)情報は、`running-config`、および、`startup-config` には表示されない。

また、通常の設定コマンドとは異なり、本コマンドを実行した時点で設定データとして保存される。

設定した RADIUS クライアント(NAS)情報は、`show radius-server local nas` コマンドで確認できる。

本機器のポート認証機能でローカル RADIUS サーバーを指定する場合は、以下を設定する必要がある。

```
SWX3200(config)#radius-server host 127.0.0.1 key secret_local
```

#### [設定例]

IP アドレス 192.168.100.101、共有パスワード"abcde"の RADIUS クライアント(NAS)を追加する。

```
SWX3200(config)#radius-server local-profile
SWX3200(config-radius)#nas 192.168.100.101 key abcde
```

## 10.4.7 認証ユーザーの設定

#### [書式]

```
user userid password [vlan vlan-id] [mac mac-address] [ssid ssid] [name name] [mail mail-address] [auth type] [expire date]
```

```
no user userid
```

#### [キーワード]

- `vlan` : ダイナミック VLAN 用の VLAN を設定する
- `mac` : 認証端末を特定したい場合に端末の MAC アドレスを指定する
- `ssid` : 接続している SSID を特定したい場合に SSID を指定する
- `name` : ユーザー名称を設定する
- `mail` : クライアント証明書の配布先メールアドレスを設定する
- `auth` : 認証方式タイプを設定する
- `expire` : クライアント証明書の有効期限を設定する(認証方式タイプが EAP-TLS の場合のみ有効)

## [パラメーター]

*userid* : ユーザー ID

(3 文字以上 32 文字以内、"DEFAULT"は指定不可)

認証方式	入力可能文字
EAP-MD5, EAP-TTLS, PEAP, PAP	\[ ]"? スペースを除く半角英数字・半角記号
EAP-TLS	\[ ]/ : *   < > "? スペースを除く半角英数字・半角記号

*password* : パスワード

(32 文字以内、\[ ]"? スペースを除く半角英数字・半角記号)

*vlan-id* : <1-4094>

ダイナミック VLAN 用の VLAN 番号

*mac-address* : hhhh.hhhh.hhhh (h は 16 進数)

認証端末(ユーザー)の MAC アドレス

*ssid* : 接続先 SSID

(32 文字以内、\[ ]"? スペースを除く半角英数字・半角記号)

*name* : ユーザー名

(32 文字以内、"? スペースを除く半角英数字・半角記号)

*mail-address* : メールアドレス

(256 文字以内、半角英数と \_ - . @)

*type* : 認証方式タイプ

設定値	説明
pap	PAP 認証方式 (ユーザー ID とパスワードを使用するタイプ)
peap	PEAP, EAP-MD5, EAP-TTLS 認証方式 (ユーザー ID とパスワードを使用するタイプ)
eap-tls	EAP-TLS 認証方式 (証明書を使用するタイプ)

省略時は eap-tls とする

*date* : 日付(省略時は 2037/12/31 とする)

(YYYY/MM/DD 現在日付から 2037/12/31 まで)

## [初期設定]

なし

## [入力モード]

RADIUS コンフィグレーションモード

## [説明]

RADIUS サーバーで認証するユーザーを登録する。

最大登録数は 2000 である。

no 形式でコマンドを実行した場合は、指定したユーザーを削除する。

認証方式に EAP-TLS を指定した場合、**certificate user** コマンドでクライアント証明書の発行が必要となる。

また、パスワードやクライアント証明書の有効期限を変更した場合も、再度クライアント証明書の発行が必要となる。

クライアント証明書を発行済みのユーザーを削除する場合、自動的にクライアント証明書の失効処理を行う。

**[ノート]**

本コマンドで設定したユーザー情報は、`running-config`、および、`startup-config` には表示されない。

また、通常の設定コマンドとは異なり、本コマンドを実行した時点で設定データとして保存される。

設定したユーザー情報は、`show radius-server local user` コマンドで確認できる。

`mac` キーワードで指定する MAC アドレスは、RADIUS クライアント(NAS)が `Calling-Station-Id` を通知してきた場合に使用される。

`ssid` キーワードで指定する SSID は、RADIUS クライアント(NAS)が `Called-Station-Id` を通知してきた場合に使用される。

**[設定例]**

認証ユーザーを登録する。

```
SWX3200 (config)#radius-server local-profile
SWX3200 (config-radius)#user yamaha secretpassword mac 00a0.de00.0001 auth peap name
YamahaTaro
```

**10.4.8 再認証間隔の設定****[書式]**

`reauth interval time`

`no reauth interval`

**[パラメーター]**

`time` : <3600,43200,86400,604800>  
再認証間隔の秒数

**[初期設定]**

`reauth interval 3600`

**[入力モード]**

RADIUS コンフィグレーションモード

**[説明]**

RADIUS クライアント(NAS)に通知する再認証間隔を設定する。

再認証間隔として使用するか否かについては、RADIUS クライアント(NAS)側に委ねられる。

`no` 形式でコマンドを実行した場合は初期設定に戻す。

**[設定例]**

再認証間隔を 604800 秒に設定する。

```
SWX3200 (config)#radius-server local-profile
SWX3200 (config-radius)#reauth interval 604800
```

**10.4.9 ローカル RADIUS サーバーへの設定データ反映****[書式]**

`radius-server local refresh`

**[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

ローカル RADIUS サーバーに現在の設定を反映させる。

RADIUS 関連の設定を変更した場合は、必ず本コマンドを実行しローカル RADIUS サーバーへデータ更新させる必要がある。

**[ノート]**

本コマンドを実行した場合、ローカル RADIUS サーバーはデータを反映させるために一時的に動作を中断し反映後に再開する

**[設定例]**

ローカル RADIUS サーバーに、現在の設定を反映させる。

```
SWX3200#radius-server local refresh
```

## 10.4.10 クライアント証明書の発行

### [書式]

**certificate** [mail] **user** [userid]

### [キーワード]

**mail** : クライアント証明書の発行と同時にユーザーへ添付メールを送付する。

### [パラメーター]

**userid** : ユーザー ID  
(3 文字以上 32 文字以内、"DEFAULT"は指定不可)

認証方式	入力可能文字
EAP-MD5, EAP-TTLS, PEAP, PAP	\[ ] ? スペースを除く半角英数字・半角記号
EAP-TLS	\[ ] / : *   < > ? スペースを除く半角英数字・半角記号

### [入力モード]

特権 EXEC モード

### [説明]

EAP-TLS 認証方式を指定しているユーザーのクライアント証明書を発行する。

ユーザー ID を省略した場合は、下記の条件に合致するすべてのユーザーのクライアント証明書を一括発行する。

- クライアント証明書を一度も発行していないユーザー
- パスワード、クライアント証明書の有効期限を変更したユーザー
- 認証方式を EAP-TLS へ変更したユーザー

認証方式を EAP-TLS から EAP-TLS 以外に変更したユーザーは、自動的にクライアント証明書を失効させる。

**mail** キーワードを指定した場合、**user** コマンドで設定しているメールアドレスへクライアント証明書を送付する。

メールの件名と本文については、証明書送付時のメール設定(**mail send certificate** コマンド)のテンプレートに従う。  
メールアドレスが設定されていない場合はメール送信しない。

### [ノート]

クライアント証明書は 1 ユーザーにつき 2 通まで発行できる。2 通以上発行した場合は古いのものから順番に失効する。

クライアント証明書の一括発行は時間がかかるためバックグラウンドで行っており、発行中でもコマンド実行は可能である。

ただし、以下のコマンドについては実行できないように制限をかけている。

- **crypto pki generate ca**
- **no crypto pki generate ca**
- **nas**
- **user**
- **certificate user**
- **certificate mail user**
- **certificate revoke**
- **certificate export sd**
- **copy radius-server local**

### [設定例]

クライアント証明書を一括発行する。

```
SWX3200#certificate user
```

## 10.4.11 クライアント証明書の発行中断

### [書式]

**certificate abort**

**[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

クライアント証明書の一括発行を中断させる。

再度 **certificate user** コマンドを実行することでクライアント証明書の発行を再開できる。**[設定例]**

クライアント証明書の一括発行を中断させる。

SWX3200#certificate abort

**10.4.12 クライアント証明書の失効****[書式]****certificate revoke user** *userid***certificate revoke id** *certificate-id***[キーワード]****user** : 指定したユーザーのクライアント証明書を失効させる**id** : 指定したクライアント証明書 ID のクライアント証明書を失効させる**[パラメーター]****userid** : ユーザー ID

(3 文字以上 32 文字以内、"DEFAULT"は指定不可)

認証方式	入力可能文字
EAP-MD5, EAP-TTLS, PEAP, PAP	\ [ ] " ? スペースを除く半角英数字・半角記号
EAP-TLS	\ [ ] / : *   < > " ? スペースを除く半角英数字・半角記号

**certificate-id** : クライアント証明書 ID

"ユーザー ID"."シリアル番号"の組み合わせ

**[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

指定したユーザーまたはクライアント証明書 ID のクライアント証明書を失効させる。

クライアント証明書が失効された場合、その証明書を使った認証は失敗する。

**[ノート]**クライアント証明書 ID(**certificate-id**)は、**show radius-server local certificate list** コマンドで確認できる。**[設定例]**

ユーザー ID "Taro" のクライアント証明書を失効させる。

SWX3200#certificate revoke user Taro

クライアント証明書 ID "Taro-DF598EE9B44D22CC" のクライアント証明書を失効させる。

SWX3200#certificate revoke id Taro-DF598EE9B44D22CC

**10.4.13 クライアント証明書のエクスポート(SD コピー)****[書式]****certificate export sd all** [**compress**]**certificate export sd user** *userid* [**compress**]**[キーワード]****all** : 全ユーザーのクライアント証明書をエクスポートする**user** : 指定したユーザーのクライアント証明書をエクスポートする

`compress` : zip ファイルに圧縮する

#### [パラメーター]

`userid` : ユーザー ID

(3 文字以上 32 文字以内、"DEFAULT"は指定不可)

認証方式	入力可能文字
EAP-MD5, EAP-TTLS, PEAP, PAP	\[ ]"? スペースを除く半角英数字・半角記号
EAP-TLS	\[ ]/:* <>"? スペースを除く半角英数字・半角記号

#### [入力モード]

特権 EXEC モード

#### [説明]

クライアント証明書を、SD カードにエクスポートする。

エクスポート先は、SD カード内の `/swx3200/certification/` である。

`compress` を指定した場合は、クライアント証明書を ZIP ファイルに圧縮してからエクスポートする。

エクスポート対象	内容
all	すべてのクライアント証明書を <code>certificate_all.zip</code> として圧縮
user	指定したユーザーのクライアント証明書を <code>certificate_&lt;指定した ID&gt;.zip</code> として圧縮

#### [ノート]

エクスポートされるクライアント証明書は、最新の 1 通のみである。

#### [設定例]

ユーザー ID `Yamaha` のクライアント証明書を SD カードへエクスポートする。

```
SWX3200#certificate export sd user Yamaha
```

### 10.4.14 クライアント証明書のエクスポート(メール送信)

#### [書式]

```
certificate export mail all compress
```

```
certificate export mail user userid compress
```

#### [キーワード]

all : すべてのユーザーにクライアント証明書をメール送信する

user : 指定したユーザーにクライアント証明書をメール送信する

compress : ZIP ファイルに圧縮する

#### [パラメーター]

`userid` : ユーザー ID

(3 文字以上 32 文字以内、"DEFAULT"は指定不可)

認証方式	入力可能文字
EAP-MD5, EAP-TTLS, PEAP, PAP	\[ ]"? スペースを除く半角英数字・半角記号
EAP-TLS	\[ ]/:* <>"? スペースを除く半角英数字・半角記号

#### [入力モード]

特権 EXEC モード



**[説明]**

クライアント証明書をメール添付して各ユーザーにメール送信する。

送付するクライアント証明書は、各ユーザーのパスワードで圧縮した ZIP ファイルである。

メールアドレスが設定されていないユーザーに対しては、メールの送信が行われない。

メールを送信するには、事前にメールの送信先サーバーやメールの件名などをメールテンプレートに設定し、**mail send certificate** コマンドで、送信時に使用するメールテンプレート ID を設定しておく必要がある。

**[ノート]**

メール送信されるクライアント証明書は、最新の 1 通のみである。

**[設定例]**

ユーザー ID Yamaha のクライアント証明書をメール送信する。

```
SWX3200#certificate export mail user Yamaha
```

**10.4.15 RADIUS データのコピー****[書式]**

```
copy radius-server local src_config_num dst_config_num
```

**[パラメーター]**

*src\_config\_num* : コピー元のコンフィグ番号

設定値	説明
<0-4>	コンフィグ #0-#4
sd	SD カード内のコンフィグ

*dst\_config\_num* : コピー先のコンフィグ番号

設定値	説明
<0-4>	コンフィグ #0-#4
sd	SD カード内のコンフィグ

**[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

ローカル RADIUS サーバーに関するデータ一式をコピーする。

- ルート認証局
- 発行したクライアント証明書
- ユーザーデータ
- 管理ファイル

コマンド設定も含めたすべての設定をコピーしたい場合は、**copy startup-config** コマンドでコピーすることができる。

**[ノート]**

SD カードがマウントされていない状態で、sd を指定した場合はエラーとなる。

**[設定例]**

コンフィグ #0 の RADIUS データを SD カードへコピーする。

```
SWX3200#copy radius-server local 0 sd
Succeeded to copy Radius configuration
```

**10.4.16 RADIUS クライアント(NAS)の表示****[書式]**

```
show radius-server local nas host
```

**[パラメーター]**

*host* : IP アドレス、または、IP ネットワークアドレス

設定値	説明
IPv4 アドレス(A.B.C.D)	0.0.0.1～223.255.255.255 のうち 127.0.0.1 を除いたもの
IPv4 ネットワークアドレス(A.B.C.D/M)	ネットワークマスクの範囲は 8～32 で、IP アドレスのホスト部は 0 となる
IPv6 アドレス(A:B:C::D)	ユニキャストアドレスのうち、未指定アドレス(::/128)、デフォルトルートアドレス(::/0)、ループバックアドレス(::1/128)を除いたもの
IPv6 ネットワークアドレス(A:B:C::D/M)	プレフィックス長は 1～128

**[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

RADIUS クライアント(NAS)の一覧を表示する。

**[設定例]**

IP アドレスが"192.168.100.0/24"の RADIUS クライアント(NAS)を表示する。

```
SWX3200#show radius-server local nas 192.168.100.0/24
host                               key
-----
192.168.100.0/24                   abcde
```

**10.4.17 認証ユーザー情報の表示****[書式]**

**show radius-server local user [detail *userid*]**

**[キーワード]**

*detail* : 指定したユーザーの詳細情報表示する

**[パラメーター]**

*userid* : ユーザー ID

(3 文字以上 32 文字以内、"DEFAULT"は指定不可)

認証方式	入力可能文字
EAP-MD5, EAP-TTLS, PEAP, PAP	\[ ] " ? スペースを除く半角英数字・半角記号
EAP-TLS	\[ ] / : *   < > " ? スペースを除く半角英数字・半角記号

**[入力モード]**

特権 EXEC モード

**[説明]**

ユーザー情報を表示する。

**[設定例]**

ユーザー情報の一覧を表示する。

```
SWX3200#show radius-server local user
Total      1

userid                               name                               vlan mode
-----
00a0de001080                          YamahaTaro                          1 eap-md5
```

ユーザー ID が"00a0de000001"のユーザー情報を表示する。

```
SWX3200#show radius-server local user detail 00a0de000001
Total      1

userid     : 00a0de000001
password   : secretpassword
mode       : eap-tls
vlan       : 10
MAC        : 00a0.de00.0001
SSID       :
name       : YamahaTaro
mail-address: test.com
expire date : 2037/12/31
certificated: Not
```

## 10.4.18 クライアント証明書の発行状態表示

### [書式]

**show radius-server local certificate status**

### [入力モード]

特権 EXEC モード

### [説明]

クライアント証明書発行処理の状態を表示する。

発行状態	内容
done	クライアント証明書の発行が完了または未発行
processing	クライアント証明書を発行中
aborted	certificate abort コマンドなどによってクライアント証明書の発行を中断

### [設定例]

クライアント証明書発行処理の状態を表示する。

```
SWX3200#show radius-server local certificate status
certificate process: done.
```

## 10.4.19 クライアント証明書のリスト表示

### [書式]

**show radius-server local certificate list [detail *userid*]**

### [キーワード]

detail : 詳細一覧表示を出力する

### [パラメーター]

*userid* : ユーザー ID

(3 文字以上 32 文字以内、"DEFAULT"は指定不可)

認証方式	入力可能文字
EAP-MD5, EAP-TTLS, PEAP, PAP	\[ ] " ? スペースを除く半角英数字・半角記号
EAP-TLS	\[ ] / : *   < > " ? スペースを除く半角英数字・半角記号

### [入力モード]

特権 EXEC モード

### [説明]

発行済クライアント証明書のリストを表示する。

*userid* を指定した場合は、そのユーザーの詳細情報を表示する。

### [設定例]

特定ユーザーの発行済クライアント証明書を表示をする。

```
SWX3200#show radius-server local certificate list detail Yamaha
userid          certificate number
enddate
-----
Yamaha          Yamaha-DF598EE9B44D22CC
2018/12/31
                Yamaha-DF598EE9B44D22CD
2019/12/31
```

## 10.4.20 クライアント証明書の失効リスト表示

### [書式]

**show radius-server local certificate revoke**

### [入力モード]

特権 EXEC モード

### [説明]

失効処理されたクライアント証明書のリストを表示する。

失効理由	内容
revoked	手動による失効
expired	有効期限切れによる失効

### [設定例]

クライアント証明書の失効リストを表示をする。

```
SWX3200#show radius-server local certificate revoke
userid          certificate number
reason
-----
Yamaha          Yamaha-DF598EE9B44D22CC
expired
                Yamaha-DF598EE9B44D22CD
revoked
```

## 索引

## A

aaa authentication auth-mac 179  
 aaa authentication auth-web 179  
 aaa authentication dot1x 178  
 accept-lifetime 331  
 access-group (IPv4) 407  
 access-group (IPv6) 409  
 access-group (MAC) 412  
 access-list (IPv4) 405  
 access-list (IPv6) 408  
 access-list (MAC) 410  
 access-list description (IPv4) 407  
 access-list description (IPv6) 409  
 access-list description (MAC) 411  
 action 145  
 advertisement-interval 336  
 agent-watch down-count 125  
 agent-watch interval 124  
 aggregate-police 437  
 area authentication 274  
 area default-cost (OSPFv2) 275  
 area default-cost (OSPFv3) 290  
 area filter-list 275  
 area nssa (OSPFv2) 276  
 area nssa (OSPFv3) 291  
 area range (OSPFv2) 277  
 area range (OSPFv3) 292  
 area stub (OSPFv2) 278  
 area stub (OSPFv3) 293  
 area virtual-link (OSPFv2) 279  
 area virtual-link (OSPFv3) 294  
 arp 257  
 arp-ageing-timeout 257  
 arp-ageing-timeout request 258  
 auth clear-state time (インターフェースモード) 196  
 auth clear-state time (グローバルコンフィグレーションモード) 196  
 auth dynamic-vlan-creation 186  
 auth guest-vlan 186  
 auth host-mode 184  
 auth order 185  
 auth radius attribute nas-identifier 192  
 auth reauthentication 185  
 auth timeout quiet-period 187  
 auth timeout reauth-period 187  
 auth timeout server-timeout 188  
 auth timeout supp-timeout 188  
 auth-mac auth-user 182  
 auth-mac enable 181  
 auth-mac static 183  
 auth-web enable 183  
 auth-web redirect-url 195  
 authentication 482  
 auto-cost reference-bandwidth (OSPFv2) 280  
 auto-cost reference-bandwidth (OSPFv3) 294  
 auto-ip 253

## B

backup system 151  
 banner motd 37  
 bind host 457  
 boot auto-apply 44  
 boot prioritize sd 44  
 bootfile 461

## C

cable-diagnostics tdr execute interface 52  
 capability opaque 281  
 certificate abort 486  
 certificate export mail 488  
 certificate export sd 487  
 certificate revoke 487  
 certificate user 486  
 channel-group mode 169  
 circuit-failover 337  
 circuit-id 466  
 class 424  
 class-map 423  
 clear access-list counters 413  
 clear arp-cache 257  
 clear auth state 196  
 clear auth statistics 194  
 clear boot list 43  
 clear cable-diagnostics tdr 53  
 clear counters 164  
 clear dhcp-server lease 473  
 clear dns-forwarding cache 478  
 clear ip dhcp snooping binding 249  
 clear ip dhcp snooping statistics 249  
 clear ip igmp 403  
 clear ip igmp snooping 366  
 clear ip mroute 356  
 clear ip ospf 307  
 clear ip pim sparse-mode 392  
 clear ip rip route 332  
 clear ip rip statistics 333  
 clear ip route 256  
 clear ipv6 mld snooping 372  
 clear ipv6 neighbors 268  
 clear ipv6 ospf 313  
 clear ipv6 rip route 333  
 clear ipv6 route 266  
 clear lacp counters 174  
 clear lldp counters 122  
 clear logging 66  
 clear mac-address-table dynamic 204  
 clear qos metering-counters 443  
 clear spanning-tree detected protocols 230  
 clear ssh host 100  
 clear ssh-server host key 97  
 clear system-diagnostics on-demand 52  
 clear test cable-diagnostics tdr 53  
 cli-command 146  
 clock set 53  
 clock summer-time date 55  
 clock summer-time recurring 54  
 clock timezone 54  
 cold start 149  
 compatible rfc1583 281  
 config-auto-set enable 132  
 copy auth-web custom-file 197  
 copy radius-server local 489  
 copy running-config startup-config 38  
 copy startup-config 41  
 copy tech-support sd 50  
 crypto pki generate ca 481

## D

db-summary-opt (OSPFv2) 281  
 db-summary-opt (OSPFv3) 295  
 default-information originate (OSPFv2) 282

default-information originate (OSPFv3) 295  
 default-information originate (RIP) 320  
 default-metric (OSPFv2) 282  
 default-metric (OSPFv3) 296  
 default-metric (RIP) 320  
 default-router (DHCP プールクラスモード) 469  
 default-router (DHCP モード) 460  
 description 153  
 description (route-map) 344  
 description (schedule) 145  
 dhcp class 465  
 dhcp pool 455  
 dhcp pool class 467  
 dhcp-relay 473  
 dhcp-relay broadcast 474  
 dhcp-relay server-address 474  
 dhcp-server (インターフェースモード) 454  
 dhcp-server (グローバルコンフィグレーションモード) 454  
 distance (OSPFv2) 283  
 distance (OSPFv3) 296  
 distance (RIP) 321  
 distribute-list (OSPFv2) 283  
 distribute-list (OSPFv3) 297  
 distribute-list (RIP) 321  
 dns-client 270  
 dns-client domain-list 272  
 dns-client domain-name 271  
 dns-client name-server 271  
 dns-forwarding (インターフェースモード) 476  
 dns-forwarding (グローバルコンフィグレーションモード) 475  
 dns-forwarding cache max-ttl 477  
 dns-forwarding name-server 477  
 dns-forwarding static-host 478  
 dns-server (DHCP プールクラスモード) 469  
 dns-server (DHCP モード) 460  
 domain-name (DHCP プールクラスモード) 470  
 domain-name (DHCP モード) 461  
 dot1x control-direction 180  
 dot1x max-auth-req 181  
 dot1x port-control 180

## E

eee 155  
 enable password 33  
 erase auth-web custom-file 198  
 erase startup-config 41  
 errdisable auto-recovery 201  
 event-watch disable 131  
 event-watch interval 132  
 exec-timeout 59

## F

firmware-update execute 136  
 firmware-update http-proxy 135  
 firmware-update reload-method 139  
 firmware-update reload-time 139  
 firmware-update revision-down enable 137  
 firmware-update sd execute 138  
 firmware-update timeout 137  
 firmware-update url 135  
 flowcontrol (インターフェースモード) 450  
 flowcontrol (グローバルコンフィグレーションモード) 449

## H

host 284  
 host (OSPFv3) 297  
 hostname 148  
 http-proxy 93

http-proxy timeout 93  
 http-server 89  
 http-server access 91  
 http-server interface 91  
 http-server login-timeout 92  
 http-server secure 90

## I

instance 230  
 instance priority 231  
 instance vlan 231  
 interface reset 162  
 ip address 250  
 ip address dhcp 251  
 ip dhcp snooping (インターフェースモード) 241  
 ip dhcp snooping (グローバルコンフィグレーションモード) 241  
 ip dhcp snooping information option 243  
 ip dhcp snooping information option allow-untrusted 244  
 ip dhcp snooping information option format remote-id 244  
 ip dhcp snooping information option format-type circuit-id 245  
 ip dhcp snooping limit rate 246  
 ip dhcp snooping logging 247  
 ip dhcp snooping subscriber-id 246  
 ip dhcp snooping trust 242  
 ip dhcp snooping verify mac-address 243  
 ip directed-broadcast 259  
 ip forwarding 258  
 ip igmp 392  
 ip igmp access-group 397  
 ip igmp check source-address 396  
 ip igmp immediate-leave 396  
 ip igmp last-member-query-count 394  
 ip igmp last-member-query-interval 394  
 ip igmp limit 397  
 ip igmp mroute-proxy 400  
 ip igmp proxy-service 401  
 ip igmp querier-timeout 395  
 ip igmp query-interval 393  
 ip igmp query-max-response-time 394  
 ip igmp robustness-variable 395  
 ip igmp snooping 359  
 ip igmp snooping check ttl 362  
 ip igmp snooping fast-leave 360  
 ip igmp snooping mrouter interface 360  
 ip igmp snooping mrouter-port data-suppression 364  
 ip igmp snooping querier 361  
 ip igmp snooping query-interval 361  
 ip igmp snooping report-suppression 363  
 ip igmp snooping version 363  
 ip igmp ssm-map 399  
 ip igmp ssm-map static 399  
 ip igmp static-group 398  
 ip igmp version 393  
 ip mroute 352  
 ip multicast route-limit 353  
 ip multicast-routing 352  
 ip ospf authentication 300  
 ip ospf authentication-key 301  
 ip ospf cost 301  
 ip ospf database-filter 301  
 ip ospf dead-interval 302  
 ip ospf disable all 302  
 ip ospf hello-interval 302  
 ip ospf message-digest-key 303  
 ip ospf priority 303  
 ip ospf retransmit-interval 304  
 ip ospf transmit-delay 304  
 ip pim 372  
 ip pim accept-register 379  
 ip pim bsr-border 378  
 ip pim bsr-candidate 378

ip pim crp-fixed-prefix 377  
 ip pim dr-priority 375  
 ip pim exclude-genid 375  
 ip pim graft-retransmit 384  
 ip pim hello-holdtime 374  
 ip pim hello-interval 373  
 ip pim ignore-rp-set-priority 378  
 ip pim jp-timer 381  
 ip pim neighbor-filter 374  
 ip pim propagation-delay 384  
 ip pim register-checksum 380  
 ip pim register-rate-limit 380  
 ip pim register-rp-reachability 385  
 ip pim register-source 379  
 ip pim register-suppression 381  
 ip pim rp-address 376  
 ip pim rp-candidate 376  
 ip pim rp-register-kat 382  
 ip pim spt-disable 382  
 ip pim ssm 383  
 ip pim state-refresh origination-interval 383  
 ip pim unicast-bsm 385  
 ip policy route-map 347  
 ip rip authentication key-chain 324  
 ip rip authentication mode 325  
 ip rip authentication string 325  
 ip rip metric-zero-accept 325  
 ip rip poison-reverse 328  
 ip rip receive version 326  
 ip rip receive-packet 326  
 ip rip send version 327  
 ip rip send-packet 327  
 ip rip split-horizon 327  
 ip route 253  
 ipv6 262  
 ipv6 address 262  
 ipv6 address autoconfig 263  
 ipv6 forwarding 268  
 ipv6 mld snooping 367  
 ipv6 mld snooping fast-leave 367  
 ipv6 mld snooping mrouter interface 368  
 ipv6 mld snooping querier 369  
 ipv6 mld snooping query-interval 369  
 ipv6 mld snooping version 370  
 ipv6 neighbor 267  
 ipv6 ospf cost 304  
 ipv6 ospf dead-interval 305  
 ipv6 ospf hello-interval 305  
 ipv6 ospf priority 305  
 ipv6 ospf retransmit-interval 306  
 ipv6 ospf transmit-delay 307  
 ipv6 policy route-map 348  
 ipv6 rip metric-offset 328  
 ipv6 rip poison-reverse 329  
 ipv6 rip split-horizon 329  
 ipv6 route 264  
 ipv6 router ospf area 306  
 ipv6 router rip 329

## K

key 330  
 key chain 330  
 key-string 330

## L

l2-mcast flood 358  
 l2-mcast snooping tcn-query 359  
 l2-unknown-mcast (インターフェースモード) 357  
 l2-unknown-mcast (グローバルコンフィグレーションモード) 357  
 l2-unknown-mcast forward link-local 358

l2ms configuration 123  
 l2ms enable 123  
 l2ms filter enable 126  
 l2ms reset 127  
 l2ms role 123  
 lacp multi-speed 173  
 lacp port-priority 178  
 lacp system-priority 172  
 lacp timeout 173  
 lease (DHCP プールクラスモード) 468  
 lease (DHCP モード) 458  
 led-mode default 150  
 line con 58  
 line vty 59  
 lldp auto-setting 111  
 lldp interface enable 118  
 lldp run 109  
 lldp system-description 110  
 lldp system-name 110  
 lldp-agent 111  
 logging backup sd 65  
 logging event 65  
 logging facility 63  
 logging format 62  
 logging host 62  
 logging stdout info 64  
 logging trap debug 63  
 logging trap error 64  
 logging trap informational 64  
 loop-detect (インターフェースモード) 238  
 loop-detect (グローバルコンフィグレーションモード) 237  
 loop-detect blocking 239  
 loop-detect blocking interval 239  
 loop-detect reset 240

## M

mac-address-table ageing-time 203  
 mac-address-table learning 203  
 mac-address-table static 204  
 mail certificate expire-notify 107  
 mail notify trigger 102  
 mail send certificate 106  
 mail send certificate-notify 106  
 mail server smtp host 101  
 mail server smtp name 102  
 mail template 103  
 management interface 61  
 match access-list (QoS) 425  
 match access-list (VLAN) 414  
 match access-list @acl-id 344  
 match cos 426  
 match ethertype 427  
 match ip-dscp 426  
 match ip-precedence 426  
 match vlan 427  
 match vlan-range 428  
 max-concurrent-dd (OSPFv2) 285  
 max-concurrent-dd (OSPFv3) 298  
 maximum-paths 254  
 mdix auto 155  
 mirror interface 157  
 mount sd 149  
 mru 154  
 mtu 260  
 multicast 352  
 multiple-vlan group name 218  
 multiple-vlan transfer ympi 218

## N

nas 482  
 neighbor (RIP) 321  
 network (RIP) 322  
 network(DHCP) 456  
 network(OSPF) 285  
 next-server 462  
 ntpdate interval 57  
 ntpdate oneshot 57  
 ntpdate server 56

## O

offset-list 322  
 option 462  
 ospf router-id 286  
 overflow database 286  
 overflow database external 287

## P

pass-through eap 198  
 passive-interface (OSPFv2) 287  
 passive-interface (OSPFv3) 298  
 passive-interface (RIP) 323  
 password-encryption 33  
 pbr enable 348  
 ping 260  
 ping6 269  
 police single-rate (ポリシーマップ・クラスモード) 433  
 police single-rate (集約ポリサーモード) 438  
 police twin-rate (ポリシーマップ・クラスモード) 434  
 police twin-rate (集約ポリサーモード) 439  
 police-aggregate 441  
 policy-map 429  
 port-channel load-balance 175  
 port-security enable 199  
 port-security mac-address 199  
 port-security violation 200  
 preempt-mode 338  
 priority 339  
 private-vlan 207  
 private-vlan association 208  
 probe 459  
 probe timeout 459

## Q

qos cos 417  
 qos cos-queue 421  
 qos dscp-queue 422  
 qos enable 416  
 qos port-priority-queue 422  
 qos queue sent-from-cpu 423  
 qos trust 418  
 qos wrr-weight 447

## R

radius-server deadtime 191  
 radius-server host 189  
 radius-server key 191  
 radius-server local enable 480  
 radius-server local interface 480  
 radius-server local refresh 485  
 radius-server local-profile 481  
 radius-server retransmit 190  
 radius-server timeout 190  
 range (DHCP プールクラスモード) 467  
 range (DHCP モード) 457

reauth interval 485  
 redistribute (OSPFv2) 288  
 redistribute (OSPFv3) 298  
 redistribute (RIP) 323  
 region 232  
 reload 148  
 remark-map (ポリシーマップ・クラスモード) 436  
 remark-map (集約ポリサーモード) 440  
 remote-id 465  
 remote-login 142  
 restart 148  
 restore system 152  
 revision 232  
 rmon 76  
 rmon alarm 79  
 rmon clear counters 84  
 rmon event 79  
 rmon history 78  
 rmon statistics 77  
 route-map 343  
 router ipv6 ospf 273  
 router ipv6 rip 320  
 router ipv6 vrrp 336  
 router ospf 273  
 router rip 319  
 router vrrp 335  
 router-id (OSPFv3) 299

## S

save 38  
 save logging 65  
 schedule 143  
 schedule template 146  
 script 147  
 send from 104  
 send notify wait-time 105  
 send server 103  
 send subject 105  
 send to 104  
 send-lifetime 332  
 server-type 455  
 service terminal-length 61  
 service-policy 430  
 set cos 431  
 set cos-queue 443  
 set interface null 346  
 set ip next-hop 345  
 set ip-dscp 432  
 set ip-dscp-queue 444  
 set ip-precedence 432  
 set ipv6 next-hop 346  
 set lldp 112  
 set management-address-tlv 112  
 set msg-tx-hold 116  
 set timer msg-fast-tx 115  
 set timer msg-tx-interval 115  
 set timer reinit-delay 116  
 set too-many-neighbors limit 117  
 set tx-fast-init 117  
 sfp-monitor rx-power 166  
 show access-group 413  
 show access-list 413  
 show aggregate-police 441  
 show arp 256  
 show auth statistics 194  
 show auth status 192  
 show auth supplicant 193  
 show boot 43  
 show boot prioritize sd 45  
 show cable-diagnostics tdr 53  
 show class-map 428



show clock 56  
show config(show running-config) 39  
show config(show startup-config) 40  
show ddm status 165  
show dhcp binding 472  
show dhcp lease 252  
show dhcp pool 471  
show dhcp relay 475  
show dhcp server 472  
show disk-usage 46  
show dns-client 272  
show dns-forwarding 479  
show dns-forwarding cache 479  
show eee capabilities interface 156  
show eee status interface 156  
show environment 45  
show errdisable 202  
show error port-led 151  
show etherchannel 170  
show etherchannel status 176  
show firmware-update 137  
show flowcontrol 451  
show frame-counter 163  
show http-proxy 94  
show http-server 90  
show interface 159  
show interface brief 161  
show inventory 45  
show ip dhcp snooping 247  
show ip dhcp snooping binding 248  
show ip dhcp snooping interface 247  
show ip dhcp snooping statistics 249  
show ip forwarding 259  
show ip igmp groups 401  
show ip igmp interface 402  
show ip igmp proxy 403  
show ip igmp snooping groups 365  
show ip igmp snooping interface 366  
show ip igmp snooping mrouter 365  
show ip igmp ssm-map 402  
show ip interface 250  
show ip mroute 354  
show ip mvif 355  
show ip ospf 308  
show ip ospf border-routers 308  
show ip ospf database 308  
show ip ospf database asbr-summary 309  
show ip ospf database external 309  
show ip ospf database network 309  
show ip ospf database nssa-external 310  
show ip ospf database router 310  
show ip ospf database summary 311  
show ip ospf interface 311  
show ip ospf neighbor 311  
show ip ospf route 312  
show ip ospf virtual-links [brief] 312  
show ip pim bsr-router 391  
show ip pim interface 385  
show ip pim mroute 387  
show ip pim neighbor 389  
show ip pim nexthop 390  
show ip pim rp mapping 390  
show ip pim rp-hash 391  
show ip protocols ospf 313  
show ip protocols rip 334  
show ip rip 334  
show ip rip interface 334  
show ip rip statistics 335  
show ip route 255  
show ip route database 255  
show ip route pbr 350  
show ip route summary 256  
show ip rpf 356  
show ipv6 forwarding 268  
show ipv6 interface 263  
show ipv6 mld snooping groups 371  
show ipv6 mld snooping interface 371  
show ipv6 mld snooping mrouter 370  
show ipv6 neighbors 267  
show ipv6 ospf 313  
show ipv6 ospf border-routers 313  
show ipv6 ospf database 314  
show ipv6 ospf database external 314  
show ipv6 ospf database inter-prefix 315  
show ipv6 ospf database inter-router 315  
show ipv6 ospf database intra-prefix 316  
show ipv6 ospf database link 316  
show ipv6 ospf database network 317  
show ipv6 ospf database router 317  
show ipv6 ospf interface 318  
show ipv6 ospf neighbor 318  
show ipv6 ospf route 319  
show ipv6 ospf virtual-links 319  
show ipv6 protocols ospf 319  
show ipv6 protocols rip 334  
show ipv6 rip 334  
show ipv6 rip interface 335  
show ipv6 route 265  
show ipv6 route database 265  
show ipv6 route pbr 350  
show ipv6 route summary 266  
show l2ms 127  
show l2ms agent-config 129  
show lacp sys-id 172  
show lacp-counter 174  
show led-mode 150  
show lldp interface 118  
show lldp neighbors 121  
show logging 66  
show loop-detect 240  
show mac-address-table 205  
show mac-address-table count 206  
show mail information 107  
show memory 47  
show mirror 158  
show ntpdate 58  
show policy-map 444  
show port-security status 201  
show process 47  
show qos 419  
show qos interface 419  
show qos map-status 446  
show qos metering-counters 442  
show qos queue-counters 420  
show radius-server 195  
show radius-server local certificate list 491  
show radius-server local certificate revoke 492  
show radius-server local certificate status 491  
show radius-server local nas 489  
show radius-server local user 490  
show rmon 81  
show rmon alarm 84  
show rmon event 83  
show rmon history 83  
show rmon statistics 82  
show route-map 349  
show running-config 39  
show snmp community 75  
show snmp group 76  
show snmp user 76  
show snmp view 75  
show spanning-tree 226  
show spanning-tree mst 235  
show spanning-tree mst config 235

show spanning-tree mst instance 236  
 show spanning-tree statistics 228  
 show ssh-server 95  
 show ssh-server host key 97  
 show stack 141  
 show startup-config 40  
 show static-channel-group 168  
 show storm-control 452  
 show system-diagnostics 51  
 show tech-support 47  
 show telnet-server 85  
 show test cable-diagnostics tdr 53  
 show tftp-server 88  
 show tx-queue-monitor 167  
 show users 36  
 show vlan 218  
 show vlan access-map 416  
 show vlan filter 416  
 show vlan multiple-vlan 220  
 show vlan private-vlan 219  
 show vrrp 340  
 show vrrp ipv6 341  
 show vrrp ipv6 statistics 342  
 show vrrp statistics 342  
 show y-unos 108  
 shutdown 153  
 snapshot delete 134  
 snapshot enable 133  
 snapshot save 134  
 snapshot trap terminal 133  
 snmp-server access 74  
 snmp-server community 70  
 snmp-server contact 70  
 snmp-server enable trap 69  
 snmp-server group 72  
 snmp-server host 67  
 snmp-server location 70  
 snmp-server startup-trap-delay 68  
 snmp-server user 73  
 snmp-server view 71  
 spanning-tree 222  
 spanning-tree bpdu-filter 223  
 spanning-tree bpdu-guard 224  
 spanning-tree edgeport 226  
 spanning-tree forward-time 221  
 spanning-tree instance 233  
 spanning-tree instance path-cost 234  
 spanning-tree instance priority 233  
 spanning-tree link-type 223  
 spanning-tree max-age 221  
 spanning-tree mst configuration 230  
 spanning-tree path-cost 225  
 spanning-tree priority (インターフェースモード) 225  
 spanning-tree priority (グローバルコンフィグレーションモード) 222  
 spanning-tree shutdown 220  
 speed-duplex 153  
 ssh 99  
 ssh-client 100  
 ssh-server 94  
 ssh-server access 95  
 ssh-server client alive 99  
 ssh-server host key generate 96  
 ssh-server interface 95  
 stack 140  
 stack renumber 140  
 stack subnet 142  
 startup-config description 42  
 startup-config select 42  
 static-channel-group 168  
 storm-control 451  
 subscriber-id 466

summary-address (OSPFv2) 288  
 summary-address (OSPFv3) 300  
 switchport access vlan 210  
 switchport mode access 209  
 switchport mode private-vlan 213  
 switchport mode trunk 210  
 switchport multiple-vlan group 217  
 switchport private-vlan host-association 213  
 switchport private-vlan mapping 214  
 switchport trunk allowed vlan 211  
 switchport trunk native vlan 212  
 switchport voice cos 216  
 switchport voice dscp 216  
 switchport voice vlan 215  
 system-diagnostics on-demand execute 52

## T

telnet 87  
 telnet-client 87  
 telnet-server 84  
 telnet-server access 86  
 telnet-server interface 85  
 terminal length 60  
 terminal-watch enable 125  
 terminal-watch interval 126  
 test cable-diagnostics tdr interface 52  
 tftp-server 88  
 tftp-server interface 89  
 timers basic 324  
 timers lsa arrival 289  
 timers spf exp 290  
 timers throttle lsa all 290  
 tlv-select basic-mgmt 113  
 tlv-select ieee-8021-org-specific 113  
 tlv-select ieee-8023-org-specific 114  
 tlv-select med 114  
 traceroute 261  
 traceroute6 270  
 traffic-shape queue rate 448  
 traffic-shape rate 448  
 tx-queue-monitor usage-rate (インターフェースモード) 167  
 tx-queue-monitor usage-rate (グローバルコンフィグレーションモード) 166

## U

unmount sd 150  
 user 483  
 username 34  
 username privilege 35

## V

version 324  
 virtual-ip 339  
 virtual-ipv6 340  
 virtual-router 337  
 vlan 207  
 vlan access-map 414  
 vlan database 206  
 vlan filter 415

## W

wireless-terminal-watch interval 131  
 write 38

## Y

y-unos enable 108